

地域創生学群 地域創生学類 (2019年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■環境科目	環境特講A	1学期	1	2	1
	SPL102F 休講	1年			
	環境特講B (現代社会とエシカル消費)	1学期	1	2	1
	SPL202F 大平 剛	1年			
	環境都市としての北九州	2学期	1	2	2
	ENV001F 日高 京子 他	1年			
	自然史へのいざない	2学期	1	2	3
	BIO001F 日高 京子 他	1年			
	生命と環境	1学期	1	2	4
	BIO100F 日高 京子 他	1年			
	環境問題概論	1学期	1	2	5
	ENV100F 廣川 祐司	1年			
	未来を創る環境技術	1学期	1	2	6
	ENV003F 上江洲 一也 他	1年			
動物のみかた	2学期	1	2	7	
ZOL001F 到津の森公園、文学部 竹川大介	1年				
自然学のまなざし	1学期	1	2	8	
ENV002F 竹川 大介 他	1年				
生命科学入門	2学期	1	2	9	
BIO200F 日高 京子	1年				
環境ESD入門	2学期	1	2	10	
ENV102F 石川 敬之	1年				
■世界(地球)科目	世界(地球)特講A(テロリズム論)	1学期	1	2	11
	SPL103F 戸蒔 仁司	1年			
	世界(地球)特講B	2学期	1	2	12
	SPL203F 休講	1年			
韓国の社会と文化	2学期	1	2	12	
ARE010F 金 貞愛	1年				
国際学入門	2学期	1	2	13	
IRL110F 伊野 憲治	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■世界(地球)科目	安全保障論 PLS111F 戸蒔 仁司	2学期	1	2	14
		1年			
	現代の国際情勢 IRL003F 大平 剛 他	1学期	1	2	15
		1年			
	国際社会と日本 IRL004F 阿部 容子 他	2学期	1	2	16
		1年			
	グローバル化する経済 ECN001F 魏 芳 他	1学期	1	2	17
		1年			
	近代史入門 PLS110F 小林 道彦	2学期	1	2	18
		1年			
Japanese Culture and Society ARE221F ロジャー・ウィリアムソン	2学期	2	2	19	
	2年				
English Speaking Cultures and Societies ARE231F ローズマリー・リーダー	2学期	2	2	20	
	2年				
現代社会と文化 ANT210F 神原 ゆうこ	2学期	2	2	21	
	2年				
可能性としての歴史 HIS200F 小林 道彦	2学期	2	2	22	
	2年				
■知の技法科目	アカデミック・スキルズI GES101F 廣渡 栄寿	1学期	1	2	23
		群1 - 1			
	アカデミック・スキルズI GES101F 永末 康介	1学期	1	2	24
		群1 - 2			
	アカデミック・スキルズI GES101F 永末 康介	1学期	1	2	25
		群1 - 3			
	アカデミック・スキルズI GES101F 廣渡 栄寿	2学期	1	2	26
	1学期未修得者再履				
アカデミック・スキルズII (論理的に生きる) GES102F 中尾 泰士	2学期	1	2	27	
	1年				
アカデミック・スキルズII (思考と推論) GES102F 浅羽 修丈	2学期	1	2	28	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■知の技法科目	アカデミック・スキルズII (レポートを書くために) GES102F 神原 ゆうこ	2学期	1	2	29
		1年			
	アカデミック・スキルズII (ソーシャルメディアと思考法) GES102F 浅羽 修丈	2学期	1	2	30
		1年			
	アカデミック・スキルズII (豊かな大学生活のために) GES102F 永末 康介	2学期	1	2	31
		1年			
	アカデミック・スキルズII (教養を磨く『新聞のちから』) GES102F 読売新聞西部本社、基盤教育センター 永末 康介	2学期	1	2	32
		1年			
	知の技法特講A (知識創造論) SPL104F 休講	1学期	1	2	
		1年			
	知の技法特講B SPL204F 休講	2学期	1	2	
		1年			
情報社会への招待 INF100F 中尾 泰士	2学期	1	2	33	
	1年				
法への誘い LAW001F 中村 英樹 他	2学期	1	2	34	
	1年				
コンピューターリテラシー INF101F 古川 洋章	2学期	1	1	35	
	1年				
データ分析 INF201F 浅羽 修丈	2学期	2	2	36	
	2年				
データ分析 INF201F 佐藤 貴之	2学期	2	2	37	
	2年				
データ分析 INF201F 古川 洋章	2学期	2	2	38	
	2年				
■知の創造科目	知の創造特講A SPL105F 休講	1学期	1	2	
		1年			
	知の創造特講B (戦後の日本経済) SPL205F 土井 徹平	2学期	1	2	39
	1年				
社会学的思考 SOC002F 稲月 正	1学期	1	2	40	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■知の創造科目	ことばの科学 LIN110F 漆原 朗子	2学期	1	2	41
	1年				
	現代人のこころ PSY003F 税田 慶昭 他	1学期	1	2	42
	1年				
	企業と社会 BUS001F 山下 剛	2学期	1	2	43
	1年				
	民主主義とは何か PLS002F 中井 遼	2学期	1	2	44
	1年				
	社会哲学入門 PHR110F 休講	1学期	1	2	
	1年				
	文化を読む LIT001F 佐藤 真人 他	1学期	1	2	45
	1年				
	芸術と人間 PHR006F 真武 真喜子	2学期	1	2	46
	1年				
現代正義論 PHR003F 重松 博之	2学期	1	2	47	
1年					
情報表現 INF230F 廣渡 栄寿	2学期	1	2	48	
1年					
倫理思想史 PHR005F 未定	2学期	1	2	49	
1年					
言語・認知・コミュニケーション LIN210F 漆原 朗子 他	2学期	2	2	50	
2年					
戦争論 PLS210F 戸蒔 仁司	2学期	2	2	51	
2年					
■共生と協働科目	共生と協働特講A SPL106F 休講	1学期	1	2	
	1年				
	共生と協働特講B SPL206F 休講	2学期	1	2	
	1年				
異文化理解の基礎 ANT110F 神原 ゆうこ	1学期	1	2	52	
1年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■共生と協働科目	人権論 SOC004F 柳井 美枝	1学期	1	2	53
		1年			
	ジェンダー論 GEN001F 力武 由美	1学期	1	2	54
		1年			
	サービスマーケティング入門I CAR110F 石川 敬之	1学期	1	2	55
		1年			
	サービスマーケティング入門II CAR180F 石川 敬之	2学期	1	2	56
		1年			
	市民活動論 RDE001F 西田 心平	2学期	1	2	57
		1年			
	地域福祉論 SOW011F 坂本 毅啓	2学期	1	2	58
		1年			
	障がい学 SOW001F 伊野 憲治	1学期	1	2	59
		1年			
	共生社会論 SOW200F 伊野 憲治	2学期	2	2	60
		2年			
	基盤演習I (防衛セミナー) GES201F 休講	1学期	2	2	
		2年			
	基盤演習I (発達障がいセミナー) GES201F 伊野 憲治	1学期	2	2	61
		2年			
基盤演習I GES201F 小林 道彦	1学期	2	2	62	
	2年				
基盤演習I GES201F 稲月 正	1学期	2	2	63	
	2年				
基盤演習I GES201F 石川 敬之	1学期	2	2	64	
	2年				
基盤演習II (文化論セミナー) GES202F 神原 ゆうこ	2学期	2	2	65	
	2年				
基盤演習II (防衛セミナー) GES202F 休講	集中	2	2		
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■共生と協働科目	基盤演習II GES202F 小林 道彦	2学期	2	2	66
	2年				
	基盤演習II GES202F 稲月 正	2学期	2	2	67
	2年				
基盤演習II GES202F 石川 敬之	2学期	2	2	68	
2年					
基盤力応用 GES301F 未開講	2学期	3	2		
3年					
■ライフ・デザイン科目	ライフ・デザイン特講A SPL107F 休講	1学期	1	2	
	1年				
	ライフ・デザイン特講B (海外学習プログラム) SPL207F 二宮 正人 他	集中	1	2	69
	1年				
	キャリア・デザイン CAR100F 眞鍋 和博	1学期	1	2	70
	1年				
	キャリア・デザイン CAR100F 石川 敬之	1学期	1	2	71
	1年				
	キャリア・デザイン CAR100F 見館 好隆	1学期	1	2	72
	1年				
	メンタル・ヘルス PSY001F 寺田 千栄子	1学期	1	2	73
	1年				
	自己管理論 HSS003F 日高 京子 他	1学期	1	2	74
	1年				
フィジカル・ヘルス HSS001F 柴原 健太郎	1学期	1	2	75	
1年					
フィジカル・ヘルス HSS001F 高西 敏正	1学期	1	2	76	
1年					
フィジカル・ヘルス HSS001F 徳永 政夫	1学期	1	2	77	
1年					
フィジカル・ヘルス HSS001F 高西 敏正	2学期	1	2	78	
1年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ライフ・デザイン科目	フィジカル・ヘルス HSS001F 柴原 健太郎	2学期	1	2	79
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) HSS081F 黒田 次郎	1学期	1	1	80
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バレーボール) HSS081F 休講	1学期	1	1	
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (外種目) HSS081F 黒田 次郎	1学期	1	1	81
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (ソフトバレー / バレーボール) HSS081F 休講	1学期	1	1	
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) HSS081F 梨羽 茂	1学期	1	1	82
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) HSS081F 山本 浩二	1学期	1	1	83
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) HSS081F 下釜 純子	1学期	1	1	84
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 梨羽 茂	2学期	1	1	85
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 黒田 次郎	2学期	1	1	86
		1年			
フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) HSS082F 黒田 次郎	2学期	1	1	87	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (ソフトバレー / バレーボ HSS082F 小幡 博基	2学期	1	1	88	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (外種目) HSS082F 梨羽 茂	2学期	1	1	89	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (ラケット種目) HSS082F 松田 晃二郎	2学期	1	1	90	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 徳永 政夫	2学期	1	1	91	
	1年				

地域創生学群 地域創生学類 (2019年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ライフ・デザイン科目	世界での学び方 CAR001F 二宮 正人 他	1学期	1	2	92
		1年			
	世界での学び方 CAR001F 二宮 正人 他	2学期	1	2	93
		1年			
プロフェSSIONALの仕事 CAR210F 見館 好隆	1学期	2	2	94	
	2年				
企業・団体の課題解決 CAR211F 見館 好隆	2学期	2	2	95	
	2年				
■地域科目	地域特講A (現代社会と新聞ジャーナリズム) SPL101F 休講	1学期	1	2	
		1年			
	地域特講B SPL201F 休講	2学期	1	2	
		1年			
	都市と地域 RDE002F 奥山 恭英	2学期	1	2	96
		1年			
	地域の社会と経済 ECN170F 柳 永珍	1学期	1	2	97
		1年			
	地域の文化と歴史 HIS170F 南 博	1学期	1	2	98
		1年			
	地域の達人 CAR212F 眞鍋 和博	2学期	1	2	99
		1年			
	地域のにぎわいづくり RDE270F 南 博	2学期	1	2	100
		1年			
地域と国際 RDE003F 吉村 英俊	1学期	1	2	101	
	1年				
地域防災への招待 SSS001F 加藤 尊秋 他	1学期	1	2	102	
	1年				
北九州市の都市政策 PLC270F 内田 晃	1学期	2	2	103	
	2年				
まなびと企業研究I CAR270F 小林 敏樹	2学期	2	2	104	
	2年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		担当者			
	備考			クラス	
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■地域科目	まなびと企業研究II	1学期	3	2	
	CAR370F 未開講	3年			
■外国語教育科目 ■第一外国語	Communicative English I (律政群 1-A)	1学期	1	1	105
	ENG101F 伊藤 晃	律政群 1 - A			
	Communicative English I (律政群 1-B)	1学期	1	1	106
	ENG101F 葛西 宏信	律政群 1 - B			
	Communicative English I (律政群 1-C)	1学期	1	1	107
	ENG101F 永末 康介	律政群 1 - C			
	Communicative English I (律政群 1-D)	1学期	1	1	108
	ENG101F 船方 浩子	律政群 1 - D			
	Communicative English I (律政群 1-E)	1学期	1	1	109
	ENG101F 木梨 安子	律政群 1 - E			
	Communicative English I (律政群 1-F)	1学期	1	1	110
	ENG101F 相原 信彦	律政群 1 - F			
	Communicative English I (律政群 1-G)	1学期	1	1	111
	ENG101F 伊藤 晃	律政群 1 - G			
	Communicative English I (律政群 1-I)	1学期	1	1	112
	ENG101F 酒井 秀子	律政群 1 - I			
	Communicative English II (律政群 1-A)	2学期	1	1	113
	ENG111F 相原 信彦	律政群 1 - A			
Communicative English II (律政群 1-B)	2学期	1	1	114	
ENG111F 永末 康介	律政群 1 - B				
Communicative English II (律政群 1-C)	2学期	1	1	115	
ENG111F 葛西 宏信	律政群 1 - C				
Communicative English II (律政群 1-D)	2学期	1	1	116	
ENG111F 伊藤 晃	律政群 1 - D				
Communicative English II (律政群 1-E)	2学期	1	1	117	
ENG111F 伊藤 晃	律政群 1 - E				
Communicative English II (律政群 1-F)	2学期	1	1	118	
ENG111F 薬師寺 元子	律政群 1 - F				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	Communicative English II (律政群 1-G) ENG111F 酒井 秀子	2学期	1	1	119
		律政群 1 - G			
	Communicative English II (律政群 1-I) ENG111F 木梨 安子	2学期	1	1	120
		律政群 1 - I			
	Communicative English III (律政群 1-E) ENG102F ダンカン・ウォトリイ	1学期	1	1	121
		律政群 1 - E			
	Communicative English III (律政群 1-F) ENG102F ダニー・ミン	1学期	1	1	122
		律政群 1 - F			
	Communicative English III (律政群 1-G) ENG102F クリステイン・マイスター	1学期	1	1	123
		律政群 1 - G			
	Communicative English III (律政群 1-I) ENG102F 安丸 雅子	1学期	1	1	124
		律政群 1 - I			
	Communicative English III (律政群 1-A) ENG102F ダニー・ミン	1学期	1	1	125
		律政群 1 - A			
	Communicative English III (律政群 1-B) ENG102F デビット・ニール・マクレラン	1学期	1	1	126
		律政群 1 - B			
	Communicative English III (律政群 1-C) ENG102F ホセ・クルーズ	1学期	1	1	127
	律政群 1 - C				
Communicative English III (律政群 1-D) ENG102F シェーン・ドイル	1学期	1	1	128	
	律政群 1 - D				
Communicative English IV (律政群 1-E) ENG112F ダニー・ミン	2学期	1	1	129	
	律政群 1 - E				
Communicative English IV (律政群 1-F) ENG112F タッド・ジェイ・レオナルド	2学期	1	1	130	
	律政群 1 - F				
Communicative English IV (律政群 1-G) ENG112F ジェイムズ・ヒックス	2学期	1	1	131	
	律政群 1 - G				
Communicative English IV (律政群 1-I) ENG112F 木梨 安子	2学期	1	1	132	
	律政群 1 - I				
Communicative English IV (律政群 1-A) ENG112F ホセ・クルーズ	2学期	1	1	133	
	律政群 1 - A				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	Communicative English VI (律政群 2 C-C) ENG211F 十時 康	2学期	2	1	149
		律政群 2 C - C			
	Communicative English VI (律政群 2 C-D) ENG211F 木梨 安子	2学期	2	1	150
		律政群 2 C - D			
	Communicative English VII (律政群 2 C-A) ENG202F シェーン・ドイル	1学期	2	1	151
		律政群 2 C - A			
	Communicative English VII (律政群 2 C-B) ENG202F ポール・ガラフ・スティール	1学期	2	1	152
		律政群 2 C - B			
	Communicative English VII (律政群 2 C-C) ENG202F クリストファー・オサリバン	1学期	2	1	153
		律政群 2 C - C			
	Communicative English VII (律政群 2 C-D) ENG202F マイケル・バーグ	1学期	2	1	154
		律政群 2 C - D			
	Communicative English VII (律政群 2 C-E) ENG202F デビット・ニール・マクレラン	1学期	2	1	155
		律政群 2 C - E			
	Communicative English VII (律政群 2 C-F) ENG202F クリストファー・オサリバン	1学期	2	1	156
		律政群 2 C - F			
Communicative English VII (律政群 2 C-G) ENG202F クリステイン・マイスター	1学期	2	1	157	
	律政群 2 C - G				
Communicative English VIII (律政群 2 C-A) ENG212F 村田 希巳子	2学期	2	1	158	
	律政群 2 C - A				
Communicative English VIII (律政群 2 C-B) ENG212F 十時 康	2学期	2	1	159	
	律政群 2 C - B				
Communicative English VIII (律政群 2 C-C) ENG212F 三宅 啓子	2学期	2	1	160	
	律政群 2 C - C				
Communicative English VIII (律政群 2 C-D) ENG212F 大塚 由美子	2学期	2	1	161	
	律政群 2 C - D				
Communicative English VIII (律政群 2 C-E) ENG212F 酒井 秀子	2学期	2	1	162	
	律政群 2 C - E				
Communicative English VIII (律政群 2 C-F) ENG212F 三宅 啓子	2学期	2	1	163	
	律政群 2 C - F				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	Communicative English VIII (律政群 2 C-G)	2学期	2	1	164
	ENG212F 薬師寺 元子	律政群 2 C - G			
■第二外国語	中国語I	1学期	1	1	165
	CHN101F 有働 彰子	済営人律政群 1年			
	中国語II	2学期	1	1	166
	CHN111F 有働 彰子	済営人律政群 1年			
	中国語III	1学期	1	1	167
	CHN102F ホウ ラメイ (彭腊梅)	済営人律政群 1年			
	中国語IV	2学期	1	1	168
	CHN112F ホウ ラメイ (彭腊梅)	済営人律政群 1年			
	中国語V	1学期	2	1	169
	CHN201F 有働 彰子	英済営人律政群 2年			
	中国語VI	2学期	2	1	170
	CHN211F 有働 彰子	英済営人律政群 2年			
	中国語VII	1学期	2	1	171
	CHN202F 王 晨	英済営人律政群 2年			
	中国語VIII	2学期	2	1	172
	CHN212F 王 晨	英済営人律政群 2年			
	朝鮮語I	1学期	1	1	173
	KRN101F 呉 香善	済営律政群 1年			
朝鮮語II	2学期	1	1	174	
KRN111F 呉 香善	済営律政群 1年				
朝鮮語III	1学期	1	1	175	
KRN102F 金 光子	済営律政群 1年				
朝鮮語IV	2学期	1	1	176	
KRN112F 金 光子	済営律政群 1年				
朝鮮語V	1学期	2	1	177	
KRN201F 安 滯珠	済営比人律政群 2年				
朝鮮語VI	2学期	2	1	178	
KRN211F 安 滯珠	済営比人律政群 2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	朝鮮語VII KRN202F 安 滯珠	1学期	2	1	179
		済営比人律政群 2年			
	朝鮮語VIII KRN212F 安 滯珠	2学期	2	1	180
		済営比人律政群 2年			
■専門教育科目 ■実習科目	指導の実習I RDE180M 内田 晃 他	1学期 (ペア)	1	2	181
		1年			
	指導の実習II RDE181M 内田 晃 他	2学期 (ペア)	1	2	182
		1年			
	地域創生実習I (猪倉) RDE182M 岩本 晃典	1学期	1	1	183
		1年			
	地域創生実習I (キタプロ) RDE182M 岩本 晃典	1学期	1	1	184
		1年			
	地域創生実習I (北スマ) RDE182M 下田 泰奈	1学期	1	1	185
		1年			
	地域創生実習I (スクボラ) RDE182M 勅使河原 航	1学期	1	1	186
		1年			
	地域創生実習I (ESDプロモート) RDE182M 勅使河原 航	1学期	1	1	187
		1年			
	地域創生実習I (コミュニティ) RDE182M 勅使河原 航	1学期	1	1	188
		1年			
	地域創生実習I (広報) RDE182M 下田 泰奈	1学期	1	1	189
		1年			
	地域創生実習I (小倉) RDE182M 下田 泰奈	1学期	1	1	190
		1年			
地域創生実習I (ボン・ジョーノ) RDE182M 岩本 晃典	1学期	1	1	191	
	1年				
地域創生実習I (キッズ) RDE182M 相羽 枝莉子	1学期	1	1	192	
	1年				
地域創生実習I (健康スポーツ) RDE182M 相羽 枝莉子	1学期	1	1	193	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■実習科目	地域創生実習I (プロスポーツ) RDE182M 相羽 枝莉子	1学期	1	1	194
		1年			
	地域創生実習I (421Lab.) RDE182M 石川 敬之	1学期	1	1	195
		1年			
	地域創生実習II (猪倉) RDE183M 岩本 晃典	2学期	1	1	196
		1年			
	地域創生実習II (キタプロ) RDE183M 岩本 晃典	2学期	1	1	197
		1年			
	地域創生実習II (北スマ) RDE183M 下田 泰奈	2学期	1	1	198
		1年			
	地域創生実習II (スクボラ) RDE183M 勅使河原 航	2学期	1	1	199
		1年			
	地域創生実習II (ESDプロモート) RDE183M 勅使河原 航	2学期	1	1	200
		1年			
	地域創生実習II (コミュニティ) RDE183M 勅使河原 航	2学期	1	1	201
		1年			
	地域創生実習II (広報) RDE183M 下田 泰奈	2学期	1	1	202
		1年			
地域創生実習II (小倉) RDE183M 下田 泰奈	2学期	1	1	203	
	1年				
地域創生実習II (ボン・ジョーノ) RDE183M 岩本 晃典	2学期	1	1	204	
	1年				
地域創生実習II (キッズ) RDE183M 相羽 枝莉子	2学期	1	1	205	
	1年				
地域創生実習II (健康スポーツ) RDE183M 相羽 枝莉子	2学期	1	1	206	
	1年				
地域創生実習II (プロスポーツ) RDE183M 相羽 枝莉子	2学期	1	1	207	
	1年				
地域創生実習II (421Lab.) RDE183M 石川 敬之	2学期	1	1	208	
	1年				

地域創生学群 地域創生学類 (2019年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名	担当者	学期	履修年次	単位	索引
			クラス			
	備考					
■専門教育科目 ■実習科目	地域創生実習Ⅲ (猪倉)		1学期	2	1	209
	RDE280M	岩本 晃典	2年			
	地域創生実習Ⅲ (キタプロ)		1学期	2	1	210
	RDE280M	岩本 晃典	2年			
	地域創生実習Ⅲ (北スマ)		1学期	2	1	211
	RDE280M	下田 泰奈	2年			
	地域創生実習Ⅲ (スクボラ)		1学期	2	1	212
	RDE280M	勅使河原 航	2年			
	地域創生実習Ⅲ (ESDプロモート)		1学期	2	1	213
	RDE280M	勅使河原 航	2年			
	地域創生実習Ⅲ (コミュニティ)		1学期	2	1	214
	RDE280M	勅使河原 航	2年			
	地域創生実習Ⅲ (広報)		1学期	2	1	215
	RDE280M	下田 泰奈	2年			
	地域創生実習Ⅲ (小倉)		1学期	2	1	216
	RDE280M	下田 泰奈	2年			
	地域創生実習Ⅲ (ボン・ジョーノ)		1学期	2	1	217
	RDE280M	岩本 晃典	2年			
	地域創生実習Ⅲ (キッズ)		1学期	2	1	218
	RDE280M	相羽 枝莉子	2年			
地域創生実習Ⅲ (健康スポーツ)		1学期	2	1	219	
RDE280M	相羽 枝莉子	2年				
地域創生実習Ⅲ (プロスポーツ)		1学期	2	1	220	
RDE280M	相羽 枝莉子	2年				
地域創生実習Ⅲ (421Lab.)		1学期	2	1	221	
RDE280M	石川 敬之	2年				
地域創生実習Ⅳ (猪倉)		2学期	2	1	222	
RDE281M	岩本 晃典	2年				
地域創生実習Ⅳ (キタプロ)		2学期	2	1	223	
RDE281M	岩本 晃典	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■実習科目	地域創生実習Ⅳ (北スマ) RDE281M 下田 泰奈	2学期	2	1	224
		2年			
	地域創生実習Ⅳ (スクボラ) RDE281M 勅使河原 航	2学期	2	1	225
		2年			
	地域創生実習Ⅳ (ESDプロモート) RDE281M 勅使河原 航	2学期	2	1	226
		2年			
	地域創生実習Ⅳ (コミュニティ) RDE281M 勅使河原 航	2学期	2	1	227
		2年			
	地域創生実習Ⅳ (広報) RDE281M 下田 泰奈	2学期	2	1	228
		2年			
	地域創生実習Ⅳ (小倉) RDE281M 下田 泰奈	2学期	2	1	229
		2年			
	地域創生実習Ⅳ (ボン・ジョーノ) RDE281M 岩本 晃典	2学期	2	1	230
		2年			
	地域創生実習Ⅳ (キッズ) RDE281M 相羽 枝莉子	2学期	2	1	231
		2年			
	地域創生実習Ⅳ (健康スポーツ) RDE281M 相羽 枝莉子	2学期	2	1	232
		2年			
地域創生実習Ⅳ (プロスポーツ) RDE281M 相羽 枝莉子	2学期	2	1	233	
	2年				
地域創生実習Ⅳ (421Lab.) RDE281M 石川 敬之	2学期	2	1	234	
	2年				
地域創生実践Ⅰ RDE282M 休講	1学期	2	1	235	
	2年				
地域創生実践Ⅰ RDE282M 稲月 正	1学期	2	1	236	
	2年				
地域創生実践Ⅰ RDE282M 内田 晃	1学期	2	1	237	
	2年				
地域創生実践Ⅰ RDE282M 片岡 寛之	1学期	2	1	237	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		1学期	2	1	
■専門教育科目 ■実習科目	地域創生実践I RDE282M 小林 敏樹	1学期	2	1	238
		2年			
	地域創生実践I RDE282M 佐藤 貴之	1学期	2	1	239
		2年			
	地域創生実践I RDE282M 徳永 政夫	1学期	2	1	240
		2年			
	地域創生実践I RDE282M 西田 心平	1学期	2	1	241
		2年			
	地域創生実践I RDE282M 廣川 祐司	1学期	2	1	242
		2年			
	地域創生実践I RDE282M 深谷 裕	1学期	2	1	243
		2年			
	地域創生実践I RDE282M 眞鍋 和博	1学期	2	1	244
		2年			
	地域創生実践I RDE282M 南 博	1学期	2	1	245
		2年			
	地域創生実践II RDE283M 休講	2学期	2	1	
		2年			
	地域創生実践II RDE283M 稲月 正	2学期	2	1	246
		2年			
地域創生実践II RDE283M 内田 晃	2学期	2	1	247	
	2年				
地域創生実践II RDE283M 片岡 寛之	2学期	2	1	248	
	2年				
地域創生実践II RDE283M 小林 敏樹	2学期	2	1	249	
	2年				
地域創生実践II RDE283M 佐藤 貴之	2学期	2	1	250	
	2年				
地域創生実践II RDE283M 徳永 政夫	2学期	2	1	251	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■実習科目	地域創生実践III		3	2	
	RDE380M 未開講	3年			
	地域創生実践III		3	2	
	RDE380M 未開講	3年			
	地域創生実践IV		3	2	
	RDE381M 未開講	3年			
	地域創生実践IV		3	2	
	RDE381M 未開講	3年			
	地域創生実践IV		3	2	
	RDE381M 未開講	3年			
	地域創生実践IV		3	2	
	RDE381M 未開講	3年			
	地域創生実践IV		3	2	
	RDE381M 未開講	3年			
	地域創生実践IV		3	2	
	RDE381M 未開講	3年			
	地域創生実践IV		3	2	
	RDE381M 未開講	3年			
	地域創生実践IV		3	2	
RDE381M 未開講	3年				
障害者スポーツ実習I		1学期	2	1	257
HSS280M 山本 浩二	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■実習科目	障害者スポーツ実習II HSS281M 山本 浩二	2学期	2	1	258
		2年			
	障害者スポーツ実習III HSS380M 山本 浩二		3	2	
		3年			
障害者スポーツ実習IV HSS381M 山本 浩二		3	2		
	3年				
	相談援助実習 SOW380M 坂本 毅啓 他	集中	3	6	
		3年			
■演習科目	地域創生実習指導I (猪倉) RDE110M 岩本 晃典	1学期	1	2	259
		1年			
	地域創生実習指導I (キタプロ) RDE110M 岩本 晃典	1学期	1	2	260
		1年			
	地域創生実習指導I (北スマ) RDE110M 下田 泰奈	1学期	1	2	261
		1年			
	地域創生実習指導I (スクボラ) RDE110M 勅使河原 航	1学期	1	2	262
		1年			
	地域創生実習指導I (ESDプロモート) RDE110M 勅使河原 航	1学期	1	2	263
		1年			
	地域創生実習指導I (コミュニティ) RDE110M 勅使河原 航	1学期	1	2	264
		1年			
	地域創生実習指導I (広報) RDE110M 下田 泰奈	1学期	1	2	265
		1年			
	地域創生実習指導I (小倉) RDE110M 下田 泰奈	1学期	1	2	266
	1年				
地域創生実習指導I (ボン・ジョーノ) RDE110M 岩本 晃典	1学期	1	2	267	
	1年				
地域創生実習指導I (キッズ) RDE110M 相羽 枝莉子	1学期	1	2	268	
	1年				
地域創生実習指導I (健康スポーツ) RDE110M 相羽 枝莉子	1学期	1	2	269	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習科目	地域創生実習指導I (プロスポーツ)	1学期	1	2	270
	RDE110M 相羽 枝莉子	1年			
	地域創生実習指導I (421Lab.)	1学期	1	2	271
	RDE110M 石川 敬之	1年			
	地域創生実習指導II (猪倉)	2学期	1	2	272
	RDE111M 岩本 晃典	1年			
	地域創生実習指導II (キタプロ)	2学期	1	2	273
	RDE111M 岩本 晃典	1年			
	地域創生実習指導II (北スマ)	2学期	1	2	274
	RDE111M 下田 泰奈	1年			
	地域創生実習指導II (スクボラ)	2学期	1	2	275
	RDE111M 勅使河原 航	1年			
	地域創生実習指導II (ESDプロモート)	2学期	1	2	276
	RDE111M 勅使河原 航	1年			
	地域創生実習指導II (コミュニティ)	2学期	1	2	277
	RDE111M 勅使河原 航	1年			
	地域創生実習指導II (広報)	2学期	1	2	278
	RDE111M 下田 泰奈	1年			
	地域創生実習指導II (小倉)	2学期	1	2	279
	RDE111M 下田 泰奈	1年			
地域創生実習指導II (ボン・ジョーノ)	2学期	1	2	280	
RDE111M 岩本 晃典	1年				
地域創生実習指導II (キッズトレーニング)	2学期	1	2	281	
RDE111M 相羽 枝莉子	1年				
地域創生実習指導II (健康スポーツ)	2学期	1	2	282	
RDE111M 相羽 枝莉子	1年				
地域創生実習指導II (プロスポーツ)	2学期	1	2	283	
RDE111M 相羽 枝莉子	1年				
地域創生実習指導II (421Lab.)	2学期	1	2	284	
RDE111M 石川 敬之	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習科目	地域創生実習指導III (猪倉)	1学期	2	2	285
	RDE210M 岩本 晃典	2年			
	地域創生実習指導III (キタプロ)	1学期	2	2	286
	RDE210M 岩本 晃典	2年			
	地域創生実習指導III (北スマ)	1学期	2	2	287
	RDE210M 下田 泰奈	2年			
	地域創生実習指導III (スクボラ)	1学期	2	2	288
	RDE210M 勅使河原 航	2年			
	地域創生実習指導III (ESDプロモート)	1学期	2	2	289
	RDE210M 勅使河原 航	2年			
	地域創生実習指導III (コミュニティ)	1学期	2	2	290
	RDE210M 勅使河原 航	2年			
	地域創生実習指導III (広報)	1学期	2	2	291
	RDE210M 下田 泰奈	2年			
	地域創生実習指導III (小倉)	1学期	2	2	292
	RDE210M 下田 泰奈	2年			
	地域創生実習指導III (ボン・ジョーノ)	1学期	2	2	293
	RDE210M 岩本 晃典	2年			
	地域創生実習指導III (キッズ)	1学期	2	2	294
	RDE210M 相羽 枝莉子	2年			
地域創生実習指導III (健康スポーツ)	1学期	2	2	295	
RDE210M 相羽 枝莉子	2年				
地域創生実習指導III (プロスポーツ)	1学期	2	2	296	
RDE210M 相羽 枝莉子	2年				
地域創生実習指導III (421Lab.)	1学期	2	2	297	
RDE210M 石川 敬之	2年				
地域創生実習指導IV (猪倉)	2学期	2	2	298	
RDE211M 岩本 晃典	2年				
地域創生実習指導IV (キタプロ)	2学期	2	2	299	
RDE211M 岩本 晃典	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習科目	地域創生実習指導IV (北スマ) RDE211M 下田 泰奈	2学期	2	2	300
		2年			
	地域創生実習指導IV (スクボラ) RDE211M 勅使河原 航	2学期	2	2	301
		2年			
	地域創生実習指導IV (ESDプロモート) RDE211M 勅使河原 航	2学期	2	2	302
		2年			
	地域創生実習指導IV (コミュニテイ) RDE211M 勅使河原 航	2学期	2	2	303
		2年			
	地域創生実習指導IV (広報) RDE211M 下田 泰奈	2学期	2	2	304
		2年			
	地域創生実習指導IV (小倉) RDE211M 下田 泰奈	2学期	2	2	305
		2年			
	地域創生実習指導IV (ボン・ジョーノ) RDE211M 岩本 晃典	2学期	2	2	306
		2年			
	地域創生実習指導IV (キッズ) RDE211M 相羽 枝莉子	2学期	2	2	307
		2年			
地域創生実習指導IV (健康スポーツ) RDE211M 相羽 枝莉子	2学期	2	2	308	
	2年				
地域創生実習指導IV (プロスポーツ) RDE211M 相羽 枝莉子	2学期	2	2	309	
	2年				
地域創生実習指導IV (421Lab.) RDE211M 石川 敬之	2学期	2	2	310	
	2年				
地域創生演習I SEM211M 休講	1学期	2	2		
	2年				
地域創生演習I SEM211M 休講	1学期	2	2		
	2年				
地域創生演習I SEM211M 休講	1学期	2	2		
	2年				
地域創生演習I SEM211M 稲月 正	1学期	2	2	311	
	2年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■専門教育科目 ■演習科目	地域創生演習I	1学期	2	2	312
	SEM211M 南 博	2年			
	地域創生演習I	1学期	2	2	313
	SEM211M 深谷 裕	2年			
	地域創生演習I	1学期	2	2	314
	SEM211M 佐藤 貴之	2年			
	地域創生演習I	1学期	2	2	315
	SEM211M 眞鍋 和博	2年			
	地域創生演習I	1学期	2	2	316
	SEM211M 内田 晃	2年			
	地域創生演習I	1学期	2	2	317
	SEM211M 小林 敏樹	2年			
	地域創生演習I	1学期	2	2	318
	SEM211M 片岡 寛之	2年			
	地域創生演習I	1学期	2	2	319
	SEM211M 西田 心平	2年			
	地域創生演習I	1学期	2	2	320
	SEM211M 廣川 祐司	2年			
	地域創生演習I	1学期	2	2	321
	SEM211M 徳永 政夫	2年			
地域創生演習I	1学期	2	2	322	
SEM211M 山本 浩二	2年				
地域創生演習II	2学期	2	2		
SEM212M 休講	2年				
地域創生演習II	2学期	2	2		
SEM212M 休講	2年				
地域創生演習II	2学期	2	2		
SEM212M 休講	2年				
地域創生演習II	2学期	2	2	323	
SEM212M 稲月 正	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習科目	地域創生演習II SEM212M 南 博	2学期	2	2	324
		2年			
	地域創生演習II SEM212M 深谷 裕	2学期	2	2	325
		2年			
	地域創生演習II SEM212M 佐藤 貴之	2学期	2	2	326
		2年			
	地域創生演習II SEM212M 眞鍋 和博	2学期	2	2	327
		2年			
	地域創生演習II SEM212M 内田 晃	2学期	2	2	328
		2年			
	地域創生演習II SEM212M 小林 敏樹	2学期	2	2	329
		2年			
	地域創生演習II SEM212M 片岡 寛之	2学期	2	2	330
		2年			
	地域創生演習II SEM212M 西田 心平	2学期	2	2	331
		2年			
地域創生演習II SEM212M 廣川 祐司	2学期	2	2	332	
	2年				
地域創生演習II SEM212M 徳永 政夫	2学期	2	2	333	
	2年				
地域創生演習II SEM212M 山本 浩二	2学期	2	2	334	
	2年				
地域創生演習III SEM311M 廣渡 栄寿	1学期	3	2		
	3年				
地域創生演習III SEM311M 佐藤 貴之	1学期	3	2		
	3年				
地域創生演習III SEM311M 眞鍋 和博	1学期	3	2		
	3年				
地域創生演習III SEM311M 内田 晃	1学期	3	2		
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■演習科目	地域創生演習Ⅲ	1学期	3	2	3年
	SEM311M 石川 敬之				
	地域創生演習Ⅲ	1学期	3	2	3年
	SEM311M 徳永 政夫				
	地域創生演習Ⅲ	1学期	3	2	3年
	SEM311M 山本 浩二				
	地域創生演習Ⅲ	1学期	3	2	3年
	SEM311M 休講				
	地域創生演習Ⅲ	1学期	3	2	3年
	SEM311M 小林 敏樹				
	地域創生演習Ⅲ	1学期	3	2	3年
	SEM311M 片岡 寛之				
	地域創生演習Ⅲ	1学期	3	2	3年
	SEM311M 西田 心平				
	地域創生演習Ⅲ	1学期	3	2	3年
	SEM311M 廣川 祐司				
	地域創生演習Ⅲ	1学期	3	2	3年
	SEM311M 片岡 寛之				
	地域創生演習Ⅲ	1学期	3	2	3年
	SEM311M 未開講				
地域創生演習Ⅲ	1学期	3	2	3年	
SEM311M 未開講					
地域創生演習Ⅲ	1学期	3	2	3年	
SEM311M 未開講					
地域創生演習Ⅲ	1学期	3	2	3年	
SEM311M 休講					
地域創生演習Ⅳ	2学期	3	2	3年	
SEM312M 廣渡 栄寿					
地域創生演習Ⅳ	2学期	3	2	3年	
SEM312M 佐藤 貴之					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習科目	地域創生演習Ⅳ	2学期	3	2	
	SEM312M 眞鍋 和博	3年			
	地域創生演習Ⅳ	2学期	3	2	
	SEM312M 内田 晃	3年			
	地域創生演習Ⅳ	2学期	3	2	
	SEM312M 石川 敬之	3年			
	地域創生演習Ⅳ	2学期	3	2	
	SEM312M 徳永 政夫	3年			
	地域創生演習Ⅳ	2学期	3	2	
	SEM312M 山本 浩二	3年			
	地域創生演習Ⅳ	2学期	3	2	
	SEM312M 休講	3年			
	地域創生演習Ⅳ	2学期	3	2	
	SEM312M 小林 敏樹	3年			
	地域創生演習Ⅳ	2学期	3	2	
	SEM312M 片岡 寛之	3年			
	地域創生演習Ⅳ	2学期	3	2	
	SEM312M 西田 心平	3年			
	地域創生演習Ⅳ	2学期	3	2	
	SEM312M 廣川 祐司	3年			
地域創生演習Ⅳ	2学期	3	2		
SEM312M 片岡 寛之	3年				
地域創生演習Ⅳ	2学期	3	2		
SEM312M 未開講	3年				
地域創生演習Ⅳ	2学期	3	2		
SEM312M 未開講	3年				
地域創生演習Ⅳ	2学期	3	2		
SEM312M 未開講	3年				
地域創生演習Ⅳ	2学期	3	2		
SEM312M 休講	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■演習科目	地域創生総合演習I	1学期	4	2	4年
	SEM411M 廣渡 栄寿				
	地域創生総合演習I	1学期	4	2	4年
	SEM411M 佐藤 貴之				
	地域創生総合演習I	1学期	4	2	4年
	SEM411M 眞鍋 和博				
	地域創生総合演習I	1学期	4	2	4年
	SEM411M 内田 晃				
	地域創生総合演習I	1学期	4	2	4年
	SEM411M 石川 敬之				
	地域創生総合演習I	1学期	4	2	4年
	SEM411M 徳永 政夫				
	地域創生総合演習I	1学期	4	2	4年
	SEM411M 山本 浩二				
	地域創生総合演習I	1学期	4	2	4年
	SEM411M 小林 敏樹				
	地域創生総合演習I	1学期	4	2	4年
	SEM411M 休講				
地域創生総合演習I	1学期	4	2	4年	
SEM411M 坂本 毅啓					
地域創生総合演習I	1学期	4	2	4年	
SEM411M 片岡 寛之					
地域創生総合演習I	1学期	4	2	4年	
SEM411M 西田 心平					
地域創生総合演習I	1学期	4	2	4年	
SEM411M 廣川 祐司					
地域創生総合演習I	1学期	4	2	4年	
SEM411M 片岡 寛之					
地域創生総合演習I	1学期	4	2	4年	
SEM411M 未開講					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習科目	地域創生総合演習I SEM411M 未開講	1学期	4	2	4年
	地域創生総合演習I SEM411M 未開講	1学期	4	2	4年
	地域創生総合演習I SEM411M 休講	1学期	4	2	4年
	地域創生総合演習II SEM412M 廣渡 栄寿	2学期	4	2	4年
	地域創生総合演習II SEM412M 佐藤 貴之	2学期	4	2	4年
	地域創生総合演習II SEM412M 眞鍋 和博	2学期	4	2	4年
	地域創生総合演習II SEM412M 内田 晃	2学期	4	2	4年
	地域創生総合演習II SEM412M 石川 敬之	2学期	4	2	4年
	地域創生総合演習II SEM412M 徳永 政夫	2学期	4	2	4年
	地域創生総合演習II SEM412M 山本 浩二	2学期	4	2	4年
地域創生総合演習II SEM412M 小林 敏樹	2学期	4	2	4年	
地域創生総合演習II SEM412M 休講	2学期	4	2	4年	
地域創生総合演習II SEM412M 坂本 毅啓	2学期	4	2	4年	
地域創生総合演習II SEM412M 片岡 寛之	2学期	4	2	4年	
地域創生総合演習II SEM412M 西田 心平	2学期	4	2	4年	

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習科目	地域創生総合演習II SEM412M 廣川 祐司	2学期	4	2	4年
	地域創生総合演習II SEM412M 片岡 寛之	2学期	4	2	4年
	地域創生総合演習II SEM412M 未開講	2学期	4	2	4年
	地域創生総合演習II SEM412M 未開講	2学期	4	2	4年
	地域創生総合演習II SEM412M 未開講	2学期	4	2	4年
	地域創生総合演習II SEM412M 休講	2学期	4	2	4年
	相談援助演習I SOW260M 夜のみ開講科目	1学期	2	2	2年
	相談援助演習II SOW261M 夜のみ開講科目	2学期	2	2	2年
	相談援助演習III SOW360M 夜のみ開講科目	1学期	3	2	3年
	相談援助演習IV SOW361M 夜のみ開講科目	2学期	3	2	3年
相談援助演習V SOW460M 夜のみ開講科目	1学期	4	2	4年	
卒業論文 STH410M 廣渡 栄寿		4	4	4年	
卒業論文 STH410M 佐藤 貴之		4	4	4年	
卒業論文 STH410M 眞鍋 和博		4	4	4年	
卒業論文 STH410M 内田 晃		4	4	4年	

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■演習科目	卒業論文		4	4	
	STH410M 石川 敬之	4年			
	卒業論文		4	4	
	STH410M 徳永 政夫	4年			
	卒業論文		4	4	
	STH410M 山本 浩二	4年			
	卒業論文		4	4	
	STH410M 片岡 寛之	4年			
	卒業論文		4	4	
	STH410M 西田 心平	4年			
	卒業論文		4	4	
	STH410M 廣川 祐司	4年			
卒業論文 (チャレンジプログラム)		4	4		
STH410M 片岡 寛之	4年				
卒業論文		4	4		
STH410M 未開講	4年				
卒業論文		4	4		
STH410M 未開講	4年				
卒業論文 (チャレンジプログラム)		4	4		
STH410M 休講	4年				
■地域創生科目	地域創生論1 (まちづくりマネジメント)	1学期	1	2	335
	RDE100M 片岡 寛之	1年			
	地域創生論2 (スポーツ指導論)	1学期	1	2	336
	RDE101M 徳永 政夫	1年			
	地域創生論3 (福祉環境デザイン論)	1学期	1	2	337
	RDE102M 内田 晃	1年			
地域創生論4 (まちづくり実践論)	1学期	1	2		
RDE103M 休講	1年				
地域創生論5 (教育社会学)	1学期	1	2	338	
RDE104M 眞鍋 和博	1年				

地域創生学群 地域創生学類 (2019年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■地域創生科目	地域創生論6 (ボランティア活動論)	1学期	1	2	
	RDE105M 休講	1年			
	地域創生論7	1学期	1	2	
	RDE106M 休講	1年			
	地域創生論8	2学期	1	2	
	RDE112M 休講	1年			
	地域創生論9 (都市・地域マネジメント論)	2学期	1	2	
	RDE113M 休講	1年			
	地域創生論10 (地域文化論)	2学期	1	2	339
	RDE114M 廣川 祐司	1年			
	地域創生論11 (ゲームフィケーション)	2学期	1	2	340
	RDE115M 佐藤 貴之	1年			
	地域創生論12 (都市社会学)	2学期	1	2	
	RDE116M 休講	1年			
地域創生論13 (キャリア学概論)	2学期	1	2	341	
RDE117M 見館 好隆	1年				
地域創生論14	2学期	1	2		
RDE118M 休講	1年				
現代社会と福祉 1	1学期	1	2		
SOW100M 休講	1年				
相談援助の基盤と専門職 1	2学期	1	2		
SOW160M 休講	1年				
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	2学期	1	2		
SOW120M 休講	1年				
■地域創生スキル科目	地域創生スキル1 (地域調査論)	1学期	2	2	342
	RDE200M 小林 敏樹	2年			
	地域創生スキル2 (フィールドワーク論)	1学期	2	2	343
	RDE201M 廣川 祐司	2年			
	地域創生スキル3 (プロジェクトマネジメント)	1学期	2	2	344
	RDE202M 佐藤 貴之	2年			

地域創生学群 地域創生学類 (2019年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■地域創生スキル科目	地域創生スキル4 (クリエイティブシンキング) RDE203M 休講	1学期	2	2	
		2年			
	地域創生スキル5 RDE204M 休講	1学期	2	2	
		2年			
	地域創生スキル6 RDE205M 休講	1学期	2	2	
		2年			
	地域創生スキル7 RDE206M 休講	1学期	2	2	
		2年			
	地域創生スキル8 (スポーツ・ボランティア指導論) RDE212M 徳永 政夫	2学期	2	2	345
		2年			
	地域創生スキル9 (地域経営実践論) RDE213M 休講	2学期	2	2	
		2年			
	地域創生スキル10 (キャリア形成論) RDE214M 眞鍋 和博	2学期	2	2	346
		2年			
	地域創生スキル11 (地域コーディネート論) RDE215M 休講	2学期	2	2	
		2年			
地域創生スキル12 (リハビリテーション論) RDE216M 山本 浩二	2学期	2	2	347	
	2年				
地域創生スキル13 RDE217M 休講	2学期	2	2		
	2年				
地域創生スキル14 RDE218M 休講	2学期	2	2		
	2年				
相談援助の基盤と専門職 2 SOW161M 休講	1学期	2	2		
	2年				
■専門科目	ファシリテーション RDE207M 加留部 貴行	集中	2	2	348
		2年			
	地域創生特講 1 RDE290M 休講	1学期	2	2	
		2年			
地域創生特講 1 RDE290M 休講	1学期	2	2		
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■専門科目	地域創生特講 1 (観光事業概論)	2学期	2	2	349
	RDE290M 見館 好隆	2年			
	地域創生特講 2 (海外スタディツアー)	集中	2	2	
	RDE291M 休講 他	2年			
	地域創生特講 2 (マレーシア・プトラ大学との交流)	集中	2	2	
	RDE291M 休講 他	2年			
	地域創生特講 3 (伴走型支援の学びとインターンシップ 1)	1学期	2	2	
	RDE292M 坂本・稲月	2年			
	地域創生特講 4 (伴走型支援の学びとインターンシップ 2)	2学期	2	2	350
	RDE293M 坂本・稲月	2年			
	障害者スポーツ指導論	2学期	1	2	
	HSS121M 休講	1年			
	障害者スポーツ各論	2学期	2	2	
	HSS220M 休講	2年			
	現代社会と福祉 2	2学期	1	2	
	SOW101M 休講	1年			
	コミュニティワーク論		2	2	
	SOW210M 休講	2年			
	高齢者に対する支援と介護保険制度 1		2	2	
	SOW220M 休講	2年			
高齢者に対する支援と介護保険制度 2		2	2		
SOW221M 休講	2年				
障害者に対する支援と障害者自立支援制度		2	2		
SOW222M 休講	2年				
相談援助の理論と方法 1		2	2		
SOW262M 休講	2年				
相談援助の理論と方法 2		2	2		
SOW263M 休講	2年				
相談援助の理論と方法 3		2	2		
SOW264M 休講	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■専門科目	社会保障論 1 SOW140M 休講	1学期	2	2	
		2年			
	社会保障論 2 SOW240M 休講	2学期	2	2	
		2年			
	低所得者に対する支援と生活保護制度 SOW241M 休講		2	2	
		2年			
	人体の構造と機能及び疾病 SOW230M 休講		2	2	
		2年			
	保健医療サービス SOW231M 休講		2	2	
		2年			
	福祉行財政と福祉計画 SOW242M 難波 利光	1学期	2	2	351
		2年			
	福祉サービスの組織と経営 SOW251M 中園 紀明	2学期	2	2	352
		2年			
	権利擁護と成年後見制度 SOW250M 小賀 久	1学期	2	2	353
		2年			
	就労支援サービス SOW243M 休講	2学期	2	2	
		2年			
	司法福祉論 SOW244M 休講	2学期	2	2	
		2年			
相談援助実習指導I SOW381M 夜のみ開講科目		3	2		
	3年				
相談援助実習指導II SOW382M 夜のみ開講科目	2学期	3	1		
	3年				
スクール(学校)ソーシャルワーク論 SOW362M 寺田 千栄子	2学期	3	2		
	3年				
スクール(学校)ソーシャルワーク演習 SOW461M 寺田 千栄子	1学期	4	2		
	4年				
スクール(学校)ソーシャルワーク実習指導 SOW480M 寺田 千栄子	1学期	4	1		
	4年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■専門科目	スクール(学校)ソーシャルワーク実習 SOW481M 寺田 千栄子	集中	4	3	
	4年				
	精神保健の課題と支援 SOW330M 梶原 浩介	1学期	3	2	
	3年				
	金融論 ECN222M 後藤 尚久	1学期	2	2	354
	2年				
	金融論特講 ECN223M 後藤 尚久	2学期	2	2	355
	2年				
	地域経済 ECN232M 休講	1学期	2	2	
	2年				
	地域経済特講 ECN233M 休講	2学期	2	2	
	2年				
	経済地理学 ECN230M 柳井 雅人	1学期	2	2	356
	2年				
	経済地理学特講 ECN231M 柳井 雅人	2学期	2	2	357
	2年				
	北九州経済分析 ECN235M 城戸 宏史	1学期	2	2	358
	2年				
	北九州経済分析特講 ECN236M 城戸 宏史	2学期	2	2	359
	2年				
地域政策 ECN234M 松永 裕己	2学期	2	2	360	
2年					
財政学 ECN320M 休講	1学期	3	2		
3年					
財政学特講 ECN321M 休講	2学期	3	2		
3年					
環境経済学 ECN328M 牛房 義明	2学期	3	2		
3年					
簿記論 ACC110M 休講	1学期	1	2		
1年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■専門科目	簿記論 ACC110M	1学期	1	2	361
	休講	1年			
	簿記論 ACC110M	1学期	1	2	361
	森脇 敏雄	1年			
	数学 MTH100M	1学期	1	2	362
	吉田 祐治	1年			
	情報科学入門 INF100M	2学期	1	2	363
	隈本 覚	1年			
	情報科学入門 INF100M	2学期	1	2	364
	隈本 覚	1年			
	情報科学入門 INF100M	2学期	1	2	365
	池田 欽一	1年			
	情報科学入門 INF100M	2学期	1	2	366
	三宅 芳博	1年			
	経営学入門 BUS100M	1学期	1	2	367
	石橋 慶一	1年			
	経営学入門 BUS100M	1学期	1	2	368
	石橋 慶一	1年			
	経営管理論 BUS110M	2学期	1	2	369
	浦野 恭平	1年			
ファイナンス入門 BUS111M	2学期	1	2	370	
内田 交謹	1年				
会計学入門 ACC111M	2学期	1	2	371	
森脇 敏雄	1年				
経営統計I MTH150M	2学期	1	2	372	
吉田 祐治	1年				
経営統計II MTH250M	1学期	2	2	373	
齋藤 朗宏	2年				
財務会計論I ACC210M	1学期	2	2	374	
西澤 健次	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■専門科目	財務会計論II	2学期	2	2	375
	ACC211M 西澤 健次	2年			
	マーケティングI	1学期	2	2	376
	BUS230M 別府 俊行	2年			
	マーケティングII	2学期	2	2	377
	BUS231M 別府 俊行	2年			
	経営組織論	2学期	2	2	378
	BUS210M 山下 剛	2年			
	経営戦略論	2学期	2	2	379
	BUS211M 浦野 恭平	2年			
	人的資源管理論	1学期	3	2	
	BUS310M 脇 夕希子	3年			
	中小企業論	1学期	3	2	
	BUS313M 別府 俊行	3年			
	経営分析	1学期	3	2	
	ACC400M 未開講	3年			
	フィールドワーク基礎論	1学期	1	2	380
	ANT100M 大津留 香織	1年			
	心理学概論	2学期	1	2	381
	PSY100M 田中 信利 他	1年			
教育心理学	2学期	1	2	382	
PSY120M 山下 智也	1年				
対人心理学	1学期	2	2	383	
PSY211M 田島 司	2年				
臨床心理学	1学期	2	2	384	
PSY230M 田中 信利	2年				
発達心理学	1学期	2	2	385	
PSY220M 税田 慶昭	2年				
スポーツ心理学	1学期	2	2	386	
HSS221M 柴原 健太郎	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■専門科目	身体適応論 HSS231M 高西 敏正	1学期	2	2	387
		2年			
	トレーニング論 HSS223M 梨羽 茂	1学期	2	2	388
		2年			
	教育社会学 EDU223M 恒吉 紀寿	1学期	2	2	389
		2年			
	カウンセリング論 PSY231M 田中 信利	2学期	2	2	390
		2年			
	スポーツ産業論 HSS222M 休講	集中	2	2	
		2年			
	健康科学 HSS230M 高西 敏正	2学期	2	2	391
		2年			
	身体コミュニケーション論 HSS200M 柴原 健太郎	2学期	2	2	392
		2年			
	法学総論 LAW100M 林田 幸広	1学期	1	2	393
		1年			
	日本国憲法原論 LAW120M 石塚 壮太郎	1学期	1	2	394
		1年			
	民法入門 LAW160M 清水 裕一郎	1学期	1	2	395
		1年			
憲法人権論 LAW220M 中村 英樹	2学期	1	2	396	
	1年				
刑法総論 LAW230M 大杉 一之		1	4	397	
	1年				
社会法総論 LAW140M 岡本 舞子	2学期	1	2	398	
	1年				
親族法 LAW265M 小野 憲昭	2学期	1	2	399	
	1年				
物権法 LAW260M 清水 裕一郎	1学期	2	2	400	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■専門科目	行政法総論 LAW222M 堀澤 明生		2	4	401
		2年			
	行政争訟法 LAW223M 近藤 卓也	2学期	2	2	402
		2年			
	知的財産法 LAW341M 小川 明子	集中	3	2	
		3年			
	NPO論 PLC114M 植原 真二 他	1学期	1	2	403
		1年			
	政治過程論 PLS210M 上條 諒貴	2学期	1	2	404
		1年			
	都市環境論 PLC111M 三宅 博之	1学期	1	2	405
		1年			
	都市経済論 PLC113M 田代 洋久	2学期	1	2	406
		1年			
	公共政策論 PLC211M 植原 真二	1学期	2	2	407
		2年			
	地方自治論 PAD211M 森 裕亮	1学期	2	2	408
		2年			
	福祉政策論 PLC217M 狭間 直樹	1学期	2	2	409
		2年			
政策過程論 PLC212M 申 東愛	2学期	1	2	410	
	2年				
公共経営論 PAD212M 狭間 直樹	2学期	2	2	411	
	2年				
特別支援教育論 EDU263M 楠 凡之	1学期	2	1	412	
	2年				
特別支援教育論 EDU263M 未開講	1学期	2	2		
	2年				
教育相談 EDU261M 山下 智也	1学期	2	2	413	
	2年				

地域創生学群 地域創生学類 (2019年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■専門科目	生徒指導論	2学期	2	2	414
	EDU262M 楠 凡之				
	チャレンジプログラム 1		3	2	
	RDE382M 未開講				
	チャレンジプログラム 2		3	2	
	RDE383M 未開講				
■自由科目	教職論	1学期	1	2	415
	EDU111M 楠 凡之				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■環境科目	生命と環境 BIO100F 日高 京子 他	1学期	1	2	416
	1年				
	環境問題概論 ENV100F 廣川 祐司	2学期	1	2	417
	1年				
	生命科学入門 BIO200F 日高 京子	2学期	1	2	418
	1年				
■世界 (地球) 科目	国際学入門 IRL110F 伊野 憲治	2学期	1	2	419
	1年				
	安全保障論 PLS111F 戸蔭 仁司	2学期	1	2	420
	1年				
	現代の国際情勢 IRL003F 休講	1学期	1	2	
	1年				
	国際社会と日本 IRL004F 中野 博文 他	2学期	1	2	421
	1年				
	グローバル化する経済 ECN001F 魏 芳 他	1学期	1	2	422
	1年				
	近代史入門 PLS110F 小林 道彦	1学期	1	2	423
	1年				
現代社会と文化 ANT210F 休講	2学期	2	2		
2年					
可能性としての歴史 HIS200F 小林 道彦	2学期	2	2	424	
2年					
■知の技法科目	アカデミック・スキルズI GES101F 廣渡 栄寿	2学期	1	2	425
	1学期未修得者再履				
	アカデミック・スキルズI GES101F 休講	1学期	1	2	
	群 (夜間)				
	情報社会への招待 INF100F 中尾 泰士	2学期	1	2	426
1年					
コンピューターリテラシー INF101F 古川 洋章	2学期	1	1	427	
1年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■知の創造科目	ことばの科学 LIN110F 漆原 朗子	2学期	1	2	428
	1年				
	現代人のこころ PSY003F 福田 恭介	1学期	1	2	429
	1年				
	企業と社会 BUS001F 休講	2学期	1	2	
	1年				
	民主主義とは何か PLS002F 休講	2学期	1	2	
	1年				
	社会哲学入門 PHR110F 休講	2学期	1	2	
	1年				
文化を読む LIT001F 佐藤 真人 他	1学期	1	2	430	
1年					
現代正義論 PHR003F 重松 博之	2学期	1	2	431	
1年					
倫理思想史 PHR005F 未定	2学期	1	2	432	
1年					
戦争論 PLS210F 戸蒔 仁司	2学期	2	2	433	
2年					
■共生と協働科目	異文化理解の基礎 ANT110F 神原 ゆうこ	1学期	1	2	434
	1年				
	市民活動論 RDE001F 西田 心平	2学期	1	2	435
	1年				
	地域福祉論 SOW011F 坂本 毅啓	2学期	1	2	436
	1年				
障がい学 SOW001F 閉講	1学期	1	2		
1年					
共生社会論 SOW200F 伊野 憲治	2学期	2	2	437	
2年					
■ライフ・デザイン科目	メンタル・ヘルス PSY001F 中島 俊介	1学期	1	2	438
	1年				

地域創生学群 地域創生学類 (2019年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ライフ・デザイン科目	フィジカル・ヘルス HSS001F 山本 浩二	1学期	1	2	439
	1年				
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) HSS081F 閉講	1学期	1	1	440
1年					
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 山本 浩二	2学期	1	1	440
	1年				
■外国語教育科目 ■第一外国語	ビジネス英語I (群 1年) ENG131F シェーン・ドイル	1学期	1	1	441
	群 1年				
	ビジネス英語II (群 1年) ENG132F シェーン・ドイル	2学期	1	1	442
	群 1年				
■専門教育科目 ■実習科目	指導的実習I RDE180M 昼のみ開講科目		1	4	443
	1年				
■演習科目	地域創生総合演習I SEM411M 小林 敏樹	1学期	4	2	443
	4年				
	地域創生総合演習I SEM411M 坂本 毅啓	1学期	4	2	443
	4年				
	地域創生総合演習I SEM411M 寺田 千栄子	1学期	4	2	443
	4年				
	地域創生総合演習II SEM412M 小林 敏樹	2学期	4	2	443
	4年				
	地域創生総合演習II SEM412M 深谷 裕	2学期	4	2	443
	4年				
	地域創生総合演習II SEM412M 坂本 毅啓	2学期	4	2	443
	4年				
	地域創生総合演習II SEM412M 寺田 千栄子	2学期	4	2	443
	4年				
相談援助演習I SOW260M 坂本 毅啓	1学期	2	2	444	
2年					
相談援助演習II SOW261M 坂本 毅啓	2学期	2	2	444	
2年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
備考						
■専門教育科目 ■演習科目	相談援助演習Ⅲ SOW360M 深谷 裕	1学期	3	2	3年	
	相談援助演習Ⅳ SOW361M 深谷 裕	2学期	3	2	3年	
	相談援助演習Ⅴ SOW460M 深谷 裕	1学期	4	2	4年	
	相談援助演習Ⅴ SOW460M 坂本 毅啓	1学期	4	2	4年	
	卒業論文 STH410M 寺田 千栄子		4	4	4年	
	卒業論文 STH410M 小林 敏樹		4	4	4年	
	卒業論文 STH410M 深谷 裕		4	4	4年	
卒業論文 STH410M 坂本 毅啓		4	4	4年		
■地域創生科目	地域創生論2 (スポーツ指導論) RDE101M 休講	1学期	1	2	1年	
	地域創生論3 (福祉環境デザイン論) RDE102M 休講	1学期	1	2	1年	
	地域創生論4 (まちづくり実践論) RDE103M 南 博	1学期	1	2	1年	445
	地域創生論5 (教育社会学) RDE104M 休講	1学期	1	2	1年	
	地域創生論6 (ボランティア活動論) RDE105M 西田 心平	1学期	1	2	1年	446
地域創生論7 RDE106M 休講	1学期	1	2	1年		
地域創生論8 RDE112M 休講	2学期	1	2	1年		

地域創生学群 地域創生学類 (2019年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■地域創生科目	地域創生論9 (都市・地域マネジメント論) RDE113M 小林 敏樹	2学期	1	2	447
		1年			
	地域創生論10 (地域文化論) RDE114M 休講	2学期	1	2	
		1年			
	地域創生論11 (ゲーミフィケーション) RDE115M 休講	2学期	1	2	
		1年			
	地域創生論12 (都市社会学) RDE116M 稲月 正	2学期	1	2	448
		1年			
	地域創生論13 (キャリア学概論) RDE117M 休講	2学期	1	2	
		1年			
	地域創生論14 RDE118M 休講	2学期	1	2	
		1年			
	コミュニティスポーツ論 HSS120M 山本 浩二	1学期	1	2	449
		1年			
現代社会と福祉 1 SOW100M 深谷 裕	1学期	1	2	450	
	1年				
相談援助の基盤と専門職 1 SOW160M 坂本 毅啓	2学期	1	2	451	
	1年				
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 SOW120M 寺田 千栄子	2学期	1	2	452	
	1年				
■地域創生スキル科目	地域創生スキル1 (地域調査論) RDE200M 休講	1学期	2	2	
		2年			
	地域創生スキル2 (フィールドワーク論) RDE201M 休講	1学期	2	2	
		2年			
	地域創生スキル3 (プロジェクトマネジメント) RDE202M 休講	1学期	2	2	
		2年			
	地域創生スキル4 (クリエイティブシンキング) RDE203M 見館 好隆	1学期	2	2	453
		2年			
	地域創生スキル5 RDE204M 休講	1学期	2	2	
		2年			

地域創生学群 地域創生学類 (2019年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■地域創生スキル科目	地域創生スキル6	1学期	2	2	
	RDE205M 休講	2年			
	地域創生スキル7	1学期	2	2	
	RDE206M 休講	2年			
	地域創生スキル8 (スポーツ・ボランティア指導論)	2学期	2	2	
	RDE212M 休講	2年			
	地域創生スキル9 (地域経営実践論)	2学期	2	2	454
	RDE213M 片岡 寛之	2年			
	地域創生スキル10 (キャリア形成論)	2学期	2	2	
	RDE214M 休講	2年			
	地域創生スキル11 (地域コーディネート論)	2学期	2	2	455
	RDE215M 西田 心平	2年			
	地域創生スキル12 (リハビリテーション論)	2学期	2	2	
	RDE216M 休講	2年			
	地域創生スキル13	2学期	2	2	
RDE217M 休講	2年				
地域創生スキル14	2学期	2	2		
RDE218M 休講	2年				
相談援助の基盤と専門職 2	1学期	2	2	456	
SOW161M 坂本 毅啓	2年				
社会調査の基礎	1学期	2	2	457	
SOW290M 稲月 正	2年				
■専門科目	ファシリテーション	1学期	2	2	
	RDE207M 休講	2年			
	地域創生特講 1	1学期	2	2	
	RDE290M 昼のみ開講科目	2年			
	地域創生特講 2	1学期	2	2	
	RDE291M 昼のみ開講科目	2年			
	地域創生特講 3	2学期	2	2	
RDE292M 昼のみ開講科目	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■専門科目	地域創生特講 4	2学期	2	2	
	RDE293M 昼のみ開講科目	2年			
	障害者スポーツ指導論		1	2	
	HSS121M 昼のみ開講科目	1年			
	障害者スポーツ各論		2	2	
	HSS220M 昼のみ開講科目	2年			
	現代社会と福祉 2	2学期	1	2	458
	SOW101M 河嶋 静代	1年			
	コミュニティワーク論	1学期	2	2	459
	SOW210M 岡本 政孝	2年			
	高齢者に対する支援と介護保険制度 1	1学期	2	2	460
	SOW220M 石塚 優	2年			
	高齢者に対する支援と介護保険制度 2	2学期	2	2	461
	SOW221M 石塚 優	2年			
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	1学期	2	2	462
	SOW222M 高崎 陽子	2年			
	相談援助の理論と方法 1	2学期	2	2	463
	SOW262M 高崎 陽子	2年			
	相談援助の理論と方法 2	2学期	2	2	464
	SOW263M 工藤 歩	2年			
相談援助の理論と方法 3	1学期	2	2	465	
SOW264M 藤田 博久	2年				
社会保障論 1	1学期	2	2	466	
SOW140M 安川 涉寛	2年				
社会保障論 2	2学期	2	2	467	
SOW240M 安川 涉寛	2年				
低所得者に対する支援と生活保護制度	2学期	2	2	468	
SOW241M 柴田 滋	2年				
人体の構造と機能及び疾病	1学期	2	2	469	
SOW230M 島 京子	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■専門科目	保健医療サービス SOW231M 石塚 優	2学期	2	2	470
		2年			
	福祉行財政と福祉計画 SOW242M 難波 利光	1学期	2	2	471
		2年			
	福祉サービスの組織と経営 SOW251M 中園 紀明	2学期	2	2	472
		2年			
	権利擁護と成年後見制度 SOW250M 柴田 裕之	1学期	2	2	473
		2年			
	就労支援サービス SOW243M 横谷 佳代	2学期	2	2	474
		2年			
	司法福祉論 SOW244M 深谷 裕	2学期	2	2	475
		2年			
	相談援助実習指導I SOW381M 坂本 毅啓		3	2	
		3年			
	相談援助実習指導II SOW382M 坂本 毅啓	2学期	3	1	
		3年			
	スクール(学校)ソーシャルワーク論 SOW362M 昼のみ開講科目		3	2	
		3年			
	スクール(学校)ソーシャルワーク演習 SOW461M 昼のみ開講科目		4	2	
		4年			
スクール(学校)ソーシャルワーク実習指導 SOW480M 昼のみ開講科目		4	1		
	4年				
スクール(学校)ソーシャルワーク実習 SOW481M 昼のみ開講科目		4	3		
	4年				
精神保健の課題と支援 SOW330M 昼のみ開講科目	1学期	3	2		
	3年				
マクロ経済学入門 ECN112M 後藤 尚久	1学期	1	2	476	
	1年				
ミクロ経済学I ECN113M 朱 乙文	2学期	1	2	477	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■専門科目	ミクロ経済学II	1学期	2	2	478
	ECN210M 朱 乙文	2年			
	金融論	1学期	2	2	
	ECN222M 休講	2年			
	金融論特講		2	2	
	ECN223M 昼のみ開講	2年			
	地域経済	1学期	2	2	479
	ECN232M 田村 大樹	2年			
	地域経済特講		2	2	
	ECN233M 昼のみ開講	2年			
	経済地理学	1学期	2	2	
	ECN230M 休講	2年			
	経済地理学特講	2学期	2	2	
	ECN231M 休講	2年			
	北九州経済分析		2	2	
	ECN235M 昼のみ開講	2年			
	北九州経済分析特講		2	2	
	ECN236M 昼のみ開講	2年			
	地域政策		2	2	
	ECN234M 昼のみ開講	2年			
財政学	1学期	3	2		
ECN320M 前林 紀孝	3年				
財政学特講		3	2		
ECN321M 昼のみ開講	3年				
環境経済学	2学期	3	2		
ECN328M 休講	3年				
数学		1	2		
MTH100M 休講	1年				
情報科学入門		1	2		
INF100M 昼のみ開講	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■専門科目	経営学入門 BUS100M 昼のみ開講		1	2	
		1年			
	経営管理論 BUS110M 休講	2学期	1	2	
		1年			
	ファイナンス入門 BUS111M 篠崎 伸也	2学期	1	2	480
		1年			
	会計学入門 ACC111M 昼のみ開講		1	2	
		1年			
	経営統計I MTH150M 昼のみ開講		1	2	
		1年			
	経営統計II MTH250M 昼のみ開講		2	2	
		2年			
	財務会計論I ACC210M 西澤 健次	1学期	2	2	481
		2年			
	財務会計論II ACC211M 昼のみ開講		2	2	
		2年			
	マーケティングI BUS230M 昼のみ開講		2	2	
		2年			
	マーケティングII BUS231M 昼のみ開講		2	2	
		2年			
経営組織論 BUS210M 昼のみ開講		2	2		
	2年				
経営戦略論 BUS211M 山下 剛	2学期	2	2	482	
	2年				
人的資源管理論 BUS310M 休講	1学期	3	2		
	3年				
中小企業論 BUS313M 休講	1学期	3	2		
	3年				
経営分析 ACC400M 昼のみ開講		3	2		
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■専門科目	フィールドワーク基礎論		1	2	
	ANT100M 昼のみ開講	1年			
	教育心理学		1	2	
	PSY120M 休講	1年			
	対人心理学	1学期	2	2	483
	PSY211M 田島 司	2年			
	臨床心理学	1学期	2	2	
	PSY230M 休講	2年			
	発達心理学	1学期	2	2	484
	PSY220M 税田 慶昭	2年			
	スポーツ心理学		2	2	
	HSS221M 昼のみ開講科目	2年			
	身体適応論	1学期	2	2	
	HSS231M 休講	2年			
	トレーニング論	1学期	2	2	
	HSS223M 休講	2年			
	教育社会学	1学期	2	2	485
	EDU223M 恒吉 紀寿	2年			
	カウンセリング論	2学期	2	2	486
	PSY231M 寺田 千栄子	2年			
スポーツ産業論	2学期	2	2	487	
HSS222M 内田 満	2年				
健康科学	2学期	2	2	488	
HSS230M 高西 敏正	2年				
身体コミュニケーション論	2学期	2	2	489	
HSS200M 柴原 健太郎	2年				
法学総論	1学期	1	2	490	
LAW100M 小野 憲昭	1年				
日本国憲法原論	1学期	1	2	491	
LAW120M 石塚 壮太郎	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■専門科目	民法入門	1学期	1	2	
	LAW160M 休講	1年			
	社会法総論	2学期	1	2	
	LAW140M 休講	1年			
	行政法総論		2	4	
	LAW222M 休講	2年			
	NPO論	1学期	1	2	
	PLC114M 休講	1年			
	都市環境論	1学期	1	2	492
	PLC111M 三宅 博之	1年			
	公共政策論	1学期	2	2	493
	PLC211M 楢原 真二	2年			
	地方自治論	1学期	2	2	
	PAD211M 休講	2年			
	福祉政策論	1学期	2	2	
	PLC217M 休講	2年			
特別支援教育論	1学期	2	1	494	
EDU263M 楠 凡之	2年				
特別支援教育論	1学期	2	2		
EDU263M 未開講	2年				
教育相談	1学期	2	2	495	
EDU261M 山下 智也	2年				
生徒指導論	2学期	2	2	496	
EDU262M 楠 凡之	2年				
チャレンジプログラム 1		3	2		
RDE382M 昼のみ開講科目	3年				
■自由科目	教職論	1学期	1	2	497
	EDU111M 楠 凡之	1年			

環境特講B (現代社会とエシカル消費) 【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPL202F	◎		○		○
科目名	環境特講B				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

グローバル化が進むことによって、人、モノ、カネ、情報の流れが加速化し、感覚的に私たちは地球を小さく感じるようになった。また、相互依存が深化したことで、今や遠い地の出来事を他人事として済ますことはできなくなってきた。私たちの豊かな暮らしは誰かの犠牲の上に成り立っているのではないか、そのような不正義は許されるのかという意識、すなわち「グローバルな倫理」が問われる時代になっている。

本講義では、具体的な事例をもとに、私たちの消費活動を倫理的観点から捉え直してみたい。そこで、「フェアトレード」「ファスト・ファッションとエシカル・ファッション」「紛争鉱物とエシカル・スマホ」「使い捨てプラスチック」「100円ショップ」「フードロス」「アニマルウェルフェア」を具体的な事例として取り上げ、倫理的消費について受講生とともに考えたい。

この講義を通して、受講生が日々の暮らしを見つめ直し、先進国の大量消費活動の裏側でどのような事態が進行しているのかを考え、環境に負荷をかけない生活を考える契機としたい。

教科書 /Textbooks

特に指定はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示しますが、次に挙げる文献はとても参考になります。

- 子島進他『館林発フェアトレード - 地域から発信する国際協力』上毛新聞社、2010年。
- アジア太平洋資料センター編『徹底解剖100円ショップ』コモンズ、2004年。
- 末吉里花『はじめてのエシカル』山川出版社、2016年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション(講義の目的、進め方、文献案内など)、「エシカル消費」とは何か?
- 第2回 【ファッション】『ザ・トゥルー・コスト』(DVD)前半の鑑賞
- 第3回 『ザ・トゥルー・コスト』(DVD)後半の鑑賞、論点整理
- 第4回 ファッション、綿花栽培に関するディスカッション
- 第5回 【食べ物】『甘いバナナの苦い真実』(DVD)の鑑賞、論点整理、ディスカッション
- 第6回 『Food Inc.』(DVD)前半の鑑賞
- 第7回 『Food Inc.』(DVD)後半の鑑賞、論点整理、ディスカッション
- 第8回 【フードロス】『0円キッチン』(DVD)の観賞
- 第9回 【プラスチック】ペットボトル、マイクロプラスチック、論点整理、ディスカッション
- 第10回 【鉱物資源】『スマホの真実』(DVD)の鑑賞、論点整理、ディスカッション
- 第11回 【100円ショップ】『徹底解剖!100円ショップ』の鑑賞、論点整理、ディスカッション
- 第12回 【フェアトレード】『もっと!フェアトレード』(DVD)の鑑賞
- 第13回 フェアトレードの展開、役割、課題
- 第14回 【動物の権利保護(アニマルウェルフェア)】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

7回のレポート(70%)、エッセイ(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、各回のキーワードについてウェブサイトなどで調べておいてください。事後学習としては、DVDを観賞した後は必ずレポート(A4一枚程度)を課しますので、振り返りをしてください。また、学んだことを実生活で確認してください。

環境特講B (現代社会とエシカル消費) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

数多くのDVDを視聴し、理解を深めます。その際、ディスカッションを行いますので、他人と議論するのを恐れずに、積極的に参加してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フェアトレード、エシカル

「SDGs 1. 貧困をなくそう」「SDGs 3. 健康と福祉を」「SDGs 5. ジェンダーと平等」「SDGs 10. 不平等をなくす」

「SDGs 12. 作る・使う責任」「SDGs 14. 海洋保全」「SDGs 15. 環境保全」「SDGs 16. 平和と公正」

「SDGs 17. パートナーシップ」

環境都市としての北九州【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV001F	◎		○		○
科目名	環境都市としての北九州		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

環境問題の全体像を把握し、持続可能な社会作りに向けた行動の重要性を理解する。そのために、学内の専門分野の異なる教員、学外からは行政・企業・NPO等の実務担当者を講師として迎え、オムニバス形式で様々な視点（自然・経済・市民）から環境問題とそれに対する取り組みについて学習する。北九州市はかつてばい煙に苦しむ街であったが、公害を克服した歴史を踏まえ、現在は環境モデル都市として世界をリードしている。北九州市の実施する「環境首都検定」の受検を通して、市のさまざまなプロジェクトや環境についての一般知識を広く学ぼうが、環境関連施設（環境ミュージアム、エコタウンなど）見学により、その体験を講義での学習につなげる。

授業のねらいは以下のとおり。

- ・ 環境問題全体を把握するための最低限の知識を身につけている
- ・ 北九州市の環境問題に対するこれまでの取り組みを理解している。
- ・ 持続可能な社会に向けての考え方を理解し、自分自身の行動につなげることができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

北九州市環境首都検定公式テキスト 1000円(税込み)
http://www.city.kitakyushu.lg.jp/kurashi/menu01_0438.html

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(日高)
- 2回 持続可能な社会をめざして～ESD～(法学部・三宅)
- 3回 北九州の自然と環境(村江)
- 4回 北九州における環境政策(外部講師)
- 5回 環境問題と市民の関わり(外部講師)
- 6回 環境ビジネスとエコタウン事業(マネジメント研究科・松永)
- 7回 北九州の環境経済(経済学部・牛房)
- 8回 環境問題とソーシャルビジネス(外部講師)
- 9回 施設見学・環境ミュージアム
- 10回 環境首都検定に向けて(外部講師)
- 11回 環境問題と企業の取り組み(外部講師)
- 12回 環境問題とエネルギー政策(外部講師)
- 13回 環境問題と学生の取り組み(未定)
- 14回 特別講演(未定)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

環境首都検定の成績(40%)、小テストおよび授業中の課題(60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：北九州市環境首都検定公式テキストに関連する箇所を学習しておくこと。
事後学習：授業中に出された課題に沿って学習し、Moodleで提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

環境都市としての北九州【昼】

履修上の注意 /Remarks

環境首都検定受検および施設見学（環境ミュージアム）は原則として必須とする。スケジュールは変更となる場合があるので、第1回ガイダンスに必ず出席すること。

- ・ 環境ミュージアム見学は11月23日（月）午前または午後の予定。参加できない場合は後日各自で見学すること。
- ・ 環境首都検定は12月6日（日）の予定。

*授業スケジュールは変更の可能性もある。第1回目ガイダンス時に確認すること。

*環境ミュージアム、首都検定会場までの交通費は自己負担とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は副専攻「環境ESD」と深く関連しています。この講義をきっかけに副専攻にもトライしてみませんか。

<https://www.kitakyu-u.ac.jp/kankyo-esd>

キーワード /Keywords

環境、ESD、SDGs、北九州市

SDGsとの関連について

7. エネルギーをみんなに 12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう

自然史へのいざない【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 河野 智謙 / Tomonori KAWANO / 環境生命工学科 (19~)
野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科, 柳川 勝紀 / Katsunori YANAGAWA / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 1年次 /1st Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2nd Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 1年 /1st Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BI0001F	◎		○		○
科目名	自然史へのいざない		※修得できる能力との関連性 ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連		

授業の概要 /Course Description

北九州市は化石の一大産地であり、多様で豊かな自然に囲まれた都市であるとともに、古くより交通の要衝として栄えてきた。本科目は北九州市立自然史・歴史博物館（愛称：いのちのたび博物館）を舞台とした、学芸員および北方・ひびきの両キャンパスの教員によるオムニバス講義である。多様な生命をはぐくんできた地球の歴史、そして人間の歴史に関する基礎的な知識を身に付けながら、学芸員や教員のそれぞれの分野の最先端のトピックについて学習し、北方・ひびきの両キャンパスの交流を通して、より多角的な視点から自然と歴史について学ぶ。

到達目標

- ・ 自然史・歴史のテーマに関連して基礎的な知識を身につけている。
- ・ 授業で学んだことを自分の言葉でまとめて表現できる。
- ・ 関連のテーマに関して積極的に情報を仕入れ、自ら学び続けることができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

講義のテーマは下記の通り。()内は担当者。【 】はキーワード

- 1回 ガイダンス(日高・柳川)
博物館1日目
2回 北九州市周辺の地質と化石の多様性について(太田)【化石】【ジオパーク】
3回 生命の起源を探る(柳川)【極限環境】【微生物】
4回 館内見学(1回目)
5回 多様性生物学と進化(養島)【進化】【生物多様性】
6回 海産無脊椎動物の行動生態学(竹下)【無脊椎動物】
博物館2日目
7回 植物を鍵とした生物間相互作用(真鍋)【共生】【食物連鎖】
8回 博物館を楽しむ：いのちのたびで知る脊椎動物進化(大橋)【恐竜】【脊椎動物】
9回 館内見学(2回目)
10回 鳥類の生態と進化(中原)【適応放散】【進化的軍拡競争】
11回 人新世におけるヒトと植物の関係(河野)【人新世】【科学史】
博物館3日目
12回 フィールドの地学と歴史を楽しむ(野井)【地学と歴史のかかわり】
13回 歴史に関するトピック①
14回 歴史に関するトピック②
15回 まとめ(日高)

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 積極的な授業への参加(授業ごとのMoodle課題提出) 100%

自然史へのいざない【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前にキーワードについて自分で調べておくこと。

事後学習：授業中に出された課題に沿って学習し、Moodle（e-learningシステム）で提出すること。

<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

- ・ 第1回目（ガイダンス）に欠席した場合は受講を認めない。ひびきのキャンパスでは10月2日に予定しているので掲示物に注意すること。
- ・ 第2回～第15回の授業は10月17日（土）、10月31日（土）、11月14日（土）の3回に分けて博物館で行う予定（いずれも終日）。
- ・ 博物館までの交通費は自己負担とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGsとの関連：

13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう

生命と環境 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 /Class クラス 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BI0100F	◎		○		○
科目名	生命と環境		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

約40億年前の地球に生命は誕生し、長い時間をかけて多様な生物種へと進化してきた。生命とはなにか。生物は何からできており、どのようなしくみで成り立ち、地球という環境においてその多様性はどのように生じてきたか。本講では、(1)宇宙と生命がどのような物質からできているか、(2)生物の多様性と影響を与えてきた環境とはどのようなものか、(3)進化の原動力となった突然変異とは何かなどについて広く学ぶとともに、(4)生命や宇宙がこれまでにどのように「科学」されてきたかを知ることによって、科学的なものの捉え方や考え方についても学びます。

到達目標

- ・ 生命と環境に関する基礎的な知識を身につけている。
- ・ 授業で学んだことを自分の言葉でまとめ、表現できる。
- ・ 身近な課題に関して積極的に調べ、自ら学び続けることができる。

教科書 /Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2015年(羊土社)3024円
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- 宇宙と生命の起源—ビッグバンから人類誕生まで 嶺重慎・小久保英一郎編著 2004年(岩波ジュニア新書)903円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|----------------------------|-----------------|
| 1回 | ガイダンス(日高・中尾) | |
| 2回 | 自然科学の基礎(1)ミクロとマクロ(日高・中尾) | 【物質の単位】【自然科学】 |
| 3回 | 自然科学の基礎(2)宇宙で生まれた物質(中尾) | 【元素】【原子】【超新星爆発】 |
| 4回 | 自然科学の基礎(3)生命と分子(日高) | 【DNA】【タンパク質】 |
| 5回 | 生物の多様性(1)生物の分類と系統(日高) | 【種】【学名】【系統樹】 |
| 6回 | 生物の多様性(2)単細胞生物と多細胞生物(日高) | 【細胞膜】【共生説】 |
| 7回 | 生物の多様性(3)生態系と進化(日高) | 【食物連鎖】【絶滅】【進化】 |
| 8回 | 遺伝子の多様性(1)遺伝子の名前(日高) | 【突然変異】【遺伝学】 |
| 9回 | 遺伝子の多様性(2)多様性を生む生殖(日高) | 【有性生殖】【減数分裂】 |
| 10回 | 遺伝子の多様性(3)多様な生命の紹介(外部講師) | |
| 11回 | 科学的な方法とは(1)科学と疑似科学(日高・中尾) | 【血液型】【星座】 |
| 12回 | 科学的な方法とは(2)太陽と地球の環境(中尾) | 【太陽活動】【地球温暖化問題】 |
| 13回 | 科学的な方法とは(3)人類の起源を調べるには(日高) | 【ミトコンドリア】 |
| 14回 | 関連ビデオ鑑賞(日高) | |
| 15回 | 質疑応答とまとめ(日高) | |

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への参加(課題提出を含む)100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中の課題に沿って学習し、Moodle(e-learningシステム)で提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

- ・ 高校で生物を履修していない者は教科書または参考書を入手し、授業に備えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基盤教育センターの専任教員・日高（生物担当）および中尾（物理担当）による自然科学の入門講座です。この分野が苦手な者や初めて学ぶ者も歓迎します。参考書やインターネットを活用し、わからない用語は自分で調べるなど、積極的に取り組んで下さい。暗記中心の受験勉強とは違った楽しみが生まれるかもしれません。

キーワード /Keywords

SDGsとの関連：

13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう

環境問題概論 【昼】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
										○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV100F	◎		○		○
科目名	環境問題概論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

農林水産業の第一次産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」について、基礎的な知識を充足することを目的とする。望ましい人間と自然、または自然を介した人と人との関係性について、環境問題に対する総合的な理解を促すことが狙いである。
また、農林水産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」についての知識を生かし、SDGs（持続可能な開発目標）に関するテーマとして、③食の問題、④捕鯨問題、⑥・⑤山の管理（治水・利水）、そして②経済優先の消費活動に関すること等をテーマに、持続可能な社会となるための考え方を模索する授業である。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション -環境問題を見る視点について-
- 第2回 資源の在り方を問う
- 第3回 日本の捕鯨の行方
- 第4回 日本人の自然観
- 第5回 環境と経済の関係性
- 第6回 山を管理するとは？
- 第7回 環境問題の原因と焼畑農業
- 第8回 里山の開発① -なぜ里山の宅地開発問題が生じるのか？-
- 第9回 里山の開発② -映画監督 高畑勲氏からのメッセージ-
- 第10回 里山の開発③ -動物視点で見る真の共生の形-
- 第11回 「農業」と SATOYAMA イニシアティブ① -農業の多面的機能-
- 第12回 「農業」と SATOYAMA イニシアティブ② -「共生」社会の在り方-
- 第13回 復習
- 第14回 レポート試験の実施（※レポート試験は日程が前後する可能性があります）
- 第15回 総括 -おわりに-

成績評価の方法 /Assessment Method

不定期に何回か実施する小レポート：30%
最終試験：70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本授業は、最終試験での成績評価をするウエイトが高くなっている。そのため、各自で毎回の授業後に最終試験に向けた復習をすることが求められる。また、授業で使用するスライド資料は、学習支援フォルダに掲載しているため、事前の予習も試みてもらいたい。

履修上の注意 /Remarks

環境問題概論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境問題の中でも本授業は都市環境問題や地球温暖化等の問題ではなく、自然環境に特化した授業となる。
特に専門的な知識は必要ないが、中学生レベルの生物および、安易な生態学（食物連鎖等）的な基礎的な知識に対する言及や説明を行うことを想定し、履修していただきたい。

キーワード /Keywords

SDGs3.「健康と福祉」、SDGs 6.「安全な水とトイレ」、SDGs12.「作る責任使う責任」、SDGs14.「海の豊かさ」、SDGs15.「森の豊かさ」に強い関連がある、

未来を創る環境技術【昼】

担当者名 /Instructor 上江洲 一也 / Kazuya UEZU / 環境生命工学科 (19~), 永原 正章 / Masaaki NAGAHARA / 環境技術研究所
松本 亨 / Toru MATSUMOTO / 環境技術研究所, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
金本 恭三 / Kyoza KANAMOTO / 環境技術研究所, 河野 智謙 / Tomonori KAWANO / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV003F	◎		○		○
科目名	未来を創る環境技術		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

環境問題は、人間が英知を結集して解決すべき課題である。環境問題の解決と持続可能な社会の構築を目指して、環境技術はどのような役割を果たし、どのように進展しているのか、今どのような環境技術が注目されているのか、実践例を交えて分かりやすく講義する（授業は原則として毎回担当が変わるオムニバス形式）。
具体的には、北九州市のエネルギー政策、特に洋上風力発電に関する取り組みと連動して、本学の特色のある「環境・エネルギー」研究の拠点化を推進するための活動を、様々な学問分野の視点で紹介する。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス、社会における環境技術の役割、北九州市のエネルギー政策
- 第2回：再生可能エネルギーに関する世界の潮流
- 第3回：世界における風力発電
- 第4回：日本における風力発電（その1）
- 第5回：日本における風力発電（その2）
- 第6回：日本における風力発電（その3）
- 第7回：再生可能エネルギーの産業（風力発電）
- 第8回：再生可能エネルギーの産業（エネルギーマネジメント）
- 第9回：都市の環境とエネルギー（経済学からのアプローチ）
- 第10回：都市の環境とエネルギー（機械工学からのアプローチ）
- 第11回：都市の環境とエネルギー（情報学からのアプローチ）
- 第12回：都市の環境とエネルギー（建築学からのアプローチ）
- 第13回：都市の環境とエネルギー（環境工学からのアプローチ）
- 第14回：都市の環境とエネルギー（化学・生物工学からのアプローチ）
- 第15回：まとめ

「日本における風力発電」では、外部講師による集中講義や北九州市の風力発電施設の見学を予定しています。

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 30%
レポート 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前・事後学習については担当教員の指示に従うこと。また、新聞・雑誌等の環境技術に関連した記事にできるだけ目を通すようにすること。期末課題に備えるためにも、授業で紹介された技術や研究が、社会・地域・生活などの身の回りの環境問題解決にどのようにつながり、活かされているか、授業後に確認すること。

未来を創る環境技術 【昼】

履修上の注意 /Remarks

私語をしないこと。ノートはこまめにとること。都合により、授業のスケジュールを変更することがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州市における次世代産業『洋上風力発電』について、現状と将来像を理解できます。皆さんのキャリアプランにもつながると思います。文系学生にもわかりやすい授業内容ですので、「ひびきの」および「北方」両キャンパスの多くの学生の受講を期待しています。

環境技術について、外部講師を招き、実践例を交えて学ぶ。

キーワード /Keywords

持続可能型社会、エネルギー循環、機械システム、建築デザイン、環境生命工学、超スマート社会、Society5.0、人工知能、自動制御、エネルギー経済、環境経済、実務経験のある教員による授業
「SDGs 7. エネルギーをクリーンに、SDGs 9. 産業・技術革命、SDGs 13. 気候変動対策」

動物のみかた 【昼】

担当者名 /Instructor 到津の森公園、文学部 竹川大介

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ZOL001F	◎		○		○
科目名	動物のみかた		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

動物園とそのかかわる事項等を検証し、環境や教育など様々な問題を考える。

動物園は教育機関としてのみならず、情感に影響を与える施設として様々な広がりを持っている。
動物園の本来的な姿を追求し、どうすれば地域の施設として欠くべからざる施設となりうるのかを検証する。

動物にかんする知識を深め、自然環境に関する知見を広げることが到達目標となる

教科書 /Textbooks

テキストなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『戦う動物園』島泰三編 小菅正夫・岩野俊郎共著

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 動物園学概論1 (動物園の歴史)
- 2回 動物園学概論2 (人と公園の歴史)
- 3回 キーパーの仕事1 (動物の飼育と歴史)
- 4回 キーパーの仕事2 (動物園のみかた)
- 5回 キーパーの仕事3 (動物の接し方と飼育員のもう一つの小さな役割)
- 6回 キーパーの仕事4 (どうぶつと人間のくらい)
- 7回 キーパーの仕事5 (動物園とデザイン)
- 8回 キーパーの仕事6 (動物園の植栽)
- 9回・10回 校外実習(到津の森公園)
- 11回 獣医の仕事1 (どうぶつの病気)
- 12回 獣医の仕事2 (どうぶつたちとくらそう)
- 13回 動物園学まとめ1 (動物園を振り返る)
- 14回 動物園学まとめ2 (新しい動物園とは)
- 15回 まとめ(外部講師講演)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート... 80% 平常の学習状況... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め動物園関連の参考書籍をよんでおき、授業終了後にはその日の講義内容をまとめておくこと。

履修上の注意 /Remarks

講義では実際の動物園施設の見学もあります。

動物のみかた 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

動物のことだけでなく、動物を知ることによって人間のことも考えてみましょう。
自然のことや地球のことも考えてみましょう

動物園の園長・獣医・飼育員らがオムニバス形式で、動物園のあり方、人と動物の関係性について講義をする。

キーワード /Keywords

動物園、実務経験のある教員による授業

自然学のまなざし【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科, 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV002F	◎		○		○
科目名	自然学のまなざし				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

街に住んでいると、海や森を懐かしく思う。殺風景な自分の部屋にもどるたびに、緑を置きたくなったり、せめて小さな生き物がそこにいてくれたらなあ、なんて考える。

西洋の学問の伝統では、ながらく文化と自然を切り離して考えてきた。文系・理系と人間の頭を2つに分けてしまう発想は、未だに続くそのなごりだ。でもそれでは解らないことがある。だれだって「あたま(文化)」と「からだ(自然)」がそろって初めてひとりの人間になれるように、文化と自然は人間の内においても外においても、それぞれが融合し合い調和し合いながら世界を作り上げている。

野で遊ぶことが好きで、旅に心がワクワクする人ならば、だれでも「自然学のすすめ」の講義をつうじて、たくさんの智恵を学ぶことができるだろう。教室の中でじっとしていることだけが勉強ではない。海や森に出かけよう、そんな小さなきっかけをつくるための講義です。教室の中の講義だけではなく、講義中に紹介するさまざまな活動に参加してほしい。大学生生活を変え、自分の生き方を考えるための入り口となればと願っています。

自然環境と人間の営みに対する総合的な理解をすることが達成目標となる。インタラクティブな学びを楽しんで下さい。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『風の谷のナウシカ』1-7宮崎 駿 徳間書店
- 『イルカとナマコと海人たち』NHKブックス
- 「自然学の展開」「自然学の提唱」今西錦司
- 「自然学の未来」黒田未寿

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 竹川
 - 第1講 自然学で学ぶこと
 - 第2講 今西錦司という人がいた
 - 第3講 バックミンスターフラーという人がいた
 - 第4講 人類の進化と狩猟採集生活
 - 第5講 自然学における日常実践
 - 第6講 カボチャ島の自然学【食と資源】
 - 第7講 風の谷のナウシカの自然学【闘争と共存】
 - 第8講 自然学の視点の重要性
- 岩松
 - 第9講 近世の旅にみる自然の名所性
 - 第10講 古民家に求める日本の故郷
 - 第11講 山村の伝統的景観と村落社会
 - 第12講 森林風景の認識と森林文化論
 - 第13講 自然を言語化する曖昧さ
 - 第14講 木の文化の伝統と変容
 - 第15講 9～14講のまとめ

自然学のまなざし【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

(竹川)

講義で紹介するさまざまな活動に参加する . . . 15%
講義で紹介するさまざまな本を読み考える . . . 15%
講義の内容を元に人間の生き方について小論を書く . . . 20%

(岩松)

小レポート...25% 試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前半の講義では、専用のウェブサイトを設置し、講義の補足や双方向的なやりとりを進め、課題の提示と提出をおこないます。インタラクティブな学びを楽しんで下さい。

履修上の注意 /Remarks

学ぶことはまねること。さまざまな活動に参加するなかで、ソーシャルスキルは伸びていきます。
講義は教室の中だけでは終わりません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人の暮らしと自然の関わりに興味がある人。好奇心が旺盛な人、ぜひ受講してください。
大学のもっとも大学らしい、自由で驚きのある講義を心がけています。
そして教えられるのでも覚えるのでもなく、自分から学ぶことを重視します。
講義では、行動すること、考えること、楽しむことを一番に心がけて下さい。

キーワード /Keywords

人類学
環境学
フィールドワーク

生命科学入門 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BI0200F	◎		○		○
科目名	生命科学入門		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

ヒトの体は約60兆個の細胞からなり、生命の設計図である遺伝子には2万数千もの種類がある。近年、「ヒトゲノム計画」が完了し、すべての遺伝情報が明らかとなった。個々の遺伝情報のわずかな違いが体質の違いや個性につながり、これを利用した個の医療が行われる時代も近い。そこで(1)体はどのような物質からできているか、(2)遺伝子は体の何をどのように決めているのか、(3)細胞の社会とはどういうものでそれが破綻するとどのような疾患につながるのか、(4)体を維持し守るしくみは何かなど、人体を構成する細胞と遺伝子の不思議を学ぶことによって、新しい時代を生き抜くための生命科学の基礎知識を身につけることを目標とする。

到達目標

- ・ 生命科学に関する基礎的な知識を身につけている。
- ・ 授業で学んだことを自分の言葉でまとめて表現できる。
- ・ 関連テーマに関して積極的に情報を仕入れ、自ら学び続けることができる。

教科書 /Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2015年(羊土社)3024円
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 体を作る物質(1)細胞の構成成分 【多糖・脂質・タンパク質・核酸】
- 3回 体を作る物質(2)食物分子と代謝 【酵素】【触媒】
- 4回 体を作る物質(3)遺伝物質DNA 【二重らせん】
- 5回 体を作るしくみ(1)遺伝子発現 【セントラルドグマ】
- 6回 体を作るしくみ(2)遺伝子でわかること【ゲノム】【体質】
- 7回 体を作るしくみ(3)発生と分化 【転写因子】【胚】
- 8回 細胞の社会(1)細胞の増殖 【細胞周期】【細胞死】
- 9回 細胞の社会(2)シグナル伝達 【受容体】【シグナル分子】
- 10回 細胞の社会(3)社会の反逆者・がん 【がん遺伝子】
- 11回 体を守るしくみ(1)寿命と老化 【染色体】【テロメア】
- 12回 体を守るしくみ(2)免疫とウイルス 【ウイルス】【抗体】
- 13回 体を守るしくみ(3)私たちと細菌 【細菌】【腸内細菌】
- 14回 関連ビデオ鑑賞
- 15回 質疑応答・まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への参加(毎回のMoodle課題提出を含む)100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中に出された課題に沿って学習し、Moodle(e-learningシステム)で提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

高校で生物を履修していなかった者は教科書または参考書を入手して備えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人体を構成する細胞やその働きを操る遺伝子について、ここ数十年程の間で驚く程いろいろなことがわかってきました。その緻密で精巧なしくみは知れば知るほど興味深いものですが、ヒトの体について良く知ること、生命科学の基礎を学ぶことは、これから皆さんが生きて行く上でも非常に大切です。苦手だからと怯まずに、一緒に頑張りましょう。

キーワード /Keywords

SDGsとの関連：

3. すべての人に健康と福祉を

環境ESD入門 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV102F	◎		○		○
科目名	環境ESD入門				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

現在、世界で起きている様々な問題、例えば「環境破壊」「異常気象」「国際紛争」などは、ESDの観点から読み解くことができます。ESDとは「持続可能な開発のための教育」のことであり、「環境」「国際理解」「気候変動」「生物多様性」「防災」「エネルギー」など幅広い分野において、これからの地球の将来を見据えた議論を進めています。本講義は、上述のような多様な問題にESDの視点からアプローチしていきます。本講義を通じて受講生がESDの基本的な考え方を習得し、さらなる問題意識をもって私たちの生きる社会や環境を見つめ直すことを目指します。

教科書 /Textbooks

授業内で適宜、指示します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜、紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 ESDとは
- 3回 世界のESD① 都市政策とエネルギー問題
- 4回 世界のESD② 発展途上国におけるESD
- 5回 世界のESD③ 社会問題とESD
- 6回 環境とESD① 気候変動問題とESD
- 7回 環境とESD② 環境汚染とESD
- 8回 環境とESD③ プロジェクトWETについて
- 9回 社会とESD① 多文化共生社会とESD
- 10回 社会とESD② 環境政策とESD
- 11回 社会とESD③ 企業社会とESD
- 12回 北九州とESD① 北九州市の取組みとESD
- 13回 北九州とESD② 北九州の公害と克服までの取組み
- 14回 北九州とESD③ リサイクル問題とESD
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

「授業内での小テスト+授業への取り組み」(30点)+「中間レポート」(35点)+「最終レポート」(35点)=合計100点評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日頃から環境問題に対する関心を持ち、意識して様々な情報に触れるようにしてください。それが大きな事前学習になります。各回の講義テーマに関しては事前に紹介しますので、書籍やインターネットなどで予備知識を得ておいてください(事前学習)。また受講後は、その回の内容に関連した復習用の自習課題(関連する映像資料や書籍・新聞記事などのレビュー)を提示しますので、次回の講義までに各自行ってください(自習時間の目安は60分程度)。

履修上の注意 /Remarks

各講義終了後に小レポートの作成と提出を求めます。
講義内でのディスカッション、および質疑応答に積極的に参加できるように、事前・事後の自発的学習を求めます。

環境ESD入門【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境ESDに関する入門的な講義となります。
本講義を履修したうえで、さらなる発展的な学びとして「副専攻環境ESDプログラム」を受講することを薦めます。

キーワード /Keywords

環境、持続可能性、国際理解、生物多様性

世界（地球）特講A（テロリズム論）【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPL103F	◎		○		○
科目名	世界（地球）特講A		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

911以降の国際社会を考える上で、もはやテロリズム問題を避けて通ることはできない状況ですが、テロは当然、911以前から歴然と脅威の対象であり続けました。特にわが国は、日本赤軍やオウム真理教など、これまでのテロの「進化」に「貢献」してきたテロの先進国でもあるので、もっとテロリズム全般の知識があってもよいのかなと考えます。この授業は、テロリズムの体系的な理解を得ることを目的とします。

なお、この科目では、テロリズムに関する総合的な知識の獲得、理解、この分野に関する課題発見・分析能力の獲得により、および生涯にわたりこの問題と向き合っていく基盤を提供します。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

世界（地球）特講A（テロリズム論）【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 テロリズムとは何か(1)
定義が困難な理由について
①「自由の戦士」という問題（祖国解放のための暴力使用はテロか？）
②テロの犯罪性の問題（佐賀散弾銃乱射事件や秋葉原連続殺傷事件はテロか？）
③テロの政治性の問題（テロリストが身代金目的で行った誘拐事件はテロか？）
- 3回 テロリズムとは何か(2)
テロリズムの定義
①911の特殊性と国土安全保障の考え方
②アメリカ国内でのテロの定義の統一化
③テロリズムの定義
- 4回 テロリズムとは何か(3)
テロリズムの特徴 ①テロの目的 ②テロの標的 ③テロの主体
テロと犯罪のグレーゾーンについて
- 5回 テロの歴史(1)
テロの起源、19世紀のテロとアナキズム
- 6回 テロの歴史(2)
ナショナリズムとテロ（国粋主義、民族解放）
- 7回 現代テロ(1)
国際テロの登場（1968年エルアル機ハイジャック、スカイマーシャル）
反米テロの登場（TWA機ハイジャック）
補論（ハイジャックとは何か）
- 8回 現代テロ(2)
無差別・自爆テロの登場（日本赤軍、ロッド空港事件）
劇場型テロの登場（ミュンヘンオリンピック事件とGSG9、ダッカ事件とSAT）
- 9回 反近代・脱近代のテロ
オクラホマシティー連邦ビル爆破テロ、ユナボマー、環境テロなど
- 10回 無差別大量殺戮テロ(1)
「大量」殺戮テロの始まり
化学テロと生物テロ
化学兵器の特徴
- 11回 無差別大量殺戮テロ(2)
地下鉄サリン事件の概要
サリンについて
- 12回 無差別大量殺戮テロ(3)
地下鉄サリン事件の動機
- 13回 911米国同時多発テロ(1)
911の特異性
911の概要と計画性
- 14回 911米国同時多発テロ(2)
ビンラディンのプロファイル
アルカイダとテロ、米国の対応
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に付けておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

韓国の社会と文化【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE010F	◎		○		○
科目名	韓国の社会と文化		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

授業では、適宜映像などを用いながら韓国全般、とりわけ韓国の社会と文化における様々な事象に向き合うための幅広い教養的学知を習得し、等身大の韓国について理解を深める。これをベースに異文化理解とは何かについても考えてみる。また、つねに日韓比較的な視点を念頭に入れながら自国文化について見つめなおす時間としたい。

並行して事前事後学習の一環として、Moodleを利用した日韓の歴史についても学習を深める。

教科書 /Textbooks

適宜プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業にて提示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 日韓若者のお互いに対する意識
- 3 韓国のいろは①【韓国ってどんな国？】
- 4 韓国のいろは②【ハングルの仕組みなど】
- 5 グローバル化するK-POP
- 6 現代韓国社会と文化の特徴I (外部講師)
- 7 韓国(人)にとって日本(人)とは？
- 8 日本(人)にとって韓国(人)とは？
- 9 韓国における日本大衆文化の受け入れ
- 10 日本における「韓流」史
- 11 現代韓国社会と文化の特徴II (外部講師)
- 12 韓国人の名字と名前①【苗字について】
- 13 韓国人の名字と名前②【名前について】
- 14 日韓の食文化について考える
- 15 まとめ

* 上記スケジュール及びテーマはあくまで目安であり、受講生のニーズや進行状況などの都合により変更となる場合もある。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度(出席レポートや討論への参加)40%

小レポート20%

期末レポート40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに、予め毎回のテーマについて調べ、授業終了後には内容を整理し、各自の「考え」をまとめておくこと。

履修上の注意 /Remarks

- ・ Moodleを利用した小レポート(5回ほど)を必ず提出すること
- ・ 授業開始のチャイムが鳴るまでに着席していること。
- ・ 欠席した回に配布されたプリントや資料については各自で解決すること
- ・ 調べ事や発表等を積極的に行うこと
- ・ ウィキペディアの丸写しに近いレポート、無断引用(コピペ等)が発覚したレポートは0点とする

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

韓国 社会 文化 異文化理解

国際学入門【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
IRL110F	◎		○		○
科目名	国際学入門				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究（国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など）と②世界の多様化に対応するための研究（地域研究、比較文化論、比較政治論など）である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、【地域研究のルーツ】
- 第4回：地域研究における総合的認識とは【総合的認識】
- 第5回：地域研究における全体像把握とは【全体像の把握】
- 第6回：全体像把握の方法【全体像把握の方法】
- 第7回：オリエンタリズム関連DVDの視聴【オリエンタリズム】
- 第8回：オリエンタリズム克服の方法【オリエンタリズムの克服方法】
- 第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ【文化主義的アプローチ】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。【地域概念】
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題【ジョージ・オーウェルとミャンマー】
- 第13回：地域研究の視点（人間関係）【人間関係】
- 第14回：まとめ
- 第15回：質問

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs「16. 平和と公正」

安全保障論 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS111F	◎		○		○
科目名	安全保障論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連	

授業の概要 /Course Description

わが国の防衛に関する概説を通じて、その必要性や意義について理解し、防衛一般についての知識や理解に基づいて、広く安全保障一般に対する思考を促すことを目的とする。具体的には、安全保障とは何か、防衛とは何か、といった基礎概念の提示を行い、防衛の必要性や意義を論ずることになるが、これらを理解するためには、前提として、わが国が置かれた環境および目下の脅威を把握する作業（状況認識）が欠かせない。一方で、わが国は憲法9条のもと「平和主義」を標榜していることから、その防衛も様々な制約を受けることになる。従って、わが国の防衛を考えるには、そうした「制度」面での知識も欠かせない。以上を踏まえ、本講義では、日本の防衛について、現実的な視点と制度的な視点の双方を重視し、総論、各論を通じて、現状と課題の理解と思考を促す。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、『防衛ハンドブック』、その他は適宜指示する。

安全保障論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 安全保障(1)
安全保障を学ぶことの重要性、
- 第3回 安全保障(2)
安全保障とは何か、安全保障の目標、安全保障のスペクトラム
- 第4回 安全保障(3)
脅威とは何か、脅威の定義、安全保障の非軍事的側面と総合安全保障、国土安全保障
- 第5回 日本の安全保障(1)
安全保障の非軍事的側面（エネルギー、資源、食糧、備蓄をめぐる安全保障）
- 第6回 日本の安全保障(2)
安全保障の軍事的側面（国防、日米同盟、国際貢献）
- 第7回 日本の防衛(1)
防衛出動、個別的自衛権と集団的自衛権
- 第8回 日本の防衛(2)
海上警備、対領空侵犯措置、BMD対処、機雷除去、対外邦人輸送等
- 第9回 日本の防衛(3)
平和安全法制の概要
- 第10回 日本の防衛(4)
平和安全法制の論点
- 第11回 日本の脅威(1)
北朝鮮の脅威① 兵力の特徴、特殊部隊、江陵事案、わが国の防衛に対する意味、島嶼防衛とゲリコマ対処
- 第12回 日本の脅威(2)
北朝鮮の脅威② 弾道ミサイル及び大量破壊兵器
- 第13回 日本の脅威(3)
中国海空軍の脅威① 中国軍の不透明性、軍事態勢、海軍の動向
- 第14回 日本の脅威(4)
中国海空軍の脅威② 中国軍の戦略と行動
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読み、安全保障・防衛関連の記事をチェックする習慣を身に着けておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

安全保障や防衛問題に関心があれば、誰でも履修してみてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

併せて世界（地球）特講（テロリズム論）を履修すると、より体系的に理解できる。

キーワード /Keywords

現代の国際情勢【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科, 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科
下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科, 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科
白石 麻保 / 中国学科, 篠崎 香織 / 国際関係学科
久木 尚志 / 国際関係学科, 柳 学洙 / 国際関係学科
政所 大輔 / Daisuke MADOKORO / 国際関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
IRL003F	◎		○		○
科目名	現代の国際情勢				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

現代の国際情勢を、政治、経済、社会、文化などから多面的に読み解きます。近年、国際関係および地域研究の分野で注目されている出来事や言説を紹介しながら講義を進めます。

教科書 /Textbooks

使用しません。必要に応じてレジュメと資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 大平 変容するアジア情勢(1) 中国とインドの台頭
- 第3回 大平 変容するアジア情勢(2) 日本の防衛力強化
- 第4回 大平 変容するアジア情勢(3) 開発協力における熾烈な争い
- 第5回 北 日系アメリカ人の歴史と今日(1) 概況と歴史【アメリカ合衆国】【日系人】【エスニシティ】
- 第6回 北 日系アメリカ人の歴史と今日(2) 現代のエスニシティ状況への視座【アメリカ合衆国】【日系人】【エスニシティ】
- 第7回 下野 台湾の多元化社会【民主化】【中国】【移民】
- 第8回 松田 日本総合商社と海外インフラプロジェクト組成【総合商社】【世銀保証】【IFC-Bローン】【プロジェクトファイナンス】
- 第9回 松田 日本企業の特質と異文化マネジメント【ホフステッド】【複数の資本主義】
- 第10回 久木 2010年代後半のイギリス【国民投票】【総選挙】
- 第11回 篠崎 東南アジアを知ろう【地理】【宗教】【自律史観】
- 第12回 白石 中国経済の課題と展望【経済成長】【SNA】【投資】
- 第13回 柳 朝鮮半島の冷戦体制と南北分断【朝鮮戦争】【体制競争】【民族主義】
- 第14回 柳 北朝鮮の核開発と北東アジアの安全保障【冷戦体制】【駐留米軍】【対話と圧力】
- 第15回 まとめ

※都合により変更もあり得ます。変更がある場合は授業で指示します。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(各担当者ごとに最低1回は行います。最少8回、最大14回)100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の担当者の指示に従ってください。授業終了後には復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

この授業は、複数の教員が、各自の専門と関心から国際関係や地域の情勢を論じるオムニバス授業です。授業テーマと担当者については初回授業で紹介します。

小テストを実施する際は、授業の最後に行います。授業中は集中して聞き、質問があればその回のうちに出してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では今の国際情勢を様々な角度から取り上げていきます。授業を通じて自分の視野を広げていくきっかけにしてください。

キーワード /Keywords

国際社会と日本【昼】

担当者名 /Instructor 阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科, 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
IRL004F	◎		○		○
科目名	国際社会と日本				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業では、現代の国際社会における日本や日本社会の国際化について、政治・外交、経済・企業それぞれの枠組みで整理した上で、その相互作用の帰結について学ぶ。具体的な内容は以下のとおりである。(1) 戦後、めまぐるしく変動する国際環境の中で日本が選んできた外交的選択と国造りの道程を構造的かつ歴史的に理解する。(2) アメリカが中心となって形成した戦後の国際経済秩序とその変容の過程で、日本経済がどのように発展してきたのかを考える。

教科書 /Textbooks

関連資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 野口悠紀雄著『戦後日本経済史』(新潮社、2008年)
- 橋本寿朗 編『現代日本経済 第3版』(有斐閣アルマ、2011年)
- 三和 良一 編『近現代日本経済史要覧』(東京大学出版会、2010年)
- 五百旗頭真 編『戦後日本外交史 第3版補訂版』(有斐閣アルマ、2014)
- その他、関連文献は適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンス
2. 戦後日本外交とは何か【平和主義】【基地国家論】【冷戦】
3. 占領下日本の「外交」【占領政治経済】【日米関係】【逆コース】
4. サンフランシスコ講和条約と戦後体制の成立【講和条約】【戦後秩序】
5. 日本の戦後処理(賠償)【賠償】【請求権】【経済協力】
6. 日米同盟の成立とHub and Spoke体制の展開【安全保障】【日米同盟】【沖縄問題】
7. 日韓国交への道程 / 日中国交への道程【脱植民地化】【テタント】【台湾問題】
8. 冷戦後の日本外交【価値観外交】【New Normal】【米中関係】
9. 世界経済の発展と日本の位置づけ【グローバルイゼーション】【数字で見る日本経済】
10. 戦後復興と冷戦構造【封じ込め戦略】【ブレトン・ウッズ体制】【日本の経済復興】【ドッジ・ライン】
11. 日本型雇用慣行の形成と高度経済成長のメカニズム【日本型経営】【高度経済成長】【資本の自由化】
12. 戦後秩序の変容と石油危機【ニクソン・ショック】【経済の政治化】【石油危機】
13. 日本企業の多国籍化の変遷と特徴【海外直接投資】【日米経済摩擦】【生産ネットワーク】
14. グローバル化の進展と日本型企業システムの転換【規制緩和】【ICT革命】
15. 地域統合の進展と国家【広域FTA】【安全保障政策】【経済主権】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 50% (担当者ごと、計2回) テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

参考書をもとに、事前学習として予習をすること。
事後学習として、復習を必ず行うこと。

履修上の注意 /Remarks

複数の先生の担当授業です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

関連文献を自主的によむこと。

キーワード /Keywords

東アジア 安全保障政策 冷戦 戦後復興 グローバリゼーション

グローバル化する経済【昼】

担当者名 /Instructor 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科, 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科, 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科, 工藤 一成 / マネジメント研究科 専門職学位課程
松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN001F	◎		○		○
科目名	グローバル化する経済				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化した経済の枠組み、グローバル化によって世界と各国が受けた影響、グローバル化の問題点などを包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨンーグローバル化とは何か
- 2回 自由貿易【比較優位】【貿易の利益】
- 3回 地域貿易協定【自由貿易協定】【関税同盟】
- 4回 企業の海外進出と立地(1)【直接投資】
- 5回 企業の海外進出と立地(2)【人件費】【為替レート】
- 6回 海外との取引の描写【経常収支と資本移動について】
- 7回 先進国と途上国間の資本移動【経済成長と資本移動について】
- 8回 国内都市間競争とグローバル化【人口減少社会】【インバウンド】
- 9回 社会インフラの国際技術移転【外部効果】【公共ガバナンス】
- 10回 地域政策と国際化(1)【交流人口】【インバウンド振興】
- 11回 地域政策と国際化(2)【越境する地域問題】【政策手法の変化】
- 12回 国際労働移動(1)【日本における外国人労働者の受け入れ】【賃金決定理論の基礎】
- 13回 国際労働移動(2)【移民と所得分配】【移民の移動パターン】【移民の経済的同化】
- 14回 グローバル化の要因とメリット【消費者余剰】
- 15回 グローバル化のデメリット【所得格差】【金融危機の伝染】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験: 100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の復習を行うこと、また授業の理解に有益な読者や映像視聴などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済関連のニュースや報道を視聴する習慣をつけてほしい。授業で使用するプリントは北方Moodleにアップするので、きちんと復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

グローバル化する経済【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
世界(地球)科目

キーワード /Keywords

近代史入門【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS110F	◎		○		○
科目名	近代史入門				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

明治維新（1868年）から敗戦（1945年）までの日本近代史を概説していきます。明治憲法の下でなぜ、政党政治が発展できたのか。それにもかかわらず、なぜ、昭和期に入ると軍部が台頭したのか。この二つの問題を中心に講義を進めていきます。日本のことを知らずに、国際化社会に対処することはできません。この講義では、日本近代史を学び直すことを通じて、21世紀にふさわしい歴史的感覚を涵養していきます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『近代日本と軍部 1868 - 1945』講談社現代新書、2020年、税別1,300円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 「文明国」をめざして - 憲法制定・自由民権運動【伊藤博文】【井上毅】【板垣退助】【大隈重信】
- 第3回 明治憲法体制の成立【伊藤博文】【山県有朋】【児玉源太郎】【統帥権】
- 第4回 日清戦争【伊藤博文】【陸奥宗光】
- 第5回 立憲政友会の成立【伊藤博文】【山県有朋】【星亨】
- 第6回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第7回 憲法改革の頓挫【伊藤博文】【児玉源太郎】【韓国併合】
- 第8回 大正政変【桂太郎】【尾崎行雄】【21カ条要求】
- 第9回 政党内閣への道【原敬】【山県有朋】【加藤高明】
- 第10回 二大政党の時代【浜口雄幸】【田中義一】【統帥権干犯問題】
- 第11回 軍部の台頭【満州事変】【皇道派】【統制派】
- 第12回 2・26事件【高橋是清】【永田鉄山】【「満州国」】
- 第13回 日中戦争【近衛文麿】【西園寺公望】【近衛新体制】
- 第14回 太平洋戦争 - 明治憲法体制の崩壊【昭和天皇】【日独伊三国軍事同盟】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...10% 期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。授業終了後はノートを読み直し、授業中に紹介した参考文献を読んでおくこと。各自積極的に受講して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義では歴史的事項の暗記は重視しません。歴史の流れを史料に即して論理的に理解することが大切です。ノートをしっかりとって下さい。最新の研究成果を用いて講義を進めます。

キーワード /Keywords

Japanese Culture and Society 【昼】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE221F	◎		○		○
科目名	Japanese Culture and Society				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

The objective of this course is to cover and discuss various aspects of Japanese society and culture from the past till present. Topics will include subjects ranging from traditional customs to pop culture and the influence of different religions. One specific goal will be to analyze the way Japan has been influenced by outside cultural influences throughout its long history. Another aspect of this course will be to see Japan from the perspective of non-Japanese students in order to help international students adapt to their new surroundings as well as encourage Japanese students to realize their own cultural identity.

教科書 /Textbooks

Hood, Christopher P. Japan: The Basics, Routledge 2015 ISBN: 978-0-415-62971-3 (pbk) 2657円 or 978-1-315-74568-6 (ebk) 2398円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Ellington, Lucien. Japan: A Global Studies Handbook (ebk)
Other printed materials will be supplied by instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction and Orientation
- 2回 Studying about Japan
- 3回 Demographic challenges
- 4回 Japanese Society I: Medieval and Edo Period
- 5回 Japanese Society II: Meiji till Present
- 6回 Student Led Discussion & Presentations I: Japan on the move
- 7回 Student Led Discussion & Presentations I: Natural Japan
- 8回 Japanese Religions I : Indigenous Beliefs
- 9回 Japanese Religions II: Buddhism, Confucianism, and Christianity
- 10回 Student Led Discussion & Presentations III: Core values
- 11回 Student Led Discussion & Presentations IV: Pure Japanese
- 12回 Student Led Discussion & Presentations IV: One for all, all for one
- 13回 Student Led Discussion & Presentations IV: Re(building) Japan
- 14回 Individual Presentations A
- 15回 Individual Presentations B and submission of final paper

成績評価の方法 /Assessment Method

Presentation and Participation -50%
Final Paper -50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to participate actively in discussion and make presentations on materials presented in this course. Students should read assigned materials before class.

履修上の注意 /Remarks

All coursework will be done in English.
A TOEIC Score of 650 or higher before registration is highly recommended

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Speaking Cultures and Societies 【昼】

担当者名 /Instructor ローズマリー・リーダー / Rosemary Reader / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE231F	◎		○		○
科目名	English Speaking Cultures and Societies				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

This course looks at English speaking cultures and societies across the world, from the origin of the English language in ancient Britain to its current usage far beyond British borders. The differences and similarities between the various English speaking cultures will be explored, as well as the way they continue to influence other societies. Students are encouraged to voice their opinions and introduce tangential topics or concepts regarding the general subject that they find particularly interesting.

教科書 /Textbooks

No specific textbook. Handouts will be distributed as necessary.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Useful texts for further reading/presentation preparation will be discussed in class.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 The Anglosphere and the English Speaking World
- 第2回 Legends and Lore
- 第3回 Religion and Culture
- 第4回 The British Empire
- 第5回 Australia
- 第6回 New Zealand
- 第7回 Canada
- 第8回 India
- 第9回 Asia
- 第10回 America
- 第11回 Back to Britain
- 第12回 Comedy and Culture
- 第13回 Indigenous Languages
- 第14回 Internet English
- 第15回 So Many Englishes (Review)

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation : 20% Assignments : 40% Presentations : 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Directions provided in class. Be aware of news and pop culture that may relate to topics discussed class, and bring information you feel may be relevant.

履修上の注意 /Remarks

When planning for presentations and writing reports, please use English language materials only.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English language, Anglosphere, Imperialism, Globalization

現代社会と文化【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ANT210F	◎		○		○
科目名	現代社会と文化		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

グローバルな現代世界において、異なる文化同士の共生が必要とされている。しかし、どの文化とも共生が可能になる万能のマニュアルのようなものは存在しない。ケースに応じて対応する能力が必要であり、本講義では、現代社会が抱える文化に関する問題を取り上げながら、判断のための基礎知識を身につけることを目的とする。

講義の前半は、「文化を知る」という行為そのものが持つ政治的意味について講義を行う。後半は、私たちが異なる文化を持つ人々とも認識を共有していると考えがちな身体に関する文化についての講義を行う。外国の文化については解説を無批判にうのみにしてしまいがちであるが、文化を理解することについての前提が正しいか常に問い返すことができるような総合的な知識の獲得をめざす。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。ただし、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目のリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を買う必要はありません。また、講義に関する映画を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません（観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の図書を用いた課題などは指示します）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 池田光穂・奥野克巳編 2007『医療人類学のレッスン』学陽書房
- 太田好信編 2012『政治的アイデンティティの人類学』
- 陳天璽 2005『無国籍』新潮社
- 本多俊和ほか 2011『グローバル化の人類学』放送大学教育振興会
- 塩原良和 2010『変革する多文化主義へ』法政大学出版局

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：授業の説明 / 本講義において文化とは何を意味するのか

第I部 現代社会において異文化を理解すること

第2回 文化を「知る」とはどういうことか？

第3回 ナショナリズムと文化

第4回 「未開の人々」へのエキゾチズム

第5回 植民地主義と文化

第6回 マイノリティ文化の保護と多文化主義

第7回 多文化主義の可能性と限界

第8回 分類の不明瞭さ①：国籍・人種

第9回 分類の不明瞭さ②：移動する人々

第10回 中間テスト

第II部 文化の違いを超えて？

第11回 近代・ポスト近代という時代の認識と文化

第12回 身体の近代化

第13回 医療の持つ権力と文化

第14回 中間テストの解説

第15回 癒しの多様性

※出張や学生大会などで休講が入った場合、内容を変更することがある。具体的なスケジュールは初回の講義で説明する。

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト+課題40%、期末テスト60%

そのほか講義中に課したコメントカードなども平常点として適宜評価に加える。受講人数によってはテストをレポートに変更することもある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を購入する必要はありません。
- ・ 講義に関連する映画やDVDなどの映像資料を授業時間外に視聴することを求めることもあります。
- ・ Moodleで適宜課題を課します。締め切りまでに提出してください。
- ・ 高校レベルの世界史、地理、現代社会などに自信がない学生は、背景となる事象を知らないままにせず、調べておきましょう。高校の教科書は図書館にあります。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 評価方法や電子ブックの閲覧方法などは第一回の講義で説明します。第一回目の講義を欠席しても履修はできるかもしれませんが、不利になることは覚悟してください。
- ・ 講義に出席していても、テスト（またはレポート）の評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。講義に真剣に取り組んでください。
- ・ 中間テストの無断欠席者や、提出課題における不正、授業態度が目に見える受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 講義で自分が学んだことを用いて、現代の文化に関する問題を自分なりに理解しようとするのが重要です。意欲的な学生の受講を歓迎します。
- ・ 「異文化理解の基礎」を受講済み・受講中の学生は理解が深まると思います。

キーワード /Keywords

文化、ナショナリズム、マイノリティ、グローバリゼーション、多文化主義、身体、SDGs10 不平等をなくす、SDGs 16 平和と公正

可能性としての歴史【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年 / 単位 /Credits 2単位 / 学期 /Semester 2学期 / 授業形態 /Class Format 講義 / クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HIS200F	◎		○		○
科目名	可能性としての歴史		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

歴史の転換点において、ありえた別の政策的選択肢を選んでいたら、日本は、そして世界はどうなっていただろうか。この講義では、おもに日本外交史を講義する中で、いくつかの政策選択上のイフを導入して、第二次世界大戦史の諸相を提示していきます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、講義の中で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 学説の整理【15年戦争】【ファシズム】【ナチズム】【共産主義】【軍国主義】
- 3回 政党内閣と満州事変【「満州国」】【関東軍】【五・一五事件】
- 4回 軍部の台頭【二・二六事件】【国体明徴運動】【高橋是清】
- 5回 日中戦争【近衛文麿】【大政翼賛会】
- 6回 ヒトラーの台頭【暴力】【国民社会主義ドイツ労働者党】
- 7回 日独伊ソの体制比較【政軍関係】【全体主義】
- 8回 ヒトラーと第二次世界大戦1【オーストリア併合】【ミュンヘン会談】【独ソ不可侵条約】
- 9回 ヒトラーと第二次世界大戦2【独ソ戦】【ホロコースト】
- 10回 日独伊三国軍事同盟の成立【ノモンハン事件】【ユーラシア大陸ブロック構想】【日ソ中立条約】
- 11回 日米戦争は不可避だったのか【北進論】【南進論】【日米交渉】
- 12回 太平洋戦争1【東条英機】【戦時体制】
- 13回 太平洋戦争2【「戦後秩序構想」】
- 14回 敗戦【「本土決戦」】【日ソ戦争】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...10%、期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに高校教科書（「日本史」「世界史」）レベルの文献の該当箇所を目を通して置いて下さい。授業終了後にはその日のノートをもう一度読み返して下さい。参考文献は講義の中で指示いたします。
ノートはしっかりとって下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アカデミック・スキルズI【昼】

担当者名 /Instructor 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 群 1 - 1 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES101F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズI				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、大学生活に必要な「考える力」の基礎となるスキルを身に付けることである。様々な問題が発生する現代社会においては、こうすれば大丈夫という誰にも共通な正解が存在しない。しかし、その正解のない課題について考えていく姿勢が大切である。考えることは、学びを深めていく上で大切な能力のひとつであり、「考える力」の習得こそが、複雑で予想しがたい現代社会を生き抜いていくための基盤を作り上げる。本授業では、様々なテーマを題材にアクティブ・ラーニングの授業形態を取りながら、以下の3点に関する能力の習得を目指す。また、大学での学びや生活に必要な知識や情報リテラシーについての学習も行う。

- ・ 情報技術を活用して、自分の考えを表現することができる。
- ・ 正解のない課題の解決に向けて、諦めることなく考え抜くことができる。
- ・ 他者とコミュニケーションを取りつつ、協同して作業を行うことができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、大学ポータルサイトの説明【ID、パスワード等】
- 2回 情報リテラシー 1【大学ICT環境、e-Learningシステム等】
- 3回 情報リテラシー 2【情報モラル、情報セキュリティ、著作権等】
- 4回 情報リテラシー 3【文書作成】
- 5回 情報リテラシー 4【表計算、グラフ】
- 6回 情報リテラシー 5【情報リテラシーの振り返り】
- 7回 大学での学びや生活について【剽窃と引用、キャンパス・マナー】
- 8回 考える力1【受け取る力の説明】
- 9回 考える力2【受け取る力の演習】
- 10回 考える力3【処理する力の説明】
- 11回 考える力4【処理する力の演習】
- 12回 考える力5【発信する力の説明】
- 13回 考える力6【発信する力の演習】
- 14回 振り返り
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題への積極的な参加 ... 70%
宿題や振り返りレポート ... 30%
ただし、授業中に実施する情報リテラシー（情報モラル・情報セキュリティ、文書作成・表計算）の必須課題に合格しなければならない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

担当者の指示に従い、毎回、授業開始前までに必要な授業の準備を行い、授業終了後に学んだことを振り返り、まとめておくこと。また、大学生活で欠かせない情報リテラシー能力の習熟には日々の練習が欠かせないため、正規の授業時間外の時間に、パソコン自習室や自宅にて積極的に操作練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講生の興味関心や理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。詳細は、初回の授業で説明する。

アカデミック・スキルズI【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ほぼ毎回、グループディスカッションや各回に適したワーク、質疑応答などを繰り返しながら、授業を展開していく。このため、積極的に授業に参加して欲しい。

キーワード /Keywords

考える力、情報リテラシー、アクティブ・ラーニング

アカデミック・スキルズI【昼】

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 群 1 - 2 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES101F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズI				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、大学生活に必要な「考える力」の基礎となるスキルを身に付けることである。様々な問題が発生する現代社会においては、こうすれば大丈夫という誰にも共通な正解が存在しない。しかし、その正解のない課題について考えていく姿勢が大切である。考えることは、学びを深めていく上で大切な能力のひとつであり、「考える力」の習得こそが、複雑で予想しがたい現代社会を生き抜いていくための基盤を作り上げる。本授業では、様々なテーマを題材にアクティブ・ラーニングの授業形態を取りながら、以下の3点に関する能力の習得を目指す。また、大学での学びや生活に必要な知識や情報リテラシーについての学習も行う。

- ・ 情報技術を活用して、自分の考えを表現することができる。
- ・ 正解のない課題の解決に向けて、諦めることなく考え抜くことができる。
- ・ 他者とコミュニケーションを取りつつ、協同して作業を行うことができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、大学ポータルサイトの説明【ID、パスワード等】
- 2回 情報リテラシー 1【大学ICT環境、e-Learningシステム等】
- 3回 情報リテラシー 2【情報モラル、情報セキュリティ、著作権等】
- 4回 情報リテラシー 3【文書作成】
- 5回 情報リテラシー 4【表計算、グラフ】
- 6回 情報リテラシー 5【情報リテラシーの振り返り】
- 7回 大学での学びや生活について【剽窃と引用、キャンパス・マナー】
- 8回 考える力1【受け取る力の説明】
- 9回 考える力2【受け取る力の演習】
- 10回 考える力3【処理する力の説明】
- 11回 考える力4【処理する力の演習】
- 12回 考える力5【発信する力の説明】
- 13回 考える力6【発信する力の演習】
- 14回 振り返り
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題への積極的な参加 ... 70%

宿題や振り返りレポート ... 30%

ただし、授業中に実施する情報リテラシー（情報モラル・情報セキュリティ、文書作成・表計算）の必須課題に合格しなければならない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

担当者の指示に従い、毎回、授業開始前までに必要な授業の準備を行い、授業終了後に学んだことを振り返り、まとめておくこと。また、大学生活で欠かせない情報リテラシー能力の習熟には日々の練習が欠かせないため、正規の授業時間外の時間に、パソコン自習室や自宅にて積極的に操作練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講生の興味関心や理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。詳細は、初回の授業で説明する。

アカデミック・スキルズI【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ほぼ毎回、グループディスカッションや各回に適したワーク、質疑応答などを繰り返しながら、授業を展開していく。このため、積極的に授業に参加して欲しい。

キーワード /Keywords

考える力、情報リテラシー、アクティブ・ラーニング

アカデミック・スキルズI【昼】

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 群 1 - 3 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES101F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズI				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、大学生活に必要な「考える力」の基礎となるスキルを身に付けることである。様々な問題が発生する現代社会においては、こうすれば大丈夫という誰にも共通な正解が存在しない。しかし、その正解のない課題について考えていく姿勢が大切である。考えることは、学びを深めていく上で大切な能力のひとつであり、「考える力」の習得こそが、複雑で予想しがたい現代社会を生き抜いていくための基盤を作り上げる。本授業では、様々なテーマを題材にアクティブ・ラーニングの授業形態を取りながら、以下の3点に関する能力の習得を目指す。また、大学での学びや生活に必要な知識や情報リテラシーについての学習も行う。

- ・ 情報技術を活用して、自分の考えを表現することができる。
- ・ 正解のない課題の解決に向けて、諦めることなく考え抜くことができる。
- ・ 他者とコミュニケーションを取りつつ、協同して作業を行うことができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、大学ポータルサイトの説明【ID、パスワード等】
- 2回 情報リテラシー 1【大学ICT環境、e-Learningシステム等】
- 3回 情報リテラシー 2【情報モラル、情報セキュリティ、著作権等】
- 4回 情報リテラシー 3【文書作成】
- 5回 情報リテラシー 4【表計算、グラフ】
- 6回 情報リテラシー 5【情報リテラシーの振り返り】
- 7回 大学での学びや生活について【剽窃と引用、キャンパス・マナー】
- 8回 考える力1【受け取る力の説明】
- 9回 考える力2【受け取る力の演習】
- 10回 考える力3【処理する力の説明】
- 11回 考える力4【処理する力の演習】
- 12回 考える力5【発信する力の説明】
- 13回 考える力6【発信する力の演習】
- 14回 振り返り
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題への積極的な参加 ... 70%
宿題や振り返りレポート ... 30%
ただし、授業中に実施する情報リテラシー（情報モラル・情報セキュリティ、文書作成・表計算）の必須課題に合格しなければならない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

担当者の指示に従い、毎回、授業開始前までに必要な授業の準備を行い、授業終了後に学んだことを振り返り、まとめておくこと。また、大学生活で欠かせない情報リテラシー能力の習熟には日々の練習が欠かせないため、正規の授業時間外の時間に、パソコン自習室や自宅にて積極的に操作練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講生の興味関心や理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。詳細は、初回の授業で説明する。

アカデミック・スキルズI【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ほぼ毎回、グループディスカッションや各回に適したワーク、質疑応答などを繰り返しながら、授業を展開していく。このため、積極的に授業に参加して欲しい。

キーワード /Keywords

考える力、情報リテラシー、アクティブ・ラーニング

アカデミック・スキルズI【昼】

担当者名 /Instructor 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1学期未修得者再履

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES101F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズI		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、大学生活に必要な「考える力」の基礎となるスキルを身に付けることである。様々な問題が発生する現代社会においては、こうすれば大丈夫という誰にも共通な正解が存在しない。しかし、その正解のない課題について考えていく姿勢が大切である。考えることは、学びを深めていく上で大切な能力のひとつであり、「考える力」の習得こそが、複雑で予想しがたい現代社会を生き抜いていくための基盤を作り上げる。本授業では、様々なテーマを題材にアクティブ・ラーニングの授業形態を取りながら、以下の3点に関する能力の習得を目指す。また、大学での学びや生活に必要な知識や情報リテラシーについての学習も行う。

- ・ 情報技術を活用して、自分の考えを表現することができる。
- ・ 正解のない課題の解決に向けて、諦めることなく考え抜くことができる。
- ・ 他者とコミュニケーションを取りつつ、協同して作業を行うことができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、大学ポータルサイトの説明【ID、パスワード等】
- 2回 情報リテラシー 1【大学ICT環境、e-Learningシステム等】
- 3回 情報リテラシー 2【情報モラル、情報セキュリティ、著作権等】
- 4回 情報リテラシー 3【文書作成】
- 5回 情報リテラシー 4【表計算、グラフ】
- 6回 情報リテラシー 5【情報リテラシーの振り返り】
- 7回 大学での学びや生活について【剽窃と引用、キャンパス・マナー】
- 8回 考える力1【受け取る力の説明】
- 9回 考える力2【受け取る力の演習】
- 10回 考える力3【処理する力の説明】
- 11回 考える力4【処理する力の演習】
- 12回 考える力5【発信する力の説明】
- 13回 考える力6【発信する力の演習】
- 14回 振り返り
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題への積極的な参加 ... 70%
宿題や振り返りレポート ... 30%
ただし、授業中に実施する情報リテラシー（情報モラル・情報セキュリティ、文書作成・表計算）の必須課題に合格しなければならない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

担当者の指示に従い、毎回、授業開始前までに必要な授業の準備を行い、授業終了後に学んだことを振り返り、まとめておくこと。また、大学生活で欠かせない情報リテラシー能力の習熟には日々の練習が欠かせないため、正規の授業時間外の時間に、パソコン自習室や自宅にて積極的に操作練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講生の興味関心や理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。詳細は、初回の授業で説明する。

アカデミック・スキルズI【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ほぼ毎回、グループディスカッションや各回に適したワーク、質疑応答などを繰り返しながら、授業を展開していく。このため、積極的に授業に参加して欲しい。

キーワード /Keywords

考える力、情報リテラシー、アクティブ・ラーニング

アカデミック・スキルズII (論理的に生きる) 【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES102F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は「アカデミック・スキルズI」で培ってきた考える力をさらに活用して、大学での学びに必要なコミュニケーション能力を伸ばすことを目的とします。個人が考えたことを複数の人間で共有したり、協働で活動したりするためには、自らが考えたことを他の人に正しく伝えて理解してもらう必要があります。

この授業では、情報収集からはじめて、それを取捨選択して加工し、他者に向けて発信するという一連の過程を具体的に実践して、「見せるスキル」「聞かせるスキル」それぞれの能力を磨いていきます。具体的には、以下のような項目を身につけます：

- 情報収集を行い、その情報の信頼性をチェックすることができる
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用し、データを可視化することができる
- 論理的な思考を行い、それを適切にアウトプットすることができる
- グループ活動を通じて、他者とのコミュニケーションをとることができる

おおまかに、授業の前半は個人的な能力の養成を、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指します。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 データを集める【検索】【情報の信頼性】【着眼点】
- 3回 データを加工する【表計算の復習】【グラフ】【チャート】
- 4回 データを表現する【レイアウト】【デザイン】【色彩】
- 5回 論理的に考える1【要素に分解する】
- 6回 論理的に考える2【原因と結果】【課題解決】
- 7回 伝わるように工夫する【ストーリー】【ピラミッド構造】
- 8回 他の人に向けて書く・他の人の文を読む【見せる情報】
- 9回 他の人に向けて話す・他の人の話を聴く【聞かせる情報】
- 10回 グループで議論する【マインドマップ】【整理する】【発想する】
- 11回 グループで役割分担をする【課題を分割する】
- 12回 グループで発表内容をまとめる【部分を統合する】
- 13回 グループで発表する
- 14回 グループを評価する
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 90%
積極的な授業参加 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

e-Learningサイト「Moodle」に授業資料などを提示しますので、事前学習・事後学習に利用してください。また、授業中に提示した課題を次回の授業時に提出したりしてもらいますので、授業時間外の作業が必要となります。特にグループ活動においては、グループメンバーと議論する時間を確保してください。

アカデミック・スキルズII (論理的に生きる) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「ロジカルシンキング (論理的な思考) 」や「分かりやすい表現術」は、大学生活だけに限らず、社会で活躍するためには必須の能力です。早いうちにこれらの能力を伸ばす努力をはじめましょう。「先んずれば人を制す」です。

キーワード /Keywords

ロジカルシンキング (論理的な思考) , プレゼンテーション, アクティブ・ラーニング, コミュニケーション能力, 思考力, SDGs 17:パートナーシップ

アカデミック・スキルズII (思考と推論) 【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
										○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES102F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズII		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

サブテーマ「思考と推論」

本授業の目的は、アカデミック・スキルズIで身につけた考える力を活用して、大学生活に必要なコミュニケーション力を伸ばし、より深く考えられるようになることである。特に、本授業では、人間が考えるときに重要なはたらきをしている「推論」と、その心理実験を通じて、考える力を総合的に活用できる能力・資質を伸ばすことを目指す。そのことを踏まえて、本授業では、以下のような項目について学ぶ。

- 思考スキルとその活用方法
- 推論とその心理実験
- 批判的思考
- メモ・ノートの取り方

本授業の前半は、講義による授業内容の解説と個人ワークが中心となるが、後半は、グループワークが中心となる。グループワークでは、メンバーがお互いに協力しながら心理実験の計画・実施・分析・考察までの一連の流れを実施する。

教科書 /Textbooks

市川伸一：考えることの科学～推論の認知心理学への招待～、中公新書、1997年、660円（税抜）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目：考える力と推論【ガイダンス】【認知心理学】
- 2回目：情報の受け取り方【メモ】【ノートテイキング】
- 3回目：形式論理と日常的論理(1)【四枚カード問題】
- 4回目：形式論理と日常的論理(2)【主題材料効果】【前件否定の錯誤】【後件肯定の錯誤】
- 5回目：心理実験の流れ(1)【疑う】【批判的思考】
- 6回目：心理実験の流れ(2)【問いを立てる】【抽象化】
- 7回目：心理実験の流れ(3)【仮説】【視点図】
- 8回目：心理実験の流れ(4)【被験者】【視座図】【作問】
- 9回目：心理実験の流れ(5)【分析する】【結論と考察】
- 10回目：グループワーク(1)【疑う】【批判的思考】
- 11回目：グループワーク(2)【問いを立てる】【抽象化】
- 12回目：グループワーク(3)【仮説】【視点図】
- 13回目：グループワーク(4)【被験者】【視座図】【作問】
- 14回目：グループワーク(5)【分析する】【結論と考察】
- 15回目：レポート評価・まとめ【関係づける】【比較する】

成績評価の方法 /Assessment Method

ノートテイキングの課題・・・10%、心理実験の流れに関する課題・・・20%、グループワークの課題・・・20%、心理実験レポート・・・30%、積極的な授業参加・・・20%

アカデミック・スキルズII (思考と推論) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、授業開始前までに必ず教科書を読んで、その内容を理解しておくこと。
事後学習として、授業内容を反復すること。また、授業時間内に各ワークの課題に未到達、または、満足のいく完成度でなかった場合は、授業時間外に積極的にワークの続きに取り組み、次の授業に備えること。

履修上の注意 /Remarks

受講生の興味関心や理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。その場合は、授業中に説明する。「アカデミック・スキルズI」を受講し、その内容をしっかり学んでいると受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ほぼ毎回、各回に適したワークや質疑応答等を繰り返しながら、授業を展開していく。そのため、積極的に授業に参加してほしい。

キーワード /Keywords

思考力、アクティブラーニング、コミュニケーション力、推論、心理実験

アカデミック・スキルズII (レポートを書くために) 【 昼 】

基盤教育科目
教養教育科目
知の技法科目

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES102F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、アカデミック・スキルズIで身につけた考える力を活用して大学生活に必要なコミュニケーション能力を伸ばし、より深く考えられるようになることです。最終的な目標は、テーマに沿って自分で問いを設定し、文献を読んで考えをまとめるレポート（高校までの小論文でも調べ学習でも感想文でもなく）を書くことです。比較的読みやすいテキストを批判的に読解することを通して、レジュメの作りかた、論点の見つけ方、文献の探し方を学び、それをわかりやすく報告するコミュニケーション能力を養います。後半では、受講者同士の議論を経て、レポートの作成を目指します。

教科書 /Textbooks

紅野謙介 2018『国語教育の危機』ちくま新書（880円＋税）

大学入試改革が何かと話題となった2019年を振り返り、この本を素材としてこれまでの初等・中等教育で身に着けてきた学力について考えてみようと思います。ただし、履修登録者名簿の学部バランスをみて、もう一冊同じ価格帯のテキスト候補を準備します。初回で受講者の希望に応じて、どちらのテキストがいいか決めます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 慶応義塾大学教養研究センター 2014『ダメレポート脱出法』慶応大学出版会
- 佐渡島沙織ほか編 2015『レポート・論文をさらによくする書き直しガイド』大修館書店
- 白井利明・高橋一郎2008『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：レポートを書くとは
- 第2回 大学における本の読みかた・探しかた
- 第3回 読んだ本の理解を深めるには・レジュメの作りかた
- 第4回 テキスト輪読型の演習における報告と議論①
- 第5回 議論のしかた
- 第6回 テキスト輪読型の演習における報告と議論②
- 第7回 テキスト輪読型の演習における報告と議論③
- 第8回 テーマの見つけかた
- 第9回 レポート構想報告①
- 第10回 レポートの書きかた
- 第11回 レポート構想報告②
- 第12回 レポート構想報告③
- 第13回 文章を推敲する：レポートの相互添削
- 第14回 文章のブラッシュアップ
- 第15回 これまで学んだことの総括

※受講者の人数によって内容を変更することもある。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、授業貢献（報告内容、積極的な発言など）50%
（第13回で学生相互にレポートを添削し、その後最終的に書き直したレポートを評価の対象とします。）
※報告者の無断欠席は厳しく減点します。
※学期末レポートの最低文字数は2000字です。

アカデミック・スキルズII (レポートを書くために) 【 昼】

基盤教育科目
教養教育科目
知の技法科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ レジユメの作成、レポートの執筆およびそのための資料収集などはそれなりに時間がかかります。計画的かつ真摯に取り組んでください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 履修を希望する学生は、第1回の授業から必ず出席してください。
- ・ 問題意識は、漠然と本を読み、授業を聞くだけで生まれるものではありません。受講する段階で特定の学問的興味関心を持つことは求めませんが、学期末までには課題に対する問題意識を見つけることを心がけてください。
- ・ 演習の準備に時間がかかることを嫌がらないでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 大学での本の読みかたやレポートの書きかたを基礎から学ぶので、どの学部の学生でも怖気づかずに履修してください。レポートをあまり書かない学部の学生も、学期末には2000字以上のレポートを頑張って書いています。レポートに慣れている学部の学生は、この機会に自分の書き方を点検し、より高く評価されるレポートを目指してみましよう。

キーワード /Keywords

思考力、アクティブ・ラーニング、コミュニケーション能力

アカデミック・スキルズII (ソーシャルメディアと思考法) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
知の技法科目

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES102F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、情報を伝達する媒介・媒質としての情報メディアの特性を概観し、情報メディアが人間社会に与える影響について考える力を身に付けることである。特に、本授業ではソーシャルメディアに着目し、その成り立ちや技術、社会的な課題を学ぶことで、一人ひとりメディアへの関わり方を考え、人や社会とのつながりを再設計することで、新たなメディア環境を生きていくための力（メディア・リテラシー）を身に付けることを目的としている。そのことを踏まえて、本授業では、以下のような項目について学ぶ。

- ソーシャルメディアの歴史
- ソーシャルメディアの現在
- ソーシャルメディアの未来
- メディア・リテラシー
- ソーシャルメディアに対する思考力

本授業では、チューター方式を用いる。すなわち、受講学生が与えられたテーマについて事前に調べ、その内容を授業の中の一部で発表・問題提起する方式である。発表・問題提起された内容を中心に、教員と受講学生とが議論を深めていく。

教科書 /Textbooks

藤代裕之 編著：ソーシャルメディア論 改訂版 - つながりを再設計する -、青弓社、2019年、1,800円（税抜）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目：情報メディアとは何か 【ガイダンス】 【情報メディア】
- 2回目：ソーシャルメディアの登場による影響と問題点 【SNS】 【マスメディア】 【メディア・リテラシー】
- 3回目：思考力向上のためのスキル1 【批判的な読み方】
- 4回目：ソーシャルメディアの歴史を知る1 【歴史】
- 5回目：ソーシャルメディアの歴史を知る2 【技術】
- 6回目：ソーシャルメディアの歴史を知る3 【法】
- 7回目：ソーシャルメディアの現在を知る1 【ニュース】
- 8回目：ソーシャルメディアの現在を知る2 【広告】
- 9回目：思考力向上のためのスキル2 【視座図と視点図】
- 10回目：ソーシャルメディアの現在を知る3 【政治】 【キャンペーン】
- 11回目：ソーシャルメディアの現在を知る4 【都市】 【コンテンツ】
- 12回目：ソーシャルメディアの現在を知る5 【モノ】
- 13回目：ソーシャルメディアの未来を考える1 【地域】 【共同規制】
- 14回目：ソーシャルメディアの未来を考える2 【システム】
- 15回目：ソーシャルメディアの未来を考える3 【教育】 【人】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題・・・40%、レポート・・・30%、授業への参加態度・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、授業開始前までに教科書を読んで、次の授業の内容を必ず理解しておくこと。
事後学習として、授業内容を反復すること。

アカデミック・スキルズII (ソーシャルメディアと思考法) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
知の技法科目

履修上の注意 /Remarks

「アカデミック・スキルズI」を受講し、その内容をしっかり学んでいると受講しやすい。
受講生の興味・関心や理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。その場合は、授業中に説明する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では、受講生の皆さんの意見や課題の結論等を発表、共有する場面が多くある。積極的に発言してもらいたい。

キーワード /Keywords

ソーシャルメディア、メディア・リテラシー、思考力、アクティブラーニング

アカデミック・スキルズII (豊かな大学生活のために) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
知の技法科目

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES102F		◎	○	△	

科目名 アカデミック・スキルズII ※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、アカデミック・スキルズIで身につけた考える力を活用して大学生活に必要なコミュニケーション能力を伸ばし、より深く考えられるようになることである。

身近なことをテーマに考えたり自分の考えを表現したりすることを、様々な学部（学群）の学生と行ってもらおう。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：オリエンテーション
- 2回：考える力
- 3回：コミュニケーション能力
- 4回：ことばを有効に活用するためのスキル
- 5回：自分を理解する①【大切にするもの】
- 6回：自分を理解する②【違和感のあるもの】
- 7回：相手を理解する
- 8回：自分を理解してもらおう
- 9回：個人発表
- 10回：ここまでの振り返り
- 11回：北九大を理解する①【キャンパス探訪】
- 12回：北九大を理解する②【課題設定】
- 13回：北九大を理解する③【表現する】
- 14回：個人発表（または、グループ発表）
- 15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への参加（事前・事後学習を含む） ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に役立つ活動を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の興味や関心に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。
受講する場合は、よく考えてください。

アカデミック・スキルズII (豊かな大学生活のために) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
知の技法科目

キーワード /Keywords

思考力、アクティブ・ラーニング、コミュニケーション能力、楽

関連するSDGsゴール：17.「パートナーシップで目標を達成しよう」

アカデミック・スキルズII (教養を磨く『新聞のちから』) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
知の技法科目

担当者名 /Instructor 読売新聞西部本社、基盤教育センター 永末 康介

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES102F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、アカデミック・スキルズIで身につけた考える力を活用して大学生活に必要なコミュニケーション能力を伸ばし、より深く考えられるようになることである。

この授業では、社会を映す鏡として生きた教材になる新聞を活用し、将来の就職活動や社会人生活に役立つ「読む力」「書く力」「話す（伝える）力」とともに、時事問題の知識や教養を身につけます。グループワークも実施し、物事を深く考えて企画する力も身につけられるようアシストします。様々な学部の学生が集まり、共に学ぶことができる講座です。

新聞を活用した演習やクイズを実施して、文章添削も行う予定です。

教科書 /Textbooks

教材として授業時に新聞を配布します（教材費は1,000円以内の予定）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図書館にある読売新聞以外の新聞なども活用する予定

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 新聞の基本的な読み方とまわしよみ新聞の作り方、グループ分け
- 第2回 新聞のちから①まわしよみ新聞を基にテーマを選択
- 第3回 新聞のちから②テーマと疑問点を詰める
- 第4回 新聞のちから③文章の書き方（基礎編）
- 第5回 新聞のちから④文章の書き方（応用編）
- 第6回 新聞のちから⑤模擬取材体験
- 第7回 新聞のちから⑥取材結果をまとめる
- 第8回 新聞のちから⑦発表と講評
- 第9回 社会人基礎力養成①深く考える力を高める新聞の読み方
- 第10回 社会人基礎力養成②課題解決へ思考を深める
- 第11回 社会人基礎力養成③課題解決へ思考を深める
- 第12回 社会人基礎力養成④課題解決へ思考を深める
- 第13回 社会人基礎力養成⑤就活突破と新聞活用術
- 第14回 まとめ①「わたしたちの新聞」作成
- 第15回 まとめ②「わたしたちの新聞」発表と講評

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に関する作業の取り組みの度合いで総合的に判断します（100％）。詳しくは1回目の授業で説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

新聞を活用します。
就職活動に役立つような簡単な演習などを課題として出題する予定です。

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解度や講義の進捗に応じて授業計画等が変わる場合もあります。

アカデミック・スキルズII (教養を磨く 『新聞のちから』) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
知の技法科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新聞社、大学、若い皆さんが力を合わせ、楽しみながら社会に通用する実践力を身につける講座にしたいと考えています。

新聞報道の現場経験者が、その経験を活かしながら「読む力」「書く力」「話す力」「考える力」を向上させる授業を担当する。

キーワード /Keywords

思考力、アクティブ・ラーニング、コミュニケーション能力、新聞、メディア、現代社会、情報リテラシー、就職活動、社会人基礎力

関連するSDGsゴール：8.「働きがいも経済成長も」、17.「パートナーシップで目標を達成しよう」

実務経験のある教員による授業

情報社会への招待【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF100F		◎	○		
科目名	情報社会への招待		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、現在の情報社会を俯瞰的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎とし、変化し続ける情報技術と正しくつぎ合えるような適応力を身につけることを目指します。

また、この授業で学ぶICT（情報通信技術）は、国連が定めたSDGs（持続可能な開発目標）のうち、「4．質の高い教育をみんなに」「8．働きがいも経済成長も」「9．産業と技術革新の基盤をつくろう」「10．人や国の不平等をなくそう」「17．パートナーシップで目標を達成しよう」に関連していると考えています。授業を通じて、これらの目標についても考えを深めてみてください。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル、炎上、個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光、音、匂い、味、触覚、電気】
- 3回 コンピュータはどうやって情報を取り扱うか【2進数、ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置、出力装置、解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU、メモリ、記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS、拡張子とアプリケーション、文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換、パケット交換、LAN、IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名、DNS、サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン、位置情報、GPS、GIS、プライバシー】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス、スパイウェア、不正アクセス、詐欺、なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信、ファイアウォール、クッキー、セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア、防犯カメラ、ライフログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン、Wikipedia、フリーミアム、クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権、コンテンツのデジタル化、クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 100%

情報社会への招待【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

e-Learningサイト「Moodle」に授業資料を提示しますので、事前学習・事後学習に利用してください。また、授業中に配布した課題プリントを持ち帰って、次回の授業時に提出したり、Moodleの課題等に期限までに解答したりしてもらいます（必要な学習時間の目安は予習60分、復習60分）。

その他、ICTに関するニュースを視聴するなど、日常的、能動的に情報社会に関する事柄に興味をもつことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

キーワード /Keywords

情報社会，ネットワーク，セキュリティ，SDGs 4．質の高い教育を，SDGs 8．働きがい・経済成長，SDGs 9．産業・技術革命，SDGs 10．不平等をなくす，SDGs 17．パートナーシップ

法への誘い【昼】

担当者名 /Instructor
 中村 英樹 / 法律学科, 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科, 清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科
 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科, 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科
 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科, 石塚 壮太郎 / ISHIZUKA, Sotaro / 法律学科
 水野 陽一 / 法律学科, 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科
 高橋 衛 / 法律学科, 藤田 尚 / 法律学科
 林田 幸広 / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW001F		◎	○		○
科目名	法への誘い				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業では、法律学科の教員たちが、社会のさまざまな問題を法というフィルターを通して眺めるとどのように捉えられるのかについて講義する。この講義を通じて、法というツールを用いて問題を読み解く技能を獲得することが本授業の目的であり、あわせて、発見したさまざまな課題への対処を考える思考・判断力、そしてそれらを活かして公共的な問題を解決していく自立的行動力を身につけることを目指す。

教科書 /Textbooks

特になし。
各回、必要な資料があれば配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各種の法学入門書など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 なぜ憲法を改正できないのか？ - 憲法改正の位相
- 第3回 民泊は違法？ - 法律と条例の関係
- 第4回 肉1ポンドを担保にしてお金を借りることは許されるか？ - ヴェニスの証人に見る同意
- 第5回 少年犯罪は増えている？ - 少年犯罪と近年の動向
- 第6回 人間はAIとどのように向き合うべきか？ - AIと法
- 第7回 電気は「物」か？ - 物に関する法
- 第8回 女性にだけ再婚禁止期間が原則100日も設けられているのはなぜか？ - 民法における再婚禁止期間と嫡出推定の関係
- 第9回 タヌキはゴルフ場開発を止められるか - 令和ぼんぼこ狸合戦 - 当事者能力
- 第10回 会社の経営について決定権を持つのは誰か？
- 第11回 年金って私たちはもらえないんでしょ？ - 公的年金の役割
- 第12回 受信料は払わなければいけない？ - 放送と法
- 第13回 自分の臓器を売る自由？ - 自己所有権の限界
- 第14回 裁判しない法専門家 - ADRとそのねらい
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末のレポートによる (100%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回のテーマについて事前に情報を収集し、自分の考えを整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

受講態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

法への誘い【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コンピューターリテラシー 【昼】

担当者名 /Instructor 古川 洋章 / 情報総合センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF101F		◎			
科目名	コンピューターリテラシー		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、コンピューターやインターネットを正しく扱うための知識や技術を学習し、情報社会において自らの考えや判断を表現・伝達する手段として活用する能力を身につけることです。そのため、本授業では実際にコンピューターを操作しながら、以下のような項目を達成できる技能の習得を目指します。

【情報モラル・情報セキュリティ】

- ・ インターネットにおけるリスクを把握し正しい使い方について説明することができる
- ・ 著作権と引用のルールについて説明することができる

【電子メール】

- ・ 電子メールの特性および仕組みについて説明することができる
- ・ ビジスマナーを意識した電子メールの作成・送受信ができる【文章作成】
- ・ 基礎的な文章の作成ができる
- ・ 文章作成ソフトの機能を活用した文章の装飾ができる
- ・ 長文レポートの作成ができる

【表計算・グラフ作成】

- ・ 基礎的な表の作成ができる
- ・ 数式や関数を用いたデータの集計ができる
- ・ グラフの作成ができる
- ・ ある条件に応じて出力結果を変えることができる

なお、本授業は初心者を対象としています。

教科書 /Textbooks

『情報リテラシー Windows10 /Office2019対応』 FOM出版、2,000円（税抜）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 コンピューターの操作方法
- 3回 情報モラル・情報セキュリティ：インターネットにおけるリスクとコミュニケーション
- 4回 電子メール：大学における電子メール
- 5回 文章作成1：文章作成の基本操作
- 6回 文章作成2：文章作成ソフト機能の活用
- 7回 文章作成3：レポート作成
- 8回 文章作成4：文章作成練習
- 9回 演習1：文章作成
- 10回 表計算・グラフ作成1：表作成の基本操作
- 11回 表計算・グラフ作成2：データ集計・グラフ作成
- 12回 表計算・グラフ作成3：条件に応じた出力
- 13回 表計算・グラフ作成4：表計算・グラフ作成練習
- 14回 演習2：表計算・グラフ作成
- 15回 ふり返し・まとめ

コンピューターリテラシー 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ インターネット・情報モラル・情報セキュリティに関する課題...15%
- ・ 電子メールの課題...10%
- ・ 文章作成演習の課題...25%
- ・ 表計算・グラフ作成演習の課題...25%
- ・ 授業支援ツールを用いた授業への積極的な参加...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに、予め授業テーマについて予習してください。また授業終了後には、パソコン自習室や自身のパソコン等で積極的に復習してください。

履修上の注意 /Remarks

コンピューターの基本的な操作（キーボードによる文字入力、マウス操作など）ができるようになっておくと受講しやすいです。また、受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業では、初心者を対象に、情報社会においてコンピューターやインターネットを正しく扱うための基本的な知識や技術について学習し、活用する能力の体得を目指します。実際にコンピューターを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に練習に取り組む姿勢が大切です。わからないことがあれば、随時、質問をしてください。
なお、第1回目の授業に必ず出席してください。受講希望者多数の場合、受講者数調整を実施し受講可能な学生を決定します。詳細は、第1回目の授業中に説明します。

キーワード /Keywords

文章作成、表作成、グラフ、電子メール、情報モラル、情報セキュリティ

データ分析【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
										○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF201F		◎	△		
科目名	データ分析		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

情報社会と呼ばれる現代では、インターネットを通じて多種多様なデータが常に世界中を行き交っている。コンピューターの高度化は、大量のデータを瞬時に分析することを可能にした。これらの事実は、社会のあらゆる場面において、データに基づいた意思決定が求められることを意味する。この背景から言えることは、社会は、大量のデータから何らかの意味のある情報や法則、関連性などを導き出し、そこから知識を獲得できる人材を求めているということである。

本授業は、データを分析する基本を学ぶ。具体的には、以下の能力を身につけることが目標である。

- ・ データ分析の必要性について説明することができる。
- ・ 与えられたデータから平均や散らばり度合いなどを表計算ソフトを用いて明らかにすることができる。
- ・ 与えられたデータからどの要素が関連するかを考え、その関係性を表計算ソフトを用いて明らかにすることができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小島寛之：完全独習 統計学入門，ダイヤモンド社，2006年，1,800円（税抜）
- 西内啓：統計学が最強の学問である，ダイヤモンド社，2013年，1,600円（税抜）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. データ分析はなぜ必要か
2. 表計算ソフト演習1【表作成】【グラフ作成】
3. 表計算ソフト演習2【数式を使った計算】【関数を使った計算】
4. ヒストグラムと平均値
5. ヒストグラムとデータの散らばり
6. 分布のはなし
7. 分布から予測へ
8. 演習1：分布に関する演習
9. 要因比較のための集計
10. 2要因間の関係
11. 2要因間の関係から予測へ
12. 演習2：要因比較に関する演習
13. 総合演習
14. ふり返り
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

分布に関する演習・・・20%，要因比較に関する演習・・・20%，総合演習・・・40%，積極的な授業参加（レポート提出を含む）・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、授業内容・計画に従って、予め調べて学習しておくこと。

事後学習として、授業内容を反復すること。また、データ分析能力の習熟には日々の練習が欠かせないため、正規の授業時間外の時間に、パソコン自習室や自宅にて積極的に操作練習を行うこと。

データ分析【昼】

履修上の注意 /Remarks

表計算ソフトがある程度使えると、受講しやすくなる。
受講生の興味関心や理解度等に応じて、授業計画や内容を変更することがある。その場合は、授業中に説明する。
授業の開始前と終了後に出席確認を行うので、ICカード学生証を毎回忘れずに持参し、指示に従って正しく読み取り操作を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業計画・内容から、難しい数式が出てくる印象を与えるが、本授業では中学校レベルの数学で理解できるように設計している。データサイエンティストの入り口に立つための授業という位置づけであるので、興味のある学生は積極的に受講して欲しい。
第1回目の授業に必ず出席すること。受講希望者多数の場合、受講者数調整を実施し、受講可能な学生を決定する。詳細は、第1回目の授業中に説明する。

キーワード /Keywords

分布，要因比較，統計学，表計算ソフト，データからの知識獲得

データ分析 【昼】

担当者名 佐藤 貴之 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF201F		◎	△		
科目名	データ分析				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

情報社会と呼ばれる現代では、インターネットを通じて多種多様なデータが常に世界中を行き交っている。コンピューターの高度化は、大量のデータを瞬時に分析することを可能にした。これらの事実は、社会のあらゆる場面において、データに基づいた意思決定が求められることを意味する。この背景から言えることは、社会は、大量のデータから何らかの意味のある情報や法則、関連性などを導き出し、そこから知識を獲得できる人材を求めているということである。

本授業は、データを分析する基本を学ぶ。具体的には、以下の能力を身につけることが目標である。

- ・ データ分析の必要性について説明することができる。
- ・ 与えられたデータから平均や散らばり度合いなどを表計算ソフトを用いて明らかにすることができる。
- ・ 与えられたデータからどの要素が関連するかを考え、その関係性を表計算ソフトを用いて明らかにすることができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小島寛之：完全独習 統計学入門，ダイヤモンド社，2006年，1,800円（税抜）
- 西内啓：統計学が最強の学問である，ダイヤモンド社，2013年，1,600円（税抜）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. データ分析はなぜ必要か
2. 表計算ソフト演習1【表作成】【グラフ作成】
3. 表計算ソフト演習2【数式を使った計算】【関数を使った計算】
4. ヒストグラムと平均値
5. ヒストグラムとデータの散らばり
6. 分布のはなし
7. 分布から予測へ
8. 演習1：分布に関する演習
9. 要因比較のための集計
10. 2要因間の関係
11. 2要因間の関係から予測へ
12. 演習2：要因比較に関する演習
13. 総合演習
14. ふり返り
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

分布に関する演習・・・20%，要因比較に関する演習・・・20%，総合演習・・・40%，積極的な授業参加（レポート提出を含む）・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、授業内容・計画に従って、予め調べて学習しておくこと。

事後学習として、授業内容を反復すること。また、データ分析能力の習熟には日々の練習が欠かせないため、正規の授業時間外の時間に、パソコン自習室や自宅にて積極的に操作練習を行うこと。

データ分析【昼】

履修上の注意 /Remarks

表計算ソフトがある程度使えると、受講しやすくなる。
受講生の興味関心や理解度等に応じて、授業計画や内容を変更することがある。その場合は、授業中に説明する。
授業の開始前と終了後に出席確認を行うので、ICカード学生証を毎回忘れずに持参し、指示に従って正しく読み取り操作を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業計画・内容から、難しい数式が出てくる印象を与えるが、本授業では中学校レベルの数学で理解できるように設計している。データサイエンティストの入り口に立つための授業という位置づけであるので、興味のある学生は積極的に受講して欲しい。
第1回目の授業に必ず出席すること。受講希望者多数の場合、受講者数調整を実施し、受講可能な学生を決定する。詳細は、第1回目の授業中に説明する。

キーワード /Keywords

分布，要因比較，統計学，表計算ソフト，データからの知識獲得

データ分析【昼】

担当者名 /Instructor 古川 洋章 / 情報総合センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF201F		◎	△		
科目名	データ分析		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

情報社会と呼ばれる現代では、インターネットを通じて多種多様なデータが常に世界中を行き交っている。コンピューターの高度化は、大量のデータを瞬時に分析することを可能にした。これらの事実は、社会のあらゆる場面において、データに基づいた意思決定が求められることを意味する。この背景から言えることは、社会は、大量のデータから何らかの意味のある情報や法則、関連性などを導き出し、そこから知識を獲得できる人材を求めているということである。

本授業は、データを分析する基本を学ぶ。具体的には、以下の能力を身につけることが目標である。

- ・ データ分析の必要性について説明することができる。
- ・ 与えられたデータから平均や散らばり度合いなどを表計算ソフトを用いて明らかにすることができる。
- ・ 与えられたデータからどの要素が関連するかを考え、その関係性を表計算ソフトを用いて明らかにすることができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小島寛之：完全独習 統計学入門，ダイヤモンド社，2006年，1,800円（税抜）
- 西内啓：統計学が最強の学問である，ダイヤモンド社，2013年，1,600円（税抜）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. データ分析はなぜ必要か
2. 表計算ソフト演習1【表作成】【グラフ作成】
3. 表計算ソフト演習2【数式を使った計算】【関数を使った計算】
4. ヒストグラムと平均値
5. ヒストグラムとデータの散らばり
6. 分布のはなし
7. 分布から予測へ
8. 演習1：分布に関する演習
9. 要因比較のための集計
10. 2要因間の関係
11. 2要因間の関係から予測へ
12. 演習2：要因比較に関する演習
13. 総合演習
14. ふり返り
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

分布に関する演習・・・20%，要因比較に関する演習・・・20%，総合演習・・・40%，積極的な授業参加（レポート提出を含む）・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、授業内容・計画に従って、予め調べて学習しておくこと。

事後学習として、授業内容を反復すること。また、データ分析能力の習熟には日々の練習が欠かせないため、正規の授業時間外の時間に、パソコン自習室や自宅にて積極的に操作練習を行うこと。

データ分析【昼】

履修上の注意 /Remarks

表計算ソフトがある程度使えると、受講しやすくなる。
受講生の興味関心や理解度等に応じて、授業計画や内容を変更することがある。その場合は、授業中に説明する。
授業の開始前と終了後に出席確認を行うので、ICカード学生証を毎回忘れずに持参し、指示に従って正しく読み取り操作を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業計画・内容から、難しい数式が出てくる印象を与えるが、本授業では中学校レベルの数学で理解できるように設計している。データサイエンティストの入り口に立つための授業という位置づけであるので、興味のある学生は積極的に受講して欲しい。
第1回目の授業に必ず出席すること。受講希望者多数の場合、受講者数調整を実施し、受講可能な学生を決定する。詳細は、第1回目の授業中に説明する。

キーワード /Keywords

分布，要因比較，統計学，表計算ソフト，データからの知識獲得

知の創造特講B (戦後の日本経済) 【昼】

担当者名 /Instructor 土井 徹平 / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPL205F			◎		
科目名	知の創造特講B		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

私たちの思考や行動は、私達が暮らす社会のあり方によって規定されています。そして社会のあり方は、時代とともにこれまで大きく変化してきました。

特に社会のあり方に大きな影響を与えてきたのが「経済」です。

「経済」とは、私達が生きていくために何か価値あるものを作り、それを他者と交換することで生活の糧を得ることを意味します。つまり「経済」とは、働き収入を得て消費するという、日常の暮らしそのものを指しています。

こうした人々の暮らしが大きく変化する度、社会のあり方が変わり、その結果、人々の思考や行動も変化してきました。

この講義では、この事実を、実際の「経済」の歴史を通じて理解していただきます。

そのうえで、特にここでは、「現代人」の社会、暮らし、思考や行動のあり方に極めて大きな影響を及ぼした「高度経済成長期」（1950年代後半から1970年代前半）に注目します。

そしてここで、人々がどのような暮らしを手にし、いかなる思考や行動をするようになったのか考えます。

また、「高度経済成長」以後の暮らしの変化にも着目することで、現代に生きる私たちが「当たり前」と思い抱いている価値観や行動様式が、いつどのような経緯で浸透していくこととなったのか、その歴史についても、「経済」を通して考えてみたいと思います。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 I. 現代社会の理想と現実
 - 1. 現代の若者の就職と結婚
- 第3回 2. キャリア形成を巡る理想と現実
- 第4回 II. 戦後文化の担い手
 - 1. 「高度経済成長」とは何か
- 第5回 2. 文化的主体としての「団塊の世代」
- 第6回 III. 「高度経済成長」への道程
 - 1. 戦後の人口問題と経済成長の蓋然性
- 第7回 2. 「高度経済成長」と「人口ボーナス」
- 第8回 3. 「高度経済成長」と人口移動
- 第9回 IV. 戦後家族モデルの成立
 - 1. 「豊かさ」の象徴
- 第10回 2. 「上昇志向」の時代と日本人の生活意識
- 第11回 3. 日本人の理想とモデル - 「ミッチーブーム」と「象徴天皇」 -
- 第12回 V. 「ロストジェネレーション」
 - 1. 「幸せモデル」の確立
- 第13回 2. 「高度経済成長」の終焉と「団塊ジュニア」
- 第14回 3. 「失われた20年」と「ロストジェネレーション」
- 第15回 VI. 価値観・ライフスタイルの変化

知の創造特講B (戦後の日本経済) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 80% 日常での授業への取り組み... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回、授業内容に沿ったレジユメを配布します。配布済みのレジユメを用い前回の講義内容を復習して授業に臨み、授業後には同じくレジユメをもとに、その日の授業内容を反復するようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「歴史」と言えば「暗記科目」という印象を抱いている方も多いと思います。しかし大学で学ぶ「歴史」は「歴史学」であり、「歴史学」は、歴史をもとに過去そして現代について“考える”社会科学です。これまで「歴史」が苦手であった方、「歴史」に関する知識に自信がないという方であっても、「歴史」をもとに考える意思のある方であれば主体的にご参加ください。

キーワード /Keywords

日本経済史 戦後史 高度経済成長 団塊の世代

社会学的思考 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOC002F			◎	○	
科目名	社会学的思考		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方と概念を身につけ、人間と社会との関係性を総合的に理解することにある。そのために、以下の2点について講義する。
 (1) 社会学の基本的な考え方について、E.デュルケム、M.ウェーバーなどの古典的著作を例にとりながら紹介していく。その中で、社会的行為、社会規範、社会制度、社会構造、社会的役割、社会集団等の基本概念についても説明する。
 (2) 現代の社会問題を社会的に考えていく。とりあげる問題としては「大衆社会とファシズム」「社会的排除と貧困」などを予定している。

教科書 /Textbooks

使用しない。
適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに
- 第2回 社会学的な考え方は
- 第3回 社会的な要因による説明とは
- 第4回 個人と社会をつなぐ1 - デュルケム1 【自殺論 - 集合意識と行為】
- 第5回 個人と社会をつなぐ2 - デュルケム2 【自己本位的自殺】
- 第6回 個人と社会をつなぐ3 - デュルケム3 【アノミーの自殺】
- 第7回 個人と社会をつなぐ4 - ウェーバー1 【理解社会学】
- 第8回 個人と社会をつなぐ5 - ウェーバー2 【プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神】
- 第9回 機能主義とシンボリック相互作用論
- 第10回 現代の社会的解読1 - ファシズム1 【社会的性格とファシズム】
- 第11回 現代の社会的解読2 - ファシズム2 【デモクラシーと大衆社会】
- 第12回 現代の社会的解読3 - 社会的排除と貧困1 【社会的排除と生活困窮の現状】
- 第13回 現代の社会的解読4 - 社会的排除と貧困2 【生活困窮化のメカニズム】
- 第14回 現代の社会的解読5 - 社会的排除と貧困3 【社会的な支援のあり方】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の課題... 15% 期末試験... 85%
(総合的に判断する)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業にあたって配布プリント等をよく読んでおくこと。授業の内容を反復学習すること。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分。)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常生活の中で生じているさまざまな出来事を、いろいろな立場や視点から考える習慣を身につけてもらえるとうれしいです。

社会学的思考 【昼】

キーワード /Keywords

社会的行為、エスノグラフィー、社会集団、社会構造、集合意識、社会規範、自己本位主義、アノミー、理解社会学、合理性、社会的性格、ファシズム、社会的排除、社会的包摂、社会的孤立、貧困、戦後日本型循環モデル
SDGs1 貧困をなくそう、SDGs 3 健康と福祉を

ことばの科学 【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIN110F	○	○	◎		
科目名	ことばの科学		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語はじめその他の言語のデータをもとに、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

漆原 朗子 (編著) 『形態論』(朝倉日英対照言語学シリーズ第4巻)。朝倉書店、2016年。¥2700 + 税。
配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 大津 由紀雄 (編著) 『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』。ミネルヴァ書房、2009年。
- スティーヴン・ピンカー (著) 椋田 直子 (訳) 『言語を生みだす本能(上)・(下)』。NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ことばの不思議
- 第2回 ことばの要素
- 第3回 ことばの習得
- 第4回 普遍文法と個別文法
- 第5回 ことばの単位(1)：音韻
- 第6回 連濁
- 第7回 鼻濁音
- 第8回 ことばの単位(2)：語
- 第9回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第10回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第11回 ことばの単位(3)：文
- 第12回 動詞の自他
- 第13回 日本語と英語の受動態
- 第14回 数量詞
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度・参加度...10% 課題...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業時に指示した文献の講読
事後学習：授業で扱った内容に関する課題の提出

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代人のこころ【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科, 田中 信利 / 人間関係学科
松本 亜紀 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PSY003F			◎	○	○
科目名	現代人のこころ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

現代の心理学では、人間個人や集団の行動から無意識の世界に至るまで幅広い領域での実証的研究の成果が蓄えられている。この講義は、現代の心理学が明らかにしてきた、知覚、学習、記憶、発達、感情、社会行動などの心理過程を考察する。とくに、現代人の日常生活のさまざまな場面における「こころ」の働きや構造をトピック的にとりあげ、心理学的に考察し、現代人を取り巻く世界について、心理学的な理論と知見から理解する。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 動物のもつ自己意識【自己像認知、マークテスト】
- 第3回 自己の発見【自己意識、自己概念】
- 第4回 他者への気づき【アニマシー、バイオリジカルモーション】
- 第5回 他者の心を読む【共感、心の理論】・まとめと小テスト
- 第6回 青年期の自己観・他者観【エゴグラムテスト】【自己意識】
- 第7回 青年期の親子関係【独自性】【結合性】
- 第8回 青年期の友人関係【チャムシップ】【ふれあい恐怖】
- 第9回 青年期の自己の問題【アイデンティティ】【同一性危機】
- 第10回 まとめと小テスト
- 第11回 脳とこころ1【脳とこころの関係】
- 第12回 脳とこころ2【心身の発達と脳】
- 第13回 脳とこころ3【薬物の影響】
- 第14回 脳とこころ4【睡眠の影響】
- 第15回 まとめと小テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

課題(複数の小テストまたはレポート)・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、シラバスに記載されているキーワードについて調べておく。
事後学習として、内容の理解を深めるため配布資料やノートをもとに授業の振り返りを行う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

臨床心理士としての実務経験のある教員が、日常生活や臨床場面に関わる心理学の理論や各時期の心理的・発達的特徴、人間関係などについてオムニバス形式で解説する。

キーワード /Keywords

実務経験のある教員による授業

企業と社会【昼】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS001F	○		◎		○
科目名	企業と社会				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

企業は、現代社会においてそれなしでは成り立たない存在です。諸個人は一生を通じて何らかの形で企業と関わっていかざるをえません。企業を経営するとは、企業の経営者だけの問題ではなく、企業に関わるすべての人間にとっての問題です。この授業の狙いは、社会の中で企業がどのような原理で存在し、これまで歴史的にどのような側面を有してきたのか、また逆にそのような企業が社会に対してどのような影響を与えているか、現代社会においてこれからの企業はどのように経営されていくべきかを考えることにあります。

教科書 /Textbooks

三戸浩・池内秀己・勝部伸夫『企業論 第4版』有斐閣アルマ、2018年、2310円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

三戸公『会社ってなんだ』文真堂、1991年(○)
三戸公『随伴の結果』文真堂、1994年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス 【企業観の変遷】【6つの企業観】
- 第2回企業と「豊かな社会」【現代における財・サービスの豊かさ】
- 第3回「株式会社」の仕組み① 【株式会社の歴史】【株式会社の機能と構造】
- 第4回「株式会社」の仕組み② 【株式会社の機能と構造】【上場と非上場】
- 第5回社会における「大企業」の意味① 【大企業とは何か】【所有と支配】
- 第6回社会における「大企業」の意味② 【商業社会と産業社会】【企業の性格の変化】
- 第7回社会における「大企業」の意味③ 【官僚制】【科学的管理の展開】
- 第8回社会における「大企業」の意味④ 【環境問題】【随伴の結果】
- 第9回社会における「大企業」の意味⑤ 【コーポレート・ガバナンス】【企業倫理】
- 第10回「家」としての日本企業① 人事における日本企業特有の現象【日本企業と従業員】【契約型と所属型】
- 第11回「家」としての日本企業② 日本企業特有の組織原理【階級制】【能力主義】【企業別組合】
- 第12回「家」としての日本企業③ 日本企業の行動様式【日米の株式会社の違い】【企業結合様式の独自性】
- 第13回「家」としての日本企業④ 「家」の概念 【日本企業の独自性】【家の論理】
- 第14回「家」としての日本企業⑤ 今後の日本の経営 【原理と構造】【家社会】
- 第15回総括

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・70% レポート・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキスト該当箇所を読んでおいてください。授業後に該当箇所を再読し、復習しておいてください。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

また、適宜、レポート課題を出します。
また該当箇所の参考文献をよく読んでおいてください。

履修上の注意 /Remarks

状況に応じて臨機応変に対応したいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

財・サービス 株式会社 大企業 家の論理 社会的器官

民主主義とは何か【昼】

担当者名 /Instructor 中井 遼 / NAKAI, Ryo / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS002F			◎		○
科目名	民主主義とは何か		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

民主主義 / デモクラシー / 民主制とは何か。まずそれは単に選挙で物事を決めるだけの事ではない。選挙は独裁国家でも実施されている。またそれは善なる無謬のイズムでもない。近現代において多くの抑圧や圧政は「民意」や「国民の意思」の美名のもとに執行されてきた（そして「みんなのためだから」「多数決だから」の名のもとに行われる他者への抑圧は我々の日常でも見られる行為である）。民主主義とは強いていえば決定を権威づける一つのメカニズムに過ぎず、社会的実体の一類型でなければ道徳的目的でもない。

では近代的な自由民主主義はいかにして民主主義の害悪を最小化しつつ実際の決定メカニズムとして運用してきたのか。本講義では、理念とデータの両面から検討する。様々な民主体制がある中で、どのような状況においてその決定の品質が保たれたり、そもそも政治的安定性を維持できるのか、様々な先行研究に基づいて講義・検討する。近年の研究は、理念的には優れた制度と思われていたものが実際には劣った現実をもたらしていた（理念とデータにギャップがあった）事なども示している。また、民主主義が何かを知るためには民主主義ではないものが何なのかも知らなければならない。本講義の射程は非民主主義体制にも及ぶ。これらを知ることを通じてこそ、我々は多様な人々の間において適切な集会的決定を下すことが可能となるはずだ。

受講者は本講義を通じて、1) 民主主義を冠する複数の思想や歴史を理解し、特に自由民主主義（リベラルデモクラシー）とそれに付随する基礎的諸概念と効果について、複数の相反する考え方も含め理解し説明できるようになる；2) なぜ民主主義が好ましいのか/好ましくないのか、いかなる状況や領域において民主主義は好ましいのか/あるいは特段優れているわけではないのか、複数の相反する理論や実証結果を整理し説明できるようになる；3) 民主主義下における様々な制度的バリエーションについて説明できるようになり、それが実際の民主政治にいかなる影響を与えるのか、実証的根拠とともに説明できるようになる；4) 非民主主義体制ともいえる独裁制がもつバリエーションも説明でき、それが体制変動・民主化に与える影響を理解し、民主主義体制との違いや独裁制下での選挙がもたらす効果について説明できる；ことが求められる

教科書 /Textbooks

指定教科書はない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マクファーソン, C.B. (田口訳 1978) 『自由民主主義は生き残れるか』岩波新書
- 待鳥聡史 (2015) 『代議制民主主義-「民意」と「政治家」を問い直す』中公新書
- 坂井豊貴 (2015) 『多数決を疑う-社会的選択理論とは何か』岩波新書
- シュンペーター, J. (大野訳 2016) 『資本主義, 社会主義, 民主主義』日経BP
- ダール, R. (高島・前田訳) 『ポリアーキー』岩波文庫
- 杉田敦 (2001) 『デモクラシーの論じ方-論争の政治』筑摩書房
- 久保慶一, 末近浩太, 高橋百合子 (2016) 『比較政治学の考え方』有斐閣

民主主義とは何か【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクションと投票参加について理解する。授業全体の方針や進め方について受講者との間に共通理解をもつ。しかる後に、民主主義の基礎的な制度と見られる、選挙に関して、なぜ人は選挙にいったり行かなかつたりするのか、ライカーの投票参加理論をもとに理解する。
2. 民主主義と隣接概念(自由主義・共和主義)を理解する。民主政-独裁政の差異と君主政-共和政の差異は理論的・現代的な意味において別物であることを理解する。本来別物の自由主義と民主主義が歴史的経緯によって結びついてきたことを知り、時には自由主義と民主主義が衝突しうることも理解する。そのため現代的自由民主主義は自由をまもる諸制度(cf司法の独立)が必然的に含まれることを理解し、現在の自由民主主義指標(Freedom House, PolityIV)は実際にそれらを含めて世界の民主主義度を計測していることを知る。
3. 代議制民主主義の思想と対抗言説を理解する。間接民主制を擁護するシュンペーターの競争的民主主義観を理解し、他方で強力な対抗言説としての直接民主主義論や人民民主主義論・ポピュリズム(と後者がはらむ危険性)について知る。民主主義の多義性を理解し、最小限定義を示したダールのポリアーキー概念を学び、それが重要視する「競争」と「包摂」の2次元を理解する。V-dem指標を知り、たとえば民主主義の場から女性を排除してきたスイスは民主主義国だろうかといった問題を検討する。
4. 民主主義という意思決定手続きがいかにして正当化できるか複数の理論を知る。特に、最大多数最大幸福原理とコンドルセ陪審定理(CJT)について学ぶ。最大多数の最大幸福に基づく正当化は容易に多数派の暴政につながりうることを把握し、結果合理性の議論としてはCJTが重要な発想であることをその内容を含めて理解する。ただしCJTに対しては批判も存在し、オルタナティブとして結果の不確実性に伴う「支配の最小化」こそが重要だとする議論を紹介する。
5. この回より理論を離れて歴史や実証を重視する。こんにちの世界が近現代史上はじめて民主政が多数派となっている事を知り、それをもたらした「第3の波」について学ぶ。ラテンアメリカ、旧共産圏、アジア、世界の様々な地域で一斉に起こった民主化の波は、様々な形態を通じて発生したことを知り、それが定着に成功したり失敗したことがある事を知る。
6. 民主政と独裁政(権威主義体制)を比較検討する。独裁政もまた一定の制度的パフォーマンスをもとに体制維持を合理化していることを知り、民主政と独裁政の間に制度的なパフォーマンスの差があるのか、当為の言説からではなく実際のデータに基づいて理解する。経済的成長に関する古典的研究から、ガバナンスにかんする最新の研究まで触れることを通じて、民主政はどのような領域において独裁政より優れているのか/あるいは優れていないのかを理解する。
7. 権威主義体制の下位分類について理解する。リンスの全体主義論・権威主義論を元に、民主政とは言えなくとも一定の政治的多元性が許容されている制度があることを理解する。また、現代の権威主義体制の3分類法(軍・議会/党・個人)を知り、それぞれの特徴と、特に議会を通じた権威主義体制があることを把握する。そこから、選挙は民主主義の専売特許でもなんでもなく、時には独裁体制の強化につながり民主主義を棄損するだけである場合もあることを理解する。
8. ここまでの授業の整理として第1-7回の授業内容の定着を図る。授業スピードの進展の調整・授業の休講/補講・授業内での合同イベントの実施など、イレギュラーがあった場合の調整としてもこの回(に相当する回)を用いて、調整を行う。
9. 政治体制の変動について理解する。第3の波に限らず、体制変動はいかにして発生するか幅広いデータを通じて理解する。また、権威主義体制下における体制変動とは必ずしも民主主義体制への変動(民主化)を意味しないことや、民主主義を維持することと民主化を達成することは別であることなどを理解する。ムーアの階級構造理論と、経済発展(6055ドル仮説)・格差との関連性についての基礎的な実証分析を理解の補助線とする。
10. 民主政下の下位分類としての執政制度について理解する。執政長官をいかにして選ぶかという制度が極めて重要であることを知り、大分類として大統領制と議院内閣制について理解する。この際、日本の教科書的な三権分立の理解には不都合もあることを学ぶ。両執政制度に当てはまらない、半大統領制や首相公選制についても事例を含めて理解する。執政制度の差異は民主主義の維持との関連で非常に激しい議論があり、日本の中央政治と地方政治の理解にも重要であることを把握する。
11. 民主政下の下位分類としての選挙制度について理解する。選挙制度を分類する方法としては、特に定数と議席変換方式が重要であり、多数代表性=小選挙区制と比例代表制=複数選挙区制の基礎的な制度設計ないし制度効果について理解する。実際の選挙結果などをもとにその効果について確認する。特に日本の選挙と民主主義を考える上では、多数代表性&複数選挙区制(いわゆる中選挙区制)の効果の理解は不可欠であり、その制度がもつ理論的な効果と課題について理解する。
12. 民主政下の下位分類としての多数決型とコンセンサス型について理解する。同じリベラルデモクラシーの諸国の中でも、実際の民主政の運用は多様であり、様々な制度や運用の組み合わせによってバリエーションを示している。これを民主政の二つの理念系とその中間とみるLijphartの民主主義理論を学ぶ。実際のデータなどを通じて、世界の民主政のバリエーションがどのような次元で区別でき、どのような位置に置くことができるのか理解する。
13. 多文化社会における民主政の実現可能性について理解する。多数派の政治的意思に基づき政治的な決定と介入を行う民主政が、多文化社会において抱える困難を理解し、そのうえで、現実にも多民族国家でありながら民主政を維持してきた国々の観察から生まれた、コンソシエーション(多極共存型)デモクラシー理論を事例とともに習得する。他方で、本理論も多文化社会の権力分有としては万能ではなく、オルタナティブな議論もあることを理解する。
14. 情報通信技術の発展と民主主義の関連性について考える。広義のE-デモクラシーのうち、主に3つの課題について理解する。1つ目は特にSNSの発展が現在そして未来の民主主義に与える影響であり、楽観論と悲観論の双方を理解する。2つ目はインターネット投票であり、先行事例としてのエストニアの状況の解説とその問題点、日本や世界の状況について知る。3つ目はいわゆるAIと民主主義の問題であり、古典的なテクノロジーと民主主義の緊張関係の延長としてこの問題をとらえる視点を涵養する。

民主主義とは何か 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

15. ここまでの授業の整理として第9 - 13回の授業内容の定着を図る。授業スピードの進展の調整・授業の休講/補講・授業内での合同イベントの実施など、イレギュラーがあった場合の調整としてもこの回(に相当する回)を用いて、調整を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験:100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回において参考文献を授業スライドに提示する。復習やさらなる学習のためにそれを用いる事。また、各回の最後に次回授業のキーワードや前提知識となる単語を示すので、それらについては事前予習してくる事。
さらに、事前事後学習とは単に座学に限られない。本講義で学習した知見をもとに、現実に自らが生まれたり住んでいる国や地方の政治について考えたり、受講者同士で議論を交わしたり、関連するTV報道・新聞記事・ネットメディア報道などを購読して自分なりの意見形成をすることが、きわめて重要な事前事後学習となる。

履修上の注意 /Remarks

【重要】2019年度より本科目の担当者が変わっております。履修に際しては本シラバスの情報のみを参考にしてください。また、本シラバスをご覧になった学生諸君は、本科目の履修を検討している学友とも本情報の共有に努めてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教養科目ですので込み入った法学・政治学の知識は必要ありません(それがない人を想定して授業を行います)。ただし、高校卒業程度の英語・世界史、中学程度の数学の知見は必要です。これらについては授業において逐一補足しませんので、各自で能力を維持してください。

キーワード /Keywords

SDG 5. ジェンダー平等 SDGs 16. 平和と公正

文化を読む【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科, 河内 重雄 / KOUCHI SHIGE O / 比較文化学科
生住 昌大 / IKIZUMI MASAHIRO / 比較文化学科, 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター
真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIT001F			◎		○
科目名	文化を読む		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

文化を研究するうえで、解釈する = 読む行為は、分野をこえる基本的な営みである。本講義では、さまざまな人間の表現をとりあげて、人文的な知見からどのようにそれが読み解けるのかを示していく。文学研究、宗教研究、異文化間教育といった専門的知見から、その基本的な知識と方法を提示してみたい。「いま」、「ここ」にいる「わたし」にとって、異文化は時空をこえてひろがっている。そのことに鋭敏になるための気づきを用意するので、受講者は文化を読み解く柔軟な視点・姿勢を獲得してほしい。

◎宗教

宗教は文化の重要な構成要素であり、人間社会の価値観と密接な関係にある。我々にとってなじみ深い神道を取り上げ、他宗教との比較の観点を交えながらわかりやすく講義したい。

◎メディア

人間の生活はさまざまなメディアに媒介されて成立しています。本講義では異なるメディア間の表現比較、歴史的変遷の検討をおこないながら、われわれがなぜその表現にひかれてしまうのかを考えていきます。

◎異文化間教育

文化というもの、見える文化と見えない文化があり、本人が自覚しにくい見えない文化に気づくことが異文化理解の始まりである。異文化の理解があつてはじめて、外国語のコミュニケーション能力が育つ。

◎日本近現代文学および出版文化

日本の文学・出版物とはいえ、読めばわかるというものではない。明治・大正・昭和時代ともなれば、もはや異文化である。同時代の文化について学びながらテキストと対話する基本姿勢を身につけてもらいたい。

教科書 /Textbooks

特定のテキストは使用しない。授業担当者が必要に応じて資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 神社の成立
- 第3回 日本の神—神教との比較を通して
- 第4回 罪・戒律・禁忌
- 第5回 メディア表現の比較にむけて
- 第6回 作品研究(導入)
- 第7回 作品研究(鑑賞)
- 第8回 作品研究(比較と分析)
- 第9回 異文化を理解することは可能なのか?(見えない文化と価値観)
- 第10回 バイリンガルはうらやましい?(「移動する子ども」のライフストーリー)
- 第11回 異文化トレーニング(他者との出会いを捉え直す)
- 第12回 安部公房「棒」の解釈
- 第13回 乙一「陽だまりの詩」の解釈
- 第14回 幕末・明治の出版物(西南戦争風刺画を知る)
- 第15回 幕末・明治の出版物(西南戦争風刺画を読み解く)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート = 100% (宗教、メディア、異文化間教育、文学に関する4つのレポートすべてを提出しなければ、評価の対象とはならない)

文化を読む【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習については、授業担当者が講義中に指示する。
事後学習は、各回の授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

私語など、講義を妨げる行為は厳禁。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

履修等に関する質問は、コーディネーターの佐藤に質問すること。
講義内容に関する質問は、各回の授業担当教員に質問すること。

キーワード /Keywords

日本近現代文学、宗教、異文化、メディア

芸術と人間【昼】

担当者名 /Instructor 真武 真喜子 / Makiko Matake / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PHR006F			◎		○
科目名	芸術と人間		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

20世紀後半から現在まで、生き存在し活躍する芸術家の人物像に焦点をあて、その活動する時代背景や社会との関係を浮かび上がらせ、また美術の歴史の中での位置を確認し、同様の主題によって広がる同時代の動きにつなげてみる。
毎回一人のアーティストを選び、作品や展覧会活動を追って紹介しながら、美術一般や現代社会との関係を探り、表現の原動力となるものを考察する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「現代アート事典 モダンからコンテンポラリーまで...世界と日本の現代美術用語集」
美術手帖編集部 美術出版社 2009
- 「現代美術史日本篇 1945-2014」著・中ザワヒテキ アートダイバー 2014
- 「現代アートとは何か」河出書房新社 2018年 著・小崎哲哉

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 浜田知明 戦争の目撃者 戦争画と現代美術における反戦・反原発主題の作家と作品
2. ポルトゥガーズ「暗闇のレッスン」で生と死を見つける
3. ジャン・デュビュッフェ ART BRUTの世界を開いて
4. 寺山修司 劇的想像力について
5. 中平卓馬 なぜ植物図鑑か
6. フランク・ステラ ミニマルからプロジェクトまで
7. ロバート・スミッソン 大地の改造計画
8. 青木野枝 鉄と生きる 鉄と遊ぶ
9. ソフィー・カル フィクションとしての写真
10. 白川昌生 生涯にわたるマイナーとして
11. 山口圭介 原発に抗する
12. 奈良美智 コドモの領分
13. ヤノベケンジ 失われた遊園地
14. ナデガタ・インスタント・パーティ 人々を巻き込むプロジェクト
15. 会田誠 道程

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト 2回 50%
レポート(学期末) 40%
日常の取組(出欠など) 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (1)自主練習を行い、授業の内容を反復すること。
- (2)随時、課題を学習支援フォルダに挙げるので、参照し準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

小テストやレポートは、授業の内容を把握しているかどうかよりも、むしろ授業で得た知識を自身の関心においてどのように展開したが、また、展開させたいか、を問うものである。
近隣の展覧会を見て回るなど、日常的にも美術の環境に親しんでいただきたい。

キーワード /Keywords

アートと社会、プロジェクト

現代正義論 【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 /Credits 単位 2単位 /Semester 学期 2学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PHR003F			◎		
科目名	現代正義論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、現代正義論の流れを概観する。次に、現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題をとりあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的で身近な生命倫理にかかわる諸問題をとりあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房、2010年）
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』（早川書房、2010年）
- 深田三徳、濱真一郎『よくわかる法哲学・法思想 第2版』（ミネルヴァ書房、2015年）
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』（勁草書房、2006年）
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』（創文社、1995年）
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』（講談社、1997年）
- 瀧川裕英、宇佐美誠、大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ~ 問題の所在
- 第2回 現代正義論とは ~ 本講義の概観
- [第3回~第7回まで 「正義」の応用問題(生命倫理と法)]
- 第3回 脳死・臓器移植① ~ 臓器移植法の制定と改正
- 第4回 脳死・臓器移植② ~ 法改正時の諸論点
- 第5回 脳死・臓器移植③ ~ 改正臓器移植法の施行と課題
- 第6回 安楽死・尊厳死① ~ 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② ~ 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ~ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ~ ロールズとノージック
- 第10回 現代正義論③ ~ ノージックのリバタリアニズム
- 第11回 現代正義論④ ~ サンデルの共同体主義
- 第12回 現代正義論⑤ ~ 共同体主義【論争】
- 第13回 現代正義論⑥ ~ アマルティア・センの正義論
- 第14回 現代正義論⑦ ~ センとロールズ・ノージック
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

現代正義論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、当該回に扱うテーマについて、自ら予習をしておくこと。授業の後は、各回の講義で配布したレジюмеや資料をきちんと読み込み、復習し理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解の役にたつと思います。

キーワード /Keywords

SDGs10. 不平等をなくす SDGs16. 平和と公正 ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

情報表現【昼】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF230F		○	◎	○	
科目名	情報表現				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、自分自身が伝えたい情報を表現すると共に、他者が表現した情報を理解するための知識や技術を習得することである。現代社会では、多様な人々と協力して、目標を達成するための力が求められている。自分の想いを一方的に伝えるだけでなく、他者の存在を意識して表現することが重要である。また、他者の意見を丁寧に聞き、その想いや立場を理解して、協調しながら物事を進めていく能力も大切である。このため、本授業では、個人ワークやグループワークを行いながら、以下の3点の習得を目指す。

- ・プレゼンテーションやロジカルシンキング、スライドデザインなどに関する学びや疑問などを具体的に表現することができる。
- ・プレゼンテーションソフトを活用して、伝えたい情報を分かりやすく表現することができる。
- ・相手に伝わりやすい表現を用いて、積極的に発表することができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 プレゼンテーション【要約】
- 3回 プレゼンテーション【PREP】
- 4回 ロジカルシンキング【課題発見】
- 5回 ロジカルシンキング【原因分析】
- 6回 プレゼンテーション【パワーポイント】
- 7回 プレゼンテーション：情報の収集【検索】【信頼性】
- 8回 プレゼンテーション：情報の整理【プロット】
- 9回 プレゼンテーション：情報の整理【ストーリー】
- 10回 プレゼンテーション：情報の表現【デザイン】
- 11回 プレゼンテーション：情報の表現【レイアウト】【話し方】
- 12回 プレゼンテーション：情報の発信【発表】
- 13回 プレゼンテーション：情報の発信【聞き手】
- 14回 振り返り
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

振り返りレポート... 40%
プレゼンテーションソフトを用いた課題作成... 40%
積極的な授業参加(宿題提出や発表などを含む)... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに、予め授業テーマについて学習し、課題を準備しておくこと。課題は、コンピュータ操作を伴うものもある。(必要な学習時間の目安は、90分。) 授業終了後には、授業中に学んだことを振り返り、課題レポートを締め切りまでに間に合うように提出すること。(必要な学習時間の目安は、30分。)

情報表現【昼】

履修上の注意 /Remarks

この授業を受講する場合は、「アカデミック・スキルズ」を履修しておくことが望ましい。グループワークを行う際のグループ分けについては、その都度、授業中に説明する。自由に組んでもらう場合もあれば、指定する場合もある。何れの場合も相手の立場を尊重して、建設的なグループワークを行って欲しい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ほぼ毎回、振り返りレポートを提出してもらい、受講生の質問や意見を反映させながら、授業を展開する。このため、積極的に授業に参加して欲しい。また、実際にコンピュータを操作して作成する課題もある。その際には、授業時間外にパソコン自習室や自宅のパソコンなどで積極的に取り組んで欲しい。受講生の理解度に応じて、授業計画や授業内容を変更することがある。その場合は、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、スライドデザイン

倫理思想史【昼】

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PHR005F			◎		
科目名	倫理思想史		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

近代では倫理は「倫理学」として独立した分野になっていますが、洋の東西を問わず、倫理・道徳は宗教（聖）、政治的共同体と密接な関係をもっています。また西欧においては、道徳的なものは美をもつとされ、「美しき魂」「美しき国家」の理想がとくにドイツ思想において重視されてきました。

この講義では、倫理・道徳と宗教（聖）、倫理・道徳と自然法、倫理・道徳と美（芸術作品）との分裂や融合のせめぎ合いの歴史を、近代の思想をたどることによって、明らかにします。そのことによって、現代において、法や社会を見る目が涵養され、自分がどのように行動し、判断すればよいかの「判断力」を養成する一助となることをめざします。

教科書 /Textbooks

各講義でレジメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が毎回、原典と参考文献をレジメで紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1講 インTRODクシヨN：カール・シュミットと「中立性の時代」
- 第2講 第1部 聖と善の分離
 - (1) ルター：宗教の内面化
- 第3講 (2) ホッブズ：宗教と国家の分離、「暗黒の王国」と宗教的権威に変わる「主権」=「可死の神」
- 第4講 (3) スピノザ：民衆の道徳としての宗教、『神学・政治論』
- 第5講 (4) カント：理神論を超える理性宗教、『理性の限界内における宗教』
- 第6講 (5) フィヒテ：理性宗教の確立「生きた道徳法則が宗教」

- 第7講 第2部 法と善と聖の分離とせめぎあい
 - (1) ルソー：自律道徳のための法としての『社会契約論』
- 第8講 (2) カント：自由と法、「理論と実践」
- 第9講 (3) フィヒテ：フランス革命の哲学と『自然法の基礎』
- 第10講 (4) カール・シュミット：主権の不可侵性、「政治神学」

- 第11講 第3部 美と人倫、「美しき共同体」を求めて
 - (1) カント：美と目的論、『判断力批判』
- 第12講 (2) シラー：美と人倫、『カリアス書簡』と『美的教育書簡』
- 第13講 (3) ヘルダーリン：精神の詩学、『ヒュペーリオン』と『エンペドクレス』
- 第14講 (4) マルクス：物象化とコミュニケーション主義としてのコミュニズム
- 第15講 (5) ウィリアム・モリス：美と工芸のコミュニズム

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート60パーセント。講義中でのリフレクション・カード40パーセント。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、参考文献を挙げるので、取捨選択して読んで下さい。

履修上の注意 /Remarks

交通機関の遅れなどやむをえない場合（要証明書）を除いて、30分を超えての遅刻入室は認めません。

倫理思想史 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

わかりやすい授業を心がけます。質問、議論を歓迎します。

キーワード /Keywords

言語・認知・コミュニケーション【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科
松田 憲 / マネジメント研究科 専門職学位課程, 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
木山 直毅 / Naoki KIYAMA / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIN210F			◎		
科目名	言語・認知・コミュニケーション				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

言語の習得やコミュニケーションにおける処理はどのように行われるのか。特に、それらはヒトの他の認知能力（視覚、聴覚）や活動（記憶、認識）と同じなのか。また、語彙や構文はどのようにして私たちの頭の中に蓄えられ、用いられるのか。これらの問いについて、言語学(特に生成文法理論と認知言語学)、認知科学、心理学、生物学の側面から学際的に考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実際の日程により順番が変わる可能性があります。第1回授業時配布の予定表を参照して下さい。
まとめ (担当者によるパネル・ディスカッション)

- 第1回 序・講義の進め方・担当者紹介 (漆原・全員)
- 第2回 ことばはどのように身につけられるのか (言語習得) (漆原)
- 第3回 ことばはどのように処理されるのか (言語脳内処理・失文法) (漆原)
- 第4回 コミュニケーション行動の初期発達過程 (税田)
- 第5回 発達の障害とコミュニケーション (税田)
- 第6回 コミュニケーションにおける発達支援 (税田)
- 第7回 ヒューマンエラー (松田)
- 第8回 アフォーダンスとシグニファイアー (松田)
- 第9回 脳と心のなりたち (脳のはたらきを支配する遺伝子) (日高)
- 第10回 ことばはなぜヒトに特有なのか (言語と遺伝子) (日高)
- 第11回 モノの見方と言語表現 (認知意味論) (木山)
- 第12回 比喩は文学表現か (メタファー) (木山)
- 第13回 文は語彙の足し算か (構文文法論) (木山)
- 第14回 ことばとジェンダー (漆原)
- 第15回 まとめ：担当者によるパネル・ディスカッション (全員)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 20% レポート 16% x 5 = 80%
(すべての教員の課題を提出しない限り評価不能(-)となります。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：担当教員あるいはコーディネーターが指示した文献等の講読
事後学習：担当教員ごとの課題・レポートの提出

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。
* 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

言語・認知・コミュニケーション【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
知の創造科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

戦争論 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS210F	○		◎		○
科目名	戦争論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

戦争とは何かを体系的に考えてみることをねらいとします。「日本の防衛」を履修済みの人はもちろん、まだ履修したことのない人の受講も大歓迎です。一言で言えば、「戦争とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

なし。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ホモサピエンスと戦争の起源(1)サルからヒトへ
- 第3回 ホモサピエンスと戦争の起源(2)ヒトの組織的戦争と定住の始まり
- 第4回 戦争概論～戦争の定義
- 第5回 戦争の経歴(1)絶対主義時代の戦争
- 第6回 戦争の経歴(2)革命戦争
- 第7回 戦争の経歴(3)近代戦争
- 第8回 両大戦の特徴(1)総力化
- 第9回 両大戦の特徴(2)イデオロギー化、(3)全面化
- 第10回 日本と原爆～原爆の開発過程、完成、投下
- 第11回 核兵器の構造
- 第12回 核兵器出現に伴う変化(1)時間的文脈における変化
- 第13回 核兵器出現に伴う変化(2)空間的文脈における変化
- 第14回 核兵器の役割(抑止概念、抑止条件、相互確証破壊)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業計画に沿って時系列的に講義を進めるので、該当する時代の高校世界史について再度確認しておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

異文化理解の基礎 【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ANT110F	○		○	◎	
科目名	異文化理解の基礎		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。（おそらく大部分が）北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではごくまれたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。文化に関する日常的な知識は、応用的なものばかりなので、基礎をしっかりと学び、総合的な理解力、思索力を身につけることをめざす。

講義中に何回か指定するトピック（次回のテーマに関するもの）についての記述を求め、次回の講義の冒頭で、提出された内容から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進める。本講義は、個々の文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既成概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身に付ける手掛かりを学んでほしい。

教科書 /Textbooks

予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目のリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を購入する必要はありません。なお、講義に関する映画を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません（観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の図書も用いた課題などは指示します）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 田中雅一ほか(編)2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
- 波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

異文化理解の基礎【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：世界を理解するてがかりとしての文化

第I部 文化の基礎としての家族

第2回 伝統的家族の多様性

第3回 家族観の変容と近代

第4回 親族という認識

第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張

第6回 ジェンダーと伝統文化

第7回 文化相対主義の考え方

第8回 伝統文化について：構築主義と本質主義

第9回 中間テスト

第II部 文化と世界観

第10回 儀礼と世界観

第11回 宗教とコミュニティ

第12回 さまざまな信仰心

第13回 不幸への対処としての呪術

第14回 中間テストの解説

第15回 政教分離と世俗化

※出張などの理由で休講が入った場合、内容を変更することがある。具体的なスケジュールについては初回の講義で説明する。

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト+課題など40%、期末テスト60%を基本に、各自の授業貢献を適宜加点する。

※中間テストを予定しているが、受講者の数によってはレポートにすることがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・ 予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。

・ Moodleで適宜ミニ課題を出します。締め切りまでに提出してください。

・ 講義に関連する映画やDVDなどの映像資料を授業時間外に視聴することを求めることもあります。

履修上の注意 /Remarks

・ 評価方法やテキストとなる電子ブックや講義資料の閲覧方法など重要事項は第一回の講義で説明しますので、第一回目の講義は必ず出席してください。

・ 中間テストの無断欠席者や、提出課題の不正、授業態度が目に見える受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

・ 講義に出席していても、テストやレポートの評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。講義中に指示した関連文献を読むなど、復習にも真剣に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

〇〇人に××を贈るのはタブーである、といった個別具体的な異文化理解のマニュアルは、全く役に立たないわけではないですが、そのような情報は必要な時に努力すればすぐ入手できます。この授業では、文化が異なるとはそもそもどういうことかについて、もっと根本に立ち戻って考えたいと思います。あなたは、人間関係をマニュアルで対応しようとする人と、あなた個人の特性を理解しようとする人と、どちらを友人として信頼しますか？

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、共同体、社会関係、SDGs10 不平等をなくす

人権論 【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOC004F			○	◎	○
科目名	人権論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

「人権」といえば「特別なもの」というイメージを抱くかもしれないが、実際には「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無自覚的に他者の「人権」を侵害しているということがある。

本講義では「人権」についての基本的な概念、現存する人権課題やその社会的背景を考察した上で、自分にとっての人権とは何か、我々の社会が抱える人権課題とは何かについて共に考えていきたい。

目標

1. 人権とは何かについての基本的な概念が理解できる。
2. 人権獲得の歴史を体系的に理解できる。
3. 現代社会における様々な人権課題についての認識を深める。
4. 自分自身にとっての人権課題を明確にする。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / (公社) 福岡県人権研究所発行 ¥1000)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な参考書は授業時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 「自分にとっての人権課題」 オリエンテーション / 自分と人権との関わりを考える。
- 2 「人権とは何か」 人権とは何かについて解説する。
- 3 「人権獲得の歴史」 人権獲得の歴史について近代革命を中心に解説する。
- 4 「世界人権宣言と人権条約」 世界人権宣言採択の歴史的経緯や意義などを解説する。
- 5 「平和と人権」 戦争・平和についての解説。
- 6 「ハンセン病について」 ハンセン病についての認識を深めることや元患者を取り巻く社会の状況を解説する。
- 7 「教育と人権～識字問題」 読み書きができないことがもたらす人権侵害などを解説する。
- 8 「教育と人権～夜間中学」 教育を受ける権利の保障とは何かを事例を交えて解説する。
- 9 「部落問題について」 現存する部落問題の事例から部落問題とは何かを解説する。
- 10 「部落問題について」 当事者の思いを聞き、部落差別とは何かを考える。
- 11 「在日外国人と人権課題」 在日外国人の現状と人権課題を解説する。
- 12 「在日コリアンについて」 在日コリアンの歴史、現状、課題などを解説する。
- 13 「障害者と人権」 障害者の立場からみる人権課題を知る。
- 14 「アジアの人権状況」 アジアの人権問題を事例を交えて解説する。
- 15 「まとめ」 現代社会の人権課題に自分たちはどう向き合うのか、共に考える。

※5～14については、状況により順序が入れ替わる場合あり。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に取り組む姿勢【50%】と前期末試験（またはレポート）【50%】により評価する。

人権論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 新聞、テレビ、ネットなどを通して、私たちの社会で起きている様々な人権課題に関心を持ち、毎回のコメント用紙に反映させることが望ましい。
- ・ 教科書及び配布資料は熟読すること。

履修上の注意 /Remarks

私語は厳禁、授業態度は重視する。
出席率7割を満たした学生のみ前期末試験の受験（またはレポート提出）を許可する。
代筆や代返などを含む不正行為を行った場合は、即座に出席が停止され、単位取得は不可となる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分と他者の学ぶ権利を意識して授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

「すべての人」「人間らしく生きる」
「SDGs 4 質の高い教育を」「SDGs 10 不平等をなくす」「SDGs 16 平和と公正」

ジェンダー論 【昼】

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GEN001F			○	◎	○
科目名	ジェンダー論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

なぜ男言葉と女言葉があるのか、なぜ女性の大芸術家は現れないのか、「男は仕事、女は家庭」は自然な役割なのか、なぜ政治学や法学・科学の分野に女性教員や女子学生が少ないのか、なぜ戦時・平時にかかわらず女性に対して暴力が振るわれるのか—そのような日常的に「当たり前」となっていることをジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を理解し、使えるようになることを目標とする。また、社会や文化に潜むジェンダーを可視化するツールとしての統計を分析する方法を学ぶ。

教科書 /Textbooks

牟田和恵編『改訂版 ジェンダー・スタディーズ—女性学・男性学を学ぶ』（大阪大学出版会、2017）2,640円
適宜、補足資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編『岩波女性学辞典』（岩波書店、2002）
マギー・ハム『フェミニズム理論辞典』（明石書店、1997）
R.W. Connell, Gender: Short Introduction. Polity, 2002.

ジェンダー論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本語とジェンダー-戦後から現代までの日本歌謡曲【女言葉】【男言葉】
- 2回 ジェンダー・リテラシーで読み解く文学-村上春樹作・小説『ノルウェイの森』【眼差し】
- 3回 現代アートとジェンダー-映画『ロダンを愛したカミーユ・クローデル』【制度】
- 4回 男もつらいよ-アーサー・ミラー作・戯曲『セールスマンの死』【男らしさ】【性別分業】
- 5回 ジェンダー家族を超えて-週刊誌『女性自身』にみる皇室家族の肖像【近代家族】
- 6回 セクシュアリティを考える-あだち充作・マンガアニメ『タッチ』【ホモソーシャル】
- 7回 学校教育の今昔-学園TVドラマの系譜【隠れたカリキュラム】
- 8回 社会保障とジェンダー-津村記久子作・小説『ポトスライムの舟』【貧困の女性化】
- 9回 ジェンダーの視点からみる農業-エレン・グラスゴー作・小説『不毛の大地』【農業経営】
- 10回 アジア現代女性史の試み-ミュージカル『ミス・サイゴン』【女性に対する暴力】
- 11回 女性差別撤廃条約と人権-絵本『世界中のみまわり姫へ』【民法】【均等法】【DV防止法】
- 12回 ジェンダーと平和学-女性戦士の系譜『リボンの騎士』『風の谷のナウシカ』【平和構築】
- 13回 グローバリゼーションと労働市場-国連『人間開発計画報告書』【移住労働】
- 14回 デートDV-TVドラマ「ラスト・フレンズ」【ドメスティック・バイオレンス(DV)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の積極的な発言...25%、プレゼン...25%、レポート...25%、期末試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、授業の各回に予定されている章を読み、それに関連した日常生活でみられる事象例を探して、授業に臨むこと。事後学習としては、期末課題の作成に向けて、資料等を探して読み、レポートの構想を練るなど、準備を進めること。

履修上の注意 /Remarks

- (1)法制度改正の動きを新聞等で把握しておくこと。
- (2)メディア表現を含め日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発言、プレゼン、レポート、期末試験に反映させること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プレゼンにはパワーポイント使用のためPPT資料作成スキルズを身につけておくこと。

キーワード /Keywords

「セックス」「ジェンダー」「セクシュアリティ」「ポリティクス」「ジェンダー統計」

サービスラーニング入門I【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR110F	○			◎	○
科目名	サービスラーニング入門I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本講義は地域共生教育センター担当科目として開講します。
地域貢献活動に参加するための入門科目として、主に以下の点を目的とします。

- ・ サービスラーニングに向けた基本的知識の学習
- ・ サービスラーニングに向けた実践的方法論の習得
- ・ 地域活動に参加している学生との交流を通じた地域活動に対する参加意欲の向上
- ・ 地域活動の実践と学び

教科書 /Textbooks

レジュメを配布します。
講義時に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 ガイダンス 講義の目的、受講に当たっての留意事項の説明、レポート課題の説明
- 第2回目 サービスラーニング概論①(サービスラーニングという概念と考え方)
- 第3回目 サービスラーニング概論②(サービスラーニングの理論と実践)
- 第4回目 地域活動概論①(地域活動の紹介)
- 第5回目 地域活動概論②(コミュニティワークの紹介と応用)
- 第6回目 地域活動参加学生とのワークショップ①
- 第7回目 地域活動参加学生とのワークショップ②
- 第8回目 サービスラーニング活動の紹介
- 第9回目 サービスラーニングに向けて①(マナー・ルール・手続き等について)
- 第10回目 サービスラーニングに向けて②(サービスラーニングを通じた学びへの姿勢)
- 第11回目 実践報告①
- 第12回目 実践報告②
- 第13回目 実践報告③
- 第14回目 実践報告④
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

「第一回講義時のレポート+実践報告最終レポート」(55点) + 「授業内での小テスト+授業への取り組み」(45点) = 合計100点評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

「サービス・ラーニング」を実際に行うにあたっては、事前の学習、綿密な準備、計画を必要とします。
講義内では、その回の内容に関連した復習用の自習課題(関連する映像資料や書籍・新聞記事などのレビュー)を提示しますので、次回の講義までに各自行ってきてください(自習時間の目安は60分程度)。
受け入れ先についての下調べや打ち合わせのための準備もそうした作業に含まれます。また「サービス・ラーニング」後についても、その活動内容の記録、報告書の作成、および、自らの振り返りなどが必要になります。

サービスラーニング入門I【昼】

履修上の注意 /Remarks

本科目は受講者による「サービス・ラーニング」への参加を前提としています。したがって受講生は、自ら「サービス・ラーニング」を受け入れてくれる団体を探し、受け入れの交渉と了解を得、その後、実際に活動をしてもらいます。このような意味から、本講義は受講者の積極性や自発性を必要とします。そのため、この科目の履修するにあたっての思いや学びに向けた考えなどを「事前レポート」(1500字程度)を書いてもらい、それを第二回目の講義の際に提出してもらいます。このレポートの提出は単位取得のための必須条件としています。本講義は、こうした課題などに積極的にコミットする受講生を求めています。さらに本講義では、講義時間外の学習・作業も多くあります。受け入れ先の調査や面談のためのアポイント、学習計画書の作成や実習に向くための事前準備などです。こうした課題をこなしつつ、講義と実習の両方に真摯に取り組むことが必要になります。詳細は第一回のガイダンスの際に説明しますので必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目は全学組織である地域共生教育センターが提供する科目です。この科目をきっかけとして地域活動へ参加していただきたいと思います。また、この講義は第二学期開講の「サービス・ラーニング入門II」と連動していますので、続けて履修されることを望みます。

キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、経験を通じた学び

サービスラーニング入門II【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR180F	○			◎	○
科目名	サービスラーニング入門II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターが担当する科目です。この授業の目的は、受講生が実際に地域活動に参加し、その実践をふりかえることでより深い学びを得るところにあります。授業では、各学生が自らの参加が参加した「サービスラーニング」の活動内容とそこでの学びを報告し合い、互いの議論を通じて、学習と理解を深めていきます。この授業を通じて多くの学びと気づきを得られることを期待します。

教科書 /Textbooks

レジメを配布します。
講義時に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 サービス・ラーニング概論①(サービスラーニングの理論枠組み)
- 3 サービス・ラーニング概論②(実践としてのサービスラーニングについて)
- 4 サービス・ラーニングの実践と学び①(受入先の探索)
- 5 サービス・ラーニングの実践と学び②(実践にむけての心構えと準備)
- 6 サービス・ラーニングの実践に向けて①(実習先での学習計画の作成・提出)
- 7 サービス・ラーニングの実践に向けて②(学習計画書の修正・提出)
- 8 計画発表会①
- 9 計画発表会②
- 10 実践報告①
- 11 実践報告②
- 12 実践報告③
- 13 実践報告④
- 14 受講生による振り返り
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

「第一回講義時のレポート+実践報告最終レポート」(55点) + 「授業内での小テスト+授業への取り組み」(45点) = 合計100点評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

「サービス・ラーニング」を実際に行うにあたっては、事前の学習、綿密な準備、計画を必要とします。
講義内では、その回の内容に関連した復習用の自習課題(関連する映像資料や書籍・新聞記事などのレビュー)を提示しますので、次回の講義までに各自行ってきてください(自習時間の目安は60分程度)。
受け入れ先についての下調べや打ち合わせのための準備もそうした作業に含まれます。また「サービス・ラーニング」後についても、その活動内容の記録、報告書の作成、および、自らの振り返りなどが必要になります。

履修上の注意 /Remarks

本科目は、前期の「サービス・ラーニング入門I」と連動しています。そのため講義内容も「サービス・ラーニング入門I」を履修した学生を対象にしたものとなります。ですので受講希望者は、原則、1学期の「サービス・ラーニング入門I」を履修してから本科目を登録するようにしてください。「サービス・ラーニング入門I」の単位を取得していない学生の履修を認めないわけではありませんが、上述のように「サービス・ラーニング入門I」の内容を踏まえた講義になりますので、「サービス・ラーニング入門II」から履修しようとする学生に対しては、授業のはじめに別途課題を課します。そして、その課題+「サービス・ラーニング入門IIの課題」の両方を提出して、初めて単位を認めるかたちとします。以上の点を十分に留意し履修登録して下さい。

また本講義は、講義時間外の学習・作業も多くあります。受け入れ先の調査やアポイント、学習計画書の作成、実習に出向くための事前準備などです。こうした課題をこなしつつ、講義と実習の両方に真摯に取り組むことを望みます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「サービス・ラーニング入門I」で得られた学びをより深めていくことを目的としています。社会への貢献活動を通じて多くの学びと喜びを得てください。

キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、経験を通じた学び、ピアディスカッション

市民活動論 【昼】

担当者名 /Instructor 西田 心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE001F	○			◎	○
科目名	市民活動論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものか、日本の現実を歴史的に振り返り、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。主要な事例をとりあげ、それを柱にしなが授業を進めて行く予定である。到達目標としては受講生が自分なりの「政治参加」のあり方を柔軟に考えられるようになることである。
「SDGs」の目標の中の「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 検討の枠組みについて
 - 3回 枠組みを使った民衆行動の分析① - 政治と経済
 - 4回 枠組みを使った民衆行動の分析② - 市民
 - 5回 市民活動の<萌芽>① - 政治と経済
 - 6回 市民活動の<萌芽>② - 市民
 - 7回 市民活動の<再生>① - 政治と経済
 - 8回 市民活動の<再生>② - 市民
 - 9回 市民活動の<広がり>① - 政治と経済
 - 10回 市民活動の<広がり>② - 市民
 - 11回 中間まとめ
 - 12回 北九州市における市民活動のうねり
 - 13回 今日の市民活動の<展開>① - 政治と経済
 - 14回 今日の市民活動の<展開>② - 市民
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な参加姿勢... 20%
期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合があります。その際の積極的な参加が求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

この講義は「SDGs」世界を変えるための17の目標に幅広くあてはまるものですが、とくに「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

地域福祉論 【昼】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW011F	○			◎	○
科目名	地域福祉論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

- ・ 地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂 等を含む）について理解する。
- ・ 地域福祉の主体と対象について理解する。
- ・ 地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。

教科書 /Textbooks

志賀信夫・ 畠中亨（2016）『地方都市から子どもの貧困をなくす 市民・ 行政の今とこれから』旬報社 1,400円＋税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

福祉士養成講座編集委員会編（2015）『新・ 社会福祉士養成講座〈9〉地域福祉の理論と方法-地域福祉論』中央法規
難波利光・ 坂本毅啓編（2017）『雇用創出と地域-地域経済・ 福祉・ 国際視点からのアプローチ-』大学教育出版
その他、適宜授業中に紹介します

授業計画・ 内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域福祉の基本的考え方と理念【構造的アプローチ、機能的アプローチ】
- 2回 地域福祉の発展過程1【セツルメント運動、シーボーム報告、グリフィス報告】
- 3回 地域福祉の発展過程2【高齢化、社会福祉八法改正、非貨幣的ニード】
- 4回 ゲストスピーカー
- 5回 地域福祉の理念【人権尊重、社会連帯】
- 6回 地域福祉の理念【ノーマライゼーション、福祉コミュニティ】
- 7回 地域のとらえ方と福祉圏域【コミュニティ、圏域、アソシエーション】
- 8回 コミュニティソーシャルワークの考え方【チームアプローチ、ニーズ】
- 9回 コミュニティソーシャルワークの方法【地域福祉計画、ケアマネジメント】
- 10回 貧困と地域福祉活動【社会福祉協議会、貧困の連鎖】
- 11回 障害者と地域福祉活動【総合支援法、成年後見制度、QOL】
- 12回 高齢者と地域福祉活動【地域包括支援センター、民生委員、社会福祉法人】
- 13回 女性と地域福祉活動【子育て支援、一人親家庭】
- 14回 子どもと地域福祉活動【児童館、保護司】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に指示する課題の提出・・・40% 期末試験・・・60%

事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、教科書や参考文献の講義内容に関する箇所を読み込んだり、関連する情報の収集などを行って下さい。
事後学習としては、講義で学んだことを通して、自分の住んでいる地域について調べたり、新聞等の記事に書かれている地域福祉に関するニュースについて調べて考察をしてください。授業中に課題が出た場合は、必ず取り組むようにして下さい。

履修上の注意 /Remarks

この科目は、基盤教育科目として開講される科目ですが、地域創生学群において社会福祉士養成課程における科目「地域福祉の理論と方法」に含まれる科目のひとつ（もうひとつは地域創生学群専門科目の「コミュニティワーク論」）でもあります。2019年度以降の地域創生学群入学生で、社会福祉士国家試験受験資格取得を希望される場合は、この科目の履修が必要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これからも地域で生活をしていくための教養として、「福祉のまちづくり」について一緒に考えてみましょう。

キーワード /Keywords

SDGs1.貧困をなくそう、SDGs3.健康と福祉を、SDGs4.不平等をなくす、SDGs11.まちづくり、福祉のまちづくり、少子高齢化、子どもの貧困、コミュニティソーシャルワーク、社会福祉士

障がい学【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW001F	○		○	◎	
科目名	障がい学				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、具体的には発達障害である自閉スペクトラム症（障害）を取り上げながら、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。
障害をテーマとした映画等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障害」に対するイメージ、ディスカッションも含む【障害イメージ】
- 第3回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回：自閉スペクトラム症（障害）とは①自閉症の特性【自閉症】
- 第6回：自閉スペクトラム症（障害）とは②自閉症観の変遷【自閉症】
- 第7回：自閉スペクトラム症（障害）支援方法①構造化の意味【構造化】
- 第8回：自閉スペクトラム症（障害）支援方法②コミュニケーション支援【コミュニケーション】
- 第9回：合理的配慮とは【合理的配慮】
- 第10回：文化モデル的作品DVDの視聴①前半【文化モデル的作品】
- 第11回：文化モデル的作品DVDの視聴②後半【文化モデル的作品】
- 第12回：文化モデル的作品の評価【3つのモデルとの関連で】
- 第13回：3つのモデルの関係性【3モデルの在り方】
- 第14回：共生社会へ向けての課題、自己への問いとしての障がい学【共生社会】【自己への問い】
- 第15回：質問日。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

障害関連の報道等に常に関心をもって接すること。具体的には、授業で、その都度、支持する。

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs「3.健康と福祉」「16.平和と公正」「17.パートナーシップ」

共生社会論 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW200F	○		○	◎	
科目名	共生社会論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

「共存」「共生」という言葉をキーワードとし、地域社会から国際社会における、共生のあり方を考え、実現可能性について探って見る。特に、異質なものを異文化ととらえ、異文化の共存・共生のあり方を掘り下げの中で、この問題に迫っていきたい。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準
- 第2回：「共存」「共生」の意味、共生社会の阻害要因【共存】【共生】【オリエンタリズム】
- 第3回：異文化共存の方法【一元論的理解VS多元論的理解】
- 第4回：異文化共存の阻害要因①【オリエンタリズム関連DVD視聴】
- 第5回：異文化共存の阻害要因②【オリエンタリズムとは】
- 第6回：オリエンタリズムの克服方法【文化相対主義】
- 第7回：障がい者との共生、「障害」の捉えかた【文化モデル】
- 第8回：自閉症とは【自閉症】
- 第9回：自閉症関連DVDの視聴(医療モデル的作品)【医療モデル】
- 第10回：医療モデル的作品の評価【医療モデル的作品の特徴】
- 第11回：自閉症関連DVDの視聴(文化モデル的作品)【文化モデル】
- 第12回：文化モデル的作品の評価【文化モデル的作品の特徴】
- 第13回：両作品の比較【3つのモデルとの関連で】
- 第14回：共生社会から共活社会へ【共生社会】【共活社会】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

本講義受講に当たっては、「国際学入門」や「障がい学」を既に受講していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs「3.健康と福祉」「16.平和と公正」「17.パートナーシップ」

基盤演習I (発達障がいセミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES201F			○	◎	○
科目名	基盤演習 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

発達障害に対する理解を深め、支援の在り方について考える。特に自閉スペクトラム症(障害)を取り上げ、演習・グループワーク等もとりまぜながら、共生のあり方を探っていく。

教科書 /Textbooks

その都度指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、評価方法の説明【オリエンテーション】
- 第2回：発達障害とは【発達障害】
- 第3回：自閉スペクトラム症(障害)とは【自閉スペクトラム症】
- 第4回：自閉スペクトラム症の理解・対応に関する歴史の変遷【歴史の変遷】
- 第5回：障害の捉え方【文化モデル】
- 第6回：支援の基本(1) 障害特性の理解【障害特性】
- 第7回：支援の基本(2) 構造化の意味と意義【構造化】
- 第8回：構造化演習【演習】
- 第9回：支援の基本(3) コミュニケーション支援の基本的考え方【コミュニケーション支援】
- 第10回：応用行動分析的アプローチ【応用行動分析学】
- 第11回：支援の基本(4) 行動問題への対応【行動問題、冰山モデル】
- 第12回：支援の基本(5) 自己認知・理解プログラム【自己認知・理解】
- 第13回：支援の基本(6) 余暇支援、QOLの充実【QOL】
- 第14回：支援計画の立て方【支援計画】
- 第15回：まとめ～共生社会から共活社会へむけて～【共生社会、共活社会】

成績評価の方法 /Assessment Method

議論、演習等における参加(貢献)度30%。
課題への対応70%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテーマとなることに関してインターネット等で調べてくる。
事後学習としては、学習内容をその都度まとめてみる。

履修上の注意 /Remarks

1年時に「障がい学」を履修済みであることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs「3.健康と福祉」「16.平和と公正」「17.パートナーシップ」

基盤演習I【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES201F			○	◎	○
科目名	基盤演習 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

明治憲法体制における軍部とはいかなる存在だったのか？なぜ、昭和になると軍部は台頭したのか？日本近代史最大の問題点についてみんなで議論していきましょう。

「演習」方式の授業なので、文献読解能力を訓練し、レジュメ（梗概）の作り方、報告の仕方などを実際に学んでいきます。あわせて、日本近代史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助にしたいと思います。「レジュメ」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。受講者数にもよりますが、毎回2名程度の受講生に報告してもらいます。15回の演習で、一冊完読をめざします。

教科書 /Textbooks

小林道彦『近代日本と軍部 1868 - 1945』講談社現代新書、税別1300円。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション。
- 2～14回 文献の輪読（明治期を中心に読んでいきます）。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告・レジュメの内容...50%
無断欠席やレジュメの未提出は1回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に、テキストの該当ページを全員読んでおくこと。担当者はレジュメを作成すること。
「演習」終了後は議論の内容を念頭に置きながら、再度テキストを読むこと。

履修上の注意 /Remarks

受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

最新の研究成果を用いてみなさんと楽しく議論できればと思います。

キーワード /Keywords

基盤演習I【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES201F			○	◎	○
科目名	基盤演習 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この演習では、各自が自分の関心に従って、社会的な視点・方法によって論文（レポート）を書くことをめざす。具体的には、以下のことを身につけることを目指す。

- （1）自らの関心に沿った「問い」の立て方
- （2）論証戦略（実証方法の道筋）の設定
- （3）情報収集の方法
- （4）文献レビューの方法（レジユメの作り方）
- （5）論文（レポート）の書き方

その上で、自らが書く論文について関連する文献のリストを作成し、テキスト批評を行う。報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、原則として受講者の最大数は10人程度とする（それを越える場合、受講者数調整をかけることがある）。

なお、調査実習を行う可能性もある。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポート・論文の書き方入門』、河野哲也、慶応義塾大学出版会、2018年、¥1080
 - 『よくわかる質的社会調査 - 技法編』、谷富夫・芦田徹郎編著、ミネルヴァ書房、2009年、¥2700
- その他、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 「テーマ」について考える
 - 第3回 「問い」を立てる
 - 第4回 論証戦略を考える（方法を検討する）
 - 第5回 情報を集める1 - 北九大図書館
 - 第6回 情報を集める2 - CiNii, 国立国会図書館 (NDL-OPAC)、日本社会学会文献データベース、政府統計の総合窓口 (e-Stat)、電子政府の総合窓口 (e-Gov)
 - 第7回 論文検討会1
 - 第8回 文献レビュー（テキスト批評）1
 - 第9回 文献レビュー（テキスト批評）2
 - 第10回 文献レビュー（テキスト批評）3
 - 第11回 文献レビュー（テキスト批評）4
 - 第12回 文献レビュー（テキスト批評）5
 - 第13回 文献レビュー（テキスト批評）6
 - 第14回 文献レビュー（テキスト批評）7
 - 第15回 まとめ
- なお、順番・内容は変更する可能性がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...40% レポート...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分。)

履修上の注意 /Remarks

文献レビューの際、報告者は、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論等を記したレジюмеを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フィールドワークを通して論文を書く楽しさを感じてください。卒論執筆の準備作業にもなると思います。

キーワード /Keywords

社会調査、フィールドワーク

基盤演習I【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES201F			○	◎	○
科目名	基盤演習 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回

オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤上記以外で必要となる諸活動

第15回

振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

履修上の注意 /Remarks

本演習は、地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

基盤演習II (文化論セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年 /Credits 2単位 /Semester 2学期 / 授業形態 /Class Format 演習 / クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES202F			○	◎	○
科目名	基盤演習II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

文化と社会について学びながらレポートの書き方を向上させる：
本演習では、世界の文化と社会に関する文献を入り口として、そこから各自の関心に応じて「自分でテーマを設定し、学びを深め、レポートを書く」ということを目指します。コミュニケーション能力のうち、建設的に議論する能力と、自分の主張を説得的に文章で表現する能力を伸ばします。今学期は、「あたりまえを疑う」ことをテーマに最近の文化研究の成果に関して知識を深めつつ、勉強の仕方も学ぶことを目指します。

教科書 /Textbooks

松村圭一郎ほか編 2019 『文化人類学の思考法』世界思想社 (1800円+税)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

佐渡島紗織2015 『レポート・論文をよくする「書き直し」ガイド』大修館書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：大学における本の読みかた・探しかた
- 第2回 議論のしかた
- 第3回 論点の広げ方
- 第4回 テキスト輪読型の演習における報告と議論①
- 第5回 テキスト輪読型の演習における報告と議論②
- 第6回 テキスト輪読型の演習における報告と議論③
- 第7回 テキスト輪読型の演習における報告と議論④
- 第8回 テーマの見つけかた
- 第9回 レポート構想報告①
- 第10回 レポートの書きかた
- 第11回 レポート構想報告②
- 第12回 レポート構想報告③
- 第13回 文章を推敲する：レポートの相互添削
- 第14回 文章のブラッシュアップ
- 第15回 これまで学んだことの総括

※受講者の人数によって内容を変更することもある。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、授業における取りこみ50%
ただし、報告者の無断欠席や課題の未提出は厳しく減点します

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・レジュメの作成、レポートの執筆にはそれなりに時間がかかります。計画的かつ真摯に課題に取り組んでください。

履修上の注意 /Remarks

- ・履修を希望する学生は第1回から出席してください。受講者数調整がなければ修正申告終了までは履修登録できますが、欠席分の授業内容を自習する努力が必要となります。

基盤演習II (文化論セミナー) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
共生と協働科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 担当者の講義(「異文化理解の基礎」「現代社会の文化」)や「アカデミック・スキルズ2」を履修したことがあると、理解が深まります。
- ・ 文献のタイトルには「文化人類学」とありますが、思考を柔軟にしながら世界について考えたい学生は、学部を問わず歓迎します。

キーワード /Keywords

文化、文化人類学

基盤演習II【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 演習 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES202F			○	◎	○
科目名	基盤演習II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

明治憲法体制における軍部とはいかなる存在だったのか？なぜ、昭和になると軍部は台頭したのか？日本近代史最大の問題点についてみんなで議論していきましょう。

「演習」方式の授業なので、文献読解能力を訓練し、レジюме（梗概）の作り方、報告の仕方などを実際に学んでいきます。あわせて、日本近代史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたいと思います。「レジюме」とは、わかりやすく言うと、この場合は本の内容の要約です。受講者数にもよりますが、毎回2名程度の受講生に報告してもらいます。15回の演習で一冊完読をめざします。

教科書 /Textbooks

小林道彦『近代日本と軍部 1868 - 1945』講談社現代新書、税別1300円。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

第2 - 14回 『近代日本の軍部 1868 - 1945』の輪読（昭和史を中心に読んでいきます）。

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50%、報告とレジюмеの内容...50%

無断欠席やレジюмеの未提出は1回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に、テキストの該当ページを全員読んでおくこと。担当者はレジюмеを作成すること。

「演習」終了後は議論の内容を念頭に置きながら、再度テキストを再読すること。

履修上の注意 /Remarks

受講希望者が11名以上の場合には受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学教員生活最後の「演習」です。最新の研究成果を用いてみなさんと楽しく議論できればと思います。

キーワード /Keywords

基盤演習II【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES202F			○	◎	○
科目名	基盤演習II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この演習では、各自が自分の関心に従って、社会的な視点・方法・調査によって論文（レポート）を書くことをめざす。具体的には、以下のことを身につけることを目指す。
 (1) 自らの関心に沿った「問い」の立て方
 (2) 論証戦略（実証方法の道筋）の設定
 (3) 情報収集の方法
 (4) 文献レビューの方法（レジユメの作り方）
 (5) 論文（レポート）の書き方
 その上で、自らが書く論文について関連する文献のリストを作成し、テキスト批評を行う。
 報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、原則として受講者の最大数は10人程度とする（それを越える場合、受講者数調整をかけることがある）。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポート・論文の書き方入門』、河野哲也、慶応義塾大学出版会、2018年、¥1080
 - 『よくわかる質的社会調査 - 技法編』、谷富夫・芦田徹郎編著、ミネルヴァ書房、2009年、¥2700
- その他、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 「テーマ」について考える
 - 第3～4回 「問い」を立てる
 - 第5～6回 情報を集める1
 - 第7～10回 文献レビュー
 - 第11回～14回 質的調査の方法
 - 第15回 まとめ
- なお、順番・内容は変更する可能性がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...40% レポート...60%
 (総合的に判断する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分。)

履修上の注意 /Remarks

文献レビューの際、報告者は、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論等を記したレジユメを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フィールドワークを通して論文を書く楽しさを感じてください。卒論執筆の準備作業にもなると思います。

キーワード /Keywords

社会調査、フィールドワーク

基盤演習II【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES202F			○	◎	○
科目名	基盤演習II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回

オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤上記以外で必要となる諸活動

第15回

振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

履修上の注意 /Remarks

本演習は、地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

ライフ・デザイン特講B (海外学習プログラム) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科, 堀内 喜代美 / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPL207F					◎

科目名	ライフ・デザイン特講B
-----	-------------

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業は、国際教育交流センターが用意する教員引率型の海外学習プログラムのための講座です。出国から帰国まで教員が引率します。渡航準備のための事前学習も行われるので、まだ海外経験のない学生や海外渡航に不安のある学生にとっては、最適な入門コースです。また本学が大学間交流協定を結ぶ大学等を訪問し、協定校の実際の授業を見学・聴講したり、学生等との交流の機会も用意されていますので、この短期研修参加を契機に、より長期の海外留学につなげたいと思っている学生にとっても良い経験となることでしょう。

2020年度は、
Plan 「ハワイの文化と歴史を学ぶ、スタディツアー」
渡航先「ハワイ（オアフ島）」、連携大学「ハワイ大学カピオラニコミュニティカレッジ」、期間：9月上旬からの10日間、費用：16万円程度、募集人数16名
を用意しています。

* 行先等は、COVID-19の影響等で変更となる可能性もありますので、あらかじめご了承ください。また催行中止となった場合には、それぞれの期間における学内授業等に切り替えることとなりますので、あらかじめご了承ください。

上記の海外現地学習の日程に加え、渡航前学習として第1学期の授業期間中等に開かれる5回分相当のクラスに、帰国後学習として第2学期の授業期間中等に開かれる4回分相当のクラスに、参加してもらうことになります。

到達目標は、
□ 渡航前学習において、現地で学習したいテーマを自ら設定し、その内容を調査し、現地でのインタビュー項目も含めた調査計画書を作成することができる、
□ 海外現地学習において、コミュニケーション力を屈指した現地での交流や経験を通じ、異国や異文化への理解を深めるとともに、自国や自文化、自己のアイデンティティについても考える意欲を得ることができる、
□ 帰国後学習において、自己の経験や成長を振り返り、言語化し、他者に適切に発信できるとともに、それらをその後の学生生活に活かしていく積極的な姿勢を身につける、とします。

なお海外体験の費用は、参加者負担となります。

教科書 /Textbooks

教科書はありません。
授業に必要な資料は、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献等は、適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 オリエンテーション
- 第02回 渡航前学習①：講義と学習サブテーマの設定
- 第03回 渡航前学習②：調査・発表準備
- 第04回 渡航前学習③：プレゼン
- 第05回 渡航前学習④：研修（海外危機管理を含む）
- 第06回 海外現地学習①：キャンパス訪問
- 第07回 海外現地学習②：フィールド活動「施設・史跡見学」
- 第08回 海外現地学習③：フィールド活動「専門家セミナー」
- 第09回 海外現地学習④：協定校学生との協働学習
- 第10回 海外現地学習⑤：現地視察
- 第11回 海外現地学習⑥：発表と交流
- 第12回 帰国後学習①：成果報告会準備・プレゼン骨子の確定
- 第13回 帰国後学習②：PPT資料作成
- 第14回 帰国後学習③：成果報告会
- 第15回 総括

海外現地学習の催行日程等の詳細も含めて本プログラムへの参加の仕方など情報は、国際教育交流センターのHPに掲載されますので、ご利用ください。質問等あれば、ninomiya@kitakyu-u.ac.jpまで、お問い合わせください。

また4月13日（月）～15日（水）（予定）に相談会を実施します。

日程や参加方法が固まりましたら、国際教育交流センターのHP <http://international.kitakyu-u.ac.jp/> や Twitter @ukk_intl など情報を流します。

成績評価の方法 /Assessment Method

渡航前学習，海外現地学習，帰国後学習の3つのプログラムでの取組状況に関し，成績評価を行います。

渡航前学習	25%
海外現地学習	50%
帰国後学習	25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

アサインメントに従い，事前学習を行い，授業に臨んでください。また指示に従い，事後学習を進め，授業内容の定着を図ってください。なお詳細は，北方モデルの情報で確認してください。

履修上の注意 /Remarks

すべての学習プログラム（渡航前＋海外現地＋帰国後）に参加してください。一つでも欠けると，成績を出すことができない場合があります。とくに海外現地学習は，マストです。

海外現地学習Planの募集人数は，16名です。そのため修正申告期間までに，受講者の調整が行われます。

まずは4月開催の説明会等に参加して，プログラムの内容・手続きなどを十分に理解するように心がけてください。

なお受講申告にあたっては，所定の期間内にPlanへの応募を済ませ，ご自身の枠をきちんと確保してから，登録するようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学は成長の場。4年間をどう過ごすかで，あなたの将来の選択肢は大きく変わります。挑戦なくして成長なし。「夢」は成長の源。「困難」は成長の糧。「出会い」は成長の礎。世界を舞台に，地球規模の視野で考え，現地の視点で行動できる人材になる，そんなあなたの挑戦をサポートします。

キーワード /Keywords

国際教育交流センター，海外学習，ファカルティレッドプログラム（FLD）

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR100F				○	◎
科目名	キャリア・デザイン		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

大学生生活をより充実させるための授業です。その為に、自己理解やコミュニケーションスキルの向上が必要と考えます。また、大学生の就職活動だけでなく、企業などで働いている社会人にとっても現在の労働環境は厳しいものがあります。皆さんは本学卒業後には何らかの職業に就くことになると思います。この授業は、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いていってもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の5点をねらいとしています。

- ① 様々な職業や企業の見方などの労働環境について知る
- ② 将来の進路に向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく
- ③ コミュニケーションをとることに慣れる
- ④ 社会人としての基本的な態度を身につける
- ⑤ 自分について知る

授業では、グループワーク、個人作業、ゲーム、講義などを組み合わせて進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間になりたいと考えています。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 全体ガイダンス 【講師紹介、全体計画、授業形式紹介等】
- ② キャリアデザインがなぜ必要なのか? 【トークセッション】
- ③ SDGs 【これからの社会のキーワードSDGsの本質】
- ④ わたしのキャリアI 【企業で働く】
- ⑤ わたしのキャリアII 【個人で働く】
- ⑥ わたしのキャリアIII 【自分で事業を興す】
- ⑦ これからの日本社会をとりまく環境 【このままだと日本はどうなる】
- ⑧ 自分の頭で考えよう 【言われたことをやるだけの時代ではない】
- ⑨ 見える資産・見えない資産 【自分ブランディング】
- ⑩ ビジネスについて知ろう 【ビジネスとは何か】
- ⑪ キャリアの転機とエンプロイアビリティ 【社会が求める人物とは】
- ⑫ リーダーシップの重要性 【全員がリーダーシップを発揮する】
- ⑬ 自分の価値観を知ろう 【自分の強み、弱みなど】
- ⑭ 将来のキャリアを考えよう 【自己分析と未来分析】
- ⑮ 全体まとめ、ふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60%
授業内のレポート...20%
まとめのレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

初回の講義時に詳細のスケジュールを提示しますので、事前に各テーマについて調べてください。また、各回の授業後には、事前に調べたこととの相違を確認してください。更に、すべての回が終了した際に全体を振り返って、自分自身のキャリア形成に向けて何をすべきかについて考えを深めてください。

履修上の注意 /Remarks

授業への積極的かつ主体的な参加、また自主的な授業前の予習と授業後の振り返りなど、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。外部講師と連携しての授業を予定しています。詳細は第1回の講義で説明しますので、必ず参加してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業に参加するには、社会人としての態度が求められます。以下を守ってください。

①遅刻厳禁②飲食禁止③作業時間は守る④授業を聞くところ、話し合うところのメリハリをつける⑤グループワークでは積極的に発言する⑥周りのメンバーの意見にしっかり耳を傾ける⑦分からないことは聞く⑧授業に「出る」ではなく、「参加する」意識を持つ

人材採用・マネジメントの経験を持つ教員が、卒業後に企業等で働く上で必要となる能力や経験等について解説する。

キーワード /Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、SPI、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動、実務経験のある教員による授業

★関連するSDGsゴール

「4. 質の高い教育を」「8. 働きがい・経済成長」「9. 産業・技術革命」「12. 作る・使う責任」

キャリア・デザイン【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR100F				○	◎
科目名	キャリア・デザイン		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

月曜2限の「キャリア・デザイン」では、皆さんの来るべき将来に向けて、いま何を考え、何をすべきかということを考える授業を行います。皆さんの将来は未来に独立して存在しているわけではなく、現在の延長線上にあります。その意味で、大学生としての時間をいかに過ごすのかは皆さんの「キャリア」に直接つながってきます。この授業では、大学生として充実した時間を過ごすためのヒントや刺激を受けられるようなコンテンツをたくさん提供したいと思います。特に、本授業では、ゲストスピーカーによる講演会を数回開催します。各分野で活躍されている人生の先輩方のお話を聞くことで多くを学ぶことができます。また、様々な資料（映像・新聞記事・映画・webなど）を用い、それらを題材とすることで皆さんの進むべき道ややるべきことなども考えてもらいます。キャリア（人生デザイン）は他人から教えられるものではなく、自分で考えて切り拓いていくものだと思います。授業を通じてそのためのきっかけが提供できればと思います。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜お伝えします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 充実した大学生活（新生活）のためのリスクマネジメント
- 3回 大学の「使い方」
- 4回 「理想」の大学生活・・・なんてあるの？
- 5回 ゲストスピーカーによるご講演（世界の果てで子どもを救う）
- 6回 大学での勉強、どうする？
- 7回 健康的な大学生活（セルフカウンセリングについて）
- 8回 自分の可能性を広げるために
- 9回 「自分」はだれか？
- 10回 かわいい子には「旅」をさせる・・・べき？
- 11回 ゲストスピーカーによるご講演（国際キャリアのつくりかた）
- 12回 変わりつつある世界の中でどう生きるか
- 13回 ゲストスピーカーによるご講演（他者のために生きる人生）
- 14回 ようこそ先輩
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

各回の授業内レポート50% 課題レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業終了時に次回の授業内容を伝えますので、前もって関連する知識を学習しておいてください。また、本授業は「答え」のない授業ですので、各回の授業が終わった後には、自分なりの「答え」を探してもらいたいと思います。関連する映像資料や書籍・新聞記事などを紹介しますので、次回の講義までに各自確認し、自習をして授業に臨んでください（自習時間の目安は60分程度）。

キャリア・デザイン【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

履修上の注意 /Remarks

たくさんの問いかけをしますので、自分の頭でしっかりと考える姿勢をもって授業に望んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1年生だけでなく、2年生以上の学生の受講も歓迎します。

キーワード /Keywords

自分で考え、つくるキャリアデザイン

キャリア・デザイン【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR100F				○	◎
科目名	キャリア・デザイン		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

<目的>

本授業の目的は、後述する「経験学習モデル」を体得し、社会が必要としている力を身に付けることです。近年、少子高齢化やグローバル化、IT化、環境やエネルギー、そして地方創生など、今までのビジネスモデルからの脱却およびイノベーションが求められる中、社会が求める人材も大きく変わりつつあります。日本経済団体連合会（2018年11月）の調査によると、「コミュニケーション能力」が16年連続で第1位、「主体性」が10年連続で第2位となり、「チャレンジ精神」が3年連続第3位となりました。コミュニケーション能力は当然として、主体性・チャレンジ精神といった、多様な人々とチームとなり、その中でも自ら新しい課題に挑戦する力が求められる時代となりました。よってこれらの資質を卒業までに身に付ける必要があります。さらに、2018年9月3日、経団連が従来の「就活」「新卒採用」のルールを廃止すると宣言しました。慌てた政府が引き続きルールを提示していますが、それに拘束力はなく、完全に自由化になりました。

では、多様な人々とチームとなり、その中でも自ら新しい課題に挑戦する力を身に付けるにはどうすればいいのか。それは「経験学習モデル」をぐるぐる回し続けることの楽しさを理解し、実践することに尽きます。機会があれば「すぐ試す」→「振り返る」→「体験の言語化」→「仮説を立てる」→「すぐ試す」・・・具体的には大学生の本分である学びの深掘、つまり、自分が興味を持つことにとことん時間とコストを注ぎ込んで、学びまくればよい。そしてその学びは書籍や論文を読むだけでなく、仮説を立てて、すぐ試して、振り返って、体験の言語化を行い、そこで得た教訓をもとにまた仮説を立てて、すぐ試すといったモデルをぐるぐる回し続けることができれば、いつでも自らのキャリアを創り出すことができるのです。近年、大企業や地方公共団体に入社・就職することがベストではなくなりました。社会人になってからも、キャリアアエンジは日常的に起こり得るのです。だからこそ、「経験学習モデル」を主体的に回す力が必要なのです。

<進め方>

まずグループワーク・ペアワークを実践して「コミュニケーション能力」を獲得します。同時に、たくさんの先輩や社会人のゲスト（ロールモデル）との対話や、その他様々な課題を通して「幅広い視野・柔軟性」や「失敗を恐れない志向性」を理解し、毎回の小レポートなどで「経験を振り返る力」を身に付けます。そして、他の授業や課外活動、そして日常生活において授業での学びを実践し、これらの4つの力を高めつつ、夏休みには身の丈を超えた経験に挑戦し、「答えのない課題を解決する力」を身に付けていただきたいと思います。授業の途中で、様々なイベント（ボランティア活動やプロジェクト活動、海外インターンシップなど）の情報を提供しますので、楽しみにしてください。

<目標>

経験学習モデル「すぐ試す→振り返る→体験の言語化→仮説を立てる」を理解し、実践できるようになること。そして、アイデンティティ（自分らしさの探求）やコミュニケーション能力、課題解決などを身に付け、社会が必要とする創造力を発揮できる基礎を身につけること。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。適宜資料をMoodleにアップしますので、印刷して精読し、持参してください。特に事前課題が含まれる時には、その課題をこなしていないと授業に参加できませんので注意してください。

キャリア・デザイン 【昼】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。
以下書籍はその参考例です。
- キャロル S.ドゥエック『「やればできる!」の研究-能力を開花させるマインドセットの力』草思社
 - 金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
 - 大久保幸夫『キャリアデザイン入門 1 基礎力編』日本経済新聞社
 - 渡辺三枝子『新版キャリアの心理学』ナカニシヤ出版
 - モーガン・マッコール『ハイフライヤー 次世代リーダーの育成法』プレジデント社
 - エドガー H.シャイン『キャリア・アンカー 自分のほんとうの価値を発見しよう』白桃書房
 - 平木典子『改訂版 アサーション・トレーニング-さわやかな自己表現のために』金子書房
 - 中原淳・長岡健『ダイアログ 対話する組織』ダイヤモンド社
 - 香取一昭・大川 恒『ワールド・カフェをやろう!』日本経済新聞出版社
 - 金井寿宏『リーダーシップ入門』日本経済新聞社
 - J.D.克蘭ボルト、A.S.レヴィン『その幸運は偶然ではないんです!』ダイヤモンド社
 - スブツニ子!『はみだすカ』宝島社
 - アンジェラ・ダックワース『やり抜く力 GRIT (グリット)-人生のあらゆる成功を決める「究極の能力」を身につける』ダイヤモンド社
 - リンダ グラットン『ワーク・シフト-孤独と貧困から自由になる働き方の未来図』プレジデント社
 - リンダ グラットン、アンドリュースコット『LIFE SHIFT (ライフ・シフト)』東洋経済新報社
 - 見館好隆『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社
 - 中原淳、見館好隆ほか『人材開発研究大全』東京大学出版会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス・社会で求められる力
- 2回 振り返りの仕方
- 3回 幅広い視野・柔軟性を身につけるには(先輩登壇)
- 4回 コミュニケーション技法①傾聴
- 5回 コミュニケーション技法②アサーション
- 6回 コミュニケーション技法③リーダーシップ
- 7回 働くということ(社会人登壇)
- 8回 新しい仕事を創る(ジョブスタ)
- 9回 ケーススタディワーク(酒造メーカーの改革)
- 10回 自分らしい就職活動をするには(卒業生・内定者登壇)
- 11回 企業団体研究(面白い企業団体を知る)
- 12回 計画された偶発性(幸運は準備とチャンスの交差点)
- 13回 ロールモデルインタビュー(社会人を取材する)
- 14回 ロールモデルインタビュー(先輩を取材する)
- 15回 自らのキャリアをデザインする

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業への取り組み(予習・復習・メンバーからの相互評価)・・・78%
インタビューレポート・・・13%
最終レポート・・・9%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

<通常授業> Moodleに予習・相互評価・復習を掲示しますので毎週締め切りまでに行ってください。
<インタビューレポート> 提示する課題をもとに、各自インタビューを実施し、指定するフォーマットで、期日までに提出してください。
<最終レポート> 提示する課題をもとに、授業を振り返り、授業最終回に持参してください。

履修上の注意 /Remarks

【基本事項】
※月曜日と火曜日の授業の内容は同じです。
※本授業は必修ではありませんが、将来のために大学生活をどう営むかを考える、1年生向けの授業です。よって、私もしくは眞鍋和博先生ほかの「キャリアデザイン」のいずれかを履修することをお勧めします。
※曜日や時限を間違っても履修しても出席にはなりませんので注意してください。

【履修者調整について】
※グループワークの質を維持するために、受講人数の上限は160名とします。もし、上限を超える時は、1年生を優先とします。ただし、160名以内であれば2年生以上も受講できます。また、160名を超えた場合は、1年生であっても受講者数調整の対象になります。
※第1回の授業で受講人数を確認します。よって、第1回の授業に欠席した学生は履修できません(私のコマの中であれば、160名を超えない限り移動は可能です)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

就職活動がほぼ自由化され、以前のように3年生の秋から一斉スタートではなくなりました。そのために、夏季や春季の長期休暇などを活用したインターンシップや、長期の地域活動・ボランティア活動などが、将来の見通しを見出すために重要なファクターとなります。よって、できるだけ早くそれらに挑戦してほしいのですが、そもそも「何がやりたいのか?」がわからなければ、探すことも選ぶこともできません。ゆえに、

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学時代に寝食を忘れて取り組むテーマを見出してもらう仕組みと、そのために必要な力が獲得できるように設計しました。本授業での経験を手掛かりに将来の見通しのヒントを得て、そのヒントを今後の大学生活における学業や課外活動への取組に活かすことを切に願っています。

※人事および販売促進、新規事業立ち上げなどの経験を持つ教員が、企業団体で働く上で必要とされる能力や、その能力の獲得の仕方について、アクティブ・ラーニング形式で運営。

キーワード /Keywords

キャリア、キャリア発達、キャリア形成、大学生生活、コミュニケーション、社会人マナー、倫理観、クリエイティブシンキング、ロジカルシンキング、問題解決、課題解決
SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命、SDGs 11.まちづくり、SDGs 15.環境保全
実務経験のある教員による授業

メンタル・ヘルス【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 寺田 千栄子 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PSY001F					◎
科目名	メンタル・ヘルス				◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

授業の概要 /Course Description

本講義はメンタルヘルスについて精神保健学、社会福祉学、心理学の観点から考察し、人間が健康なところで生活していくための対処方法について学んでいきます。そのために、まず、ライフサイクルを通して、メンタルヘルスに関する基礎知識や精神や行動の異変を理解するためのポイントを学習します。次に、セルフケアの重要性を理解し、自身がメンタルヘルスの問題と向き合うために必要な姿勢を獲得することを目的とします。

教科書 /Textbooks

なし。適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 メンタルヘルスを学ぶ目的
- 第2回 メンタルヘルスに関する基礎知識(1)【日本における現状と課題】
- 第3回 メンタルヘルスに関する基礎知識(2)【問題の種類、よくある誤解】
- 第4回 ライフサイクルとメンタルヘルス(1)【子ども】
- 第5回 ライフサイクルとメンタルヘルス(1)【大人】
- 第6回 精神と行動の異変(1)【精神症状】
- 第7回 精神と行動の異変(2)【精神疾患】
- 第8回 大学生とメンタルヘルス(1)【ボディメイクと摂食障害】
- 第9回 大学生とメンタルヘルス(2)【アディクション】
- 第10回 自己分析
- 第11回 セルフケア①【ストレスの仕組み】
- 第12回 セルフケア②【ストレスマネジメント】
- 第13回 セルフケア③【相談の有用性】
- 第14回 セルフケア④【ソーシャルサポート】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50% 日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに、あらかじめメンタルヘルスに関する自身の身の回りの出来事を見つけてください。授業終了後は、授業のリアクションをMoode上で入力することを求めます。また、授業で身につけた知識を活用し、自身の健康管理に努めてください。

履修上の注意 /Remarks

本授業は、基本的には講義形式で進行しますが、内容に応じて演習形式の体験学習を行います。実際に他者とのコミュニケーションを行う作業を含みますので、履修生はこの点を理解し受講してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私たちが抱える悩みの多くには、メンタルヘルスに関する問題が関与しています。メンタルヘルスに関する問題に対して、「自分には関係ない。」、「気持ちの問題だ。」と考える人も少なくありません。しかし、誰も精神や行動の異変は起こりうる問題です。こころも体も健康に生活していくための方法を、一緒に考えていきましょう。

キーワード /Keywords

メンタルヘルス・セルフケア・ストレス・精神保健学

自己管理論 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS003F					◎
科目名	自己管理論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、生活に必要な考え方と自己管理に関する正しい知識を身に付けることである。様々な情報が氾濫し、次々と新たな問題が発生する現代社会においては、自分自身の意思で物事を決定しつつ、健康的で自律した生活を送ることは容易ではない。このため、様々な角度からの正しい知識を得て、自分だけでなく周囲の人たちも含めて安全で安心に暮らすための意識を高めることが大切である。本授業では、様々な分野の専門家に講義を展開してもらう。それらの講義を聴講して、以下の3点の習得を目指す。

- ・生活に必要な考え方や自己管理に関する学びを具体的に表現することができる。
- ・今後の人生に必要な考え方を理解し、自分の言葉で表現することができる。
- ・授業に参加して感じた疑問点を表明することができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 社会人のマナー
- 3回 選挙・まちづくり
- 4回 災害への備え
- 5回 犯罪防止
- 6回 自転車の交通安全
- 7回 消費者トラブル
- 8回 大学生とお金
- 9回 身体の健康
- 10回 心の健康
- 11回 ハラスメント防止
- 12回 消防と救急
- 13回 薬物乱用
- 14回 振り返り
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ほぼ毎回実施する課題レポート ... 70%
授業中に行う質疑応答 ... 10%
まとめレポート ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに、予め授業テーマについて学習し、提出用のレポートを準備しておくこと。業終了後には、授業中に学んだことを振り返り、課題レポートを締め切りに間に合うように提出すること。

履修上の注意 /Remarks

授業の開始前と終了後に出席確認を行うので、ICカード学生証を毎回忘れずに持参し、指示に従って正しく読み取り操作を行うこと。また、入学式で配布される資料や北九州市立大学Webサイト上の「学生生活・就職」のページを参照すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

様々な分野の専門家に、それぞれのテーマについて講義を展開してもらおう。このため、以下の注意点に留意すること。

- ① 第1回目の授業に出席すること。受講希望者多数の場合、受講者数調整を実施し、受講可能な学生を決定する。詳細は、第1回目の授業中に説明する。
- ② 遅刻することなく、毎回授業に出席すること。授業計画や授業内容等は、外部講師の都合により、変更になる可能性がある。その場合は、その都度授業中に説明する。
- ③ 質問や相談等は、指定する担当教員に行うこと。多くの外部講師が担当する授業になるため、担当教員が代表して窓口となる。毎回の授業は一見すると関係性のないテーマのように見えるが、全体を通じて首尾一貫した狙いがある。毎回の授業に積極的に参加し、授業が目指す考え方を習得して欲しい。

キーワード /Keywords

リスクマネジメント、セルフマネジメント、倫理観、公共性

実務経験のある教員による授業

フィジカル・ヘルス【昼】

担当者名 /Instructor 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS001F				○	◎
科目名	フィジカル・ヘルス		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

教科書については、特に必要ありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 ソフトバレーボール(実習)【主体性】
- 4回 ストレッチの理論(講義)
- 5回 ストレッチの実際、ゲーム(実習)
- 6回 生活習慣病の予防と対策(講義)【体脂肪】
- 7回 生活習慣病の予防と対策(実習)
- 8回 フェアプレイ、スポーツマンシップとは(講義)
- 9回 球技を楽しもう①(卓球、バドミントン、ショートテニス)(実習)【スポーツマンシップ】
- 10回 球技を楽しもう②(卓球、バドミントン、ショートテニス)(実習)【スポーツマンシップ】
- 11回 これからの運動①(心臓の予備力、体力の変化)(講義)
- 12回 これからの運動②(体力の維持・向上、継続性)(講義)
- 13回 スポーツ実施の心理的効果(講義)
- 14回 スポーツ実施の心理的効果(実習)
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

理論を受けて実習を行う形式なので、講義内容の復習を行い、次週の実践の場で各自反復しながら生かせるようにすること。

履修上の注意 /Remarks

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。実習の場合は、運動できる服装と体育館シューズを準備して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フィジカル・ヘルス【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルス【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS001F				○	◎
科目名	フィジカル・ヘルス		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習 <実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

フィジカル・ヘルス【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

フィジカル・ヘルス 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS001F				○	◎
科目名	フィジカル・ヘルス		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことと考えます。

スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。また、特別講師としておがわ整骨院院長の小川博久先生からテーピングを中心に授業を行います。

教科書 /Textbooks

授業時に資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウエイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 50%
レポート... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと
授業後は文献等で再度復習しましょう。

履修上の注意 /Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること
気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。
授業内容（講義・実習）によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

身体活動をととして理論と実践を学びます。
積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

健康・安全・衛生

フィジカル・ヘルス 【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS001F				○	◎
科目名	フィジカル・ヘルス		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習 <実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

フィジカル・ヘルス【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

フィジカル・ヘルス【昼】

担当者名 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS001F				○	◎
科目名	フィジカル・ヘルス		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

教科書については、特に必要ありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 ソフトバレーボール(実習)【主体性】
- 4回 ストレッチの理論(講義)
- 5回 ストレッチの実際、ゲーム(実習)
- 6回 生活習慣病の予防と対策(講義)【体脂肪】
- 7回 生活習慣病の予防と対策(実習)
- 8回 フェアプレイ、スポーツマンシップとは(講義)
- 9回 球技を楽しもう①(卓球、バドミントン、ショートテニス)(実習)【スポーツマンシップ】
- 10回 球技を楽しもう②(卓球、バドミントン、ショートテニス)(実習)【スポーツマンシップ】
- 11回 これからの運動①(心臓の予備力、体力の変化)(講義)
- 12回 これからの運動②(体力の維持・向上、継続性)(講義)
- 13回 スポーツ実施の心理的効果(講義)
- 14回 スポーツ実施の心理的効果(実習)
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

理論を受けて実習を行う形式なので、講義内容の復習を行い、次週の実践の場で各自反復しながら生かせるようにすること。

履修上の注意 /Remarks

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。実習の場合は、運動できる服装と体育館シューズを準備して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フィジカル・ヘルス【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS081F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズ I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自立的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回～13回 ダブルスゲーム (リーグ戦)
- 14回 スキル獲得テスト②
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
 実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
 授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
 本講義では、障害者差別解消法に基づき、障害の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (外種目) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS081F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズ I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスやサッカー、ソフトボールなどの屋外で実施するスポーツ実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 テニス(ストロークの基礎練習)
- 3回 テニス(サーブ・スマッシュの基礎練習)
- 4回 テニス(ゲーム①シングルス)
- 5回 テニス(ゲーム②ダブルス・スキル獲得の確認)
- 6回 サッカー(パスの基礎練習)
- 7回 サッカー(シュート・連携)
- 8回 サッカー(戦術・ルール把握・ゲーム①)
- 9回 サッカー(ゲーム②)
- 10回 サッカー(ゲーム③・スキル獲得の確認)
- 11回 ソフトボール(キャッチボール・守備)
- 12回 ソフトボール(バッティング・ルール解説)
- 13回 ソフトボール(ゲーム①)
- 14回 ソフトボール(ゲーム②)
- 15回 ソフトボール(ゲーム③・スキル獲得の確認)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。
基本的にはグラウンドで実技を実施しますが、天候によっては体育館にて実施します。その場合は室内用シューズも準備すること。

フィジカル・エクササイズI (外種目) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 ライフ・デザイン科目

担当者名 梨羽 茂
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS081F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズ I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自立的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション(授業の展開方法や履修に関する諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト(ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト(ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ゲーム法の解説
- 9回～14回 ゲーム(リーグ戦)
- 15回 スキル獲得テスト②

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
 実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
 授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS081F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズ I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自立的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回～14回 ダブルスゲーム (リーグ戦)
- 15回 スキル獲得テスト②

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
 実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
 授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
 本講義では、障害者差別解消法に基づき、障害の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 下釜 純子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS081F				○	◎

科目名	フィジカル・エクササイズ I
-----	----------------

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われてい。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこでこの授業では、体力・技術にあまり自信のない女性を対象に、身体活動の理論を踏まえ、レクリエーションスポーツ種目を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そしてその到達度をふまえて、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜授業内で紹介します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (受講上の注意)
- 2回 体作り運動
- 3回 体幹トレーニング
- 4回 体のバランスを意識した運動 (ストレッチ・バランスボール)
- 5回 ヨガ
- 6回 卓球 (1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 7回 卓球 (2) ダブルスのルール説明とゲーム・スキル獲得の確認
- 8回 ソフトバレーボール (1) サーブ、パス、アタックの基本練習
- 9回 ソフトバレーボール (2) ルール説明とゲーム・スキル獲得の確認
- 10回 バスケットボール (1) ドリブル、パス、シュートの基礎練習
- 11回 バスケットボール (2) ルール説明とゲーム・スキル獲得の確認
- 12回 選択種目 (1) 【バレーボール】 【卓球】
- 13回 選択種目 (2) 【バドミントン】 【トレーニング】
- 14回 選択種目 (3) 【ソフトバレーボール】 【バドミントン】
- 15回 スキル獲得の確認 (選択種目)

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

その種目に関する映像視聴などで、ルールの確認やイメージを持つこと。

運動後のクールダウンは時間を設けて行わないので、各自で主要筋のストレッチをして身体ケアをすること。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること。

本講義では、障害者差別解消法に基づき、障がいの有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 梨羽 茂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS082F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズⅡ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
 実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
 授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS082F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS082F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バスケットボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 集団行動(走る(ラン)・跳ぶ(ジャンプ)・投げる(スロー))
- 3回 ボールに慣れる(ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習(レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習(2対1)
- 6回 応用練習(3対2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフense・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ(ドリブルシュート・リバウンド)
- 10回 スキルアップ(速攻、スクリーンプレイ)
- 11回 ゲーム(1) ゾーンディフェンス(2-3)
- 12回 ゲーム(2) ゾーンディフェンス(2-1-2)
- 13回 ゲーム(3) マンツーマンディフェンス
- 14回 ゲーム(4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみることに。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (ソフトバレー / バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 小幡 博基 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS082F				○	◎

科目名	フィジカル・エクササイズII
-----	----------------

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス>
- 5回 パス練習(2) <オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <ソフトバレーボール>
- 12回 ゲーム(2) <ソフトバレーボール>
- 13回 ゲーム(3) <バレーボール>
- 14回 ゲーム(4) <バレーボール>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみることに。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。

授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

男女混合および生涯スポーツを意図したソフトバレーボールと競技性を重視したバレーボールの両種目を実施します。

フィジカル・エクササイズII (ソフトバレー / バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (外種目) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 梨羽 茂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS082F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスやサッカー、ソフトボールなどの屋外で実施するスポーツ実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 テニス(ストロークの基礎練習)
- 3回 テニス(サーブ・スマッシュの基礎練習)
- 4回 テニス(ゲーム①シングルス)
- 5回 テニス(ゲーム②ダブルス・スキル獲得の確認)
- 6回 サッカー(パスの基礎練習)
- 7回 サッカー(シュート・連携)
- 8回 サッカー(戦術・ルール把握・ゲーム①)
- 9回 サッカー(ゲーム②)
- 10回 サッカー(ゲーム③・スキル獲得の確認)
- 11回 ソフトボール(キャッチボール・守備)
- 12回 ソフトボール(バッティング・ルール解説)
- 13回 ソフトボール(ゲーム①)
- 14回 ソフトボール(ゲーム②)
- 15回 ソフトボール(ゲーム③・スキル獲得の確認)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。
基本的にはグラウンドで実技を実施しますが、天候によっては体育館にて実施します。その場合は室内用シューズも準備すること。

フィジカル・エクササイズII (外種目) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (ラケット種目) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 松田 晃二郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS082F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、ラケット種目の実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自立的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関する諸注意)
- 2回 テニスの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 サーブ・ボレー練習
- 4回 テニスゲーム①
- 5回 テニスゲーム②・スキル獲得テスト
- 6回 バドミントン基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー・ドロップ)
- 7回 バドミントンルール説明・ゲーム①
- 8回 バドミントンゲーム②
- 9回 バドミントンゲーム③
- 10回 スキル確認テスト
- 11回 卓球基本練習 (サーブ・ラリー継続)
- 12回 卓球ルール説明・ゲーム①
- 13回 卓球ゲーム②
- 14回 スキル獲得テスト
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。

フィジカル・エクササイズII (ラケット種目) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障害の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。
テニスは基本的グラウンドで実施します。雨の日は室内で実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS082F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。また、フェアプレーも学びます。

教科書 /Textbooks

授業時間に必要な資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(3) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(4) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

時速400キロ・フェアプレー

世界での学び方【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科, 堀内 喜代美 / 国際教育交流センター
山崎 勇治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR001F					◎
科目名	世界での学び方				※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業科目は、「海外での学びを体験させることで、国際理解や知識を拡大させるとともに、語学力の向上につなげさせ、グローバル社会で活躍する意欲を高め、自ら行動できる人材を育成するための教育プログラム」であるKGEP Standard/Challengeコースの入門科目となっています（コース修了のための要件科目（必修）です）。

受講を通じ、大学時代に海外での学びを体験してみたいと考えている人に、その経験が自己のキャリアにとってどのような意味を持つのかについて考えてもらうことで、学生が社会で生きるのに必要とされる「自立的行動力」としての自己を確立する力を涵養することを目的としています。また準備科目としての性格も有することから、学生が海外体験を円滑に実施できるよう、必要な知見や視座を提供することも意図しています。

なお具体的な本講義の到達目標として、以下の6点を設定しています。

- ① 北九州市立大学がなぜ学生の海外体験を推奨しているのか、大学理念・目的や国際交流の歴史の学習を通じ、理解し、説明できる。
- ② 北九州市立大学の海外体験プログラムの種類や特徴を、私的プログラムとの異同も含め理解し、説明できる。
- ③ 海外体験に伴う負担や危機リスクについて、一定の知見を獲得するとともに、困難に遭遇した際の基本的な対処の仕方を身につけている。
- ④ 海外体験の目標を、自己の成長の観点から、かつ、キャリア設計の観点から、設定することができる。
- ⑤ 授業内容を踏まえ、最終的に、自身の海外体験挑戦計画を策定できる。
 - a) 体験の前までにクリアしなければならない要件を明確に把握できている。
 - b) 要件をクリアするために必要なプロセスを理解し、時間軸の観点を導入した計画を立案することができる。
 - c) 段階ごとに適切な目標を立て、それを達成するために必要な取り組みを考えることができる。
 - d) あわせて、それらに積極的に挑戦し、達成しようとする十分な意欲を有している。
 - e) 海外体験中や帰国後の視点を有している。
- ⑥ 海外体験で得た経験を、後輩たちに共有・継承する意欲や社会に還元しようとする高い意欲を有している。

授業では、講義を中心としますが、必要に応じ、グループワークや個人作業（海外体験を経験した本学学生や海外協定校からの短期留学生への聞き取りやインタビュー）、講演などを組み合わせて進めていきます。この授業を通じ、海外で学ぶことに対する不安や迷いを解消できるように、また皆さんが自身の将来のことをより積極的に考えていけるように、支援したいと考えています。またみなさんの一人でも多くが、KGEP Challengeコースを修了されることを期待します。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。(2019年1月時点)

講義資料等は、北方モデルにアップするので、各自、印刷して精読し、持参してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、講義時に、適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 オリエンテーション ～世界の学び方ってどんな授業～...「井の中の蛙大海を知らず」
- 第02回 北九大の「KGEP」と「海外体験プログラム」の紹介...「敵を知り己を知れば百戦危うからずや」
- 第03回 北九州市立大学の国際交流の歴史と今...「温故知新」
- 第04回 ショートプログラム（語学研修など）への参加のすすめ...「隗より始めよ」
- 第05回 「交換留学」や「派遣留学」への挑戦のすすめ...「虎穴に入らずんば虎子を得ず」
- 第06回 海外体験を将来にどう生かすか考えよう（成長の可視化）...「艱難、汝を玉にす」
- 第07回 異文化体験と適応...「柳は緑花は紅」
- 第08回 留学相談会に参加してみよう...「聞くは一時の恥聞かぬは一生の恥」
- 第09回 参加の報告発表会
- 第10回 海外での危機管理について考えておく...「転ばぬ先の杖」
- 第11回 海外体験で得た経験を大学や地域に還元しよう...「情けは人の為ならず」
- 第12回 海外体験計画を作る...「画竜点睛」
- 第13回 Group 1による海外体験計画の発表会
- 第14回 Group 2による海外体験計画の発表会
- 第15回 まとめ 【総括】

* 留学フェアなどの時期により、講座の入替が生じます。具体的な日程は、初回授業時に指示します。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 授業課題・・・40%
- 実践課題・・・20%
- 最終課題・・・40%（「海外体験挑戦計画」書：30%+発表：10%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業に臨むことを求めます。また指示に従い、事後学習（課題）を進め、授業内容の定着を図ってください。詳細は、北方ムードルの情報で確認してください。

履修上の注意 /Remarks

この授業は、国際教育交流センターが所管する Kitakyushu Global Education Program の一部です。国際教育交流センターの海外体験プログラムの事前教育の一環となりますので、同センターが募集手続きを行う交換留学・派遣留学、語学研修等への参加を考えている方は、本授業を受講することを強くお勧めします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学は成長の場。4年間をどう過ごすかで、あなたの将来の選択肢は大きく変わります。挑戦なくして成長なし。「夢」は成長の源。「困難」は成長の糧。「出会い」は成長の礎。世界を舞台に、地球規模の視野で考え、現地の視点で行動できる人材になる、そんなあなたの挑戦をサポートします。

キーワード /Keywords

国際教育交流センター、国際交流、海外体験、交換留学、派遣留学、語学研修、海外短期研修

世界での学び方【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科, 友松 史子 / 国際教育交流センター
山崎 勇治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR001F					◎
科目名	世界での学び方		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロフェッショナルの仕事【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR210F					◎
科目名	プロフェッショナルの仕事				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

<目的> 現場の第一線で活躍している社会人に教壇に立って頂き、仕事のやりがいや辛さ、そして自らが成長した学生時代の物語を語って頂きます。その話を聴くことで、①ビジネスの現状 ②仕事の現実 ③将来のために大学時代に何をすべきかを学びます。授業の流れは以下です。

1. 企業団体の概要（現在および今後の方向性について）
2. 仕事の概要（大卒の1年目、3年目、そして5年目の社員・職員が就く仕事内容と、仕事のやりがい）
3. 大学時代にすべきこと・してほしいこと
4. 学生へのメッセージ（学生が自分の将来を考えていく上でのアドバイス）

<進め方> 講演者の企業団体および仕事を予習して、講演を傾聴します。そこで得た新しい知識や払拭できた先入観、将来へのヒントを元に、「将来のために今すべきこと」をレポートにまとめます。

<目標> 様々な企業や団体の第一線で働いている社会人の話を聴くことで、自らの将来の姿を描くことです。そして、大学時代においてどんな大学生生活を過ごせば良いかを理解します。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。原則、当日企業団体のパンフレットを配布します（用意できない時もあります）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページをみて予習してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 全体ガイダンス
第2～15回 各企業・団体の第一線で働く社会人の講演

※以下は過去の実績です（敬称略・順不同）。

<2019年度> サイバーエージェント、RKB毎日放送、テイクアンドギヴ・ニーズ（T&G）、サニーサイドアップ、チームラボキッズ（teamLab）、労働基準監督官（厚生労働省）、カモ井加工紙（mt）、大創産業（ダイソー）、西日本旅客鉄道（JR西日本）、スノーピーク、全日本空輸（ANA）、本田技研工業（HONDA）、ヤッホーブルーイング、サマンサタバサジャパンリミテッド

<2018年度> ファミリア、日本航空（JAL）、メルカリ、ペンシル、ソニー、ヤフー、アサヒ飲料、三菱電機、星野リゾート・マネジメント、日立製作所、北九州市役所、マツダ、JTB、宇宙航空研究開発機構（JAXA）

<2017年度> サニーサイドアップ、ジンス（JINS）、JR九州エージェンシー、全日本空輸（ANA）、日本放送協会（NHK）、キャメル珈琲（カルディ・コーヒーファーム）、ヒルトン福岡シーホーク、モスフードサービス（モスバーガー）、日本たばこ産業（JT）、ZOZO、京セラ、北九州市役所、西日本新聞社、近畿日本ツーリスト九州

<2016年度> 電通九州、studio-L、フジドリームエアラインズ、アイリスオーヤマ、福岡県庁、力の源ホールディングス（一風堂）、ジャパネットホールディングス、ワークスアプリケーションズ、福岡地方検察庁、エイチ・アイ・エス、西日本シティ銀行、星野リゾート・マネジメント、ウェザーニューズ、旭酒造（獺祭）

<2015年度> ムーンスター、日本放送協会（NHK）、ホテルオークラ福岡、宇宙航空研究開発機構（JAXA）、九州旅客鉄道（JR九州）、旭化成ホームズ、福岡銀行、タカギ、ソニーリージョナルセールス、阪急交通社、博報堂プロダクツ、日本航空（JAL）、ニトリ、北九州市

<2014年度> ストライプインターナショナル（earth music & ecologyなど）、北九州市、ジンス（JINS）、東急ハンズ、ハウステンボス、朝日新聞社、日本アクセス、東京海上日動火災保険、JTB九州、アイ・ケイ・ケイ、伊藤忠エネクス、山口フィナンシャルグループ（山口銀行・北九州銀行・もみじ銀行）、再春館製薬所、全日本空輸（ANA）

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課される予習と復習...91%
最終レポート...9%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前にMoodleにて、期日までに登壇企業団体の事前学習（予習）を提出すること。また、Moodleを確認し、授業で用いるレジュメやワークシートがあれば印刷して精読し持参すること。授業終了後にMoodleにて、期日までに授業の振り返り（復習）を提出すること。

履修上の注意 /Remarks

履修者人数の確認を行いますので必ず第1回は出席するようにしてください。
やむを得ない事由で欠席する場合はメールで事前にお知らせください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本学の学生は、首都圏の大学生よりも立地的に、企業・団体に働いている社会人と出会う機会が少なくなっています。そんな中、自分の将来への視野を広げたい、将来のために自分を成長させるヒントを得たいと考えている学生のために設計しました。講演者の皆様は大学生活ではなかなか出会うことができない方ばかりです。また、本学の学生を是非採用したいと考える企業団体です。講演者の皆様が本学の学生のために語ってくれた言葉を聞き逃さず、何かを学ぼうという意思を持ってご参加ください。

※人事経験を持ち、全国の企業団体に人脈を持つ教員が、14団体の人事担当者を招致し、その企業紹介や求める力、そして大学時代の過ごし方についてお話いただくようにコーディネートする。

キーワード /Keywords

働くこと、成長、キャリア、キャリア発達、大学生活、将来の見通し、キャリアデザイン、キャリアプランニング、企業研究
SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命
実務経験のある教員による授業

企業・団体の課題解決【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR211F					◎
科目名	企業・団体の課題解決				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

<目的> 社会で働くために必要とされる「答えの無い課題に多様な人々と協働しながら挑戦し、成果を出す力」を身につけるために、地元企業団体の現場の課題を題材に、グループで課題解決案を策定・発表し、その企業団体から評価をもらうことが目的です。通常、そのような力は課外におけるインターンシップやプロジェクト活動などで身に付けますが、本授業はそれを明確に単位化したものです。なお、旧授業名は「プロフェッショナルの仕事2」。

<進め方> 以下の流れで企業団体（3団体）の課題に挑戦し、各チームで競います。課題解決のノウハウは、その他の回で講義します。

1. 企業団体の社会人にご登壇頂き、現場で対峙しているリアルな課題を提示していただきます。
2. 提示された課題についての解決プランを作成します。
3. 企業団体の社会人に対し、解決プランを中間発表します。
ここで社会人の方から直接、修正・改善のフィードバックを頂きます。
4. フィードバックを手掛かりに、提示された課題についての解決プランの最終案を作成します。
5. 企業団体の社会人に対し、解決プランの最終案を提示します。
社会人の方が直接評価を行い、その結果がそのまま成績に反映されます。

<目標> 現場で働く社会人から自らがプランした案に対してフィードバックを頂き、修正し、最終評価を頂くことで、企業団体にて実際に働くために必要とされる「答えの無い課題に多様な人々と協働しながら挑戦し、成果を出す力」を身につけます。そして、その経験を糧に、大学時代においてどんな大学生活を過ごせば良いかを理解します。

教科書 /Textbooks

テキストはありませんが、企業団体の資料はその都度配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページの閲覧および企業団体訪問、統計資料の収集、アンケートの収集、インタビューなどを行い、中間および最終発表の準備をしてください。

また、以下書籍を参考にしてください。

- ジエームス W.ヤング『アイデアのつくり方』CCCメディアハウス
- 嶋浩一郎『嶋浩一郎のアイデアのつくり方』デイスカヴァー・トゥエンティワン
- 加藤昌治『考具 - 考えるための道具、持っていますか?』CCCメディアハウス
- 加藤昌治『チームで考える「アイデア会議」 考具 応用編』CCCメディアハウス
- 香取一昭・大川恒『ワールド・カフェをやろう!』日本経済新聞出版社
- 金井寿宏『リーダーシップ入門』日本経済新聞社
- J.D.克蘭ボルツ、A.S.レヴィン『その幸運は偶然ではないんです!』ダイヤモンド社
- 大嶋祥誉『マッキンゼー入社1年目問題解決の教科書』SBクリエイティブ
- 大嶋祥誉『マンガで読める マッキンゼー流「問題解決」がわかる本』SBクリエイティブ
- スブツニ子!『はみだすカ』宝島社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 ガイダンスと課題解決のノウハウ(その1)
- 第02回 【団体A】課題の提示とチームビルディング
- 第03回 【団体B】課題の提示とチームビルディング
- 第04回 【団体C】課題の提示とチームビルディング
- 第05回 クリエイティブシンキングのノウハウ
- 第06回 相談日
- 第07回 【団体A】中間発表とフィードバック
- 第08回 【団体B】中間発表とフィードバック
- 第09回 【団体C】中間発表とフィードバック
- 第10回 課題解決のノウハウ(その2) ※各班の発表を題材に
- 第11回 プレゼンテーションのノウハウ
- 第12回 相談日
- 第13回 【団体A】最終発表と総合評価、フィードバック
- 第14回 【団体B】最終発表と総合評価、フィードバック
- 第15回 【団体C】最終発表と総合評価、フィードバック

※参考

<2019年度の企業団体と課題>

■TOTOインフォーム株式会社

社員が安心して働ける職場を実現するには？

■アイ・ケイ・ケイ株式会社

今までにない感動を体感できるウェディングとは？

■株式会社タカギ

タカギの資産を利用した新提案

<2018年度の企業団体と課題>

■NHK北九州放送局

毎日見なくなる「ニュースブリッジ北九州」になるためには？

■株式会社タカギ

タカギの資産を利用した新提案

■株式会社スターフライヤー

新しい機内販売の提案

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業への取り組み(リフレクション)・・・56%

最終発表に対する評価(企業団体からの評価と相互評価)・・・30%

最終レポート・・・14%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページの閲覧および企業団体訪問、統計資料の収集、アンケートの収集、インタビューなどを行い、中間および最終発表の準備をしてください。また、授業終了後はMoodleで振り返りを行ってください。

履修上の注意 /Remarks

※第1回で履修人数を確認しますので、必ず出席してください。何らかの事情で出席できない場合は、事前に教員(mitate@kitakyu-u.ac.jp)までメールで連絡をしてください。

※第2~4回までの各企業団体の課題を理解した上で、挑戦する課題とグループを決めます。

※課題に対する取り組み(授業時間以外でのグループワークやフィールドリサーチ、統計資料収集など)による、最終発表が評価の3割を占めます。企業団体のリアルな課題に対し、企業団体の現役社員(職員)からの生のフィードバックが頂ける企業な経験を積むことができます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

就職活動のスケジュールが変わり、以前のように3年生の秋から一斉スタートではなくなりました。そのために、夏季や春季の長期休暇などを活用したインターンシップが、将来の見通しを見出すために重要なファクターとなります。しかし、インターンシップは必ずしも希望する学生全てが参加できません(受け入れ企業団体が少ないため)。ゆえに、「授業の中」に企業団体の課題に取り組む機会を作り込み、現場の仕事を体感することで、多くの学生が働くことをイメージすることを狙って設計した授業です。企業団体の方から、直接フィードバックをもらえる機会はなかなかありません。本授業での経験を手掛かりに将来の見通しのヒントを得て、そのヒントを今後の大学生活における学業や課外活動への取組に活かすことを切に願っています。

※人事経験を持ち、全国の企業団体に人脈を持つ教員が、3団体の人事担当者と連携し、課題解決型授業を運営。

キーワード /Keywords

キャリア、成長、プレゼンテーション、フィールドリサーチ、マーケティング、クリエイティブシンキング、ロジカルシンキング、リーダーシップ

SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命
実務経験のある教員による授業

都市と地域【昼】

担当者名 /Instructor 岡山 恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE002F	◎		○		○
科目名	都市と地域				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

日本や海外における都市や地域についての紹介や、それらを捉えるための概念や枠組み、現状での課題や将来の展望などについて講義する。より幅広く俯瞰的な視点を持つことにより都市や地域を様々な形でまた複眼的に捉え、そこから社会に対する新しい視点が生まれることを促す。都市と地域という概念の多様さを学びながら実際の事例を通して都市・地域の形状、規模、その成り立ちを考察する。また、その延長として都市・地域間の係わりを社会、経済、交通などの視点から分析する枠組みや手法を紹介する。「都市と地域」の最終的な目的としては、都市と地域の概念の理解と個人としての定義の形成、それらを基にした柔軟な着想を習得することにある。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜文献や資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 共通 : クラス紹介および注意事項
- 2回 地域1 : 地域概念: 『地域』とは何か?
- 3回 地域2 : 地域学と地域科学
- 4回 地域3 : 地域開発とは
- 5回 地域4 : 地域間という視点
- 6回 地域5 : 地域を分析する
- 7回 地域6 : 地域事例 (L Qによる分析)
- 8回 地域7 : 地域最終クイズ
- 9回 都市1 : 都市はなぜ存在するか?
- 10回 都市2 : 都市の理論
- 11回 都市3 : 都市の構造
- 12回 都市4 : 都市の変遷・動態
- 13回 都市5 : 都市を分析する
- 14回 都市6 : 都市事例
- 15回 都市7 : 都市最終クイズ

成績評価の方法 /Assessment Method

クイズ (合計) ... 30% 授業内貢献... 20% 最終クイズ (2回合計) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日頃から「都市」や「地域」という言葉がどのように使われているかを注意深く観察・考察して授業に臨んで下さい。新聞やTVニュース、もしくはインターネットニュースサイトなどで使われている「都市」や「地域」という言葉の意味を考えて下さい。授業で紹介した様々な「都市」や「地域」の概念を授業後に自らの考えと照らし合わせて考察し、身近な事例に当てはめて次回の授業に臨んで下さい。

都市と地域【昼】

履修上の注意 /Remarks

本授業は毎週行われ、講義および討論の形式をとります。授業に毎回出席すること、予習・復習等の準備を行うこと、授業内討論への活発な参加を行うことなどに付け加え、不定期・複数の（Moodleによる）クイズへの回答、および2回の最終クイズへの回答が必要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業貢献は授業内ディスカッションでの発言回数および発言内容を評価します。発言の無いもしくは回答のない学生は授業貢献の点数が芳しくなくなるので、活発に発言をしてください。

また、不正行為が発覚した場合は、当該項目だけでなくすべての点数（授業貢献を含む）が0点になります。

キーワード /Keywords

地域科学、地域学、都市構造、都市政策
SDGs 11. まちづくり

地域の社会と経済【昼】

担当者名 /Instructor 柳 永珍 / RYU Young-Jin / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN170F	◎		○		○
科目名	地域の社会と経済				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

地域活性化や地域再生が日本における重要なキーワードになっている中、皆さんにおいて「地元」という言葉はどのように響くのか。1つの地域に愛情を持って、真剣に学習してみることは、自分の地元を考える良いきっかけとなる。この授業は、北九州・下関地域の社会的・経済的特性について様々な観点から学び、理解を深めることを通じて、地域の課題を発見し、何をすべきか、自らの意思で考えることを目指している。本授業では、各トピックに関して現場での経験や造詣が深い方々をゲストスピーカーとして招き、北九州・下関地域出身者、地域外出身の双方にとって学びとなるお話をさせていただく。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：北九州の産業・社会
- 第3回：北九州市政と市民
- 第4回：人口でみる北九州地域の概況
- 第5回：下関地域の概況と北九州との関係
- 第6回：人口でみる北九州地域の産業構造・経済
- 第7回：データでみる北九州地域の社会・生活
- 第8回：地域の企業① 【地元企業関係者等による説明】
- 第9回：地域の企業② 【地元企業関係者等による説明】
- 第10回：地域の企業③ 【地元企業関係者等による説明】
- 第11回：地域の起業環境 【NPO等の専門家による説明】
- 第12回：地域社会とのつながり 【関連活動に参加している団体との座談会】
- 第13回：地域社会を新しく考えるための思考 【NPO等の専門家による説明】
- 第14回：地域を新しく考えるための思考 【NPO等の専門家による説明】
- 第15回：まとめ・住みたいまちのために

※講義のテーマ、順番、講師陣については若干の変更があることをご承知おきください。

成績評価の方法 /Assessment Method

九州・下関地域の社会的・経済的特性に対して理解し説明ができること。さらに地域に関する多様な課題について、独自の思考で提言ができること。
・各講義ごとのショートレポート(14回)：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

北九州・下関地域の社会や経済に関する情報は常にアップデートされ、メディアでも多く扱われています。日ごろから新聞、TV、インターネット等を通じて、アンテナを張って情報収集に努めてください。

履修上の注意 /Remarks

- ・遅刻、私語は他の受講生やゲストスピーカーの方の迷惑になるため、厳禁とします。
- ・ゲストスピーカーの都合等により、トピックの順番・内容が一部変更する場合があります。
- ・授業中に興味を持った事項について、各授業後に各自調べて理解を深めること。

地域の社会と経済【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

皆さんがこれから学生時代を過ごす北九州・下関地域の社会や経済を学ぶことで、皆さんがこれからの学習やキャリア形成にとってプラスとなる知識等を得ることができ、地域に対する関心が増やして有意義な学生生活を送ることにつながる授業になると考えます。また、地域の現状と事情に密着した人材として、創造性の持つ人材として、地域での活躍ができる一歩であるとも考えています。

キーワード /Keywords

シビックプライド、地域愛着、グローカル化、地域活性化、
SDGs 8 . 働きがい・経済成長、SDGs11 . まちづくり

地域の文化と歴史【昼】

担当者名 南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HIS170F	◎		○		○
科目名	地域の文化と歴史				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

受講者が学生時代を過ごす北九州・下関地域のあゆみ、及びその過程で生まれた地域における様々な文化に関して基本的な事項を学ぶ。そのことを通じ、自らが関わる地域への関心・愛着を深めるとともに、地域の特長や課題を分析・考察する基礎的な力を得ることを目指す。

授業においては、各トピックに関する北九州・下関地域の第一人者である専門実務家をゲストとしてお招きする。北九州・下関地域出身者のみならず、その他の地域の出身者にとっても、今後の学生生活や就職、社会活動の充実につながる学びを得ることができる内容で構成する。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回： ガイダンス、本授業で対象とする「地域」とは
- 第 2 回： 《歴史》現在の地域
- 第 3 回： 《歴史》原始の地域
- 第 4 回： 《歴史》古代の地域
- 第 5 回： 《歴史》中世・近世の地域
- 第 6 回： 《歴史》幕末期の地域
- 第 7 回： 《歴史》明治以降の日本の近代化と地域
- 第 8 回： 《歴史》戦前・戦中・戦後復興期の地域
- 第 9 回： 《文化》地域の美術、現代アート（北九州市立美術館のコレクション）
- 第 10 回： 《文化》地域の漫画文化、ポップカルチャー
- 第 11 回： 《文化》地域の芸術、音楽、演劇
- 第 12 回： 《文化》地域の文学① 【総論】
- 第 13 回： 《文化》地域の文学② 【各論】
- 第 14 回： 《文化》地域の映画文化
- 第 15 回： 《文化》地域の文化財

※ゲスト（各分野の専門実務家）の御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性がある。

※参考：前年度のゲストの所属組織等（今年度も概ね同様の予定）（順不同）

《北九州市文化企画課、北九州市世界遺産課、北九州市立いのちのたび博物館、北九州市立美術館、北九州市漫画ミュージアム、北九州フィルム・コミッション、北九州芸術劇場、北九州市立文学館、北九州市立松本清張記念館、下関市教育委員会文化財保護課、下関市立土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム、下関市立歴史博物館》

成績評価の方法 /Assessment Method

- 日常の授業への取り組み（授業中に課すミニレポート等）： 30%
- 中間レポート： 35%
- 期末レポート： 35%

地域の文化と歴史【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回授業のテーマに関し、各自、事前に自分自身が知りたい内容を考えて授業に臨むこと。
授業中に興味を持った事項について、各回授業後に各自が文献やインターネット情報等を用いて自主的に調べたり、北九州・下関地域の各種ミュージアム等を実際に見学したりして理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

授業計画については、ゲストスピーカーの御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性がある。
中間・期末レポートの提出には原則としてMoodleを使用する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

皆さんが学生時代を過ごす北九州・下関地域の文化や歴史を学ぶことで、皆さんのこれからの学習やキャリア形成、また教養を深める活動にとってプラスとなる知識を得ることができ、さらに、地域に対する関心が増して有意義な学生生活を送ることにつながる授業にしたい。

北九州市・下関市の博物館等の学芸員や文化行政担当者等が、オムニバス形式で各専門分野に関する北九州・下関地域の文化や歴史について解説し、地域への関心や愛着の醸成を図る。

キーワード /Keywords

北九州・下関地域(関門地域)、歴史、文化、文学、芸術

SDGs 4.質の高い教育を、SDGs 11.まちづくり、SDGs 16.平和と公正

実務経験のある教員による授業

地域の達人【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR212F	◎		○		○
科目名	地域の達人		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業のコンセプトは、「もうひとつの名刺を持つ」

- ・ 会社組織やNPO法人などで、仕事として社会貢献・地域貢献活動を行っている方
- ・ 仕事以外で社会貢献・地域貢献活動を行っている方
- ・ 雇われないで個人として仕事をしている方
- ・ 会社やお店を営んでいる方

このような社会人をお招きし、以下の点についてお話しさせていただきます。

- ①どんな活動をしているのか
- ②活動のねらい、社会的意義、成果
- ③活動するときに乗り越えた壁
- ④人、組織をどう動かすのか
- ⑤将来ビジョン

企業に雇われて働くというキャリアが唯一のキャリアではありません。
また、パラレルワークや副業など、様々な働き方が広がってきています。
この授業ではサラリーマン以外の道を歩まれている方から、
自分でやること、社会や地域のためにやるべきこと、リーダーシップなどを学びます。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～13回 地域の達人によるお話
- 第14回 達人を振り返る
- 第15回 まとめ

【これまでの登壇者】

海外ボランティアNPO法人代表、ソーシャル大学学長、公務員、ボーカリスト、障がい者自立団体代表、銀行員兼産学連携コーディネーター、照明デザイナー、物流・運送会社社長、総合交通産業社長、サラリーマン兼ギタリスト、IT企業起業家、不動産会社社長、まりづくりプロデューサー、教育NPO代表、といった方に登壇いただきました。どの「達人」も仕事がかどうかにかかわらず、「社会に役立つこと」を考え、強い想いの下に実践をされている方ばかりでした、
今回も昨年度と同様に「熱い達人」たちをゲストにお招きする予定です。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60% レポート...40%

地域の達人【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に詳細のスケジュールを提示しますので、事前に話者について調べてください。また、各回の授業後には、事前に調べたこととの相違を確認してください。更に、すべての回が終了した際に全体を振り返って、自分のキャリアや将来展望にどのような影響があったのかについて考えを深めてください。

履修上の注意 /Remarks

外部から講師をお招きします。遅刻や授業途中の入退室はしないでください。
授業開始前までに予告された情報をもとに、登壇者について事前に調べておいてください。授業終了後にはお話を聞きながら生じた疑問について各自で調べ、疑問を解消するようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

facebookに『地域の達人』ページを開設しています。予告とアーカイブを掲載していますので、確認しながら授業を受講してください。
人材採用・マネジメントの経験を持つ教員が、働く意味や意義について理解してもらうための授業を企画する。また、ゲスト講師が自らの地域でのキャリアについて語ることで、学生のキャリア意識を醸成する。

キーワード /Keywords

NPO、NGO、地域貢献、社会貢献、ソーシャルビジネス、コミュニティビジネス、会社経営、起業、キャリア、まちづくり、個人事業主、実務経験のある教員による授業
★関連するSDGsゴール
「4. 質の高い教育を」「8. 働きがい・経済成長」「11. まちづくり」

地域のにぎわいづくり【昼】

担当者名 /Instructor 南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE270F	◎		○		○
科目名	地域のにぎわいづくり				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

観光やイベントの振興等を通じ北九州・下関地域をにぎわい溢れる地域とするために必要な視点や方策について学ぶ。学生の主体的な学びを重視し、地域のにぎわいづくりに向けた現状と課題を把握・分析し、それを踏まえた「にぎわいづくりプラン」を自ら立案すること等を通じ、地域課題の解決に向けた基礎的な力を得ることを目指す。

2020年度授業の1～12回(予定)は、「スタジアムをいかした地域活性化(にぎわいづくり)」の観点から、日本における先駆的な「まちなかスタジアム」であるミクニワールドスタジアム北九州(愛称:ミクスタ)を題材とし、小倉駅周辺の活性化を視野に入れた「ミクスタ集客プラン」をグループワークで作成する。作成に際し、有識者によるゲスト講話やフィールドワークも実施する。13回以降(予定)は、MICE誘致や観光などのにぎわいづくり政策全般の意義や課題等について事例を中心に学んでいく。

本授業は、北九州市役所、およびギラヴァンツ北九州等の協力のもとで実施する。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

・九州経済調査協会『2019年版九州経済白書 ～スポーツの成長産業化と九州経済～』
その他、授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 ガイダンス
- 第 2回 にぎわいづくり政策の意義①【スポーツツーリズム】
- 第 3回 にぎわいづくりとスタジアム
- 第 4回 Jリーグ・ギラヴァンツ北九州の社会的存在意義と集客戦略、課題
- 第 5回 フィールドワーク ギラヴァンツ北九州試合観戦①【各種イベントや飲食店舗等の状況視察】
- 第 6回 フィールドワーク ギラヴァンツ北九州試合観戦②【来場者動向等の状況視察】
- 第 7回 プラン作成①【現状分析、課題抽出】
- 第 8回 プラン作成②【アイデア検討】
- 第 9回 プラン作成③【アイデア検討の深化】
- 第 10回 プラン作成④【プランとりまとめ】
- 第 11回 プラン作成⑤【成果物の作成、発表練習】
- 第 12回 集客プラン発表会
- 第 13回 にぎわいづくり政策の意義②【MICE誘致】
- 第 14回 にぎわいづくり政策の意義③【観光振興】
- 第 15回 にぎわいづくり政策に起因する課題への対応等

※ 受講者数、Jリーグの日程、ゲストのスケジュール、天候の状況等に応じ、授業計画を一部変更する場合がある。特に、フィールドワークについては別の手段に変更する可能性がある。変更がある場合、第1回授業において説明する。

※ 第5～6回のフィールドワークは同一日に実施する。日程は10月25日(日)を予定する。その日に欠席する受講者は11月8日(日)に参加すること。いずれかに参加することが原則として必須である。フィールドワークの場所は、ミクニワールドスタジアム北九州(小倉駅から徒歩7分程度)とし、スタジアムまでの交通費、および試合観戦料(500～2,000円程度)は受講者の自己負担となる。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 日常の授業への取り組み(グループワークへの取り組み姿勢等): 30%
- 集客プランの内容に対する評価: 40%
- 期末レポート: 30%

地域のにぎわいづくり【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

集客プラン作成に関しては、講義時間以外において各自による情報収集（他地域の事例など）・考察や、必要に応じた受講者間の意見交換やとりまとめ作業等が必要となる。メンバーで協議の上、事前・事後学習に計画的に取り組むこと。
また、休日等に小倉駅周辺を散策するなどして、にぎわいづくりのあり方を考えることも事前・事後学習の一助となる。

履修上の注意 /Remarks

原則としてフィールドワークへの参加を必須とする。日程は10月25日(日)を予定する。その日に欠席する受講者は11月8日(日)に参加すること。詳細は第1回授業において説明する。
フィールドワークでは試合観戦料（500～2,000円程度）および小倉駅までの交通費が必要となり、受講者の自己負担となる。
フィールドワークに参加する学生は「学生教育研究災害傷害保険」への加入が必須であり、未加入の学生は各自で必要な手続きを事前に行っておくこと。
グループワークを行う班の分け方については、教員から指定する。

※ 北方・ひびきのキャンパスの一方が休講日として指定予定の11月6日（金）、1月15日（金）については、北方・ひびきの連携である本授業は実施しない予定である。詳細は第1回授業において説明する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州を中心とする地域のにぎわいづくりに関し、現実に即した政策を学ぶことに加え、学生自身が「にぎわいづくりプラン」（2020年度はミクニワールドスタジアム北九州集客プラン）をグループワークで主体的に検討することにより、学生の皆さんのこれからの多様な学習やキャリア形成にとってプラスとなる知識や経験を得ることが出来る授業をめざす。

民間シンクタンクでまちづくりのコンサルタント実務経験のある教員が、地域企業や行政職員等をゲストに招くとともに北九州市内でのフィールドワーク、グループワークを実施・指導し、実践的・主体的に学生が「にぎわいづくりプラン」作成等に取り組む。

キーワード /Keywords

観光、イベント、MICE、集客、スタジアム、スポーツをいかしたまちづくり

SDGs 11.まちづくり、SDGs 12.作る・使う責任

実務経験のある教員による授業

地域と国際【昼】

担当者名 /Instructor 吉村 英俊 / YOSHIMURA, Hidetoshi / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE003F	◎		○		○
科目名	地域と国際				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

企業は、人口の減少や市場の成熟により国内市場の成長が期待できない中、新たな市場を求めて海外展開を進めている。また労働力人口が減少し、さらに高齢者が増加する中、外国人労働者の受入れを余儀なくされている。さらに外国人観光客も年々増加している。こういった状況にあって、北九州地域の企業や公的機関（市役所など）がどのように取り組んでいるのか、本授業では原則毎回、企業や公的機関から海外事業に携わっている担当者を招聘し、国際化の実状を話していただき、学生との間で意見交換を行う。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜、書籍や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、書籍や資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス
 - 第2回公的機関の国際化の現状（例、北九州市の国際交流・多文化共生）
 - 第3回公的機関の国際化の現状（例、北九州市の国際環境保全）
 - 第4回公的機関の国際化の現状（例、北九州市の水ビジネス）
 - 第5回公的機関の国際化の現状（例、国の国際貢献活動）
 - 第6回公的機関の国際化の現状（例、国の企業の海外展開支援）
 - 第7回企業の海外事業の現状（例、製造業（大企業））
 - 第8回企業の海外事業の現状（例、製造業（中小企業））
 - 第9回企業の海外事業の現状（例、サービス業）
 - 第10回企業の海外事業の現状（例、金融業）
 - 第11回 企業の海外事業の現状（例、建設業）
 - 第12回 本学における取組み事例①
 - 第13回 本学における取組み事例②
 - 第14回国際化が進展する中で、いかに生きるか①
 - 第15回国際化が進展する中で、いかに生きるか②
- ※講師（ゲストスピーカー）の都合により、授業の内容及び順番に変更があり得る。

成績評価の方法 /Assessment Method

北九州地域の企業や公的機関の国際化の実状を理解し説明ができること。さらにこれらの実状に対して、独自の考えを述べるができること。
レポート：100%（原則毎回、レポートを提出）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞やインターネット、セミナー、展示会などを通じて、地域情報の収集に努めること。

履修上の注意 /Remarks

積極的に質問したり、意見を述べたりすること。授業を受け身で捉えるのではなく、授業をつうじて、学生生活の過ごし方や、将来のあるべき姿・生き方を考えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

海外にかかわっている企業や公的機関の方が、その取組み内容を解説する。

キーワード /Keywords

実務経験のある教員による授業

地域防災への招待【昼】

担当者名 /Instructor 加藤 尊秋 / Takaaki KATO / 環境生命工学科 (19~), 上江洲 一也 / Kazuya UEZU / 環境生命工学科 (19~)
村江 史年 / Fumitoshi MURAE / 基盤教育センターひびきの分室, 城戸 将江 / Masae KIDO / 建築デザイン学科 (19~)
南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所, 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SSS001F	◎		○		○

科目名	地域防災への招待	※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
-----	----------	----------------------------------

授業の概要 /Course Description

本講義では、防災の基礎知識及び自治体の防災体制・対策等を学ぶことを通じ、学生自身の防災リテラシーと地域での活動能力を向上させることを目的とする。
地震や風水害などの代表的な災害のメカニズム、自然災害に対する北九州市の防災体制・対策について、本学および北九州市役所を中心とする専門家が全15回にわたって講義し、防災の基礎、自治体の防災、市民・地域主体の防災の3つの知識を身につける。講義の中で避難所運営などのワークショップを行い、手を動かし、北方・ひびきのの学生同士、また、学生と講師が協力しながら地域防災のあり方を考える。
さまざまな分野を担当する北九州市役所の職員が講師として参画するため、防災を軸としつつ地方自治体の業務の実際を幅広く知るためにも役立つ。

教科書 /Textbooks

なし、授業で必要に応じて資料を配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岡田恒男、土岐憲三(2006)：地震防災のはなし、朝倉書店
京都大学防災研究所編(2011)：自然災害と防災の事典、丸善出版
金吉晴(2006)：心的トラウマの理解とケア、第2版、じほう
片田敏孝(2012)：人が死なない防災、集英社新書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ガイダンス：災害についての考え方（北九大：南・加藤）
- 気象と地震（北九州市危機管理室）
- 北九州市の防災体制と減災への取組み（北九州市危機管理室）
- 防災と河川：降雨を安全に流すために（北九州市建設局）
- 大災害と消防：最前線で戦う消防をとりまく環境と現状（北九州市消防局）
- 学校における防災教育：災害時に主体的に行動する力を育む取組み（北九州市教育委員会）
- 7-8 避難所運営訓練HUG（北九州市危機管理室）
- 防災が地域を変える、社会を変える（外部講師、北九大：村江）
- 地域協働によるまちづくり（外部講師）
- 産官学連携による消防技術の革新（北九大：上江洲）
- 都市防災：建物の耐震性とは何か（北九大：城戸）
- ジェンダーと防災：地域での実践（北九大：二宮）
- 災害時のこころのケア（北九州市保健福祉局）
- 学生にもできる防災・災害ボランティア活動（北九大：担当教員一同）

なお、7-10回は、合同スクーリングとして5/16(土)に西小倉周辺の会場で実施予定。市役所による防災公開講座と合同実施。

成績評価の方法 /Assessment Method

活発な授業参加 30%
レポートおよび小テスト 70%

地域防災への招待【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に関連する社会的・技術的事項について予習しておくこと。授業の後は、学んだ内容の活かし方について考察を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

授業終了時に復習や次回の講義に向けた予習として読むべき資料を提示するので、各自学習を行うこと。
通常の授業は、北方 - ひびきの間での遠隔講義となるため、受講人数制限あり。
合同スクーリングの交通費・昼食代は、受講者の負担となる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者は、授業終了後も地域防災について各自が取り組めることを続けて欲しい。そのための学習や活動の機会を北九州市役所と連携して継続的に提供する。

キーワード /Keywords

地域防災、危機管理、大学生の役割、実務経験のある教員による授業
SDGsで関連するゴール(3.健康と福祉を、5.ジェンダー平等、6.水とトイレを、13.気候変動対策)

北九州市の都市政策【昼】

担当者名 /Instructor 内田 晃 / AKIRA UCHIDA / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLC270F	◎		○		○
科目名	北九州市の都市政策		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

北九州市の都市政策について、都市づくり、港湾、産業、保健福祉、環境など分野ごとの政策、及び個別プロジェクトに至るまで包括的に学ぶことで、地域への愛着を深めるとともに、地域の課題を考察するきっかけをつかむことを目指す。

本授業においては、各テーマに関して精通している北九州市役所の担当者等をゲストスピーカーとしてお招きし、北九州市出身者のみならず、市外出身者の双方にとって学びとなるお話をさせていただく。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス / 北九州市の都市政策の歴史【五市合併、ルネッサンス構想、「元気発進！北九州」プラン】
- 第2回 北九州市のコミュニティ施策【まちづくり協議会、自治会、市民センター】
- 第3回 北九州市の都市計画【都市計画マスタープラン、立地適正化計画】
- 第4回 北九州市の都市交通政策【環境首都総合交通戦略、モビリティマネジメント】
- 第5回 北九州市の空き家対策、空き家活用【空き家、住宅セーフティネット】
- 第6回 公共施設マネジメント【公共施設管理、公共施設集約化】
- 第7回 市民に親しまれる道づくり【バリアフリー、国家戦略特区を活用した賑わいづくり】
- 第8回 北九州市の港湾政策【響灘コンテナターミナル、北九州空港、インバウンド】
- 第9回 北九州市の産業・雇用政策【新成長戦略、企業誘致】
- 第10回 北九州市の保健福祉政策【子育て支援、高齢者支援】
- 第11回 公害克服と環境協力・環境学習【公害克服、環境国際協力、環境ビジネス、ESD、環境首都検定】
- 第12回 環境保全の幅広い取組み【公害防止法令、環境監視、PCB処理、リスクマネジメント、生物多様性】
- 第13回 ごみの適正処理と資源循環【ごみ分別と有料化、資源循環、北九州エコタウン事業、環境未来助成】
- 第14回 地球温暖化と環境エネルギー対策【地球環境問題、京都議定書、再生可能エネルギー】
- 第15回 まとめ / 期末レポートの説明

※ゲストスピーカーは主に行政施策を担当している北九州市役所の担当部局職員の方を想定しています。なお、ゲストスピーカーの御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の授業レポート：30%
- ・ 期末レポート：70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義で習得する都市政策に関する知見や情報は、皆さんが普段から居住、通学している市街地に常に存在しています。普段から都市政策やまちづくりの事を意識しながら、まちを観察してみてください。講義中に興味を持った事は、事後に各自調べて理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

北九州市の都市政策 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州市のこれまでの都市づくり、これからの都市づくりを理解する上で、大変参考となる話を聞くことができます。本講義を受けることで、北九州市への愛着が増し、将来的に北九州市に定住する意向を強めてくれることを期待します。

北九州市の都市政策に従事する市職員が、各担当の施策について解説する。

キーワード /Keywords

実務経験のある教員による授業

まなびと企業研究I【昼】

担当者名 /Instructor 小林 敏樹 / Toshiki Kobayashi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR270F	◎		○		○
科目名	まなびと企業研究 I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

北九州・下関地域の企業、団体について現状、課題、展望を認識し、考察することで理解を深めることがねらいです。特に本講義では、地域づくり、まちづくり、都市づくり、地域貢献といった分野についての事業や取り組みに焦点を当てます。本講義で取り上げる業界、分野の視点としては、「経済・産業」、「福祉」、「交通」、「都市計画」、「地域経済」、「まちづくり」、「文化・芸術」、「金融」などを取り上げます。身近な地域企業や地域人材について学ぶことを通じ、働くことの価値、キャリア、幅広い視点から社会動向や自らの将来のビジョンを考える契機になることを期待します。なお、この科目は「主に北九州市や下関市の企業団体を視野に入れた就職活動のプランニング」を目的とした「まなびと企業研究II」（3年次）の準備講座としての役割も果たしています。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・北九州市立大学地域戦略研究所・キャリアセンター(2019)「学生による学生のための北九州・下関地域 業界MAP」
<https://manabitopia.jp/pdf/businessmap.pdf> から入手可
- 大室悦賀(2016)「サステイナブル・カンパニー入門: ビジネスと社会的課題をつなぐ企業・地域」学芸出版社
- 饗庭伸ほか(2016)「まちづくりの仕事ガイドブック: まちの未来をつくる63の働き方」学芸出版社
- 日本都市計画学会関西支部(2011)「いま、都市をつくる仕事: 未来を拓くもうひとつの関わり方」学芸出版社
- 山崎亮(2015)「ふるさとを元気にする仕事」筑摩書房
- 山崎亮ほか(2014)「ハードワーク! グッドライフ! 新しい働き方に挑戦するための6つの対話」学芸出版社
- ・北九州・下関まなびとびあホームページ (<https://manabitopia.jp/>)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2～15回 企業・団体等によるプレゼンテーション、質疑、議論(グループワーク)、レポート記述
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

各回の講義で出題されるレポート(全14回)・・・90%
質疑応答、議論・・・10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の講義前に、その企業、団体についてホームページ等で調べ、全体像を把握しておく。
毎回の講義後に、その企業、団体についてさらに調べてみる。また、関連する企業や団体についても調べてみる。さらに、講義内で知った取り組み、事業内容を各自が担当してさらに展開すると想定した場合、どういった展開の可能性、方向性があるか検討してみる。

履修上の注意 /Remarks

講義時の途中入室、途中退室は原則禁止とします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一般的な企業説明会ではなかなか聞くことができない、業界や企業、団体の地域創生、地域（社会）貢献、まちづくりなどについての事業や取り組みについて重点的に学ぶことができる貴重な機会です。

キーワード /Keywords

企業研究、就職、まちづくり、都市づくり、地域創生、地方創生、地域貢献、社会貢献、CSR、SDGs、地域づくり、地域活性化、関門地域、地域志向

SDGs : Goal11(住み続けられるまちづくりを)

Communicative English I (律政群 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101F		◎			
科目名	Communicative English I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習などを取り込む場合があります。

教科書 /Textbooks

QUICK EXERCISES FOR THE TOEIC L&R TEST 400 Listening ISBN 9784889187483 松柏社 1404円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Travel/Food
- 2回 At the Office/Hotels
- 3回 Office Life/Recreation
- 4回 Advertising/On the Job
- 5回 Business/Restaurants
- 6回 Travel/Office Life
- 7回 Transportation/Culture
- 8回 At Work/Holidays
- 9回 On the Job/Restaurants
- 10回 Weather/Business World
- 11回 Travel/Human Resources
- 12回 Education/Celebrations
- 13回 Office Environment/Restaurants
- 14回 Business World/Shopping
- 15回 Office Meetings/Recreation

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...90% 授業への取組...10%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- リーディング教材の下調べをしておく。
- リスニングの問題の音声を聞く。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English I (律政群 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101F		◎			
科目名	Communicative English I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習を取り込みます。

教科書 /Textbooks

QUICK EXERCISES FOR THE TOEIC®L&R TEST 500 Listening 松柏社 1430円
世界を読み解く15の扉 朝日出版 1980円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Scene 1/2 (リスニング)、Unit 1 (リーディング)
- 3回 Scene 3/4 (リスニング)、Unit 2 (リーディング)
- 4回 Scene 5/6 (リスニング)、Unit 3 (リーディング)
- 5回 Scene 7/8 (リスニング)、Unit 4 (リーディング)
- 6回 Scene 9/10 (リスニング)、Unit 5 (リーディング)
- 7回 Scene 11/12 (リスニング)、Unit 6 (リーディング)
- 8回 Scene 13/14 (リスニング)、Unit 7 (リーディング)
- 9回 Scene 15/16 (リスニング)、Unit 8 (リーディング)
- 10回 Scene 17/18 (リスニング)、Unit 9 (リーディング)
- 11回 Scene 19/20 (リスニング)、Unit 10 (リーディング)
- 12回 Scene 21/22 (リスニング)、Unit 11 (リーディング)
- 13回 Scene 23/24 (リスニング)、Unit 12 (リーディング)
- 14回 Scene 25/26 (リスニング)、Unit 13 (リーディング)
- 15回 Scene 27/28 (リスニング)、Unit 14 (リーディング)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 55% 小テスト・課題... 30% 日常の授業への取り組み... 15%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：指定された範囲の予習
事後学習：授業で扱った内容の復習

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English I (律政群 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101F		◎			
科目名	Communicative English I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習を取り込みます。

教科書 /Textbooks

学習管理システムMoodle内にある資料や配布プリントを用いる。
(Moodle上のデータをダウンロードしたりするために、インターネット接続通信費がかかる場合がある。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜授業時やMoodleにて紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自分の好きな仕事
- 3回 働き方改革
- 4回 少子高齢化
- 5回 メディア・リテラシー
- 6回 英語とのつきあい方(1)【英語とつきあう前に】
- 7回 TOEIC演習(1)【リスニング問題】
- 8回 環境
- 9回 TOEIC演習(2)【文法問題】
- 10回 Internet of Things (IoT)
- 11回 TOEIC演習(3)【長文問題】
- 12回 読解力
- 13回 これからの教育
- 14回 英語とのつきあい方(2)【英語とつきあう時に】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...30%、平常の学習状況（小テストを含む）...70%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明したりMoodle上に情報を掲載したりするので、その指示に従うこと。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。詳細は、初回の授業で説明する。

キーワード /Keywords

Communicative English I (律政群 1 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101F		◎			
科目名	Communicative English I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC®L & Rテストの演習を取り込みます。

教科書 /Textbooks

- ①“Total Preparation for the TOEIC® Listening and Reading Test”
(著者) 石井隆之他 英宝社 ¥2,200 ISBN978-4-269-66048-9
- ②“TOEIC®L&R TEST 出る単特急 金のフレーズ” (著者) TEX加藤
朝日新聞出版 ¥979 ISBN978-4-02-331568-6

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 Chapter 1 Restaurant, 単語小テスト 1
- 3回 Chapter 1 Restaurant, 単語小テスト 2
- 4回 Chapter 2 Department Store, 単語小テスト 3
- 5回 Chapter 3 Hotel, 単語小テスト 4
- 6回 Chapter 4 Bank, 単語小テスト 5
- 7回 Chapter 5 Hospital, 単語小テスト 6
- 8回 Chapter 6 Fitness Club, 単語小テスト 7
- 9回 Chapter 7 Airport, 単語小テスト 8
- 10回 Chapter 8 Leisure, 単語小テスト 9
- 11回 Chapter 9 Business Trip, 単語小テスト 10
- 12回 Chapter 10 Job Training, 単語小テスト 11
- 13回 Chapter 11 Internet Age, 単語小テスト 12
- 14回 Chapter 12 Car Society
- 15回 Chapter 13まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

最終評価には、TOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。
講義成績：期末試験：70%、日常の授業への取り組み（小テスト他）：30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業のChapterをやってくる。単語小テストの範囲の単語を覚えてくること。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English I (律政群 1 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101F		◎			
科目名	Communicative English I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習などを取り込む場合があります。

教科書 /Textbooks

Chizuko Tsumatori 他著 「First Time Trainer for the TOEIC TEST, Revised Edition」センゲージ 2200円
TEX 加藤 著 「TOEIC L&R TEST 出る単特急 金のフレーズ」朝日新聞出版 890円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ TOEIC公式問題集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション&基礎力確認テスト
- 第2回 unit1 / 文と文型 1
- 第3回 unit 2 / 文と文型 2
- 第4回 unit 3 / 文と文型 3
- 第5回 unit 4 / 時制 1
- 第6回 unit 5/ 時制 2
- 第7回 unit 6/ 時制 3
- 第8回 中間テスト (2 ~ 7 回までの学習内容の理解度確認)
- 第9回 unit 7/ 能動態と受動態
- 第10回 unit 8/ 現在分詞と過去分詞
- 第11回 unit 9/ 動名詞
- 第12回 unit 10/ 不定詞
- 第13回 unit 11/ 関係詞 1
- 第14回 unit 12/ 関係詞 2
- 第15回 unit 13/ 関係詞 3

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト 20% + 中間テスト 40% + 期末テスト 40%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎日の自己学習は、文法・語法/リーディング/リスニングの3本柱で取り組んでください。毎週、次の授業までにしておく事前の学習範囲は各授業で告知しますが、意識的に時間を作って、授業で学習した箇所の復習(事後学習)にも力を入れてください。また、各授業において、テキストに加えて文法・語法解説と練習問題及び読解問題のプリントを配布します。授業で精読し意味を確認した後は、事後学習として音読を取り入れた速読練習をしてください。その学習成果が英語力の向上に結びついてきます。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業では、これから1学期間の学習方針及び学習計画、成績付けに関わる説明をしますので、必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

使用テキスト及びプリントに記載されている英文は、くまなく速読で読めるように、またリスニングであれば、その英文を一度聞いて、正確に意味を把握し書き取れるようになることを学習の到達目標にしてください。それが次の学習ステップにつながってきます。

キーワード /Keywords

Communicative English I (律政群 1 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor 相原 信彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101F		◎			
科目名	Communicative English I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&Rテストの演習を取り込みます。

教科書 /Textbooks

Across Cultures (SANSHUSHA)
(1,700円 + 税)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 授業の進め方と成績評価について説明
- 第 2 回 Whose English?
- 第 3 回 "My mother Isn't Well, Sir."
- 第 4 回 Your Variety Is Better Than Mine.
- 第 5 回 Saying Hello
- 第 6 回 What is the Culture of English?
- 第 7 回 Where Should I Go to Learn English?
- 第 8 回 Writing Extremely Short Stories
- 第 9 回 Who Makes the Best English Teachers?
- 第 10 回 English Is an Asian Language!
- 第 11 回 What Is My First Language?
- 第 12 回 What Does It Mean to Be Bilingual?
- 第 13 回 When Should We Learn English?
- 第 14 回 "You Said So!" "No, We Didn't."
- 第 15 回 What Do People Talk About?

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 30%
定期試験 70%
(注) 平常点は 30% であるが、4 回以上欠席した場合、定期試験の受験資格はありません。
最終評価には TOEIC スコア が反映されます。詳しくは第 1 回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習は必須条件。予習していない場合は欠席と見なします。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に 1 回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第 1 回の授業に必ず出席すること。

Communicative English I (律政群 1 - F) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English I (律政群 1 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101F		◎			
科目名	Communicative English I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習などを取り込む場合があります。

教科書 /Textbooks

QUICK EXERCISES FOR THE TOEIC L&R TEST 400 Listening ISBN 9784889187483 松柏社 1404円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Travel/Food
- 2回 At the Office/Hotels
- 3回 Office Life/Recreation
- 4回 Advertising/On the Job
- 5回 Business/Restaurants
- 6回 Travel/Office Life
- 7回 Transportation/Culture
- 8回 At Work/Holidays
- 9回 On the Job/Restaurants
- 10回 Weather/Business World
- 11回 Travel/Human Resources
- 12回 Education/Celebrations
- 13回 Office Environment/Restaurants
- 14回 Business World/Shopping
- 15回 Office Meetings/Recreation

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...90% 授業への取組...10%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- リーディング教材の下調べをしておく。
- リスニングの問題の音声を聞く。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English I (律政群 1 - I) 【昼】

担当者名 /Instructor 酒井 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - I

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101F		◎			
科目名	Communicative English I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&Rテストの演習を取り込みます。

教科書 /Textbooks

『First Time Trainer for the TOEIC TEST, Revised Edition』 センゲージラーニング 2,200円 ISBN978-4-86312-293-2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 vol. 5』 国際コミュニケーション協会
『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 vol. 4』 国際コミュニケーション協会
『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 vol. 3』 国際コミュニケーション協会
『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 vol. 2』 国際コミュニケーション協会
『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 vol. 1』 国際コミュニケーション協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス・授業の進め方
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 復習
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Unit 9
- 12回 Unit 10
- 13回 Unit 11
- 14回 Unit 12
- 15回 総合復習

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験40%、中間確認テスト20%、小テスト20%、課題10%、授業への参加度10%
最終評価には TOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前後にそれぞれ予習、復習をやること。
予習...単語の学習 (毎回単語テストを実施する)
復習...学習した箇所を必ず復習すること。
不明な点を明らかにし必要ならば質問すること

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

Communicative English I (律政群 1 - I) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English II (律政群 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 相原 信彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111F		◎			
科目名	Communicative English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&Rテストの演習を取り込みます。

教科書 /Textbooks

STEP-UP SKILLS FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST: Level 3 (ASAHI PRESS)
(1,700円 + 税)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 授業の進め方と成績評価について説明
- 第 2 回 Eating Out
- 第 3 回 Travel
- 第 4 回 Amusement
- 第 5 回 Meetings
- 第 6 回 Personnel
- 第 7 回 Shopping
- 第 8 回 Advertisement
- 第 9 回 Daily Life
- 第 10 回 Office Work
- 第 11 回 Business
- 第 12 回 Traffic
- 第 13 回 Finance and Banking
- 第 14 回 Media
- 第 15 回 Health and Welfare

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 30%
定期試験 70%
(注) 平常点は30%であるが、4回以上欠席した場合、定期試験の受験資格はありません。
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習は必須条件。予習していない場合は欠席と見なします。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English II (律政群 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111F		◎			
科目名	Communicative English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習を取り込みます。

教科書 /Textbooks

学習管理システムMoodle内にある資料や配布プリントを用いる。
(Moodle上のデータをダウンロードしたりするために、インターネット接続通信費がかかる場合がある。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜授業時やMoodleにて紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自分の好きな仕事
- 3回 やり抜く力
- 4回 成功の秘訣
- 5回 メディア・リテラシー
- 6回 英語とのつきあい方(1)【英語とつきあう前に】
- 7回 TOEIC演習(1)【リスニング問題】
- 8回 環境
- 9回 TOEIC演習(2)【文法問題】
- 10回 Internet of things (IoT)
- 11回 TOEIC演習(3)【長文問題】
- 12回 読解力
- 13回 仕事を創る
- 14回 英語とのつきあい方(2)【英語とつきあう時に】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...30%、平常の学習状況（小テストを含む）...70%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明したりMoodle上に情報を掲載したりするので、その指示に従うこと。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。詳細は、初回の授業で説明する。

キーワード /Keywords

Communicative English II (律政群 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111F		◎			
科目名	Communicative English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習を取り込みます。

教科書 /Textbooks

Realise Japan イギリス人特派員が見た日本 金星堂 2052円
 TOEIC® リスニングテスト速攻マスター 成美堂 1430円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 オリエンテーション
- 2 回 Unit 1/2 (リスニング)、Unit 1 (リーディング)
- 3 回 Unit 3/4 (リスニング)、Unit 2 (リーディング)
- 4 回 Unit 5/6 (リスニング)、Unit 3 (リーディング)
- 5 回 Unit 7/8 (リスニング)、Unit 4 (リーディング)
- 6 回 Unit 9/10 (リスニング)、Unit 5 (リーディング)
- 7 回 Unit 11/12 (リスニング)、Unit 6 (リーディング)
- 8 回 Unit 13/14 (リスニング)、Unit 7 (リーディング)
- 9 回 Unit 15/16 (リスニング)、Unit 8 (リーディング)
- 10 回 Unit 17/18 (リスニング)、Unit 9 (リーディング)
- 11 回 Unit 19/20 (リスニング)、Unit 10 (リーディング)
- 12 回 Unit 21/22 (リスニング)、Unit 11 (リーディング)
- 13 回 Unit 23/24 (リスニング)、Unit 12 (リーディング)
- 14 回 Unit 13 (リーディング)
- 15 回 Unit 14 (リーディング)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 55% 小テスト・課題... 30% 日常の授業への取り組み... 15%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：指定された範囲の予習
 事後学習：授業で扱った内容の復習

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

Communicative English II (律政群 1 - C) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English II (律政群 1 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111F		◎			
科目名	Communicative English II				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習などを取り込む場合があります。

教科書 /Textbooks

一歩上を目指すTOEIC LISTENING AND READING TEST Level 2 ISBN 9784255155951 朝日出版社 1836円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Travel/Food
- 2回 At the Office/Hotels
- 3回 Office Life/Recreation
- 4回 Advertising/On the Job
- 5回 Business/Restaurants
- 6回 Travel/Office Life
- 7回 Transportation/Culture
- 8回 At Work/Holidays
- 9回 On the Job/Restaurants
- 10回 Weather/Business World
- 11回 Travel/Human Resources
- 12回 Education/Celebrations
- 13回 Office Environment/Restaurants
- 14回 Business World/Shopping
- 15回 Office Meetings/Recreation

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...90% 授業への取組...10%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- リーディング教材の下調べをしておく。
- リスニングの問題の音声聞く。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English II (律政群 1 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111F		◎			
科目名	Communicative English II				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習などを取り込む場合があります。

教科書 /Textbooks

一歩上を目指すTOEIC LISTENING AND READING TEST Level 2 ISBN 9784255155951 朝日出版社 1836円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Eating Out
- 2回 Travel
- 3回 Amusement
- 4回 Meetings
- 5回 Personnel
- 6回 Shopping
- 7回 Advertisement
- 8回 Daily Life
- 9回 Office Work
- 10回 Business
- 11回 Traffic
- 12回 Finance and Banking
- 13回 Media
- 14回 Health and Welfare
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...90% 授業への取組...10%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

リーディング教材の下調べをしておく。
リスニングの問題の音声を聞く。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English II (律政群 1 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor 薬師寺 元子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111F		◎			
科目名	Communicative English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

[授業の概要]

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R)L&Rテストの演習などを取り込む場合があります。

- ① 授業開始時に小テスト（10分）を実施。教科書及び新公式問題集より出題
- ② 教科書のポイントを押さえながら、Listening Section、Grammar Section、Reading Section の練習問題をやる。

[授業のねらい]

- ① 多種多様な情報を収集・発信していくために、国際語としての英語の総合的運用能力を高めることを目的とする。
特に、「ビジネス関連の語彙や表現」を習得し、「TOEICの出題形式」そのものに慣れること。
- ② TOEICの出題形式や問題に慣れるとともに、精読を通じて読解力を身につける。
また、ある程度の内容のある英語を読み、聞き、理解できる力を養成する。

教科書 /Textbooks

『一歩上を目指すTOEIC Listening and Reading Test: Level 1-Basic』（新形式対応）
著者：北尾泰幸、西田晴美、Brian Covert ￥1,836（税込）
出版社：朝日出版社 2017年10月発行

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TOEICテスト新公式問題集（発行：財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC運営委員会）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Unit 1 Eating Out [grammar 動詞①]
- 3回 Unit 2 Travel [grammar 動詞②]
- 4回 Unit 3 Amusement [grammar 動詞③]
- 5回 Unit 4 Meetings [grammar 代名詞]
- 6回 Unit 5 Personnel [grammar 不定詞と動名詞①]
- 7回 Unit 6 Shopping [grammar 不定詞と動名詞②]
- 8回 Unit 7 Advertisement [grammar 名詞・冠詞・数量詞①]
- 9回 Unit 8 Daily Life [grammar 名詞・冠詞・数量詞②]
- 10回 Unit 9 Office Work [grammar 仮定法]
- 11回 Unit 10 Business [grammar 分詞]
- 13回 Unit 11 Traffic [grammar 関係詞]
- 12回 Unit 12 Finance and Banking [grammar 接続詞]
- 14回 Unit 13 Media [grammar 前置詞]
- 15回 Unit 14 Health and Welfare

成績評価の方法 /Assessment Method

- ① 小テスト、レポート(20%)
- ② 授業参加、授業貢献度(特に自発的、積極的な発表を評価する)(20%)
- ③ 期末考査(60%) + TOEIC受験結果
最終評価にはTOEICスコアが反映される。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に説明する。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

- ① 授業の準備を毎回十分にやること。
- ② 英和辞典、和英辞典、英英辞典を持参のこと。(電子辞書も可)
- ③ 授業中は、携帯電話等の使用を控えること。
- ④ 発表が主体、授業への積極的な参加が要求されるので、十分な予習が必須である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ① 日頃から英語に親しみ、学習する機会を、出来るだけ多く作ること。
- ② 能動的な勉学に徹すること。
- ③ 少々難易度の高い授業になるので、集中して受講すること。

キーワード /Keywords

Communicative English II (律政群 1 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor 酒井 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111F		◎			
科目名	Communicative English II				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部に TOEIC (R) L&R テストの演習を取り込みます。

教科書 /Textbooks

『一歩上を目指すTOEIC Listening And Reading TEST : Level 1 Basic』朝日出版社 1,870円 ISBN978-4-255-15614-9

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『公式TOEIC Listening & Reading問題集 vol. 5』国際コミュニケーション協会
『公式TOEIC Listening & Reading問題集 vol. 4』国際コミュニケーション協会
『公式TOEIC Listening & Reading問題集 vol. 3』国際コミュニケーション協会
『公式TOEIC Listening & Reading問題集 vol. 2』国際コミュニケーション協会
『公式TOEIC Listening & Reading問題集 vol. 1』国際コミュニケーション協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス・授業の進め方
- 2回 Unit 1 Eating Out 文法：動詞（1）
- 3回 Unit 2 Travel 文法：動詞（2）
- 4回 Unit 3 Amusement 文法：動詞（3）
- 5回 Unit 4 Meetings 文法：代名詞
- 6回 復習
- 7回 Unit 5 Personnel 文法：不定詞と動名詞（1）
- 8回 Unit 6 Shopping 文法：不定詞と動名詞（2）
- 9回 Unit 7 Advertisement 文法：名詞・冠詞・数量詞（1）
- 10回 Unit 8 Daily Life 文法：名詞・冠詞・数量詞（2）
- 11回 Unit 9 Office Work 文法：仮定法
- 12回 Unit 10 Business 文法：分詞
- 13回 Unit 11 Traffic 文法：関係詞
- 14回 Unit 12 Finance and Banking 文法：接続詞
- 15回 Unit 13 Media 文法：前置詞

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験40%、習熟度テスト20%、小テスト20%、課題10%、授業への参加10%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前・事後学習は必ず行ってください。
不明な点は質問してください。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Communicative English II (律政群 1 - G) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

キーワード /Keywords

Communicative English II (律政群 1 - I) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - I

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111F		◎			
科目名	Communicative English II				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習などを取り込む場合があります。

教科書 /Textbooks

北尾泰幸 他著 「一歩上を目指すTOEIC LISTENING AND READING TEST: Level 3」朝日出版社 ¥1836 (朝)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ TOEIC公式問題集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション & 基礎力確認テスト
- 第2回 Unit 1 Eating Out / 文と文型 1
- 第3回 Unit 2 Travel / 文と文型 2
- 第4回 Unit 3 Amusement / 文と文型 3
- 第5回 Unit 4 Meetings / 時制 1
- 第6回 Unit 5 Personnel / 時制 2
- 第7回 Unit 6 Shopping / 時制 3
- 第8回 中間テスト (2 ~ 7 回までの学習内容の理解度確認)
- 第9回 Unit 7 Advertisement / 能動態と受動態
- 第10回 Unit 8 Daily Life / 現在分詞と過去分詞
- 第11回 Unit 9 Office Work / 動名詞
- 第12回 Unit 10 Business / 不定詞
- 第13回 Unit 11 Traffic / 関係詞 1
- 第14回 Unit 12 Finance and Banking / 関係詞 2
- 第15回 Unit 13 Media / 関係詞 3

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト 20% + 中間テスト 40% + 期末テスト 40%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎日の自己学習は、文法・語法/リーディング/リスニングの3本柱で取り組んでください。毎週、次の授業までしておく事前の学習範囲は各授業で告知しますが、意識的に時間を作って、授業で学習した箇所の復習(事後学習)にも力を入れてください。また、各授業において、テキストに加えて文法・語法解説と練習問題及び読解問題のプリントを配布します。授業で精読し意味を確認した後は、事後学習として音読を取り入れた速読練習をしてください。その学習成果が英語力の向上に結びついてきます。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業では、これから1学期間の学習方針及び学習計画、成績付けに関わる説明をしますので、必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

使用テキスト及びプリントに記載されている英文は、くまなく速読で読めるように、またリスニングであれば、その英文を一度聞いて、正確に意味を把握し書き取れるようになることを学習の到達目標にしてください。それが次の学習ステップにつながってきます。

キーワード /Keywords

Communicative English III (律政群 1 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG102F		◎			
科目名	Communicative English III		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。

This course should give you many opportunities to use the English you have studied through years of formal study in a practical face-to-face manner. The text provides a range of topics for us to work through week-by-week and there will also be extra activities such as discussion, pair-work, a Power-point presentation, daily life journal conversations and tasks with topics from which you will be able to choose something that relates to your personal interests. The teacher will give advice about typical language usage in the situations and contexts that we cover in class. Students will keep a weekly journal.

教科書 /Textbooks

Smart Choice 2A 3rd Ed by K. Wilson & T.Healy ISBN 9780194602761 OUP
2592円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A dictionary will be useful.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Introduction
Week 2 Unit 1 How was your vacation? (A)
Week 3 Unit 1 How was your vacation? (B)
Week 4 Unit 2 I think it's exciting (A)
Week 5 Unit 2 I think it's exciting (B)
Week 6 Unit 3 Do it before you're 30! (A)
Week 7 Unit 3 Do it before you're 30! (B)
Week 8 Review of Units 1-3
Week 9 Unit 4 The best place in the world! (A)
Week 10 Unit 4 The best place in the world! (B)
Week 11 Unit 5 Where's the party? (A)
Week 12 Unit 5 Where's the party? (B)
Week 13 Unit 6 You should try it! (A)
Week 14 Unit 6 You should try it! (B)
Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

15% Journal
20% Powerpoint Presentation
30% Final mini-test
15% Project work
20% Class participation

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should check Moodle each week, complete all assigned homework tasks and prepare for any presentation or role-play work assigned.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck and I look forward to meeting all of you

キーワード /Keywords

Communicative English III (律政群 1 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor: ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year: 1年次 / 1学期 / 1単位 / Credits: 1単位 / 学期 / Semester: 1学期 / 授業形態 / Class Format: 講義 / クラス / Class: 律政群 1 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG102F		◎			
科目名	Communicative English III				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。

The aim of this course is to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Explanation of the course
- 2回 Getting acquainted
- 3回 Talking about daily life
- 4回 Talking about free time
- 5回 Talking about hometowns
- 6回 Talking about likes and dislikes
- 7回 Talking about where to live in the future
- 8回 Talking about travel
- 9回 Talking about future travel ideas and plans
- 10回 Talking about music
- 11回 Talking about movies
- 12回 Talking about recent meals
- 13回 Talking about eating out
- 14回 Talking about our futures
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on homework (34%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Prepare and review for each class (about 60 min.).

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English III (律政群 1 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor クリステイン・マイスター / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG102F		◎			
科目名	Communicative English III				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

Four Corners 2A

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

at present nothing from the library

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1: Introduction to the class and class methodology
- Week 2: Begin chapter 1 in textbook
- Week 3: Continue with Chapter 1
- Week 4: Finish Chapter 1
- Week 5: Begin Chapter 2 in Textbook
- Week 6: Continue with Chapter 2
- Week 7: Finish Chapter 2
- Week 8: Begin Chapter 3 in Textbook
- Week 9: Continue with Chapter 3
- Week 10: Finish Chapter 3
- Week 11: Begin Chapter 4 in Textbook
- Week 12: Continue with Chapter 4
- Week 13: Finish Chapter 3
- Week 14: Review of textbook material
- Week 15: Prepare for the test and conclude the class

成績評価の方法 /Assessment Method

Assessment will be based half on class participation and half on the final exam.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be given assignments in the textbook and they will be expected to complete the assignments before the next class.

履修上の注意 /Remarks

Attendance is mandatory because the majority of the work will be done in class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

You will have an opportunity to improve your writing and speaking skills in English as well as to have the potential to have a good time.

キーワード /Keywords

textbook, presentation, attendance, writing, speaking

Communicative English III (律政群 1 - I) 【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - I

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG102F		◎			
科目名	Communicative English III				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。また、自分の苦手な個所や課題を発見し、勉強法を工夫して計画を立て、不断の努力を行うことを通して、広い意味での問題解決能力や自己管理能力を身につけます。

教科書 /Textbooks

Four Corners Second Edition Level 2A Jack Richards 他著 ケンブリッジ大学出版 ￥2200

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit1 New friends
- 3回 Unit2 People and places
- 4回 Unit3 What's that?
- 5回 Unit4 Daily life
- 6回 Unit5 Free time
- 7回 Unit6 Work and play
- 8回 まとめ1
- 9回 Unit7 Shopping
- 10回 Unit8 Fun in the city
- 11回 Unit9 People
- 12回 Unit10 In a restaurant
- 13回 Unit11 Entertainment
- 14回 Unit12 Time for a change
- 15回 まとめ2

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(20%)と面接試験(20%)と筆記試験(60%)によって評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：前回の復習
事後学習：該当回の復習

履修上の注意 /Remarks

- ・ 受講に際しては、テキストと辞書を必ず持参してください。
- ・ 単語テストなどの準備が必要なテストに関しては、各自自宅で暗記を済ませてテストに臨んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English III (律政群 1 - A) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor: ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year: 1年次 / 1単位 /Credits: 1単位 / 学期 /Semester: 1学期 / 授業形態 /Class Format: 講義 / クラス /Class: 律政群 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG102F		◎			
科目名	Communicative English III				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。

The aim of this course is to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Explanation of the course
- 2回 Getting acquainted
- 3回 Talking about daily life
- 4回 Talking about free time
- 5回 Talking about hometowns
- 6回 Talking about likes and dislikes
- 7回 Talking about where to live in the future
- 8回 Talking about travel
- 9回 Talking about future travel ideas and plans
- 10回 Talking about music
- 11回 Talking about movies
- 12回 Talking about recent meals
- 13回 Talking about eating out
- 14回 Talking about our futures
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on homework (34%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Prepare and review for each class (about 60 min.).

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English III (律政群 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 律政群 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG102F		◎			
科目名	Communicative English III				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。

Basic English skills for everyday spoken and written communication. Clearly stated learning goals and 'can-do' statements for every lesson allow students to track their progress right through the course. This course also includes training for making effective professional and academic presentations.

教科書 /Textbooks

Four Corners 2A (Cambridge University Press)

「税込価格：2,420円」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Electronic Dictionary and Internet use

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：Orientation
- 第2回：My Interests 1
- 第3回：My Interests 2
- 第4回：Descriptions 1
- 第5回：Descriptions 2
- 第6回：Rain or Shine 1
- 第7回：Rain or Shine 2
- 第8回：Presentation 1
- 第9回：Life at Home 1
- 第10回：Life at Home 2
- 第11回：Health 1
- 第12回：Health 2
- 第13回：What's on TV 1
- 第14回：What's on TV 2
- 第15回：Presentation 2

成績評価の方法 /Assessment Method

Final grades will combine class participation (40%), presentations (20%) and homework assignments (40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Check the Moodle site for this course - and complete all assignments

履修上の注意 /Remarks

Be careful to complete all homework assignments for this course

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's have fun learning English together

キーワード /Keywords

Everyday conversation

Communicative English III (律政群 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor: ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 1年次
 単位 /Credits: 1単位
 学期 /Semester: 1学期
 授業形態 /Class Format: 講義
 クラス /Class: 律政群 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG102F		◎			
科目名	Communicative English III				

※修得できる能力との関連性 ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing speaking and reading speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills for international situations. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に話す力（スピーキング力）と読む力（リーディング力）との向上を目指します。

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

No references

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Any part of the following class schedule is subject to changes.

- Week 1 Orientation
- Week 2 Shadow Talking
- Week 3 Speaking for Speed
- Week 4 Repeating for Communication
- Week 5 Conversation Style
- Week 6 Expand and Recycle
- Week 7 Speaking on Topics
- Week 8 Workarounds
- Week 9 Speaking on Topics
- Week 10 Disagreement
- Week 11 Reason Articulation
- Week 12 Group Conversation 1
- Week 13 Group Conversation 2
- Week 14 Test Practice
- Week 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Class Attitude=10%, Class Participation=40%, Final Test=50%.

Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Review the materials from the previous week for use in class. Preparation assignments are given as needed a per-class basis. All class content is subject to change.

履修上の注意 /Remarks

Students are heavily advised to do Shadow Talking for at least five minutes before the start of each class. More information on Shadow Talking will be provided in class.
Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English III (律政群 1 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor シェーン・ドイル / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG102F		◎			
科目名	Communicative English III				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。

This course will improve student communication skills in English. Students will practice simple conversations in pairs and groups. Students will also give mini-presentations during the course.

教科書 /Textbooks

Smart Choice 3rd Ed 2A
by K. Wilson & T.Healy
Oxford University Press
ISBN 9780194602761
Price ¥2,592

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with instructor

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Introduction
Week 2 Unit 1 How was your vacation? (A)
Week 3 Unit 1 How was your vacation? (B)
Week 4 Unit 2 I think it's exciting (A)
Week 5 Unit 2 I think it's exciting (B)
Week 6 Unit 3 Do it before you're 30! (A)
Week 7 Unit 3 Do it before you're 30! (B)/Listening quiz#1
Week 8 Conversation Test #1
Week 9 Unit 4 The best place in the world! (A)
Week 10 Unit 4 The best place in the world! (B)
Week 11 Unit 5 Where's the party? (A)
Week 12 Unit 5 Where's the party? (B)
Week 13 Unit 6 You should try it! (A)
Week 14 Unit 6 You should try it! (B)/Listening Quiz #2
Week 15 Conversation Test #2

成績評価の方法 /Assessment Method

Homework 20%
Mini-presentations 20%
Listening Quizzes 20%
Conversation tests 20%
Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will need to complete homework before coming to class

Communicative English III (律政群 1-D) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English IV (律政群 1 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor: ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year: 1年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 2学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 律政群 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG112F		◎			
科目名	Communicative English IV				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。

The aim of this course is to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening to and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Explanation of the course
- 2回 Getting acquainted
- 3回 Talking about part-time jobs
- 4回 Talking about daily routines
- 5回 Talking about hometown attractions
- 6回 Talking about hometown likes and dislikes
- 7回 Talking about where to live in the future
- 8回 Talking about travel experiences
- 9回 Talking about future travel ideas and plans
- 10回 Talking about entertainment
- 11回 Talking about music and movies
- 12回 Talking about recent meals
- 13回 Talking about exotic foods and eating out
- 14回 Talking about dream jobs
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on homework (34%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Prepare and review for each class (about 60 min.).

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English IV (律政群 1 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor タッド・ジェイ・レオナルド / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG112F		◎			
科目名	Communicative English IV		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

“Four Corners 2B” published by Cambridge by Jack C. Richards and David Bohlke. ISBN: 978-1-108-62772-6

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students should have an electronic or hardcopy dictionary to use in class.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Introduction and Orientation to the class and class methodology
 Week 2: Begin chapter 7 in textbook
 Week 3: Continue with Chapter 7
 Week 4: Finish Chapter 7
 Week 5: Begin Chapter 8 in Textbook
 Week 6 Continue with Chapter 8
 Week 7: Finish Chapter 8
 Week 8: Begin Chapter 9 in Textbook
 Week 9: Continue with Chapter 9
 Week 10: Finish Chapter 9
 Week 11: Begin Chapter 10 in Textbook
 Week 12: Continue with Chapter 10
 Week 13: Finish Chapter 10
 Week 14: In class speaking exam : ½ of the students, face to face
 Week 15: In class speaking exam : other ½ of the students, face to face

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation and attendance 50% Final speaking exam 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

We will complete some of the textbook’s exercises in class, and some will be assigned as homework. Students must review the material for each class on their own.

履修上の注意 /Remarks

This is a skills-based class so attendance is mandatory; please arrive to class on time and prepared. It is a good idea to bring your textbook each week, a red pen, a highlighter, and a notebook. If you must miss class due to a university-related reason, please inform me two weeks before your scheduled absence.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Above all, I want you to enjoy this class so you will be motivated to improve your English skills.

キーワード /Keywords

Communicative English IV (律政群 1 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor ジェイムズ・ヒックス / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG112F		◎			
科目名	Communicative English IV		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

Students will explore topics related to contemporary social issues through a variety of writing and speaking activities. Students will be expected to present their thoughts and opinions on a wide variety of topics at a low-intermediate level of English. All students will complete assignments to improve vocabulary skills. Students will also improve their listening, discussion, and critical thinking skills.

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力(ライティング力)と話す力(スピーキング力)の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

Pathways 1B: Listening, Speaking, and Critical Thinking, (2nd ed.), Chase, National Geographic Learning, ISBN-13: 978-1-337-56256-0

¥3,025

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus and Introductions
- 2回 Topic 1 – Explore, Listening & Discussion
- 3回 Topic 1 – Video, Listening & Critical Thinking
- 4回 Topic 2 – Explore, Listening & Discussion
- 5回 Topic 2 – Video, Listening & Critical Thinking
- 6回 Topic 2 - Expansion
- 7回 Topic 2 Presentation Preparation
- 8回 Topic 2 Presentation
- 9回 Topic 3 – Explore, Listening & Discussion
- 10回 Topic 3 – Video, Listening & Critical Thinking
- 11回 Topic 4 – Explore, Listening & Discussion
- 12回 Topic 4 – Video, Listening & Critical Thinking
- 13回 Topic 5 – Explore, Listening & Discussion
- 14回 Topic 5 – Video, Listening & Critical Thinking
- 15回 Topic 5 Presentation Preparation

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks 25%, Participation 20%, Homework 15%, Presentations 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will complete assignments to build vocabulary. Some research will be required both inside and outside of class. Students will make two presentations in class either as an individual or in groups. Regular review of all class materials is highly encouraged in preparation for the final exam. Weekly preparation and review should take from 20 to 25 minutes.

履修上の注意 /Remarks

none

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English IV (律政群 1 - I) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - I

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG112F		◎			
科目名	Communicative English IV		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

J.C. Richards & D. Bohike 著 「Four Corners 2B (second Edition)」 Cambridge University Press 2200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション&基礎力確認テスト
- 第2回 基本文法&英作&会話
- 第3回 基本文法&英作&会話
- 第4回 基本文法&英作&会話
- 第5回 基本文法&英作&会話
- 第6回 中間テスト(1)
- 第7回 基本文法&英作&会話
- 第8回 基本文法&英作&会話
- 第9回 基本文法&英作&会話
- 第10回 基本文法&英作&会話
- 第11回 中間テスト(2)
- 第12回 基本文法&英作&会話
- 第13回 基本文法&英作&会話
- 第14回 基本文法&英作&会話
- 第15回 基本文法&英作&会話

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト 20% + 中間テスト 40% + 期末テスト 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の授業で翌週の小テストの箇所を告知するので、必ず復習しておくこと。また、予習に関しては、指定された学習箇所の意味を事前に調べておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎日の自己学習は、使用テキストの会話や英語表現を覚えることに重点を置いてください。繰り返し音読して覚え、覚えた表現を忘れないために、意識的に復習して記憶を定着させるように心がけてください。

キーワード /Keywords

Communicative English IV (律政群 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor: ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 1年次
 単位 /Credits: 1単位
 学期 /Semester: 2学期
 授業形態 /Class Format: 講義
 クラス /Class: 律政群 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG112F		◎			
科目名	Communicative English IV		※修得できる能力との関連性 ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連		

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing speaking and reading speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills for international situations. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に話す力（スピーキング力）と読む力（リーディング力）との向上を目指します。

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

No references

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Any part of the following class schedule is subject to changes.

Week 1	Orientation
Week 2	Shadow Talking
Week 3	Speaking for Speed
Week 4	Repeating for Communication
Week 5	Conversation Style
Week 6	Expand and Recycle
Week 7	Speaking on Topics
Week 8	Workarounds
Week 9	Speaking on Topics
Week 10	Disagreement
Week 11	Reason Articulation
Week 12	Group Conversation 1
Week 13	Group Conversation 2
Week 14	Test Practice
Week 15	Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Class Attitude=10%, Class Participation=40%, Final Test=50%.

Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Review the materials from the previous week for use in class. Preparation assignments are given as needed a per-class basis. All class content is subject to change.

履修上の注意 /Remarks

Students are heavily advised to do Shadow Talking for at least five minutes before the start of each class. More information on Shadow Talking will be provided in class.
Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English IV (律政群 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG112F		◎			
科目名	Communicative English IV		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。

This course should give you many opportunities to use the English you have studied through years of formal study in a practical face-to-face manner. The text provides a range of topics for us to work through week-by-week and there will also be extra activities such as discussion, pair-work, a Power-point presentation, daily life journal conversations and tasks with topics from which you will be able to choose something that relates to your personal interests. The teacher will give advice about typical language usage in the situations and contexts that we cover in class. Students will keep a weekly journal.

教科書 /Textbooks

Smart Choice 2B 3rd edition by K. Wilson & T.Healy ISBN 9780194602785

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A dictionary will be useful.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Introduction
Week 2 Unit 7 There are too many stores! (A)
Week 3 Unit 7 There are too many stores! (B)
Week 4 Unit 8 I like people who are smart. (A)
Week 5 Unit 8 I like people who are smart. (B)
Week 6 Unit 9 What were you doing? (A)
Week 7 Unit 9 What were you doing? (B)
Week 8 Review of Units 7-9
Week 9 Unit 10 It must be an earthquake! (A)
Week 10 Unit 10 It must be an earthquake! (B)
Week 11 Unit 11 I used to sing. (A)
Week 12 Unit 11 I used to sing. (B)
Week 13 Unit 12 If you live downtown (A)
Week 14 Unit 12 If you live downtown (B)
Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

15% Journal
20% Powerpoint Presentation
30% Final mini-test
15% Project work
20% Class participation

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should check Moodle each week, complete all assigned homework tasks and prepare for any presentation or role-play work assigned.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck and I look forward to meeting all of you

キーワード /Keywords

Communicative English IV (律政群 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor: ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year: 1年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 2学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 律政群 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG112F		◎			
科目名	Communicative English IV		※修得できる能力との関連性 ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。

The aim of this course is to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening to and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Explanation of the course
- 2回 Getting acquainted
- 3回 Talking about part-time jobs
- 4回 Talking about daily routines
- 5回 Talking about hometown attractions
- 6回 Talking about hometown likes and dislikes
- 7回 Talking about where to live in the future
- 8回 Talking about travel experiences
- 9回 Talking about future travel ideas and plans
- 10回 Talking about entertainment
- 11回 Talking about music and movies
- 12回 Talking about recent meals
- 13回 Talking about exotic foods and eating out
- 14回 Talking about dream jobs
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on homework (34%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Prepare and review for each class (about 60 min.).

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English IV (律政群 1 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG112F		◎			
科目名	Communicative English IV		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

This course aims to consolidate students' basic English skills. The main focus is to improve writing and speaking ability. この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。

教科書 /Textbooks

Becky Tarver Chase / Pathways 1B Second Edition
National Geographic Learning / ISBN-13: 978-1-337-56256-0 / 3,025 Yen

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Good dictionaries: both bi-lingual and mono-lingual are preferable. Extra materials, which have been written by the lecturer, will be provided.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Course Introduction / Meeting People
Week 2 Unit 6: Housing for the Future / Sustainability
Week 3 Speaking Skills / Coordinating Conjunctions
Week 4 Listing and Video Activities
Week 5 Group Discussion
Week 6 Presentation Preparation
Week 7 Presentation
Week 8 Unit 7: Exploring Space / Cosmic Journeys
Week 9 Speaking Skills / Contractions with Will
Week 10 Listening and Video Activities
Week 11 Group Discussion
Week 12 Presentation Preparation
Week 13 Presentation
Week 14 Unit 10: How we Communicate
Week 15 Speaking Skills / The Present Perfect

成績評価の方法 /Assessment Method

Presentations and Quizzes: 50 percent
Speaking Examination: 20 percent
Final Examination: 30 percent

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your lecturer.

履修上の注意 /Remarks

No credit will be given to students who are absent four or more times. If a student is late for class thirty minutes, that will equal one absence. Therefore, the student who was absent must provide a document to the lecturer as to why said student will be or was late or absent.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English V (律政群 2 C-E) 【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG201F		◎			
科目名	Communicative English V		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

TOEIC形式のPre-testで現在の実力を把握して、12のユニットで各パートの解答カアップのポイントを学び、それを踏まえた上で練習問題に取り組むことで目標のスコアとの差を埋めていく努力をします。同時に各種練習問題を通してTOEIC問題形式に慣れるとともに、英語力を高めながらTOEICに対応する力をつけていきます。

仕上げに、Post-testを解いて、それまでの練習の効果を図り、その後の目標達成までの継続的な自己学習へとつなげていきます。

教科書 /Textbooks

Ayako Yokogawa, Tony Cook著
“Level-up Trainer for the TOEIC Test, Revised Edition”
センゲージ・ラーニング 2016年 ¥2,200
ISBN: 978-4-86312-294-9

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『TOEIC®テスト新公式問題集』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Orientation (授業の進め方やTOEICスコアの反映方法について説明)
Pre-test の実施。
- 2回 Unit 1 テキスト形式を知る
- 3回 Unit 2 基本戦略①
- 4回 Unit 3 基本戦略②
- 5回 Unit 4 英文の基本構造を見抜く
- 6回 Unit 5 解答根拠の登場順
- 7回 Unit 6 盛会の言い換えパターンを知る
- 8回 Unit 7 機能疑問文を聞き取る
- 9回 Unit 8 動詞の時制を見極める
- 10回 Unit 9 接続詞vs. 前置詞
- 11回 Unit 10 複数パッセージの攻略
- 12回 Unit 11 接続副詞に強気ある
- 13回 Unit 12 NOT型設問のコツ
- 14回 Unit 12 NOT型設問のコツ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は、出席状況や授業への貢献度、学期末試験などを考慮に入れ総合的に評価します。
平素の学習状況と小テスト・・・35% 期末試験・・・65%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳細については第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ①音声ファイルを活用し、必ず本文の予習をして授業に臨みましょう。
- ②各ユニットの演習問題はTOEIC対策問題として活用しますので、必ず取り組みましょう。
- ③巻末付録のWord Listを予習・復習に活用しましょう。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられていますので、第1回の授業に必ず出席して説明を受けましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業以外でも英字新聞や英語ニュース等を通して英語にふれるようにしましょう。
予習・復習をしましょう

キーワード /Keywords

Communicative English V (律政群 2 C-F) 【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG201F		◎			
科目名	Communicative English V				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験 (TOEIC(R) L&Rテスト) の実践的なトレーニングを中心に、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。また、自分の苦手な箇所や課題を発見し、勉強法を工夫して計画を立て、不断の努力を行うことを通して、広い意味での問題解決能力や自己管理能力を身につけます。

教科書 /Textbooks

- ① SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST PRE-INTERMEDIATE 「レベル別TOEIC L&Rテスト実力養成 コース：準中級編」 溝口優美子 他著 金星堂 ￥2200(税込)
- ② TOEIC L&R TEST出る単特急 銀のフレーズ TEX加藤 著 朝日新聞出版 ￥979(税込)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit 1 Travel
- 3回 Unit 2 Dining Out
- 4回 Unit 3 Media
- 5回 Unit 4 Entertainment
- 6回 Unit 5 Purchasing
- 7回 Unit 6 Clients
- 8回 Unit 7 Recruiting
- 9回 Unit 8 Personnel
- 10回 Unit 9 Advertising
- 11回 Unit 10 Meetings
- 12回 Unit 11 Finance
- 13回 Unit 12 Offices
- 14回 Unit 13 Daily Life
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(30%)と筆記試験(70%)に、TOEICテストのスコアを反映して評価します。TOEICスコアの評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：単語テストの準備
- 事後学習：学習内容の復習

履修上の注意 /Remarks

- ・ 第1回の授業に必ず出席すること。
- ・ 基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。
- ・ 受講に際しては、テキストと辞書を必ず持参してください。
- ・ 単語テストなどの事前の準備が必要なテストに関しては、各自自宅で暗記を済ませてテストに臨んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English V (律政群 2 C-G) 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG201F		◎			
科目名	Communicative English V				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主にTOEIC®L & R）の実践的なトレーニングを中心に、引き続き基礎的な英語力の定着を目的とします。

教科書 /Textbooks

“SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC® L & R TEST : INTERMEDIATE”
(著者) 早川幸治他共著 金星堂 ¥2,200 ISBN978-4-7647-4090-7

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、語彙演習
- 2回 Unit 1 Travel、文法：
- 3回 Unit 2 Dining Out、文法：形容詞
- 4回 Unit 3 Media、文法：副詞
- 5回 Unit 4 Entertainment、文法：時制
- 6回 Unit 5 Purchasing、文法：主語と動詞の一致
- 7回 Unit 6 Clients、文法：能動態・受動態
- 8回 Unit 7 Recruiting、文法：動名詞・不定詞
- 9回 Unit 7 Recruiting、文法：動名詞・不定詞
- 10回 Unit 8 Personnel、文法：現在分詞・過去分詞
- 11回 Unit 9 Advertising、文法：代名詞
- 12回 Unit 10 Meeting、文法：比較
- 13回 Unit 11 Finance、文法：前置詞
- 14回 Unit 12 Offices、文法：接続詞
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

最終評価には、TOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。
講義評価：期末試験：70%、日常の授業への取り組み（小テスト、宿題）：30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業のUnitをやってくる。単語小テストの範囲の単語を覚えてくること。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English V (律政群 2 C-A) 【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 2 C - A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG201F		◎			
科目名	Communicative English V		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

The purpose of this course is to enhance students' communicative ability and skills based on a TOEIC®-oriented exercises. In addition to grammar and vocabulary, the course aims at improvement in reading and listening comprehension.

The class is conducted both in English and Japanese.

Students are required to look up a dictionary before the class for any words or phrases in the textbook that they do not know or have forgotten. They are also expected to work on exercises in the textbook before the class.

Active participation in the class is expected.

この授業の目的は、TOEIC®に準拠した演習に基づき、受講生のコミュニケーション能力とスキルを向上させることです。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。

この授業は英語および日本語で行われます。

受講生は教科書で分からない、あるいは忘れてしまった語句の意味は授業前に必ず調べておいて下さい。また、教科書の練習問題も授業前に必ず取り組んでおいて下さい。

授業への積極的な参加を期待します。

教科書 /Textbooks

Bamba, Naoyuki et al. 2019. "Score Booster for the TOEIC® L&R Test Intermediate (TOEIC® で学ぶテストスキル)." Tokyo: Kinseido.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Will be introduced in the class. 授業中に適宜紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction Unit 1
2. Units 1 and 2
3. Units 2 and 3
4. Units 3 and 4
5. Units 4 and 5
6. Units 5 and 6
7. Units 6 and 7
8. Units 7 and 8
9. Units 8 and 9
10. Units 9 and 10
11. Units 10 and 11
12. Unit 12
13. Unit 13
14. Unit 14
15. Unit 15

Communicative English V (律政群 2 C-A) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation in the class 授業への参加度 20%
Final examination 期末試験 80%

The TOEIC® score will be reflected onto the final grade. The details will be given in a document to be distributed in the first class, and will be explained.

最終評価にはTOEIC®スコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Before the class:

1. Look up a dictionary for any words or phrases in the textbook that you do not know or have forgotten.
教科書で分からない、あるいは忘れてしまった語句の意味を調べておく。
2. Work on exercises in the textbook.
教科書の練習問題に取り組んでおく。

After the class:

1. Review the textbook and grasp the content, vocabulary and grammar.
教科書を復習し、内容、語彙、文法を把握する。
2. Review the exercises, focusing on the questions that you did not get right.
練習問題を復習し、特に間違えた問題を再確認する。

履修上の注意 /Remarks

No chatting allowed. 私語をしない。
No activities unrelated to the class allowed. 授業に関係ないことをしない。

In accordance with the policy for English education established by the Center for Fundamental Education, students are in principle required to take the TOEIC® once a semester.

Make sure to attend the first class.

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC® (TOEFL) を受験することが義務付けられています。
第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English V (律政群 2 C-B) 【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 啓子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG201F		◎			
科目名	Communicative English V				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC®L&Rテストの演習などを取り込む場合があります。

授業では、テキストの各ユニットのテーマに即して学習を進めていきます。また、以下の到達目標を設定し、総合的な英語力を高めます。

- ① 語彙を増やす
- ② リスニング能力の向上
- ③ リーディングの力を高める
- ④ 速読のスキルを身につける
- ⑤ 基本的文法事項を学習する
- ⑥ パート別の攻略のカギを習得する

教科書 /Textbooks

SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC® L&R TEST INTERMEDIATE, 978-4-7647-4090-7, 金星堂, ¥2,052

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 Introduction 授業の進め方、自宅学習の方法について説明する。

第2回 Unit 1 Travel / 名詞

第3回 Unit 2 Dining Out / 形容詞

第4回 Unit 3 Media / 副詞

第5回 Unit 4 Entertainment / 時制

第6回 Unit 5 Purchasing / 主語と動詞の一致

第7回 Unit 6 Clients / 能動態・受動態

第8回 Unit 7 Recruiting / 動名詞・不定詞

第9回 Unit 8 Personnel / 現在分詞・過去分詞

第10回 Unit 9 Advertising / 代名詞

第11回 Unit 10 Meetings / 比較

第12回 Unit 11 Finance / 前置詞

第13回 Unit 12 Offices / 接続詞

第14回 Unit 13 Daily Life / 前置詞と接続詞の違い

第15回 Unit 14 Sales & Marketing / 関係代名詞

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 50%, 小テスト 30%, 平常点 (課題を含む) 20%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業範囲の問題を解く。

事後学習：学習内容の復習を行い、単語リスト、同意語リストを作成する。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English V (律政群 2 C-C) 【昼】

担当者名 /Instructor 酒井 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 2 C - C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG201F		◎			
科目名	Communicative English V				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主に TOEIC (R) L&R）の実践的なトレーニングを中心に行い、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。

教科書 /Textbooks

『公式TOEIC Listening & Reading問題集 vol. 5』国際コミュニケーション協会 3,000円 ISBN978-4-906033-57-7

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『公式TOEIC Listening & Reading問題集 vo. 4』国際コミュニケーション協会
『公式TOEIC Listening & Reading問題集 vol. 3』国際コミュニケーション協会
『公式TOEIC Listening & Reading問題集 vol. 2』国際コミュニケーション協会
『公式TOEIC Listening & Reading問題集 vol. 1』国際コミュニケーション協会
『TOEICテスト公式問題集：新形式対応編』国際コミュニケーション協会
『TOEICテスト新形式問題集 vol. 6』国際コミュニケーション協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス・授業の進め方
- 2回 TOEICテスト習熟度テスト①
- 3回 リスニングテストの戦略：Part 1~ Part 4
- 4回 TOEICテスト習熟度テスト②
- 5回 リーディングテストの戦略：Part 5~Part 6
- 6回 リーディングテストの戦略：Part 7
- 7回 リスニングの習熟度確認テスト：Part 1~Part 4
- 8回 リスニングの総合復習
- 9回 リーディング：Part 7 シングルパッセージ
- 10回 リーディング：Part 7 ダブルパッセージ
- 11回 リーディング：Part 7 トリプルパッセージ①
- 12回 リーディング：Part 7 トリプルパッセージ②
- 13回 リーディングの習熟度確認テスト：Part 5~Part 7
- 14回 リーディングの総合復習
- 15回 TOEICテスト総合復習

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験40%、習熟度テスト20%、小テスト20%、課題10%、授業への参加度10%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前後に予習・復習を必ず行う事
不明な点は質問してください

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回授業に必ず出席すること。

Communicative English V (律政群 2 C-C) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English V (律政群 2 C-D) 【昼】

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG201F		◎			
科目名	Communicative English V				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

このコースではTOEIC Listening & Reading Test (以下TOEICと略します)対策をします。使用するテキストは公式問題集で、実際のTOEICのテストに近いものです。TOEICでの受験のポイント、コツだけではなく、英語力自体を高めていけるように授業をデザインしていますので、皆さんも積極的に受講してください。

授業では、単語のクイックレスポンス、英語の音の変化の聞き分け、シャドーイング、文法事項の学習と自動化トレーニング、パターンプラクティスなど英語力を高めるための各種トレーニングを行います。授業は「答え合わせ」の場所ではなく皆さんが英語力を鍛える場所です。したがって、個人、ペア、グループ、クラス全体とさまざまなレベルでトレーニング活動をしていきます。

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力(リーディング力)と聴く力(リスニング力)の更なる向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC(R)L&Rテストの演習などを取り込む場合があります。

教科書 /Textbooks

『公式TOEIC Listening & Reading 問題集5』国際ビジネスコミュニケーション協会、¥3,300
ISBN 978-4-906033-57-7

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 1 - 4』国際ビジネスコミュニケーション協会、3,080円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . ガイダンス (グループ分け、単語学習アプリの紹介とダウンロード手続き、アイスブレイク)
- 2 . Part 2
- 3 . Part 2
- 4 . Part 3
- 5 . Part 3
- 6 . Part 4
- 6 . Part 4
- 7 . Part 5
- 8 . Part 5
- 9 . Part 5
- 10 . Part 7 SP (single passage)
- 11 . Part 7 SP
- 12 . Part 7 DP,TP (double passage, triple passage)
- 13 . Part 7 DP,TP
- 14 . Part 6
- 15 . Part 1 , まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ペア / グループワークへの参加度 : 20%

小テスト : 30%

期末試験 : 50%

受講生の最終成績はTOEICのスコアを入れて計算されます。詳しくは初回のガイダンスの授業で説明しますので、かならず受講をするように。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前後に単語テストの準備と復習をすること。単語テストは「分かっている」レベルではなく、一秒以内に日英、英日ですばやく転換できるレベルを要求するものです。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

TOEICのテキストに収録されている英語はしっかりとトレーニングをすればとても「使える」英語です。英語のトレーニングは個人、ペア、グループでいろいろとあります。楽しんで受講してください。

キーワード /Keywords

Communicative English VI (律政群 2 C-E) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG211F		◎			

科目名	Communicative English VI
-----	--------------------------

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験 (TOEIC(R) L&Rテスト) の実践的なトレーニングを中心に、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。また、自分の苦手な個所や課題を発見し、勉強法を工夫して計画を立て、不断の努力を行うことを通して、広い意味での問題解決能力や自己管理能力を身につけます。

教科書 /Textbooks

- ①BEST PRACTICE FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST—Revised Edition— 「TOEIC LISTENING AND READING TESTへの総合アプローチ改訂新版—」 吉塚 弘 他著 成美堂 ¥2420(税込)
- ②TOEIC L&R TEST出る単特急 銀のフレーズ TEX加藤著 朝日新聞出版 ¥979(税込)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit 1 Restaurant
- 3回 Unit 2 Entertainment
- 4回 Unit 3 Business
- 5回 Unit 4 Office
- 6回 Unit 5 Telephone
- 7回 Unit 6 Letter & E-mail
- 8回 Unit 7 Health
- 9回 Unit 8 Bank & Post Office
- 10回 Unit 9 New Products
- 11回 Unit 10 Travel①
- 12回 Unit 11 Travel②
- 13回 Unit 12 Job Applications
- 14回 Unit 13 Shopping
- 15回 Unit 14 Education

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(30%)と筆記試験(70%)に、TOEICテストのスコアを反映して評価します。TOEICスコアの評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：単語テストの準備
- 事後学習：学習内容の復習

履修上の注意 /Remarks

- ・ 第1回の授業に必ず出席すること。
- ・ 基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。
- ・ 受講に際しては、テキストと辞書を必ず持参してください。
- ・ 事前に準備が必要な小テストに関しては、各自自宅で暗記を済ませてテストに臨んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English VI (律政群 2 C - F) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG211F		◎			
科目名	Communicative English VI				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主にTOEIC®L & R）の実践的なトレーニングを中心に、引き続き基礎的な英語力の定着を目的とします。

教科書 /Textbooks

“BEST PRACTICE FOR THE TOEIC® LISTENING AND READING TEST –REVISED EDITION–”
(著者) 吉塚弘他共著 成美堂 ¥2,420 ISBN9784791960309

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、語彙演習
- 2回 Unit 1 Restaurant 文法：人称代名詞、単語小テスト 1
- 3回 Unit 2 Entertainment 文法：不定代名詞と再帰代名詞
- 4回 Unit 3 Business 文法：現在・過去の時制
- 5回 Unit 4 Office 文法：現在完了
- 6回 Unit 5 Telephone 文法：時・期間を表す前置詞
- 7回 Unit 6 Letter & E-mail 文法：位置・場所を表す前置詞
- 8回 Unit 7 Health 文法：数量形容詞、TOEIC練習問題
- 9回 Unit 7 Health 文法：数量形容詞、TOEIC練習問題
- 10回 Unit 8 Bank & Post Office 文法：自動詞と他動詞
- 11回 Unit 9 New Products 文法：形容詞を作る接尾辞
- 12回 Unit 10 Travel① 文法：副詞を作る接尾辞
- 13回 Unit 11 Travel② 文法：分詞構文
- 14回 Unit 12 Job Applications 文法：比較
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

最終評価には、TOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。
講義評価：期末試験：70%、日常の授業への取り組み（小テスト、宿題）：30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業のUnitをやってくる。単語小テストの範囲の単語を覚えてくること。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English VI (律政群 2 C-G) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG211F		◎			
科目名	Communicative English VI				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主にTOEIC(R)L&R)の実践的なトレーニングを中心に、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。今学期のTOEICスコア目標は、550点以上です。

教科書 /Textbooks

石井隆之他著 Perfect Practice for the TOEIC L&R TEST 成美堂 2200円(税別)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○公式問題集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 part 1 & part 5
- 第3回 part 2 & part 6
- 第4回 part 3 & part 7
- 第5回 part 3 & part 7
- 第6回 part 4 & part 7
- 第7回 part 4 & part 7
- 第8回 中間テスト
- 第9回 part 1 & part 5
- 第10回 part 2 & part 6
- 第11回 part 3 & part 7
- 第12回 part 3 & part 7
- 第13回 part 4 & part 7
- 第14回 part 4 & part 7
- 第15回 総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト 20% + 中間テスト 30% + 期末テスト 40% + 日常の授業への取り組み 10%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。
中間テストはTOEIC問題を出します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎日の自己学習は、文法・語法/リーディング/リスニングの3本柱で取り組んでください。毎週、次の授業までにしておく事前の学習範囲は各授業で告知しますが、意識的に時間を作って、授業で学習した箇所の復習(事後学習)にも力を入れてください。また、各授業において、テキストに加えて文法・語法解説のプリントを配布します。授業で精読し意味を確認した後は、事後学習として音読を取り入れた速読練習をしてください。その学習成果が英語力の向上に結びついてきます。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。
第1回の授業では、これから1学期間の学習方針及び学習計画、成績付けに関わる説明をしますので、必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English VI (律政群 2 C - A) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG211F		◎			

科目名	Communicative English VI
-----	--------------------------

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主にTOEIC®L & R）の実践的なトレーニングを中心に、引き続き基礎的な英語力の定着を目的とします。

教科書 /Textbooks

- ①“BEST PRACTICE FOR THE TOEIC® LISTENING AND READING TEST –REVISED EDITION–”
(著者) 吉塚弘他共著 成美堂 ¥2,420 ISBN9784791960309
- ②“TOEIC®L&R TEST 出る単特急 金のフレーズ” (著者) TEX加藤
朝日新聞出版 ¥979 ISBN978-4-02-331568-6

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、語彙演習
- 2回 Unit 1 Restaurant 文法：人称代名詞、単語小テスト1
- 3回 Unit 2 Entertainment 文法：不定代名詞と再帰代名詞、単語小テスト2
- 4回 Unit 3 Business 文法：現在・過去の時制、単語小テスト3
- 5回 Unit 4 Office 文法：現在完了、単語小テスト4
- 6回 Unit 5 Telephone 文法：時・期間を表す前置詞、単語小テスト5
- 7回 Unit 6 Letter & E-mail 文法：位置・場所を表す前置詞、単語小テスト6
- 8回 Unit 7 Health 文法：数量形容詞、単語小テスト7
- 9回 Unit 7 Health 文法：数量形容詞、単語小テスト8
- 10回 Unit 8 Bank & Post Office 文法：自動詞と他動詞、単語小テスト9
- 11回 Unit 9 New Products 文法：形容詞を作る接尾辞、単語小テスト10
- 12回 Unit 10 Travel① 文法：副詞を作る接尾辞、単語小テスト11
- 13回 Unit 11 Travel② 文法：分詞構文、単語小テスト12
- 14回 Unit 12 Job Applications 文法：比較
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

最終評価には、TOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。
講義評価：期末試験：70%、日常の授業への取り組み（小テスト、宿題）：30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業のUnitをやってくる。単語小テストの範囲の単語を覚えてくること。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English VI (律政群 2 C - B) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 2 C - B /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG211F		◎			
科目名	Communicative English VI		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

The purpose of this course is to enhance students' communicative ability and skills based on a TOEIC®-oriented exercises. In addition to grammar and vocabulary, the course aims at improvement in reading and listening comprehension.

The class is conducted both in English and Japanese.

Students are required to look up a dictionary before the class for any words or phrases in the textbook that they do not know or have forgotten. They are also expected to work on exercises in the textbook before the class.

Active participation in the class is expected.

この授業の目的は、TOEIC®に準拠した演習に基づき、受講生のコミュニケーション能力とスキルを向上させることです。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。

この授業は英語および日本語で行われます。

受講生は教科書で分からない、あるいは忘れてしまった語句の意味は授業前に必ず調べておいて下さい。また、教科書の練習問題も授業前に必ず取り組んでおいて下さい。

授業への積極的な参加を期待します。

教科書 /Textbooks

Berman, Shari J. et al. 2020. "Top Tips for the TOEIC® L & R Test (考えて解く TOEIC® L&R TEST 実践演習)." Tokyo: Seibido. ¥2,310.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Will be introduced in the class. 授業中に適宜紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction Unit 1
2. Units 1 and 2
3. Units 2 and 3
4. Units 3 and 4
5. Units 4 and 5
6. Units 5 and 6
7. Units 6 and 7
8. Units 7 and 8
9. Units 8 and 9
10. Units 9 and 10
11. Units 10 and 11
12. Units 11 and 12
13. Unit 12
14. Unit 13
15. Unit 14

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation in the class 授業への参加度 20%
Final examination 期末試験 80%

The TOEIC® score will be reflected onto the final grade. The details will be given in a document to be distributed in the first class, and will be explained.

最終評価にはTOEIC®スコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Before the class:

1. Look up a dictionary for any words or phrases in the textbook that you do not know or have forgotten.
教科書で分からない、あるいは忘れてしまった語句の意味を調べておく。
2. Work on exercises in the textbook.
教科書の練習問題に取り組んでおく。

After the class:

1. Review the textbook and grasp the content, vocabulary and grammar.
教科書を復習し、内容、語彙、文法を把握する。
2. Review the exercises, focusing on the questions that you did not get right.
練習問題を復習し、特に間違えた問題を再確認する。

履修上の注意 /Remarks

No chatting allowed. 私語をしない。

No activities unrelated to the class allowed. 授業に関係ないことをしない。

In accordance with the policy for English education established by the Center for Fundamental Education, students are in principle required to take the TOEIC® once a semester.

Make sure to attend the first class.

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC® (TOEFL) を受験することが義務付けられています。

第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English VI (律政群 2 C-C) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG211F		◎			
科目名	Communicative English VI				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

このコースではTOEIC Listening & Reading Test (以下TOEICと略します)対策をします。使用するテキストは公式問題集で、実際のTOEICのテストに近いものです。TOEICでの受験のポイント、コツだけではなく、英語力自体を高めていけるように授業をデザインしていますので、皆さんも積極的に受講してください。

授業では、単語のクイックレスポンス、英語の音の変化の聞き分け、シャドーイング、文法事項の学習と自動化トレーニング、パターンプラクティスなど英語力を高めるための各種トレーニングを行います。授業は「答え合わせ」の場所ではなく皆さんが英語力を鍛える場所です。したがって、個人、ペア、グループ、クラス全体とさまざまなレベルでトレーニング活動をしていきます。

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力(リーディング力)と聴く力(リスニング力)の更なる向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC(R)L&Rテストの演習などを取り込む場合があります。

教科書 /Textbooks

『公式TOEIC Listening & Reading 問題集4』国際ビジネスコミュニケーション協会、¥3,080
ISBN 978-4-906033-54-6

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 1 - 3』国際ビジネスコミュニケーション協会、2800円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . ガイダンス (グループ分け、単語学習アプリの紹介とダウンロード手続き、アイスブレイク)
- 2 . Part 2
- 3 . Part 2
- 4 . Part 3
- 5 . Part 3
- 6 . Part 4
- 6 . Part 4
- 7 . Part 5
- 8 . Part 5
- 9 . Part 5
- 10 . Part 7 SP (single passage)
- 11 . Part 7 SP
- 12 . Part 7 DP,TP (double passage, triple passage)
- 13 . Part 7 DP,TP
- 14 . Part 6
- 15 . Part 1 , まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ペア / グループワークへの参加度 : 20%

小テスト : 30%

期末試験 : 50%

受講生の最終成績はTOEICのスコアを入れて計算されます。詳しくは初回のガイダンスの授業で説明しますので、かならず受講をするように。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前後に単語テストの準備と復習をすること。単語テストは「分かっている」レベルではなく、一秒以内に日英、英日がすばやく転換できるレベルを要求するものです。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

TOEICのテキストに収録されている英語はしっかりとトレーニングをすればとても「使える」英語です。英語のトレーニングは個人、ペア、グループでいろいろとあります。楽しんで受講してください。

キーワード /Keywords

Communicative English VI (律政群 2 C-D) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG211F		◎			
科目名	Communicative English VI				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主にTOEIC(R)L&R)の実践的なトレーニングを中心に、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。今学期のTOEICスコア目標は、500点です。

教科書 /Textbooks

石井隆之他著 Perfect Practice for the TOEIC L&R TEST 成美堂 2200円(税別)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○公式問題集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 part 1 & part 5
- 第3回 part 2 & part 6
- 第4回 part 3 & part 7
- 第5回 part 3 & part 7
- 第6回 part 4 & part 7
- 第7回 part 4 & part 7
- 第8回 中間テスト
- 第9回 part 1 & part 5
- 第10回 part 2 & part 6
- 第11回 part 3 & part 7
- 第12回 part 3 & part 7
- 第13回 part 4 & part 7
- 第14回 part 4 & part 7
- 第15回 総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト 20% + 中間テスト 30% + 期末テスト 40% + 日常の授業への取り組み 10%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。
中間テストはTOEIC問題を出します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎日の自己学習は、文法・語法/リーディング/リスニングの3本柱で取り組んでください。毎週、次の授業までにしておく事前の学習範囲は各授業で告知しますが、意識的に時間を作って、授業で学習した箇所の復習(事後学習)にも力を入れてください。また、各授業において、テキストに加えて文法・語法解説のプリントを配布します。授業で精読し意味を確認した後は、事後学習として音読を取り入れた速読練習をしてください。その学習成果が英語力の向上に結びついてきます。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。
第1回の授業では、これから1学期間の学習方針及び学習計画、成績付けに関わる説明をしますので、必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English VII (律政群 2 C - A) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor シェーン・ドイル / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG202F		◎			
科目名	Communicative English VII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング）と話す力（スピーキング）の更なる向上を目指します。

This course aims to consolidate students' basic English skills. The main focus is to further improve writing and speaking ability.

教科書 /Textbooks

Smart Choice 3rd Edition Level 3A
K. Wilson & T. Healy
Oxford University Press
ISBN 9780194602853
¥2,592

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with the Instructor

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 - Course Introduction
Week 2 - Unit 1 I've been running
Week 3 - Unit 1 People talking about their hobbies
Week 4 - Unit 2 I wonder what it's about
Week 5 - Unit 2 Scenes from a show
Week 6 - Unit 3 It was painted by Banksy
Week 7 - Unit 3 People on museum tours/Listening quiz#1
Week 8 - Conversation test#1
Week 9 - Unit 4 Who's your best friend
Week 10 - Unit 4 People talking about close friends
Week 11 - Unit 5 Gotta have it!
Week 12 - Unit 5 Reviews of Apps
Week 13 - Unit 6 He'd never been abroad
Week 14 - Unit 6 People talking about unfortunate travel events/listening quiz#1
Week 15 - Conversation test#2

成績評価の方法 /Assessment Method

Homework 30%
Listening Quizzes 20%
Conversation Tests 20%
Mini-presentations 10%
Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Bring textbooks to class and preview assigned materials before coming to class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English VII (律政群 2 C - B) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG202F		◎			
科目名	Communicative English VII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。

教科書 /Textbooks

Smart Choice 3A Third Edition, Wilson Oxford University Press Oxford University Press 2592 yen

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students are expected to use a dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Describing hobbies present perfect continuous
- 2回 Personal profiles and drone rodeo
- 3回 I think it's exciting- adjectives in -ing and -ed
- 4回 Describing TV shows and indirect questions
- 5回 Passives and reductions of don't and do
- 6回 A tour of three art museums
- 7回 Review of first three units
- 8回 Describing people and relative clauses
- 9回 Famous friendships and online messaging
- 10回 Infinitives and gerunds
- 11回 An article about robots and auction ad
- 12回 Describing events and the past perfect
- 13回 A travel accident about past events
- 14回 Review of last three units
- 15回 Review for exam

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 80% Peer journal 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should prepare a weekly peer journal where they write about weekly activities

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English VII (律政群 2 C - C) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG202F		◎			

科目名	Communicative English VII	※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
-----	---------------------------	----------------------------------

授業の概要 /Course Description

この授業は引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。

教科書 /Textbooks

Smart Choice 3A, (3rd Ed.) by K. Wilson and M. Boyle (2592yen)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Course introduction, requirements, grading advice.
 Week 2: Unit 1: I've been running. Vocabulary, Conversation (video), Grammar check and practice, Pronunciation.
 Week 3: Unit 1: Listening, Reading, Speaking, if time supplementary activities.
 Week 4: Unit 2: I wonder what it's about. Vocabulary, Conversation (video), Grammar check and practice, Pronunciation.
 Week 5: Unit 2: Listening, Reading, Speaking, if time supplementary activities.
 Week 6: Unit 3: It was painted by Banksy. Vocabulary, Conversation (video), Grammar check and practice, Pronunciation.
 Week 7: Unit 3: Listening, Reading, Speaking, if time supplementary activities.
 Week 8: Mid-term exam, based on units 1-3.
 Week 9: Unit 4: Who's your best friend? Vocabulary, Conversation (video), Grammar check and practice, Pronunciation.
 Week 10: Unit 4: Listening, Reading, Speaking, if time supplementary activities.
 Week 11: Unit 5: Gotta have it! Vocabulary, Conversation (video), Grammar check and practice, Pronunciation.
 Week 12: Unit 5: Listening, Reading, Speaking, if time supplementary activities.
 Week 13: Unit 6: He'd never been abroad. Vocabulary, Conversation (video), Grammar check and practice, Pronunciation.
 Week 14: Unit 6: Listening, Reading, Speaking, if time supplementary activities.
 Week 15: まとめ Final exam based on units 4-6.

成績評価の方法 /Assessment Method

Mid-term exam 50%
Final exam 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

As always, I would suggest to anyone to read the contents of the textbook ahead of time.

履修上の注意 /Remarks

Please don't use your smart phone in class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Education is the key to a bright future.

キーワード /Keywords

Communicative English VII (律政群 2 C-D) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor マイケル・バーグ / michael berg / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG202F		◎			
科目名	Communicative English VII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。
This task-based course aims to improve students' ability to use English for daily communication. Speaking English individually and in small groups is required in each class. Focus on conversation and writing.

教科書 /Textbooks

Title: Four Corners 3A (2nd ed.)
Publisher: CUP
ISBN: 9781108559805
Price: 2200 yen

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

N/A

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Introduction/orientation
Week 2: ask and talk about routines
Week 3: describe what was happening in the past
Week 4: Ask about and describe fashion
Week 5: Ask about and talk about life experiences
Week 6: Compare human-made structures
Week 7: Ask and talk about weekend plans
Week 8: Presentation 1
Week 9: Talk about personality traits
Week 10: discuss environmental problems
Week 11: discuss what's important in relationships
Week 12: talk about themselves and experiences
Week 13: talk about music
Week 14: discuss travel preferences
Week 15: Presentation 2 and exam outline

成績評価の方法 /Assessment Method

Homework - 20%
Presentation - 2 X 15%
Final exam - 20%
Participation - 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Complete the homework diligently and prepare for the presentations adequately.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English VII (律政群 2 C - E) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG202F		◎			
科目名	Communicative English VII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。

Basic English skills for everyday spoken and written communication. Clearly stated learning goals and 'can-do' statements for every lesson allow students to track their progress right through the course. This course also includes training for making effective professional and academic presentations.

教科書 /Textbooks

Four Corners 3A (Cambridge University Press)

「税込価格：2,420円」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Electronic Dictionary and Internet

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：Orientation
- 第2回：Education 1
- 第3回：Education 2
- 第4回：Personal Stories 1
- 第5回：Personal Stories 2
- 第6回：Presentation 1
- 第7回：Style and Fashion 1
- 第8回：Style and Fashion 2
- 第9回：Interesting Lives 1
- 第10回：Interesting Lives 2
- 第11回：Presentation 2
- 第12回：Our World 1
- 第13回：Our World 2
- 第14回：Organizing your time
- 第15回：Presentation 3

成績評価の方法 /Assessment Method

Final grades will combine class participation (45%), presentations (15%) and homework assignments (40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Check the Moodle site for this course and complete any assignments

履修上の注意 /Remarks

Be careful to complete all the homework assignments for this course

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's have fun learning English together

キーワード /Keywords

Everyday conversation

Communicative English VII (律政群 2 C - F) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG202F		◎			

科目名	Communicative English VII
-----	---------------------------

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。

教科書 /Textbooks

Smart Choice 3A, (3rd Ed.) by K. Wilson and M. Boyle (2592yen)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Course introduction, requirements, grading advice.
 Week 2: Unit 1: I've been running. Vocabulary, Conversation (video), Grammar check and practice, Pronunciation.
 Week 3: Unit 1: Listening, Reading, Speaking, if time supplementary activities.
 Week 4: Unit 2: I wonder what it's about. Vocabulary, Conversation (video), Grammar check and practice, Pronunciation.
 Week 5: Unit 2: Listening, Reading, Speaking, if time supplementary activities.
 Week 6: Unit 3: It was painted by Banksy. Vocabulary, Conversation (video), Grammar check and practice, Pronunciation.
 Week 7: Unit 3: Listening, Reading, Speaking, if time supplementary activities.
 Week 8: Mid-term exam, based on units 1-3.
 Week 9: Unit 4: Who's your best friend? Vocabulary, Conversation (video), Grammar check and practice, Pronunciation.
 Week 10: Unit 4: Listening, Reading, Speaking, if time supplementary activities.
 Week 11: Unit 5: Gotta have it! Vocabulary, Conversation (video), Grammar check and practice, Pronunciation.
 Week 12: Unit 5: Listening, Reading, Speaking, if time supplementary activities.
 Week 13: Unit 6: He'd never been abroad. Vocabulary, Conversation (video), Grammar check and practice, Pronunciation.
 Week 14: Unit 6: Listening, Reading, Speaking, if time supplementary activities.
 Week 15: まとめ Final exam based on units 4-6.

成績評価の方法 /Assessment Method

Mid-term exam 50%
Final exam 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

As always, I would suggest to anyone to read the contents of the textbook ahead of time.

履修上の注意 /Remarks

Please don't use your smart phone in class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Education is the key to a bright future.

キーワード /Keywords

Communicative English VII (律政群 2 C - G) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor クリスティン・マイスター / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG202F		◎			

科目名	Communicative English VII
-----	---------------------------

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。

This course aims to continue to consolidate students' basic English skills. The main focus is to further improve writing and speaking ability.

教科書 /Textbooks

Four Corners 3A (Second Edition) JC Richards and D Bohlke, ISBN 9781108627726, ¥2200

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

n/a

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Schedule*

- Lesson 1: Introduction to the class
- Lesson 2: Unit 1, Lessons A&B
- Lesson 3: Unit 1, Lessons C&D
- Lesson 4: Unit 2, Lessons A&B
- Lesson 5: Unit 2, Lessons C&D
- Lesson 6: Unit 3, Lessons A&B
- Lesson 7: Unit 3, Review
- Lesson 8: Midterm test
- Lesson 9: Unit 4, Lessons A&B
- Lesson 10: Unit 4, Lessons C&D
- Lesson 11: Unit 5, Lessons A&B
- Lesson 12: Unit 5, Lessons C&D
- Lesson 13: Unit 6, Lessons A&B
- Lesson 14: Unit 6, Lessons C&D
- Lesson 15: Speaking test and review

*May be changed to suit the needs of the class

成績評価の方法 /Assessment Method

- 30% Participation and Diligence (Attending class, following directions, asking questions, etc.)
- 10% Homework (Homework is not graded, but checked that it is finished)
- 10% Vocabulary Quizzes
- 20% Speaking test
- 15% Midterm test
- 15% Final Test

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

You don't need a special brain to learn English, but you do need to make consistent effort! I design my class and grading to encourage good English study habits outside of class. With good attendance, homework, and preparing for the vocabulary quizzes, you can do well in this class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English VIII (律政群 2 C - A) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 村田 希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 2 C - A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG212F		◎			

科目名	Communicative English VIII	※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
-----	----------------------------	----------------------------------

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力、語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。

教科書 /Textbooks

Insights 2020 by Junko Murao・Ashley Moore 三修社 ISBN978-4384-33484-5 ¥2090

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容

1 . 単語のテスト 2 . 記事を読む 3 . Discussion

- 1回 オリエンテーション
- 2回 単語のテスト Chapter 1 Books! Bringing a Bright Future to Children
- 3回 単語のテスト Chapter 2 Brew Sake with Fresh Ideas!
- 4回 単語のテスト Chapter 3 A Uniuqe Tour Guide
- 5回 単語のテスト Chapter 4 A Banana with an Edible Peel
- 6回 単語のテスト Chapter 5 Too Crowded to carry it on our Backs!
- 7回 単語のテスト Chapter 6 Monitoring Kid's Phone Use
- 8回 単語のテスト Chapter 7 Learn about your Pet Dog at the Museum
- 9回 単語のテスト Chapter 8 Dream o Space Torism Comes True
- 10回 単語のテスト Chapter 9 save the World rom Garbage!
- 11回 単語のテスト Chapter 1 0 Manga Featuring the Elderly
- 12回 Chapter 1 1 Why not Go to Kyoto?
- 13回 Chapter 1 2 To be more eco-friendly
- 14回 Chapter 1 3 A Pleaseant Nlght's Sleep at a Capsule Hotel
- 15回 Chapter 1 4 Healthy Lifestyles Discout Premium

成績評価の方法 /Assessment Method

単語のテスト 25% 宿題 1 4 パーセント 試験 61%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は、丁寧に予習を行って、出席すること。授業の最初に、前週の復習が出来ているのか、質問を行います。

履修上の注意 /Remarks

単語のテストの準備。必ずCDを聞いて、予習をしてくる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

第1回目のオリエンテーションの時に指定席を決めます。必ず出席してください。

キーワード /Keywords

Communicative English VIII (律政群 2 C - B) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG212F		◎			
科目名	Communicative English VIII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

VOA (Voice of America)のニュース記事を使って、英語をトレーニングする授業です。毎週短めの記事をピックアップします。VOAの中でも Learning Englishのセクションに上がっている非英語話者向けの記事を使いますので、語彙、文法、読み上げスピードのどれも頑張れば十分に手が届くレベルです。

授業ではピックアップしたニュース記事、レポート記事をじっくりと読みます。単語はクイックレスポンスできるまで繰り返し練習し、登場した単語は正しく発音できるまで徹底練習、文法ルルは分かるまで丁寧に。内容をしっかり理解した後は、動画や音声を使ってシャドーイングやリピーティングの練習を個人、ペア、グループで行います。

ピックアップした記事をいろいろな角度から、いろいろなやり方でモノにしていきます。

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力 (ライティング力) と話す力 (スピーキング力) の更なる向上を目指します。

教科書 /Textbooks

使用しません。VOAのサイト上に公開されている素材を使います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自、高校時代に使用していた参考書など、しっかり読み返しましょう。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . イントロダクション (授業の進め方、グループわけ、アプリ紹介)
- 2 . VOAニュース記事 教育分野
- 3 . VOAニュース記事 文化分野
- 4 . VOAニュース記事 政治分野
- 5 . VOAニュース記事 医療分野
- 6 . VOAニュース記事 経済分野
- 7 . VOAニュース記事 環境分野
- 8 . 前半のまとめ
- 9 . VOAニュースレポート 国際開発
- 10 . VOAニュースレポート 農業
- 11 . VOAニュースレポート 医療
- 12 . VOAニュースレポート 技術
- 13 . VOAニュースレポート 環境
- 14 . 後半のまとめ
- 15 . 授業全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ペア / グループワークへの参加度 : 20%
小テスト : 30%
期末試験 : 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

単語テストを毎週しますので、その準備を怠らないこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

VOA

Communicative English VIII (律政群 2 C-C) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 三宅 啓子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG212F		◎			
科目名	Communicative English VIII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。

アクティブ・ラーニングの学習方法を使ったテキストに従い、以下のように学習を進めます。

- Let's Chat: ユニットのテーマに関連した問題を考える
- Main Text: 本文の要点を考えながら読み進める
- Graphic Organizer: 本文の内容や展開の仕方をまとめる
- Active Learning: 語彙や表現法を学習する
- Further Thinking: テーマをさらに掘り下げる
- Words in Action: 英語をアクティブに使いこなす

教科書 /Textbooks

English through Active Learning, 978-4-255-15616-3, 朝日出版社, ¥1,870

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction 授業の進め方、自宅学習の方法について説明する
- 第2回 Unit 1 Desert Wisdom
- 第3回 Unit 2 The Power of Friendship
- 第4回 Unit 3 Cell Phone Culture: How Cultural Differences Affect Mobile Use
- 第5回 Unit 4 Men are from Mars, Women are from Venus
- 第6回 Unit 5 The Beginning Parts of Botchan
- 第7回 Unit 6 Guernica
- 第8回 Unit 7 The Art of Lying
- 第9回 Unit 8 Fuji-san
- 第10回 Unit 9 The Three Secrets to Persuasion
- 第11回 Unit 10 Malala Yousafzai Nobel Peace Prize Lecture
- 第12回 Unit 11 Eating Disorders
- 第13回 Unit 12 Working Conditions, Death from Overwork
- 第14回 Unit 13 Emotional Robots
- 第15回 Unit 14 Maslow's Hierarchy of Needs

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 60%, 小テスト 20%, 平常点(課題を含む) 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習: 授業範囲の予習を行う
- 事後学習: 学習内容の復習を行い、単語リストを作成する

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English VIII (律政群 2 C-D) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 大塚 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG212F		◎			
科目名	Communicative English VIII		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とし、文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。現代社会の様々なトピック、例えば、観光公害、男女平等などについて書かれた英文を読みながら、英文法の基礎を復習し、本文の内容理解問題、文法練習問題、ダイアログなど豊富な練習問題に取り組みます。最後は自分で意見を述べられる力をつけていくことを目標にします。

教科書 /Textbooks

教科書：Changing Times, Changing Worlds
著者：Joan McConnell & Kiyoshi Yamauchi
成美堂 2020年 2,090円
ISBN: 9784791972074

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、授業の中で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Orientation (授業の進め方について説明)
- 2回 Chapter 1 Smokey Bear: A Mascot with a Message
- 3回 Chapter 2 Overtourism is a Problem!
- 4回 Chapter 3 Gender Equality in the Workplace
- 5回 Chapter 4 Changing Definitions of Beauty
- 6回 Chapter 5 Romeo and Juliet: A Tragic Story about Intolerance
- 7回 Chapter 6 Nature and Health
- 8回 Chapter 7 Golden Years and Silver Divorces
- 9回 Chapter 8 Trees: A Gift from Nature
- 10回 Chapter 10 Redefining Gender and Marriage
- 11回 Chapter 11 All the Lonely People
- 12回 Chapter 12 Think before You Talk, Text, or Tweet
- 13回 Chapter 13 Jeans Go Global!
- 14回 Chapter 14 Helping People with Disabilities
- 15回 Chapter 15 A Special Message まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は、出席状況や授業への貢献度、学期末試験などを考慮に入れ総合的に評価します。
平素の学習状況と小テスト・・・35% 期末試験・・・65%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ① 音声ファイルをダウンロードして活用しましょう。
- ② 指定された範囲の予習をして授業に臨みましょう。
- ③ 練習問題で間違えた箇所は、必ず復習をしましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業以外でも英字新聞や英語ニュース等を通してできるだけ英語にふれるようにしましょう。
予習・復習をしましょう。

キーワード /Keywords

Communicative English VIII (律政群 2 C - E) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 酒井 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG212F		◎			
科目名	Communicative English VIII		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。

教科書 /Textbooks

『Discovering Cool Japan: 発掘！カッコいいニッポンー異文化理解から日本文化発信へー』成美堂 2,750円 ISBN978-4-791971879

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『公式TOEIC Listening & Reading問題集 vol. 5』国際コミュニケーション協会
『公式TOEIC Listening & Reading問題集 vol. 4』国際コミュニケーション協会
『公式TOEIC Listening & Reading問題集 vol. 3』国際コミュニケーション協会
『公式TOEIC Listening & Reading問題集 vol. 2』国際コミュニケーション協会
『公式TOEIC Listening & Reading問題集 vol. 1』国際コミュニケーション協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス・授業の進め方
- 2回 Unit 1 Long-Established Businesses 老舗
- 3回 Unit 2 Uniforms 制服
- 4回 Unit 3 Volunteer Work ボランティア
- 5回 Unit 4 High-Tech Living (Automobiles)ハイテク生活 (自動運転)
- 6回 Unit 5 Japanese Tableware 和食器
- 7回 復習
- 8回 Unit 6 Homemakers of Japan 主婦
- 9回 Unit 7 Seafood 海の幸
- 10回 Unit 8 Voice Actors 声優
- 11回 Unit 9 Japanese Foreign Dishes 和製料理
- 12回 Unit 10 Bags かばん
- 13回 Unit 11 Senior Citizens (Medical Checkups) シニア
- 14回 Unit 12 Money お金
- 15回 Unit 13 Monkeys 猿

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験40%、習熟度確認20%、小テスト20%、課題10%、授業への参加度10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前・事後学習は必ずやること。
不明な点は質問してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English VIII (律政群 2 C - F) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 三宅 啓子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG212F		◎			

科目名	Communicative English VIII	※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
-----	----------------------------	----------------------------------

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。

アクティブ・ラーニングの学習方法を使ったテキストに従い、以下のように学習を進めます。

- Let's Chat: ユニットのテーマに関連した問題を考える
- Main Text: 本文の要点を考えながら読み進める
- Graphic Organizer: 本文の内容や展開の仕方をまとめる
- Active Learning: 語彙や表現法を学習する
- Further Thinking: テーマをさらに掘り下げる
- Words in Action: 英語をアクティブに使いこなす

教科書 /Textbooks

English through Active Learning, 978-4-255-15616-3, 朝日出版社, ¥1,870

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction 授業の進め方、自宅学習の方法について説明する
- 第2回 Unit 1 Desert Wisdom
- 第3回 Unit 2 The Power of Friendship
- 第4回 Unit 3 Cell Phone Culture: How Cultural Differences Affect Mobile Use
- 第5回 Unit 4 Men are from Mars, Women are from Venus
- 第6回 Unit 5 The Beginning Parts of Botchan
- 第7回 Unit 6 Guernica
- 第8回 Unit 7 The Art of Lying
- 第9回 Unit 8 Fuji-san
- 第10回 Unit 9 The Three Secrets to Persuasion
- 第11回 Unit 10 Malala Yousafzai Nobel Peace Prize Lecture
- 第12回 Unit 11 Eating Disorders
- 第13回 Unit 12 Working Conditions, Death from Overwork
- 第14回 Unit 13 Emotional Robots
- 第15回 Unit 14 Maslow's Hierarchy of Needs

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 60%, 小テスト 20%, 平常点(課題を含む) 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習: 授業範囲の予習を行う
- 事後学習: 学習内容の復習を行い、単語リストを作成する

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English VIII (律政群 2 C-G) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 薬師寺 元子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG212F		◎			
科目名	Communicative English VIII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

[授業の概要]

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。

- ① 授業開始時に小テスト（10分）を実施する。
- ② 教科書のポイントを押さえながら、Warm-up, Vocabulary Preview, Getting to know the place, Learning More, Listening, Reading, American Voices をやる。

[授業のねらい]

- ① 多種多様な情報を収集・発信していくために、国際語としての英語の総合的運用能力を高めることを目的とする。特に、「ビジネス関連の語彙や表現」を習得し、「TOEICの出題形式」そのものに慣れること。
- ② TOEICの出題形式や問題に慣れるとともに、精読を通じて読解力を身につける。また、ある程度の内容のある英語を読み、聞き、理解できる力、及び、他人に自分の考えを発信する力を養成する。

教科書 /Textbooks

『American Vibes-People, Places and Perspectives』
著者：Todd Rucynski, Yoko Nakagawa,
2020年1月 発行、 ¥2,700 (税別)
出版社：金星堂

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TOEICテスト新公式問題集（発行：財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC運営委員会）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Chapter 1 Boston, Massachusetts
- 3回 Chapter 2 Maine
- 4回 Chapter 3 New York City 1
- 5回 Chapter 4 New York City 2
- 6回 Chapter 5 Washington, D.C.
- 7回 Chapter 6 Charleston, South Carolina
- 8回 Chapter 7 Savannah, Georgia
- 9回 Chapter 8 Oswego, New York
- 10回 Chapter 9 Austin, Texas
- 11回 Chapter 10 Saint Jo, Texas
- 12回 Chapter 11 Santa Fe, New Mexico
- 13回 Chapter 12 Arizona—Grand Canyon, Route 66
- 14回 Chapter 13 Los Angeles 1
- 15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

- ① 小テスト、レポート(20%)
- ② 授業参加、授業貢献度(特に自発的、積極的な発表を評価する) (20%)
- ③ 期末考査 (60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に説明する。

履修上の注意 /Remarks

- ① 授業の準備を毎回十分にやること。
- ② 英和辞典、和英辞典、英英辞典を持参のこと。(電子辞書も可)
- ③ 授業中は、携帯電話等の使用を控えること。
- ④ 発表が主体、授業への積極的な参加が要求されるので、十分な予習が必須である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ① 日頃から英語に親しみ、学習する機会を、出来るだけ多く作ること。
- ② 能動的な勉学に徹すること。
- ③ 少々難易度の高い授業になるので、集中して受講すること。

キーワード /Keywords

中国語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN101F		◎			
科目名	中国語Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
 (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【軽声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第二課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第三課 総合知識
- 5回 第三課 総合練習
- 6回 第四課 私達はみんな友達です 【人称代名詞】【指示代名詞】【是の文】など
- 7回 第四課 これは一枚の地図です(本文) 練習
- 8回 第五課 私は最近忙しい 【形容詞の文】【動詞の文】など
- 9回 第五課 あなたはいつ北京へ行きますか(本文) 練習
- 10回 第六課 私達は買い物に行きます【二重目的語を取る述語動詞】【連動文】【有・没有】など
- 11回 第六課 私は松本葉子です(本文) 練習
- 12回 第七課 私達の学校は九州にあります 【在】【方位詞】【了】など
- 13回 第七課 大学の生活(本文) 練習
- 14回 第八課 あなたは長城に行ったことがありますか【動詞+过】【是……的】など
- 15回 第八課 全聚徳へ北京ダックを食べに行く(本文) 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 60% 小テスト・ 20% 日常の授業への取り組み・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN111F		◎			
科目名	中国語II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながらか、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
 (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 彼は今あなたを待っていますよ【動作の現在進行形】【助動詞：会、能、可】など
- 2回 第九課 田中さんが病気になりました(本文) 練習
- 3回 第十課 私は日本にハガキを送りたい【結果補語】【様態補語】【仮定の表現】など
- 4回 第十課 雪中に炭を送る(本文) 練習
- 5回 第十一課 彼らが言っていることが、聞けば聞くほどわからない【可能補語】【方向補語】など
- 6回 第十一課 電話を掛ける(本文) 練習
- 7回 第十二課 私と外灘にコーヒーを飲みに行ってくださいか【要】【“把”構文】など
- 8回 第十二課 ウィンドウショッピング(本文) 練習
- 9回 第十三課 陳紅さんは私に上海に転校して留学してほしい【使役動詞】【動詞 / 形容詞の重ね形】
- 10回 第十三課 “福”字を貼る(本文) 練習 【存現文】【因为……所以】など
- 11回 第十四課 私の自転車は王さんが乗って行ってしまいました【受身動詞】【“被”の文】
- 12回 第十四課 円明園(本文) 練習 【不但……而且】など
- 13回 第十五課 あなた達の話している中国語はまるで中国人のようです【比較文】【跟……一样】
- 14回 第十五課 日本概況(本文) 練習 【虽然……但是】など
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN201F		◎			
科目名	中国語Ⅴ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができると思います。

- (1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。
- (2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。
- (3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 ポイント説明 日本紹介(本文)
- 2回 第二課 ポイント説明
- 3回 第二課 東京(本文)
- 4回 第三課 ポイント説明
- 5回 第三課 横浜(本文)
- 6回 第四課 ポイント説明
- 7回 第四課 富士山と東照宮(本文)
- 8回 第五課 ポイント説明
- 9回 第五課 静岡と名古屋(本文)
- 10回 第六課 ポイント説明
- 11回 第六課 京都(本文)
- 12回 第七課 ポイント説明
- 13回 第七課 奈良(本文)
- 14回 第八課 ポイント説明
- 15回 第八課 大阪(本文)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 60% 日常の授業への取り組み、小テスト等... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN211F		◎			
科目名	中国語VI				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れていないかもしれません。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができると思います。

- (1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。
- (2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。
- (3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 ポイント説明
- 2回 第九課 宮島と下関(本文)
- 3回 第十課 ポイント説明
- 4回 第十課 九州(本文)
- 5回 第十一課 ポイント説明
- 6回 第十一課 福岡(本文)
- 7回 第十二課 ポイント説明
- 8回 第十二課 佐賀(本文)
- 9回 第十三課 ポイント説明
- 10回 第十三課 長崎(本文)
- 11回 第十四課 ポイント説明
- 12回 第十四課 四国(本文)
- 13回 第十五課 ポイント説明
- 14回 第十五課 仙台と北海道(本文)
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 60% 日常の授業への取り組み、小テスト等... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず予習と復習すること。

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 王 晨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN202F		◎			
科目名	中国語Ⅶ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

- (1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。
- (2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 日本紹介(会話) 練習
- 2回 第二課 東京(会話)
- 3回 第二課 練習
- 4回 第三課 横浜(会話)
- 5回 第三課 練習
- 6回 第四課 富士山と東照宮(会話)
- 7回 第四課 練習
- 8回 第五課 静岡と名古屋(会話)
- 9回 第五課 練習
- 10回 第六課 京都(会話)
- 11回 第六課 練習
- 12回 第七課 奈良と神戸(会話)
- 13回 第七課 練習
- 14回 第八課 大阪(会話)
- 15回 第八課 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語Ⅷ【昼】

担当者名 /Instructor 王 晨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN212F		◎			
科目名	中国語Ⅷ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

- (1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。
- (2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 宮島と下関（会話）
- 2回 第九課 練習
- 3回 第十課 九州（会話）
- 4回 第十課 練習
- 5回 第十一課 福岡（会話）
- 6回 第十一課 練習
- 7回 第十二課 佐賀（会話）
- 8回 第十二課 練習
- 9回 第十三課 長崎（会話）
- 10回 第十三課 練習
- 11回 第十四課 四国（会話）
- 12回 第十四課 練習
- 13回 第十五課 仙台と北海道（会話）
- 14回 第十五課 練習
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

朝鮮語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 吳 香善 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN101F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本講義は韓国語をはじめて学習する学生を対象とするので、文字（ハングル）や単語の発音練習に多くの時間を割く。ハングルの読み書きができるようになることを第一目標とし、自己紹介は勿論のこと、簡単な挨拶表現や初歩的な日常会話表現を学ぶ。また、言葉を通して韓国文化への理解を深めることをねらいとする。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩（改訂版）』（巖基珠ほか、白水社、2200円）、
適宜資料・プリントなどを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『朝鮮語辞典』（小学館、8000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス / 【ハングルの特徴と構成】
- 2回 文字と発音① 【母音字】とその発音
- 3回 文字と発音② 【子音字】とその発音
- 4回 文字と発音③ 【子音字+母音字】とその発音
- 5回 文字と発音④ 【濃音、激音、平音】の発音比較
- 6回 文字と発音⑤ 【二重母音字】とその発音
- 7回 文字と発音⑥ 【パッチム】の読み方と発音
- 8回 【日本の人名・地名をハングルで表記】する方法の練習
- 9回 【簡単な挨拶】の練習 / 教室用語 文字と発音
- 10回 発音ルール① 【有声音化 / 連音化 / 激音化 / 濃音化】
- 11回 発音ルール② 【鼻音化 / 口蓋音化 / 流音化 / その他】
- 12回 まとめと復習
- 13回 体言の肯定文（自己紹介）【～です】、助詞【～は】
- 14回 体言の否定文（自己紹介）【～ではありません】、助詞【～が】
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 30%、小テスト・課題... 30%、定期試験... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅱ 【昼】

担当者名 /Instructor 吳 香善 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN111F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本講義は朝鮮語Ⅰで学習したものを再確認しながら、基本的な単語や日常会話に必要な表現を学ぶ。文法的な知識を増やしつつも、それを実際のコミュニケーションの中で使えるように、語彙力をつけて短文を暗記するという作業に重点をおく。また、言葉を通して韓国文化への理解を深めることをねらいとする。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩（改訂版）』（巖基珠ほか、白水社、2200円）、
適宜資料やプリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『朝鮮語辞典』（小学館、8000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 どこでなってますか①【指示代名詞】【疑問代名詞】
- 3回 どこでなってますか②【用言の丁寧形】
- 4回 暑くありません【用言の否定形】
- 5回 数詞【漢数字】【固有数字】
- 6回 誕生日はいつですか【体言の打ち解けた丁寧形】
- 7回 どこに住んでいますか①【用言の連用形】
- 8回 どこに住んでいますか②【用言の連用形】の確認と応用
- 9回 先生いらっしゃいますか【電話応対】と【敬語表現】
- 10回 何をお探ですか【買い物】と【敬語表現】
- 11回 何をしましたか①【過去形】
- 12回 何をしましたか②【過去形】の確認と応用
- 13回 何を召し上げますか①【意思・推量形】
- 14回 何時に会いましょうか②【願望・勧誘形】
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 30%、小テスト・課題... 30%、定期試験... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN102F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

韓国語に初めて接する受講生の韓国語入門である。初級でつまづきやすい発音と文字をしっかりと練習しながら、正確な読み書きの習得を目指す。ペア練習やグループワークを取り入れ、日常生活に必要な挨拶や基礎的表現を覚えていく。

教科書 /Textbooks

『最新チャレンジ！韓国語』 金順玉・阪堂千津子（白水社） 定価2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利他（小学館）
『韓国語ビジュアル単語集』 李恩周（高橋書店）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 文字と発音【基本母音】
- 2回 文字と発音【基本子音】
- 3回 文字と発音【激音】【濃音】
- 4回 文字と発音【合成母音字】
- 5回 文字と発音【終声①】【終声②】
- 6回 発音のルール【連音化】【濃音化】
- 7回 発音のルール【激音化】【鼻音化】
- 8回 その他の発音法則
- 9回 【文字の復習】【指定詞の丁寧形】
- 10回 疑問文と応答文【～ですか】【～です】【～ではありません】
- 11回 自己・物を紹介する時の表現【～といます】
- 12回 存在詞の丁寧形【～があります】
- 13回 場所名、時をあらわす単語【～に】【～があります、います】
- 14回 位置を表す単語と助詞【～に】存在詞の否定文【～がありません、いません】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・25%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・25%
学期末試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ほぼ毎回行う小テストの準備のために復習をしておくこと。
次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

韓国語は“ハングル”という独自の文字から覚えなければならない言語です。他にも覚えることがたくさんあります。日ごろコツコツ頑張らないと身に付きません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN112F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

朝鮮語Ⅲで学んだ基本的知識を踏まえて、発音変化を伴う単語や文章をより正確に読める力を身につける。初級テキストにあげる基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようになることを目標とする。様々なシチュエーションでの実践的な対話力を養成し、会話をするうえで重要である動詞と形容詞に慣れ、より豊かな表現ができることを目指す。

教科書 /Textbooks

『最新チャレンジ！韓国語』 金順玉・阪堂千津子（白水社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか（小学館）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Ⅲの復習
- 2回 持ち物について尋ねる会話【誰のものですか？】
- 3回 疑問詞を使った表現【～は何 / どこですか？】
- 4回 時制や日付【漢数詞①】【何日ですか？】【何曜日ですか？】
- 5回 助詞と疑問詞のまとめ【～から～まで】
- 6回 動詞と形容詞の丁寧形①【へヨ体】【漢数詞②】【いつ～しますか？】
- 7回 動詞と形容詞の丁寧形②【へヨ体】【固有数詞①】【何時ですか？】
- 8回 動詞と形容詞の丁寧形③【一週間の予定】
- 9回 数詞まとめ【電話番号、学年、誕生日は？いくらですか？】
- 10回 動詞と形容詞の否定形【～しません、～くありません】
- 11回 好みの表現【～が好きです】【変則活用①】
- 12回 目的表現【～に～しに行きます】【丁寧形の変則活用】
- 13回 動詞と形容詞の過去形①【～ました、でした】
- 14回 動詞と形容詞の過去形②【変則活用】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・25%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・25%
学期末試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ほぼ毎回行う小テストの準備のために復習しておくこと。
次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

覚えることがたくさんあります。日ごろコツコツ頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅴ 【昼】

担当者名 /Instructor 安 滯珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN201F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅴ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

基礎文法に基づいて応用力を伸ばすことに努める。より多くの語彙を習得するために、慣用表現とことわざ意および漢字語を習得するように指導する。それを用いて実際コミュニケーションをする基礎になる文法を学び、作文練習も行う。長文や文学作品が理解できる基礎をしっかりと学習するのを目指したい。

教科書 /Textbooks

崔柄珠 『おはよう韓国語 2』朝日出版社 2015年。2400円+税。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

田谷幸利 ほか『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、『朝鮮語Ⅰ・Ⅱ』の復習
- 2回 第1課 過去形・過去形の縮約形、仮定・条件・希望表現
- 3回 第1課 フランスから来ました【練習問題、スキット】
- 4回 第2課 尊敬形・特殊な尊敬形【名詞・助詞】、家族紹介
- 5回 第2課 家族は何名様ですか【練習問題、スキット】
- 6回 第3課 尊敬形の해오体、丁寧な命令形表現
- 7回 第3課 으変則用言ドリル、勧誘・意志・確認、婉曲表現
- 8回 第3課 キム・ミンスさんのお宅ですよ【練習問題、スキット】
- 9回 韓国文化紹介、映画鑑賞
- 10回 第4課 으変則用言ドリル、用言+아서/어서、意志表現【-을래요/르래요】
- 11回 第4課 野菜が多くて体にもいいです【練習問題、スキット】
- 12回 第5課 意志・推測【을/르 거예요】、現在連体形
- 13回 第5課 未来意志・推測・婉曲【겠】、~しに・~ために表現。【未来の計画発表】
- 14回 第5課 夏休みに何をしますつもりですか【練習問題、スキット】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50%、 日常の授業への取り組み・課題・小テスト...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 安 静珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN211F		◎			
科目名	朝鮮語VI				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

基礎文法に基づいて応用力を伸ばすことに努める。より多くの語彙を習得し、実際コミュニケーションをする基礎になる文法を学び、作文練習を行う。長文が理解できる基礎をしっかりと学習するのを目指したい。

教科書 /Textbooks

崔柄珠 『おはよう韓国語2』朝日出版社 2015年。2400円＋税。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、『朝鮮語V』の復習
- 2回 第6課 条件【으면/면 돼요】、尊敬形の過去表現
- 3回 第6課 ㄹ変則ドリル、理由表現【用言+으니까/니까、指定詞・名詞+이니까/니까】
- 4回 第6課 どのように行けばいいですか【練習問題、スキット】
- 5回 第7課 名詞+하고/과/와, 可能・不可能表現
- 6回 第7課 過去連体形【動詞・形容詞・存在詞・指定詞】、意志・約束表現【用言+을/르게요】
- 7回 第7課 写真を添付しますよ【練習問題、スキット】【メール文を書く】
- 8回 第8課 未来連体形、決心・意図表現、ㄹ変則
- 9回 第8課 みんな一緒に歌を歌いましょう【練習問題、スキット】
- 10回 第9課 ㄱ変則ドリル、義務【用言+아/어야 되다(하다)】
- 11回 第9課 未来形推測【用言+을/르 것 같다】、許可【用言+아/어도 되다】
- 12回 第9課 どんなアルバイトをしていますか【練習問題、スキット】
- 13回 第10課 ㄷ変則ドリル、不可能【못~/~지 못하다】
- 14回 第10課 現在形推測【는 것 같다/은/ㄴ 것 같다/인 것 같다】、経験表現
- 15回 第10課 何にも聞いていませんが【練習問題、スキット】、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、日常の授業への取り組み・課題・小テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 安 静珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN202F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅶ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、グループ発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。基礎レベルの範囲で多彩な文型を無理なく駆使できるようになる。

教科書 /Textbooks

金順玉・阪堂千津子・崔栄美 『ちょこっとチャレンジ!韓国語 改訂版』白水社 2017年。2400円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

田谷幸利ほか『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回．オリエンテーション
- 2回．第1課 打ち解けた尊敬表現【-(으)세요】を使ってインタビューする。条件・仮定表現【-(으)면】
- 3回．第1課意図・計画【-(으)려고 해요】、休暇計画について尋ね合う
- 4回．第2課 説明・紹介【-인데】、期間【-L/은 지】、韓国語を習ってからどのくらい経ったか尋ね合う
- 5回．第2課動作の順序【-L/은 다음에/-기 전에】、自分の日課を順を追って話す
- 6回．第1課と第2課まとめ復習、聞き取り、会話文作成発表
- 7回．第3課 義務【-아/어야 해요】、丁寧な命令・禁止命令【-(으)세요/-지 마세요】
- 8回．第3課 許可・禁止【-아/어도 돼요/-(으)면 안 돼요】、サークルの規則を決めて発表
- 9回．第4課 形容詞の連体形、理由表現【-아/어서】
- 10回 第4課 決心・約束【-기로 했어요】、約束したことや決心したことについて尋ね合う
- 11回．第3課と第4課まとめ復習、聞き取り、会話文作成発表
- 12回．第5課 位置を表す語、手段【-로/으로】、家から学校までの交通手段と所要時間をインタビューする
- 13回．第5課 動作の順序・連結【-아/어서】、おすすめのスポットを紹介し、道順を教える
- 14回．第6課 動詞・存在詞の現在連体形、試行・経験【-아/어 봤어요】
- 15回．第6課 物や出来事の状況説明・感想【-는데】、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 日常の授業への取り組み課題・小テスト...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なるべく韓国語で多くのことを話し合ひましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor 安 静珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN212F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅷ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、グループ発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。

教科書 /Textbooks

金順玉・阪堂千津子・崔榮美 『ちょこっとチャレンジ!韓国語(改訂版)』白水社 2017年。2400円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第5・6課 聞き取り、会話文復習
- 2回 第7課 依頼【-아/어 주세요】、勧誘・アドバイス【-아/어 보세요】
- 3回 第7課 より丁寧な依頼【-아/어 주시겠어요?】、買い物している場面を想定して話し合う
- 4回 第8課 理由・根拠【-(으)니까】、感嘆【-네요】、推測【-를 것 같아요】
- 5回 第8課 プレゼントをやりとりする場面を想定して話し合う
- 6回 第7・8課の復習、聞き取り、ペアで会話文を作って発表
- 7回 第9課 かしこまった尊敬、不可能表現【自分ができないことを話し合う】
- 8回 第9課 時間・場合【-(으)ㄴ 때】
- 9回 第10課 傾向【-(으)ㄴ /는 편이에요】、同時・並行動作【-(으)면서】、学習方法をインタビューする
- 10回 第10課 ~するのが【-는 것이(-는게)】、自分の性格・学習スタイルについて話す
- 11回 第9・10課の復習、聞き取り、ペアで会話文を作って発表
- 12回 韓国文化紹介、映画鑑賞
- 13回 第11課 間接話法、インタビューした内容を間接話法を使って発表する
- 14回 第11課 間接話法の過去、間接話法の縮約形【気になっているニュースを友達に伝える】
- 15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 日常の授業への取り組み・課題・小テスト...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

韓国語で多くのことを話し合いましょう。

キーワード /Keywords

指導的実習I【昼】

担当者名 /Instructor 内田 晃 / AKIRA UCHIDA / 地域戦略研究所, 勅使河原 航 / 地域共生教育センター
岩本 晃典 / 地域共生教育センター, 下田 泰奈 / 地域共生教育センター
相羽 枝莉子 / 地域共生教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 実習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE180M				◎	○
科目名	指導的実習 I			<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>	

授業の概要 /Course Description

この科目では、地域創生学群での学びの基本となる実習に求められる基礎的なスキルを獲得することを目指して、主にFM番組の作成、福祉の支援の体験、イベントの企画・運営・補助等について取り組みます。チーム力、コミュニケーション力を高めることを目的に、合宿にも参加してもらいます。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2～14回 実践報告、ミーティング、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり
詳細については、第1回目のガイダンス時に授業計画を説明する。
正規の演習時間外に行われる合宿やイベント等への参加も、本科目の授業内容に含まれる。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習への積極的な参加及び活動への貢献度：50%
課題への取り組み・提出状況：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

指導的実習I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

FM番組作成、福祉体験、地域創生

指導的実習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 内田 晃 / AKIRA UCHIDA / 地域戦略研究所, 勅使河原 航 / 地域共生教育センター
岩本 晃典 / 地域共生教育センター, 下田 泰奈 / 地域共生教育センター
相羽 枝莉子 / 地域共生教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期(ペア) 授業形態 実習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE181M				◎	○
科目名	指導的実習Ⅱ			<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>	

授業の概要 /Course Description

この科目では、地域創生学群での学びの基本となる実習に求められる基礎的なスキルを獲得することを目指して、主にFM番組の作成、福祉の支援の体験、イベントの企画・運営・補助等について取り組みます。チーム力、コミュニケーション力を高めることを目的に、合宿にも参加してもらいます。

教科書 /Textbooks

適宜、必要に応じて紹介をする。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2～14回 実践報告、ミーティング、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり
詳細については、第1回目のガイダンス時に授業計画を説明する。
正規の演習時間外に行われる合宿やイベント等への参加も、本科目の授業内容に含まれる。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習への積極的な参加及び活動への貢献度：50%
課題への取り組み・提出状況：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

指導的実習II【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

FM番組作成、福祉体験、地域創生

地域創生実習I (猪倉) 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 晃典 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE182M				◎	○
科目名	地域創生実習 I			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

高齢化が進む農村地域における農作業や、地域の方々との交流など、社会性を養うとともに、農村地域の活性化を図ること、地域課題の解決に向けた取り組みへの支援を目的として、様々な活動を行っている。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導I」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にし、実習への積極的な参加及び活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
 事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
 地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
 漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
 活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
 活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

まちづくり、農作業、地域交流、買い物弱者支援

地域創生実習I (キタプロ) 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 晃典 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE182M				◎	○
科目名	地域創生実習 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

市内の関係団体等と連携して、北九州市を日本一創業しやすいまちにするための各種活動に携わっている。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導I」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にした、実習への積極的な参加及び活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
 事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
 地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
 漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
 活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
 活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
 実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
 その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

創業支援、スタートアップ、働き方

地域創生実習I (北スマ) 【昼】

担当者名 /Instructor 下田 泰奈 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE182M				◎	○
科目名	地域創生実習 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

「食」を通じた地域課題の解決への貢献によって、北九州市民の笑顔を増やすことを目的として、「子ども食堂」の運営支援や「食育」に関する活動などの活動を行っている。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導I」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にした、実習への積極的な参加及び活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
 事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
 地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
 漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
 活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
 活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

食育、子ども食堂、地産地消

地域創生実習I (スクボラ) 【昼】

担当者名 /Instructor 勅使河原 航 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE182M				◎	○
科目名	地域創生実習 I			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

放課後の学習支援や居場所づくりに取り組む学習支援ボランティア、特別支援学校や特別支援学級における学校生活サポートなど、訪問活動を中心とした児童のサポートを行っている。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導I」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習への積極的な参加及び活動への貢献度.....50%
実習受け入れ先(地域団体等)からの評価.....50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、原則、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

地域創生実習I (スクボラ) 【昼】

キーワード /Keywords

子ども、学校、学習支援

地域創生実習I (ESDプロモート) 【昼】

担当者名 /Instructor 勅使河原 航 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 実習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE182M				◎	○
科目名	地域創生実習 I			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本実習では、「持続可能な開発のための教育 (Education for Sustainable Development : ESD)」の実践に取り組みます。本実習は、全市的にESDを浸透させていくミッションを掲げている「北九州ESD協議会」においてサブコーディネーターの役割を担い、協議会における活動の企画および実践に携わります。

現代の社会においては、少子高齢化、コミュニティの崩壊、生物多様性の担保、CO2削減、ダイバーシティ等、さまざまな課題が存在しています。本実習では、さまざまな社会的課題の解決をめざすこと、すなわち「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals : SDGs)」について学び、SDGsの達成に寄与するESDを実践します。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導I」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習への積極的な参加及び活動への貢献度.....50%
実習受け入れ先(地域団体等)からの評価.....50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。

事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が多くなります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の使い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。漫然と無理な活動することなく、時間と健康の管理に努めましょう。活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。

その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

ESD、SDGs、北九州ESD協議会

地域創生実習Ⅰ (コミュニティ) 【昼】

担当者名 /Instructor 勅使河原 航 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE182M				◎	○
科目名	地域創生実習Ⅰ			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

高齢化が進む団地の自治会と連携し、地域のつながりづくりを目的とした、高齢者の戸別訪問やサロン活動、夏休みの子どもの居場所づくりなどの取り組みを実施している。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導Ⅰ」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習への積極的な参加及び活動への貢献度.....50%
実習受け入れ先(地域団体等)からの評価.....50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

コミュニティソーシャルワーク、地域福祉、社会福祉

地域創生実習I (広報) 【昼】

担当者名 /Instructor 下田 泰奈 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 実習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE182M				◎	○
科目名	地域創生実習 I			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

オープンキャンパスをはじめとしたイベントの企画・運営、高校訪問、冊子の制作（地創図鑑）、WebやSNSによる情報発信など、地域創生学群の活動や魅力を伝えるための広報活動を行っている。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導I」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先（地域団体等）からの意見を参考にし、実習への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
 事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
 地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い（とくに敬語の用い方）、話し方や表情、身だしなみ（華美にしないこと）、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
 漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
 活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
 活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
 実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
 その他、地域創生学群が指定した行事等（例：成果発表会、北九州マラソンボランティア）についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域創生学群そのものの宣伝・広報を目的として、実習活動に参加していただきます。正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで実習活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。オリジナルウェブサイトや広報媒体を通して、学外に向けて情報を発信するため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作りたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の広報活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

広報、ブランディング、戦略的思考

地域創生実習I (小倉) 【昼】

担当者名 /Instructor 下田 泰奈 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE182M				◎	○
科目名	地域創生実習 I			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

小倉のまちの活性化を目的とし、地域の方々と連携しながら、おもてなし活動（まちなかコンシェルジュ）、清掃活動（グリーンバード）、各種講座・イベントの開催（idea+）、SNSによる情報発信（kokuliku）等を行っている。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導I」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先（地域団体等）からの意見を参考にした、実習への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
 事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
 地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い（とくに敬語の用い方）、話し方や表情、身だしなみ（華美にしないこと）、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
 漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
 活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
 活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
 実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
 その他、地域創生学群が指定した行事等（例：成果発表会、北九州マラソンボランティア）についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

まちのブランディング、中心市街地活性化、商店街

地域創生実習I (ボン・ジョーノ) 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 晃典 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE182M				◎	○
科目名	地域創生実習 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

ゼロ・カーボンのまちづくりを推進するために、地域住民の方々と協働しながら、イベントの企画・開催・広報活動を行う。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域マネジメント実践論I」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にした、実習への積極的な参加及び活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
 事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
 地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
 漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
 活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
 活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

まちづくり、地域マネジメント、ゼロ・カーボン

地域創生実習I (キッズ) 【昼】

担当者名 /Instructor 相羽 枝莉子 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 実習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE182M				◎	○
科目名	地域創生実習 I			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この実習では、子どもたちの発達段階に応じてスポーツを工夫し、スポーツの楽しみ方を探ると共に自分自身やグループにおいてルールを考案することや、また、メンバーの意見や発表を聞く態度などにも重点を置き今後の実習の基礎となるものとする。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導I」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にし、実習への積極的な参加及び活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
 事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
 地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。
 学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
 漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
 活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
 活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
 実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
 その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

健康、スポーツ、子ども

地域創生実習Ⅰ (健康スポーツ) 【昼】

担当者名 /Instructor 相羽 枝莉子 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 実習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE182M				◎	○
科目名	地域創生実習Ⅰ			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この実習では、性差や年齢に応じてスポーツを工夫し、スポーツの楽しみ方を探ると共に自分自身やグループにおいてルールを考案することや、また、メンバーの意見や発表を聞く態度などにも重点を置き今後の実習の基礎となるものとする。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導Ⅰ」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にし、実習への積極的な参加及び活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
 事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
 地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。
 学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
 漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
 活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
 活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
 実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
 その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

健康、スポーツ、シニア体カアップ

地域創生実習I (プロスポーツ) 【昼】

担当者名 /Instructor 相羽 枝莉子 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE182M				◎	○
科目名	地域創生実習 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

地域のプロスポーツ団体と連携して、まちづくり、地域振興、健康増進など多様なテーマに取り組む。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導I」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習への積極的な参加及び活動への貢献度.....50%
実習受け入れ先(地域団体等)からの評価.....50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。
学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

健康、スポーツ、まちづくり

地域創生実習I (421Lab.) 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE182M				◎	○
科目名	地域創生実習 I			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回

オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤上記以外で必要となる諸活動

第15回

振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

地域創生実習I (421Lab.) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

本実習は地域共生教育センターで行います。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、
ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、
忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

地域創生実習II (猪倉) 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 晃典 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE183M				◎	○
科目名	地域創生実習II			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

高齢化が進む農村地域における農作業や、地域の方々との交流など、社会性を養うとともに、農村地域の活性化を図ること、地域課題の解決に向けた取り組みへの支援を目的として、様々な活動を行っている。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導II」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にし、実習への積極的な参加及び活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
 事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
 地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
 漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
 活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
 活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

まちづくり、農作業、地域交流、買い物弱者支援

地域創生実習II (キタプロ) 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 晃典 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE183M				◎	○
科目名	地域創生実習II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

市内の関係団体等と連携して、北九州市を日本一創業しやすいまちにするための各種活動に携わっている。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導II」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にした、実習への積極的な参加及び活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
 事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
 地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
 漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
 活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
 活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
 実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
 その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

創業支援、スタートアップ、働き方

地域創生実習II (北スマ) 【昼】

担当者名 /Instructor 下田 泰奈 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE183M				◎	○
科目名	地域創生実習II			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

「食」を通じた地域課題の解決への貢献によって、北九州市民の笑顔を増やすことを目的として、「子ども食堂」の運営支援や「食育」に関する活動などの活動を行っている。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導II」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にし、実習への積極的な参加及び活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
 事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
 地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
 漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
 活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
 活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

食育、子ども食堂、地産地消

地域創生実習II (スクボラ) 【昼】

担当者名 勅使河原 航 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE183M				◎	○
科目名	地域創生実習II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

放課後の学習支援や居場所づくりに取り組む学習支援ボランティア、特別支援学校や特別支援学級における学校生活サポートなど、訪問活動を中心とした児童のサポートを行っている。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導II」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習への積極的な参加及び活動への貢献度.....50%
実習受け入れ先(地域団体等)からの評価.....50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、原則、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

地域創生実習II (スクボラ) 【昼】

キーワード /Keywords

子ども、学校、学習支援

地域創生実習II (ESDプロモート) 【昼】

担当者名 /Instructor 勅使河原 航 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE183M				◎	○
科目名	地域創生実習II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本実習では、「持続可能な開発のための教育 (Education for Sustainable Development : ESD)」の実践に取り組みます。本実習は、全市的にESDを浸透させていくミッションを掲げている「北九州ESD協議会」においてサブコーディネーターの役割を担い、協議会における活動の企画および実践に携わります。

現代の社会においては、少子高齢化、コミュニティの崩壊、生物多様性の担保、CO2削減、ダイバーシティ等、さまざまな課題が存在しています。本実習では、さまざまな社会的課題の解決をめざすこと、すなわち「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals : SDGs)」について学び、SDGsの達成に寄与するESDを実践します。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導II」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習への積極的な参加及び活動への貢献度.....50%
実習受け入れ先(地域団体等)からの評価.....50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

地域創生実習II (ESDプロモート) 【昼】

キーワード /Keywords

ESD、SDGs、北九州ESD協議会

地域創生実習II (コミュニティ) 【昼】

担当者名 勅使河原 航 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE183M				◎	○
科目名	地域創生実習II			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

高齢化が進む団地の自治会と連携し、地域のつながりづくりを目的とした、高齢者の戸別訪問やサロン活動、夏休みの子どもの居場所づくりなどの取り組みを実施している。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導II」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習への積極的な参加及び活動への貢献度.....50%
実習受け入れ先(地域団体等)からの評価.....50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

コミュニティソーシャルワーク、地域福祉、社会福祉

地域創生実習II (広報) 【昼】

担当者名 /Instructor 下田 泰奈 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE183M				◎	○
科目名	地域創生実習II			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

オープンキャンパスをはじめとしたイベントの企画・運営、高校訪問、冊子の制作（地創図鑑）、WebやSNSによる情報発信など、地域創生学群の活動や魅力を伝えるための広報活動を行っている。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導II」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先（地域団体等）からの意見を参考にした、実習への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
 事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
 地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
 漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
 活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
 活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
 実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
 その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域創生学群そのものの宣伝・広報を目的として、実習活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで実習活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。オリジナルウェブサイトや広報媒体を通して、学外に向けて情報を発信するため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の広報活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

広報、ブランディング、戦略的思考

地域創生実習II (小倉) 【昼】

担当者名 /Instructor 下田 泰奈 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE183M				◎	○
科目名	地域創生実習II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

小倉のまちの活性化を目的とし、地域の方々と連携しながら、おもてなし活動（まちなかコンシェルジュ）、清掃活動（グリーンバード）、各種講座・イベントの開催（idea+）、SNSによる情報発信（kokuliku）等を行っている。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導II」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先（地域団体等）からの意見を参考にした、実習への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。

事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い（とくに敬語の用い方）、話し方や表情、身だしなみ（華美にしないこと）、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。

漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。

活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。

活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。

その他、地域創生学群が指定した行事等（例：成果発表会、北九州マラソンボランティア）についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

地域創生実習II (小倉) 【昼】

キーワード /Keywords

まちのブランディング、中心市街地活性化、商店街

地域創生実習II (ボン・ジョーノ) 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 晃典 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE183M				◎	○
科目名	地域創生実習II			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

BONJONO (北九州市小倉北区城野地区)にて、地域の方々と連携しながら、まちづくりを行っていく。イベントの企画・開催や、広報媒体制作などを通して、より住みやすい環境づくりの一端を担う。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導II」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にした、実習への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
 事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
 地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
 漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
 活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
 活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

まちづくり、住環境、ゼロ・カーボン

地域創生実習II (キッズ) 【昼】

担当者名 /Instructor 相羽 枝莉子 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE183M				◎	○
科目名	地域創生実習II			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この実習では、子どもたちの発達段階に応じてスポーツを工夫し、スポーツの楽しみ方を探ると共に自分自身やグループにおいてルールを考案することや、また、メンバーの意見や発表を聞く態度などにも重点を置き今後の実習の基礎となるものとする。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導II」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にし、実習への積極的な参加及び活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
 事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
 地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。
 学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
 漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
 活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
 活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
 実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
 その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

健康、スポーツ、子ども

地域創生実習II (健康スポーツ) 【昼】

担当者名 /Instructor 相羽 枝莉子 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE183M				◎	○
科目名	地域創生実習II			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この実習では、性差や年齢に応じてスポーツを工夫し、スポーツの楽しみ方を探ると共に自分自身やグループにおいてルールを考案することや、また、メンバーの意見や発表を聞く態度などにも重点を置き今後の実習の基礎となるものとする。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導II」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にした、実習への積極的な参加及び活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
 事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
 地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。
 学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
 漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
 活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
 活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
 実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
 その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

健康、スポーツ、シニア体カアップ

地域創生実習II (プロスポーツ) 【昼】

担当者名 /Instructor 相羽 枝莉子 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE183M				◎	○
科目名	地域創生実習II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

地域のプロスポーツ団体と連携して、まちづくり、地域振興、健康増進など多様なテーマに取り組む。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導II」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習への積極的な参加及び活動への貢献度.....50%
実習受け入れ先(地域団体等)からの評価.....50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が多くなります。
学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただけます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

健康、スポーツ、まちづくり

地域創生実習II (421Lab.) 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE183M				◎	○
科目名	地域創生実習II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々との協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回

オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤上記以外で必要となる諸活動

第15回

振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

履修上の注意 /Remarks

本実習は、地域共生教育センターで行います。センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自立的な学びに取り組んでもらいます。地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

地域創生実習II (421Lab.) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、
忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

地域創生実習Ⅲ (猪倉) 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 晃典 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE280M			○	◎	○
科目名	地域創生実習Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

高齢化が進む農村地域における農作業や、地域の方々との交流など、社会性を養うとともに、農村地域の活性化を図ること、地域課題の解決に向けた取り組みへの支援を目的として、様々な活動を行っている。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域マネジメント実践論Ⅲ」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にした、実習への積極的な参加及び活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
 事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
 地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
 漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
 活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
 活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

まちづくり、農作業、地域交流、買い物弱者支援

地域創生実習Ⅲ (キタプロ) 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 晃典 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE280M			○	◎	○
科目名	地域創生実習Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

市内の関係団体等と連携して、北九州市を日本一創業しやすいまちにするための各種活動に携わっている。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域マネジメント実践論Ⅲ」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にした、実習への積極的な参加及び活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
 事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
 地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
 漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
 活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
 活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
 実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
 その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

創業支援、スタートアップ、働き方

地域創生実習Ⅲ (北スマ) 【昼】

担当者名 /Instructor 下田 泰奈 / 地域共生教育センター

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE280M			○	◎	○
科目名	地域創生実習Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

「食」を通じた地域課題の解決への貢献により、北九州市民の笑顔を増やすことを目的として、「子ども食堂」の運営支援や「食育」に関する活動などの活動を行っている。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域マネジメント実践論Ⅲ」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にし、実習への積極的な参加及び活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただけます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

食育、子ども食堂、地産地消

地域創生実習Ⅲ (スクボラ) 【昼】

担当者名 /Instructor 勅使河原 航 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE280M			○	◎	○
科目名	地域創生実習Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

放課後の学習支援や居場所づくりに取り組む学習支援ボランティア、特別支援学校や特別支援学級における学校生活サポートなど、訪問活動を中心とした児童のサポートを行っている。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導Ⅲ」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度(期末レポートを含む).....50%
積極的な演習や地域活動への参加.....50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。漫然と無理な活動することなく、時間と健康の管理に努めましょう。活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、原則、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

子ども、学校、学習支援

地域創生実習Ⅲ (ESDプロモート) 【昼】

担当者名 勅使河原 航 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE280M			○	◎	○
科目名	地域創生実習Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本実習では、「持続可能な開発のための教育 (Education for Sustainable Development : ESD)」の実践に取り組みます。本実習は、全市的にESDを浸透させていくミッションを掲げている「北九州ESD協議会」においてサブコーディネーターの役割を担い、協議会における活動の企画および実践に携わります。

現代の社会においては、少子高齢化、コミュニティの崩壊、生物多様性の担保、CO2削減、ダイバーシティ等、さまざまな課題が存在しています。本実習では、さまざまな社会的課題の解決をめざすこと、すなわち「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals : SDGs)」について学び、SDGsの達成に寄与するESDを実践します。

3年次には、チームと地域の関係性に関心を向け、地域における自分たちの活動の位置づけをふまえて実践すること、地域のニーズに応じた活動を展開すること等の問題意識をもって活動していただきます。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがあります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

日能研 『SDGs (国連 世界の未来を変えるための17の目標) 2030年までのゴール』 みくに出版 2017年 ¥1,000
その他、適宜関連する書籍を提示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 学びと実践
第15回 全体のふりかえりとまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

実践活動やミーティングへの参加状況...60%
授業(プロジェクト)の成果物...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 【ミーティング前】各自の役割をふまえて、余裕をもって資料の準備等をしてください。
- 【ミーティング後】指摘事項について検討を重ね、企画等を練り直してください。
- 【活動前】毎回の活動目標をしっかり意識し、入念に準備したうえで活動に取り組んでください。
- 【活動後】活動目標の達成状況について十分なふりかえりをし、話し合いによって共有するとともに、学び得たことを記録してください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 通常のミーティング等、話し合い形式の場合においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
 - ・ 地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
 - ・ 漫然と無理な活動をするのではなく、時間と健康の管理に努めましょう。
- 実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習III (ESDプロモート) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクトマネジメント、ファシリテーション等の手法といった活動の基盤となるものを身につけて、SDGsとそれを解決するためのESDという実践的な専門分野の知識や方法について、学びを深めてほしいと思います。

ESD協議会の企画に主体的に参加するとともに、各自が関心のある分野について、ESD実践につながる自主企画等を提案することを望みます。

地域のさまざまな世代や立場の人々と交流し、実習メンバーの上級生および下級生と協働する貴重な機会を尊びかつ楽しんでください。とりわけ1~2年次の学生から、「こんなふうリーダーシップをとれるようになりたい」と思われるようなロールモデルとなることを意識していただきたいと思います。

キーワード /Keywords

ESD、SDGs、北九州ESD協議会

地域創生実習Ⅲ (コミュニティ) 【昼】

担当者名 勅使河原 航 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE280M			○	◎	○
科目名	地域創生実習Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

各自に課せられた実習内容に沿って、事前学習、実習計画の作成、実習、中間振り返り、実習、最終振り返り、報告というプロセスで、実践力の養成に努める。
主とした実習内容は、市内小学校での学習支援活動、療育センター・施設等におけるボランティア活動など。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2～3回 実習前指導
- 4～6回 実習
- 7回 実習の振り返り
- 8～14回 実習
- 15回 実習の振り返り、報告

成績評価の方法 /Assessment Method

主たるテーマの実習の取り組み状況 ... 50%
その他の実習への積極的な参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

活動で取り組んでいる内容を記録に残す、省察することを繰り返すこと。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。漫然と無理な活動することなく、時間と健康の管理に努めましょう。活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

コミュニティソーシャルワーク、地域福祉、社会福祉

地域創生実習Ⅲ (広報) 【昼】

担当者名 /Instructor 下田 泰奈 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE280M			○	◎	○
科目名	地域創生実習Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

オープンキャンパスをはじめとしたイベントの企画・運営、高校訪問、冊子の制作（地創図鑑）、WebやSNSによる情報発信など、地域創生学群の活動や魅力を伝えるための広報活動を行っている。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域マネジメント実践論Ⅲ」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先（地域団体等）からの意見を参考にした、実習への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
 事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
 地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
 漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
 活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
 活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
 実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
 その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域創生学群そのものの宣伝・広報を目的として、実習活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで実習活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。オリジナルウェブサイトや広報媒体を通して、学外に向けて情報を発信するため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の広報活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

広報、ブランディング、戦略的思考

地域創生実習Ⅲ (小倉) 【昼】

担当者名 /Instructor 下田 泰奈 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE280M			○	◎	○
科目名	地域創生実習Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

小倉のまちの活性化を目的とし、地域の方々と連携しながら、おもてなし活動（まちなかコンシェルジュ）、清掃活動（グリーンバード）、各種講座・イベントの開催（idea+）、SNSによる情報発信（kokuliku）等を行っている。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域マネジメント実践論Ⅲ」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先（地域団体等）からの意見を参考にし、実習への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
 事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
 地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い（とくに敬語の用い方）、話し方や表情、身だしなみ（華美にしないこと）、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
 漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
 活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
 活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
 実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
 その他、地域創生学群が指定した行事等（例：成果発表会、北九州マラソンボランティア）についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

まちのブランディング、中心市街地活性化、商店街

地域創生実習Ⅲ (ボン・ジョーノ) 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 晃典 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE280M			○	◎	○
科目名	地域創生実習Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

BONJONO (北九州市小倉北区城野地区)にて、地域の方々と連携しながら、まちづくりを行っていく。イベントの企画・開催や、広報媒体制作などを通して、より住みやすい環境づくりの一端を担う。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導Ⅲ」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にした、実習への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
 事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
 地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
 漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
 活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
 活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

まちづくり、住環境、ゼロ・カーボン

地域創生実習Ⅲ (キッズ) 【昼】

担当者名 /Instructor 相羽 枝莉子 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE280M			○	◎	○
科目名	地域創生実習Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

この実習では、子どもたちの発達段階に応じてスポーツを工夫し、スポーツの楽しみ方を探ると共に自分自身やグループにおいてルールを考案することや、また、メンバーの意見や発表を聞く態度などにも重点を置き今後の実習の基礎となるものとする。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導Ⅲ」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にし、実習への積極的な参加及び活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
 事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
 地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。
 学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
 漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
 活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
 活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
 実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
 その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

健康、スポーツ、子ども

地域創生実習Ⅲ (健康スポーツ) 【昼】

担当者名 /Instructor 相羽 枝莉子 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE280M			○	◎	○
科目名	地域創生実習Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

この実習では、性差や年齢に応じてスポーツを工夫し、スポーツの楽しみ方を探ると共に自分自身やグループにおいてルールを考案することや、また、メンバーの意見や発表を聞く態度などにも重点を置き今後の実習の基礎となるものとする。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導Ⅲ」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にした、実習への積極的な参加及び活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
 事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
 地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。
 学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
 漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
 活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
 活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
 実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
 その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

健康、スポーツ、シニア体カアップ

地域創生実習Ⅲ (プロスポーツ) 【昼】

担当者名 /Instructor 相羽 枝莉子 / 地域共生教育センター

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE280M			○	◎	○
科目名	地域創生実習Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

地域のプロスポーツ団体と連携して、まちづくり、地域振興、健康増進など多様なテーマに取り組む。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導Ⅲ」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習への積極的な参加及び活動への貢献度.....50%
実習受け入れ先(地域団体等)からの評価.....50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。
学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

健康、スポーツ、まちづくり

地域創生実習Ⅲ (421Lab.) 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE280M			○	◎	○
科目名	地域創生実習Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々との協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回
オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤上記以外で必要となる諸活動

第15回
振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

履修上の注意 /Remarks

本実習は、地域共生教育センターで行います。センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自立的な学びに取り組んでもらいます。地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

地域創生実習III (421Lab.) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、
忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

地域創生実習Ⅳ (猪倉) 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 晃典 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 実習 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE281M			○	◎	○
科目名	地域創生実習Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

高齢化が進む農村地域における農作業や、地域の方々との交流など、社会性を養うとともに、農村地域の活性化を図ること、地域課題の解決に向けた取り組みへの支援を目的として、様々な活動を行っている。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域マネジメント実践論Ⅳ」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にした、実習への積極的な参加及び活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
 事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
 地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
 漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
 活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
 活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

まちづくり、農作業、地域交流、買い物弱者支援

地域創生実習Ⅳ (キタプロ) 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 晃典 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE281M			○	◎	○
科目名	地域創生実習Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

市内の関係団体等と連携して、北九州市を日本一創業しやすいまちにするための各種活動に携わっている。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域マネジメント実践論Ⅳ」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にした、実習への積極的な参加及び活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
 事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
 地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
 漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
 活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
 活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
 実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
 その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

創業支援、スタートアップ、働き方

地域創生実習Ⅳ (北スマ) 【昼】

担当者名 /Instructor 下田 泰奈 / 地域共生教育センター

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE281M			○	◎	○
科目名	地域創生実習Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

食を通じた地域課題の解決への貢献により、北九州市民の笑顔を増やすことを目的として、「子ども食堂」の運営支援や「食育」に関する活動などの活動を行っている。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域マネジメント実践論Ⅳ」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にした、実習への積極的な参加及び活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
 事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
 地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
 漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
 活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
 活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただけます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

食育、子ども食堂、地産地消

地域創生実習Ⅳ (スクボラ) 【昼】

担当者名 勅使河原 航 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE281M			○	◎	○
科目名	地域創生実習Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

放課後の学習支援や居場所づくりに取り組む学習支援ボランティア、特別支援学校や特別支援学級における学校生活サポートなど、訪問活動を中心とした児童のサポートを行っている。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導Ⅳ」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習への積極的な参加及び活動への貢献度.....50%
実習受け入れ先(地域団体等)からの評価.....50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。漫然と無理な活動することなく、時間と健康の管理に努めましょう。活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、原則、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

子ども、学校、学習支援

地域創生実習Ⅳ (ESDプロモート) 【昼】

担当者名 勅使河原 航 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE281M			○	◎	○
科目名	地域創生実習Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本実習では、「持続可能な開発のための教育 (Education for Sustainable Development : ESD)」の実践に取り組みます。本実習は、全市的にESDを浸透させていくミッションを掲げている「北九州ESD協議会」においてサブコーディネーターの役割を担い、協議会における活動の企画および実践に携わります。

現代の社会においては、少子高齢化、コミュニティの崩壊、生物多様性の担保、CO2削減、ダイバーシティ等、さまざまな課題が存在しています。本実習では、さまざまな社会的課題の解決をめざすこと、すなわち「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals : SDGs)」について学び、SDGsの達成に寄与するESDを実践します。

3年次には、チームと地域の関係性に関心を向け、地域における自分たちの活動の位置づけをふまえて実践すること、地域のニーズに応じた活動を展開すること等の問題意識をもって活動していただきます。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

日能研 『SDGs (国連 世界の未来を変えるための17の目標) 2030年までのゴール』 みくに出版 2017年 ¥1,000
その他、適宜関連する書籍を提示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 学びと実践
第15回 全体のふりかえりとまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

実践活動やミーティングへの参加状況...60%
授業(プロジェクト)の成果物...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 【ミーティング前】各自の役割をふまえて、余裕をもって資料の準備等をしてください。
- 【ミーティング後】指摘事項について検討を重ね、企画等を練り直してください。
- 【活動前】毎回の活動目標をしっかり意識し、入念に準備したうえで活動に取り組んでください。
- 【活動後】活動目標の達成状況について十分なふりかえりをし、話し合いによって共有するとともに、学び得たことを記録してください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 通常のミーティング等、話し合い形式の場合においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
 - ・ 地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
 - ・ 漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
- 実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習Ⅳ (ESDプロモート) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクトマネジメント、ファシリテーション等の手法といった活動の基盤となるものを身につけて、SDGsとそれを解決するためのESDという実践的な専門分野の知識や方法について、学びを深めてほしいと思います。
ESD協議会の企画に主体的に参加するとともに、各自が関心のある分野について、ESD実践につながる自主企画等を提案することを望みます。

地域のさまざまな世代や立場の人々と交流し、実習メンバーの上級生および下級生と協働する貴重な機会を尊びかつ楽しんでください。とりわけ1~2年次の学生から、「こんなふうリーダーシップをとれるようになりたい」と思われるようなロールモデルとなることを意識していただきたいと思います。

キーワード /Keywords

ESD、SDGs、北九州ESD協議会

地域創生実習Ⅳ (コミュニティ) 【昼】

担当者名 /Instructor 勅使河原 航 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 実習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE281M			○	◎	○
科目名	地域創生実習Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

各自に課せられた実習内容に沿って、事前学習、実習計画の作成、実習、中間振り返り、実習、最終振り返り、報告というプロセスで、実践力の養成に努める。主とした実習内容は、市内小学校での学習支援活動、療育センター・施設等におけるボランティア活動など。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2～4回 実習前指導
- 5～11回 実習（実習期間中に中間振り返りを含む）
- 12～15回 実習の振り返り、報告

成績評価の方法 /Assessment Method

主たるテーマの実習の取り組み状況 ... 50%
その他の実習への積極的な参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習で取り組んでいる内容を記録に残す、省察することを繰り返すこと。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

コミュニティソーシャルワーク、地域福祉、社会福祉

地域創生実習Ⅳ (広報) 【昼】

担当者名 /Instructor 下田 泰奈 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 実習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE281M			○	◎	○
科目名	地域創生実習Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

オープンキャンパスをはじめとしたイベントの企画・運営、高校訪問、冊子の制作（地創図鑑）、WebやSNSによる情報発信など、地域創生学群の活動や魅力を伝えるための広報活動を行っている。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域マネジメント実践論Ⅳ」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先（地域団体等）からの意見を参考にした、実習への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
 事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
 地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い（とくに敬語の用い方）、話し方や表情、身だしなみ（華美にしないこと）、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
 漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
 活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
 活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
 実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
 その他、地域創生学群が指定した行事等（例：成果発表会、北九州マラソンボランティア）についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域創生学群そのものの宣伝・広報を目的として、実習活動に参加していただきます。正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで実習活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。オリジナルウェブサイトや広報媒体を通して、学外に向けて情報を発信するため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の広報活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

地域創生実習Ⅳ（広報）【昼】

キーワード /Keywords

広報、ブランディング、戦略的思考

地域創生実習Ⅳ (小倉) 【昼】

担当者名 /Instructor 下田 泰奈 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE281M			○	◎	○
科目名	地域創生実習Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

小倉のまちの活性化を目的とし、地域の方々と連携しながら、おもてなし活動（まちなかコンシェルジュ）、清掃活動（グリーンバード）、各種講座・イベントの開催（idea+）、SNSによる情報発信（kokuliku）等を行っている。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域マネジメント実践論Ⅳ」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先（地域団体等）からの意見を参考にした、実習への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
 事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
 地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い（とくに敬語の用い方）、話し方や表情、身だしなみ（華美にしないこと）、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
 漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
 活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
 活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
 実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
 その他、地域創生学群が指定した行事等（例：成果発表会、北九州マラソンボランティア）についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

まちのブランディング、中心市街地活性化、商店街

地域創生実習Ⅳ (ボン・ ジョーノ) 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 晃典 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 実習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE281M			○	◎	○
科目名	地域創生実習Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

BONJONO (北九州市小倉北区城野地区)にて、地域の方々と連携しながら、まちづくりを行っていく。イベントの企画・開催や、広報媒体制作などを通して、より住みやすい環境づくりの一端を担う。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導Ⅳ」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にし、実習への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
 事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
 地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が多くなります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
 漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
 活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
 活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

まちづくり、住環境、ゼロ・カーボン

地域創生実習Ⅳ(キッズ)【昼】

担当者名 /Instructor 相羽 枝莉子 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE281M			○	◎	○
科目名	地域創生実習Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

この実習では、子どもたちの発達段階に応じてスポーツを工夫し、スポーツの楽しみ方を探ると共に自分自身やグループにおいてルールを考案することや、また、メンバーの意見や発表を聞く態度などにも重点を置き今後の実習の基礎となるものとする。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導Ⅳ」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にし、実習への積極的な参加及び活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
 事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
 地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。
 学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
 漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
 活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
 活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
 実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
 その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

健康、スポーツ、子ども

地域創生実習Ⅳ (健康スポーツ) 【昼】

担当者名 /Instructor 相羽 枝莉子 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 実習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE281M			○	◎	○
科目名	地域創生実習Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

この実習では、性差や年齢に応じてスポーツを工夫し、スポーツの楽しみ方を探ると共に自分自身やグループにおいてルールを考案することや、また、メンバーの意見や発表を聞く態度などにも重点を置き今後の実習の基礎となるものとする。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導Ⅳ」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にした、実習への積極的な参加及び活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
 事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
 地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。
 学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
 漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
 活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
 活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
 実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
 その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

健康、スポーツ、シニア体カアップ

地域創生実習Ⅳ (プロスポーツ) 【昼】

担当者名 /Instructor 相羽 枝莉子 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE281M			○	◎	○
科目名	地域創生実習Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

地域のプロスポーツ団体と連携して、まちづくり、地域振興、健康増進など多様なテーマに取り組む。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導Ⅳ」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習への積極的な参加及び活動への貢献度.....50%
実習受け入れ先(地域団体等)からの評価.....50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。
学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

健康、スポーツ、まちづくり

地域創生実習Ⅳ (421Lab.) 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 実習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE281M			○	◎	○
科目名	地域創生実習Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回

オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤上記以外で必要となる諸活動

第15回

振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

履修上の注意 /Remarks

本実習は、地域共生教育センターで行います。センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自立的な学びに取り組んでもらいます。地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

地域創生実習Ⅳ (421Lab.) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、
忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

地域創生実践Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE282M	○	◎			
科目名	地域創生実践Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本授業では、地域創生論で学んだ内容を活用して、実際に地域で活動し、実践的専門知識を得ることを目指します。具体的には、自らの問題関心にそった実践活動を通して、地域創生に関する知識や技術の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

授業中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

活動時間などの詳細については、「地域創生演習Ⅰ」にて説明します。

成績評価の方法 /Assessment Method

活動への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：活動に求められる知識、スキルに関する文献を読んで学習しましょう。
事後：活動後に内容を記録し、この授業で得た気づきを記録し、次の実践に生かしましょう。

履修上の注意 /Remarks

活動中に知り得た情報の取り扱いには注意し、守秘義務を遵守してください。
地域活動では、さまざまな立場や年代の人びとと接する機会が多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、言葉遣いなどに配慮してください。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担となります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学問には主体性が求められます。意味があると思われる問いを立て、活動の中から自分なりの答えを導いてください。

キーワード /Keywords

地域創生、実践活動

地域創生実践Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 内田 晃 / AKIRA UCHIDA / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE282M	○	◎			
科目名	地域創生実践Ⅰ		<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		

授業の概要 /Course Description

本授業では、地域創生論で学んだ内容を活用して、実際に地域にて活動し、実践の専門知識を得ることを目指します。
具体的には、フットパスやモビリティマネジメントに関する地域での実践活動を通して、地域創生に関する知識や技術の向上を図ります。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、本の紹介や資料の配布をします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

活動時間などの詳細については、「地域創生演習Ⅰ」にて説明します。

成績評価の方法 /Assessment Method

活動への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：活動に求められる知識やスキルに関する文献を読んで学習する事。
事後：活動後に活動内容、気づいた点、反省点等を記録し、次回以降に活用する事。

履修上の注意 /Remarks

地域活動は、様々な立場や幅広い年齢層の方々と接します。学ばせて頂くという謙虚な姿勢を忘れず、言葉遣いや最低限のマナーを心がけましょう。活動中に知り得た情報の取り扱いには注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学ぶフィールドは地域全体です。常に地域のあり方について意識し、楽しみながら課題解決のために取り組んでいきましょう。

キーワード /Keywords

地域創生、地域課題解決、フットパス、モビリティマネジメント

地域創生実践Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 片岡 寛之 / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE282M	○	◎			
科目名	地域創生実践Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本授業では、地域創生論で学んだ内容を活用して、実際に地域にて活動し、実践的専門知識を得ることを目指します。
 具体的には、「経営からのまちづくり」「リノベーションまちづくり」をテーマとし、「サンロード魚町商店街での活動」「地図あそびの企画運営」をはじめ、地域からの要請等に応じた様々な活動の機会を通じて、地域創生に関する知識や技術の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

必要に応じて適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

活動時間などの詳細については「地域創生演習Ⅰ」にて説明します。

成績評価の方法 /Assessment Method

活動への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：活動に求められる知識、スキルに関する文献を読んで学習しましょう。
 事後：活動後に内容を記録し、この授業で得た気づきをノートに書き出し、次の実践に活かしましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

外部からの要請に応じて、活動内容が増えたり変化する可能性があります。そのことをポジティブに受け入れて、活動しましょう。

キーワード /Keywords

地域創生、経営からのまちづくり、リノベーション、都市解析

地域創生実践Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 小林 敏樹 / Toshiki Kobayashi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE282M	○	◎			
科目名	地域創生実践Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本授業では、地域創生論で学んだ内容を活用して、実際に地域にて活動し、実践の専門知識を得ることを目指す。ゼミで行っている様々なプロジェクトに参画したり、新規にプロジェクトを立ち上げたりと、積極的に実践活動を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

活動時間などの詳細については、「地域創生演習Ⅰ」にて説明する。

成績評価の方法 /Assessment Method

活動への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

活動に求められる知識、関連する分野の知識、スキルに関する文献を読んで学習する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生、まちづくり、都市計画、マネジメント、まちあるき、SDGs、地図、デザイン

地域創生実践Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 貴之 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE282M	○	◎			
科目名	地域創生実践Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本授業では、地域創生論で学んだ内容を活用して、実際に地域にて活動し、実践的専門知識を得ることを目指します。具体的には、ゲームやICTを活用した地域での実践活動を通して、地域創生に関する知識や技術の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

授業中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

活動時間などの詳細については、「地域創生演習Ⅰ」にて説明します。

成績評価の方法 /Assessment Method

活動への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：活動に求められる知識、スキルに関する文献を読んで学習しましょう。
事後：活動後に内容を記録し、この授業で得た気づきをノートに書き出し、次の実践に生かしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

活動に関して、報告・連絡・相談は徹底してください。
また、自ら進んで成長の機会を作り出してください。

キーワード /Keywords

地域創生、実践活動、ゲーム、ICT

地域創生実践Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2 Year
 単位 /Credits 1単位 / 1 Credit
 学期 /Semester 1学期 / 1 Semester
 授業形態 /Class Format 実習 / 実習
 クラス /Class 2年 / 2 Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE282M	○	◎			
科目名	地域創生実践Ⅰ			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本授業では、地域創生論で学んだ内容を活用して、実際に地域にて活動し、実践的専門知識を得ることを目指します。
 具体的には、ゲームやICTを活用した地域での実践活動を通して、地域創生に関する知識や技術の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

授業中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

活動時間などの詳細については、「地域創生演習」にて説明します。

成績評価の方法 /Assessment Method

活動への積極的な参加および活動への貢献度；100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：活動に求められる知識、スキルに関する文献を読んで学習しましょう。
 事後：活動後に内容を記録し、この授業で得た気づきをノートに書き出し、次の実践に活かしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください（健康上の理由により水分補給等必要な場合は申し出てください）
 地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な気持ちを忘れず、挨拶、言葉遣い（特に敬語の用い方）、話し方や表情、身だしなみ（華美にしないこと）、名刺の携帯等、良い印象をもたれるようなマナーを心がけて臨みましょう。
 漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康管理に努めましょう。
 活動にかかる移動の交通費は、原則自己負担です。
 活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

活動に関して、報告・連絡・相談は徹底してください。
 また、自ら進んで成長の機会を作り出してください。

キーワード /Keywords

地域創生・実践活動・ゲーム・ICT

地域創生実践Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 西田 心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE282M	○	◎			
科目名	地域創生実践Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本授業では、地域創生論で学んだ内容を活用して、実際に地域にて活動し、実践的専門的知識を得ることを目指します。具体的には、門司港での地域活動を通して、地域創生に関する知識や技術の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

授業中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

活動時間などの詳細については、「地域創生演習Ⅰ」にて説明します。

成績評価の方法 /Assessment Method

活動への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：活動に求められる知識、スキルに関する文献を読んで学習しましょう。事後：活動後に内容を記録し、この授業で得た気づきをノートに書き出し、次の実践に生かしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、私語等を慎んでください。地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて臨みましょう。漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

活動に関して、報告・連絡・相談は徹底してください。また、自ら進んで成長の機会を作り出してください。

キーワード /Keywords

地域創生、実践活動、商店街、観光地化

地域創生実践Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE282M	○	◎			
科目名	地域創生実践Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本授業では、地域創生論で学んだ内容を活用して、実際に地域にて活動し、実践の専門知識を得ることを目指します。
 具体的には、行橋市・中間市（一部、直方市）を中心に、継続的なフィールドワークを重ね、そこでの経験を振り返ることで「学び」に変えていく学習法を採用しています。
 その他にも、宿泊を含む、学外の活動に積極的に参加してもらう事があります。

教科書 /Textbooks

必要に応じて適宜、提示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜、提示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

活動時間などの詳細については、「地域創生演習Ⅰ」にて説明します。

成績評価の方法 /Assessment Method

活動への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：活動に求められる知識、スキルに関する文献を読んで学習しましょう。
 事後：活動後に内容を記録し、この授業で得た気づきをノートに書き出し、次の実践に生かしましょう。

履修上の注意 /Remarks

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて臨みましょう。
 漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
 活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
 活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

活動に関して、報告・連絡・相談は徹底してください。
 また、自ら進んで成長の機会を作り出してください。

キーワード /Keywords

地域創生、地域活性化、フットパス、高校訪問、探究学習

地域創生実践Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 深谷 裕 / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE282M	○	◎			
科目名	地域創生実践Ⅰ		<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		

授業の概要 /Course Description

本授業では、地域創生論で学んだ内容を活用して、実際に地域にて活動し、実践的専門知識を得ることを目指します。
具体的には、地域で暮らす人々からお話を伺い、多様な生活史 / ライフストーリーの分析を通して、個人の人生や日々の暮らしと地域社会が互いにどのように作用し合っているのかを学びます。

教科書 /Textbooks

演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

活動時間などの詳細については、「地域創生演習Ⅰ」にて説明します。

成績評価の方法 /Assessment Method

活動への積極的な参加および活動への貢献度・・・ 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：活動に求められる知識、スキルに関する文献を読んで学習しましょう。
事後：活動後に内容を記録し、この授業で得た気づきをノートに書き出し、次の実践に生かしましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生、生活史、ライフストーリー、ナラティブ

地域創生実践Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE282M	○	◎			
科目名	地域創生実践Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本授業では、地域創生論で学んだ内容を活用して、実際に地域にて活動し、実践的専門知識を得ることを目指します。主として高等学校において、SDGsやキャリア形成にかかわる教育実践活動を行います。SDGsの本質を理解し、それを具体的な教育に反映させていきます。学校ごとの課題を発見し、それを解決するための企画を検討し、授業計画を構築していきます。また、実際の授業では、プレゼンテーションや発表のスキルだけでなく、生徒一人一人を見る目線と、教室全体をコントロールする両方の目線を持って、全体をファシリテートしていきます。

教科書 /Textbooks

特にありませんが、実践に関わる関連書籍を適宜参考にしてください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありませんが、プロジェクトに関連する書籍、資料を積極的に読んでください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

活動時間などの詳細については、「地域創生演習Ⅰ」にて説明します。

成績評価の方法 /Assessment Method

活動への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各人のタスクに必要な書籍を積極的に読んでください。また、一般社団法人ピープラスが運営する『福岡カタリバ』の高等学校等での講義に参加して現場の課題等を体感してください。

履修上の注意 /Remarks

プレゼンテーションの機会を設けます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生、SDGs、ESD、キャリア教育

地域創生実践Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 実習 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE282M	○	◎			
科目名	地域創生実践Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本授業では、地域創生論で学んだ内容を活用して、実際に地域にて活動し、実践的専門知識を得ることを目指します。
 具体的には、地域に多くの人々が訪問することを促進し、それを具体的に地域活性化につなげるために必要な事項を検討していく力を、地域での実践活動を通じて強化していきます。特に、地域内外の人々の集客・交流の起点となる地域資源として、「スポーツ（プロスポーツや各種スポーツ大会などの“観るスポーツ”が中心）」、「文化財」、「各種イベント・観光施設」等に着目し、グループワークによって主体的に実践活動を展開していきます。

教科書 /Textbooks

適宜、文献や資料を紹介していきます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、文献や資料を紹介していきます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

活動時間などの詳細については、「地域創生演習Ⅰ」にて説明します。

成績評価の方法 /Assessment Method

活動への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に、実践活動に関連する情報を自身で調べて、必要な準備を行い活動に臨むことが必須です。活動に際しての様々なリスクの想定も事前に行い、対策を考えるよう心掛けましょう。
 授業後は、活動内容を振り返ってとりまとめを行い、成果や課題等を記録し、次回以降の活動や「地域創生演習Ⅰ」に活かしてください。

履修上の注意 /Remarks

地域の様々な団体や市民と連携して実践活動を行うことが基本となります。また、学生自身による主体的な活動が中心となります。そのため、特に以下の点には注意を求めます。

- ・共に活動していただく団体や参加者の皆さん等への感謝とリスペクトの気持ちを常に持つこと。
- ・集合時間の厳守。やむを得ず遅刻・欠席する場合は事前に連絡すること。
- ・状況にあわせた礼儀作法、マナー、身だしなみ。
- ・準備から後片付け、振り返りまで積極的かつ丁寧に取り組む姿勢。
- ・活動中に知った情報のうち、対外発信可能な情報と守秘すべき情報の的確な見極め。 など

担当教員、学生同士、連携先の団体の皆様と的確に意思疎通を図り、協働していきましょう。
 なお、活動に関わる交通費は、原則として学生自身が負担することになります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業と「地域創生演習Ⅰ・Ⅱ」および「地域創生実践Ⅱ」を連動させ、「理論の学習」、「事例の学習」、「実践活動を通じた現実の把握」、「調査分析の実施」、「様々な要素を考慮した政策の立案、プレゼンテーション」、「学生自身による評価（振り返り）」等を組み合わせて進めていきます。
 スポーツや文化財等を活かしたまちづくり政策や、関連する社会経済動向に常に幅広い関心を持ち続け、主体的に学び実践する姿勢を期待しています。

キーワード /Keywords

地域創生、スポーツ、文化、文化財、観光、政策、実践活動

地域創生実践II 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE283M	○	◎			
科目名	地域創生実践II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本授業では、地域創生論で学んだ内容を活用して、実際に地域で活動し、実践的専門知識を得ることを目指します。具体的には、自らの問題関心にそった実践活動を通して、地域創生に関する知識や技術の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

授業中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

活動時間などの詳細については、「地域創生演習II」にて説明します。

成績評価の方法 /Assessment Method

活動への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：活動に求められる知識、スキルに関する文献を読んで学習しましょう。
事後：活動後に内容を記録し、この授業で得た気づきを記録し、次の実践に生かしましょう。

履修上の注意 /Remarks

活動中に知り得た情報の取り扱いには注意し、守秘義務を遵守してください。
地域活動では、さまざまな立場や年代の人びとと接する機会が多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、言葉遣いなどに配慮してください。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担となります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学問には主体性が求められます。意味があると思われる問いを立て、活動の中から自分なりの答えを導いてください。

キーワード /Keywords

地域創生、実践活動

地域創生実践II 【昼】

担当者名 /Instructor 内田 晃 / AKIRA UCHIDA / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE283M	○	◎			
科目名	地域創生実践II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本授業では、地域創生論で学んだ内容を活用して、実際に地域にて活動し、実践の専門知識を得ることを目指します。
具体的には、フットパスやモビリティマネジメントに関する地域での実践活動を通して、地域創生に関する知識や技術の向上を図ります。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、本の紹介や資料の配布をします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

活動時間などの詳細については、「地域創生演習II」にて説明します。

成績評価の方法 /Assessment Method

活動への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：活動に求められる知識やスキルに関する文献を読んで学習する事。
事後：活動後に活動内容、気づいた点、反省点等を記録し、次回以降に活用する事。

履修上の注意 /Remarks

地域活動は、様々な立場や幅広い年齢層の方々と接します。学ばせて頂くという謙虚な姿勢を忘れず、言葉遣いや最低限のマナーを心がけましょう。活動中に知り得た情報の取り扱いには注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学ぶフィールドは地域全体です。常に地域のあり方について意識し、楽しみながら課題を解決していきましょう。

キーワード /Keywords

地域創生、地域課題解決、フットパス、モビリティマネジメント

地域創生実践Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 片岡 寛之 / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 実習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE283M	○	◎			
科目名	地域創生実践Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本授業では、地域創生論で学んだ内容を活用して、実際に地域にて活動し、実践的専門知識を得ることを目指します。
 具体的には、「経営からのまちづくり」「リノベーションまちづくり」をテーマとし、「サンロード魚町商店街での活動」「地図あそびの企画運営」をはじめ、地域からの要請等に応じた様々な活動の機会を通じて、地域創生に関する知識や技術の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

必要に応じて適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

活動時間などの詳細については「地域創生演習Ⅰ」にて説明します。

成績評価の方法 /Assessment Method

活動への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：活動に求められる知識、スキルに関する文献を読んで学習しましょう。
 事後：活動後に内容を記録し、この授業で得た気づきをノートに書き出し、次の実践に活かしましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

外部からの要請に応じて、活動内容が増えたり変化する可能性があります。そのことをポジティブに受け入れて、活動しましょう。

キーワード /Keywords

地域創生、経営からのまちづくり、リノベーション、都市解析

地域創生実践II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 敏樹 / Toshiki Kobayashi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE283M	○	◎			
科目名	地域創生実践II		<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		

授業の概要 /Course Description

本授業では、地域創生論で学んだ内容を活用して、実際に地域にて活動し、実践の専門知識を得ることを目指す。ゼミで行っている様々なプロジェクトに参画したり、新規にプロジェクトを立ち上げたりと、積極的に実践活動を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

活動時間などの詳細については、「地域創生演習II」にて説明する。

成績評価の方法 /Assessment Method

活動への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

活動に求められる知識、関連する分野の知識、スキルに関する文献を読んで学習する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生、まちづくり、都市計画、マネジメント、まちあるき、SDGs、交通、子育て、地図、デザイン

地域創生実践II 【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 貴之 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 実習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE283M	○	◎			
科目名	地域創生実践II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本授業では、地域創生論で学んだ内容を活用して、実際に地域にて活動し、実践的専門知識を得ることを目指します。
具体的には、ゲームやICTを活用した地域での実践活動を通して、地域創生に関する知識や技術の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

授業中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

活動時間などの詳細については、「地域創生演習II」にて説明します。

成績評価の方法 /Assessment Method

活動への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：活動に求められる知識、スキルに関する文献を読んで学習しましょう。
事後：活動後に内容を記録し、この授業で得た気づきをノートに書き出し、次の実践に生かしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

活動に関して、報告・連絡・相談は徹底してください。
また、自ら進んで成長の機会を作り出してください。

キーワード /Keywords

地域創生、実践活動、ゲーム、ICT

地域創生実践II 【昼】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE283M	○	◎			
科目名	地域創生実践II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本授業では地域創生論で学んだ内容を活用して、実際に地域にて活動し、実践的専門知識を得ることを目指します。
具体的には、ゲームやICTを活用した地域での実践活動を通して、地域創生に関する知識や技術の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

授業中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

活動時間などの詳細については「地域創生演習II」にて説明します。

成績評価の方法 /Assessment Method

活動への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：活動に求められる知識、スキルに関する文献を読んで学習しましょう。
事後：活動後に内容を記録し、この授業で得た気づきノートに書き出し、次の実践に活かしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください（健康上の理由により水分補給等必要な場合は申し出てください。）
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、言葉遣い（とくに敬語の用い方）、話し方や表情、身だしなみ（華美にしないこと）、名刺の携行等、良い印象をもたれるようなマナーを心がけて臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則個人負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

活動に関して、報告・連絡・相談は徹底してください。
あなた、自ら進んで成長の機会を作り出してください。

キーワード /Keywords

地域創生、実践活動、ゲーム、ICT

地域創生実践II 【昼】

担当者名 /Instructor 西田 心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE283M	○	◎			
科目名	地域創生実践II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本授業では、地域創生論で学んだ内容を活用して、実際に地域にて活動し、実践的専門知識を得ることを目指します。具体的には、門司港での地域活動を通して、地域創生に関する知識や技術の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

授業中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

活動時間などの詳細については、「地域創生演習II」にて説明します。

成績評価の方法 /Assessment Method

活動への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：活動に求められる知識、スキルに関する文献を読んで学習しましょう。
事後：活動後に内容を記録し、この授業で得た気づきをノートに書き出し、次の実践に生かしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、私語等を慎んでください。地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて臨みましょう。漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

活動に関して、報告・連絡・相談は徹底してください。また、自ら進んで成長の機会を作り出してください。

キーワード /Keywords

地域創生、実践活動、商店街、観光地化

地域創生実践II 【昼】

担当者名 /Instructor 廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE283M	○	◎			
科目名	地域創生実践II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本授業では、地域創生論で学んだ内容を活用して、実際に地域にて活動し、実践的専門知識を得ることを目指します。
 具体的には、行橋市、中間市（一部、直方市）において、地域活動を日常的に実践します。
 その中から、「学び」を得て、定着させるとともに、高校生に対してもその「学び」方を教え、ともに能力の向上を目指す活動を行う。

教科書 /Textbooks

授業中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

活動時間などの詳細については、「地域創生演習II」にて説明します。

成績評価の方法 /Assessment Method

活動への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：活動に求められる知識、スキルに関する文献を読んで学習しましょう。
 事後：活動後に内容を記録し、この授業で得た気づきをノートに書き出し、次の実践に生かしましょう。

履修上の注意 /Remarks

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて臨みましょう。
 漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
 活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
 活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

活動に関して、報告・連絡・相談は徹底してください。
 また、自ら進んで成長の機会を作り出してください。

キーワード /Keywords

地域創生、フィールドワーク、協同学習、経験学習、フットパス

地域創生実践II 【昼】

担当者名 深谷 裕 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE283M	○	◎			
科目名	地域創生実践II		<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		

授業の概要 /Course Description

本授業では、地域創生論で学んだ内容を活用して、実際に地域にて活動し、実践的専門知識を得ることを目指します。
具体的には、地域で暮らす人々からお話を伺い、多様な生活史 / ライフストーリーの分析を通して、個人の人生や日々の暮らしと地域社会が互いにどのように作用し合っているのかを学びます。

教科書 /Textbooks

演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

活動時間などの詳細については、「地域創生演習II」にて説明します。

成績評価の方法 /Assessment Method

活動への積極的な参加および活動への貢献度・・・ 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：活動に求められる知識、スキルに関する文献を読んで学習しましょう。
事後：活動後に内容を記録し、この授業で得た気づきをノートに書き出し、次の実践に生かしましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生、生活史、ライフストーリー、ナラティブ

地域創生実践Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 実習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE283M	○	◎			
科目名	地域創生実践Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本授業では、地域創生論で学んだ内容を活用して、実際に地域にて活動し、実践的専門知識を得ることを目指します。主として高等学校において、SDGsやキャリア形成にかかわる教育実践活動を行います。SDGsの本質を理解し、それを具体的な教育に反映させていきます。

学校ごとの課題を発見し、それを解決するための企画を検討し、授業計画を構築していきます。

また、実際の授業では、プレゼンテーションや発表のスキルだけでなく、生徒一人一人を見る目線と、教室全体をコントロールする両方の目線を持って、全体をファシリテートしていきます。

教科書 /Textbooks

特にありませんが、実践に関する書籍等を適宜参考にしてください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありませんが、プロジェクトに関連する書籍、資料を積極的に読んでください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

活動時間などの詳細については、「地域創生演習Ⅱ」にて説明します。

成績評価の方法 /Assessment Method

活動への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各人のタスクに必要な書籍を積極的に読んでください。

また、一般社団法人ピープラスが運営する『福岡カタリバ』の高等学校等での講義に参加して現場の課題等を体感してください。

履修上の注意 /Remarks

プレゼンテーションの機会を設けます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生、SDGs、ESD、キャリア教育

地域創生実践II 【昼】

担当者名 /Instructor 南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 実習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE283M	○	◎			
科目名	地域創生実践II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本授業では、地域創生論で学んだ内容を活用して、実際に地域にて活動し、実践的専門知識を得ることを目指します。
 具体的には、地域に多くの人々が訪問することを促進し、それを具体的に地域活性化につなげるために必要な事項を検討していく力を、地域での実践活動を通じて強化していきます。特に、地域内外の人々の集客・交流の起点となる地域資源として、「スポーツ（プロスポーツや各種スポーツ大会などの“観るスポーツ”が中心）」、「文化財」、「各種イベント・観光施設」等に着目し、グループワークによって主体的に実践活動を展開していきます。

教科書 /Textbooks

適宜、文献や資料を紹介していきます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、文献や資料を紹介していきます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

活動時間などの詳細については、「地域創生演習II」にて説明します。

成績評価の方法 /Assessment Method

活動への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に、実践活動に関連する情報を自身で調べて、必要な準備を行い活動に臨むことが必須です。活動に際しての様々なリスクの想定も事前に行い、対策を考えるよう心掛けましょう。
 授業後は、活動内容を振り返ってとりまとめを行い、成果や課題等を記録し、次回以降の活動や「地域創生演習II」に活かしてください。

履修上の注意 /Remarks

地域の様々な団体や市民と連携して実践活動を行うことが基本となります。また、学生自身による主体的な活動が中心となります。そのため、特に以下の点には注意を求めます。

- ・共に活動していただく団体や参加者の皆さん等への感謝とリスペクトの気持ちを常に持つこと。
- ・集合時間の厳守。やむを得ず遅刻・欠席する場合は事前に連絡すること。
- ・状況にあわせた礼儀作法、マナー、身だしなみ。
- ・準備から後片付け、振り返りまで積極的かつ丁寧に取り組む姿勢。
- ・活動中に知った情報のうち、対外発信可能な情報と守秘すべき情報の的確な見極め。 など

担当教員、学生同士、連携先の団体の皆様と的確に意思疎通を図り、協働していきましょう。
 なお、活動に関わる交通費は、原則として学生自身が負担することになります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業と「地域創生演習I・II」および「地域創生実践I」を連動させ、「理論の学習」、「事例の学習」、「実践活動を通じた現実の把握」、「調査分析の実施」、「様々な要素を考慮した政策の立案、プレゼンテーション」、「学生自身による評価（振り返り）」等を組み合わせて進めていきます。
 スポーツや文化財等を活かしたまちづくり政策や、関連する社会経済動向に常に幅広い関心を持ち続け、主体的に学び実践する姿勢を期待しています。

キーワード /Keywords

地域創生、スポーツ、文化、文化財、観光、政策、実践活動

障害者スポーツ実習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2 Year 単位 /Credits 1単位 / 1 Credit 学期 /Semester 1学期 / 1 Semester 授業形態 /Class Format 実習 / 実習 クラス /Class 2年 / 2 Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS280M		○		◎	○
科目名	障害者スポーツ実習Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

障害のある方が実施しているスポーツやレクリエーション等を体験し、各種目のルールと競技特性、運動効果を理解する。また、全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則を学習する。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 学外授業への取り組み指導
- 3～4回 車椅子の基本操作
- 5～6回 マップの作成と評価
- 7～8回 車椅子で運動・スポーツ
- 9～10回 障害者スポーツ大会実施種目の体験
- 11～12回 学外授業 (北九州市障害者スポーツセンター主催教室)
- 13～14回 障害者アスリート講演・実技体験
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み・・・60% 課題(レポートなど)・・・20% その他の実習への積極的な参加・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

1年次に受講している「障害者スポーツ指導論」と「障害者スポーツ各論」を復習し、受講にあたること。また実習後にはその都度、レポートを提出してもらいます。

履修上の注意 /Remarks

実習は、正規の授業時間以外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)にも取り組んでもらいます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は「障害者スポーツ指導員(初級・中級)」の資格関連科目です。第一回目のガイダンスで資格に関する説明を行いますので第一回目は必ず出席してください。

キーワード /Keywords

障害者スポーツ実習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 /Class Format 授業形態 実習 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS281M		○		◎	○
科目名	障害者スポーツ実習Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

障害のある方が実施しているスポーツやレクリエーション等を体験を通じ、障害者スポーツの魅力を感じ取る。さらに、障害の特性と補装具、指導方法について学び、障害のある方のスポーツ活動をサポートする能力を養う。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2～3回 レクリエーションスポーツ
- 4～9回 学外授業（北九州市障害者スポーツセンター主催教室）
- 10～12回 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則（実技）
- 13～14回 障害者アスリート講演・実技体験
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み・・・60% 課題（レポートなど）・・・20% その他の実習への積極的な参加・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

1年次に受講している「障害者スポーツ指導論」と「障害者スポーツ各論」を復習し、受講にあたること。また1学期に行った実習も復習しておくこと。実習後にはその都度、レポートを提出してもらいます。

履修上の注意 /Remarks

実習は、正規の授業時間以外（土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む）にも取り組んでもらいます。また、本講義は、「障害者スポーツ実習Ⅰ」から引き続き学外実習を継続していきます。したがって、「障害者スポーツ実習Ⅰ」を履修した上で、受講するようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は「障害者スポーツ指導員（初級・中級）」資格関連科目です。第一回目のガイダンスで説明を行いますので、第一回目から必ず出席してください。

キーワード /Keywords

地域創生実習指導I (猪倉) 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 晃典 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE110M		◎			
科目名	地域創生実習指導 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

高齢化が進む農村地域における農作業や、地域の方々との交流など、社会性を養うとともに、農村地域の活性化を図ること、地域課題の解決に向けた取り組みへの支援を目的として、様々な活動を行っている。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度（期末レポートを含む）：50%
積極的な演習や地域活動への参加：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い（とくに敬語の用い方）、話し方や表情、身だしなみ（華美にしないこと）、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

まちづくり、農作業、地域交流、買い物弱者支援

地域創生実習指導I (キタプロ) 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 晃典 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE110M		◎			
科目名	地域創生実習指導 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

市内の関係団体等と連携して、北九州市を日本一創業しやすいまちにするための各種活動に携わっている。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組み課題の達成度(期末レポートを含む) : 50%
積極的な演習や地域活動への参加 : 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

地域創生実習指導I (キタプロ) 【昼】

キーワード /Keywords

創業支援、スタートアップ、働き方

地域創生実習指導I (北スマ) 【昼】

担当者名 /Instructor 下田 泰奈 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE110M		◎			
科目名	地域創生実習指導 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

食を通じた地域課題の解決への貢献により、北九州市民の笑顔を増やすことを目的として、「子ども食堂」の運営支援や「食育」に関する活動などの活動を行っている。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度（期末レポートを含む）：50%
積極的な演習や地域活動への参加：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い（とくに敬語の用い方）、話し方や表情、身だしなみ（華美にしないこと）、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

食育、子ども食堂、地産地消

地域創生実習指導I (スクボラ) 【昼】

担当者名 /Instructor 勅使河原 航 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE110M		◎			
科目名	地域創生実習指導 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

放課後の学習支援や居場所づくりに取り組む学習支援ボランティア、特別支援学校や特別支援学級における学校生活サポートなど、訪問活動を中心とした児童のサポートを行っている。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度（期末レポートを含む）.....50%
積極的な演習や地域活動への参加.....50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が多々あります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。漫然と無理な活動することなく、時間と健康の管理に努めましょう。活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が多々あります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。漫然と無理な活動することなく、時間と健康の管理に努めましょう。活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

実習に伴う移動については、原則、公共交通機関、自転車、徒歩です。

その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習指導I (スクボラ) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

子ども、学校、学習支援

地域創生実習指導I (ESDプロモート) 【昼】

担当者名 /Instructor 勅使河原 航 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE110M		◎			
科目名	地域創生実習指導 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本実習では、「持続可能な開発のための教育 (Education for Sustainable Development : ESD)」の実践に取り組みます。本実習は、全市的にESDを浸透させていくミッションを掲げている「北九州ESD協議会」においてサブコーディネーターの役割を担い、協議会における活動の企画および実践に携わります。

現代の社会においては、少子高齢化、コミュニティの崩壊、生物多様性の担保、CO2削減、ダイバーシティ等、さまざまな課題が存在しています。本実習では、さまざまな社会的課題の解決をめざすこと、すなわち「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals : SDGs)」について学び、SDGsの達成に寄与するESDを実践します。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度 (期末レポートを含む)50%
積極的な演習や地域活動への参加.....50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い (とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ (華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等 (例：成果発表会、北九州マラソンボランティア) についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外 (土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む) に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

地域創生実習指導I (ESDプロモート) 【昼】

キーワード /Keywords

ESD、SDGs、北九州ESD協議会

地域創生実習指導I (コミュニティ) 【昼】

担当者名 勅使河原 航 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE110M		◎			
科目名	地域創生実習指導 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

高齢化が進む団地の自治会と連携し、地域のつながりづくりを目的とした、高齢者の戸別訪問やサロン活動、夏休みの子どもの居場所づくりなどの取り組みを実施している。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度（期末レポートを含む）.....50%
積極的な演習や地域活動への参加.....50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い（とくに敬語の用い方）、話し方や表情、身だしなみ（華美にしないこと）、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等（例：成果発表会、北九州マラソンボランティア）についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

地域創生実習指導I (コミュニティ) 【昼】

キーワード /Keywords

コミュニティソーシャルワーク、地域福祉、社会福祉

地域創生実習指導I (広報) 【昼】

担当者名 /Instructor 下田 泰奈 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE110M		◎			
科目名	地域創生実習指導 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

オープンキャンパスをはじめとしたイベントの企画・運営、高校訪問、冊子の制作（地創図鑑）、WebやSNSによる情報発信など、地域創生学群の活動や魅力を伝えるための広報活動を行っている。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先（地域団体等）からの意見を参考にした、実習への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い（とくに敬語の用い方）、話し方や表情、身だしなみ（華美にしないこと）、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等（例：成果発表会、北九州マラソンボランティア）についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域創生学群そのものの宣伝・広報を目的として、実習活動に参加していただきます。正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで実習活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。オリジナルウェブサイトや広報媒体を通して、学外に向けて情報を発信するため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の広報活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

地域創生実習指導I (広報) 【昼】

キーワード /Keywords

広報、ブランディング、戦略的思考

地域創生実習指導I (小倉) 【昼】

担当者名 /Instructor 下田 泰奈 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE110M		◎			
科目名	地域創生実習指導 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

小倉のまちの活性化を目的とし、地域の方々と連携しながら、おもてなし活動（まちなかコンシェルジュ）、清掃活動（グリーンバード）、各種講座・イベントの開催（idea+）、SNSによる情報発信（kokuliku）等を行っている。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先（地域団体等）からの意見を参考にした、実習への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の使い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習指導I (小倉) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

まちのブランディング、中心市街地活性化、商店街

地域創生実習指導I (ボン・ジョーノ) 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 晃典 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE110M		◎			
科目名	地域創生実習指導 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

BONJONO (北九州市小倉北区城野地区)にて、地域の方々と連携しながら、まちづくりを行っていく。イベントの企画・開催や、広報媒体制作などを通して、より住みやすい環境づくりの一端を担う。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にした、実習への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

まちづくり、住環境、ゼロ・カーボン

地域創生実習指導I (キッズ) 【昼】

担当者名 /Instructor 相羽 枝莉子 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE110M		◎			
科目名	地域創生実習指導 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

この実習では、子どもたちの発達段階に応じてスポーツを工夫し、スポーツの楽しみ方を探ると共に自分自身やグループにおいてルールを考案することや、また、メンバーの意見や発表を聞く態度などにも重点を置き今後の実習の基礎となるものとする。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度（期末レポートを含む）：50%
積極的な演習や地域活動への参加：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。
学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

地域創生実習指導I (キッズ) 【昼】

キーワード /Keywords

健康、スポーツ、子ども

地域創生実習指導I (健康スポーツ) 【昼】

担当者名 /Instructor 相羽 枝莉子 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE110M		◎			
科目名	地域創生実習指導 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

性差や年齢に応じてスポーツを工夫し、スポーツの楽しみ方を探ると共に自分自身やグループにおいてルールを考案することや、また、メンバーの意見や発表を聞く態度などにも重点を置き今後の実習の基礎となるものとする。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度(期末レポートを含む)：50%
積極的な演習や地域活動への参加：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。
学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

地域創生実習指導I (健康スポーツ) 【昼】

キーワード /Keywords

健康、スポーツ、シニア体カアップ

地域創生実習指導I (プロスポーツ) 【昼】

担当者名 /Instructor 相羽 枝莉子 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE110M		◎			
科目名	地域創生実習指導 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

地域のプロスポーツ団体と連携して、まちづくり、地域振興、健康増進など多様なテーマに取り組む。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度(期末レポートを含む).....50%
積極的な演習や地域活動への参加.....50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。
学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動することなく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

地域創生実習指導I (プロスポーツ) 【昼】

キーワード /Keywords

コミュニティスポーツ、まちづくり、スポーツボランティア

地域創生実習指導I (421Lab.) 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE110M		◎			
科目名	地域創生実習指導 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々との協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤上記以外で必要となる諸活動

第15回振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

履修上の注意 /Remarks

本基礎演習は、地域共生教育センターでの実習となります。センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自立的な学びに取り組んでもらいます。地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

地域創生実習指導I (421Lab.) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本実習は地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、
忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

地域創生実習指導II (猪倉) 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 晃典 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE111M		◎			
科目名	地域創生実習指導 II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

高齢化が進む農村地域における農作業や、地域の方々との交流など、社会性を養うとともに、農村地域の活性化を図ること、地域課題の解決に向けた取り組みへの支援を目的として、様々な活動を行っている。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度（期末レポートを含む）：50%
積極的な演習や地域活動への参加：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

まちづくり、農作業、地域交流、買い物弱者支援

地域創生実習指導II (キタプロ) 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 晃典 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE111M		◎			
科目名	地域創生実習指導II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

市内の関係団体等と連携して、北九州市を日本一創業しやすいまちにするための各種活動に携わっている。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組み課題の達成度(期末レポートを含む) : 50%
積極的な演習や地域活動への参加 : 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の使い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

地域創生実習指導II (キタプロ) 【昼】

キーワード /Keywords

創業支援、スタートアップ、働き方

地域創生実習指導II (北スマ) 【昼】

担当者名 /Instructor 下田 泰奈 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE111M		◎			
科目名	地域創生実習指導 II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

「食」を通じた地域課題の解決への貢献により、北九州市民の笑顔を増やすことを目的として、「子ども食堂」の運営支援や「食育」に関する活動などの活動を行っている。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度（期末レポートを含む）：50%
積極的な演習や地域活動への参加：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

また、正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作って下さい。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

食育、子ども食堂、地産地消

地域創生実習指導II (スクボラ) 【昼】

担当者名 勅使河原 航 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE111M		◎			
科目名	地域創生実習指導 II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

放課後の学習支援や居場所づくりに取り組む学習支援ボランティア、特別支援学校や特別支援学級における学校生活サポートなど、訪問活動を中心とした児童のサポートを行っている。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度（期末レポートを含む）.....50%
積極的な演習や地域活動への参加.....50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が多々あります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。漫然と無理な活動することなく、時間と健康の管理に努めましょう。活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が多々あります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。漫然と無理な活動することなく、時間と健康の管理に努めましょう。活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

実習に伴う移動については、原則、公共交通機関、自転車、徒歩です。

その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習指導II (スクボラ) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

子ども、学校、学習支援

地域創生実習指導II (ESDプロモート) 【昼】

担当者名 /Instructor 勅使河原 航 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE111M		◎			
科目名	地域創生実習指導II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本実習では、「持続可能な開発のための教育 (Education for Sustainable Development : ESD)」の実践に取り組みます。本実習は、全市的にESDを浸透させていくミッションを掲げている「北九州ESD協議会」においてサブコーディネーターの役割を担い、協議会における活動の企画および実践に携わります。現代の社会においては、少子高齢化、コミュニティの崩壊、生物多様性の担保、CO2削減、ダイバーシティ等、さまざまな課題が存在しています。本実習では、さまざまな社会的課題の解決をめざすこと、すなわち「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals : SDGs)」について学び、SDGsの達成に寄与するESDを実践します。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度 (期末レポートを含む)50%
積極的な演習や地域活動への参加.....50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い (とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ (華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等 (例：成果発表会、北九州マラソンボランティア) についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外 (土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む) に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

地域創生実習指導II (ESDプロモート) 【昼】

キーワード /Keywords

ESD、SDGs、北九州ESD協議会

地域創生実習指導II (コミュニティ) 【昼】

担当者名 /Instructor 勅使河原 航 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE111M		◎			
科目名	地域創生実習指導 II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

高齢化が進む団地の自治会と連携し、地域のつながりづくりを目的とした、高齢者の戸別訪問やサロン活動、夏休みの子どもの居場所づくりなどの取り組みを実施している。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にした、実習への積極的な参加及び活動への貢献度.....100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

地域創生実習指導II (コミュニティ) 【昼】

キーワード /Keywords

コミュニティソーシャルワーク、地域福祉、社会福祉

地域創生実習指導II (広報) 【昼】

担当者名 /Instructor 下田 泰奈 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE111M		◎			
科目名	地域創生実習指導 II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

オープンキャンパスをはじめとしたイベントの企画・運営、高校訪問、冊子の制作（地創図鑑）、WebやSNSによる情報発信など、地域創生学群の活動や魅力を伝えるための広報活動を行っている。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先（地域団体等）からの意見を参考にした、実習への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い（とくに敬語の使い方）、話し方や表情、身だしなみ（華美にしないこと）、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等（例：成果発表会、北九州マラソンボランティア）についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習指導II (広報) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域創生学群そのものの宣伝・広報を目的として、実習活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで実習活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。オリジナルウェブサイトや広報媒体を通して、学外に向けて情報を発信するため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の広報活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

広報、ブランディング、戦略的思考

地域創生実習指導II (小倉) 【昼】

担当者名 /Instructor 下田 泰奈 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE111M		◎			
科目名	地域創生実習指導II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

小倉のまちの活性化を目的とし、地域の方々と連携しながら、おもてなし活動（まちなかコンシェルジュ）、清掃活動（グリーンバード）、各種講座・イベントの開催（idea+）、SNSによる情報発信（kokuliku）等を行っている。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先（地域団体等）からの意見を参考にした、実習への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い（とくに敬語の用い方）、話し方や表情、身だしなみ（華美にしないこと）、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等（例：成果発表会、北九州マラソンボランティア）についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

地域創生実習指導II (小倉) 【昼】

キーワード /Keywords

まちのブランディング、中心市街地活性化、商店街

地域創生実習指導II (ボン・ ジョーノ) 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 晃典 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE111M		◎			
科目名	地域創生実習指導 II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

BONJONO (北九州市小倉北区城野地区)にて、地域の方々と連携しながら、まちづくりを行っていく。イベントの企画・開催や、広報媒体制作などを通して、より住みやすい環境づくりの一端を担う。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にした、実習への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

まちづくり、住環境、ゼロ・カーボン

地域創生実習指導II (キッズトレーニング) 【昼】

担当者名 /Instructor 相羽 枝莉子 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE111M		◎			
科目名	地域創生実習指導 II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

この実習では、子どもたちの発達段階に応じてスポーツを工夫し、スポーツの楽しみ方を探ると共に自分自身やグループにおいてルールを考案することや、また、メンバーの意見や発表を聞く態度などにも重点を置き今後の実習の基礎となるものとする。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度（期末レポートを含む）：50%
積極的な演習や地域活動への参加：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。
学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の使い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

地域創生実習指導II (キッズトレーニング) 【昼】

キーワード /Keywords

健康、スポーツ、子ども

地域創生実習指導II (健康スポーツ) 【昼】

担当者名 /Instructor 相羽 枝莉子 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE111M		◎			
科目名	地域創生実習指導 II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

性差や年齢に応じてスポーツを工夫し、スポーツの楽しみ方を探ると共に自分自身やグループにおいてルールを考案することや、また、メンバーの意見や発表を聞く態度などにも重点を置き今後の実習の基礎となるものとする。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度（期末レポートを含む）：50%
積極的な演習や地域活動への参加：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。
学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

地域創生実習指導II (健康スポーツ) 【昼】

キーワード /Keywords

健康、スポーツ、シニア体カアップ

地域創生実習指導II (プロスポーツ) 【昼】

担当者名 /Instructor 相羽 枝莉子 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE111M		◎			
科目名	地域創生実習指導 II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

地域のプロスポーツ団体と連携して、まちづくり、地域振興、健康増進など多様なテーマに取り組む。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度(期末レポートを含む).....50%
積極的な演習や地域活動への参加.....50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。
学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動することなく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

地域創生実習指導II (プロスポーツ) 【昼】

キーワード /Keywords

コミュニティスポーツ、まちづくり、スポーツボランティア

地域創生実習指導II (421Lab.) 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE111M		◎			
科目名	地域創生実習指導 II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々との協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ① 学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ② 地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③ 週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④ 短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤ 上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

履修上の注意 /Remarks

本基礎演習は、地域共生教育センターでの実習となります。センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自立的な学びに取り組んでもらいます。地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本実習は地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。

地域創生実習指導II (421Lab.) 【昼】

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

地域創生実習指導Ⅲ (猪倉) 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 晃典 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE210M		◎			
科目名	地域創生実習指導Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

高齢化が進む農村地域における農作業や、地域の方々との交流など、社会性を養うとともに、農村地域の活性化を図ること、地域課題の解決に向けた取り組みへの支援を目的として、様々な活動を行っている。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にした、実習への積極的な参加及び活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

地域創生実習指導Ⅲ (猪倉) 【昼】

キーワード /Keywords

まちづくり、農作業、地域交流、買い物弱者支援

地域創生実習指導Ⅲ (キタプロ) 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 晃典 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE210M		◎			
科目名	地域創生実習指導Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

市内の関係団体等と連携して、北九州市を日本一創業しやすいまちにするための各種活動に携わっている。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組み課題の達成度(期末レポートを含む) : 50%
積極的な演習や地域活動への参加 : 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

地域創生実習指導Ⅲ (キタプロ) 【昼】

キーワード /Keywords

創業支援、スタートアップ、働き方

地域創生実習指導Ⅲ (北スマ) 【昼】

担当者名 /Instructor 下田 泰奈 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE210M		◎			
科目名	地域創生実習指導Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

「食」を通じた地域課題の解決への貢献により、北九州市民の笑顔を増やすことを目的として、「子ども食堂」の運営支援や「食育」に関する活動などの活動を行っている。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度（期末レポートを含む）：50%
積極的な演習や地域活動への参加：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い（とくに敬語の用い方）、話し方や表情、身だしなみ（華美にしないこと）、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

食育、子ども食堂、地産地消

地域創生実習指導Ⅲ (スクボラ) 【昼】

担当者名 /Instructor 勅使河原 航 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE210M		◎			
科目名	地域創生実習指導Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

放課後の学習支援や居場所づくりに取り組む学習支援ボランティア、特別支援学校や特別支援学級における学校生活サポートなど、訪問活動を中心とした児童のサポートを行っている。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度（期末レポートを含む）.....50%
積極的な演習や地域活動への参加.....50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。漫然と無理な活動することなく、時間と健康の管理に努めましょう。活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、原則、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

子ども、学校、学習支援

地域創生実習指導Ⅲ (ESDプロモート) 【昼】

担当者名 /Instructor 勅使河原 航 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE210M		◎			
科目名	地域創生実習指導Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本実習では、「持続可能な開発のための教育 (Education for Sustainable Development : ESD)」の実践に取り組みます。本実習は、全市的にESDを浸透させていくミッションを掲げている「北九州ESD協議会」においてサブコーディネーターの役割を担い、協議会における活動の企画および実践に携わります。

現代の社会においては、少子高齢化、コミュニティの崩壊、生物多様性の担保、CO2削減、ダイバーシティ等、さまざまな課題が存在しています。本実習では、さまざまな社会的課題の解決をめざすこと、すなわち「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals : SDGs)」について学び、SDGsの達成に寄与するESDを実践します。

2年次には、チームマネジメントを重視して実習に取り組みます。自分自身の活動の質の向上のみならず、チームとしての成果を最大化するために活動します。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

日能研 『SDGs (国連 世界の未来を変えるための17の目標) 2030年までのゴール』 みくに出版 2017年 ¥1,000
その他、適宜関連する書籍を提示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 学びと実践
第15回 全体のふりかえりとまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

実習への積極的な参加及び活動への貢献度.....50%
実習受け入れ先(地域団体等)からの評価.....50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 【ミーティング前】各自の役割をふまえて、余裕をもって資料の準備等をしてください。
- 【ミーティング後】指摘事項について検討を重ね、企画等を練り直してください。
- 【活動前】毎回の活動目標をしっかりと意識し、入念に準備したうえで活動に取り組んでください。
- 【活動後】活動目標の達成状況について十分なふりかえりをし、話し合いによって共有するとともに、学び得たことを記録してください。

地域創生実習指導Ⅲ (ESDプロモート) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
 - ・ 地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の使い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
 - ・ 漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
- 実習に伴う移動については、原則、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等(例:成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクトマネジメント、ファシリテーション等の手法といった活動の基盤となるものを身につけて、SDGsとそれを解決するためのESDという実践的な専門分野の知識や方法について、学びを深めてほしいと思います。

ESD協議会の企画に主体的に参加するとともに、各自が関心のある分野について、ESD実践につながる自主企画等を提案することを望みます。

地域のさまざまな世代や立場の人々と交流し、実習メンバーの上級生および下級生と協働する貴重な機会を尊びかつ楽しんでください。とりわけ2年次からは、1年次の学生に「あの人のようになりたい」と思われるように、ロールモデルとなることを意識していただきたいと思います。

キーワード /Keywords

持続可能な開発のための教育 (ESD)、持続可能な開発目標 (SDGs)、「北九州ESD協議会」、サブコーディネーター

地域創生実習指導Ⅲ (コミュニティ) 【昼】

担当者名 /Instructor 勅使河原 航 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE210M		◎			
科目名	地域創生実習指導Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

放課後の学習支援や居場所づくりに取り組む学習支援ボランティア、特別支援学校や特別支援学級における学校生活サポートなど、訪問活動を中心とした児童のサポートを行っている。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度（期末レポートを含む）.....50%
積極的な演習や地域活動への参加.....50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。漫然と無理な活動することなく、時間と健康の管理に努めましょう。活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

子ども、学校、学習支援

地域創生実習指導Ⅲ (広報) 【昼】

担当者名 /Instructor 下田 泰奈 / 地域共生教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE210M		◎			
科目名	地域創生実習指導Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

オープンキャンパスをはじめとしたイベントの企画・運営、高校訪問、冊子の制作（地創図鑑）、WebやSNSによる情報発信など、地域創生学群の活動や魅力を伝えるための広報活動を行っている。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先（地域団体等）からの意見を参考にした、実習への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い（とくに敬語の用い方）、話し方や表情、身だしなみ（華美にしないこと）、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等（例：成果発表会、北九州マラソンボランティア）についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域創生学群そのものの宣伝・広報を目的として、実習活動に参加していただきます。正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで実習活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。オリジナルウェブサイトや広報媒体を通して、学外に向けて情報を発信するため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の広報活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

地域創生実習指導Ⅲ（広報）【昼】

キーワード /Keywords

広報、ブランディング、戦略的思考

地域創生実習指導Ⅲ (小倉) 【昼】

担当者名 /Instructor 下田 泰奈 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE210M		◎			
科目名	地域創生実習指導Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

小倉のまちの活性化を目的とし、地域の方々と連携しながら、おもてなし活動（まちなかコンシェルジュ）、清掃活動（グリーンバード）、各種講座・イベントの開催（idea+）、SNSによる情報発信（kokuliku）等を行っている。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先（地域団体等）からの意見を参考にした、実習への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぼうとしての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の使い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習指導Ⅲ(小倉)【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

まちのブランディング、中心市街地活性化、商店街

地域創生実習指導Ⅲ (ボン・ ジョーノ) 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 晃典 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE210M		◎			
科目名	地域創生実習指導Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

BONJONO (北九州市小倉北区城野地区)にて、地域の方々と連携しながら、まちづくりを行っていく。イベントの企画・開催や、広報媒体制作などを通して、より住みやすい環境づくりの一端を担う。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にした、実習への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

まちづくり、住環境、ゼロ・カーボン

地域創生実習指導Ⅲ (キッズ) 【昼】

担当者名 /Instructor 相羽 枝莉子 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE210M		◎			
科目名	地域創生実習指導Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

この実習では、子どもたちの発達段階に応じてスポーツを工夫し、スポーツの楽しみ方を探ると共に自分自身やグループにおいてルールを考案することや、また、メンバーの意見や発表を聞く態度などにも重点を置き今後の実習の基礎となるものとする。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度（期末レポートを含む）：50%
積極的な演習や地域活動への参加：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。
学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

地域創生実習指導Ⅲ（キッズ）【昼】

キーワード /Keywords

健康、スポーツ、子ども

地域創生実習指導Ⅲ (健康スポーツ) 【昼】

担当者名 /Instructor 相羽 枝莉子 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE210M		◎			
科目名	地域創生実習指導Ⅲ		※取得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

性差や年齢に応じてスポーツを工夫し、スポーツの楽しみ方を探ると共に自分自身やグループにおいてルールを考案することや、また、メンバーの意見や発表を聞く態度などにも重点を置き今後の実習の基礎となるものとする。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度(期末レポートを含む)：50%
積極的な演習や地域活動への参加：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。
学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

地域創生実習指導Ⅲ (健康スポーツ) 【昼】

キーワード /Keywords

健康、スポーツ、シニア体カアップ

地域創生実習指導Ⅲ (プロスポーツ) 【昼】

担当者名 /Instructor 相羽 枝莉子 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE210M		◎			
科目名	地域創生実習指導Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

地域のプロスポーツ団体と連携して、まちづくり、地域振興、健康増進など多様なテーマに取り組む。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度(期末レポートを含む).....50%
積極的な演習や地域活動への参加.....50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。
学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動することなく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

地域創生実習指導Ⅲ (プロスポーツ) 【昼】

キーワード /Keywords

コミュニティスポーツ、まちづくり、スポーツボランティア

地域創生実習指導Ⅲ (421Lab.) 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE210M		◎			
科目名	地域創生実習指導Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々との協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回
オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤上記以外で必要となる諸活動

第15回
振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

履修上の注意 /Remarks

センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自立的な学びに取り組んでもらいます。地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

地域創生実習指導III (421Lab.) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本実習は、地域での活動も多くあります。そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

地域創生実習指導Ⅳ (猪倉) 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 晃典 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE211M		◎			
科目名	地域創生実習指導Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

高齢化が進む農村地域における農作業や、地域の方々との交流など、社会性を養うとともに、農村地域の活性化を図ること、地域課題の解決に向けた取り組みへの支援を目的として、様々な活動を行っている。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にした、実習への積極的な参加及び活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の使い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

地域創生実習指導Ⅳ(猪倉)【昼】

キーワード /Keywords

まちづくり、農作業、地域交流、買い物弱者支援

地域創生実習指導Ⅳ (キタプロ) 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 晃典 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE211M		◎			
科目名	地域創生実習指導Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

市内の関係団体等と連携して、北九州市を日本一創業しやすいまちにするための各種活動に携わっている。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組み課題の達成度(期末レポートを含む) : 50%
積極的な演習や地域活動への参加 : 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動することなく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

地域創生実習指導Ⅳ(キタプロ)【昼】

キーワード /Keywords

創業支援、スタートアップ、働き方

地域創生実習指導Ⅳ (北スマ) 【昼】

担当者名 /Instructor 下田 泰奈 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE211M		◎			
科目名	地域創生実習指導Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

「食」を通じた地域課題の解決への貢献により、北九州市民の笑顔を増やすことを目的として、「子ども食堂」の運営支援や「食育」に関する活動などの活動を行っている。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度（期末レポートを含む）：50%
積極的な演習や地域活動への参加：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

食育、子ども食堂、地産地消

地域創生実習指導Ⅳ (スクボラ) 【昼】

担当者名 /Instructor 勅使河原 航 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE211M		◎			
科目名	地域創生実習指導Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

放課後の学習支援や居場所づくりに取り組む学習支援ボランティア、特別支援学校や特別支援学級における学校生活サポートなど、訪問活動を中心とした児童のサポートを行っている。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度（期末レポートを含む）.....50%
積極的な演習や地域活動への参加.....50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が多々あります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。漫然と無理な活動することなく、時間と健康の管理に努めましょう。活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が多々あります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。漫然と無理な活動することなく、時間と健康の管理に努めましょう。活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

実習に伴う移動については、原則、公共交通機関、自転車、徒歩です。

その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習指導Ⅳ (スクボラ) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

子ども、学校、学習支援

地域創生実習指導Ⅳ (ESDプロモート) 【昼】

担当者名 /Instructor 勅使河原 航 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE211M		◎			
科目名	地域創生実習指導Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本実習では、「持続可能な開発のための教育 (Education for Sustainable Development : ESD)」の実践に取り組みます。本実習は、全市的にESDを浸透させていくミッションを掲げている「北九州ESD協議会」においてサブコーディネーターの役割を担い、協議会における活動の企画および実践に携わります。

現代の社会においては、少子高齢化、コミュニティの崩壊、生物多様性の担保、CO2削減、ダイバーシティ等、さまざまな課題が存在しています。本実習では、さまざまな社会的課題の解決をめざすこと、すなわち「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals : SDGs)」について学び、SDGsの達成に寄与するESDを実践します。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度 (期末レポートを含む)50%
積極的な演習や地域活動への参加.....50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い (とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ (華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。漫然と無理な活動することなく、時間と健康の管理に努めましょう。活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い (とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ (華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。漫然と無理な活動することなく、時間と健康の管理に努めましょう。活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、原則、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等 (例：成果発表会、北九州マラソンボランティア) についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習指導Ⅳ (ESDプロモート) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

ESD、SDGs、北九州ESD協議会

地域創生実習指導Ⅳ (コミュニティ) 【昼】

担当者名 勅使河原 航 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE211M		◎			
科目名	地域創生実習指導Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

高齢化が進む団地の自治会と連携し、地域のつながりづくりを目的とした、高齢者の戸別訪問やサロン活動、夏休みの子どもの居場所づくりなどの取り組みを実施している。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にした、実習への積極的な参加及び活動への貢献度.....100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、原則、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習指導Ⅳ (コミュニティ) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

コミュニティソーシャルワーク、地域福祉、社会福祉

地域創生実習指導Ⅳ (広報) 【昼】

担当者名 /Instructor 下田 泰奈 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE211M		◎			
科目名	地域創生実習指導Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

オープンキャンパスをはじめとしたイベントの企画・運営、高校訪問、冊子の制作（地創図鑑）、WebやSNSによる情報発信など、地域創生学群の活動や魅力を伝えるための広報活動を行っている。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
- 第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先（地域団体等）からの意見を参考にした、実習への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
- 事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
 地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い（とくに敬語の用い方）、話し方や表情、身だしなみ（華美にしないこと）、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
 漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
 活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
 活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
 実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
 その他、地域創生学群が指定した行事等（例：成果発表会、北九州マラソンボランティア）についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習指導Ⅳ (広報) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域創生学群そのものの宣伝・広報を目的として、実習活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで実習活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。オリジナルウェブサイトや広報媒体を通して、学外に向けて情報を発信するため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の広報活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

広報、ブランディング、戦略的思考

地域創生実習指導Ⅳ (小倉) 【昼】

担当者名 /Instructor 下田 泰奈 / 地域共生教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE211M		◎			
科目名	地域創生実習指導Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

小倉のまちの活性化を目的とし、地域の方々と連携しながら、おもてなし活動（まちなかコンシェルジュ）、清掃活動（グリーンバード）、各種講座・イベントの開催（idea+）、SNSによる情報発信（kokuliku）等を行っている。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先（地域団体等）からの意見を参考にした、実習への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い（とくに敬語の用い方）、話し方や表情、身だしなみ（華美にしないこと）、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等（例：成果発表会、北九州マラソンボランティア）についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

地域創生実習指導Ⅳ(小倉)【昼】

キーワード /Keywords

まちのブランディング、中心市街地活性化、商店街

地域創生実習指導Ⅳ (ボン・ジョーノ) 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 晃典 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE211M		◎			
科目名	地域創生実習指導Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

BONJONO (北九州市小倉北区城野地区)にて、地域の方々と連携しながら、まちづくりを行っていく。イベントの企画・開催や、広報媒体制作などを通して、より住みやすい環境づくりの一端を担う。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にした、実習への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

まちづくり、住環境、ゼロ・カーボン

地域創生実習指導Ⅳ (キッズ) 【昼】

担当者名 /Instructor 相羽 枝莉子 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE211M		◎			
科目名	地域創生実習指導Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

この実習では、子どもたちの発達段階に応じてスポーツを工夫し、スポーツの楽しみ方を探ると共に自分自身やグループにおいてルールを考案することや、また、メンバーの意見や発表を聞く態度などにも重点を置き今後の実習の基礎となるものとする。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度（期末レポートを含む）：50%
積極的な演習や地域活動への参加：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。
学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

地域創生実習指導IV (キッズ) 【昼】

キーワード /Keywords

健康、スポーツ、子ども

地域創生実習指導Ⅳ (健康スポーツ) 【昼】

担当者名 /Instructor 相羽 枝莉子 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE211M		◎			
科目名	地域創生実習指導Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

性差や年齢に応じてスポーツを工夫し、スポーツの楽しみ方を探ると共に自分自身やグループにおいてルールを考案することや、また、メンバーの意見や発表を聞く態度などにも重点を置き今後の実習の基礎となるものとする。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度(期末レポートを含む)：50%
積極的な演習や地域活動への参加：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。
学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

地域創生実習指導Ⅳ (健康スポーツ) 【昼】

キーワード /Keywords

健康、スポーツ、シニア体カアップ

地域創生実習指導Ⅳ (プロスポーツ) 【昼】

担当者名 /Instructor 相羽 枝莉子 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE211M		◎			
科目名	地域創生実習指導Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

地域のプロスポーツ団体と連携して、まちづくり、地域振興、健康増進など多様なテーマに取り組む。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度(期末レポートを含む).....50%
積極的な演習や地域活動への参加.....50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。
学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動することなく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

地域創生実習指導Ⅳ (プロスポーツ) 【昼】

キーワード /Keywords

コミュニティスポーツ、まちづくり、スポーツボランティア

地域創生実習指導Ⅳ (421Lab.) 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE211M		◎			
科目名	地域創生実習指導Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々との協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回

オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤上記以外で必要となる諸活動

第15回

振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

履修上の注意 /Remarks

センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自立的な学びに取り組んでもらいます。地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

地域創生実習指導IV (421Lab.) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、
忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

地域創生演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM211M	○	◎			
科目名	地域創生演習Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域創生に関する実践的理論を学びます。
 具体的には、自らの問題関心にそってテーマを設定し、社会学の視点から社会の現状を分析し、地域を創っていく道筋について考えていきます。
 取り扱う社会問題として、具体的には、ホームレス、シングルマザー、不登校の子ども、引きこもりがちな若者や高齢者、「移民」、LGBTなどへの社会的排除を考えています。これは担当者の専門に關係する領域です。ただし、社会問題は、これらに限られるわけではありません。共通の分析視角や方法を共有した上で、分析の対象とする社会現象については、自らの問題関心にそって設定してください。

教科書 /Textbooks

演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～5回 社会科学の方法論や認識論に関する文献を読み、社会現象を複眼的かつ社会的にとらえるための分析視角を身につけます。
- 6回～14回 自ら設定したテーマに関連する文献について、各自が「テキスト批評(文献の内容紹介、論点や問題の提起など)」を行い、全員での議論を通して理解を深めます。その上で、自分が興味・関心をもつ問題について「問い」を立て、文献や社会調査をもとにしながらゼミ論文・卒業論文を作成します。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
 積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には、文献等を熟読し、それらをまとめて議論に望んでください。
 授業後は、議論を踏まえて、自分の理解を高めるように復習してください。

履修上の注意 /Remarks

報告・議論をもとに授業をすすめますので、報告担当者はしっかりと準備してください。無断欠席は厳禁です。どうしても欠席せざるを得ない場合は、事前に担当教員に連絡してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域・社会には、さまざまな力が埋め込まれています。そうした重層的な力とその作用を明らかにしていきたいと考えています。ただ、さまざまな出来事が生じるメカニズムは複雑です。どうなっているのか、なぜそうなるのか、どうすればいいのか、なかなかわかりません。しかし、わからないことの周りを辛抱強くうろつきまわることが大切だと思います。自分の<頭>と<足>で、ともに考えていきましょう。

キーワード /Keywords

地域創生、社会学、都市

地域創生演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 演習 /Seminar クラス /Class 2年 /2nd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM211M	○	◎			
科目名	地域創生演習Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域創生に関する実践的理論を学びます。
 具体的には、地域に多くの人々が訪問することを促進し、それを具体的な地域活性化につなげるために必要な事項を検討していく際の基礎的な力を涵養することを目指します。特に、地域内外の人々の集客・交流の起点となる地域資源として、「スポーツ（プロスポーツや各種スポーツ大会などの“観るスポーツ”が中心）」、「文化財」、「各種イベント・観光施設」等に着目し、その社会的・経済的意義や負の側面等を分析・考察し、それらを踏まえた地域活性化に必要な政策等を学生が主体的に検討していきます。

教科書 /Textbooks

適宜、文献や資料を紹介していきます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、文献や資料を紹介していきます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～14回 スポーツや文化財等を活かしたまちづくり政策について
 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組み課題の達成度 … 50%
 積極的な演習への参加 … 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に、次回授業のテーマに関する文献・資料等を読むとともに、関連する情報を自身で調べて授業に臨んでください。また、課題が出た場合は必要な取り組みを行ってください。
 授業後は、授業内容を踏まえ、より深く知りたいことや疑問に思ったことを調べて理解を促進するとともに、次回以降の授業や「地域創生実践Ⅰ」の授業等に繋げてください。

履修上の注意 /Remarks

受講者自身、および受講者間での主体的な学びを重視します。発表やディスカッションが中心となるため、常に積極的な姿勢で臨んでください。
 グループで共同して取り組むことも多いため、遅刻、欠席をしないように気をつけてください（遅刻、欠席する場合は担当教員に事前連絡すること）。
 また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業と「地域創生演習Ⅱ」および「地域創生実践Ⅰ・Ⅱ」を連動させ、「理論の学習」、「事例の学習」、「実践活動を通じた現実の把握」、「調査分析の実施」、「様々な要素を考慮した政策の立案、プレゼンテーション」、「学生自身による評価（振り返り）」等を組み合わせて進めていきます。
 スポーツや文化財等を活かしたまちづくり政策や、関連する社会経済動向に常に幅広い関心を持ち続け、主体的に学び実践する姿勢を期待しています。

キーワード /Keywords

地域創生、スポーツ、文化、文化財、観光、政策

地域創生演習Ⅰ【昼】

担当者名 深谷 裕 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM211M	○	◎			
科目名	地域創生演習Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域創生に関する実践的理論を学びます。
具体的には、地域で暮らす人々の多様な生活史 / ライフストーリーの分析を通して、個人の人生や日々の暮らしと地域社会が互いにどのように作用し合っているのかを学びます。

教科書 /Textbooks

演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 授業の進め方、注意点の確認、概要説明
第2回～第14回 生活史や聞き取り調査について
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度・・・ 50%
積極的な演習への参加・・・ 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には、指定した文献等を熟読し、それらをまとめてディスカッションに臨んでください。
授業後は、ディスカッションを踏まえて、自分の理解を高めるように復習してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生、生活史、ライフヒストリー、ナラティブ

地域創生演習Ⅰ【昼】

担当者名 佐藤 貴之 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM211M	○	◎			
科目名	地域創生演習Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域創生に関する実践的理論を学びます。
具体的には、地域活動をゲーミフィケーションやシリアスゲームの観点から分析し、地域をよりよくする取り組みへの適用を目指します。また、ICTを活用した地域活性化についても検討を進めます。

教科書 /Textbooks

演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～14回 ゲームやICTを活用した地域活性化について
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には、指定した文献等を熟読し、それらをまとめて、ディスカッションに臨んでください。
授業後は、ディスカッションを踏まえて、自分の理解を高めるように復習してください。

履修上の注意 /Remarks

他の学生と共同で調査、議論、作業を行います。遅刻、欠席をしないように気をつけてください。どうしても遅刻、欠席せざるを得ない場合は、事前に担当教員に連絡してください。また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミの時間以外で学習する機会が多く、忙しくなります。
それでも頑張れる学生に履修してもらうことを期待しています。

キーワード /Keywords

地域創生、ゲーミフィケーション、ICT、モチベーション

地域創生演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM211M	○	◎			
科目名	地域創生演習Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域創生に関する実践的理論を学びます。
 教育や学校を取り巻く課題は、地域レベル、国家レベル、様々な問題を私たちに提示しています。2年次1学期の演習では、教育社会学のテキストを用い、教育社会学とは何か、どんな分野があるのか等、総論を確認していきます。また、自身と教育の関りや、興味関心についてまとめてもらいます。
 さらに、SDGsに関する実践活動の機会が増えてきますので、SDGsとは何かや教育との関係についても学びを深めていきます。
 加えて、高等学校を中心にいくつかの学校の実際の課題を受け、学生たち自身で授業を構築し、実践していただく機会を設けます。

教科書 /Textbooks

『新しい時代の教育社会学』 加野芳正・越智康詩編著 ミネルヴァ書房 2012年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありませんが、プロジェクトに関連する書籍、資料を積極的に読んでください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第01回 ガイダンス
 第02回～第14回 学びと振り返り
 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 … 50%
 積極的な演習への参加 … 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各人のタスクに必要な書籍を積極的に読んでください。
 また、一般社団法人 ピープラスが運営する『福岡カタリバ』の高等学校等での講義に参加して現場の課題等を体感してください。

履修上の注意 /Remarks

プレゼンテーションの機会を設けます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生、SDGs、ESD、キャリア教育

地域創生演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 内田 晃 / AKIRA UCHIDA / 地域戦略研究所

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM211M	○	◎			
科目名	地域創生演習Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域創生に関する実践的理論を学びます。
 テーマは交通に対する基礎的な理解を深めていく事です。実習活動を通じて学んだことをベースとして、都市の中で交通がどのような役割を果たしているのか、交通がどう変われば人々の生活の質が上がっていくのか、交通の質が変わることで必要なまちの形態はどのようなものかについて理解を深めていきます。その準備段階として都市の現状課題を分析するための「都市の読み方」の手法について学び、その応用力を試すためのレポートを課します。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、本の紹介や資料の配布をします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス（演習の目的や活動方針の説明）
- 第2回～第4回：「都市の読み方」基礎論、データ分析の手法
- 第5回～第8回：「都市の読み方」応用論、自分の出身地について都市分析を行い発表する
- 第9回～第14回：グループディスカッション
- 第15回：まとめ（次学期に向けての方針検討）

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度・・・50%
 積極的な演習への参加・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：前回講義で気になった課題については、各自で自主的に考え、次回以降に持ち越さないように解決する事。
 事後：講義内で気づいた点、書き取ったメモ等を踏まえて、次回以降に活用できる事を念頭に復習する事。

履修上の注意 /Remarks

正規の時間以外にもフットパス活動などゼミ全体で取り組むプロジェクトに参加することもあります。地域活動を実践していく上での技術力、コミュニケーション力、課題解決力など多くの事を学ぶことができます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学ぶフィールドは地域全体です。常に地域のあり方について意識し、楽しみながら課題を解決していきましょう。

キーワード /Keywords

地域創生、地域課題、地域解析

地域創生演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 小林 敏樹 / Toshiki Kobayashi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM211M	○	◎			
科目名	地域創生演習Ⅰ		<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域創生に関する実践的理論を学びます。
都市計画、まちづくりの基礎知識を習得するための文献の輪読、ディスカッションを中心に行う。
また、習得した知識をより深めるため、それらに関連したプロジェクト（ゼミ活動（地域創生実践I））等への積極的な参加を期待する。

教科書 /Textbooks

受講者の希望を踏まえ決定する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 輪読、ディスカッション
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 … 50%
積極的な演習への参加 … 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日々、まちづくりに関するニュース、話題等に関心を持ち、情報収集を心掛ける。
身近なまちや環境の変化を常に意識する。

履修上の注意 /Remarks

受講者の興味関心に応じて、授業の進め方、内容等を変更する可能性もある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

どんなことにも興味関心を持って、前向きに自発的に取り組むことを期待する。
まちづくりの実践活動にも積極的に取り組むことを期待する。

キーワード /Keywords

地域創生、都市計画、まちづくり、まちなかの再生、都市・地域の再生、まちづくりの組織・担い手、エリアマネジメント、福祉のまちづくり、子育てとまちづくり、ユニバーサルデザイン、交通まちづくり、都市の歴史、観光まちづくり、安心安全まちづくり

地域創生演習Ⅰ【昼】

担当者名 片岡 寛之 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM211M	○	◎			
科目名	地域創生演習Ⅰ			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域創生に関する実践的理論を学びます。
2年次のテーマは「まち、人、コトを知り、理解を深める」です。
ゼミで取り組む内容は以下の通りです。

- ・物事の本質をつかむ訓練
→事例調査と発表、動画視聴とディスカッション、近況報告スピーチ
- ・物事を分析するための基礎を学ぶ
→好きなもの研究、変なもの研究など
- ・まちづくりの方法論を学ぶ
→輪読、メルマガ購読、小商いに挑戦
- ・実習発表
→所属している実習での活動内容報告

加えて、ゼミで学んだ知識や理論をベースに実践活動を行います。
現時点での主な実践メニューとしては、サンロード魚町商店街における各種活動、地図あそび（ロゲイニング）の企画運営などです。そのほか、外部からの依頼を受けて随時活動メニューが増える可能性があります。

教科書 /Textbooks

適宜指示する予定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する予定。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【目標の共有】
- 2～13回 上述の内容を実施【プレゼン】【まちづくり】
- 14回 実習報告【振り返り】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前) 上述の内容に関する事前課題にしっかり取り組んでください。
事後) ゼミで受けた指摘をもとに、しっかりと復習してください。

履修上の注意 /Remarks

正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。
また、上記テーマに関連して、正規の授業時間外（土曜日や日曜日を含む）に地域活動やフィールドワークを実施すること等があります。
なお、ゼミの時間とは別に、週に1回、地域活動等に関するMTGを2～4年生合同で実施します。

地域創生演習I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大事にして欲しいこと7つ

- ①腹を決める
- ②思い切って挑戦する
- ③常に実践者であれ
- ④情熱と愛情を注ぐ
- ⑤謙虚な気持ちで動く
- ⑥自分の感覚を信じる
- ⑦感謝する

キーワード /Keywords

地域創生、経営からの地域再生、リノベーションまちづくり、都市解析

地域創生演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 西田 心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM211M	○	◎			
科目名	地域創生演習Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域創生に関する実践的理論を学びます。
具体的には、門司港地域を対象に魅力探し、議論の場づくりを検討し、地域をよりよくする取り組みを目指します。

教科書 /Textbooks

演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜必要な資料は配布します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～14回 魅力探しや議論の場づくりを通じた地域活性化について
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 … 50%
積極的な演習への参加 … 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

地域課題に関連する情報収集を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

前向きな参加を期待します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミの時間以外で学習する機会が多く、忙しくなります。それでも頑張れる学生に履修してもらうことを期待しています。

キーワード /Keywords

地域創生、門司港、商店街、観光地化

地域創生演習Ⅰ【昼】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
										○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM211M	○	◎			
科目名	地域創生演習Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域創生に関する実践的理論を学ぶ。
具体的には、以下の2つの事を柱に実施する。

① E・F・シューマッハー（1986）『スモールイズビューティフル』講談社学術文庫の輪読を行う。

論理的思考力、読解力を鍛えるとともに、現代社会の在り方や見方について考えを深める。

「豊かさとは何か」「社会はどうあるべきか」など、現代社会の根本的な問いについて、自身の意見や価値観を構築するとともに、基礎的なアカデミックスキルの獲得を目指す。

② 日本におけるフットパスを用いた地域活性化の実践と理論化

履修生全体で統一したテーマや目標を掲げ、それに向けた対象地においてフットパスの実践（フットパスづくり）を行いながら、フットパスが地域活性化に及ぼす効果やその理論について、実証的な基礎的研究をする。

各担当章を決め、レジュメを用意し担当者が報告した後にディスカッションを行う。

ともに教え合い、学ぶ姿勢が重要視される授業である。

なお、①・②ともに、本授業に参加するための事前準備を事前に必須条件として課すこととする。

①については、テキストの輪読、そしてレジュメ等の報告資料の作成等。

②については、フットパスづくりのためのメンバー間での情報共有のためのミーティングへの参加、そしてフットパスづくりにおける実践である。

教科書 /Textbooks

E・F・シューマッハー（1986）『スモールイズビューティフル』講談社学術文庫。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

平松紘（2002）『ウォーキング大国イギリス-フットパスを歩きながら自然を楽しむ-』明石書店。

神谷由紀子他（2014）『フットパスによるまちづくり 地域の小径を楽しみながら歩く(文化とまちづくり叢書)』水曜社。

地域創生演習I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：テキストの輪読・フットパスに関するグループディスカッション①
- 第3回：テキストの輪読②・フットパスに関するグループディスカッション②
- 第4回：テキストの輪読③・フットパスに関するグループディスカッション③
- 第5回：テキストの輪読④・フットパスに関するグループディスカッション④
- 第6回：テキストの輪読⑤・フットパスに関するグループディスカッション⑤
- 第7回：テキストの輪読⑥・フットパスに関するグループディスカッション⑥
- 第8回：テキストの輪読⑦・フットパスに関するグループディスカッション⑦
- 第9回：テキストの輪読⑧・フットパスに関するグループディスカッション⑧
- 第10回：テキストの輪読⑨・フットパスに関するグループディスカッション⑨
- 第11回：テキストの輪読⑩・フットパスに関するグループディスカッション⑩
- 第12回：テキストの輪読⑪・フットパスに関するグループディスカッション⑪
- 第13回：テキストの輪読⑫・フットパスに関するグループディスカッション⑫
- 第14回：テキストの輪読⑬・フットパスに関するグループディスカッション⑬
- 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

フットパスづくりの実践に必ず参加し、授業の事前学習とする。
また、その経験を言語化して十分なリフレクションを行う事を事後学習とする。

履修上の注意 /Remarks

※1：準備とは、自主的な調査への実施、積極的なフィールドワークへの参加、テキスト以外の専門書の輪読など、ゼミに参加するために必要な各自の事前準備の事を意味する。

上記の「成績評価の方法」に記してあるように、「授業時間に実施する報告・発表・振り返りを行う際の準備」を極めて高く評価する。つまり、本授業中に報告・ディスカッションするためには、授業時間外に自主学習として、丹念な準備作業が必要となることを理解すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習は「教え合い、学び合い」を理念として、互いの経験学習を共有することを重視する。そのため主体的にかつ積極的に「経験を積もうとすること」を強く推奨し、成績評価の際に必要な指標の軸とする。

キーワード /Keywords

地域創生、経験学習、学びの共有、学術的雑談

地域創生演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年 /Credits 2単位 /Semester 1学期 / 1学期 /Class Format 演習 / クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM211M	○	◎			
科目名	地域創生演習Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

ゼミでチームを組んで進めていくうえでチームの相互理解や情報の共有を保ちながら問題を解決していくことや新たな発想を創造していくために必要な考え方や行動を学ぶ。
1学期にはシニア向け健康づくり教室も行います。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜必要な資料は配布する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 オリエンテーション
2回～14回 発表とディスカッション
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中の達成度や協力する姿勢 50%
積極的な参加 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと
授業後はディスカッションを踏まえて自分の理解を深めるように復習してください

履修上の注意 /Remarks

議論や作業も行います。遅刻や欠席をしないように気をつけて下さい

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

時間外での作業なども多くなり忙しくなります。
それでも頑張ってやれる学生に履修してもらうことを期待しています

キーワード /Keywords

地域創生・協調

地域創生演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM211M	○	◎			
科目名	地域創生演習Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域創生に関する実践的理論を学びます。
具体的には、実習で浮上してきたさまざまな問題をゼミの場に提示し、議論を通じながらその解決方法について考えていく。本ゼミでは、チームワークやコミュニケーションを重視し、学習していく。また、各自順番に発表を行い、プレゼンテーション能力の向上も目指す。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回～14回 発表とディスカッション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 50%
積極的な演習への参加 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に、演習内容の確認を行うこと。また演習後は、他人の発言等も踏まえ、自分自身に取り込んでいこう復習すること。演習で出された課題にも文献等調べ、取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生、チームワーク

地域創生演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM212M	○	◎			
科目名	地域創生演習Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域活動や演習で経験した事柄や問題を持ち帰り、ディスカッションを通じて、問題解決の糸口を見つけることを目指します。具体的には、地域創生演習Iで設定した問題について理論的、実証的に考えていきます。

教科書 /Textbooks

演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～14回 自ら設定したテーマに関連する文献について、各自が「テキスト批評（文献の内容紹介、論点や問題の提起など）」を行い、全員での議論を通して理解を深めます。
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には、文献等を熟読し、それらをまとめて議論に望んでください。
授業後は、議論を踏まえて、自分の理解を高めるように復習してください。

履修上の注意 /Remarks

報告・議論をもとに授業をすすめますので、報告担当者はしっかりと準備してください。無断欠席は厳禁です。どうしても欠席せざるを得ない場合は、事前に担当教員に連絡してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域・社会には、さまざまな力が埋め込まれています。そうした重層的な力とその作用を明らかにしていきたいと考えています。ただ、さまざまな出来事が生じるメカニズムは複雑です。どうなっているのか、なぜそうなるのか、どうすればいいのか、なかなかわかりません。しかし、わからないことの周りを辛抱強くうろつきまわることが大切だと思います。自分の<頭>と<足>で、ともに考えていきましょう。

キーワード /Keywords

地域創生、社会学、都市

地域創生演習II 【昼】

担当者名 南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM212M	○	◎			
科目名	地域創生演習II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域活動や演習で経験した事柄や問題を持ち帰り、ディスカッションを通じて、問題解決の糸口を見つけることを目指します。具体的には、地域に多くの人々が訪問することを促進し、それを具体的に地域活性化につなげるために必要な事項を検討していく際の基礎的な力を涵養することを目指します。特に、地域内外の人々の集客・交流の起点となる地域資源として、「スポーツ（プロスポーツや各種スポーツ大会などの“観るスポーツ”が中心）」、「文化財」、「各種イベント・観光施設」等に着目し、その社会的・経済的意義や負の側面等を分析・考察し、それらを踏まえた地域活性化に必要な政策等を学生が主体的に検討していきます。最終的には、実践的な政策立案や政策評価、主体的に行動する力の育成を図ります。

教科書 /Textbooks

適宜、文献や資料を紹介していきます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、文献や資料を紹介していきます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～14回 スポーツや文化財等を活かしたまちづくり政策について
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 … 50%
積極的な演習への参加 … 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に、次回授業のテーマに関する文献・資料等を読むとともに、関連する情報を自身で調べて授業に臨んでください。また、課題が出た場合は必要な取り組みを行ってください。
授業後は、授業内容を踏まえ、より深く知りたいことや疑問に思ったことを調べて理解を促進するとともに、次回以降の授業や「地域創生実践II」の授業等に繋げてください。

履修上の注意 /Remarks

受講者自身、および受講者間での主体的な学びを重視します。発表やディスカッションが中心となるため、常に積極的な姿勢で臨んでください。
グループで共同して取り組むことも多いため、遅刻、欠席をしないように気をつけてください（遅刻、欠席する場合は担当教員に事前連絡すること）。
また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「地域創生演習I」および「地域創生実践I」を踏まえ、本授業と「地域創生実践II」を連動させ、「理論の学習」、「事例の学習」、「実践活動を通じた現実の把握」、「調査分析の実施」、「様々な要素を考慮した政策の立案、プレゼンテーション」、「学生自身による評価（振り返り）」等を組み合わせて進めていきます。
スポーツや文化財等を活かしたまちづくり政策や、関連する社会経済動向に常に幅広い関心を持ち続け、主体的に学び実践する姿勢を期待しています。

キーワード /Keywords

地域創生、スポーツ、文化、文化財、観光、政策

地域創生演習Ⅱ【昼】

担当者名 深谷 裕 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM212M	○	◎			
科目名	地域創生演習Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域活動や演習で経験した事柄や問題を持ち帰り、ディスカッションを通じて、問題解決の糸口を見つけることを目指します。個人の課題を地域の課題として捉え直す視点の涵養がねらいです。

教科書 /Textbooks

演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の進め方、注意点の確認、概要説明
- 第2回～第14回 生活史や聞き取り調査について
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度・・・50%
積極的な演習への参加・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には、指定した文献等を熟読し、それらをまとめてディスカッションに臨んでください。
授業後は、ディスカッションを踏まえて、自分の理解を高めるように復習してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生、生活史、ライフヒストリー、ナラティブ

地域創生演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 貴之 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM212M	○	◎			
科目名	地域創生演習II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域活動や演習で経験した事柄や問題を持ち帰り、ディスカッションを通じて、問題解決の糸口を見つけることを目指します。最終的には、今後の研究実践活動を行なう上での有用性の検討が可能になることを目指します。

教科書 /Textbooks

演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～14回 ゲームやICTを活用した地域活性化について
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には、指定した文献等を熟読し、それらをまとめて、ディスカッションに臨んでください。
授業後は、ディスカッションを踏まえて、自分の理解を高めるように復習してください。

履修上の注意 /Remarks

他の学生と共同で調査、議論、作業を行います。遅刻、欠席をしないように気をつけてください。どうしても遅刻、欠席せざるを得ない場合は、事前に担当教員に連絡してください。また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミの時間以外で学習する機会が多く、忙しくなります。
それでも頑張れる学生に履修してもらおうことを期待しています。

キーワード /Keywords

地域創生、ゲーミフィケーション、ICT、モチベーション

地域創生演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM212M	○	◎			
科目名	地域創生演習Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域活動や演習で経験した事柄や問題を持ち帰り、ディスカッションを通じて、問題解決の糸口を見つけることを目指します。2年次2学期の演習では、昨今の教育改革の動きを確認しながら、自分自身が興味を持った教育実践事例や学校運営事例等について調べ発表します。また、SDGsに関する実践活動の機会が増えてきますので、SDGsとは何かや教育との関係についても学びを深めていきます。加えて、1学期に引き続き、教育現場での実践を行っていただきます。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありませんが、プロジェクトに関連する書籍、資料を積極的に読んでください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第01回 ガイダンス
第02回～第14回 学びと振り返り
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 … 50%
積極的な演習への参加 … 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各人のタスクに必要な書籍を積極的に読んでください。
また、一般社団法人ピープラスが運営する『福岡カトリバ』の高等学校等での講義に参加して現場の課題等を体感してください。

履修上の注意 /Remarks

実践事例を調べるためには、単に情報をまとめるだけではいけません。類似事例との比較、政策との関連、事例の独自性等々、トピックを丹念に抑える必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生、SDGs、ESD、キャリア教育

地域創生演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 内田 晃 / AKIRA UCHIDA / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM212M	○	◎			
科目名	地域創生演習II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域活動や演習で経験した事例や問題を持ち帰り、ディスカッションを通じて、問題解決の糸口を見つけることを目指します。

テーマは交通に対する基礎的な理解を深めていく事です。実習活動を通じて学んだことをベースとして、都市の中で交通がどのような役割を果たしているのか、交通がどう変われば人々の生活の質が上がっていくのか、交通の質が変わること必要なまちの形態はどのようなものか、などについて既往文献や研究論文を輪読することで理解を深めていきます。さらに次年度以降に各自が本格的に取り組む卒業論文のテーマについて各自が頭出しをし、受講生全員で議論します。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 藤井聡他(2015)『モビリティをマネジメントする コミュニケーションによる交通戦略』
- 中村文彦(2016)『バスでまちづくり-都市交通の再生をめざして』
- など

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス(演習の目的や活動方針の説明)
- 第2回～第11回：参考文献の輪読・グループディスカッション
- 第12回～第14回：卒論テーマの頭出し
- 第15回：まとめ(次学期に向けての方針検討)

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度・・・50%
積極的な演習への参加・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：前回講義で気になった課題については、各自で自主的に考え、次回以降に持ち越さないように解決する事。
事後：講義内で気づいた点、書き取ったメモ等を踏まえて、次回以降に活用できる事を念頭に復習する事。

履修上の注意 /Remarks

正規の時間以外にもフットパス活動などゼミ全体で取り組むプロジェクトに参加することもあります。地域活動を実践していく上での技術力、コミュニケーション力、課題解決力など多くの事を学ぶことができます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業論文提出は目の前です。自分がどのような問題意識を持ち、仮説を唱え、それを実証していくか、ということの日頃から考えながら演習活動に取り組んでください。

キーワード /Keywords

地域創生、都市交通、モビリティマネジメント

地域創生演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 小林 敏樹 / Toshiki Kobayashi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM212M	○	◎			
科目名	地域創生演習Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域活動や演習で経験した事柄や問題を持ち帰り、ディスカッションを通じて、問題解決の糸口を見つけることを目指す。都市計画、まちづくりの基礎知識を習得するための文献の輪読、ディスカッションを中心に行う。また、習得した知識をより深めるため、それらに関連したプロジェクト（ゼミ活動（地域創生実践Ⅱ））等への積極的な参加を期待する。

教科書 /Textbooks

受講者の意向を踏まえ決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 輪読、ディスカッション
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 … 50%
積極的な演習への参加 … 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日々、まちづくりに関するニュース、話題等に関心をもち情報収集を心掛ける。
身近なまちや環境の変化を常に意識する。

履修上の注意 /Remarks

受講者の興味関心に応じて、授業の進め方、内容等を変更する可能性もある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

どんなことにも興味関心を持って、自発的に取り組むことを期待する。
まちづくりの実践活動にも積極的に取り組むことを期待する。

キーワード /Keywords

地域創生、都市計画、まちづくり、まちなかの再生、都市・地域の再生、まちづくりの組織・担い手、エリアマネジメント、福祉のまちづくり、子育てとまちづくり、ユニバーサルデザイン、交通まちづくり、都市の歴史、観光まちづくり、安心安全まちづくり

地域創生演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 片岡 寛之 / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM212M	○	◎			
科目名	地域創生演習Ⅱ			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域創生に関する実践的理論を学びます。
2年次のテーマは「まち、人、コトを知り、理解を深める」です。
ゼミで取り組む内容は以下の通りです。

- ・物事の本質をつかむ訓練
→事例調査と発表、動画視聴とディスカッション、近況報告スピーチ
- ・まちづくりの方法論を学ぶ
→輪読、メルマガ購読、小商いに挑戦
- ・リノベーションまちづくりの最前線を体感する
→フィールドワーク、リノベーションスクール
- ・実習発表
→所属している実習での活動内容報告

加えて、ゼミで学んだ知識や理論をベースに実践活動を行います。
現時点での主な実践メニューとしては、サンロード魚町商店街における各種活動、地図あそび（ロゲイニング）の企画運営などです。そのほか、外部からの依頼を受けて随時活動メニューが増える可能性があります。

教科書 /Textbooks

適宜指示する予定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

清水義次「リノベーションまちづくり」
木下斉「稼ぐまちが地方を変える」
嶋田洋平「ぼくらのリノベーションまちづくり」
馬場正尊「エリアリノベーション」

ほか、適宜指示する予定。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 オリエンテーション【目標の共有】
2～13回 上述の内容を実施【プレゼン】【まちづくり】
14回 実習報告【振り返り】
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前) 上述の内容に関する事前課題にしっかり取り組んでください。
事後) ゼミで受けた指摘をもとに、しっかりと復習してください。

地域創生演習II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。
また、上記テーマに関連して、正規の授業時間外（土曜日や日曜日を含む）に地域活動やフィールドワークを実施すること等があります。
なお、ゼミの時間とは別に、週に1回、地域活動等に関するMTGを2～4年生合同で実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大事にして欲しいこと7つ

- ①腹を決める
- ②思い切って挑戦する
- ③常に実践者であれ
- ④情熱と愛情を注ぐ
- ⑤謙虚な気持ちで動く
- ⑥自分の感覚を信じる
- ⑦感謝する

キーワード /Keywords

地域創生、経営からの地域再生、リノベーションまちづくり、都市解析

地域創生演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 西田 心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM212M	○	◎			
科目名	地域創生演習Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域活動や演習で経験した事柄や問題を持ち帰り、ディスカッションを通じて、問題解決の糸口を見つけることを目指します。最終的には、今後の研究実践活動を行なう上での有用性の検討が可能になることを目指します。

教科書 /Textbooks

演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～14回 地域の魅力探しや議論の場づくりを通じた地域活性化について
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には、指定した文献等を熟読し、それらをまとめて、ディスカッションに臨んでください。授業後は、ディスカッションを踏まえて、自分の理解を高めるように復習してください。

履修上の注意 /Remarks

他の学生と共同で調査、議論、作業を行います。遅刻、欠席をしないように気をつけてください。どうしても遅刻、欠席せざるを得ない場合は、事前に担当教員に連絡してください。また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

前向きな参加を期待します。
ゼミの時間以外で学習する機会が多く、忙しくなります。それでも頑張れる学生に履修してもらうことを期待しています。

キーワード /Keywords

地域創生、門司港地域、商店街、観光地化

地域創生演習II 【昼】

担当者名 廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM212M	○	◎			
科目名	地域創生演習II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域活動や演習で経験した事柄や問題を持ち帰り、ディスカッションを通じて、問題解決の糸口を見つけることを目指します。

また、「地域創生基礎演習C」において各自の設定した課題やテーマに対し、より深めて学習することを目的とする。はそのために、以下の2つの事を柱に実施する。

①各自テーマを設定し、「文章修業」を実施する。
つまり、自分で本を一冊選び、その本の内容の解説、それに対する自分の意見（特に批判的思考力の向上を目指す）をまとめる。文章作成能力と専門書の読解力の向上を目指す。
受講生が自らテーマを設定し、資料を集め自主的に学習できるようになることを目指す。

②日本におけるフットパスを用いた地域活性化の実践と理論化を通じた「地域活性化モデルの仮説づくり」。
履修生全体で統一したテーマや目標を掲げ、それに向けた対象地においてフットパスの実践（フットパスづくり）を行いながら、フットパスが地域活性化に及ぼす効果やその理論について、実証的な応用研究をする。

各担当章を決め、レジュメを用意し担当者が報告した後にディスカッションを行う。
ともに教え合い、学ぶ姿勢が重要視される授業である。

なお、①・②ともに、本授業に参加するための事前準備を事前に必須条件として課すこととする。

①については、各自の興味ある分野の書籍の読書、そしてレジュメ等の報告資料の作成等。

②については、フットパスづくりのためのメンバー間での情報共有のためのミーティングへの参加、そしてフットパスづくりにおける実践である。

教科書 /Textbooks

受講生の設定する課題を鑑み、適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生の設定する課題を鑑み、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：授業内容についての紹介（イントロダクション）
第2回～第14回：各自の設定したテーマに基づいた報告と議論・フットパスに関するグループディスカッション
第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%

積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

フットパスづくりの実践に必ず参加し、授業の事前学習とする。

また、その経験を言語化して十分なりフレクシオンを行う事を事後学習とする。

地域創生演習II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

※1：準備とは、自主的な調査への実施、積極的なフィールドワークへの参加、テキスト以外の専門書の輪読など、ゼミに参加するために必要な各自の事前準備の事を意味する。

上記の「成績評価の方法」に記してあるように、「授業時間を実施する報告・発表・振り返りを行う際の準備」を極めて高く評価する。つまり、本授業中に報告・ディスカッションするためには、授業時間外に自主学習として、丹念な準備作業が必要となることを理解すること。

そのため、フットパスづくりの実践や輪読するテキストに関連する書籍等を主体的にかつ積極的に行うことを強く推奨する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習は「教え合い、学び合い」を理念として、互いの経験学習を共有することを重視する。そのため主体的にかつ積極的に「経験を積もうとすること」を強く推奨し、成績評価の際に重要な指標の軸とする。

キーワード /Keywords

地域創生、探究学習、経験学習、互惠的学習、学術的雑談

地域創生演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM212M	○	◎			
科目名	地域創生演習II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

地域創生基礎演習Dでは卒業論文・卒業実践報告の作成にむけ、どのようにテーマを見つけていくのか。また、文献調査や関係者からの聞き取り調査などを行う。

1・2学期中にシニア向け健康づくり教室をそれぞれ行います。

教科書 /Textbooks

資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 関心のある事例をあげてみる
- 2回 スポーツ指導者について
- 3回 スポーツをととした地域貢献について 1
- 4回 スポーツをととした地域貢献について 2
- 5回 スポーツをととした地域貢献について 3
- 6回 スポーツ実施者の問題点について 1
- 7回 スポーツ実施者の問題点について 2
- 8回 スポーツ実施者の問題点について 3
- 9回 データの収集 1
- 10回 データの収集 2
- 11回 データの収集 3
- 12回 データの分析 1
- 13回 データの分析 2
- 14回 データの分析 3
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度・・・ 50%
積極的な演習への参加・・・ 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと
授業後はディスカッションを踏まえて、自分の理解を高めるように復習してください

履修上の注意 /Remarks

配布されたプリント等は毎回持参すること
議論や作業を行います。遅刻、欠席の無いように気をつけて下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

頑張れる学生に履修してもらうことを期待しています

キーワード /Keywords

地域創生・協調

地域創生演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 演習 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM212M	○	◎			
科目名	地域創生演習Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域活動や演習で経験した事柄や問題を持ち帰り、ディスカッションを通じて、問題解決の糸口を見つけることを目指します。最終的には、卒業論文作成に向け、各自テーマを見つけ、それぞれ調査を実施する。調査したものを発表し、全員で討論を行う。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 論文の書き方
- 3回～7回 データの収集・分析
- 8回～9回 発表・討論
- 10回～12回 データの収集・分析
- 13回～14回 発表・討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 50%
演習への積極的な参加 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に、演習内容の確認を行うこと。また演習後は、他人の発言等も踏まえ、自分自身に取り込んでいこう復習すること。演習で出された課題にも文献等調べ、取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生

地域創生論1 (まちづくりマネジメント) 【昼】

担当者名 /Instructor 片岡 寛之 / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE100M	◎				
科目名	地域創生論 1		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

この講義のテーマは「経営からまちづくりを考える」です。

まちづくりの活動を行う際に直面する5つの悩み（①何をしたらよいかわからない、②どう実行したら成果が出るのかわからない、③実行する人がいない、④手元に予算がない、⑤常に時期が遅れる）を解消するために、「まち=1つの会社」、「まちづくり=事業」として捉え、経営的視点からまちづくりについて考えることを狙いとしています。

教科書 /Textbooks

とくになし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 木下斉「まちづくりの「経営力」養成講座」※この本の内容を中心に講義を進めるので、購入することが望ましい。
 木下斉「凡人のための地域再生入門」※購入することが望ましい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス
→これからの地域創生について、講義の狙いと成績評価について、参考書の説明、受講上の注意 等
- 第2回：論理的思考の重要性
→論理性、因果関係、構造化
- 第3回：戦略なきまちづくりからの脱却
→戦略の必要性、戦略立案のための4ステップ
- 第4回：事業を取り巻く外的環境の分析
→まちづくりの顧客、競合の見極め、優位な供給、規制への対応、情報収集
- 第5回：事業を進める組織の内的環境の分析
→経営資源の見極め、事業システムの設計
- 第6回：まちづくりにおける目標設定
→目標の意味、目標設定の方法
- 第7回：まちづくりにおける戦略立案
→戦略の役割、戦略立案の方法、まちづくり事業の育成
- 第8回：前半の復習
- 第9回：まちづくり組織の設計
→事業に適した組織づくり、組織の責任と権限、様々な組織形態
- 第10回：まちづくり組織の運営
→人が生きる組織、社会的責任、パートナーシップ
- 第11回：まちづくりとお金①
→事業サイクルの法則、資金調達、事業への投資
- 第12回：まちづくりとお金②
→適正利益の確保、シミュレーション、予算管理)
- 第13回：計画を着実に実行するために(留意点、まちづくりプロジェクト5カ条、プロジェクトデザインと評価)
- 第14回：外部講師による特別講義(これからの地域創生について)
- 第15回：まとめ

地域創生論1 (まちづくりマネジメント) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義に取り組む姿勢 + 小テスト (50%) ※遅刻厳禁です
期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習) 参考図書該当箇所を事前に読み、その内容についての疑問点を明確にしておく。
事後学習) 講義で学んだ内容について復習するとともに、重要だと思った方法論を日頃の活動に取り入れてみる。

その際、講義内容について、日頃行っている自分自身の活動に置き換えて考えるようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域創生学群における学びのベースとなる必修科目の1つです。

日頃の実習活動等に活かすことのできる内容が散りばめられているので、事業と地域活動の違いや共通点について意識しながら受講してください。そして、実習活動等で実際に試してみてください。

特に、チャレンジプログラムへの挑戦を視野に入れている人には必須の内容です。

キーワード /Keywords

まちづくり、事業、経営

地域創生論2 (スポーツ指導論) 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE101M	◎				
科目名	地域創生論 2			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

スポーツの考え方を明らかにし、スポーツを文化としてとらえることの重要性について理解を深め、スポーツ指導者として求められる役割などを学習する。初めてスポーツに出会う子供をはじめ、どの年代からでも生涯を通じて楽しむ方法や機会を提供するとともに、人間としてのマナーやエチケットなどを学習する。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スポーツ技術・戦術以外のスポーツ文化的な内容(ルール、マナー、エチケット)カナダのフェアプレー委員会とは
- 2回 21世紀のスポーツ指導者像とは(ジョン・ウッデンに学ぶ)
- 3回 スポーツ指導の心構え(法的知見を含む)
- 4回 世界の舞台をめざすアスリートの発掘・育成の重要性と指導者の役割
- 5回 救急処置
- 6回 指導計画の立て方
- 7回 スポーツ活動と安全管理
- 8回 指導者の法的責任
- 9回 スポーツと人権
- 10回 スポーツ活動中に多いけがや病気
- 11回 新たなスポーツ環境とスポーツ指導者
- 12回 これからのスポーツ振興の方向性
- 13回 部活動とスポーツ指導者(指導の行き過ぎから起こる問題点)
- 14回 日本武道の必要性(抑制の美とは)
- 15回 地域スポーツクラブとスポーツ指導

成績評価の方法 /Assessment Method

受講態度... 50%
まとめ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと
授業後はさらに文献等で復習すること

履修上の注意 /Remarks

オリンピックを国民あげて支えていくうえで、スポーツの理解は大変重要です。スポーツの正しい理解を学びましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スポーツは世界共通のルールで繋がっている。
日本で活躍する外国人アスリートや世界で活躍する日本人アスリートの活躍などを盛り込みながら授業を進めていきます。

キーワード /Keywords

オリンピック・パラリンピック・フェアプレー・

地域創生論3 (福祉環境デザイン論) 【昼】

担当者名 /Instructor 内田 晃 / AKIRA UCHIDA / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE102M	◎				
科目名	地域創生論3		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本講義では、成熟社会におけるまちづくりのあり方を、広く福祉・環境の側面から捉え、公共空間、住宅、交通施設などを対象に、バリアフリーや環境に配慮したデザインの背景、意義及びその手法についての基礎的知識を学ぶことを目的とします。建築・土木の専門用語も多数出てきますが、国内外の事例を交えながら分かりやすく概説します。

教科書 /Textbooks

なし (適宜、レジュメや参考資料を配付)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 田中直人編『福祉のまちづくりキーワード事典』学芸出版社
- 土木学会編『日本の交通バリアフリー理解から実践へ』学芸出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (福祉環境デザインとは) 【バリアフリー】、【ユニバーサルデザイン】
- 2回 人間の行動能力と空間【障がい者】、【高齢者】
- 3回 公共空間のデザインI (道路、歩道、広場等) 【有効幅員】、【段差】、【勾配】
- 4回 公共空間のデザインII (公共施設、商業施設等) 【ハートビル法】、【多機能トイレ】
- 5回 北九州市におけるバリアフリーのまちづくり
- 6回 居住空間のデザイン【ライフスタイル】、【バリアフリー住宅】
- 7回 情報機能のデザイン【サイン】、【情報案内】、【色と光】
- 8回 公共交通のデザインI (交通施設) 【交通バリアフリー法】、【駅】
- 9回 公共交通のデザインII (車両) 【交通バリアフリー法】、【交通システム】、【LRT】
- 10回 ドイツにおける持続可能なまちづくり【カーシェアリング】
- 11回 地域運営手法による住民自らのまちづくり【まちづくり協議会】、【維持管理】
- 12回 自転車まちづくり【サイクルシェアリング】、【自転車分担率】
- 13回 ユニバーサルデザインのトピックス【カラーユニバーサルデザイン】、【UDフード】
- 14回 レポート発表会(1)
- 15回 レポート発表会(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポートで評価します。提出したレポートを全員の前で発表をしてもらいます。相互のディスカッションを期待します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

福祉のまちづくりに関する情報は皆さんが生活している市街地の中に溢れています。講義で習得した情報を常に意識しながらまちを観察してください。課題がありそうな箇所を見つけた場合は、自らで解決方を考えてみてください。

履修上の注意 /Remarks

授業への積極的参加を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生論5 (教育社会学) 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE104M	◎				
科目名	地域創生論 5		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

教育や学校を取り巻く問題は、地域レベル、国家レベル、世界レベルで様々な課題を私たちに提示しています。教育に関する課題を解決することで、問題が解決することも少なくないはずですが、この授業では、まず、教育社会学に関する文献を用い、教育社会学とは何か、どんな分野があるのか等、総論を確認していきます。そして、教育社会学に関するいくつかのトピックスを掘り下げていきます。

教科書 /Textbooks

教科書は特に指定しません。適宜文献等を紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『新しい時代の教育社会学』 加野芳正・越智康詩編著 ミネルヴァ書房 2012年
- 『教育の社会学』 刈谷剛彦他著 有斐閣 2000年
- 『持続可能な発展の教育学』 鈴木敏正著 東洋館出版社 2013年
- 『SDGsの基礎』 沖大幹他著 事業構想大学院大学出版部 2018年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 ガイダンス
- 第02回 教育社会学概論
- 第03回 地域の教育諸問題①
- 第04回 地域の教育諸問題②
- 第05回 地域の教育諸問題③
- 第06回 現在の教育改革の諸相①
- 第07回 現在の教育改革の諸相②
- 第08回 現在の教育改革の諸相③
- 第09回 ESD(Education for Sustainable Development)①
- 第10回 ESD②
- 第11回 ESD③
- 第12回 SDGs(Sustainable Development Goals)と教育①
- 第13回 SDGsと教育②
- 第14回 SDGsと教育③
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み状況...60%、授業での成果物...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

この授業では予習が必須となります。次回授業のレジュメと課題を提示します。各自の宿題を持ち寄り学びあいを展開します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

子ども、学校教育、社会教育、生涯教育、家庭教育、幼児教育、教育格差、教育改革、文部科学省、国連、ESD、SDGs

地域創生論10 (地域文化論) 【昼】

担当者名 廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE114M	◎				
科目名	地域創生論10			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

地域創生学群では多くの場面で、地域活性化やまちづくりといった活動を行う機会が多い。その際、衰退しつつある地域社会において、他の地域に多く存在する財やサービスを提供しても意味がない。つまり、地域社会特有の「地域らしさ」をアピールする必要がある。その際、着目されるのが「地域文化」である。地域文化をいかに活用することによって、地域社会が良い方向に発展するのか、地域文化のあり方について再考するのが、本授業の1つの目的である。

もう一つは、地域社会に対する多様性の問題についての検討である。近年、社会が均質化していくことによって、特定の考え方や行動が一般のと思われ、異質な行動をとる者、異なる価値観を有する者等を地域社会から排除しようとするところがある。かつて、日本における伝統的社会においては、地域それぞれに根差した地域文化が存在し、多様性を確保していたが、価値観や考え方が近年均質化してきている。本授業では、地域文化という視点から、多様な価値観を有する社会についての考察を行うこととする。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 なぜ地域文化を学ばなければならないのか？
- 第3回 地域文化は必要か - 地域づくり・まちづくりにおける2つの手法 -
- 第4回 新たな地域文化の創造 - 新たな「まち」を作る手法 -
- 第5回 地域資源を文化として利用する
- 第6回 川の文化と社会的弱者の排除①
- 第7回 川の文化と社会的弱者の排除②
- 第8回 川の文化と社会的弱者の排除③
- 第9回 地域社会の多様性を保つための地域文化
- 第10回 世界基準と日本の固有性
- 第11回 地域文化の保全と社会的包摂
- 第12回 まちづくりと食文化
- 第13回 総括と復習
- 第14回 レポート試験 (※レポート試験の日程は前後する可能性があります。)
- 第15回 おわりに

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的参加姿勢：20%
不定期に行う試験(レポート試験も含む)：80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に示された自宅で行う課題(宿題)について、自分で調べ、小レポートとして提出して頂く。

履修上の注意 /Remarks

地域創生論10 (地域文化論) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業は「文化」という名称がついているが、芸術や宗教、芸能、民話等には言及しないため、気を付けていただきたい。
また、本授業では地域文化とは何か？という本質的な「文化論」ではなく、「なぜ地域文化が必要なのか？」という点に重きを置いている。
つまり、地域文化を活用すること、または地域文化を生かすことで社会がどのように変化していくのかについて、詳細な解説を行うものである。

キーワード /Keywords

地域創生論11 (ゲーミフィケーション) 【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 貴之 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE115M	◎				
科目名	地域創生論11			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

地域創生には、様々な領域の学問によるアプローチが必要です。この授業では、ゲーミフィケーションを取り上げます。なぜ地域創生にゲーミフィケーションが必要と考えているのか、ゲーミフィケーションとは何か、ゲーミフィケーションを活用する手法について学習します。また、シリアスゲームについても触れていきたいと考えています。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ケビン・ワーバック、ダン・ハンター、『ウォートン・スクール ゲーミフィケーション集中講義』、阪急コミュニケーションズ

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 ゲームとは何か
- 3回 ゲーミフィケーションとは何か
- 4回 ゲーム活用のメリット
- 5回 モチベーション(1)【内発的動機づけ】
- 6回 モチベーション(2)【自己決定理論】
- 7回 モチベーション(3)【フロー】
- 8回 中間まとめ
- 9回 ゲームの要素(1)【PBL】
- 10回 ゲームの要素(2)【ダイナミクス】【メカニクス】
- 11回 ゲームシンキング
- 12回 ゲームデザイン
- 13回 ゲーミフィケーションの実践
- 14回 失敗やリスクを避けるには
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題...50%
積極的な授業参加...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前：Moodleの授業資料を読み込んでおくこと
授業後：授業内容を踏まえて、実際の地域や活動で現象を説明すること

履修上の注意 /Remarks

授業への遅刻は厳禁です。時間や締め切りは必ず守ってください。
受講者の学習状況により、内容が若干、変更される場合があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

座学になりますが、授業を前向きに聴き、高いモチベーションで受講してください。

キーワード /Keywords

ゲーミフィケーション、シリアスゲーム、モチベーション、地域活性化

地域創生論13 (キャリア学概論) 【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE117M	◎				
科目名	地域創生論13			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

<目的> 代表的なキャリアに関する理論やモデルを学び、地域創生学群の活動を、自らのキャリア形成に繋がります。

本授業の目的は2つ。

- 幅広い視野・柔軟性の獲得
- 失敗を恐れない志向性の獲得

そしてそのプロセスにおいて、学習意欲の喚起やプレゼンテーション能力も獲得します。

<進め方> 形式は問題基盤型学習 (Problem-based-Learning) です。グループ単位で授業を進めます。

【個人課題】動画セッション

あらかじめ視聴する動画を指示しますので、各自以下の2点についてまとめておいてください。

- 動画から学んだこと、
 - その学びを学群の実習や演習にどう活かすか？
- 期間は1週間です。

【グループ課題】シナリオセッション

課題に対し、グループで問題解決のストーリーを考え、役割分担をします。

役割は、1. 文献収集、2. 物語を練る、3. パワポ作成、4. 発表練習も含めた管理など。

授業でパワーポイントを使ってプレゼンします。発表は全員で行ってください。期間は2週間です。

【フィールドワーク課題】フィールドワークセッション

最終プレゼンテーションの課題です。学びたいことを決めて、取材先を決め、取材し、

取材したからこそ理解したことを、最終授業でプレゼンします。期間は3カ月です。

<目標> 地域創生学群の活動を自らのキャリア形成につなげる理論を学び、それを日々実践することによって、本授業の目的とする2つの力を身に付け、地域創生学群における活動を、自らが輝ける豊かな将来のつなげるようにデザインすること。

教科書 /Textbooks

なし。資料を随時配布します。

地域創生論13 (キャリア学概論) 【昼】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 課題を解く時に参考にしてください。
- キャロル S.ドゥエック 『「やればできる!」の研究-能力を開花させるマインドセットの力』 草思社
 - 金井寿宏 『働くひとのためのキャリア・デザイン』 PHP研究所
 - 金井寿宏 『リーダーシップ入門』 日本経済新聞社
 - 渡辺三枝子 『新版キャリアの心理学』 ナカニシヤ出版
 - エドガー・H.シャイン 『キャリア・アンカー 自分のほんとうの価値を発見しよう』 白桃書房
 - 中原淳ほか 『企業内人材育成入門』 ダイアモンド社
 - 中原淳・長岡健 『ダイアローグ 対話する組織』 ダイアモンド社
 - 高尾隆・中原淳 『Learning×Performance インプロする組織 予定調和を超え、日常をゆさぶる』 三省堂
 - モーガン・マッコール 『ハイフライヤー 次世代リーダーの育成法』 プレジデント社
 - 香取一昭・大川恒 『ワールド・カフェをやろう!』 日本経済新聞出版社
 - 松尾睦 『「経験学習」入門』 ダイアモンド社
 - 児美川孝一郎 『キャリア教育のウソ』 筑摩書房
 - デイヴィッド A.プライス 『メイキング・オブ・ピクサー 創造力をつくった人々』 早川書房
 - 本田由紀 『教育の職業的意義-若者、学校、社会をつなぐ』 筑摩書房
 - J.D.クランボルツ・A.S.レヴィン 『その幸運は偶然ではないんです!』 ダイアモンド社
 - 赤尾勝己 『生涯学習理論を学ぶ人のために-欧米の成人教育理論、生涯学習の理論と方法』 世界思想社
 - 嶋浩一郎 『嶋浩一郎のアイデアのつくり方』 ディスカヴァー・トゥエンティワン
 - 田尾雅夫 『モチベーション入門』 日本経済新聞社
 - 山崎亮 『コミュニティデザイン:人がつながるしくみをつくる』 学芸出版社
 - スプツニ子! 『はみだすカ』 宝島社
 - アンジェラ・ダックワース 『やり抜く力 GRIT (グリット)-人生のあらゆる成功を決める「究極の能力」を身につける』 ダイアモンド社
 - リンダ グラットン 『ワーク・シフト-孤独と貧困から自由になる働き方の未来図』 プレジデント社
 - リンダ グラットン、アンドリュースコット 『LIFE SHIFT (ライフ・シフト)』 東洋経済新報社
 - 見館好隆 『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』 プレジデント社
 - 中原淳、見館好隆ほか 『人材開発研究大全』 東京大学出版会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 全体ガイダンス
- 2 回 動画セッション① 「時間は限りあるもの」
- 3 回 シナリオセッション① 成人教育学 (大人の学び)
- 4 回 動画セッション② 「やる気に関する驚きの科学」
- 5 回 シナリオセッション② 計画された偶発性
- 6 回 動画セッション③ 「成功のカギは、やり抜く力」
- 7 回 シナリオセッション③ 大学生だからできる地域活性化
- 8 回 動画セッション④ 「自動化で人間の仕事はなくなるのか？」
- 9 回 シナリオセッション④ アイデアの作り方
- 10 回 動画セッション⑤ 「これからの世界をどう学び、どう生きるか」
- 11 回 シナリオセッション⑤ 海外に出ることで身に付く力
- 12 回 動画セッション⑥ 「僕たちは世界を変えることができない。」
- 13 回 シナリオセッション⑥ 学群ならではの就職活動
- 14 回 最終プレゼンテーション: フィールドワークで何を学んだのか? (前半)
- 15 回 最終プレゼンテーション: フィールドワークで何を学んだのか? (後半)

※期間中、フィールドリサーチを実施します。

※以下は学生自らが交渉して決定したフィールドワーク先です。

【2019年度】 JICA、七尾製菓、TOTOインフォム、ポルクバレット、JTB、Yahoo!北九州センター、北九州家守舎、九州朝日放送 (KBC)、オーエーセンター (ネジチョコなど)、ポルト、スターフライヤー、門司港地ビール工房、JR九州、北九州市漫画ミュージアム、小倉織織、菓匠きくたろう、Ark Blue Hotel

【2018年度】九州朝日放送 (KBC)、オーエーセンター (ネジチョコなど)、力の源ホールディングス (一風堂)、NHK北九州放送局、安川電機

【2017年度】 イベントシンクプロモーション、TOTO、Uzuhouse、九州朝日放送 (KBC)、ギラヴァンツ北九州

【2016年度】 北九州フィルムコミッション、ハローデイ、GRAN DA ZUR (グランダジュール)

【2015年度】 いのちのたび博物館、九州朝日放送 (KBC)、北九州エアターミナル、タンガテーブル、タカギ、スターフライヤー、北九州高速鉄道、ギラヴァンツ北九州、ヘルコ北九州小倉支社

【2014年度】 安川電機、井筒屋、スワロー、カフェカクタス、楽しい、Fコープ、スペースワールド、シダー、三木屋カフェ

【2013年度】 TOTO、福岡テンジン大学、一生もんshop「緑々 (あおあお)」、若者ワークプラザ北九州、北九州フィルムコミッション、ライブハウスWOW、ゼンリン、ナフコ、ヴィーナスワン、EPO、トトスイリーゼ北九州、タウンモービルネットワーク北九州

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業のプレゼンテーション...75% 最終プレゼンテーション...20% 最終レポート...5%

※プレゼンテーションと最終レポートは必須です。

※授業および、授業時間以外でのグループワークやフィールドリサーチの参加が必須となります。

地域創生論13 (キャリア学概論) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【動画セッション】については、事前に指定する動画を閲覧し、ワークシートを仕上げてください。
【シナリオセッション】については、事前に提示する課題をもとに、参考文献の収集およびグループメンバーとの議論を重ねて、発表の準備をしてください。
【フィールドワーク課題】については、フィールドワーク先のアポイントメントを取り、取材し、グループメンバーとの議論を重ねて、発表の準備をしてください。

履修上の注意 /Remarks

※第1回目の授業でグループを決めますので、第1回目は必ず出席してください。何らかの事情で出席できない場合は、事前に教員 (mitate@kitakyu-u.ac.jp) までメールで連絡をしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域創生学群の1年生の皆さんは、地域活動でいろいろ悩んでいると思います。本授業ではその悩みを払拭し、地域活動への参加意欲を高め、その経験を将来に繋げることを目的にしています。奮ってご参加ください。

キーワード /Keywords

キャリア、成長、地域活動、プレゼンテーション、フィールドリサーチ、問題基盤型学習、経験学習
SDGs 4.質の高い教育を、SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命

地域創生スキル1 (地域調査論) 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 敏樹 / Toshiki Kobayashi / 地域戦略研究所

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE200M	○	◎	○		
科目名	地域創生スキル 1		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

まちづくりや地域の課題解決のために必要とされる地域調査について、フィールドワークや実践を通してその基礎知識や技術を習得する。3つのグループワークを行う予定。グループワーク①は大学内をフィールドとして地域調査の基本中の基本を学ぶ。グループワーク②は、ビッグデータ（RESAS（地域経済分析システム））を利用して地域の課題や特徴を把握する方法を習得する。グループワーク③は、近年まちづくりの分野で話題になっている公共空間の利活用やパブリックライフに着目し、具体的なパブリックライフの調査およびそれをもとにしたまちづくりの方策を検討する。さらに、実際のまちづくりの現場でいかに地域調査が行われ、どのように実際のまちづくりに反映されているのか、民間の実務担当者からお話を伺い、地域調査についての理解を深める。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 今和次郎 (1987) 「考現学入門」ちくま文庫
 - 西村幸夫・野澤康編 (2010) 「まちの見方・調べ方 地域づくりのための調査法入門」朝倉書店
 - 日経ビッグデータ編集 (2016) 「RESASの教科書 リーサス・ガイドブック」日経BP社
 - ヤンゲル (2016) 「パブリックライフ学入門」鹿島出版会
 - パトリック・ゲデス (2015) 「進化する都市：都市計画運動と市政学への入門」鹿島出版会
- その他、必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回・・・オリエンテーション
- 第2回・・・グループワーク1-① グループ分け、テーマ決め、調査方法検討
- 第3回・・・グループワーク1-② 調査
- 第4回・・・グループワーク1-③ 作業 まとめ
- 第5回・・・グループワーク1-④ 発表
- 第6回・・・グループワーク2-① RESASについて、RESASの実践
- 第7回・・・グループワーク2-②
- 第8回・・・地域調査とは、地域調査の必要性、パブリックライフとは
- 第9回・・・外部講師による講義
- 第10回・・・グループワーク3-① 調査方針の検討
- 第11回・・・グループワーク3-② 調査
- 第12回・・・グループワーク3-③ 調査のまとめ、課題抽出
- 第13回・・・グループワーク3-④ 解決策の検討
- 第14回・・・グループワーク3-⑤ 解決策の検討、まとめ
- 第15回・・・グループワーク3-⑥ 発表

成績評価の方法 /Assessment Method

グループワークの成果物・・・70%、積極性・・・20%、プレゼンテーション・・・10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

地域の特徴、まちの小さな変化などを感じ取れるような観察力を身に着ける。

履修上の注意 /Remarks

地域創生スキル1 (地域調査論) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

グループワークの進捗、受講者の希望等により、授業計画、内容を変更する可能性がある。

キーワード /Keywords

地域調査、まちづくり、政策立案、RESAS (地域経済分析システム)、パブリックライフ、考現学

地域創生スキル2 (フィールドワーク論) 【昼】

担当者名 廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE201M	○	◎	○		
科目名	地域創生スキル2		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本授業は、主として大学生の低学年向けの授業として、プランニングされている。
複数人のチームをつくり、そのチームごと「協同学習」を行い、本学の「課題」を発見し、その課題解決に向けた調査（フィールドワーク）を実施しながら、各チームで効果的な実現可能性の高い提案を立案するPBL型授業である。

座学として、グループ学習法、フィールドワーク法、課題設定の仕方等の基礎的な知識を身につけ、それを実践するなかで、経験学習を積んでもらうプログラムである。実際にフィールドワークをしてもらう事も想定している。

教科書 /Textbooks

授業中に適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各グループが取り組む課題に適した参考書を適宜、紹介いたします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 地域創生学群の学びの特徴
- 第3回 協同学習に向けたグループ決め
- 第4回 協同学習① 課題発見編 仮説の立案
- 第5回 協同学習② 情報収集編
- 第6回 協同学習③ フィールドワーク
- 第7回 協同学習④ フィールドワーク
- 第8回 中間成果発表会 他グループへのフィードバック
- 第9回 協同学習⑤ 改善策の模索と提示 より深い探究学習へ
- 第10回 協同学習⑥ フィールドワーク
- 第11回 協同学習⑦ フィールドワーク
- 第12回 協同学習⑧ フィールドワーク
- 第13回 課題解決に向けた具体的対策への提言
- 第14回 課題解決に向けた具体的対策への提言
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

最終成果物に対する出来栄：40%
課題解決に向けた積極的姿勢と授業への貢献度：40%
グループ内のメンバー間での他者評価：20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業時間内にできなかったことに関しては、授業時間外に各グループでフィールドワークや活動をしてもらう事がある。自分で「経験したこと」をしっかりと振り返り、「経験から学びを得る」ことができるように、事後的な振り返り学習を主体的に取り組んでもらう。

地域創生スキル2 (フィールドワーク論) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

本授業は、受講生同士の「教え合い、学び合い」のスタイルで実施する。
実際に、北九州市立大学が今、抱える課題を抽出し、その課題解決に向けて、具体的にフィールドワークを実施しながら授業を進める。
このような授業スタイルであることを理解した上で、積極的に主体性をもって取り組むことをしなければ、厳しい評価となる事を理解して頂きたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループ学習、協同学習、探究学習、課題解決型学習、学内フィールドワーク

地域創生スキル3 (プロジェクトマネジメント) 【昼】

専門教育科目
地域創生スキル科目

担当者名 /Instructor 佐藤 貴之 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE202M	○	◎	○		
科目名	地域創生スキル3		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

身の回りの生活や地域活動において、プロジェクトに分類されるものが数多く存在します。プロジェクトとは何かを理解した上で、プロジェクトを成功させるために何に気をつけ、どのように取り組めばいいのか、ワークを通して理論と実践の両面から学習します。また、プロジェクトの失敗事例を取り上げ、その原因の分析と解決策について学習します。最終的には、実際のプロジェクトで活用できる実践的スキルを身に付けることを目指します。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『プロジェクトマネジメント 理論編』(通勤大学 図解PMコース①)第3版 総合法令出版 ￥979
- 『プロジェクトマネジメント 実践編』(通勤大学 図解PMコース②)第3版 総合法令出版 ￥979
- 『プロジェクトマネジメント標準PMBOK入門：PMBOK 第6版対応版』 広兼修著、オーム社 ￥2200

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション、プロジェクトとは何か
- 2回 プロジェクトマネジメントとは何か
- 3回 何をマネジメントするのか
- 4回 プロジェクト・ライフサイクル
- 5回 プロジェクト目標
- 6回 WBSとは何か
- 7回 WBSの作成
- 8回 ネットワーク図
- 9回 クリティカル・パス
- 10回 スケジュールの作成
- 11回 リスクマネジメント
- 12回 進捗のコントロール
- 13回 事後の振り返り
- 14回 総合課題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題...50% 積極的な授業参加...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前は、授業計画・内容のタイトルの言葉の意味を中心に各自調べておいてください。
授業後は、各自が参加しているプロジェクトを授業で学んだ視点から捉え、活動に活かすようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

原則、毎回ワークを行う予定です(グループワーク、個人ワークともに行います)。
授業の途中から参加すると課題やワークを全く理解できない可能性が高いため、遅刻は厳禁です。
実際に作業する内容が多いため、正規の授業以外に多くの時間を必要とする場合があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業は興味がないと苦痛になるだけだと思います。
本授業で学ぶ内容は、知識やスキルの積み重ねの形を取ります。
授業を欠席すると、その後の授業内容をきちんと理解できず、苦しむことになります。
授業に毎回出席できるという意思の強い学生のみ履修してください。

キーワード /Keywords

プロジェクト、マネジメント、PMBOK

地域創生スキル8 (スポーツ・ ボランティア指導論) 【 昼 】

専門教育科目
地域創生スキル科目

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE212M	○	◎	○		

科目名	地域創生スキル 8
-----	-----------

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

スポーツ活動や身体運動を通して、子供から高齢者まで様々な活動を支援していく。スポーツ教室とスポーツ大会の目的の違いなどを理解すると同時に、スポーツ参加や選考など学生自身がスポーツ種目の企画、立案、実施を通して学んでいく。
例えば、開会式から閉会式までを考え実施していくことや同時に人間的な幅広さをも学んでいく。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スポーツボランティアとは
- 2回 スポーツボランティアの目的
- 3回 地域スポーツを考える (1)
- 4回 地域スポーツを考える (2)
- 5回 スポーツイベントの運営 (1)
- 6回 スポーツイベントの運営 (2)
- 7回 スポーツイベントの計画と実践 (1)
- 8回 スポーツイベントの計画と実践 (2)
- 9回 中高年者とスポーツ (実技を含む)
- 10回 中高年者とスポーツ (実技を含む)
- 11回 女性とスポーツ(セクシャルハラスメント等を含む)
- 12回 小学生のスポーツ活動 (実技を含む) 1
- 13回 小学生のスポーツ実践 (実技を含む) 2
- 14回 障がい者スポーツの支援 (1)
- 15回 障がい者スポーツの支援 (実技を含む) 2

成績評価の方法 /Assessment Method

受講態度... 50 %
まとめ ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと
授業後は各グループにてディスカッションを行います、自分の理解を深めるように復習してください。

履修上の注意 /Remarks

他の学生と議論し実際に新しいスポーツを考えます。
子どもや、年長者、障害を持つ人たちのためにユニークな発想で作り上げましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

子ども・年長者・障がい者・スポーツ指導

地域創生スキル8 (スポーツ・ボランティア指導論) 【 昼】

専門教育科目
地域創生スキル科目

キーワード /Keywords

地域創生スキル10 (キャリア形成論) 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE214M	○	◎	○		
科目名	地域創生スキル10		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

現代の社会で仕事をするということは、単にマニュアル化されたタスクをこなすのではなく、課題を発見し解決していくような仕事が求められています。その手順は以下になります。

- ①様々な利害が複雑に絡み合う中で、課題や問題点を正確に把握する。
- ②その課題や問題点を引き起こしている原因を突き止める。
- ③その原因を取り除くために最適な解決策を考える。
- ④解決策を実践する。
- ⑤実践した解決策が効果があったかどうかを振り返り、評価する。

このようなプロセスを踏まない、単なる「思いつき」では課題や問題点が解決されないことが多いのです。この授業では、課題や問題点を正確に把握するための思考法や、解決策を導き出すための手法について学びます。

加えて、これからの社会に求められる「創造的思考」や「デザイン思考」とは何かを理解し、実践できるようになってもらうことも目指していきたいと思えます。

学生の皆さんの中には、何かのイベントを企画したり、多くの人と協働することも多いと思えます。即実践できるようなスキルを身につけていただきたいと思います。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。適宜レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『ロジカルシンキングのノウハウ・ドゥハウ』野口吉昭編 PHP 研究所
- 『知的複眼思考法』荻谷剛彦著 講談社文庫
- 『MBAクリティカルシンキング』GMI 著 ダイヤモンド社
- 『直観と理論をつなぐ思考法』佐宗邦威著 ダイヤモンド社
- 『デザイン思考が世界を変える』ティム・ブラウン著 早川書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス
- 2回 ロジカルシンキング(1)【論理的思考とは】
- 3回 ロジカルシンキング(2)【演繹法】
- 4回 ロジカルシンキング(3)【帰納法】
- 5回 フレームワークシンキング(1)【ロジックツリー①】
- 6回 フレームワークシンキング(2)【ロジックツリー②】
- 7回 フレームワークシンキング(3)【マトリックス】
- 8回 フレームワークシンキング(4)【フレームワークシンキング演習】
- 9回 クリティカルシンキング(1)【批判的思考とは】
- 10回 クリティカルシンキング(2)【複眼的にみる】
- 11回 クリティカルシンキング(3)【クリティカルシンキング演習】
- 12回 デザインシンキング【デザイン思考とは】
- 13回 クリエイティブシンキング【創造的思考とは】
- 14回 実践に活かす【デザイン・クリエイティブ演習】
- 15回 まとめ

地域創生スキル10 (キャリア形成論) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60% 授業の成果物...20% レポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前には、授業で取り扱う言葉の意味を理解しておいてください。また、授業後には学習した内容を振り返り、実習等の日常的なケースで活用できるように努めてください。

履修上の注意 /Remarks

解決策が分からない、どのように課題や問題点を考えていいか分からない、などの自分自身問題を想定して授業に参加してください。グループワークを随所に交えながら進めていきます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業で活用したことは、実習や実際の仕事で使ってみることをお勧めします。そうすることで、知識やノウハウが自分のものになります。

キーワード /Keywords

ロジカルシンキング、演繹法、帰納法、フレームワークシンキング、ロジックツリー、マトリックス、クリティカルシンキング、デザイン思考、クリエイティブ・シンキング

地域創生スキル12 (リハビリテーション論) 【昼】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE216M	○	◎	○		
科目名	地域創生スキル12		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

リハビリテーション論では、リハビリテーションの歴史や理念を理解した上で、障がい者や高齢者、スポーツ選手の怪我など、さまざまな場面における実践方法を身につけることを目的とする。講義の流れとしては、各種障がいに関する知識習得、障がい者のリハビリテーション、高齢者のリハビリテーション、さらにアスリートのリハビリテーションに関して実践（実技）を取り入れながら学んでいく。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 リハビリテーションの基本理念
- 3回 リハビリテーションの歴史の変遷
- 4回 疾病と障害①身体障害
- 5回 疾病と障害②知的障害
- 6回 疾病と障害③精神障害
- 7回 障がい者のリハビリテーションの概要
- 8回 障がい者のリハビリテーションの実践
- 9回 高齢者のリハビリテーションの概要
- 10回 高齢者のリハビリテーションの実践
- 11回 アスレティックリハビリテーションの概要
- 12回 アスレティックリハビリテーションの実践①
- 13回 アスレティックリハビリテーションの実践②
- 14回 地域リハビリテーションの実際と課題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常授業への取り組み（ミニレポートを含む）・・・70%、 期末テスト・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義前には、内容を文献やインターネット等で調べておくこと。また毎時間、講義後にミニレポートを課します。講義の内容を振り返り、レポートを作成すること。また、質問等はそのレポートに記載する欄を設けています。

履修上の注意 /Remarks

毎時間課すミニレポートや、適宜行う小テストに関しては、第一回目のガイダンスで説明しますので、第一回目から出席してください。また、基本的には講義形式で行いますが、実践法を身につける際には、実技形式で行うこともあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ファシリテーション 【昼】

担当者名 /Instructor 加留部 貴行 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE207M		○		◎	
科目名	ファシリテーション		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

昨今、複合化する今日の社会ニーズに向き合う際の多様な人々による「対話の場づくり」が急務となる中、教育、行政、地域、企業とあらゆる組織や集団において、協働（共働）という知的相互作用を活性化し、集団による問題解決、アイデア創造、合意形成、学習、変革、自己表現・成長等の知的創造プロセスを支援し促進していく「ファシリテーション」が重要性を増しています。

この授業では、ファシリテーションの基礎をワークショップ形式の演習を通じて相互作用が起こる現場を体験しながら体系的に学び、参加者の潜在能力を見える形で引き出す中から、多様な現場における関係性の強化と円滑なチーム運営を通じて、新たな地域の共創につなげます。社会の構成員のひとりとしての役割を果たしつつ、組織運営や意思決定に対して好影響を与えられるような視座を持ち、人と社会の意識改革を支援していくものとして考えています。

【到達目標】

- ・ ファシリテーションの概要を理解し実践できるようになる。
- ・ チームで活動する際のスキルを理解し実践できるようになる。
- ・ ファシリテーションとは何かが説明できるようになる。

教科書 /Textbooks

教科書は特にありませんが、適宜講義などで資料配布するとともに、参考図書を提示します。
参考リンクとしてNPO法人日本ファシリテーション協会(FAJ)を参照ください。
<http://www.faj.or.jp/>

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『チーム・ビルディング ～人と人を「つなぐ」技法』(堀公俊・加藤彰・加留部貴行 / 日本経済新聞出版社 / 2007年)
- 『ワークショップ・デザイン』(堀公俊・加藤彰 / 日本経済新聞出版社 / 2008年)
- 『組織：人材開発を促進する 教育研修ファシリテーター』(堀公俊・加留部貴行 / 日本経済新聞出版社 / 2010年)
- 『ワールド・カフェをやろう(新版)』(香取一昭・大川恒 / 日本経済新聞出版社 / 2017年)
- 『ファシリテーション入門(第2版)』(堀公俊 / 日本経済新聞出版社 / 2018年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

8月17日(月)	1限	概論 ファシリテーションとは	経験の振り返り、ファシリテーションとは
8月17日(月)	2限	場づくりの技法①	アイスブレイク、チームづくりへの視点
8月17日(月)	3限	場づくりの技法②	ファシリテーターとは、事前準備
8月17日(月)	4限	対話を紡ぐ技法①	言語ワーク、非言語ワーク
8月17日(月)	5限	対話を紡ぐ技法②	ワールド・カフェ
8月18日(火)	1限	議論をかみ合わせる技法①	カードワーク、ホワイトボードワーク
8月18日(火)	2限	議論をかみ合わせる技法②	ホワイトボードワークトレーニング
8月18日(火)	3限	合意形成に向けて①	合意形成とは、コンセンサスワーク
8月18日(火)	4限	合意形成に向けて②	会議観察ワーク、振り返りとは
8月18日(火)	5限	合意形成に向けて③	総合実践ワーク①
8月19日(水)	1限	概論 ワークショップとは	ワークショップを支える3つのデザイン
8月19日(水)	2限	地域実践の実際①	ワークショッププログラム事例研究
8月19日(水)	3限	地域実践の実際②	問いづくりワーク
8月19日(水)	4限	総括① ～さらなる実践のために	総合実践ワーク②
8月19日(水)	5限	総括② ～さらなる実践のために	質疑応答と総括振り返り

※講義、演習(グループワーク・ペアワーク、ダイアログ(対話)等)、振り返りなどを組み合わせて行います。
※各時限とも内容と進捗によって時間の長短(開始・終了時間の変更)があります。

ファシリテーション 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の性格上、試験は行いません。
代わりに理解度や活用度を判定するために、レポート等の成果を総合して評価します。
最終的な成績は、授業への取り組み・参加度60%、レポート等の成果40%に授業への学習態度などを加味して評定を行います。なお、レポート未提出者は成績評価の対象としないのでご注意ください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前】

- ・ 授業の理解に有益な参考書籍の読書、インターネット等による情報収集を行うこと。
- ・ これまでの自分自身の経験や体験の振り返りを行うこと。

【事後】

- ・ 授業内容の復習と振り返りを行うこと。
- ・ 授業で示す参考書籍の中から必要・関心のあるものを5冊程度読むこと。

履修上の注意 /Remarks

※40人を上限とした受講者数調整を行いますので予めご了承ください。
※1年次の地域での体験を振り返って自分なりの課題や疑問を整理しておくことが効果的です。
※グループワークやペアワークなどを行うため一定の人数や相手がいることが前提で行う授業です。
参加にあたっては遅刻や早退がないように時間への意識を高めておくをお願いします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

多様なグループワーク・ペアワークやダイアログ(対話)などを通じて、ファシリテーションが行われる場の醍醐味を体験・体得し、適宜振り返りを行いながら現場での具体的な実践につなげていきたいと考えています。
お互いに楽しくかつ真摯に取り組んでいきましょう。

キーワード /Keywords

ファシリテーション、チームビルディング、ダイアログ(対話)、ワークショップ、協働(共働)

地域創生特講 1 (観光事業概論) 【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE290M	◎				
科目名	地域創生特講 1			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

<目的>
地域創生のアプローチの一つとして、観光事業の基本を学ぶ。具体的には、地域と協働し、多彩な地域資源を活かしながら、近年の観光事業の動向、特にイノベーションで地域課題を解決する各種知見を理解し、学生が現在および将来、北九州市や地元の発展と繁栄、ひいては新たな国際社会の形成に資する本学における学びの方向性を模索する。その成果として、最終プレゼンにて自らがフォーカスする地域の資源を生かした、新しい観光ビジネスプランを提案する。

<進め方>
毎回のテーマに即した時事ニュースや先行事例をネット上の報告書や記事、図書館の文献や論文などをリサーチし、授業の前半に発表し、共有します。そして、登壇者からそのテーマの基本知識や最新事例を学びます。最後に、そこで得た新しい知識や払拭できた先入観、ヒントを元に、「将来のために今すべきこと」を小レポートにまとめます。

<目標>
様々な観光事業をトリガーにした地域創生のアプローチを理解し、地域創生における自らの活動のアクションプランを策定し、ゼミや卒論、ひいては個人の地域活動への実践へとつなげる。

教科書 /Textbooks

「観光学基礎」JTB総合研究所

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業にて随時お知らせします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 観光とは(歴史と、学ぶ意味)
- 2回 観光の仕組み、観光資源、観光対象
- 3回 観光産業の構成と特徴
- 4回 様々な観光ビジネス(旅行業、宿泊産業、交通運輸業、その他)
- 5回 観光政策と観光行政(日本や北九州市)
- 6回 観光と国際社会(LCC、インバウンド、外国人労働者)
- 7回 観光と地域振興(デステイネーションマネジメント、DMO、地域おこし協力隊)
- 8回 観光と観光資源の保全(オーバーツーリズム、自然環境やリサイクルなどの理解)
- 9回 新しい観光スタイル1(アルベルゴ・ティファーズ/分散型ホテル)
- 10回 新しい観光スタイル2(フットパス、ウォーキング、トレッキング等スポーツツーリズム)
- 11回 新しい観光スタイル3(工場萌えなど産業観光、グリーンツーリズム・ブルーツーリズム)
- 12回 新しい観光スタイル4(アニメや映画ロケ地などコンテンツツーリズム・ダークツーリズム)
- 13回 新しい観光スタイル5(アーティスト・イン・レジデンス、芸術祭、写真コンテスト)
- 14回 新しい観光スタイル6(MaaS/モビリティ・アズ・ア・サービス、シェアリングエコノミー)
- 15回 最終プレゼンテーション「我が街を観光事業を活用してどうやって活性化するか?」

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課される予習と復習...91%
最終プレゼン...9%

地域創生特講 1 (観光事業概論) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前にMoodleにて、期日までに登壇企業団体の事前学習（予習）を提出すること。また、Moodleを確認し、授業で用いるレジュメやワークシートがあれば印刷して精読し持参すること。授業終了後にMoodleにて、期日までに授業の振り返り（復習）を提出すること。最終プレゼンテーションの課題は「我が街を観光事業を活用してどうやって活性化するか？」です。我が街は故郷でなくても構いません。

履修上の注意 /Remarks

第1回目の授業に出席をして、授業全体を把握してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域創生学群での実習・演習において、観光学や観光事業に関する知識はどうしても必要になります。また、私は大学教員になる前に、旅行会社で7年半働き、ソニーグループでも旅行サイトの企画運営に携わり、総合旅行業務取扱管理者の資格も持っています。そこで本授業を立ち上げました。地域を活性化するアプローチとして、どういった対象に対し、どういった観光事業を立ち上げ、我が街を活性化させるのか。最新事例と一緒に学びながら、最後にユニークなプレゼンテーションをして頂くことを希望しています。

キーワード /Keywords

観光学、観光政策、ツーリズム、旅行、ホテル、インバウンド、クリエイティブシンキング、創造性、交渉力、企画提案力、地域活性化、地域活動
SDGs 4.質の高い教育を、SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命

地域創生特講 4 (伴走型支援の学びとインターンシップ 2) 【昼】

専門教育科目
専門科目

担当者名 /Instructor 坂本・稲月

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE293M	◎				
科目名	地域創生特講 4		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

この科目は、北九州市で生活困窮者への自立支援事業に取り組んでいる特定非営利活動法人抱樸との連携による授業です。伴走型支援といわれる支援のあり方を学び、実際に支援の現場でインターンシップに取り組むことを通して、北九州市における生活困窮者の実態、支援のあり方への理解を深めていただきたいと思います。

- ねらい
- (1) 伴走型支援を理解する。
- (2) 生活困窮者への対象理解を深める。
- (3) 支援の実際を体験する。
- (4) NPOにおける地域活動について体験的に理解をする。

教科書 /Textbooks

奥田知志(著), 稲月正(著), 垣田裕介(著), 堤圭史郎(著) 『生活困窮者への伴走型支援—経済的困窮と社会的孤立に対応するトータルサポート』 明石書店、2,800円＋税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 講義ガイダンス
2. 伴走型支援入門(スキル演習)【伴走型支援】
3. インターンシップ目標設定【目標設定】
4. インターンシップ①
5. インターンシップ②
6. インターンシップ③
7. インターンシップ④
8. 中間ふりかえり【リフレクション】
9. 特別講義(外部講師招聘など)【生活困窮者への支援】
10. インターンシップ⑤
11. インターンシップ⑥
12. インターンシップ⑦
13. インターンシップ⑧
14. ふりかえり【リフレクション】
15. まとめ、ワークショップ、特別講義など【学びの言語化】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業時の課題.....20%、インターンシップでの評価.....50%、期末レポート.....30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に関連して事前課題、事後課題を随時指示しますので、必ず取り組んでください。インターンシップでは実習日誌の作成もしていただきます。単に活動をするだけでなく、活動から学ぶための課題に事前・事後学習として取り組んでいただきます。

地域創生特講 4 (伴走型支援の学びとインターンシップ 2) 【昼】

専門教育科目
専門科目

履修上の注意 /Remarks

合計32時間以上のNPO抱構でのインターンシップに取り組んでいただきます。日程については受講開始後に抱構と調整をします。地域創生特講3(伴走型支援の学びとインターンシップ1)と連動した科目ですので、できるだけ一緒に履修をしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NPO団体による生活困窮者支援について、実際に現場へ出て取り組んでいただきます。NPO職員による講義もあります。教員によるサポートもありますので、自分の見識を広めるためにも多くの方に履修をしていただきたいと考えています。

キーワード /Keywords

伴走型支援、生活困窮者支援、地域福祉、NPO

福祉行財政と福祉計画【昼】

担当者名 /Instructor 難波 利光 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW242M	◎		△		
科目名	福祉行財政と福祉計画		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

現代の社会福祉サービスや支援は、国が基本的な政策の方向にて、市町村が住民により近い視点からベースとし、行政担当者とサービス利用者である住民及び事業者が参加して福祉計画を実施することが求められている。そこで、本授業では、社会福祉の実践を支える制度的な枠組みである福祉行財政と福祉計画について概説する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会福祉士養成講座編集委員会『福祉行財政と福祉計画』中央法規 2,200円
 坂本忠次『現代社会福祉行財政-社会保障をどうするか-』大学教育出版 2009年4月 2,940円
 野口定久・外山義・武川正吾編『居住福祉学』有斐閣 2011年12月 2,500円
 広井良典『創造的福祉社会』ちくま新書 2011年7月 903円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会福祉と社会保障機能1【社会福祉の動向】
- 2回 社会福祉と社会保障機能2【社会保障機能】
- 3回 社会福祉と社会保障機能3【参加型社会保障】
- 4回 社会保障と税制1【財政理論】【公共財】
- 5回 社会保障と税制2【一般会計予算と社会保障関係費の動向】
- 6回 社会保障と税制3【地方自治体の財政と民生費の動向】
- 7回 社会保障と就労形態【国の雇用政策と企業の雇用戦略】
- 8回 福祉行財政まとめ
- 9回 社会的セーフティネット【コミュニティというセーフティネット】
- 10回 コミュニティ空間【つながり・ゆつくりの社会】
- 11回 都市型コミュニティ【コミュニティとしての都市】
- 12回 経済の地域内循環【地域の豊かさ】
- 13回 地域における社会モデル【地域の自立・持続可能性】
- 14回 ケア・コミュニティ【人間社会の起源】
- 15回 福祉計画まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト・中間まとめ含む) ... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として福祉行財政に関する時事問題に関心をもち講義の内容と重ね合わせることでできるようにしておく。また、事後学習として参考図書等を参考にしながら関心を持った内容についてより深めて学習する。

履修上の注意 /Remarks

新聞等のメディアを通して福祉問題、財政、行政に関しての現状認識を深めておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

福祉行財政と福祉計画【昼】

キーワード /Keywords

福祉サービスの組織と経営【昼】

担当者名 /Instructor 中園 紀明 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW251M	◎		△		
科目名	福祉サービスの組織と経営		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

現在の日本社会は、超高齢の環境を見極めながら進まなければならないことがどの専門領域にとっても課題となっている。共働き家庭の保育や介護、心身の障がい、8050問題等、特に直接高齢者、障がい者等にサービスを提供する福祉施設等は、20世紀に築かれた老人福祉法から21世紀モデルの自立支援運営に改革が求められている。これまで日本の福祉サービス（介護概念）のあり方は、手厚い施設整備費補助や措置費による裁量の余地のない小さな規模の施設の運営がモデルとなっていた。しかし現在、社会保障費の増加や福祉従事者の減少は、日本が築いてきた社会福祉制度とその経営のあり方を根幹から改造しなければならない状況下にある。特に90年代以降、少子高齢化の影響は、公的給付費用の増大、多様な福祉ニーズへの対応、認知症高齢者のBPSD等、地域包括ケアの構築を確実なものにするという新たな福祉経営がもたえられる時代となった。加えて、福祉施設は人生の高齢期における生活・生命に対するセーフティーネットでもある。利用者の自立や自律というものを運営の基礎に置き、わかりやすく丁寧に安心が求められる施設経営が必要となっている。よって地域住民の福祉ニーズにこたえるべき経営とは何か、また経営による利益と地域住民のニーズの関係はどう保たれるべきなのかを学習していく。また本科目では公的介護保険の動向や地域包括ケアシステム・保健、医療、福祉による多職種連携による自立支援の効果と経営戦略を学習していくことで、21世紀型の地域福祉及び福祉経営を理解していきます。

教科書 /Textbooks

「福祉サービスの組織と経営 第5版」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 福祉サービスとは何か。利用者の人権と権利 福祉施設の経営とは
- 2回 福祉サービスの提供と制度の役割
- 3回 法人の基本形態とガバナンス
- 4回 社会福祉法人による経営の現状
- 5回 特定非営利活動法人（NPO）の特徴
- 6回 福祉施設経営戦略の基礎
- 7回 事業計画の策定と実行評価
- 8回 福祉施設におけるサービスの質の向上
- 9回 集団の力学理論（組織構造）
- 10回 福祉施設の管理運営の方法
- 11回 福祉施設のサービスの質の評価
- 12回 福祉施設のリスクマネジメント
- 13回 福祉施設の苦情受付と対応
- 14回 福祉施設における人事・労務管理
- 15回 福祉施設における人材育成

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 70% 平常の学習状況 20% 課題（レポート） 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから社会保障に関するニュースに関心をもってください。また、講義の中で使用される各種統計スライドも興味をもって学んでください。

福祉サービスの組織と経営【昼】

履修上の注意 /Remarks

経営のベースである理念・使命を理解しながら、地域に密着した自立支援の施設等とは何かを学習します。福祉ニーズをポジティブに捉えるアセスメント技術も学習しておくことでより理解が深まります。社会保障改革の動向にも注目しておきましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

福祉経営における経営と利益とは何かを根底に21世紀型の福祉経営論(自立支援、法令順守、人権擁護、運営等)を学習します。
担当講師は、特別養護老人ホームや養護老人ホーム、軽費老人ホーム・デーサービスセンター等の事業を運営する社会福祉法人の施設長職を経た現理事(社会福祉士・主任介護支援専門員・介護支援専門員指導者)です。経験した立場から福祉サービスの経営とサービスのあり方を、市民、地域、行政、関係事業者の連携を見据えて講義をしていきます。

キーワード /Keywords

地域包括ケア 法人	多職種連携 組織	ガバナンス ソーシャルワーク	人権擁護 リーダー論	福祉施設経営 人材育成	サービスの質と自立支援 リスクマネジメント	PDCAサイクル 公的介護保険
超高齢者社会	社会保障					

権利擁護と成年後見制度 【昼】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW250M	◎		△		
科目名	権利擁護と成年後見制度		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

- ・ 相談援助活動と法（日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む）との関わりについて理解する。
- ・ 相談援助活動において必要となる成年後見制度（後見人等の役割を含む）について理解する。
- ・ 成年後見制度の実際について理解する。
- ・ 社会的排除や虐待などの権利侵害や認知症などの日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について理解する。

教科書 /Textbooks

特に指定しないので、講義資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時紹介する

権利擁護と成年後見制度 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【講義の主な柱】

- ① 相談援助活動と法（日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む）との関わり
- ② 成年後見制度
- ③ 日常生活自立支援事業
- ④ 成年後見制度利用支援事業
- ⑤ 権利擁護に係る専門職者、組織、団体の役割と実際
- ⑥ 権利擁護活動の実際

【講義テーマ・内容】

- 第1回目
オリエンテーション 全体を通しての講義内容の説明、講義の進め方など（小賀）
- 第2回目
権利擁護とは何か（小賀）
- 第3回目
権利擁護と社会保障（弁護士）
- 第4回目
成年後見制度とは何か - 根拠法・仕組み・関係機関・団体など（弁護士）
- 第5回目
成年後見制度と弁護士の役割、活動（弁護士）
- 第6回目
権利擁護活動と自治体支援（自治体職員）
- 第7回目
権利擁護活動と社会福祉士の役割、活動（社会福祉士）
- 第8回目
権利擁護と社会福祉協議会の役割（社協職員）
- 第9回目
成年後見制度と医師の役割、活動（医師）
- 第10回目
地域包括支援センターにおける社会福祉士の役割と権利擁護（社会福祉士）
- 第11回目
事例（成年後見制度と後見人、保佐人、補助人①）（弁護士）
- 第12回目
事例（成年後見制度と後見人、保佐人、補助人②）（社会福祉士）
- 第13回目
事例（法人後見と日常生活自立支援事業③）（社協職員）
- 第14回目
事例（精神障害のある人への権利擁護活動）（PSW）
- 第15回目
講義のまとめ（小賀）

成績評価の方法 /Assessment Method

コーディネーターの責任においてレポート（30%）および筆記試験（70%）を実施する。レポートおよび筆記試験の双方ともに自らの考えが明確に示されているかを重視する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は前もって紹介する参考文献・資料に目を通し、人間の権利とは何かについて問題関心を広げておくこと。
事後学習は授業中に配布する講義資料を精読し、具体的な成年後見制度のあり方と、権利擁護のために働く専門職について理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

多様な専門職者によって講義を構成するので、授業計画の内容に沿って事前学習をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基本的人権、社会的包摂、社会的排除

金融論【昼】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN222M	◎	○	○		
科目名	金融論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

バブル経済とその崩壊から平成不況、また現在まで、「金融」に関する諸事情は日本経済の大きな問題として取り扱われており、その知識への需要は高まりを見せている。金融論I(および「金融論II」)では、金融の知識を広く習得することを目的としている。とくに、日本の金融制度を概観しながら、その特徴を把握し、わが国の金融制度の長所・短所を踏まえ、今後の金融のあり方を学習する。金融論Iでは、特に、金融市場、家計、企業の金融活動、銀行行動、について金融の基礎を学習する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①日本の金融に関する基礎知識を習得する。
- ②金融制度に関する問題点を理解し、解決策を考えることができる。
- ③修得した知識を現実の社会問題に適用することができる。

教科書 /Textbooks

とくになし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

藤原・家森編著『金融論入門』中央経済社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 金融とは
- 2回 金融市場の基礎知識【短期金融市場】【長期金融市場】
- 3回 家計の金融活動【資産選択】
- 4回 家計の金融活動【負債】
- 5回 企業の金融活動【MM定理】
- 6回 企業の金融活動【株式による資金調達】【負債による資金調達】
- 7回 わが国の銀行【銀行の業務】【銀行と類似した金融機関】
- 8回 わが国の銀行【メインバンクシステム】
- 9回 金融仲介の理論【情報の非対称性】【逆選択】【モラルハザード】
- 10回 金融仲介の理論【債務超過問題】【出資契約】【債務契約】
- 11回 貨幣について【貨幣の役割】【マネーサプライ】
- 12回 中央銀行について【中央銀行の役割】【中央銀行の独立性】
- 13回 プルーデンス政策【銀行業の規制】【破綻処理】
- 14回 マクロ金融政策【金融政策の手段】
- 15回 マクロ金融政策【金融政策の波及経路】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義前に指定されたレジュメを印刷し、目を通しておく。
講義後には、講義内容について復習し、理解を深めておく。

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学・マクロ経済学の知識があると内容が理解しやすい。
レジユメを学習支援フォルダーから入手しておくこと。
毎回、前回の講義内容の復習をしっかりとしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

金融論特講【昼】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN223M	◎	○	○		
科目名	金融論特講			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

「金融論I」で学習した基礎理論を応用し、バブル崩壊後の日本の銀行システムの問題点について学習する。本講義では、不良債権処理問題やBIS規制導入による銀行経営の変化について、研究者による研究内容を紹介しながら、日本の金融システムの長所・短所を理解することを目的とする。また、近年問題となっている郵政民営化やサブプライムローン問題も取り上げ解説する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①金融に関する問題について、専門知識に基づいた議論ができる。
- ②現実の経済情勢の的確な分析に基づき、解決策を考えることができる。
- ③経済・社会に関する知識を用い、社会に貢献する意欲を身につける。

教科書 /Textbooks

とくになし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

櫻川昌哉『金融立国試論』光文社新書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 オーバーバンキング【日本の資金循環】
- 3回 オーバーバンキング【オーバーバンキングが経済に及ぼす影響】
- 4回 不良債権処理問題【不良債権処理方法】
- 5回 不良債権問題【不良債権処理が遅れた理由】
- 6回 BIS規制と会計操作【BIS規制と不良債権処理】
- 7回 BIS規制と会計操作【公表自己資本比率の問題点】
- 8回 BIS規制と会計操作【BIS規制と公的資金資金注入】
- 9回 オーバーバンキングとデフレ【デフレ経済の問題点】
- 10回 オーバーバンキングとデフレ【デフレ経済と不良債権】
- 11回 郵政民営化【郵政民営化がなぜ必要であったか】
- 12回 郵政民営化【郵政民営化の問題点】
- 13回 郵政民営化【郵政民営化と金融政策】
- 14回 サブプライム問題【サブプライム問題とは】
- 15回 サブプライム問題【証券化の問題点】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義前に指定されたレジュメを印刷し、目を通しておく。
講義後に復習し、理解を深めておく。

履修上の注意 /Remarks

1学期の「金融論I」で金融制度の基礎知識を学習しておくこと、講義内容が理解しやすい。
レジュメを学習支援フォルダーから入手しておくこと。
毎回、前回の講義内容の復習をして臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済地理学【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN230M	◎		○		○
科目名	経済地理学		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

経済地理学Iは、基礎理論である立地論の解説とその応用例について、平易に解説する。学生は、経済地理学Iを履修することによって、経済活動を空間や地域という観点から理解することの重要性を認識でき、立地論を中心とした専門知識を習得できる。これをもとに現実の経済地理的な現象に関わる課題を発見、分析し、その解決をはかる力を身に付けることができるようになる。また企業活動が様々な経済活動を巻き込みながら地域社会を形成する基本的なメカニズムを理解でき、実践力を養う基礎的な知識を得ることができる。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション 【経済地理学】、【地域構造論】
- 2回 産業構造と産業立地。【産業構造】、【産業立地】、【経済地理学】
- 3回 企業の立地行動 (I)・・・市場圏モデル 【レッシュ】、【需要円錐】、【経済景域】
- 4回 企業の立地行動 (II)・・・市場圏モデル【クリスタラー】【中心地】、【上限】、【下限】
- 5回 商業・生活関連産業の立地【最終サービス】、【第三次産業】、【商業立地】
- 6回 1～5回の復習とまとめ 【企業立地】【中心地論】【サービス産業】
- 7回 企業の立地行動 (III)・・・最小コストモデル 【ウェーバー】、【輸送費】、【集積】
- 8回 素材/装置型工業の立地行動 【素材産業】、【地理的慣性】、【規模の経済】
- 9回 企業の立地行動 (IV)・・・労働力指向立地 【マッセイ】【バーノン】【空間分業】
- 10回 先端/組立型工業の立地行動 【労働力指向】【部分工程】【半導体産業】
- 11回 6～10回の復習とまとめ 【輸送費理論】【企業内空間分業】
- 12回 企業の立地行動 (V)・・・集積とネットワーク 【スコット】【マークセン】【ポーター】
- 13回 在来組立型工業の立地行動【基盤産業】【外部経済】【クラスター】
- 14回 現代の立地行動～オフィスの立地論 【オフィス】【知識の輸送】【対面接触】
- 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 ... 10% 期末試験 ... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済地理学II、経済地理学特講や地域経済I・II、地域経済特講などを受講すると相互理解が深まります。3、4、7、9、12、14回は全体の中でも特に重要な回ですので、慎重に話を聞いてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済の動きを、空間や地域という観点で考えることができるように、学習を進めていきます。

キーワード /Keywords

立地論、企業立地、産業配置

経済地理学特講【昼】

担当者名 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN231M	◎		○		○
科目名	経済地理学特講			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

経済地理学特講は、日本の都市、地域構造と立地政策との関連を、具体例を交えて述べてゆくこととする。学生は、経済地理学で学習した内容をふまえて、オフィス立地を学習したうえで都市内・都市間システムの理論を学ぶことになる。これによって立地論や都市論を中心とした専門知識を習得できる。これをもとに現実の経済地理的な現象に関わる課題を発見、分析し、その解決をはかる力を身に付けることができるようになる。

都市の構造や都市間の相互作用を系統的に学習でき、地域構造の成り立ちを深く認識できることになる。後半では立地のメカニズムをもとに政策的な活用策を検討する。地域社会を形成する基本的なメカニズムを理解でき、実践力を発揮することができる能力を身に付けることができる。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN 【経済地理学】【都市】【地域】【地域政策】
- 2回 オフィス立地と都市 【オフィス】【本社・支社】【中枢都市】【都市の階層化】
- 3回 地点をめぐる立地競争 【チューネン】【付け値曲線】【土地利用】
- 4回 都市内システム 【都市】【バージェス】【ホイット】
- 5回 都市間システムと中枢管理機能 【中枢管理機能】【プレッド】【地方中枢管理都市】
- 6回 1～5回の復習とまとめ
- 7回 企業活動と地域 【企業機能】【地域間システム】【生活圏】【公共施設立地】
- 8回 立地政策(1)・・・一全総・二全総と重化学・装置型産業 【全総】【拠点開発方式】
- 9回 立地政策(2)・・・三全総と組立型産業 【定住圏構想】【テクノポリス】
- 10回 立地政策(3)・・・四全総 【中枢管理機能】【東京一極集中】【世界都市】
- 11回 6～10回の復習とまとめ
- 12回 産業立地と今後の地域構造・・・ランドデザイン 【多軸型国土構造】【産業創出の風土】
- 13回 立地から見た地域構造の変遷(1) 【近代化】【産業構造】【国土構造】
- 14回 立地から見た地域構造の変遷(2) 【発展なき成長】【東京一極集中】
- 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 ... 10% 期末試験 ... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の進度に応じて指定された範囲の予習と、授業内容の整理、復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済地理学や地域政策などを受講していると相互理解が深まります。
2、3、4、5、8、9、10、12、14回は全体の中でも特に重要な回ですので、慎重に話を聞いてください。

経済地理学特講【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済の動きを、空間や地域という観点で考えることができるように、学習を進めていきます。

キーワード /Keywords

立地論、都市システム、立地政策

北九州経済分析【昼】

担当者名 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN235M	◎		○		○
科目名	北九州経済分析		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

1～5回は、北九州市の経済産業の歴史を概観しながら、着目すべき企業や経営者について解説し、北九州市の特徴について考察を加えます。
6～9回は、北九州地域を中心とした北部九州に本社・拠点を置く企業の動向を踏まえながら、企業戦略、産業動向・業態変化などのダイナミズムについて考察します。
10～14回は、都市としての北九州市の変容過程を説明するとともに、小倉などの中心市街地や東田開発などの地域開発について具体的に考察します。
そして、15回は1～14回を総括する形で、北九州市の特徴を考察し、今後について展望します。
よって、受講生には日常的に北九州市の経済社会や地元の企業の動向に興味を持って授業に望んで欲しいと思います。

教科書 /Textbooks

対象分野が多様なため適宜プリントを配布します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 九州経済調査協会編『九州産業読本 改訂版』（2010年10月）
- 九州経済調査協会編『図説 九州経済2017』（2017年10月）
- 北村亘『政令指定都市』（2013年7月）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 北九州の発展を支えた筑豊炭田と若松港【石炭産業】、【港湾】、【沖仲士】
- 2回 近代都市・北九州の誕生【官営八幡製鐵所】、【企業城下町】、【鉄鋼業】、【軍都】
- 3回 近代都市・北九州を支えた経営者【鮎川義介】、【出光佐三】、【安川第五郎】
- 4回 戦後の北九州の企業の動向【八幡製鐵所】、【安川電機】、【TOTO】
- 5回 地域の上場企業の実態【上場企業】、【大企業】、【経営戦略】
- 6回 地域の主要企業におけるグループ経営【グループ経営】、【子会社】、【系列企業】
- 7回 FCビジネスと外食産業【店舗展開】、【FCビジネス】、【メガフランチャイジー】
- 8回 地域における小売業【デパート】、【スーパー】、【コンビニ】、【ドラッグストア】、【業態変化】
- 9回 政令指定都市としての北九州市【人口動向】、【少子・高齢化】、【政令指定都市】
- 10回 課題解決先進都市としての北九州市の今後【人口予測】、【既に起こった未来】、【長寿化】
- 11回 北九州市の都市形態の変容【再都市化】、【高速交通】、【再開発】
- 12回 東田開発とスペースワールド跡地問題【テーマパーク】、【科学館】、【アウトレット】
- 13回 北九州市における中心市街地の変容【商店街】、【繁華街】、【飲食業】、【サービス経済化】
- 14回 小倉の繁華街における安全・安心の街づくり《事例研究：ゲスト招聘予定》
- 15回 総括～北九州の特徴と今後の展望～

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内で実施する小レポート 20 % レポート 20 % 試験 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本講義では、授業終了後に速やかに、講義で活用したパワーポイントや資料、さらには参考文献などをm o o d l eにアップしますので、各自きちんと振り返りを行なってください。

北九州経済分析【昼】

履修上の注意 /Remarks

本講義は具体的な企業の事例を紹介しながらの講義が中心であるため、理論的な考察を深めるためには「経済地理学」、「地域経済」、「地域政策」の受講を薦めます。また、教養科目の「北九州学」、「人文地理学」、「地誌学」をあわせて受講すると理解しやすいです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は北九州そのものを対象とした講義なので日常的に街の景観から歴史や経済活動を読み解くことを心がけると関心が深まります。

キーワード /Keywords

地域振興、地域開発、都市形成、再都市化、人口減少社会、少子化、長寿化、地域企業、グループ経営、業態変化、中心市街地、繁華街

北九州経済分析特講【昼】

担当者名 /Instructor 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN236M	◎			○	○
科目名	北九州経済分析特講		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

北九州の産業経済の動向を分析しつつ、そこで活躍する企業と経営者に焦点をあてて、イノベーションについて考察します。よって、まずはイノベーションとは何かを考え、イノベーションに必要な条件やイノベーションを導く人材について学習します。そのうえで、北九州市の企業や経営者を具体的にフォーカスし、イノベーションをキーワードに地域企業の経営戦略について一緒に考えていきたいと思います。
 なお、本授業においては、北九州市立大学大学院マネジメント研究科（北九州市立大学ビジネススクール）を修了しないしは在学中で、現場で活躍している経営者4名をゲストスピーカーとして招いて講義して頂く予定です。各ゲストスピーカーの事例や経験から現場の実情をしっかりと学んで下さい。

教科書 /Textbooks

対象分野が多様なため適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○P. F. ドラッカー『イノベーションと企業家精神』ダイヤモンド社（2001年12月）
 クレイトン・クリステンセン他『イノベーションのDNA』翔泳社（2012年1月）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域のリーダー、地域のマネジャー【リーダーシップ】、【マネジメント】、【マネジメントの3要素】
 - 2回 イノベーションと企業家精神【企業家】、【起業家】、【起業】
 - 3回 イノベーションのDNA【イノベーション】、【関連付ける力】、【新・結合】
 - 4回 《事例研究1》独自ポジションで活躍する中堅企業の戦略【アイデア】、【イノベーション】
 - 5回 サービス経済化とイノベーション【サービス産業】、【新サービス】、【IT】
 - 6回 《事例研究2》花火ビジネスのイノベーション【アイデア】、【効率化・有効化】
 - 7回 イベントにおけるイノベーションの実態【東京ガールズコレクション】、【かわさきパン博】
 - 8回 イノベーションとしての北九州の環境産業【環境産業】、【エコタウン】、【再生資源】
 - 9回 《事例研究3》中小環境関連企業の新規事業戦略【新規事業創出】、【多角化】、【リサイクル】
 - 10回 企業における多角化戦略の実例【コア・コンピタンス】、【アンゾフの成長ベクトル】、【外部環境変化】
 - 11回 観光産業におけるイノベーションの変遷【別府】、【由布院温泉】、【黒川温泉】
 - 12回 北九州における観光産業の可能性と課題【門司港レトロ】、【インバウンド】、【世界遺産】
 - 13回 《事例研究4》お土産のイノベーション【関連付ける力】、【商品開発】、【コラボレーション】
 - 14回 成熟時代の地域振興～あるもの探しの意義～【地域資源】、【地方創生】、【地域事業創造】
 - 15回 まとめ～北九州経済の今後とイノベーションの可能性【マネジメント】、【イノベーション】
- * 4回目、6回目、9回目、13回目の授業にゲストスピーカーを招聘する予定です。

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内で行う小レポート 30 % 課題レポート 10 % 定期試験 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本講義では、授業終了後に速やかに講義で活用したパワーポイントや資料や参考レポート等をできるだけ Moodle にアップしますので、各自きちんと振り返りをしてください。
 また、ゲストスピーカーの講義の前には、ゲストスピーカーの所属する企業をきちんと情報収集してください。

履修上の注意 /Remarks

本講義は具体的な企業の事例を紹介しながらの講義が中心であるため、日常的に新聞等で地域企業の動向を抑えていると関心が広がります。また、理論的な考察を深めるためには「経済地理学」や「地域経済」の受講を薦めます。

北九州経済分析特講【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州市立大学大学院マネジメント研究科(北九州市立大学ビジネススクール)のOBの方々をゲストスピーカーとして招聘しますので、ゲストスピーカーの方々のマネジメントやリーダーシップについて意識して聞いてください。

キーワード /Keywords

地域企業、新事業創出、イノベーション、関連づける力、コラボレーション、地域資源、リーダーシップ、マネジメント

地域政策【昼】

担当者名 /Instructor 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN234M	◎		○		○
科目名	地域政策		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

日本の地域経済を考える上で、地域政策は大きな役割を果たしてきました。しかし公共投資の見直しや法律・制度の改変など、中央政府（国）を主体としたこれまでの地域政策は大きく転換しています。なぜそうした変化が生じているのでしょうか？またその結果、地域経済にどのような影響があるのでしょうか。この授業では、前半で戦後日本の地域政策の手法や特徴、問題点を学び、後半では地域の視点からの新しい政策の姿を探ります。

DPに基づく到達目標

- 《豊かな「知識」》
地域政策に関するニュースや文書を読んで理解することができる。
- 《時代を切り開く「思考・判断・表現力」》
地域課題に対する対策と地域のビジョンを提案することができる
- 《社会で生きる「自立的行動力」》
地域課題や政策を自分自身の生活と関連づけて説明することができる。

教科書 /Textbooks

使用しません。
配布プリントをもとに授業を行います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 本間義人『国土計画を考える』中公新書、1999年。
- 山崎亮『縮充する日本』PHP新書、2016年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 地域経済と地域問題
- 3回 日本の地域政策体系と政策手段
- 4回 特定地域総合開発計画
- 5回 全国総合開発計画（第一次、第二次）について
- 6回 全国総合開発計画（第三次、第四次）について
- 7回 国土のランドデザインについて
- 8回 国土形成計画について
- 9回 地域政策の転換と今後の政策に必要なもの
- 10回 新産業育成と地域政策
- 11回 地域連携と地域政策
- 12回 交流人口と地域政策
- 13回 地域問題解決の新たな手法
- 14回 地域政策と地域経営
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストもしくは小レポート（20%）と期末テスト（80%）により、シラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断し、評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業外学習として、1) 講義後に配布プリントを見直し重要なポイントを3つにまとめること、2) 事前課題がある場合には準備をして講義に臨むことを心がけてください。

地域政策【昼】

履修上の注意 /Remarks

この授業の一部には、学生が主体的に参加するワークショップ形式の内容を含みます。積極的に発言してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域政策、地域問題、地域間格差、新たな公共、地域経営

簿記論 【昼】

担当者名 /Instructor 森脇 敏雄 / Toshio Moriwaki / 経営情報学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ACC110M	◎	○	○		
科目名	簿記論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本講義では、企業活動を記録する方法である簿記を学習します。具体的には、日商簿記3級の主たる範囲を対象とし、論点の解説と問題の演習を行います。日商簿記3級という資格は、公認会計士・税理士といった会計専門職を志す学生はもちろんのこと、企業業績の良し悪しを把握できるようになりたいという希望を持つ学生にとって、必要不可欠なものです。第1回から第7回の講義では、日商簿記3級の主な論点である商品売上の記録方法を中心に、簿記の基本を身につけます。第9回以降の講義では、企業活動を記録した結果である財務諸表の作成に焦点を移し、作成時に必要となる記録・集計の方法を学びます。

教科書 /Textbooks

TAC簿記検定講座「合格トレーニング 日商簿記3級」TAC出版（最新のものを購入してください）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TAC簿記検定講座「合格テキスト 日商簿記3級」TAC出版（最新のものを参照してください）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：簿記の基礎と記帳のルール
- 第2回：商品売買I（商品の仕入・売却）
- 第3回：商品売買II（返品・送料の支払い）
- 第4回：商品売買III（現金・預金）
- 第5回：商品売買IV（手形取引）
- 第6回：銀行借入・株式発行による資金調達
- 第7回：金銭の貸し付け、有形固定資産の取得・売却
- 第8回：確認テストI
- 第9回：決算整理I（現金過不足）
- 第10回：決算整理II（売上原価）
- 第11回：決算整理III（貸倒れ）
- 第12回：決算整理IV（減価償却）
- 第13回：精算表の作成
- 第14回：確認テストII
- 第15回：財務諸表の作成

成績評価の方法 /Assessment Method

課題の提出状況：10%，確認テスト：20%，定期試験：70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

復習を中心に授業時間外の学習に取り組んでください。毎回の講義の最後に問題演習を行い、課題として提出してもらいますので、間違えた問題を再度解答し、満点が取れるまで繰り返してください。

履修上の注意 /Remarks

教科書と電卓を必ず持参してください。担当者が作成したレジユメに基づいて論点の解説を行い、教科書として指定されている合格トレーニングを利用した問題演習を行います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

数学【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 祐治 / Yuji Yoshida / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
MTH110M	○	◎	○		
科目名	数学		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

この授業のねらい・テーマは、以下のとおりである。

1. 経営における数理的表現を理解するため、経済学部で使う数学の基礎を身につける。
2. 習得した知識とスキルをもとに、経営における問題分析や解決に役立てることができる。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

1. 経営における数理的表現を理解し、数理的計算力を身につける。
2. 関数の性質を基礎から学び、微分と積分に関する基本的な計算スキルを身につける。
3. 数理的な観点で、問題を分析するスキルを身につける。

教科書 /Textbooks

池辺、厚山、水谷、松本著、「新しい微分積分」培風館、1600円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「経済・経営系 数学概説」新世社、竹之内著

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|-----------------|---------------------|
| 1回：関数とグラフ | 【極限】、【連続関数】 |
| 2回：関数と微分 | 【接線】、【導関数】 |
| 3回：指数関数と対数関数(1) | 【指数関数のグラフ】 |
| 4回：指数関数と対数関数(2) | 【逆関数】、【対数関数のグラフ】 |
| 5回：導関数(1) | 【n次関数の微分】 |
| 6回：導関数(2) | 【指数関数の微分】、【対数関数の微分】 |
| 7回：微分(1) | 【関数の和・差の微分】 |
| 8回：微分(2) | 【関数の積・商の微分】 |
| 9回：微分法(1) | 【合成関数の微分】、【対数微分法】 |
| 10回：微分法(2) | 【関数の増減】、【関数の凹凸】 |
| 11回：不定積分(1) | 【n次関数不定積分】 |
| 12回：不定積分(2) | 【指数関数・対数関数の不定積分】 |
| 13回：定積分(1) | 【n次関数の定積分】 |
| 14回：定積分(2) | 【指数関数・対数関数の定積分】 |
| 15回：まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート提出(毎回出題)・・・ 30%
期末試験・・・ 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、指定された範囲の予習(60分)と授業内容の復習(60分)を行うこと。

数学【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業を復習し確実に身につけるため、授業で行った範囲から毎回レポートを出題します。レポートは授業内容や例題の解き方を理解していれば必ず分かる内容です。毎回のレポート問題を自分で解くことで確実なスキルアップと自信になります。レポートを確実に提出するよう心掛けてください。

[事前・事後学習の内容]

授業で学習した内容を十分確認し、授業の終わりに出題される問題を解き次回の授業までにレポートとして提出すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この科目で学んだことは経済・経営・情報などで基礎として活用されます。さらに「経営統計I」(MTH150M)を履修すると、確率分布の使い方などがよく分かります。

キーワード /Keywords

関数、微分、積分

情報科学入門 【昼】

担当者名 /Instructor 隈本 覚 / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF100M	◎	○	○		
科目名	情報科学入門			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この科目では2年1学期以降の情報科目を学ぶ上での基礎的な情報科学についての知識を身に付けることを目標としている。内容はプログラミング言語Pythonを用いたプログラミング法、データの読み書きと基本的な集計法などである。また、学んだ知識の理解を深めるため演習を行う。

教科書 /Textbooks

毎回資料(ファイル)を配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辻真吾著「Pythonスタートブック [増補改訂版]」技術評論社
クジラ飛行機著「実践力を身につける Pythonの教科書」マイナビ

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※担当教員により多少進め方、内容は異なりますが、おおよそ以下の内容を扱います。(受講者の理解度等により多少内容を変更する場合があります。)

- 第1回 ガイダンス【情報科学】とは
- 第2回 プログラム手順の考え方【フローチャート】【Flowgorithm】
- 第3回 プログラミング入門。【Python】の起動と文字の表示【文字コード】
- 第4回 【変数】、【型】と代入
- 第5回 Pythonでの四則演算、【順次構造】のフローチャートとプログラム
- 第6回 【分岐構造】のフローチャートとプログラム
- 第7回 【Microsoft Excel】でデータを見る
- 第8回 【numpy】入門。Excelで作成したファイルの読み込み
- 第9回 【配列】の扱い方
- 第10回 【反復構造】のフローチャートとプログラム
- 第11回 【フローチャート】とプログラムの読み取り
- 第12回 【平均値】、【最大値】、【最小値】の計算
- 第13回 応用プログラミング
- 第14回 プログラミング実習
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の取り組み40%、期末テスト60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義前までに次回内容分の資料を確認し、講義後には内容の復習、課題にしっかりと取り組んでください。

履修上の注意 /Remarks

プログラムなどの保存のため、USBフラッシュメモリを準備してください。(この授業向けには1GB(ギガバイト)の容量があれば十分です。使用状況にもよりますが、他の講義での利用を合わせても2GB(ギガバイト)程度あれば十分だと思います。)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

情報科学入門 【昼】

キーワード /Keywords

情報科学入門 【昼】

担当者名 /Instructor 隈本 覚 / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF100M	◎	○	○		
科目名	情報科学入門			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この科目では2年1学期以降の情報科目を学ぶ上での基礎的な情報科学についての知識を身に付けることを目標としている。内容はプログラミング言語Pythonを用いたプログラミング法、データの読み書きと基本的な集計法などである。また、学んだ知識の理解を深めるため演習を行う。

教科書 /Textbooks

毎回資料(ファイル)を配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辻真吾著「Pythonスタートブック [増補改訂版]」技術評論社
クジラ飛行機著「実践力を身につける Pythonの教科書」マイナビ

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※担当教員により多少進め方、内容は異なりますが、おおよそ以下の内容を扱います。(受講者の理解度等により多少内容を変更する場合があります。)

- 第1回 ガイダンス【情報科学】とは
- 第2回 プログラム手順の考え方【フローチャート】【Flowgorithm】
- 第3回 プログラミング入門。【Python】の起動と文字の表示【文字コード】
- 第4回 【変数】、【型】と代入
- 第5回 Pythonでの四則演算、【順次構造】のフローチャートとプログラム
- 第6回 【分岐構造】のフローチャートとプログラム
- 第7回 【Microsoft Excel】でデータを見る
- 第8回 【numpy】入門。Excelで作成したファイルの読み込み
- 第9回 【配列】の扱い方
- 第10回 【反復構造】のフローチャートとプログラム
- 第11回 【フローチャート】とプログラムの読み取り
- 第12回 【平均値】、【最大値】、【最小値】の計算
- 第13回 応用プログラミング
- 第14回 プログラミング実習
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の取り組み40%、期末テスト60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義前までに次回内容分の資料を確認し、講義後には内容の復習、課題にしっかりと取り組んでください。

履修上の注意 /Remarks

プログラムなどの保存のため、USBフラッシュメモリを準備してください。(この授業向けには1GB(ギガバイト)の容量があれば十分です。使用状況にもよりますが、他の講義での利用を合わせても2GB(ギガバイト)程度あれば十分だと思います。)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

情報科学入門 【昼】

キーワード /Keywords

情報科学入門 【昼】

担当者名 /Instructor 池田 欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF100M	◎	○	○		
科目名	情報科学入門			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この科目では2年1学期以降の情報科目を学ぶ上での基礎的な情報科学についての知識を身に付けることを目標としている。内容はプログラミング言語Pythonを用いたプログラミング法、データの読み書きと基本的な集計法などである。また、学んだ知識の理解を深めるため演習を行う。

教科書 /Textbooks

毎回資料(ファイル)を配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辻真吾著「Pythonスタートブック [増補改訂版]」技術評論社
クジラ飛行機著「実践力を身につける Pythonの教科書」マイナビ

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※担当教員により多少進め方、内容は異なりますが、おおよそ以下の内容を扱います。(受講者の理解度等により多少内容を変更する場合があります。)

- 第1回 ガイダンス【情報科学】とは
- 第2回 プログラム手順の考え方【フローチャート】【Flowgorithm】
- 第3回 プログラミング入門。【Python】の起動と文字の表示【文字コード】
- 第4回 【変数】、【型】と代入
- 第5回 Pythonでの四則演算、【順次構造】のフローチャートとプログラム
- 第6回 【分岐構造】のフローチャートとプログラム
- 第7回 【Microsoft Excel】でデータを見る
- 第8回 【numpy】入門。Excelで作成したファイルの読み込み
- 第9回 【配列】の扱い方
- 第10回 【反復構造】のフローチャートとプログラム
- 第11回 【フローチャート】とプログラムの読み取り
- 第12回 【平均値】、【最大値】、【最小値】の計算
- 第13回 応用プログラミング
- 第14回 プログラミング実習
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の取り組み40%、期末テスト60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義前までに次回内容分の資料を確認し、講義後には内容の復習、課題にしっかりと取り組んでください。

履修上の注意 /Remarks

プログラムなどの保存のため、USBフラッシュメモリを準備してください。(この授業向けには1GB(ギガバイト)の容量があれば十分です。使用状況にもよりますが、他の講義での利用を合わせても2GB(ギガバイト)程度あれば十分だと思います。)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

情報科学入門 【昼】

キーワード /Keywords

情報科学入門 【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 芳博 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF100M	◎	○	○		
科目名	情報科学入門			<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>	

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営学入門【昼】

担当者名 /Instructor 石橋 慶一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS100M	◎	○	○		
科目名	経営学入門		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本講義では、経営学で明らかにしようとしている基本的な課題について解説します。企業はヒト・モノ・カネ・情報から成り立っており、経営者はこれらの経営要素を組み合わせることで企業の目標を達成することが求められています。これらの活動を一般的に経営といいます。15回の講義の中では、経営の仕組みとしての株式会社制度や組織、もの作りの仕組みとしての生産システム、ヒトを動かす仕組みとしての人的資源管理、カネの動きを統制する財務管理、社会における企業の新しい役割などを、企業経営の視点から学習することを目指しています。

教科書 /Textbooks

上林憲雄・奥林康司他(2018)『経験から学ぶ経営学入門(第2版)』有斐閣。
(旧版を購入しないよう注意してください。)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○伊丹敬之・加護野忠男(2003)『ゼミナール経営学入門(第3版)』日本経済新聞社。
○坂下昭宣(2014)『経営学への招待(新装版)』白桃書房。

基本的な用語集として、吉田和夫・大橋昭一編(2010)『最新基本経営学用語辞典』同文館出版が有用です。用語集は各概念の確認と理解のために用いる本であり、棒暗記を目的とするものではありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 企業経営概論【企業経営】【経営資源】
- 2回 企業概念およびその目的【企業の3機能】【社会的責任】
- 3回 コーポレート・ガバナンス【株式会社】【所有と経営の分離】
- 4回 経営理念と経営戦略【経営理念】【経営戦略】
- 5回 組織形態【職能別組織】【事業部制組織】
- 6回 組織間関係【系列・下請】【戦略的提携】
- 7回 生産管理【テイラーシステム】【多品種少量生産方式】
- 8回 組織構造と職務設計【分業】【調整】
- 9回 モチベーションとリーダーシップ【動機づけ】【リーダーシップ】
- 10回 雇用システム【終身雇用】【非正社員】
- 11回 報酬制度【年功賃金】【成果主義】
- 12回 国際経営【多国籍企業】【海外直接投資】
- 13回 マーケティング【消費者行動】【流通】
- 14回 会計制度【企業会計】【財務諸表】
- 15回 社会科学における経営学の位置づけ【社会科学】【概念】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験の結果70%程度、小レポートや授業への取り組み等30%程度の割合で評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：事前に授業計画にある項目について教科書や資料を使って予習をおこなうこと。(0.5時間)
事後学習：わからなかった内容について教科書やノートを確認し確実に理解すること。(0.5時間)

経営学入門【昼】

履修上の注意 /Remarks

本科目は必修科目であり、かつ他の経営学関連科目の基礎となっていますので、しっかり学習内容を身に付けるけるようにして下さい。
また、専門用語がたくさん出てきますので、わからない用語があれば調べて確実に理解するようにして下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義の進め方や、成績評価、小レポートに関する詳細な情報は講義初回に説明します。

キーワード /Keywords

社会科学、経営学、動機づけ、リーダーシップ、企業、組織、マーケティング、財務諸表

経営学入門【昼】

担当者名 /Instructor 石橋 慶一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS100M	◎	○	○		
科目名	経営学入門			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本講義では、経営学で明らかにしようとしている基本的な課題について解説します。企業はヒト・モノ・カネ・情報から成り立っており、経営者はこれらの経営要素を組み合わせることで企業の目標を達成することが求められています。これらの活動を一般的に経営といいます。15回の講義の中では、経営の仕組みとしての株式会社制度や組織、もの作りの仕組みとしての生産システム、ヒトを動かす仕組みとしての人的資源管理、カネの動きを統制する財務管理、社会における企業の新しい役割などを、企業経営の視点から学習することを目指しています。

教科書 /Textbooks

上林憲雄・奥林康司他(2018)『経験から学ぶ経営学入門(第2版)』有斐閣。
(旧版を購入しないよう注意してください。)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○伊丹敬之・加護野忠男(2003)『ゼミナール経営学入門(第3版)』日本経済新聞社。
○坂下昭宣(2014)『経営学への招待(新装版)』白桃書房。

基本的な用語集として、吉田和夫・大橋昭一編(2010)『最新基本経営学用語辞典』同文館出版が有用です。用語集は各概念の確認と理解のために用いる本であり、棒暗記を目的とするものではありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 企業経営概論【企業経営】【経営資源】
- 2回 企業概念およびその目的【企業の3機能】【社会的責任】
- 3回 コーポレート・ガバナンス【株式会社】【所有と経営の分離】
- 4回 経営理念と経営戦略【経営理念】【経営戦略】
- 5回 組織形態【職能別組織】【事業部制組織】
- 6回 組織間関係【系列・下請】【戦略的提携】
- 7回 生産管理【テイラーシステム】【多品種少量生産方式】
- 8回 組織構造と職務設計【分業】【調整】
- 9回 モチベーションとリーダーシップ【動機づけ】【リーダーシップ】
- 10回 雇用システム【終身雇用】【非正社員】
- 11回 報酬制度【年功賃金】【成果主義】
- 12回 国際経営【多国籍企業】【海外直接投資】
- 13回 マーケティング【消費者行動】【流通】
- 14回 会計制度【企業会計】【財務諸表】
- 15回 社会科学における経営学の位置づけ【社会科学】【概念】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験の結果70%程度、小レポートや授業への取り組み等30%程度の割合で評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：事前に授業計画にある項目について教科書や資料を使って予習をおこなうこと。(0.5時間)
事後学習：わからなかった内容について教科書やノートを確認し確実に理解すること。(0.5時間)

経営学入門【昼】

履修上の注意 /Remarks

本科目は必修科目であり、かつ他の経営学関連科目の基礎となっていますので、しっかり学習内容を身に付けるけるようにして下さい。
また、専門用語がたくさん出てきますので、わからない用語があれば調べて確実に理解するようにして下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義の進め方や、成績評価、小レポートに関する詳細な情報は講義初回に説明します。

キーワード /Keywords

社会科学、経営学、動機づけ、リーダーシップ、企業、組織、マーケティング、財務諸表

経営管理論 【昼】

担当者名 /Instructor 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS110M	◎	○	○		
科目名	経営管理論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本講義では企業を運営するために必要な経営管理・マネジメントの基礎的知識について講義します。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。
適宜レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

伊丹敬之・加護野忠男『ゼミナール経営学入門（第3版）』日本経済新聞社、2003年。○
坂下昭宣『経営学への招待（第3版）』白桃書房、2007年。○

他、適宜講義中にお知らせします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンスおよび経営学を学ぶ意義
- 第2回 経営戦略とは【経営環境】【経営資源】
- 第3回 企業の成長戦略【ドメイン】【PPM】
- 第4回 企業の競争戦略【三つの基本戦略】【バリューチェーン】
- 第5回 国際化の戦略【現地生産】【空洞化】
- 第6回 組織とは何か1【伝統的管理論と組織】
- 第7回 組織とは何か2【近代的管理論と組織】
- 第8回 現代の経営と組織【組織と個人】【統合】
- 第9回 事例研究
- 第10回 組織形態【職能別組織】【事業部制】【マトリックス組織】
- 第11回 企業の組織文化【価値観】【パラダイム】【行動パターン】
- 第12回 企業のインセンティブ・システム【動機づけ】【誘因】【交換と統合】
- 第13回 企業のリーダーシップ【リーダー】【ビジョン】
- 第14回 現代のマネジメントの課題【知識社会】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験の結果（80%）と学期中の小レポート等提出物の結果（20%）によって評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに次回のトピックスに関するキーワードなど情報収集を行い、整理すること。
授業後はレジュメと参考文献を用いて学んだ諸概念、理論、事例などの情報を整理すること。
また、企業経営に関する新聞記事などによる復習によって、本講義の理解がより深くなります。

履修上の注意 /Remarks

経営学系の基礎科目ですので、予習・出席・復習をしっかりとるようにしてください。

経営管理論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

全員が責任を持って良い教室環境を作るよう、心がけてください。
予習・復習など講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

キーワード /Keywords

現代社会と企業 経営者の役割 戦略 組織 仕事

ファイナンス入門【昼】

担当者名 /Instructor 内田 交謹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS111M	◎	○	○		
科目名	ファイナンス入門		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

金融市場は、事業や消費のために資金を必要とする主体が、余剰資金を有する主体から資金を調達する場であり、経済活動の活性化や貯蓄手段の提供など、非常に重要な役割を果たしている。金融取引を行うためにさまざまな証券が発行され、投資家間で売買されるとともに、金融市場で価格が形成されている。本講義では、金融市場を理解するための基礎的な内容を解説する。講義の前半では、証券の種類や発行規模、証券の発行主体である企業の行動とその見方など、基礎知識の理解に重点を置く。後半では、株式価値計算やポートフォリオの効果など、金融市場のメカニズムを理解し、適切な貯蓄や企業経営を行うための基礎的な理論・計算を学習する。本講義は、2年次以降に配当される企業ファイナンスI・II、証券市場論、企業評価論I, IIの基礎となる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。毎回、Power Point 形式の資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

内田交謹『コーポレート・ファイナンス 改訂版』創成社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンス【講義の目的・概要、金融市場、成績評価方法】
2. 証券の基礎①【債券、株式、発行市場、流通市場、リスク、リターン】
3. 証券の基礎②【国債、イールドカーブ、社債、IPO、公募、私募、第三者割当、投資家】
4. 企業形態と株式会社【有限責任、無限責任、合名会社、合資会社、合同会社、株式会社、所有と経営の分離】
5. 企業金融と財務諸表①【貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書、資金調達、投資、配当】
6. 企業金融と財務諸表②【自己資本比率、ROA、ROE、PBR、PER、配当性向、配当利回り】
7. リスク・リターンの基礎【期待収益率、標準偏差、レバレッジ効果】
8. 前半のまとめと小テスト
9. 現在価値計算【現在価値、複利、利率、割引率、リスクプレミアム】
10. 債券価値の評価【債券価格、利付債、割引債】
11. 株式価値の評価【配当割引モデル、一定配当モデル、一定成長モデル】
12. ポートフォリオ理論①【共分散、相関係数、リスク資産、リスク分散、有効フロンティア】
13. ポートフォリオ理論②【安全資産、CML、シャープレシオ】
14. CAPM【リスク・リターン、ベータ、システムティック・リスク、SML】
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト40%、定期試験60%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に講義資料(Power Point ファイル)を読んでおくこと。講義終了後、必ず復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

会計学入門【昼】

担当者名 /Instructor 森脇 敏雄 / Toshio Moriwaki / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ACC111M	◎	○	○		
科目名	会計学入門			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

1学期に開講されている簿記論の講義では、企業活動を記録する方法および財務諸表を作成する方法を学びます。それに対して本講義では、会計学の理論的な側面およびその役立ちを理解することを重視しています。第1回から第8回の講義では、会計学の基本原則を解説し、その基本原則の枠組みで、会計学の個別論点を解説します。第10回目以降の講義では、財務諸表の読み方や入手方法を知り、その上で、財務諸表を用いた企業分析の実践、粉飾決算等の会計学に関する社会問題の解説を通じて、会計学がどのように役立つのかを考えます。

教科書 /Textbooks

テキストの指定はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

桜井久勝・須田一幸(2018)「財務会計・入門 第12版」有斐閣アルマ

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：財務会計の基本原則
- 第3回：資金調達活動I：企業の設立
- 第4回：資金調達活動II：資金調達
- 第5回：資金投下活動I：設備投資
- 第6回：資金投下活動II：研究開発
- 第7回：営業活動I：商品の仕入・販売
- 第8回：営業活動II：代金の回収
- 第9回：確認テストI
- 第10回：財務諸表の体系
- 第11回：上場企業による情報開示
- 第12回：財務会計の機能
- 第13回：公認会計士制度説明会
- 第14回：確認テストII
- 第15回：財務諸表を用いた企業分析・会計学に関する社会問題

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト：20%，定期試験：80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

確認テストに備えて、毎回の講義後に復習することを心掛けてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者が作成したレジュメに沿って、論点の解説を行います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営統計Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 祐治 / Yuji Yoshida / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
MTH150M	○	◎	○		
科目名	経営統計Ⅰ			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この授業のねらい・テーマは、以下のとおりである。

1. 経営における数理的データ表現を理解するため、統計学の基礎を身につける。
2. 習得した知識とスキルをもとに、経営における統計学的分析方法や解決に役立てることができる。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

1. 経営における数理的データ表現を理解し、統計的処理の基礎を身につける。
2. データの整理の仕方や平均・分散・標準偏差などの基礎から学び、推定や仮説検定に関する計算スキルを身につける。
3. 統計的な観点で、問題を分析するスキルを身につける。

教科書 /Textbooks

P.G.ボーエル著、浅井晃、村上正康訳、「初等統計学」培風館、1700円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○J.C.ミラー著、村上正康訳、「統計学の基礎」培風館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：データの表現 【度数分布表】、【平均】、【分散】、【標準偏差】
- 2回：確率 【確率】、【条件付き確率】
- 3回：確率分布表 【確率分布表】、【期待値】、【平均と分散の性質】
- 4回：確率分布(1) 【独立試行】、【2項分布】
- 5回：確率分布(2) 【確率分布】
- 6回：確率分布(3) 【一様分布】、【連続分布】
- 7回：確率分布(4) 【正規分布】
- 8回：確率分布(5) 【2項分布と正規分布】
- 9回：標本抽出 【中心極限定理】
- 10回：推定(1) 【大標本法】
- 11回：推定(2) 【大標本法】、【2項分布を用いた推定】
- 12回：推定(3) 【小標本法】、【t分布】
- 13回：相関 【相関係数】
- 14回：回帰分析 【最小2乗法】
- 15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート提出(毎回出題)・・・ 30%
期末試験・・・ 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、指定された範囲の予習(60分)と授業内容の復習(60分)を行うこと。

経営統計I【昼】

履修上の注意 /Remarks

新しいことを学ぶたびに、例題を計算して解きます。例題を通して、問題解決方法を具体的に学びます。授業を復習し確実に身につけるため、授業で行った範囲からレポートを出題します。レポートは授業内容や例題の解き方を理解していれば必ず分かる内容です。毎回のレポート問題を自分で解くことで確実なスキルアップと自信になります。必修科目「数学」(MTH100M)を理解していれば、「経営統計」の授業がより深く理解できます。

[事前・事後学習の内容]

授業で学習した内容を十分確認し、授業の終わりに出題される問題の解き次回の授業までにレポートとして提出すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

統計学の基本的な考え方や道具立てを学ぶために、この科目を履修することをぜひお勧めします。

キーワード /Keywords

平均、分散、標準偏差、分布、推定

経営統計II【昼】

担当者名 /Instructor 齋藤 朗宏 / Akihiro SAITO / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
MTH250M	○	◎	○		
科目名	経営統計 II			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

近年、情報科学や統計学、データ分析といった分野は非常に注目されています。経営情報学科においても、そういった流れを踏まえ、1年時に必修科目として「情報科学入門」や「経営統計I」を設置し、こういった学問分野への入り口としています。

本講義では、「経営統計I」で学んだ知識を「情報科学入門」で学んだプログラミングの技術を用いて確認し、また、卒業論文などの研究、また就職後の実務場面においてデータ分析を行うことができるようになるための知識と技術を身につけることを目的としています。

「経営統計I」で学んだ理論について、シミュレーションデータを用いてその通りにデータが振る舞うことを確認する。平均値や分散といった指標をMicrosoft ExcelやPythonで算出する方法を学び、実際に求めてみる。実データを用い、Pythonで統計的仮説検定や回帰分析などを行い、結果を解釈する。といった内容になります。

教科書 /Textbooks

使用しません

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

谷合廣紀(著)「Pythonで理解する統計解析の基礎」技術評論社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション, Excelの使い方【Microsoft Excel】
- 2回 Pythonの使い方とパッケージ【Python】, 【numpy】
- 3回 データの作成と読み込み【csv】
- 4回 1変量データの要約【変数】, 【尺度】, 【度数分布表】, 【ヒストグラム】
- 5回 変数の代表値について【平均】, 【分散】, 【標準偏差】
- 6回 離散的な分布の扱い方【確率】, 【2項分布】
- 7回 母集団と標本【母数】, 【標本】, 【推定値】
- 8回 連続的な分布の扱い方【正規分布】, 【確率密度関数】
- 9回 標本平均の安定性についてI【中心極限定理】, 【標準誤差】
- 10回 標本平均の安定性についてII【中心極限定理】, 【標準誤差】, 【信頼区間】
- 11回 母集団の標準偏差が未知の場合の標本平均の評価【t分布】
- 12回 2つのグループ間での検定による比較【t検定】, 【F検定】
- 13回 2つの変数の間の関係【散布図】, 【相関】
- 14回 ある変数で他の変数を予測する【回帰分析】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...70% レポート...30%
尚、欠席は減点の対象となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎週前もって講義資料を所定の場所にアップロードしますので、ダウンロード、読んでおいてください。

講義中の実習のほか練習問題も出します。講義のあとは、練習問題を解いて理解度を確認してください。

経営統計II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

コンピュータ教室にて、Python、Microsoft Excelを用いた実習を行いますので、コンピュータ教室が利用できるようにIDとパスワードを確認しておいてください。また、1GB以上のUSBメモリを持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

さらに高度な分析を学びたい人向けに、3年時開講科目として「マーケティング・サイエンス」があります。本講義には、そのための準備という位置づけもあります。興味を持った方は、ぜひより高いレベルの分析にチャレンジしてみてください。

キーワード /Keywords

財務会計論Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1 Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ACC210M	◎	○	○		
科目名	財務会計論Ⅰ			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

財務諸表とは、企業が利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する、複数の財務表のことである。財務表には様々な種類のものがある。その中でも主たる財務表、すなわち貸借対照表と損益計算書を中心に勉強する。財務会計論の基礎知識（貸借対照表＝資産、負債、純資産、損益計算書＝収益、費用）と、財務会計の基本的な考え方について学ぶことがねらいである。財務会計論Ⅰでは、まずはじめに、財務諸表の仕組みや歴史、思想を学び、それから全体として、会計学というものがいかなる学問であるかという点について、広い角度から紹介したいと思う。木を見て森(=会計学)を見ずということにならないよう、学問としての会計学、会計を取り巻く諸問題を取り上げたい。また、財務会計論Ⅱでは、財務会計論Ⅰを踏まえて、会計固有の問題について深く掘り下げるので、ⅠとⅡをペアで履修することを推奨する。

教科書 /Textbooks

西澤健次『ホスピタリティと会計』国元書房
配布プリントを用いて、授業を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西澤健次『負債認識論』国元書房○
桜井久勝『財務会計講義』中央経済社○
中央経済社編『新版 会計法規集』中央経済社○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 財務会計（会計学）とは何か？【企業の経済活動】【本体】【写像】【会計責任】
- 2回 財務会計の入門【認識】・【測定】・【伝達】
- 3回 会計の歴史【複式簿記】【古代ローマ起源説】【イタリア中世起源説】
- 4回 損益計算書について【費用】【収益】【利益】
- 5回 貸借対照表について【資産】【負債】【純資産】
- 6回 動態論と静態論【取得原価】【時価】
- 7回 会計公準とは何か【構造的な公準】【要請的な公準】
- 8回 貨幣評価の公準について【財務報告】【非財務報告】
- 9回 財務会計の基礎概念【発生主義会計】【減価償却】
- 10回 収益・費用の認識・測定【実現概念】
- 11回 中間のまとめ
- 12回 財務会計の諸問題その1 - 会計学とは何か？ - 【コンテンラーメン】
- 13回 財務会計の諸問題その2 - 会計学とは何か？【学問としての会計】【学際会計】
- 14回 財務諸表の種類等を知る【ステイクホルダー】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テスト、例年レポート等を含む）... 20% 中間試験... 20% 期末レポート... 60%

財務会計論I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：簿記の復習と、財務諸表で用いる勘定科目の意味を調べ、あらかじめ会計学や財務会計の入門書を読むことをすすめる。財務会計論が簿記検定の延長ではなく、一つの学問であるということを知るために、一例として、青柳文司『会計物語と時間』多賀出版1998年『現代会計の諸相-言語・物語・演劇』多賀出版2008年等の書籍を読むことを薦める。
事後学習：講義内容を復習し、財務会計の知識の習得と、会計の世界や考え方を理解するように努めること。

履修上の注意 /Remarks

「簿記論」を既に受講した場合、財務会計論をより深く理解することができる。当該授業は簿記3級位の簿記一巡の手続きを理解していることを前提にしている。簿記の未履修者は、基礎的な仕訳について、十分な事前学習が必要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中のスマホは禁止である。本年度より、徐々に、学問としての会計学を紹介する授業に変更していきたいと考えている。会計学固有のテクニカルな問題は課題として出す予定である。事前事後学習が不可欠である。

キーワード /Keywords

財務会計論II 【昼】

担当者名 /Instructor 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ACC211M	○	◎	○		
科目名	財務会計論II			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

財務諸表とは、企業が利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する、複数の財務表のことである。財務表には様々な種類のものがある。その中でも主たる財務表、すなわち貸借対照表と損益計算書を中心に勉強する。財務会計論の基礎知識（貸借対照表＝資産、負債、純資産、損益計算書＝収益、費用）と、会計固有の考え方について学ぶことがねらいである。財務会計論IIは、財務会計論Iの応用編（あくまでも動態論）である。財務会計論Iと異なる点は、会計の基本問題に限定している点である。主たるテーマについては、授業内容を参考にしたい。動態論の基本的思考を中心に、現代会計について言及したいと思う。

教科書 /Textbooks

特になし
プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

笠井昭次『現代会計論』慶応義塾大学出版会○
西澤健次『負債認識論』国元書房○
西澤健次『ホスピタリティと会計』国元書房○
中央経済社編『新版 会計法規集』中央経済社○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 会計の考え方【ビジネスの言語】
- 2回 繰延資産の会計【動態】【静態】
- 3回 会計のルールについて【企業会計原則】【企業会計基準】【国際会計基準】
- 4回 費用配分という考え方【期間損益】
- 5回 減価償却の会計処理について【定額法】【定率法】
- 6回 減価償却の考え方について【自己金融】
- 7回 引当金の会計(その1)【退職給付引当金】【賞与引当金】
- 8回 引当金の会計(その2)【条件付債務】【修繕引当金】
- 9回 負債概念について【退職給付会計】
- 10回 新たな負債について【繰延収益】【資産除去債務】
- 11回 実現主義の「実現」概念について【販売基準】
- 12回 工事進行基準と工事完成基準【実現主義の例外】
- 13回 財務諸表の種類など【キャッシュフロー計算書】
- 14回 純資産の会計【払込資本】【留保利益】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト、レポートを含む)...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：簿記論のテキスト(簿記2級程度の仕訳)や、財務会計論の入門書及び教科書(例えば、田中弘、広瀬義州、桜井久勝、新井清光 & 川村義則の最新の書籍)を読むことをすすめる。
事後学習：講義内容を復習し、財務会計の知識の習得と、会計の考え方をまとめて理解するように努めること。

財務会計論II【昼】

履修上の注意 /Remarks

「簿記論」「財務会計論I」を既に受講した場合、財務会計論IIの講義をより深く理解することができる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中のスマホは禁止である。会計の考え方について説明しているので、眠くなると思われるが、授業で話しているポイントについては、レジュメだけに終わらず、財務会計論の教科書に該当する説例(=仕訳等)を調べたり、ネットで、さらに深く調べて自分で考えてみることが重要である。聞き流しでは、会計について考える機会を逸してしまうので、是非、自主的に勉強してもらいたい。

キーワード /Keywords

マーケティングI【昼】

担当者名 /Instructor 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS230M	◎	○	○		
科目名	マーケティングI		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

マーケティングとは、売れる仕組みづくりを研究する学問であり、今日ではすべてのビジネスマンにこの用語と考え方が普及している。本講義では、マーケティングの基本構造を明らかにした後、演習を交えながら効果的・効率的なマーケティングのあり方を理解し、マーケティング課題の解決方法を身につけることを目標にする。そこでマーケティングI(前期)では、マーケティング概論とマーケティング・リサーチについて学んでいく。

教科書 /Textbooks

和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦「マーケティング戦略」有斐閣、
P. Gホーエル「初等統計学」培風館

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

嶋口充輝「戦略的マーケティングの論理」誠文堂新光社
日本マーケティング協会編「マーケティング・ベーシックス」同文館
林田実「サイコロを振って、統計学!」創成社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 マーケティングの意義と歴史 【マネジリアル・マーケティング】
- 第3回 マーケティング・マネジメントの考え方【市場細分化】【ターゲティング】
- 第4回 " 【ポジショニング分析】
- 第5回 ケース演習
- 第6回 " (解説)
- 第7回 科学的方法論
- 第8回 マーケティング・リサーチの進め方【アンケート】【グループインタビュー】
- 第9回 " 【平均値の差の検定】
- 第10回 " 【適合度検定】
- 第11回 " 【回帰分析】
- 第12回 " 【多変量解析】
- 第13回 事例演習
- 第14回 " (解説)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業取り組み度合・・50% テスト・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

マーケティングIでは、実務でよく使われる統計学を紹介するため、「統計学」の履修が効果的学習に繋がる。それができなければ、マーケティングIIから受講しても良い。

自主学習を行い、授業の内容を反復すること。

マーケティングI【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マーケティングII【昼】

担当者名 /Instructor 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS231M	◎	○	○		
科目名	マーケティングII		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

マーケティングとは、売れる仕組みづくりを研究する学問であり、今日ではすべてのビジネスマンにこの用語と考え方が普及している。本講義では、マーケティングの基本構造を明らかにした後、演習を交えながら効果的・効率的なマーケティングのあり方を理解し、マーケティング課題の解決方法を身につけることを目標にする。そこでマーケティングII(後期)では、戦略的マーケティングとマーケティング・ミックスについて学んでいく。

教科書 /Textbooks

和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦「マーケティング戦略」有斐閣

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

嶋口充輝「戦略的マーケティングの論理」誠文堂新光社
日本マーケティング協会編「マーケティング・ベーシックス」同文館
小川孔輔「マーケティング入門」日本経済新聞出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 戦略的マーケティングの考え方【SWOT分析】
- 第3回 " 【戦略ドメイン】 【製品ポートフォリオ分析】
- 第4回 " 【競争市場戦略】
- 第5回 ケース演習
- 第6回 " (解説)
- 第7回 製品戦略 【製品ライフサイクル】
- 第8回 " 【ブランド】 【経験価値】
- 第9回 価格戦略 【需要価格弾力性】 【プロスペクト理論】
- 第10回 プロモーション戦略【広告効果測定】
- 第11回 流通戦略 【チャネル政策】
- 第12回 " 【取引コストの経済性】
- 第13回 ケース演習
- 第14回 " (解説)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業取り組み度合・ 50% テスト・ 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

自主学習を行い、授業の内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

マーケティングII 【昼】

キーワード /Keywords

経営組織論 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS210M	◎	○	○		
科目名	経営組織論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

現代は組織社会と呼ばれます。組織なしで生きていくことが出来る者は一人もいないと言っていい現代において、組織は社会に対して絶大な影響力をもちながら存在しています。本講義では、組織の根本的な性格について考えながら、そうした組織が現代においてどのように成り立ち運営されているか、またどのように運営されることが求められているかについて考えることを目的とします。

教科書 /Textbooks

山下剛『マズローと経営学—機能性と人間性の統合を求めて—』文真堂、2019年、3850円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- C.I.バーナード『[新版]経営者の役割』ダイヤモンド社、1968年(○)
- 三戸公『随伴的結果』文真堂、1994年(○)
- 三井泉編『フォレット』文真堂、2013年(○)
- 岸田民樹編『組織論から組織学へ—経営組織論の新展開』文真堂、2009年(○)
- M.P.フォレット『創造的経験』文真堂、2017年(○)
- 中野裕治・貞松茂・勝部伸夫・嵯峨一郎編『はじめて学ぶ経営学』ミネルヴァ書房、2007年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス 【経営組織論とは?】【現代社会における組織の重要性】
- 第2回 組織とは何か 【組織の概念】【組織の3要素】
- 第3回 管理とは何か① 【プロセス・スクールの考え方】【意思決定論】
- 第4回 管理とは何か② 【関係性への対応】【存在認識】【イナクトメント】
- 第5回 現代社会における組織の問題 【職業人】【現代における自己実現】【管理者と非管理者】
- 第6回 現代組織の諸特徴① 【支配の3類型】【官僚制の概念】
- 第7回 現代組織の諸特徴② 【法・規則の機能性】
- 第8回 現代組織の諸特徴③ 【科学的管理】
- 第9回 動機づけ理論① 【人間関係論】
- 第10回 動機づけ理論② 【ERG理論】【X-Y理論】【動機づけ - 衛生理論】
- 第11回 組織構造① 【ライン組織の基本原則】
- 第12回 組織構造② 【コンティンジェンシー理論】【職能部門制組織】【事業部制組織】
- 第13回 現代組織における管理① 【随伴的結果の概念】【コンフリクト】【統合】【責任】
- 第14回 現代組織における管理② 【官僚制によって生成する2種の随伴的結果】【責任の組織化】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...80% 小レポート・レポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキスト該当箇所を熟読しておいてください。授業後に該当箇所を再読し、復習してください。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)
また、適宜、レポート課題の提出を求めます。
該当箇所の参考文献もよく読んでおいてください。

経営組織論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

「経営学入門」「経営管理論」の内容を復習しておいてください。
状況に応じて臨機応変に対応したいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では、授業中にいろいろと質問します。積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

組織の3要素 官僚制 科学的管理 環境適応 随伴的結果 自由と責任

経営戦略論 【昼】

担当者名 /Instructor 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS211M	◎	○	○		
科目名	経営戦略論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本講義では、経営戦略論の基本的な考え方を理解してもらい、それに基づいて経営戦略策定・実行に関する理論及び分析フレームワークを体系的に示すとともに、事例研究を行います。
本講義の受講をつうじて、さまざまな企業経営や社会に関する諸問題を解決するために必要とされる、経営戦略についての知識を身に付けることをねらいとしています

教科書 /Textbooks

講義はレジュメを中心に進めますので、テキストとしての指定ではありませんが、科目の性格上、講義中に事例の検討を多く行います。そのため以下の文献を（必携本）として指定しています。
東北大学経営学グループ『ケースに学ぶ経営学[第3版]』有斐閣、2019年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

石井淳三・奥村昭博・加護野忠男・野中郁次郎著『経営戦略論(新版)』有斐閣、1996年。(○)
大滝精一・金井一頼・山田英夫・岩田智著『経営戦略(新版) - 論理性・創造性・社会性の追求-』有斐閣、1997年。(○)
浅羽茂・牛島辰男著『経営戦略をつかむ』有斐閣、2010年。(○)
網倉久永・新宅純一郎著『経営戦略入門』日本経済新聞出版社、2011年。(○)
嶋口充輝・内田和成・黒岩健一郎編著『1からの戦略論(第2版)』碩学舎、2016年。(○)
他、参考となる文献を適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンスおよび「経営戦略とは」
- 第2回 議論の歴史1 誕生から1970年代 【成熟化とイノベーション】 【多角化の戦略】
- 第3回 議論の歴史2 1980年代以降 【競争戦略論】 【戦略経営論】 【プロセス戦略論】 【RBV】
- 第4回 成長の戦略1 ドメインの定義 【事業構造の転換】 【ドメインギャップ】
- 第5回 成長の戦略2 事業ポートフォリオの選択 【関連・非関連型】 【シナジー効果】 【コアコンピタンス】
- 第6回 成長の戦略3 プロダクトポートフォリオマネジメント 【PLC】 【経験曲線】 【マトリックス】
- 第7回 成長の戦略4 新規事業創造の戦略 【社内ベンチャー】 【M&A】 【戦略提携】
- 第8回 競争の戦略1 構造分析 【5フォース】 【PEST】 【戦略グループ】 【VRIO】
- 第9回 競争の戦略2 基本戦略 【コストリーダーシップ】 【差別化】 【集中化】 【顧客価値】
- 第10回 競争の戦略3 市場地位と戦略 【リーダー】 【チャレンジャー】 【ニッチャー】 【フォロアー】
- 第11回 競争の戦略4 製品ライフサイクル別戦略 【導入期】 【成長期】 【成熟期】 【衰退期】
- 第12回 競争の戦略5 事業システム 【顧客価値】 【バリューチェーン】 【ビジネスモデル】
- 第13回 戦略と組織1 戦略と組織の適合 【組織構造】 【組織文化】
- 第14回 戦略と組織2 戦略と組織の変革 【イノベーション】 【組織学習】 【知識創造】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験の結果(80%)と学期中の小レポート等提出物の結果(20%)によります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに次のトピックスに関するキーワードなど情報収集を行い、整理すること。
授業後はレジュメと参考文献を用いて学んだ諸概念、理論、事例などの情報を整理すること。
また、企業経営に関する新聞記事などによる復習によって、本講義の理解がより深くなります。

経営戦略論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

「経営管理論」(2018年度生以上は「マネジメント論基礎」)で受講した内容を復習しておいて下さい。
前期に「経営組織論」を履修しておくこと、より学習効果が上がります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習・復習はもちろんのこと、講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。
授業開始までに次のトピックスに関するキーワードなど情報収集を行い、整理すること。
授業後はレジюмеと参考文献を用いて、学んだ諸概念、理論、事例などの情報を整理すること。

キーワード /Keywords

経営環境 経営戦略 成長 競争 イノベーション 組織変革

フィールドワーク基礎論【昼】

担当者名 /Instructor 大津留 香織 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 /Class クラス 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ANT100M	◎			○	
科目名	フィールドワーク基礎論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本講義では、学生自らが野に出て研究活動することを前提に、多様なフィールドワークの事例をとりあげ、フィールドワークのエッセンスを学ぶことを目的としています。本講義におけるフィールドワークとは、対象や地域を直接見て、聞いて、それを伝えることを指し、学生自身ができるよう行動するかを考えながら、紹介する専門家たちの仕事に触れていきます。

インターネットをはじめとした各種のメディアを通じて手に入る情報と、自分自身の身体的・状況的情報を得るフィールドワークはどのように異なるでしょうか。バーチャルな情報が氾濫するなかで、自らのリアリティをどのように確立し、他者を理解し、他者に適切に伝えていくのかは、フィールドワークの大きな課題です。

自らの専門性のなかで、フィールドワークという手法を活用するイメージを持ち、直接対象と出会い、自らの体験を通して考えが容容していくプロセスをたどること、そのなかで「わかる」ことの重要性を説明できるようになることを、本講義の達成目標とします。

教科書 /Textbooks

なし
参考書を講義中に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『フィールドワークへの挑戦-実践-人類学入門』 2006 菅原和孝
- 『調査されるといふ迷惑-フィールドに出る前に読んでおく本』 2008 宮本常一・安溪遊地
- 『ヤシガラ椀の外へ』 2009 ベネディクト・アンダーソン
- 『フィールドワークの絶望と愉悦 山野や村を歩く』 2015 篠原徹
- 『飯場へ: 暮らしと仕事を記録する』 2017 渡辺拓也

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション - 講師紹介とフィールドワークの歴史
- 第2回 他者理解としてのフィールドワーク1
- 第3回 他者理解としてのフィールドワーク2
- 第4回 フィールドワークの成果 - 研究
- 第5回 フィールドワークの成果 - アート
- 第6回 普遍主義と相対主義
- 第7回 フィールドワークとプロパガンダ1
- 第8回 フィールドワークとプロパガンダ2
- 第9回 フィールドワークの計画
- 第10回 身体のフィールドワーク
- 第11回 思考のフィールドワーク
- 第12回 経験主義と客観主義
- 第13回 フィールドワークと認識論
- 第14回 フィールドで生きる1
- 第15回 フィールドで生きる2

内容と進行は、適宜変わることがあります。

フィールドワーク基礎論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

中間レポート20%
期末レポート80%
このほか、適宜フィールドワークに関連する課題を示します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

この講義では、大学や慣れ親しんだ日常から離れ、地域の活動やイベントに参加することを奨励します。
日常的な体験を通して、フィールドワークの意義を考えてください。

履修上の注意 /Remarks

この講義は、学生自身がフィールドワークを用いた研究や活動をすることを前提としています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィールドワーク、参与観察、他者理解、相対主義、共感

心理学概論【昼】

担当者名 /Instructor 田中 信利 / 人間関係学科, 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PSY100M	◎				
科目名	心理学概論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

社会心理学及び臨床心理学の基礎的内容が主要テーマである。まず、人間の社会的行動を、集団における人間関係、自己意識と社会システムの関係などから考察する。次に、心理臨床の観点からパーソナリティ、ストレスと不応、心理的援助を考察する。

教科書 /Textbooks

適宜、レジユメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回オリエンテーション：本講義の概要について
- 第2回 心理学の研究方法について【実証主義】【仮説】【有意性】
- 第3回社会心理学の基礎理論【原因帰属】【認知的不協和】
- 第4回集団における人間関係【リーダーシップ】【集団凝集性】
- 第5回自己と社会の関係【大衆社会化】【自分探し】
- 第6回調査研究の方法【無作為抽出】【測定の妥当性】
- 第7回心理学研究の社会的意義【研究史】【引用文献】
- 第8回パーソナリティに関する心理学研究の歴史【類型論】【特性論】
- 第9回不応の成り立ちについて【防衛機制】【不応】
- 第10回 不応の理解と援助【心理アセスメント】【心理的支援】
- 第11回母子関係の障害について【虐待】【関係性障害】
- 第12回カウンセリングについて【心理療法】【カウンセラー】
- 第13回カウンセリングの理論【精神分析】【行動療法】
- 第14回カウンセリングの実際【心理アセスメント】【病院臨床】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、シラバスに記載されているキーワードについて調べておく。
事後学習として、配布資料やノートをもとに授業の振り返りを行う。

履修上の注意 /Remarks

1学期開講の「基礎心理学」と併せて受講されることが望ましい。
授業終了後は、配布プリント等に目を通して、内容に関する理解を深めること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育心理学【昼】

担当者名 /Instructor 山下 智也 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PSY120M	◎				
科目名	教育心理学				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

教育心理学とは、教育活動を効果的に推進するために役立つ心理学的な知見や技術を提供する学問である。
この授業では、まず【学習】分野として、幼児、児童及び生徒の教育場面に関連する学習理論を学ぶことを通して、より効果的な教育活動を展開するための教育心理学の基礎的事項について理解する。次に【発達】分野として、子どもの発達段階について学んだ上で、教育現場での個々人に応じた教育及び発達支援について理解を深める。さらに、知的障害・発達障害のある幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程についても学ぶ。また、教育心理学の知見を生かした多様な【教授法】について学ぶとともに、学級集団や子どものパーソナリティ理解、教育評価等の理解を深め、教育現場へと【応用】する術を学ぶ。
授業形態は講義とする。授業内で出される課題についてのグループディスカッション、心理学実験、プレゼンテーション等のアクティブラーニングを部分的に取り入れる。

教科書 /Textbooks

適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

やさしい教育心理学 第4版 鎌原 雅彦(著), 竹網 誠一郎(著) 有斐閣

教育心理学【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：教育心理学が心理学の分野においてどのように発展してきたのか、また教育心理学とは何を目的とした学問なのかについて学ぶ。
- 第2回：【学習①】古典的条件づけやオペラント条件づけ等の基本的な学習理論（経験説）について教育との関係から学ぶ。
- 第3回：【学習②】洞察説やサイン・ゲシュタルト説等の基本的な学習理論（認知説）について教育との関係から学ぶ。
- 第4回：【学習③】学習における動機づけや原因帰属理論について学ぶ。また動機づけを高め、維持するための働きかけ方についても学ぶ。
- 第5回：【学習④】記憶に関する基礎理論（長期記憶、短期記憶、忘却等）を学ぶ。また、学習活動における記憶の役割や記憶の定着を促す学習方法について学ぶ。
- 第6回：【発達①】発達に及ぼす遺伝要因と環境要因の相互作用の影響に焦点を当てる。特に発達における環境要因としての教育が果たす役割について理解する。
- 第7回：【発達②】発達初期における養育者との愛着形成と初期経験の重要性について理解する。また、生涯発達の視点からピアジェの認知発達理論についても学ぶ。
- 第8回：【発達③】生涯発達の視点からエリクソンのライフサイクル論を理解し、特に思春期・青年期に関して、発達段階を踏まえた適切な学習方法について理解を深める。
- 第9回：【発達④】発達障害（自閉症スペクトラムや学習障害、注意欠陥多動性障害等）の特徴について学ぶとともに、発達障害児との関わりについて理解を深める。
- 第10回：【教授法①】発見学習や有意味受容学習等の学習指導法について、その特徴と提唱された理論的背景について学ぶ。
- 第11回：【教授法②】プログラム学習やバズ学習、ジグソー学習等の学習指導法について、その長所と短所を理解し、実践場面での使い分け方について学ぶ。
- 第12回：【応用①】学級集団の諸相を仲間集団の発達の変容や測定方法など仲間関係の側面から学ぶ。また教師のリーダーシップや教師期待効果などの教師の役割についても学ぶ。
- 第13回：【応用②】教育場面での評価の形態（絶対評価、相対評価、個人内評価等）について学び、その特徴を理解する。また子どものパーソナリティ理解についても学びを深める。
- 第14回：【応用③】知能の定義や考え方の歴史的変遷や諸理論について学ぶ。また、知能の測定と知的障害の定義及び特徴について理解する。
- 第15回：【応用④】特別な支援を必要とする子ども（知的障害・発達障害等）への対応・支援や、子どもの不適応問題（いじめ・不登校等）への対応・支援について、教育心理学的観点から学ぶ。
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

講義でのミニレポート・・・ 30%
最終試験・・・ 70%

（出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：毎回回の予告を行い、関連キーワードを調べておくなど、次回までの課題を提示する（必要な学習時間の目安は60分）。
事後学習：授業の冒頭で、前回の授業内容について振り返りをしたり、グループで発表し合ったりするため、授業で学習した学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努める。（必要な学習時間の目安は90分）

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義だけでなく、個人ワークやペアワーク、グループワークを行います。
授業への主体的な参加を期待します。

キーワード /Keywords

子どもの発達、子どもの学習、子どもへの関わり方

対人心理学【昼】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PSY211M	◎		○		
科目名	対人心理学				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本講義では対人行動に関わるさまざまな心理的側面について話題とする。講義を中心としながら小規模な実験や調査を体験してもらい、基礎的な知識のみならず最近の研究結果も紹介する予定である。

教科書 /Textbooks

『社会心理学のストーリー』ナカニシヤ出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 対人認知
- 第3回 ステレオタイプ
- 第4回 帰属過程
- 第5回 社会的態度
- 第6回 対人魅力
- 第7回 対人関係の発展と崩壊
- 第8回 達成動機、親和動機
- 第9回 家族、性役割
- 第10回 組織行動、リーダーシップ
- 第11回 友人関係と孤独感
- 第12回 対人葛藤の効果
- 第13回 攻撃と援助
- 第14回 現代社会における対人心理の諸問題
- 第15回 まとめと小テストの解説等

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の学習状況(小テスト4回程度) ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前後に教科書の対応箇所を読んでおくこと。
図書館等で参考になる本を自主的に探しておくことが望ましい。他の心理学関連の授業を合わせて受講するとわかりやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

臨床心理学【昼】

担当者名 /Instructor 田中 信利 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PSY230M	◎				
科目名	臨床心理学				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本講義は、Eriksonの漸成理論に準拠し、人間の各発達段階における発達課題と不適応の関係を概観しながら、不適応のメカニズム、発達援助のあり方について考究する。その際、実践に即した理解を深めるために、事例を紹介しながら進める予定である。

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：臨床心理学とは何か
- 第2回 乳児期の発達課題と不適応：理論編【基本的信頼感】【愛着】
- 第3回 乳児期の発達課題と不適応：事例編【発達障害】
- 第4回 幼児期の発達課題と不適応：理論編【自律性】【積極性】
- 第5回 幼児期の発達課題と不適応：事例編【母子分離】
- 第6回 児童期の発達課題と不適応：事例編【遊戯療法】【自尊心】
- 第7回 児童期の発達課題と不適応：理論編【勤勉性】【箱庭療法】
- 第8回 青年期の発達課題と不適応：理論編【自我同一性】【友人関係】
- 第9回 青年期の発達課題と不適応：事例編【過食症】【同一性拡散】
- 第10回 壮年期の発達課題と不適応：理論編【生殖性】【中年期心性】
- 第11回 壮年期の発達課題と不適応：事例編【自我同一性の再体制化】
- 第12回 老年期の発達課題と不適応：理論編【統合】【抑うつ】
- 第13回 老年期の発達課題と不適応：事例編【心気症】【不定愁訴】
- 第14回 まとめ(その1)：発達課題と不適応の関係について
- 第15回 まとめ(その2)：不適応の理解と援助について

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(5回) ... 50% 試験 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、配布された事例資料を前もって読み、不適応の背景因や治療の流れについて自分なりに理解し、疑問点を整理しておく。
事後学習として、事例を再度読み直し、提出用の用紙に事例の概要をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

本講義を受講前に「心理学概論」を受講しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PSY220M	◎				
科目名	発達心理学				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

発達心理学は、年齢に関連した経験と行動にみられる変化の科学的理解に関する学問である (Butterworth, 1994)。本講義では乳児期から青年期を中心に特徴的なテーマを取り上げ、人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。

また、児童生徒の理解と指導について、発達における障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解や支援について学ぶ。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

藤村 宣之 編著 『発達心理学 周りの世界とかかわりながら人はいかに育つか (いちばんはじめに読む心理学の本3)』 ミネルヴァ書房 ¥2700

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文部科学省 (2011) 「生徒指導提要」 ¥298
その他、授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 乳児は世界をどのように感じるのか【知覚、認知、言語の発達】
- 第3回 ヒトの発達の特徴とは【発達のメカニズム】
- 第4回 ヒトは他者との関係をどのように築くのか【愛着、共同注意】
- 第5回 イメージと言葉の世界【知能の発達、表象能力】
- 第6回 他者とのコミュニケーション、心を推測する力【心の理論】
- 第7回 自己・他者を理解する【自己概念・自己意識】
- 第8回 学習の過程【学習理論、論理的思考】
- 第9回 友人とのかかわりと社会性の発達【ギャング・エイジ、道徳性】
- 第10回 自分らしさの発達について【アイデンティティの形成】
- 第11回 他者を通して見る自己【友人関係、問題行動】
- 第12回 成人期以降の発達段階【親密性、生殖性、人生の統合】
- 第13回 児童生徒の心理と理解【発達障害の基本的理解】
- 第14回 発達障害をもつ児童生徒の心身の発達と学習の過程
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業範囲を予告するので、教科書等の該当部分を予習してくる。また、授業終了後には教科書や配布プリントを用いて各自復習すること。

履修上の注意 /Remarks

発達心理学 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツ心理学【昼】

担当者名 /Instructor 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS221M	◎	○			
科目名	スポーツ心理学				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

スポーツ心理学とは、スポーツに関する心理学的な諸問題について研究する学問領域のことであり、応用心理学の一領域として捉えられています。この授業では、スポーツ心理学の理論とその実践的な利用法について学ぶことを目的とします。本講義の到達目標は、受講生がスポーツによる心理学的な影響について知識を深めることです。

教科書 /Textbooks

教科書については、特に設けません。必要に応じて資料配布や参考図書を紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書については、特に設けません。必要に応じて資料配布や参考図書を紹介します。

スポーツ心理学【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

< 講義計画 >

1. オリエンテーション

本科目の目的、背景、授業の進め方、約束事について説明します。
1回目は特に重要ですので、必ず出席してください。

2. スポーツ心理学とは

スポーツ心理学の歴史について学習を行います。

3. スポーツと動機づけ

やる気や意欲と呼ばれる動機づけのメカニズムについて学習を行います。

4. スポーツにおける目標設定

スポーツにおける目標設定を行うための原理・原則について学習を行います。

5. スポーツとパーソナリティ

パーソナリティを理解しスポーツとパフォーマンスとの関係について学習を行います。

6. 注意と集中

注意様式からみた集中力の理論ならびに注意集中を高める技法について学習を行います。

7. 運動のメカニズム

運動の学習について心理学的な理論について学習を行います。

8. コーチの心理

社会的勢力の視点からスポーツ指導のあり方について学習を行います。

9. 競技の心理

それぞれの競技特性と心理的特性について学習を行います。

10. スポーツメンタルトレーニング

心理的なアプローチの方法であるメンタルトレーニングについて学習を行います。

11. スポーツと発達

生涯発達の視点から学びを深めスポーツのあり方や関わり方について学習を行います。

12. 健康スポーツの心理

ライフスキル、運動・スポーツの心理的効果、ストレスコーピングについて学習を行います。

13. スポーツと臨床

スポーツの場で発生する臨床心理学的問題について学習を行います。

14. まとめ

授業の振り返りを行います。

15. 授業内期末テスト

授業内期末テストを行います。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 1) 試験・テストについて・・・授業内期末テストを実施します。
- 2) 試験以外の評価方法・・・授業内に小レポートを実施します。
- 3) 成績の配分・評価基準等・・・授業内期末テスト50%，受講態度20%，小レポート30%で評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

準備学習として、教科書・参考書またはインターネットを通して各回の授業内容に該当する範囲を読み、授業での議論に備えて下さい。(各回15分)

事後学習として、授業でノートしたことを整理し、関連文献を読むなどして、理解の深化に努めるようにして下さい。(各回15分)

履修上の注意 /Remarks

心理学関係の授業やスポーツ科学関係の授業を受講した場合は、本講義の理解がより深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

キーワード /Keywords

身体適応論 【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS231M	◎	○			
科目名	身体適応論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

人間は、生きていく上で様々な環境に適応しながら生活をしている。その適応能も年齢や体力などによって異なる。その適応能を高め、健康を保持増進する手段として運動が有用である。

本講義では、運動と身体適応能に着目し、その効果などについて理解を深め、個人の健康管理・健康教育のための知識を得ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 発育・発達
- 3回 運動と加齢
- 4回 運動と神経系
- 5回 運動と骨格筋
- 6回 運動と肥満
- 7回 運動とエネルギー代謝
- 8回 バイオメカニクス
- 9回 運動と血圧
- 10回 運動と骨粗鬆症
- 11回 運動と疲労
- 12回 疲労と休養
- 13回 運動と暑熱環境(熱中症の予防)
- 14回 運動への行動変容【メリット、デメリットについて考える】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストなど) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に有益な情報収集と授業内容の復習をおこなうこと。

履修上の注意 /Remarks

「健康科学」とあわせて受講すれば、健康管理、健康教育について、さらに理解を深めることができる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

健康管理、体力、運動適応

トレーニング論【昼】

担当者名 /Instructor 梨羽 茂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS223M	◎	○			
科目名	トレーニング論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

トレーニングの原則・種類・進め方や基本的なトレーニング方法を学び、安全かつ効果的なトレーニング計画の作成ができる知識を身に付ける。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な資料等は配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション トレーニングとは
- 2回 運動器の構造と機能
- 3回 体力とトレーニング
- 4回 トレーニングの条件 トレーニングの原理原則・トレーニングの3条件・健康のためのトレーニングの条件
- 5回 全身持久力のトレーニング
- 6回 筋持久力のトレーニング
- 7回 筋力のトレーニング
- 8回 パワーのトレーニング
- 9回 神経機能のトレーニング 巧緻性・敏捷性・スピード・バランス
- 10回 柔軟性のトレーニング
- 11回 トレーニング効果の測定・評価① 身体組成(レポート①)
- 12回 トレーニング効果の測定・評価② 体力の測定①
- 13回 トレーニング効果の測定・評価③ 体力の測定②(レポート②)
- 14回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 15回 オーバーエクササイズ 身体的側面・精神的側面

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験.. 40% レポート.. 20% 日常の授業への取り組み.. 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行なうこと。

履修上の注意 /Remarks

測定や実習を行う場合がある。
携帯電話の使用・飲食を含め、授業を妨げるような行為には、厳しく対処する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育社会学【昼】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
EDU223M	◎				
科目名	教育社会学				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

社会学的な視点から学校教育と学校をめぐると教育について、国内外の動向も紹介しながら、政策・実践課題について考えていきます。あわせて、子どもや子どもをめぐると社会変化についても理解を深めていきます。
日本については近年の様々な課題や政策動向など状況の変化について理解を深めます。
国外については日本との比較を念頭に置きながら、少子化への対応や、教育への考え方、取り組みの違いなどを理解し、社会全体で子どもを育成していく視点の重要性、教育の役割について説明します。
学校教育と家庭教育、社会教育（地域教育）の連携や協働についても具体的な事例を取り上げながら理解を深めていきます。また、自然災害に対する子どもの安全を含めた、子どもの安全への対応についても事例を取り上げて考えます。

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「1類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回オリエンテーション ー教育に関する社会学とは
- 第2回学校をめぐると近年の動向 ー初等教育
- 第3回学校をめぐると近年の動向 ー中等教育
- 第4回子どもをめぐると社会の変化 ー少子高齢化、地域・社会の変容
- 第5回諸外国の子ども・子育ての動向 ー家族支援、教育支援
- 第6回諸外国の教育 ー学校教育
- 第7回諸外国の教育 ー青少年の社会参加・参画
- 第8回日本における教育政策・改革の動向
- 第9回子どもの生活の変化と指導の課題 ー家族、少子化
- 第10回子どもの生活の変化と指導の課題 ー孤食、栄養と食育
- 第11回子どもの生活の変化と指導の課題 ーメディアと遊び
- 第12回子どもの生活の変化と指導の課題 ー社会性、自主性
- 第13回学校と地域の連携 ー地域の変化、学校と地域の連携・協働、開かれた学校づくり
- 第14回学校や子ども活動での子どもの安全
- 第15回子どもの生活安全、交通安全、災害安全

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小レポート・・・30%、課題レポート・・・70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

子どもや教育に関する情報収集を行い、統計や社会動向、社会の反応などを踏まえて、予習に関しては授業時の小レポートに、復習に関しては課題レポートに記載すること。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

履修上の注意 /Remarks

教職や社会教育主事資格の関連科目とあわせて受講すると、本講義の理解がより深いものになります。

教育社会学 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実践的な取り組みを視聴覚教材を活用しながら紹介します。

キーワード /Keywords

公教育制度、地域、連携、協働、学校安全

カウンセリング論【昼】

担当者名 /Instructor 田中 信利 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PSY231M	◎				
科目名	カウンセリング論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本講義は、心理カウンセリングに関する基礎的知識の習得を目指す。カウンセラーとクライアントとの二者関係で成立する心理カウンセリングにおいて、カウンセラーとクライアントはそれぞれどのような役割を担いながら、カウンセリングを進めていくのかについて、カウンセリングの事例や逐語録等を手掛かりとして分析的に解明し、その実態を明らかにする。
なお、教員が提示するテーマや質問について小集団で討論で行い、討論された内容を全体に返して論点の整理を行いながら、最適解を導き出すアクティブ・ラーニングの手法によって授業を進めていく予定である。

教科書 /Textbooks

毎回、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：心理カウンセリングとは何か
- 第2回 カウンセラーの役割について(1)【ラポール】【受容的態度】
- 第3回 カウンセラーの役割について(2)【感情の反射】【傾聴】
- 第4回 カウンセラーの役割について(3)【感情の明確化】【共感的理解】
- 第5回 クライアントの役割について【自己内省】【自己受容】
- 第6回 カウンセリングの実際【援助的技法】【ノンバーバル・コミュニケーション】
- 第7回 カウンセリングのプロセス【主訴】【中断・終結】
- 第8回 心理カウンセリングの流派(1)【精神分析】【洞察】
- 第9回 心理カウンセリングの流派(2)【行動療法】【系統的脱感作法】
- 第10回 心理カウンセリングの流派(3)【認知療法】【認知の歪み】
- 第11回 心理カウンセリングの流派(4)【マインドフルネス】【うつ】
- 第12回 心理カウンセリングの流派(5)【回想法】【進路選択】
- 第13回 心理アセスメント【受理面接】【治療契約】
- 第14回 カウンセリングの実際：心理臨床家による講演
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 40% 試験 ... 40% 平素の成績 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で配布した資料等をもとに授業内容を振り返り、整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

本講義を受講する前に、1学期開講科目「臨床心理学」を受講しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

カウンセリング論 【昼】

キーワード /Keywords

健康科学【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS230M	◎	○			
科目名	健康科学				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康とは、人間の幸福にとって、もっとも重要なことの一つである。健康であるということは、人々がそれぞれの人生を豊かに過ごすための基本的条件であるといえる。
本講義では、健康とはどういう状態か。また、それを保持増進するためにはどうしたらいいのかということに主眼をおき、自分自身のライフスタイルと健康について考える。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康の概念
- 3回 日本と世界の健康指標
- 4回 日本の健康施策と健康観の変遷
- 5回 栄養・食生活と健康
- 6回 食育
- 7回 身体活動・運動と健康
- 8回 エクササイズガイド
- 9回 休養・こころの健康づくり
- 10回 ストレスとメンタルヘルス
- 11回 睡眠と健康
- 12回 タバコ・アルコールと健康
- 13回 産業保健 (VDT作業)
- 14回 ヘルスプロモーション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小テストなど) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に有益な情報収集と授業内容の復習をおこなうこと。

履修上の注意 /Remarks

「身体適応論」とあわせて受講すれば、健康の保持増進・運動の効果について、さらに理解を深めることができる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

健康教育、ライフスタイル

身体コミュニケーション論【昼】

担当者名 /Instructor 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS200M	◎	○			
科目名	身体コミュニケーション論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

皆さんは、家族や友人、先輩・後輩など様々な人と関わりを持って生活を送っていると思います。人間関係を良好にするためには、当然、相手とのコミュニケーションが必要不可欠です。コミュニケーションを上手に取るためには、送り手から受け手に情報をきちんと伝達することが重要になります。受け手が他者になることもあれば、自分自身になることもあります。この授業では、身体活動やスポーツ活動を通じて、他者や自己に対するコミュニケーションにおける基礎的な知識について学習し、コミュニケーションに対する理解を深め、最終的には自らのコミュニケーションスキルの向上を目指している。

教科書 /Textbooks

基本的に資料配布を行いますので、教科書は特に設けません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 コミュニケーションについて【コミュニケーションとは?】
- 第3回 身体活動やスポーツ活動【コミュニケーションの重要性】
- 第4回 身体活動やスポーツ活動【コミュニケーションの実践】
- 第5回 パーバルコミュニケーション【パーバルコミュニケーションの特徴】
- 第6回 パーバルコミュニケーション【PREP法の実践】
- 第7回 ノンバーバルコミュニケーション【ノンバーバルコミュニケーションの特徴】
- 第8回 ノンバーバルコミュニケーション【ジェスチャー】【目】【身体接触】
- 第9回 ノンバーバルコミュニケーション【対人空間】【バラランゲージ】
- 第10回 ノンバーバルコミュニケーション【ノンバーバルコミュニケーションの実践】
- 第11回 タイプ別にみたコミュニケーションスタイル【自己分析】
- 第12回 タイプ別にみたコミュニケーションスタイル【他者分析】
- 第13回 身体活動を用いたコミュニケーショントレーニング
- 第14回 まとめ
- 第15回 授業内期末テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

- 1) 試験・テストについて・・・授業内期末テストを実施
- 2) 試験以外の評価方法・・・授業内に小レポートを実施
- 3) 成績の配分・評価基準等・・・授業内期末テスト50%, 受講態度20%, 小レポート30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習においては、教科書・参考書またはインターネットを通して各回の授業内容に該当する範囲を読み、授業での議論に備えること。事後学習においては、授業でノートしたことを整理し、関連文献を読むなどして、理解の深化に努めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学総論 【昼】

担当者名 /Instructor 林田 幸広 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW100M	○	○	◎		
科目名	法学総論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この授業は1年次・第一学期に配当されていることからわかるように、法学部の専門科目を学ぶにあたって必要な基礎知識や基本的な法学の考え方を習得するための科目です。各分野の法律は個々バラバラにあるわけではなく、それらを一貫した背景や考え方をもっています。そうしたいわば「太い幹」を概説することが授業の中心におかれます。この授業を通して受講者が①法学の全体像を大まかにでもイメージできるようになること、②この先に学ぶ個別の法律がその全体といかなる関係にあるのかを意識できるようになること。大きくこの二点を本講義の到達目標とします。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。授業はテーマごとに配布するレジュメをもとに進めます。各回の内容やテーマに関連した文献を紹介できる場合には、授業の中でお伝えします。なお、最新の六法を各自で持参してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 伊藤正巳・加藤一郎編、『現代法学入門〔第4版〕』、有斐閣双書、2005年。
- 稲正樹ほか、『法学入門』、北樹出版、2019年。
- 中山竜一、『ヒューマニティーズ 法学』、岩波書店、2009年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス&イントロ：実年齢の変更は裁判で認められる(べき)か…【法化社会】
- 2回 法の目的①：もしも法がなかったら？…【法の支配】と【法治主義】
- 3回 法の目的②：法が法である条件は？…【法と道徳】、【法と強制】
- 4回 法の目的③：法は正義の味方ではない…【法における正義】
- 5回 立憲主義①：個人を起点に社会秩序を考える理由…【社会契約論】
- 6回 立憲主義②：もしポテトガードが殴ってきたら？…【国家=権力】の両義性、【違憲審査】
- 7回 立憲主義③：多数決で決めてはいけないもの…【民主主義】、【公/私の区別】
- 8回 法の体系①：さまざまな分類…【法の位階】、【公法/私法】、【実体法/手続法】
- 9回 法の体系②：民事と刑事、原理から見る「守備範囲」…【私的自治】、【国家刑罰権】
- 10回 法の体系③：賛成ですか/反対ですか、それはなぜですか？…【死刑制度】
- 11回 法の体系④：近代法から現代法へ…【法の機能】から法体系を俯瞰する
- 12回 裁判と法①：裁判の種類と関連性…【裁判制度】、【裁判手続】
- 13回 裁判と法②：法解釈と思考法…【要件-効果】
- 14回 裁判と法③：選ばれたらどうします？…【国民の司法参加】
- 15回 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業全体の内容についての理解度をはかる定期試験…100%
- ・ 授業の進捗状況により、コメントカードの提出を求めることがあります。その場合、優れたコメントは成績評価に加味します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 【事前学習】：配布プリントを確認し、意味の分からない言葉を調べ、疑問箇所をピックアップしておいてください。
- 【事後学習】：授業後、講義内容を自身で振り返るようにしてください。

法学総論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

法(学)には、たいてい原則のようなものが備わっています。しかし同時に例外的な考えをとることも少なくありません。この授業で扱うのは体系的な考え方ですので、受講者はまず原理や原則を着実に理解するようにしてください。そしてそのうえで、例外的な考えや細かな考えに繋げて行ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ほとんどの学生が横並びに同じスタートラインを切れるところが法学の「強み」だと思います。臆することなく、着実なスタートをしましょう。

キーワード /Keywords

法の目的、法の機能

日本国憲法原論【昼】

担当者名 /Instructor 石塚 壮太郎 / ISHIZUKA, Sotaro / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW120M	○	○	◎		
科目名	日本国憲法原論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

日本国憲法は、一方では国家の「統治構造（国家の組織や権限行使の仕組み）」を規定し、他方では個々の国民に「人権」を保障している。

この講義のねらいは、次の4つである。

- ①統治の基本原則（国民主権や権力分立）、
- ②国家の組織や権限（国会、内閣、裁判所）、
- ③人権保障の基本構造、
- ④いくつかの人権保障場面。

教科書 /Textbooks

斎藤一久・堀口悟郎編著『図録 日本国憲法』（弘文堂、2018年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 芦部信喜『憲法（第7版）』（岩波書店、2019年）
- 野中俊彦ほか著『憲法（第5版）』（有斐閣、2012年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 総論 -イントロダクション
- 第2回 統治の諸原則 -国民主権と権力分立
- 第3回 代表民主制と選挙（権）
- 第4回 国会
- 第5回 内閣
- 第6回 裁判所
- 第7回 平和主義
- 第8回 人権総論
- 第9回 信教の自由
- 第10回 表現の自由
- 第11回 経済的自由
- 第12回 人身の自由
- 第13回 社会権
- 第14回 平等権
- 第15回 幸福追求権

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験（100%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書等の該当箇所を事前・事後に読む。

履修上の注意 /Remarks

小型六法を持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日本国憲法原論【昼】

キーワード /Keywords

国民主権 権力分立 代表民主制 国会 内閣 裁判所 人権保障

民法入門【昼】

担当者名 清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業の概要 /Course Description

民法を理解するためには、まず民法の全体像を知る必要がある。この授業では、民法を初めて学ぶ者を対象に、民法が果たしている役割、民法の構造、民法に定められている規定の概要などについて分かりやすく講義を行う。全15回の講義を通して、民法の全体像を理解し、これから大学で民法を学んでいく上で必要な能力を身につけてもらうことが、この授業の目的である。

教科書 /Textbooks

鎌野邦樹『今日から役立つ民法』（ナツメ社、平成30年） 本体1,400円＋税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 民法とは何か？
- 第3回 民法の構造
- 第4回 民法総則(1)【自然人と法人，権利能力，意思能力，行為能力】
- 第5回 民法総則(2)【法律行為と意思表示】
- 第6回 民法総則(3)【代理，時効】
- 第7回 物権(1)【物と物権】
- 第8回 物権(2)【物権変動】
- 第9回 債権(1)【債権と契約】
- 第10回 債権(2)【債務不履行】
- 第11回 債権(3)【債権譲渡，債権の消滅】
- 第12回 担保(1)【担保とは何か？】
- 第13回 担保(2)【物的担保と人的担保】
- 第14回 親族，相続
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

この授業では予習を行う必要はないが、授業終了後は必ず復習を行い、理解を定着させること。

履修上の注意 /Remarks

授業中に条文を参照することができるように、必ず最新の六法（ポケット六法等の小型のもので良い）を持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

民法を初めて学ぶ者でも十分理解することができるように、工夫して授業を進めていくので、安心して受講してもらいたい。また、毎回の授業終了前に質問時間を設けるので、分からないことは放置せず、積極的に質問して欲しい。

キーワード /Keywords

民法 入門

憲法人権論 【昼】

担当者名 /Instructor 中村 英樹 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW220M	◎	○	○		
科目名	憲法人権論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

憲法学の中の、人権論といわれる領域を学ぶ。
人権という概念をめぐる思想史、体系論などの総論を踏まえた上で、類型化された憲法上の権利の検討へと進んでいく。特に原理論的考察を重視する。
それらを通じて、人権が「憲法上の権利」として保障されていることの意義、具体的適用のあり方、社会における問題状況等への理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

斎藤一久・堀口悟郎 編『図録 日本国憲法』（弘文堂、2018年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 芦部信喜『憲法 第7版』（岩波書店、2019年）
- 長谷部恭男『憲法 第7版』（新世社、2018年）
- 毛利透ほか『リーガルクエスツ 憲法II 人権 第2版』（有斐閣、2017年）
- 浦部法穂『憲法学教室 第3版』（日本評論社、2016年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 人権思想史-人権と憲法上の権利
- 第2回 憲法上の権利の類型
- 第3回 権利の享有主体
- 第4回 制約原理-公共の福祉
- 第5回 幸福追求権
- 第6回 平等権
- 第7回 思想・良心の自由
- 第8回 表現の自由
- 第9回 信教の自由①
- 第10回 信教の自由②-政教分離原則
- 第11回 職業選択の自由と財産権
- 第12回 受益権
- 第13回 社会権①-生存権
- 第14回 社会権②-その他の社会権
- 第15回 参政権

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内容の理解度をはかる期末試験による（100％）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業計画や講義の進行を参考に、指定教科書や参考図書の次回講義該当部分を予め読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

「日本国憲法原論」を予め履修しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

憲法人権論 【昼】

キーワード /Keywords

基本的人権 憲法上の権利

刑法総論【昼】

担当者名 /Instructor 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 /Credits 単位 4単位 /Semester 学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW230M	◎	○	○		
科目名	刑法総論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

「刑法総論の体系的展開」(Criminal Law, General Theory)
 この講義が対象とする「刑法総論」は、すべての犯罪に共通する法理論と犯罪の一般的な成立要件の体系(犯罪論体系)を考察する領域です。この意味で、刑事法(犯罪と刑罰に関する法)の起点となる科目です。これに対して、「刑法各論」(刑法各論I・II)は、殺人罪や窃盗罪といった個別の具体的な犯罪の成立要件を考察する領域です。
 刑法の基本原則や基本概念、犯罪の成否に関する一般的な法理論を体系的に考察するとともに、具体的な事例をもとに講義を展開して論理的思考力を習得することを目的としています。刑法における基本的な思考方法を理解して、刑法の基本的な事項や問題点についての考え方を学んでください。
 この講義では、刑法学の学習を通じて、社会科学で要求される問題発見能力、体系的思考力、論理的思考力を身につけていきます。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布します。「学習支援システム UKK Moodle」から各自がダウンロードしてください。
 初回の講義において、テキストや参考書について説明します。
 ①六法(2020年版・令和2年版)
 『ポケット六法』(有斐閣)や『デイリー六法』(三省堂)、『法学六法』(信山社出版)といった「最新の」六法を必携してください(種類・出版社を問わない)。
 ②刑法総論のテキスト(基本書)
 講義の予習・復習、および自習のため、テキスト(基本書)を必携してください。
 只木誠『コンパクト刑法総論』(新世社・2018.06)。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 井田良『基礎から学ぶ刑事法(有斐閣アルマ)』6版(有斐閣・2017.03)。
- 井田良『入門刑法学・総論(法学教室Library)』2版(有斐閣・2018.11)。
- 井田良『講義刑法学・総論』2版(有斐閣・2018.10)。
- 高橋則夫『刑法総論』4版(成文堂・2018.10)。
- 佐伯仁志『刑法総論の考え方・楽しみ方』(有斐閣・2013.04)。
- 大塚裕史/十河太郎/塩谷毅/豊田兼彦『基本刑法I総論』3版(日本評論社・2019.03)。
- 十河太郎/豊田兼彦/松尾誠紀/森永真綱『刑法総論判例50!(START UP)』(有斐閣・2016.12)。
- 山口厚/佐伯仁志(編)『刑法判例百選I総論』7版(有斐閣・2014.07)。

刑法総論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(1) 解説講義とケース・スタディを組み合わせる講義を進めます。
 (2) ケース・スタディでは、解説講義の範囲から重要な論点を取り上げて、この論点を争点とする事例問題に検討を加えます。事例を検討していくなかで、前回の講義で学んだ知識を事案の解決にどのように活用していくのかを学んで、理解を実践的に発展・深化させていきましょう。

※諸事情により進捗状況が前後することがあります。

- 1回 ガイダンス・犯罪論の基本構造
- 2回 刑法の基本原理
- 3回 罪刑法定主義
- 4回 行為論と構成要件該当性
- 5回 ケース・スタディ(1)【設例01/02】
- 6回 不作為犯論
- 7回 因果関係(条件関係と法的因果関係)
- 8回 ケース・スタディ(2)【設例03/04】
- 9回 故意論
- 10回 過失論
- 11回 ケース・スタディ(3)【設例05/06】
- 12回 錯誤論(構成要件的錯誤)
- 13回 正当化事由・正当行為・被害者の同意
- 14回 ケース・スタディ(4)【設例07/08】
- 15回 正当防衛
- 16回 緊急避難
- 17回 ケース・スタディ(5)【設例09/10】
- 18回 責任論の基礎・原因において自由な行為
- 19回 違法性の意識と違法性の錯誤(正当化事情の錯誤)
- 20回 ケース・スタディ(6)【設例11/12】
- 21回 未遂罪(実行の着手)と予備罪
- 22回 不能犯・中止犯
- 23回 ケース・スタディ(7)【設例13/14】
- 24回 共犯論の基礎(正犯と共犯の区別)・間接正犯
- 25回 共同正犯の基礎(異なる犯罪の共同正犯、共犯と過剰)
- 26回 ケース・スタディ(8)【設例15/16】
- 27回 共同正犯の諸問題(共謀共同正犯・承継的共同正犯・共犯と錯誤)
- 28回 共犯の従属性と処罰根拠、教唆犯と幫助犯
- 29回 ケース・スタディ(9)【設例17/18】
- 30回 罪数論・科刑論(犯罪の個数と犯罪の競合)

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験...30%、期末試験...70%
 この他に課題レポートや随時実施する小テストの成績を成績評価において考慮する場合があります。
 ※詳細については、初回の講義で説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキスト(基本書)の該当箇所を熟読したうえで、分からない言葉を調べ、疑問点やよく解らない箇所にマーキングをしてください。できれば講義該当箇所の記載内容を要約して講義に臨みましょう。疑問を持って講義に臨むことが重要です。積極的に質問して、それらの疑問を講義の中で解消していきましょう。
 講義ではしっかりノートを取りましょう。知らなかった事項や不足していた事項をメモしておいて、講義後にノートを整理して基本書・参考書・判例集等で不足事項を補いましょう。
 ケース・スタディでは、提示された事例問題について1,000字から1,500字程度の解答をあらかじめ作成して講義に参加することを勧めます。講義では、自分の解答を批判的に検討して、解説と自分の解答との論理展開の違いを考えてみましょう。不足していた知識を補足するだけでなく、自分の考え方を修正することを狙いとしています。講義後に、解説を元にもう一度解答を作成しなおすと一層効果的です。 ※「論理」: 思考や議論の順序や関連性、物事の法則的な結び付き。

履修上の注意 /Remarks

この科目を受講した後に、「刑法各論I」および「刑法各論II」を受講することを強く推奨します。さらに、「刑事訴訟法I・II」、「犯罪学」および「刑事司法政策I・II」、関連する他の刑事法系科目を受講することも勧めます。
 また、「法学検定試験」の受験を勧めます(毎年11月下旬から12月初頭実施、出願は9月から10月)。この試験は法学に関する学力を客観的に評価する試験です。夏季休業期間を活用して問題集に取り組むことで、憲法・民法・刑法といった基本法科目について、基本的な知識や能力を身に付けることができるでしょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

犯罪の成否とその根拠という共通の関心についても、さまざまな考え方があることを知り、どのようにして問題を説得的に説明して解決していくのか、その方法の一端を学んで頂ければと思います。

キーワード /Keywords

刑事法、刑法、刑法総論、刑法各論、犯罪論、刑罰論

社会法総論 【昼】

担当者名 /Instructor 岡本 舞子 / OKAMOTO MAIKO / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW140M	○	◎	○		
科目名	社会法総論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

社会法は、私たちの日々の生活や職業活動を支える重要な法領域です。社会法として捉えられるのは、主として労働法と社会保障法であり、本講義では、これら2領域の基本的な問題について学びます。
講義では、具体的事例を挙げながら、労働者が労働する過程で起こる諸問題（労働法領域）や、私たちが生活する上で生じる諸問題（社会保障法領域）に、法がどのように関わるのかについて、理解を深めます。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。適宜、レジュメ・資料等を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

予定は以下の通りですが、順序等につき変更の可能性もあります。

- 第1回 イントロダクション～社会法とは何か
- 第2回 労働法上の当事者
- 第3回 労働契約の締結過程と成立
- 第4回 労働契約上の権利・義務
- 第5回 賃金・労働時間の規制
- 第6回 休憩・休日と年次有給休暇の規制
- 第7回 休業等の規制
- 第8回 解雇に関する規制
- 第9回 労災保険制度①(概論、業務災害)
- 第10回 労災保険制度②(業務上疾病)
- 第11回 労災保険制度③(通勤災害)
- 第12回 労災民訴
- 第13回 雇用保険
- 第14回 労働法・社会保障法領域における近年の動向
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：配布資料に目を通すこと。
事後学習：文献等を読み、授業で扱った内容を理解すること。学習した内容をまとめ、知識を定着させること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会法総論 【昼】

キーワード /Keywords

親族法 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW265M	◎	○	○		
科目名	親族法		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのキャリアマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

民法第四編親族が主な講義の内容です。民法第五編相続の概要も説明します。婚姻、離婚、親子、親権、後見、扶養、相続を規律の対象とする家族法（親族法・相続法）はとても身近な内容をもっています。それだけに、人はともすると、一般常識によって問題を解決できると思い込みがちです。民法は、長い間の人間の経験の積み重ね、歴史の所産ですから、われわれは現行制度の歴史的位置づけを学ばなければなりませんし、判例を通じて生きた法の姿を学ぶ努力を怠ってはなりません。

教科書 /Textbooks

松川正毅著『民法 親族・相続[第6版]』有斐閣 2019年 2,400円+税
水野紀子他編著『民法判例百選III親族・相続[第2版]』有斐閣 2018年 2,200円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 泉久雄『親族法』有斐閣 1997年 3,500円
- 泉久雄他編著『家族法基本判例32選』信山社 2005年 2,625円
- 中川善之助=泉久雄『相続法[第4版]』有斐閣 2000年 6,000円
- 有地亨『新版家族法概論[補訂版]』法律文化社 2005年 3,800円
- 二宮周平『家族法(第3版)』新世社 2009年 3,200円
- 窪田充見『家族法第4版』有斐閣 2019年 4,300円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 家族法を学ぶための基礎知識【家族の機能】【家族法の独自性】【親族関係】
- 2回 婚姻制度①【婚姻制度史】【婚約】
- 3回 婚姻制度②【内縁】【婚姻の成立】
- 4回 婚姻制度③【婚姻の効果】
- 5回 離婚制度①【離婚制度史】【協議離婚】
- 6回 離婚制度②【裁判離婚】【裁判離婚】
- 7回 離婚制度③【離婚の一般的効果】【親権者決定】【面会交流】
- 8回 離婚制度④【離婚の財産的效果】【財産分与】
- 9回 親子制度①【実子】【嫡出推定】【認知】
- 10回 親子制度②【養子】【普通養子】【特別養子】
- 11回 親子制度③【親権】【身上監護】
- 12回 親子制度④【親権】【財産管理】【親権濫用】【後見】
- 13回 扶養制度【扶養義務】【生活保持】【生活扶助】
- 14回 法定相続制度【相続人】【相続分】【相続財産】【単純承認】【相続放棄】【遺産分割】
- 15回 遺言相続制度【遺言】【遺言執行】【遺留分】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 40% 定期試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に教科書の該当部分、参考判例を読んでおいてください。事後は、講義の内容や教科書、参考書を参照しながら、論点ごとに講義ノートを作成して理解を深めてください。

親族法 【昼】

履修上の注意 /Remarks

「民法入門」を履修し、「民法総則」と併せて履修している場合は、本講義の内容の理解を一層深めることができます。
講義には必ず六法を持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「親族法」を基礎に家族の財産関係を規律する法である「相続法」も履修するよう心掛けてください。

キーワード /Keywords

親族、婚姻、婚約、内縁、協議離婚、裁判離婚、実子、養子、親権、後見、扶養、相続人、相続分、遺産分割、遺言、遺留分

物権法 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW260M	◎	○	○		
科目名	物権法		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

この授業では、民法第2編「物権」（民法175条～398条の22）のうち、「担保物権法」の授業で取り扱う内容を除いた部分について講義を行う。全15回の講義を通して、物権法の基本的事項に関する知識と法解釈の技能を身につけてもらうことが、この授業の目的である。

教科書 /Textbooks

淡路剛久ほか『民法II-物権（第4版補訂）』（有斐閣Sシリーズ，令和元年） 本体1,900円＋税
このほか、適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

潮見住男・道垣内弘人編『民法判例百選 総則・物権（第8版）』（有斐閣，平成30年） 本体2,200円＋税
このほか、必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス，序論(1)【物権の意義と性質】
- 第2回 序論(2)【物権の種類，物権の客体】，物権の優先的効力
- 第3回 物権的請求権，物権の変動
- 第4回 不動産物権変動における公示(1)【公示方法としての登記，「対抗」の意義】
- 第5回 不動産物権変動における公示(2)【登記を必要とする物権変動】
- 第6回 不動産物権変動における公示(3)【第三者の範囲，登記の手続】
- 第7回 動産物権変動における公示
- 第8回 動産物権変動における公示（続き），立木等の物権変動と明認方法，物権の消滅
- 第9回 占有権(1)【意義，占有の成立と態様】
- 第10回 占有権(2)【占有権の取得，占有の効果，占有権の消滅】
- 第11回 所有権(1)【意義，所有権の内容，相隣関係，所有権の取得】
- 第12回 所有権(2)【共有，建物の区分所有】
- 第13回 地上権，永小作権
- 第14回 地役権
- 第15回 入会権，まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

この授業では予習を行う必要はないが，授業終了後は必ず復習を行い，理解を定着させること。

履修上の注意 /Remarks

民法総則の講義科目を受講済みであることが望ましい。
授業中に条文を参照することができるように，必ず最新の六法（ポケット六法等の小型のもので良い）を持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回の授業終了前に質問時間を設けるので，分からないことは放置せず，積極的に質問して欲しい。

キーワード /Keywords

民法 物権

行政法総論 【昼】

担当者名 /Instructor 堀澤 明生 / Akio Horisawa / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 4単位 /Semester 学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW222M	◎	○	○		
科目名	行政法総論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

行政法とは、行政活動を法的に秩序付けることを目的とする法の体系です。この秩序付ける、というのは、違法にならないように是正することだけでなく、法の趣旨を実効的たらしめることをも含みます。
 こうした行政活動は無数の法律によって行われておりますので、行政法総論ではこれらに共通する原理や”物差し”が教科書には書いてあります。まずはこういった概念を説明し、行政法の基本的な知識を身に付けていただきます。
 他方で、重要なのは、そうした物差しが実際の行政活動のなかでどのように使われているかを具体的にイメージできるようになることが必要です。
 このため、本授業では概念の説明を行うたびに、個別法の例示を行い、実際に皆さんに読んでもらいます。
 そうすることにより、行政法の専門知識を習得するだけでなく、自身が直面する未知の個別法に対しても恐れずに解決を探る技能や判断力を身に付けてもらいます。

教科書 /Textbooks

- ① 曾和俊文『行政法総論を学ぶ』(有斐閣, 2014)
 - ② 中原茂樹『基本行政法[第三版]』(日本評論社, 2018)
 - ③ 山本隆司ほか『行政判例百選I』(有斐閣, 2017)
- ※①または②のいずれかの教科書と、③の判例集を購入してください

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中原茂樹『基本行政法[第三版]』(日本評論社, 2018)○

行政法総論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス——行政法とのイメージ
- 第2回 行政法の基本原理——法律による行政の原理
- 第3回 行政過程の具体的なイメージ1——廃棄物処理行政
- 第4回 行政過程の具体的なイメージ2——まちづくり行政
- 第5回 行政組織法——国と地方の行政組織
- 第6回 行政組織法——地方公共団体の権限
- 第7回 行政による基準定立1——法規命令
- 第8回 行政による基準定立2——行政規則
- 第9回 行政行為1——行政行為の概念
- 第10回 行政行為2——行政行為の違法をいかにして争うか
- 第11回 行政行為3——行政行為の取消と撤回
- 第12回 進度調整
- 第13回 行政行為4——行政裁量の概念と根拠
- 第14回 行政行為5——行政裁量の争い方
- 第15回 行政行為6——行政裁量の争い方
- 第16回 法規命令の審査
- 第17回 行政契約——調達
- 第18回 行政契約——契約による公益実現，小テスト
- 第19回 行政指導
- 第20回 行政調査
- 第21回 行政計画
- 第22回 条例と法律
- 第23回 行政上の強制
- 第24回 その他の義務履行確保手段，即時強制
- 第25回 行政手続——申請に対する処分
- 第26回 行政手続——不利益処分，そのほか
- 第27回 情報公開制度
- 第28回 個人情報保護制度
- 第29回 公法と私法
- 第30回 グローバル行政法の動向，まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト20%，本試験80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にレジュメをアップロードするので，個別法や判例に目を通して授業に参加してください。
授業で扱った概念を使って個別法を読み直す復習をしてください。

履修上の注意 /Remarks

挙げたものでなくてもいいので教科書そして六法の最新版を購入してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「行政法を使う」ということを目標にします。

キーワード /Keywords

法律による行政の原理，違法事由，裁量審査，考慮可能要素，考慮義務要素，考慮禁止要素

行政争訟法 【昼】

担当者名 /Instructor 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW223M	◎	○	○		
科目名	行政争訟法			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

行政争訟とは、違法（・不当）な行政活動の是正を求める制度です。本講義では、行政機関に是正を求める行政上の不服申立てと裁判所に是正を求める行政訴訟について概説します。そのうえで受講者が、行政争訟の基本的知識を修得することを目的とします。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、行政争訟法とは
- 第2回 行政上の不服申立て(1)【種類、要件】
- 第3回 行政上の不服申立て(2)【審理、裁決】
- 第4回 行政訴訟の全体像
- 第5回 取消訴訟の訴訟要件(1)【処分性①：総論】
- 第6回 取消訴訟の訴訟要件(2)【処分性②：各論】
- 第7回 取消訴訟の訴訟要件(3)【原告適格①：従来の動向】
- 第8回 取消訴訟の訴訟要件(4)【原告適格②：近時の動向】
- 第9回 取消訴訟の訴訟要件(5)【訴えの利益】
- 第10回 取消訴訟の審理・判決
- 第11回 無効等確認訴訟、不作為の違法確認訴訟
- 第12回 義務付け訴訟、差止訴訟
- 第13回 仮の救済
- 第14回 抗告訴訟以外の行政訴訟
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の講義後に、授業内容を復習してください。

履修上の注意 /Remarks

「行政法総論」を履修していることが望ましいです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

NPO論【昼】

担当者名 /Instructor 檀原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科, 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科
狭間 直樹 / 政策科学科, 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLC114M	○	△	◎		
科目名	NPO論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

NPOという言葉は、今日いたるところで耳にすることと思います。しかしながら、NPOとは何かについて本当に理解しているかという点必ずしもそうとはいえないのではないのでしょうか。本講義の目的は、NPOとは何かについての基本的知識を提供することにあります。

本講義は、①4人の担当する教員による講義、②NPO関係者を招いての講演会（2人×6回程度予定）、③希望者によるNPO現場の視察、④社会貢献・奉仕プログラムなどから構成されます。また、本講義の受講者は、学部・学科等多様であることが予想されますので、なるべくわかりやすい説明および映像などを取り入れたものにしたいと考えています。

* 『北九州NPOハンドブック（第6版）』作成プロジェクトを進めておりますので、興味のある方はぜひご参加ください。

教科書 /Textbooks

使用しない予定。担当教員がその都度、プリント教材を配布する等、指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○檀原真二編集代表『北九州NPOハンドブック[第5版]』（2010年）。
坂本治也編『市民社会論-理論と実証の最前線-』（法律文化社、2017年）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入-講義のすすめかた、成績評価、自己紹介など
- 2回 NPOの基礎知識(1)
- 3回 第1回講演会
- 4回 NPOの基礎知識(2)
- 5回 第2回講演会
- 6回 福祉NPO(1)
- 7回 第3回講演会
- 8回 福祉NPO(2) -社会福祉法人
- 9回 第4回講演会
- 10回 環境NPO(1)
- 11回 第5回講演会
- 12回 環境NPO(2)
- 13回 第6回講演会
- 14回 地域NPO(1)【多機関連携】
- 15回 地域NPO(2)【地縁団体化】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業貢献度 ... 50% レポート... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

それぞれの担当教員の指示にしたがって前もって指定箇所を読む等をして授業に参加してください。また、各教員が授業中に配布したレジュメ等の教材の復習を必ず行うようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

第1回の講義で授業の進行および成績評価について説明しますので必ずご参加ください。また、授業計画は学生の理解によって変更することがありますのでご了承ください。

NPO論【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

NPO、NGO、福祉NPO、アドボカシー、ミッション、寄付

政治過程論 【昼】

担当者名 /Instructor 上條 諒貴 / KAMIJO, Akitaka / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS210M	◎	○	△		
科目名	政治過程論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

政治過程論とは、市民が選挙で投票をしたり、デモをしたりすることによって政治家に働きかけを行い、それを受けて政治家や官僚が政策を決定・実施し、その政策を受けて市民が再び投票などを行う、といったように政治が機能する過程を理論的・実証的に分析する政治学の一分野です。本講義では、後述するように政治過程を「入力過程」と「出力過程」に大きく分けて解説していくことで政治過程論における基礎的な概念を身に付け、民主政治における政治過程の概形を把握することをその目的とします。

より具体的には、まず前半では、政治過程を理論的・実証的に分析するとは一体どのような営みなのかということ考えたのち、有権者や利益団体といった市民からなる集団が実際に政治的決定を行う政治エリートに働きかけを行う「入力過程」を扱います。後半では、議員や官僚といった政治エリートたちが政策を決定・実施することで我々市民の生活に影響を与える「出力過程」を扱います。

教科書 /Textbooks

松田憲忠・岡田浩編 2018. 『よくわかる政治過程論』ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

伊藤光利・田中愛治・真淵勝 2000. 『政治過程論』有斐閣アルマ
 建林正彦・曾我謙悟・待鳥聡史 2008. 『比較政治制度論』有斐閣アルマ
 山田真裕 2016. 『政治参加と民主政治』東京大学出版会
 谷口将紀 2015. 『政治とマスメディア』東京大学出版会

政治過程論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン
【政治過程論】【民主主義】【政治システム論】
- 第2回 権力
【権力】【非決定権力】【予測的対応】【観察同値問題】
- 第3回 政治学方法論入門
【理論と実証】【因果関係】【方法的個人主義】【数理分析】【計量分析】
- 第I部 入力過程
- 第4回 政治参加
【投票参加】【投票外政治参加】
- 第5回 投票行動
【政策投票】【業績投票】【コロンビアモデル】【ミシガンモデル】
- 第6回 選挙制度
【多数代表制】【比例代表制】【混合制と汚染効果】【戦略投票】
- 第7回 利益団体
【利益団体と圧力団体】【ロビーイング】【多元主義】【ネオ・コーポラティズム】
- 第8回 マスメディア
【3段階図式】【プライミング】【フレーミング】
- 第II部 出力過程
- 第9回 政党
【政党システム】【政党組織】【選挙制度と政党】
- 第10回 執政制度とリーダーシップ
【議院内閣制】【大統領制】【拒否権プレイヤー】
- 第11回 議会制度と立法過程
【変換型とアリーナ型】【委員会型と本会議型】【日本の国会】
- 第12回 政策決定過程の理論
【アジェンダ設定】【アリソンの3モデル】【ゴミ缶モデル】
- 第13回 官僚制と政策ネットワーク
【官僚優位論と政党優位論】【官僚の政治的統制】【鉄の三角形】
- 第14回 政策実施と政策評価
【実施のギャップ】【第一線公務員論】【ロジックモデル】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書及び参考書の中から次回授業に該当する部分を探して読み、疑問点・よくわからなかった点はどこかを考えてみてください。事後学習については以下の履修上の注意の内容を参照してください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 本講義では基礎的な事項の効率的な定着を図るために教科書を指定していますが、講義では教科書の内容に多くの事項を追加・補足します。ですので講義中のノートテイキング及び復習を重視してください。
- ・ 授業スライドは復習用にデータを配布します。スライド内で引用した文献は教員のホームページにて出典を示します。
- ・ 本講義の中には「政治学」で学んだ政治制度についてより考察を深めるような内容が多く含まれているため、「政治学」を履修済であることが望ましいです。また「政党政治論」を履修済である、あるいは後に履修することでより理解が深まるでしょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義では公務員試験などを念頭に置いて、先端的な分析ではあまり有用とはみなされていないような古典的な概念なども多く紹介します。しかしそこで試験のための単なる暗記ゲームに堕してしまうのは非常にもったいないですから、どういった点が分析上の欠点となりうるのか、それでもなお現実の政治の一面をよく捉えているといえる部分はないのかなど色々思索をしてみましょう。言論空間はすでに無用な概念でいっぱいですから、むやみに新しい名前を付けたり、使えるものをみだりに捨ててしまったりしないという工口な知的態度を共に身に付けていきましょう。

キーワード /Keywords

政治過程論 【昼】

キーワード /Keywords

政治過程 方法論的個人主義 入力過程と出力過程

都市環境論 【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLC111M	◎	○	△		
科目名	都市環境論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

回収された家庭からのゴミはどう処理されるのか？ また、街路樹の落ち葉の清掃、家庭からの排水の行方、水道水の水源など一般生活に必要な知識を私たちはもっていません。本授業では、基礎的な都市の環境保全や環境教育を学びます。中でも九州の学生に知っておいてほしいのは、環境問題や環境教育の原点とも言われる水俣病です。水俣病の問題がなぜいまだに解決を見ていないのか、歴史を紐解き、その中身をじっくり見る必要があります。当時を知る患者さんたちや支援者たちがなくなっている現在、後世に伝えていくためにも、水俣に関する学習は行う必要があるでしょう。

また、ペットボトルに入ったミネラル・ウォーターが本当に「うまい」と感じるのか、感じるとすればなぜなのかなど実際に水を飲む「利き水大会」、加工食品にどのような添加物がどれくらい入っているのか食品表示の見方といった環境教育アクティビティを多用します。

「環境未来都市」北九州市に居住・通学する人間としての自覚を最終的には持つことができるようになってください。ここでは、まず、エコライフチェックを行い、自らの立ち位置を分析、目標を立て授業に臨みます。すなわち、私たちの日常生活を取り巻く都市生活環境についての知識を吸収し、きちんと理解し、「環境未来都市」北九州市に居住する市民としてそれにふさわしい生活態度や行動に連動させていくといった実践力を養います。これを起点として、私たちが持続可能な都市生活を続けるためにも本分野を生涯にわたって学習するという姿勢に連動することを望みます。

これらを知るために、グループ・ディスカッションを行うこともあります。また、私のゼミ生から取り組んでいるアクティビティを通じた環境の話を発表してもらいます（藍島、食品ロス削減学生プロジェクト）。

教科書 /Textbooks

特に指定しませんが、その都度資料を配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- * 日本環境学会編集委員会編『新・環境科学への扉』有斐閣コンパクト、2001年
- * 多田満『レイチェル・カーソンに学ぶ環境問題』東京大学出版会、2011年
- * 北九州市環境局『北九州市の環境 平成29年度版』（北九州市役所HP掲載）
- * 原田正純『水俣学講義』日本評論社、2004年
- * 政野淳子『四大公害病』中公新書、2013年
- * 朝岡幸彦編『新しい環境教育の実践』高文堂出版社、2005年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「都市環境論」の授業内容とねらいの説明【環境意識】
- 第2回 環境目標の設定、環境教育とESD（持続可能な開発のための教育）
：：簡単な環境意識度チェック 【ESD】
- 第3回 三宅ゼミの水俣研修旅行の記録報告・藍島プロジェクト・食ロス削減プロジェクト 【環境学習旅行】
- 第4回 水俣病とは？ 水俣学とは？ 多角的検証 【水俣病】
- 第5回 日本の環境政策の歴史と課題 【環境政策】
- 第6回 廃棄物管理 その原理と現状～一般廃棄物、産業廃棄物、3R 【廃棄物管理】
- 第7回 フードバンク ～フードバンク北九州ライフアゲインの事例から 【フードバンク】
- 第8回 食と農～健康の源＝自らの食を見直そう 【食農】
- 第9回 上水道 : : (アクティビティ=きき水比べ) 【おいしい水】
- 第10回 下水処理をめぐって～下水処理の原理 【水質汚濁】
- 第11回 大気汚染～汚染の原理と現状、PM2.5の正体とは？ 【大気汚染】
- 第12回 北九州市の環境の現状 【北九州市】
- 第13回 途上国の都市環境問題 【途上国】
- 第14回 環境保全・環境教育に取り組む人々＝エコツーリズムに関わろう！ 【エコツーリズム】
- 第15回 まとめ

都市環境論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に取り組む日常的な姿勢...20% 小課題の提出 ... 20% 期末試験 ... 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は、自らの身の回りの生活状況の各項目の把握と教科書の該当箇所の熟読、事後学習は、授業で学習したことの実生活への適用とその実践活動を記録化。

履修上の注意 /Remarks

時々の小課題の実施、同時に授業の事前に新聞から関係ある記事を読んでおく。
授業2回目に、エコライフ・チェックの調査結果に基づいて各自の環境目標を立ててもらうので、できるだけ2回目の授業の欠席は避けてください。また、北九州市の環境に興味のある受講生は、教養科目の「環境首都としての北九州」の同時受講も勧めておきます。
同時に、自主練習を行い、授業の内容を反復しておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境保全是楽しむことの中で実践できればいいと考えています。そのような方法も学びますので、他の機会にでも実践してください。

キーワード /Keywords

E S D (持続可能な開発のための教育)、各自の環境学習目標、環境教育アクティビティ、エコライフ・チェック

都市経済論 【昼】

担当者名 /Instructor 田代 洋久 / Hirohisa Tashiro / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLC113M	○	△	◎		
科目名	都市経済論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

人口減少・高齢化、都市間競争の激化など都市を巡る課題は深刻さを増しています。本講義は、都市の経済的問題を基軸としながらも、地域経済と社会との共創性、環境経済や文化経済など都市（地域）政策との関係性にも言及します。

講義では、まず、都市がおかれた現状と課題を概観した後、都市の形成や構造、都市の成長と衰退など都市経済の基礎理論に関する理解を深めます。次に、地域経済が活性化するとはどういうことが、域内産業の特性との関連で見えていきます。

さらに、都市の空間特性が企業行動にどのような影響を与えているのかを検討し、都市の魅力の向上など経済活性化に向けた新しい事業創造の動きを捉えるほか、都市経済の実際として、商店街活性化と観光振興を取り上げます。

本講義を通して、都市経済に関する基礎的な理解を行うほか、分析能力、政策提案能力を身につけることを目的とします。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。Moodle等で適宜、学習資料を提供します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 中村良平(2014)『まちづくり構造改革』日本加除出版
- 川端基夫(2013)『立地ウォーズ 改訂版』新評論
- 佐藤泰裕(2014)『都市・地域経済学への招待状』有斐閣
- 山崎朗他(2016)『地域政策』中央経済社
- 小長谷一之(2005)『都市経済再生のまちづくり』古今書院
- その他、適宜講義の中で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション - 本講義の目的と概要
2. 競争の激化と地域格差の拡大
3. 都市の経済的課題
4. 都市の社会的課題
5. 都市はなぜできるのか？
6. 都市空間の形成
7. 都市の成長と衰退① - 都市の構造、郊外化
8. 都市の成長と衰退② - 都市の発展段階モデル
9. 地域経済活性化のしくみ① - 域外マネーの獲得
10. 地域経済活性化のしくみ② - 基盤産業と非基盤産業
11. 立地戦略と都市経済① - 場所の価値
12. 立地戦略と都市経済② - 立地創造
13. 都市経済の実際① - 商店街活性化
14. 都市経済の実際② - 観光振興
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 受講レポート50%、期末レポート50%
- ・ 一回も受講レポートを提出しない者、期末レポートを提出しない者はいずれも単位認定の対象外です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業開始までにMoodleによりレジュメを配布するので、プリントして事前学習をしてください。
- ・ 授業終了後は事後学習を行ってください。

都市経済論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 本年度の講義は大学の指定によりオンライン＝オンデマンド方式で行います。進め方の詳細はmoodleに掲示しますのでよく確認してください。
- ・ データファイル形式、ファイル名の付け方をはじめオンライン方式に伴うルールは必ず指示通りにしてください。
- ・ 著作権上の問題により講義の録音、保存は一切厳禁です。
- ・ レポートの提出期限は厳守してください。
- ・ 受講レポート、期末レポートの代筆は、依頼した者、実施した者、双方とも不正行為として取り扱います。
- ・ 授業計画は、進捗状況等により変更する場合があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 担当教員は、経済シンクタンクと地方自治体での政策実務経験を有し、「地域資源の活用による地域創造と都市魅力の形成」を専門としています。近年、打ち出されている「地方創生」の理解を深めるためにも、都市経済の状況と戦略に関する洞察は不可欠です。

キーワード /Keywords

公共政策論【昼】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 / 2年 / 単位 /Credits 2単位 / 学期 /Semester 1学期 / 授業形態 /Class Format 講義 / クラス /Class 2年 /

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLC211M	◎	○	△		
科目名	公共政策論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、日常レベルから、公共政策について考え、分析、考察するための基礎的知識や方法論を提供することにあります。そのために、本講義では、様々な事例を用い、また、時には本格的なケース・スタディを用いて議論を展開することにします。また、本講義では、公共政策研究の第一歩ともいえる「問題発見能力」の涵養に力を入れたいと考えています。

本講義の担当教員は、公共政策を研究する目的は、第一に、よりよき未来社会の構築にあると考えています。つまり、公共政策研究の根本には、「問題解決」「問題解き」というものがあるのです。また第二に、個別の公共政策を研究することは、デモクラシーの発展にも寄与することになると考えています。今日、公共政策についての知識なくして、有効な政治参加などできないからです。受講者には、何が自分にとって問題であり、そのために自分はどのような研究をするのかということ意識して講義に参加すること、あるいは、この講義を通じてそうした問題意識をもつことを望んでいます。

教科書 /Textbooks

テキストは使いません。毎回、プリント教材を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度指示する予定です。とりあえず以下のものを挙げておきます。
 秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉『公共政策学の基礎』（有斐閣、2010年）
 伊藤修一郎『政策リサーチ入門-仮説検証による問題解決の技法-』（東京大学出版会、2011年）
 ユージン・バーダック著、白石賢司ほか訳『政策立案の技法-問題解決を「成果」に結び付ける8つのステップー』（東洋経済新報社、2012年）。
 阿部彩『子どもの貧困-日本の不平等を考える』（岩波書店、2008年）
 阿部彩『子どもの貧困II-解決策を考える』（岩波書店、2014年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 問題提起・・・公共政策研究の目的および本講義の目的
- 2回 公共政策とそのアクター・・・小倉昌男の福祉革命（社会起業家論）
- 3回 小倉昌男の問題提起と日本の障害者福祉政策、ダストレスチョークと障害者
- 4回 子どもの貧困（1）・・・貧困とは何か、子どもの貧困とは何か
- 5回 子どもの貧困（2）・・・日本における子どもの貧困を考える
- 6回 子どもの貧困（3）・・・学歴と子どもの貧困：大学生の状況は？奨学金は？
- 7回 子どもの貧困（4）・・・比較の視座から考える子どもの貧困
- 8回 子どもの貧困（5）・・・子どもの貧困対策大綱と子どもの貧困の解決策、剥奪指標について
- 9回 子どもの貧困（6）・・・社会実験（ペリー幼稚園プログラム）とまとめ
- 10回 介護保険（1）・・・導入
- 11回 介護保険（2）・・・現状分析
- 12回 介護保険（3）・・・問題点とその検討（「介護離職」「ミッシング・ワーカー」等の問題も含む）
- 13回 介護保険（4）・・・介護保険の改革
- 14回 シルバー・デモクラシーと若者政策
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 50 %、授業貢献度など...50%。毎回講義の終了後、コメント用紙を配布し、講義内容に対する質問・意見のある学生には書いてもらい成績評価に加えることにします。

公共政策論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に際しては前もって配布した教材の指定箇所等を予習（事前学習）して授業に参加するようにして下さい。また、授業中に配布したレジュメや論文等の教材の復習を必ず行うようにして下さい。

履修上の注意 /Remarks

本年度は授業内容を若干変更する予定です。また、「シルバー・デモクラシーと若者政策」等をはじめ講義内容については、学生の理解度や講義の進捗状況などに応じて変更する可能性があります。第1回目の講義で説明する予定ですので必ずご参加ください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に出席しないと何も始まりません。担当者もそれなりの準備をして授業にのぞみますので、授業には必ず出席するようにして下さい。

キーワード /Keywords

公共政策、社会起業家、子どもの貧困、介護保険、超高齢社会。

地方自治論 【昼】

担当者名 /Instructor 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PAD211M	○	△	◎		
科目名	地方自治論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この授業は、受講生のみなさんに地方自治についての基本的な知識を理解してもらうことを目的とする。地方自治の理念から始まって、わが国における地方自治の沿革、地方自治制度のしくみ、そして近年の地方分権改革の様相、今後のあるべき地方自治の姿を考えることにいたるまで、特に歴史面を中心に基礎理解をめざす。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業のガイダンス
- 2回 地方自治体の種類【都道府県】【市町村】【特別区】【指定都市】
- 3回 自治体首長と中央地方関係①【歴史】【明治の地方自治】
- 4回 自治体首長と中央地方関係②【歴史】【明治大正の地方自治】
- 5回 自治体首長と中央地方関係③【歴史】【戦前期の地方自治】
- 6回 自治体首長と中央地方関係④【歴史】【戦後民主改革】
- 7回 自治体首長と中央地方関係⑤【歴史】【高度経済期】
- 8回 自治体首長と中央地方関係⑥【歴史】【低成長期以降】
- 9回 自治体首長と中央地方関係⑦【歴史】【1990年代以降の改革】
- 10回 地方分権改革①【機関委任事務の歴史】
- 11回 地方分権改革②【地方議会と首長】
- 12回 市町村合併①【平成の大合併】
- 13回 市町村合併②【合併の効果】
- 14回 現代の地方自治の動き①【地方分権一括法の動向】
- 15回 現代の地方自治の動き②【地方創生など】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100% (試験といっても、講義で習得した知識のみならず、日頃からの政治行政に対する観察力、そして諸知識の応用能力等の複数の項目から評価する方式によります)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

日ごろから新聞やニュースなど、行政に関連することに注意を向けておいてほしい。行政学をとっておくとより理解が深まる。自主練習を行い、授業の内容を反復すること。また、後期の地方行政改革論は地方自治論のより具体的な現代的な課題を講義しますので、セットで受講されるとより学習効果が増します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

公務員試験に頻出の領域ですが、公務員試験への出題対策を学ぶというよりも、近年の地方自治をとりまく事情を中心に学びます。

キーワード /Keywords

地方自治、地方自治体、中央地方関係、地方分権、地域づくり、地域活性化

福祉政策論【昼】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLC217M	○	△	◎		
科目名	福祉政策論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

この講義では、日本の社会福祉サービス（高齢者福祉・児童福祉・障害者福祉サービスなど）の制度概要と政策動向を解説し、その日本の特質を考えます。政府体系（政治行政関係、中央地方関係、政府民間関係）や行政管理など行政学・政策科学の視点から、社会福祉サービスの現状と課題を考えます。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回、B4のレジュメを配布するのでしっかりノートを取り、保存してください。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「社会福祉の意味」
- 第2回 「社会福祉の行財政」 社会福祉の専門機関
- 第3回 「高齢者福祉と介護保険」 介護保険のしくみ、在宅・施設サービス
- 第4回 「高齢者福祉と介護保険」 介護サービスと民間企業
- 第5回 「高齢者福祉と介護保険」 自治体間の保険料格差
- 第6回 「高齢者福祉と介護保険」 介護は社会化されたか？
- 第7回 「児童福祉」 児童福祉のサービス
- 第8回 「児童福祉」 保育所改革（公立保育所民営化など）
- 第9回 「児童福祉」 児童虐待
- 第10回 「児童福祉」 男女共同参画をめぐる議論
- 第11回 「障害者福祉」 障害の定義
- 第12回 「障害者福祉」 障害者福祉のサービス
- 第13回 「障害者福祉」 障害者の雇用
- 第14回 「利用者保護制度」
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験（筆記試験）・・・100%

第3回～第14回の授業において出席をとる予定です。

欠席1回目は減点しません。欠席2回目から、欠席1回につき、期末試験得点から3点減点します。

* インフルエンザ等、忌引き、実習、課外活動については、欠席届の提出により公欠（減点なし）とします。

* 病気・けがなどについては、診断書提示などにより考慮します。

☆休講（つまり狭間が欠席）1回につき、全員の欠席1回を無効（減点しない）にします。

遅刻は授業開始後20分まで認められます。ただし減点対象となることがあります。

授業開始後20分以降は入室禁止とします。指示に従わず着席した場合は、単位を認定しないことがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

福祉サービスについて関心をもっておいください。また、授業終了後は、配布資料をよく読み、知識や自分の考えを整理してください。

福祉政策論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 私語厳禁。授業態度の悪い受講生は、欠席扱いとする場合がある。
- ・ 授業時間中の携帯電話・スマートフォンによる通話、写真・動画撮影、インターネットサイト閲覧等を禁止する。
- ・ 資料や録音した講義内容をインターネット上などで公開することを禁止する。
- ・ 第1回目の講義において、その他の注意事項を説明するので、必ず遵守すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私語は厳しく注意します。

キーワード /Keywords

特になし。

政策過程論 【昼】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLC212M	◎	○	△		
科目名	政策過程論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

政策現象に関する理解と政策知識の取得

- ①政策学の範囲とその目的、公私の問題、政策と社会(Social Dilemma・ Free Rider)
- ②政策の分類 (Lowiによる分類)・ 政策の便益と費用 (J.Q.Wilson)について知ってもらう。

政策過程に関する専門知識の取得：

- ①政策の決定 (Elite論・ 多元主義論とIssue Network・ 制度論と合理的決定： Path dependence・ Idea・ Game theory etc.・ ゴミ箱決定Garbage Can Model、無意思決定Non-Decision Making, Agenda-Setting, Joining of Issues & Streams、政策の窓 [Policy Window]) や政策実施・ 調整 (Policy Learning &Changes)、そして政策終了・ 評価について学習する。
- ②政策過程におけるアクターの参加 (首相・ 内閣・ 官僚・ 国会・ 首長・ 専門家組織・ 世論とメディア・ 裁判・ NPO・ 国際機構)とその構造 (補助金・ Rent-Seekingのような利益誘導型政治・ 首相の Leadership、集権的政策決定システム・ 官僚[Downs・ Niskanenの官僚利益追求論・ 政府間関係] について理解してもらう。

教科書 /Textbooks

- 『政策過程論』 (早川純貴他著 学陽書房 2004年 ¥ 2,730)
- 『公共政策学の基礎 新版』 (秋吉貴雄・ 伊藤修一郎・ 北山俊哉著 有斐閣ブックス 2015年 ¥ 2,730)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『現代日本の政策過程』 (中野実著 東京大学出版会 1992年 ¥ 2,940)
- 『政治過程論』 (伊藤光利・ 真淵勝・ 田中愛治著 有斐閣 2000年 ¥ 2,625)
- 『日本政治の政策過程』 (中村昭雄著 芦書房 2011年 ¥ 3,568)
- 『政策過程分析入門 第2版』 (草野厚著 東京大学出版会 2012年 ¥ 2,625)

政策過程論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業や本の紹介など
- 2回 政策の対象、政策の必要性、政策と社会(Social Dilemma・ Free Rider)、費用と利益、政策の種類など
- 3回 政策参加者、政策資源 (事例：川辺川ダムの決定を巡る各アクターの利害関係、DVD)
- 4回 政策過程の理論1 (政策過程論・ Elite論・ 多元主義論とIssue Network・ 制度論と合理的決定 Path dependence・ Idea・ Game theory etc.)
- 5回 政策過程と事例分析1 (新聞、インターネットで検索した事例分析)
- 6回 政策過程の理論2 (アジェンダ形成・ ゴミ箱決定Garbage Can Model・ 政策の窓)
- 7回 政策過程の理論3 (無意思決定論、相互浸透理論など)
- 8回 政策過程と事例分析2 (新聞、インターネットで検索した事例分析)
- 9回 政策事例のポスター発表I
- 10回 政策実施、政策調整 (実施過程の政策変数、官僚と国会、集権的政策システム・ Top-Down Approach & Street Bureaucracy Approach)
- 11回 政府間関係と自治体の政策 (政府間関係、利益誘導政治、地方の変革・ 事例：名古屋市)
- 12回 本のレポート発表
- 13回 政策終了・ 政策評価と市民参加
- 14回 政策事例を選び、政策過程の分析
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

本のレポート 30%、 ポスター 30% 期末試験 40%
(本のレポート発表・ ポスター発表をしない学生は期末試験を受けることができない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前課題・ 事後学習内容については学習支援フォルダに挙げるので、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公共政策、政策問題、政策の決定、実施、政策調整、終了、
利益・ 価値、制度、アクター、選択、メディアの役割、ガバナンス、市民社会、
ネットワーク。

公共経営論 【昼】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PAD212M	○	△	◎		
科目名	公共経営論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この講義では、公共経営（パブリック・マネジメント）という考え方をもとに、政府と民間の関係という視点から、様々な公共サービス分野の改革動向を学びます。公共サービスの民営化・民間委託を中心に、市場原理・企業的経営手法を取り入れた公共サービス改革の可能性と課題を考えます。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回、B4のレジュメを配布するのでしっかりノートを取り、保存してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「新公共経営の理論」 NPM (New Public Management)
- 第2回 「新公共経営の理論」 能率と責任、政策手法
- 第3回 「教育編①図書館」 図書館のしくみ
- 第4回 「教育編②図書館」 指定管理者制度
- 第5回 「教育編③図書館」 PFI
- 第6回 「教育編④図書館」 PFIの問題点
- 第7回 「教育編⑤学校」 学校のしくみ
- 第8回 「教育編⑥学校」 学校選択制
- 第9回 「道路編①」 道路のしくみ
- 第10回 「道路編②」 道路公団民営化
- 第11回 「道路編③」 道路の必要性
- 第12回 「道路編④」 入札改革
- 第13回 「公共サービス従事者編①」 非正規職員
- 第14回 「公共サービス従事者編②」 特殊法人、天下りをめぐる議論
- 第15回 「まとめ」

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験(筆記試験)・・・100%

第3回～第13回の授業において出席をとる予定です。

欠席1回目は減点しません。欠席2回目から、欠席1回につき、期末試験得点から3点減点します。

* インフルエンザ等、忌引き、実習、課外活動については、欠席届の提出により公欠(減点なし)とします。

* 病気・けがなどについては、診断書提示などにより考慮いたします。

☆休講(つまり狭間が欠席)1回につき、全員の欠席1回を無効(減点しない)にします。

遅刻は授業開始後20分まで認められます。ただし減点対象となることがあります。

授業開始後20分以降は入室禁止とします。指示に従わず着席した場合は、単位を認定しないことがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

* 図書館や学校、道路に関心をもっておいてください。また、授業終了後は、配布資料をよく読み、知識や自分の考えを整理してください。

公共経営論【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 私語厳禁。授業態度の悪い受講生は、欠席扱いとする場合がある。
- ・ 授業時間中の携帯電話・スマートフォンによる通話、写真・動画撮影、インターネットサイト閲覧等を禁止する。
- ・ 資料や録音した講義内容をインターネット上などで公開することを禁止する。
- ・ 第1回目の講義において、その他の注意事項を説明するので、必ず遵守すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

* 私語は厳しく注意します。

キーワード /Keywords

特になし。

特別支援教育論【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
EDU263M	◎				
科目名	特別支援教育論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業での概要は以下の通りである。
 ①特別な支援を必要とする子どもの障害特性や心身の発達を理解するとともに、特別な支援を必要とする子どもの教育課程と支援方法について、その背後にあるインクルーシブ教育の理念も踏まえて検討する。
 ②貧困や虐待的な養育環境に置かれている子どもや母語が日本語ではない子どもなど、多様な「特別な教育的ニーズ」を持つ子どもの抱える問題への理解と支援の課題を考察する。
 ③ 学校での福祉教育や職場体験などで求められる社会福祉施設入所者に対する理解と援助の在り方について、とりわけ認知症の高齢者の問題やその支援の課題について学習する。

教科書 /Textbooks

楠 凡之 2012 「自閉症スペクトラム障害の子どもへの援助と学級づくり」 高文研

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文科省特別支援学校学習指導要領

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画

1. オリエンテーション 本授業の進め方
2. 特別支援教育の教育制度と教育課程
3. 発達障害・軽度知的障害の子どもに対する理解と援助
4. 困難な養育環境に置かれた子どもへの理解と支援
5. 聴覚障害の子どもへの理解と支援(外部講師)
6. 母語が日本語ではない子どもたちの理解と支援
7. 性の多様性の尊重の理念に根差した学級活動
8. 特別支援コーディネーターの役割と個別の教育支援計画(外部講師)
9. 肢体不自由・重度心身障害児・者についての理解と支援 (外部講師)
10. 知的障害の特別支援学校での教育実践と支援の留意点(外部講師)
11. 学校における福祉教育の課題 - 高齢者・認知症の問題に視点をあてて(外部講師)
12. 肢体不自由児、高齢者に対する介護支援(外部講師による実習)
13. インクルーシブ教育と集団づくり その1 中学校のASD
14. インクルーシブ教育と集団づくり その2 高等学校のASD
15. 全体のまとめ

注 この中の第9回目から第12回目までの授業は「介護等体験事前指導」の授業を兼ねます。
 なお、この4回の事前指導とは別に「介護等体験事前説明会」を7月上旬に実施します。

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート25点、期末試験75点

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストは早めに読んでレポートにまとめて提出すること。
 2020年度に介護等体験に行く学生は、9回目から12回目の内容を介護等体験ノートにまとめること。

特別支援教育論【昼】

履修上の注意 /Remarks

特別支援教育論は2019年度入学の学生から、教職課程の学生の必修科目になっています。
ただし、9回目から12回目の授業については、2018年度以前入学生の「介護等体験事前指導」との合同の授業となる点、ご了解いただきたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業は全学の教職課程の学生の必修授業であると同時に、人間関係学科の専門教育科目、地域創生学群のスクールソーシャルワーカー課程の専門科目を兼ねています。
そのような多様な興味・関心や背景を持つ学生同士の中での学び合いを期待しています。

キーワード /Keywords

教育相談【昼】

担当者名 /Instructor 山下 智也 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
EDU261M	◎		○		
科目名	教育相談				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業では、学校での教育相談の意義、教育相談の理論と技法（積極的傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など）を習得する。また、不登校やいじめ、発達障害、非行、自傷・自殺、虐待等、様々な問題を出している生徒に対する理解を深めていくと同時に、生徒に対する援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を踏まえて検討するとともに、教育相談の組織的な体制づくりや関係諸機関との連携の課題を考察する。

教科書 /Textbooks

虐待 いじめ 悲しみから希望へ 楠凡之（著） 高文研
その他、適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

生徒指導提要 文部科学省
Next教科書シリーズ 教育相談 津川律子、山口義枝、北村世都（著） 弘文堂
子どものこころの支援 連携・協働ワークブック 前川あさみ（編著） 金子書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：本講義のオリエンテーション、教育相談の歴史
 - 第2回：学校における教育相談の現代的意義と課題
 - 第3回：教育相談とカウンセリング（カウンセリングマインドの理解も含む）
 - 第4回：子どもの問題行動の意味（子ども理解を含む）
 - 第5回：教育相談の実際①（発達障害、不登校、いじめ等）
 - 第6回：教育相談の実際②（非行、自傷・自殺、虐待等）
 - 第7回：教育相談の基本的な理論の修得（来談者中心療法等）
 - 第8回：教育相談の基本的なスキル①（受容、傾聴、共感的理解、開かれた質問等）
 - 第9回：教育相談の基本的なスキル②（感情の明確化、共感的応答、直面化等）
 - 第10回：教育相談に役立つ心理的支援①（アサーション、ブリーフセラピー等）
 - 第11回：教育相談に役立つ心理的支援②（行動療法、認知行動療法等）
 - 第12回：教育相談に役立つ心理的支援③（ストレスコーピング、ストレスマネジメント等）
 - 第13回：教育相談のための連携と協働①（保護者との相談、学内での体制づくり等）
 - 第14回：教育相談のための連携と協働②（関係諸機関との連携）
 - 第15回：本講義全体のまとめ
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

授業でのミニレポート 20%
定期試験 80%
(出席について、原則として3分の2以上の出席を最終試験受験資格とする。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：毎回回の予告を行い、関連キーワードを調べておくなど、次回までの課題を提示する（必要な学習時間の目安は60分）。
事後学習：授業の冒頭で、前回の授業内容について振り返りをしたり、グループで発表し合ったりするため、授業で学習した学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努める。（必要な学習時間の目安は90分）

教育相談【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義だけでなく、個人ワークやペアワーク、グループワーク、ロールプレイ等を行います。
授業への主体的な参加を期待します。

キーワード /Keywords

教育相談、いじめ、不登校、虐待

生徒指導論【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
EDU262M	◎				
科目名	生徒指導論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

授業の概要

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 生徒指導の意義、生徒指導の3機能(①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること)を理解するとともに、開発的生徒指導、予防的生徒指導、問題解決的生徒指導の区別と関連などを検討していくこと
- ② 教育課程と生徒指導、生徒指導に関する法制度、生徒指導における家庭・地域・関係諸機関との連携等に関する基本的な知識・理解を修得すること
- ③ 養育環境や発達障害、セクシュアルマイノリティ等の何らかの要因による困難を抱える子どもの自立を支援する生徒指導のあり方を学習すること。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

文部科学省編 「生徒指導提要」 教育図書
楠凡之 「虐待・いじめ 悲しみから希望へ」 高文研

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

テキスト

参考書・参考資料等

桑原憲一編 中学校教師のための生徒指導提要実践ガイド 明治図書
嶋崎政男 「法規+教育で考える 生徒指導ケース100」 ぎょうせい

生徒指導論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画

- 1回 生徒指導の意義と目的 - 子どもたちの自己存在感を育むために
- 2回 生徒指導における個別指導と集団指導、積極的生徒指導と生活指導
- 3回 教育相談と生徒指導、不登校問題と生徒指導
- 4回 教育課程と生徒指導 その1 - 教科教育と生徒指導
- 5回 教育課程と生徒指導 その2 - 総合的な学習の時間、道徳教育と生徒指導
- 6回 教育課程と生徒指導 その3 - 学級づくりを通じた生徒指導
- 7回 生徒指導に関する法制度等(第7章他)
- 8回 生徒指導における規範意識の醸成をめぐる諸問題(ゼロトレランスの問題も含めて)
- 9回 生徒指導における体罰問題を考える - 家父長制的学校観を乗り越えるために
- 10回 生徒指導の年間指導計画と学校体制
- 11回 生徒指導における関係諸機関の連携 - スクールカウンセラーとの連携
- 12回 生徒指導における関係諸機関の連携 - スクールソーシャルワーカーその他との連携
- 13回 性の多様性、セクシュアルマイノリティへの理解と生徒指導
- 14回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その1 学校での支援
- 15回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その2 関係諸機関との連携

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート20点、試験80点

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」のテキストはしっかり読み込んで内容を修得しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

全学の教職課程履修学生の必修科目ではありますが、人間関係学科の学生で、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの仕事に関心がある学生にも対応した内容になっているので、積極的に履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活指導、生徒指導の3機能、積極的生徒指導と消極的生徒指導、児童虐待問題

教職論 【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
EDU111M	◎				
科目名	教職論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

教職論は、通常の場合、4年間の教職課程への導入的性格を持つ科目である。

本授業では、教職という仕事の社会的意義と役割、また、教員に求められる資質や倫理の内容を理解するとともに、本学出身者の若手の教員の体験報告とその後の意見交流、ベテラン教員の講演と意見交流を通して、教員という仕事の喜びや困難さを理解し、自らの進路選択を検討するとともに、めざすべき教員像を探索する。

また、教員の職務内容の全体像と教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解するとともに、今日の学校が担うべき役割を実現していくために必要不可欠な教職員や多様な専門職種との連携の在り方について検討する。

なお、この科目は「教職に関する科目」のカリキュラムマップでは、1類 - 1 に該当する科目である。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回の授業で必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩田康之・高野和子編 「教職論」 学文社
文科省 中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション 本授業の目的と進め方、「教職課程を履修する目的」に関するアンケート
2. 教育に求められる実践的指導力と学校ボランティア体験の意義(外部講師の報告)
3. 教員に求められる基礎的な資質・能力と教員研修の意義(中教審の答申を踏まえて)
4. 今日の教員に求められる役割と職務内容について(講師 森恵美先生)
5. 教員に求められる資質その1 生徒指導と学級経営(学級づくり) - 実践報告を手がかりに
6. 教員に求められる資質その2 教科指導と授業づくり(本学出身の教員の実践報告と意見交流)
7. チーム学校と専門職との連携 その1 「特別なニーズ」を持つ子どもへの支援
8. チーム学校と専門職との連携 その2 被虐待・貧困状況にある子どもと家族への支援
9. 教員に求められる資質その3 特別活動と学級づくり(本学出身の教員の報告と意見交流)
10. 学級づくりに関するグループワーク
11. 現代社会における学校教育の課題 その1 セクシュアルマイノリティの生徒と学校づくり
12. 現代社会における学校教育の課題 その2 部活動・体罰問題を考える。
13. 現代社会における学校教育の課題 その3 「道徳教育」をめぐる問題を考える。
14. 若手教員からみた教員の仕事の生きがいと悩み(本学出身の中学校教員の報告と意見交流)
15. 全体のまとめと課題の説明

* 講師の都合などにより、計画が変更になることがある点、了解されたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(授業内で実施するミニレポート等) 30点、レポート試験70点
なお、欠席した場合には一回につき5点の減点になります。

教職論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 新聞記事やテレビなどを通して日常的に生じている教育の問題に関心を持ち、自分自身の見解を持つ努力をすること
- ・ 授業での現職教員との出会いを通して、自分自身が理想とする教師像を育てていくこと
- ・ 学校現場でのボランティア体験などを通して、教師としての実践的指導力の獲得に向けての自己教育の課題に取り組むこと

履修上の注意 /Remarks

この授業はすべての回に出席してもらうことを前提に進めます。
公欠や体調不良などのやむを得ない事情で欠席した場合には授業のレジュメやビデオ補講を受けるなどして、できるだけその内容を補ってください。それが無い場合には公欠であっても減点になるので留意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では多くの学校現場の先生に来ていただいて、教師という仕事の魅力と困難さを語っていただきます。
この半年の授業のなかで皆さん自身がめざすべき「教師像」を育ててもらえることを願っています。

キーワード /Keywords

教職の意義と役割、教員の仕事、理想の教師像

生命と環境【夜】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BI0100F	◎		○		○
科目名	生命と環境		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

約40億年前の地球に生命は誕生し、長い時間をかけて多様な生物種へと進化してきた。生命とはなにか。生物は何からできており、どのようなしくみで成り立ち、地球という環境においてその多様性はどのように生じてきたか。本講では、(1)宇宙と生命がどのような物質からできているか、(2)生物の多様性と影響を与えてきた環境とはどのようなものか、(3)進化の原動力となった突然変異とは何かなどについて広く学ぶとともに、(4)生命や宇宙がこれまでにどのように「科学」されてきたかを知ることによって、科学的なものの捉え方や考え方についても学びます。

到達目標

- ・ 生命と環境に関する基礎的な知識を身につけている。
- ・ 授業で学んだことを自分の言葉でまとめ、表現できる。
- ・ 身近な課題に関して積極的に調べ、自ら学び続けることができる。

教科書 /Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2015年(羊土社)3024円
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- 宇宙と生命の起源—ビッグバンから人類誕生まで 嶺重慎・小久保英一郎編著 2004年(岩波ジュニア新書)903円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|----------------------------|-----------------|
| 1回 | ガイダンス(日高・中尾) | |
| 2回 | 自然科学の基礎(1)ミクロとマクロ(日高・中尾) | 【物質の単位】【自然科学】 |
| 3回 | 自然科学の基礎(2)宇宙で生まれた物質(中尾) | 【元素】【原子】【超新星爆発】 |
| 4回 | 自然科学の基礎(3)生命と分子(日高) | 【DNA】【タンパク質】 |
| 5回 | 生物の多様性(1)生物の分類と系統(日高) | 【種】【学名】【系統樹】 |
| 6回 | 生物の多様性(2)単細胞生物と多細胞生物(日高) | 【細胞膜】【共生説】 |
| 7回 | 生物の多様性(3)生態系と進化(日高) | 【食物連鎖】【絶滅】【進化】 |
| 8回 | 遺伝子の多様性(1)遺伝子の名前(日高) | 【突然変異】【遺伝学】 |
| 9回 | 遺伝子の多様性(2)多様性を生む生殖(日高) | 【有性生殖】【減数分裂】 |
| 10回 | 遺伝子の多様性(3)多様な生命の紹介(外部講師) | |
| 11回 | 科学的な方法とは(1)科学と疑似科学(日高・中尾) | 【血液型】【星座】 |
| 12回 | 科学的な方法とは(2)太陽と地球の環境(中尾) | 【太陽活動】【地球温暖化問題】 |
| 13回 | 科学的な方法とは(3)人類の起源を調べるには(日高) | 【ミトコンドリア】 |
| 14回 | 関連ビデオ鑑賞(日高) | |
| 15回 | 質疑応答とまとめ(日高) | |

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への参加(課題提出を含む)100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中の課題に沿って学習し、Moodle(e-learningシステム)で提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

- ・ 高校で生物を履修していない者は教科書または参考書を入手し、授業に備えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基盤教育センターの専任教員・日高（生物担当）および中尾（物理担当）による自然科学の入門講座です。この分野が苦手な者や初めて学ぶ者も歓迎します。参考書やインターネットを活用し、わからない用語は自分で調べるなど、積極的に取り組んで下さい。暗記中心の受験勉強とは違った楽しみが生まれるかもしれません。

キーワード /Keywords

SDGsとの関連：

13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう

環境問題概論 【夜】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
										○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV100F	◎		○		○
科目名	環境問題概論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

農林水産業の第一次産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」について、基礎的な知識を充足することを目的とする。望ましい人間と自然、または自然を介した人と人との関係性について、環境問題に対する総合的な理解を促すことが狙いである。
また、農林水産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」についての知識を生かし、SDGs（持続可能な開発目標）に関するテーマとして、③食の問題、④捕鯨問題、⑥・⑩山の管理（治水・利水）、そして②経済優先の消費活動に関すること等をテーマに、持続可能な社会となるための考え方を模索する授業である。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション -環境問題を見る視点について-
- 第2回 資源の在り方を問う
- 第3回 日本の捕鯨の行方
- 第4回 日本人の自然観
- 第5回 環境と経済の関係性
- 第6回 山を管理するとは？
- 第7回 環境問題の原因と焼畑農業
- 第8回 里山の開発① -なぜ里山の宅地開発問題が生じるのか？-
- 第9回 里山の開発② -映画監督 高畑勲氏からのメッセージ-
- 第10回 里山の開発③ -動物視点で見る真の共生の形-
- 第11回 「農業」と SATOYAMA イニシアティブ① -農業の多面的機能-
- 第12回 「農業」と SATOYAMA イニシアティブ② -「共生」社会の在り方-
- 第13回 復習
- 第14回 レポート試験の実施 (※レポート試験は日程が前後する可能性があります)
- 第15回 総括 -おわりに-

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発言の回数やその内容：50%
レポート試験：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本授業は、最終試験での成績評価をするウエイトが高くなっている。そのため、各自で毎回の授業後に最終試験に向けた復習をすることが求められる。また、授業で使用するスライド資料は、学習支援フォルダに掲載しているため、事前の予習も試みてもらいたい。

履修上の注意 /Remarks

環境問題概論 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境問題の中でも本授業は都市環境問題や地球温暖化等の問題ではなく、自然環境に特化した授業となる。
特に専門的な知識は必要ないが、中学生レベルの生物および、安易な生態学（食物連鎖等）的な基礎的な知識に対する言及や説明を行うことを想定し、履修していただきたい。

キーワード /Keywords

SDGs3.「健康と福祉」、SDGs 6.「安全な水とトイレ」、SDGs12.「作る責任使う責任」、SDGs14.「海の豊かさ」、SDGs15.「森の豊かさ」に強い関連がある、

生命科学入門 【夜】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BI0200F	◎		○		○
科目名	生命科学入門		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

ヒトの体は約60兆個の細胞からなり、生命の設計図である遺伝子には2万数千もの種類がある。近年、「ヒトゲノム計画」が完了し、すべての遺伝情報が明らかとなった。個々の遺伝情報のわずかな違いが体質の違いや個性につながり、これを利用した個の医療が行われる時代も近い。そこで(1)体はどのような物質からできているか、(2)遺伝子は体の何をどのように決めているのか、(3)細胞の社会とはどういうものでそれが破綻するとどのような疾患につながるのか、(4)体を維持し守るしくみは何かなど、人体を構成する細胞と遺伝子の不思議を学ぶことによって、新しい時代を生き抜くための生命科学の基礎知識を身につけることを目標とする。

到達目標

- ・ 生命科学に関する基礎的な知識を身につけている。
- ・ 授業で学んだことを自分の言葉でまとめて表現できる。
- ・ 関連テーマに関して積極的に情報を仕入れ、自ら学び続けることができる。

教科書 /Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2015年(羊土社)3024円
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|---------------------|------------------|
| 1回 | ガイダンス | |
| 2回 | 体を作る物質(1)細胞の構成成分 | 【多糖・脂質・タンパク質・核酸】 |
| 3回 | 体を作る物質(2)食物分子と代謝 | 【酵素】【触媒】 |
| 4回 | 体を作る物質(3)遺伝物質DNA | 【二重らせん】 |
| 5回 | 体を作るしくみ(1)遺伝子発現 | 【セントラルドグマ】 |
| 6回 | 体を作るしくみ(2)遺伝子でわかること | 【ゲノム】【体質】 |
| 7回 | 体を作るしくみ(3)発生と分化 | 【転写因子】【胚】 |
| 8回 | 細胞の社会(1)細胞の増殖 | 【細胞周期】【細胞死】 |
| 9回 | 細胞の社会(2)シグナル伝達 | 【受容体】【シグナル分子】 |
| 10回 | 細胞の社会(3)社会の反逆者・がん | 【がん遺伝子】 |
| 11回 | 体を守るしくみ(1)寿命と老化 | 【染色体】【テロメア】 |
| 12回 | 体を守るしくみ(2)免疫とウイルス | 【ウイルス】【抗体】 |
| 13回 | 体を守るしくみ(3)私たちと細菌 | 【細菌】【腸内細菌】 |
| 14回 | 関連ビデオ鑑賞 | |
| 15回 | 質疑応答・まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への参加(毎回のMoodle課題提出を含む)100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中に出示された課題に沿って学習し、Moodle(e-learningシステム)で提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

高校で生物を履修していなかった者は教科書または参考書を入手して備えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人体を構成する細胞やその働きを操る遺伝子について、ここ数十年程の間で驚く程いろいろなことがわかってきました。その緻密で精巧なしくみは知れば知るほど興味深いものですが、ヒトの体について良く知ること、生命科学の基礎を学ぶことは、これから皆さんが生きて行く上でも非常に大切です。苦手だからと怯まずに、一緒に頑張りましょう。

キーワード /Keywords

SDGsとの関連：

3. すべての人に健康と福祉を

国際学入門【夜】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
IRL110F	◎		○		○
科目名	国際学入門				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究（国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など）と②世界の多様化に対応するための研究（地域研究、比較文化論、比較政治論など）である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、【地域研究のルーツ】
- 第4回：地域研究における総合的認識とは【総合的認識】
- 第5回：地域研究における全体像把握とは【全体像の把握】
- 第6回：全体像把握の方法【全体像把握の方法】
- 第7回：オリエンタリズム関連DVDの視聴【オリエンタリズム】
- 第8回：オリエンタリズム克服の方法【オリエンタリズムの克服方法】
- 第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ【文化主義的アプローチ】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。【地域概念】
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題【ジョージ・オーウェルとミャンマー】
- 第13回：地域研究の視点（人間関係）【人間関係】
- 第14回：まとめ
- 第15回：質問

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs「16. 平和と公正」

安全保障論 【夜】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS111F	◎		○		○
科目名	安全保障論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

わが国の防衛に関する概説を通じて、その必要性や意義について理解し、防衛一般についての知識や理解に基づいて、広く安全保障一般に対する思考を促すことを目的とする。具体的には、安全保障とは何か、防衛とは何か、といった基礎概念の提示を行い、防衛の必要性や意義を論ずることになるが、これらを理解するためには、前提として、わが国が置かれた環境および目下の脅威を把握する作業（状況認識）が欠かせない。一方で、わが国は憲法9条のもと「平和主義」を標榜していることから、その防衛も様々な制約を受けることになる。従って、わが国の防衛を考えるには、そうした「制度」面での知識も欠かせない。以上を踏まえ、本講義では、日本の防衛について、現実的な視点と制度的な視点の双方を重視し、総論、各論を通じて、現状と課題の理解と思考を促す。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、『防衛ハンドブック』、その他は適宜指示する。

安全保障論 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 安全保障(1)
安全保障を学ぶことの重要性、
- 第3回 安全保障(2)
安全保障とは何か、安全保障の目標、安全保障のスペクトラム
- 第4回 安全保障(3)
脅威とは何か、脅威の定義、安全保障の非軍事的側面と総合安全保障、国土安全保障
- 第5回 日本の安全保障(1)
安全保障の非軍事的側面（エネルギー、資源、食糧、備蓄をめぐる安全保障）
- 第6回 日本の安全保障(2)
安全保障の軍事的側面（国防、日米同盟、国際貢献）
- 第7回 日本の防衛(1)
防衛出動、個別的自衛権と集団的自衛権
- 第8回 日本の防衛(2)
海上警備、対領空侵犯措置、BMD対処、機雷除去、対外邦人輸送等
- 第9回 日本の防衛(3)
平和安全法制の概要
- 第10回 日本の防衛(4)
平和安全法制の論点
- 第11回 日本の脅威(1)
北朝鮮の脅威① 兵力の特徴、特殊部隊、江陵事案、わが国の防衛に対する意味、島嶼防衛とゲリコマ対処
- 第12回 日本の脅威(2)
北朝鮮の脅威② 弾道ミサイル及び大量破壊兵器
- 第13回 日本の脅威(3)
中国海空軍の脅威① 中国軍の不透明性、軍事態勢、海軍の動向
- 第14回 日本の脅威(4)
中国海空軍の脅威② 中国軍の戦略と行動
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読み、安全保障・防衛関連の記事をチェックする習慣を身につけておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

安全保障や防衛問題に関心があれば、誰でも履修してみてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

併せて世界（地球）特講（テロリズム論）を履修すると、より体系的に理解できる。

キーワード /Keywords

国際社会と日本【夜】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
IRL004F	◎		○		○
科目名	国際社会と日本				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

近現代の世界史のなかに東アジア三国(日本、清国・中国、朝鮮・韓国)の発展を位置づけ、国際関係史と地域研究への理解を深める。歴史は「過去と現在との対話」と言われるが、実は「過去と将来との対話」でもある。したがって、過去と現在の「東アジアの中の日本」を考えることや、将来の「東アジア地域秩序の構築・構築」に有意義な観点を見出すことを目指す。

教科書 /Textbooks

ガイダンスの時にあらためて紹介する。
第1回～第8回については、五百旗頭真編『第3版補訂版 戦後日本外交史』(有斐閣 2014)[本体価格2,000円]を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンスの時、あるいは授業中に紹介する。
後半部分の朝鮮半島に关する記述では、長田彰文『世界史の中の近代日韓関係』(慶応義塾大学出版会 2013)が役立つ。その他、後半で使う参考書として、図書館所蔵のものをあらかじめ示すと、
日中韓3国共通歴史教材委員会編『未来をひらく歴史 東アジア3国の近現代史』(高文研、2005)
日中韓3国共通歴史教材委員会編『新しい東アジア近現代史』上・下(日本評論社、2012)がある。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業のガイダンス、
- 2回 占領下日本の外交 【占領政策】【日本国憲法制定】【封じ込め戦略】
- 3回 日米同盟の形成 【中ソ同盟】【朝鮮戦争】【サンフランシスコ講和条約】【日米安全保障条約】
- 4回 岸信介政権の外交 【1955年の政治体制】【日米安保条約改定】【60年安保闘争】
- 5回 池田勇人政権の外交 【高度経済成長】
- 6回 佐藤栄作政権の外交 【沖縄復帰】【非核三原則】【核密約】
- 7回 田中角栄の時代と中曽根康弘の外交 【石油危機】
- 8回 冷戦の終結と21世紀の世界 【軍縮】【湾岸戦争】【テロとの戦い】
- 9回 中国、日本、朝鮮の開国と当時の国際情勢 【東アジア国際秩序】【自由貿易】【朝鮮問題】
- 10回 日清・日露戦争と朝鮮(韓国) 【大韓帝国】【日英同盟】【日露交渉】
- 11回 日本の韓国侵略と列国 【保護国化】【統監政治】【韓国併合】
- 12回 日本の朝鮮統治と国際関係 【武断政治】【三・一運動】【文化政治】
- 13回 国際情勢の緊迫と朝鮮統治 【満州事変】【大陸兵站基地】【日中戦争】
- 14回 日本の敗戦と朝鮮の南北分断 【皇民化政策】【太平洋戦争】【朝鮮問題】
- 15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

前半レポート 50% 後半レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までにあらかじめ資料や教科書で授業内容を調べておくこと。授業終了後には、授業ノートと資料や教科書を照合しながら、理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

複数の先生の担当授業です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業前には予め教科書で該当箇所を学習し、終了後は復習を行うこと。

キーワード /Keywords

近現代 国際関係史 東アジア

グローバル化する経済【夜】

担当者名 /Instructor 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科, 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科, 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科, 工藤 一成 / マネジメント研究科 専門職学位課程
松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN001F	◎		○		○
科目名	グローバル化する経済				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化した経済の枠組み、グローバル化によって世界と各国が受けた影響、グローバル化の問題点などを包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨンーグローバル化とは何か
- 2回 自由貿易【比較優位】【貿易の利益】
- 3回 地域貿易協定【自由貿易協定】【関税同盟】
- 4回 企業の海外進出と立地(1)【直接投資】
- 5回 企業の海外進出と立地(2)【人件費】【為替レート】
- 6回 海外との取引の描写【経常収支と資本移動について】
- 7回 先進国と途上国間の資本移動【経済成長と資本移動について】
- 8回 国内都市間競争とグローバル化【人口減少社会】【インバウンド】
- 9回 社会インフラの国際技術移転【外部効果】【公共ガバナンス】
- 10回 地域政策と国際化(1)【交流人口】【インバウンド振興】
- 11回 地域政策と国際化(2)【越境する地域問題】【政策手法の変化】
- 12回 国際労働移動(1)【日本における外国人労働者の受け入れ】【賃金決定理論の基礎】
- 13回 国際労働移動(2)【移民と所得分配】【移民の移動パターン】【移民の経済的同化】
- 14回 グローバル化の要因とメリット【消費者余剰】
- 15回 グローバル化のデメリット【所得格差】【金融危機の伝染】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験: 100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の復習を行うこと、また授業の理解に有益な読者や映像視聴などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済関連のニュースや報道を視聴する習慣をつけてほしい。授業で使用するプリントは北方Moodleにアップするので、きちんと復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

グローバル化する経済【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
世界(地球)科目

キーワード /Keywords

近代史入門【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS110F	◎		○		○
科目名	近代史入門				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

明治維新（1868年）から敗戦（1945年）までの日本近代史を概説していきます。明治憲法の下でなぜ、政党政治が発展できたのか。それにもかかわらず、なぜ、昭和期に入ると軍部が台頭したのか。この二つの問題を中心に講義を進めていきます。日本のことを知らなくて、国際化社会に対処することはできません。この講義では、日本近代史を学び直すことを通じて、21世紀にふさわしい歴史的感覚を涵養していきます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『近代日本と軍部 1868 - 1945』講談社現代新書、2020年、税別1300円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 「文明国」をめざして - 憲法制定・自由民権運動【伊藤博文】【井上毅】【板垣退助】【大隈重信】
- 第3回 明治憲法体制の成立【伊藤博文】【山県有朋】【児玉源太郎】【統帥権】
- 第4回 日清戦争【伊藤博文】【陸奥宗光】
- 第5回 立憲政友会の成立【伊藤博文】【山県有朋】【星亨】
- 第6回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第7回 憲法改革の頓挫【伊藤博文】【児玉源太郎】【韓国併合】
- 第8回 大正政変【桂太郎】【尾崎行雄】【21カ条要求】
- 第9回 政党内閣への道【原敬】【山県有朋】【加藤高明】
- 第10回 二大政党の時代【浜口雄幸】【田中義一】【統帥権干犯問題】
- 第11回 軍部の台頭【満州事変】【皇道派】【統制派】
- 第12回 2・26事件【高橋是清】【永田鉄山】【「満州国」】
- 第13回 日中戦争【近衛文麿】【西園寺公望】【近衛新体制】
- 第14回 太平洋戦争 - 明治憲法体制の崩壊【昭和天皇】【日独伊三国軍事同盟】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...10% 期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。授業終了後はノートを読み直し、授業中に紹介した参考文献を読んでおくこと。各自積極的に受講して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義では歴史的事項の暗記は重視しません。歴史の流れを史料に即して論理的に理解することが大切です。ノートをしっかりとって下さい。最新の研究成果を用いて講義を進めます。

キーワード /Keywords

可能性としての歴史【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HIS200F	◎		○		○
科目名	可能性としての歴史		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

歴史の転換点において、ありえた別の政策的選択肢を選んでいたら、日本は、そして世界はどうなっていただろうか。この講義では、おもに日本外交史を講義する中で、いくつかの政策選択上のイフを導入して、第二次世界大戦史の諸相を提示していきます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、講義の中で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 学説の整理【15年戦争】【ファシズム】【ナチズム】【共産主義】【軍国主義】
- 3回 政党内閣と満州事変【「満州国」】【関東軍】【五・一五事件】
- 4回 軍部の台頭【二・二六事件】【国体明徴運動】【高橋是清】
- 5回 日中戦争【近衛文麿】【大政翼賛会】
- 6回 ヒトラーの台頭【暴力】【国民社会主義ドイツ労働者党】
- 7回 日独伊ソの体制比較【政軍関係】【全体主義】
- 8回 ヒトラーと第二次世界大戦1【オーストリア併合】【ミュンヘン会談】【独ソ不可侵条約】
- 9回 ヒトラーと第二次世界大戦2【独ソ戦】【「最終的解決」】
- 10回 日独伊三国軍事同盟の成立【ノモンハン事件】【ユーラシア大陸ブロック構想】【日ソ中立条約】
- 11回 日米戦争は不可避だったのか【北進論】【南進論】【日米交渉】
- 12回 太平洋戦争1【東条英機】【戦時体制】
- 13回 太平洋戦争2【「戦後秩序構想」】
- 14回 敗戦【「本土決戦」】【日ソ戦争】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...10%、期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに高校教科書（「日本史」「世界史」）レベルの文献の該当箇所を目を通して置いて下さい。授業終了後にはその日のノートをもう一度読み返して下さい。参考文献は講義の中で指示いたします。
ノートはしっかりとって下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アカデミック・スキルズI【夜】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1学期未修得者再
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 履

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES101F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズI		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、大学生活に必要な「考える力」の基礎となるスキルを身に付けることである。様々な問題が発生する現代社会においては、こうすれば大丈夫という誰にも共通な正解が存在しない。しかし、その正解のない課題について考えていく姿勢が大切である。考えることは、学びを深めていく上で大切な能力のひとつであり、「考える力」の習得こそが、複雑で予想しがたい現代社会を生き抜いていくための基盤を作り上げる。本授業では、様々なテーマを題材にアクティブ・ラーニングの授業形態を取りながら、以下の3点に関する能力の習得を目指す。また、大学での学びや生活に必要な知識や情報リテラシーについての学習も行う。

- ・ 情報技術を活用して、自分の考えを表現することができる。
- ・ 正解のない課題の解決に向けて、諦めることなく考え抜くことができる。
- ・ 他者とコミュニケーションを取りつつ、協同して作業を行うことができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、大学ポータルサイトの説明【ID、パスワード等】
- 2回 情報リテラシー 1【大学ICT環境、e-Learningシステム等】
- 3回 情報リテラシー 2【情報モラル、情報セキュリティ、著作権等】
- 4回 情報リテラシー 3【文書作成】
- 5回 情報リテラシー 4【表計算、グラフ】
- 6回 情報リテラシー 5【情報リテラシーの振り返り】
- 7回 大学での学びや生活について【剽窃と引用、キャンパス・マナー】
- 8回 考える力1【受け取る力の説明】
- 9回 考える力2【受け取る力の演習】
- 10回 考える力3【処理する力の説明】
- 11回 考える力4【処理する力の演習】
- 12回 考える力5【発信する力の説明】
- 13回 考える力6【発信する力の演習】
- 14回 振り返り
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題への積極的な参加 ... 70%
宿題や振り返りレポート ... 30%
ただし、授業中に実施する情報リテラシー（情報モラル・情報セキュリティ、文書作成・表計算）の必須課題に合格しなければならない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

担当者の指示に従い、毎回、授業開始前までに必要な授業の準備を行い、授業終了後に学んだことを振り返り、まとめておくこと。また、大学生活で欠かせない情報リテラシー能力の習熟には日々の練習が欠かせないため、正規の授業時間外の時間に、パソコン自習室や自宅にて積極的に操作練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講生の興味関心や理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。詳細は、初回の授業で説明する。

アカデミック・スキルズI【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ほぼ毎回、グループディスカッションや各回に適したワーク、質疑応答などを繰り返しながら、授業を展開していく。このため、積極的に授業に参加して欲しい。

キーワード /Keywords

考える力、情報リテラシー、アクティブ・ラーニング

情報社会への招待【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF100F		◎	○		
科目名	情報社会への招待		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、現在の情報社会を俯瞰的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎とし、変化し続ける情報技術と正しくつぎ合えるような適応力を身につけることを目指します。

また、この授業で学ぶICT（情報通信技術）は、国連が定めたSDGs（持続可能な開発目標）のうち、「4．質の高い教育をみんなに」「8．働きがいも経済成長も」「9．産業と技術革新の基盤をつくろう」「10．人や国の不平等をなくそう」「17．パートナーシップで目標を達成しよう」に関連していると考えています。授業を通じて、これらの目標についても考えを深めてみてください。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル、炎上、個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光、音、匂い、味、触覚、電気】
- 3回 コンピュータはどうやって情報を取り扱うか【2進数、ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置、出力装置、解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU、メモリ、記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS、拡張子とアプリケーション、文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換、パケット交換、LAN、IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名、DNS、サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン、位置情報、GPS、GIS、プライバシー】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス、スパイウェア、不正アクセス、詐欺、なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信、ファイアウォール、クッキー、セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア、防犯カメラ、ライフログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン、Wikipedia、フリーミアム、クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権、コンテンツのデジタル化、クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 100%

情報社会への招待【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

e-Learningサイト「Moodle」に授業資料を提示しますので、事前学習・事後学習に利用してください。また、授業中に配布した課題プリントを持ち帰って、次回の授業時に提出したり、Moodleの課題等に期限までに解答したりしてもらいます（必要な学習時間の目安は予習60分、復習60分）。

その他、ICTに関するニュースを視聴するなど、日常的、能動的に情報社会に関する事柄に興味をもつことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

キーワード /Keywords

情報社会，ネットワーク，セキュリティ，SDGs 4．質の高い教育を，SDGs 8．働きがい・経済成長，SDGs 9．産業・技術革命，SDGs 10．不平等をなくす，SDGs 17．パートナーシップ

コンピューターリテラシー 【夜】

担当者名 /Instructor 古川 洋章

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF101F		◎			
科目名	コンピューターリテラシー		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、コンピューターやインターネットを正しく扱うための知識や技術を学習し、情報社会において自らの考えや判断を表現・伝達する手段として活用する能力を身につけることです。そのため、本授業では実際にコンピューターを操作しながら、以下のような項目を達成できる技能の習得を目指します。

【情報モラル・情報セキュリティ】

- ・ インターネットにおけるリスクを把握し正しい使い方について説明することができる
- ・ 著作権と引用のルールについて説明することができる

【電子メール】

- ・ 電子メールの特性および仕組みについて説明することができる
- ・ ビジスマナーを意識した電子メールの作成・送受信ができる【文章作成】
- ・ 基礎的な文章の作成ができる
- ・ 文章作成ソフトの機能を活用した文章の装飾ができる
- ・ 長文レポートの作成ができる

【表計算・グラフ作成】

- ・ 基礎的な表の作成ができる
- ・ 数式や関数を用いたデータの集計ができる
- ・ グラフの作成ができる
- ・ ある条件に応じて出力結果を変えることができる

なお、本授業は初心者を対象としています。

教科書 /Textbooks

『情報リテラシー Windows10 /Office2019対応』 FOM出版、2,000円（税抜）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 コンピューターの操作方法
- 3回 情報モラル・情報セキュリティ：インターネットにおけるリスクとコミュニケーション
- 4回 電子メール：大学における電子メール
- 5回 文章作成1：文章作成の基本操作
- 6回 文章作成2：文章作成ソフト機能の活用
- 7回 文章作成3：レポート作成
- 8回 文章作成4：文章作成練習
- 9回 演習1：文章作成
- 10回 表計算・グラフ作成1：表作成の基本操作
- 11回 表計算・グラフ作成2：データ集計・グラフ作成
- 12回 表計算・グラフ作成3：条件に応じた出力
- 13回 表計算・グラフ作成4：表計算・グラフ作成練習
- 14回 演習2：表計算・グラフ作成
- 15回 ふり返し・まとめ

コンピューターリテラシー 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ インターネット・情報モラル・情報セキュリティに関する課題...15%
- ・ 電子メールの課題...10%
- ・ 文章作成演習の課題...25%
- ・ 表計算・グラフ作成演習の課題...25%
- ・ 授業支援ツールを用いた授業への積極的な参加...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに、予め授業テーマについて予習してください。また授業終了後には、パソコン自習室や自身のパソコン等で積極的に復習してください。

履修上の注意 /Remarks

コンピューターの基本的な操作（キーボードによる文字入力、マウス操作など）ができるようになっておくと受講しやすいです。また、受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業では、初心者を対象に、情報社会においてコンピューターやインターネットを正しく扱うための基本的な知識や技術について学習し、活用する能力の体得を目指します。実際にコンピューターを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に練習に取り組む姿勢が大切です。わからないことがあれば、随時、質問をしてください。

なお、第1回目の授業に必ず出席してください。受講希望者多数の場合、受講者数調整を実施し受講可能な学生を決定します。詳細は、第1回目の授業中に説明します。

キーワード /Keywords

文章作成、表作成、グラフ、電子メール、情報モラル、情報セキュリティ

ことばの科学 【夜】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIN110F	○	○	◎		
科目名	ことばの科学		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語はじめその他の言語のデータをもとに、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

漆原 朗子 (編著) 『形態論』 (朝倉日英対照言語学シリーズ第4巻)。朝倉書店、2016年。¥2700 + 税。
配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 大津 由紀雄 (編著) 『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』。ミネルヴァ書房、2009年。
- スティーヴン・ピンカー (著) 椋田 直子 (訳) 『言語を生みだす本能(上)・(下)』。NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ことばの不思議
- 第2回 ことばの要素
- 第3回 ことばの習得
- 第4回 普遍文法と個別文法
- 第5回 ことばの単位(1)：音韻
- 第6回 連濁
- 第7回 鼻濁音
- 第8回 ことばの単位(2)：語
- 第9回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第10回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第11回 ことばの単位(3)：文
- 第12回 動詞の自他
- 第13回 日本語と英語の受動態
- 第14回 数量詞
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度・参加度...10% 課題...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：授業時に指示した文献の講読
- 事後学習：授業で扱った内容に関する課題の提出

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代人のこころ【夜】

担当者名 /Instructor 福田 恭介 / Kyosuke Fuikuda / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 / Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PSY003F			◎	○	○
科目名	現代人のこころ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

現代を生きているわれわれの「こころ」について考えていきます。「こころ」というと、通常は、笑ったり、悲しんだり、怒ったりといったことを引き起こしているものと思いがちです。「こころ」を科学的に調べるにはどうすればいいのでしょうか？医療現場のように血液を採集してその人の「身体の状態」はわかっても、その人の「こころ」がわかるわけでもありません。

「こころ」はそれだけではありません。目の前のリンゴを見て指さすこと、これも「こころ」が引き起こしているものです。なぜなら、目の網膜に映ったリンゴを、目の網膜の中にあるのではなく、あそこのテーブルの上にあるものと判断しているからです。さらに、リンゴは真っ赤で、嘔むと口中に果汁が染みわたり、美味しそうだと思うこと、これも「こころ」の一部です。

「こころ」は目に見えるものではないので、心理学では人の行動を観察することから始めます。観察するためには、行動を観察するだけでなく、質問にハイ・イエで答える単純なものから、実験室でモニター画面を見て答えてもらったり、そのときの身体の反応を測ったりするものまでさまざまです。心理学の研究者は、さまざまな側面から「こころ」についてアプローチを行っています。こういった基礎的な面を明らかにした上で、「こころ」の問題で苦しさや困難を抱えている人たちを支えていこうとするのです。この授業では、さまざまな側面から見た「こころ」がこんなにも違って見えるのかについて考えていきます。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 福田恭介 (2018) ベアレントトレーニング実践ガイドブック - きつとうまくいく。子どもの発達支援 あいり出版 ○○行場次朗・箱田裕司 (2014) 新・知性と感性の心理 - 認知心理学最前線 - 福村出版
- 三浦麻子・佐藤博 (2018) なるほど！心理学観察法 北大路書房
- 丸野俊一・子安増生 (1998) 子どもが「こころ」に気づくとき ミネルヴァ書房
- やまだようこ (1987) ことばの前のことば 新曜社
- 諏訪利明・安倍陽子編 (2006) ふしぎだね!?自閉症のおともだち ミネルヴァ書房
- 諏訪利明・安倍陽子編 (2006) ふしぎだね!?アスペルガー症候群「高機能自閉症」のおともだち ミネルヴァ書房
- 高山恵子編 (2006) ふしぎだね!?ADHD(注意欠陥多動性障害)のおともだち。ミネルヴァ書房
- 神奈川LD協会編 (2006) ふしぎだね!?LD(学習障害)のおともだち ミネルヴァ書房
- 奥村隆 息子と僕のアスペルガー物語 <https://gendai.ismedia.jp/list/serial/okumura>

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1: 心理学とは：さまざまな「こころ」の側面
- 2: 知覚1：ものが見えるとは？
- 3: 知覚2：色はなぜ見える？
- 4: 知覚3：形はなぜ見える？
- 5: 知覚4：どうやって奥行きや動きを判断している？
- 6: 目の動きを観察して「こころ」を探る
- 7: まばたきを観察して「こころ」を探る
- 8: 注意1：どうして騒がしい中でも会話ができるのか？
- 9: 注意2：意外と見落としやすい注意の機能
- 10: 数秒間の記憶によってストーリーは作られる
- 11: 昔の記憶は忘れることはない
- 12: 発達1：「こころ」どのように芽生えてくる？
- 13: 発達2：「こころ」はどのようにして人とやりとりできる？
- 14: 発達3：発達に苦手さを抱えるのはなぜ？
- 15: まとめ：いろいろな「こころ」の側面

現代人のこころ【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中のコメント：30点
レポート：30点
期末試験：40点

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

こちらからのコメントへの回答を参考にしながら、もっとも関心のある本やウェブサイトを読んで、所定の書式のレポートに要約し、200字程度のコメントを書いてもらいます。

履修上の注意 /Remarks

1. 授業を聞いて毎回コメントを書いてもらいます。
2. 次の時間、コメントにはできるだけ回答したいと思います。
3. 回答内容には、関連する本やウェブサイトを紹介しますので、それに目を通すと理解が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に積極的に参加できるようにいろいろな仕掛けを用意したいと思います。

キーワード /Keywords

知覚，目の動き，注意，短期記憶，長期記憶，ワーキングメモリ，心の発達，発達障害

文化を読む【夜】

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科, 河内 重雄 / KOUCHI SHIGEO / 比較文化学科
生住 昌大 / IKIZUMI MASAHIRO / 比較文化学科, 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIT001F			◎		○
科目名	文化を読む		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

文化を研究するうえで、解釈する＝読む行為は、分野をこえる基本的な営みである。本講義では、さまざまな人間の表現をとりあげて、人文科学的な知見からどのようにそれが読み解けるのかを示していく。文学研究、宗教研究、異文化間教育といった専門的知見から、その基本的な知識と方法を提示してみたい。「いま」、「ここ」にいる「わたし」にとって、異文化は時空をこえてひろがっている。そのことに鋭敏になるための気づきを用意するので、受講者は文化を読み解く柔軟な視点・姿勢を獲得してほしい。

◎宗教

宗教は文化の重要な構成要素であり、人間社会の価値観と密接な関係にある。我々にとってなじみ深い神道を取り上げ、他宗教との比較の観点を交えながらわかりやすく講義したい。

◎メディア

人間の生活はさまざまなメディアに媒介されて成立しています。本講義では異なるメディア間の表現比較、歴史的変遷の検討をおこないながら、われわれがなぜその表現にひかれてしまうのかを考えていきます。

◎日本近現代文学および出版文化

日本の文学・出版物とはいえ、読めばわかるというものではない。明治・大正・昭和時代ともなれば、もはや異文化である。同時代の文化について学びながらテキストと対話する基本姿勢を身につけてもらいたい。

教科書 /Textbooks

特定のテキストは使用しない。授業担当者が必要に応じて資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 「宗教」の講義についての概説とレポートの指示
- 第3回 世界観をめぐって① 『旧約聖書』の「創世記」とキリスト教の世界観
- 第4回 世界観をめぐって② 仏教の世界観
- 第5回 メディア表現の比較にむけて
- 第6回 作品研究(導入)
- 第7回 作品研究(鑑賞)
- 第8回 作品研究(比較と分析)
- 第9回 イメージを読む(導入)
- 第10回 イメージを読む(鑑賞と比較)
- 第11回 イメージを読む(分析)
- 第12回 安部公房「棒」の解釈
- 第13回 乙一「陽だまりの詩」の解釈
- 第14回 幕末・明治の出版物(西南戦争風刺画を知る)
- 第15回 幕末・明治の出版物(西南戦争風刺画を読み解く)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート＝100% (宗教、メディア、文学に関する3つのレポートすべてを提出しなければ、評価の対象とはならない)

文化を読む【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習については、授業担当者が講義中に指示する。
事後学習は、各回の授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

私語など、講義を妨げる行為は厳禁。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

履修等に関する質問は、コーディネーターの佐藤に質問すること。
講義内容に関する質問は、各回の授業担当教員に質問すること。

キーワード /Keywords

日本近現代文学、宗教、メディア

現代正義論【夜】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PHR003F			◎		
科目名	現代正義論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、現代正義論の流れを概観する。次に、現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題をとりあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的で身近な生命倫理にかかわる諸問題をとりあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房、2010年）
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』（早川書房、2010年）
- 深田三徳、濱真一郎『よくわかる法哲学・法思想 第2版』（ミネルヴァ書房、2015年）
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』（勁草書房、2006年）
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』（創文社、1995年）
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』（講談社、1997年）
- 瀧川裕英、宇佐美誠、大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ~ 問題の所在
- 第2回 現代正義論とは ~ 本講義の概観
- [第3回~第7回まで 「正義」の応用問題(生命倫理と法)]
- 第3回 脳死・臓器移植① ~ 臓器移植法の制定と改正
- 第4回 脳死・臓器移植② ~ 法改正時の諸論点
- 第5回 脳死・臓器移植③ ~ 改正臓器移植法の施行と課題
- 第6回 安楽死・尊厳死① ~ 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② ~ 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ~ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ~ ロールズとノージック
- 第10回 現代正義論③ ~ ノージックのリバタリアニズム
- 第11回 現代正義論④ ~ サンデルの共同体主義
- 第12回 現代正義論⑤ ~ 共同体主義【論争】
- 第13回 現代正義論⑥ ~ アマルティア・センの正義論
- 第14回 現代正義論⑦ ~ センとロールズ・ノージック
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

現代正義論 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、当該回に扱うテーマについて、自ら予習をしておくこと。授業の後は、各回の講義で配布したレジюмеや資料をきちんと読み込み、復習し理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解の役にたつと思います。

キーワード /Keywords

SDGs10. 不平等をなくす SDGs16. 平和と公正 ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

倫理思想史【夜】

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PHR005F			◎		
科目名	倫理思想史		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

近代では倫理は「倫理学」として独立した分野になっていますが、洋の東西を問わず、倫理・道徳は宗教（聖）、政治的共同体と密接な関係をもっています。また西欧においては、道徳的なものは美をもつとされ、「美しき魂」「美しき国家」の理想がとくにドイツ思想において重視されてきました。

この講義では、倫理・道徳と宗教（聖）、倫理・道徳と自然法、倫理・道徳と美（芸術作品）との分裂や融合のせめぎ合いの歴史を、近代の思想をたどることによって、明らかにします。そのことによって、現代において、法や社会を見る目が涵養され、自分ガどのように行動し、判断すればよいかの「判断力」を養成する一助となることをめざします。

教科書 /Textbooks

各講義でレジメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が毎回、原典と参考文献をレジメで紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1講 インTRODクシヨN：カール・シュミットと「中立性の時代」
- 第2講 第1部 聖と善の分離
 - (1) ルター：宗教の内面化
- 第3講 (2) ホッブズ：宗教と国家の分離、「暗黒の王国」と宗教的権威に変わる「主権」=「可死の神」
- 第4講 (3) スピノザ：民衆の道徳としての宗教、『神学・政治論』
- 第5講 (4) カント：理神論を超える理性宗教、『理性の限界内における宗教』
- 第6講 (5) フィヒテ：理性宗教の確立「生きた道徳法則が宗教」

- 第7講 第2部 法と善と聖の分離とせめぎあい
 - (1) ルソー：自律道徳のための法としての『社会契約論』
- 第8講 (2) カント：自由と法、「理論と実践」
- 第9講 (3) フィヒテ：フランス革命の哲学と『自然法の基礎』
- 第10講 (4) カール・シュミット：主権の不可侵性、「政治神学」

- 第11講 第3部 美と人倫、「美しき共同体」を求めて
 - (1) カント：美と目的論、『判断力批判』
- 第12講 (2) シラー：美と人倫、『カリアス書簡』と『美的教育書簡』
- 第13講 (3) ヘルダーリン：精神の詩学、『ヒュペーリオン』と『エンペドクレス』
- 第14講 (4) マルクス：物象化とコミュニケーション主義としてのコミュニズム
- 第15講 (5) ウィリアム・モリス：美と工芸のコミュニズム

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート60パーセント。講義中でのリフレクシヨN・カード40パーセント。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、参考文献を挙げるので、取捨選択して読んで下さい。

履修上の注意 /Remarks

交通機関の遅れなどやむをえない場合（要証明書）を除いて、30分を超えての遅刻入室は認めません。

倫理思想史 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

わかりやすい授業を心がけます。質問、議論を歓迎します。

キーワード /Keywords

戦争論 【夜】

担当者名 /Instructor 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS210F	○		◎		○
科目名	戦争論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

戦争とは何かを体系的に考えてみることをねらいとします。「日本の防衛」を履修済みの人はもちろん、まだ履修したことのない人の受講も大歓迎です。一言で言えば、「戦争とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

なし。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ホモサピエンスと戦争の起源(1)サルからヒトへ
- 第3回 ホモサピエンスと戦争の起源(2)ヒトの組織的戦争と定住の始まり
- 第4回 戦争概論～戦争の定義
- 第5回 戦争の経歴(1)絶対主義時代の戦争
- 第6回 戦争の経歴(2)革命戦争
- 第7回 戦争の経歴(3)近代戦争
- 第8回 両大戦の特徴(1)総力化
- 第9回 両大戦の特徴(2)イデオロギー化、(3)全面化
- 第10回 日本と原爆～原爆の開発過程、完成、投下
- 第11回 核兵器の構造
- 第12回 核兵器出現に伴う変化(1)時間的文脈における変化
- 第13回 核兵器出現に伴う変化(2)空間的文脈における変化
- 第14回 核兵器の役割(抑止概念、抑止条件、相互確証破壊)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業計画に沿って時系列的に講義を進めるので、該当する時代の高校世界史について再度確認しておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

異文化理解の基礎【夜】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ANT110F	○		○	◎	
科目名	異文化理解の基礎		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。（おそらく大部分が）北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではごくまれたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。文化に関する日常的な知識は、応用的なものばかりなので、基礎をしっかり学び、総合的な理解力、思索力を身につけることをめざす。

講義中に何回か指定するトピック（次回のテーマに関するもの）についての記述を求め、次回の講義の冒頭で、提出された内容から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進める。本講義は、個々の文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既成概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身につける手掛かりを学んでほしい。

教科書 /Textbooks

予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目のリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を購入する必要はありません。なお、講義に関する映画を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません（観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の図書も用いた課題などは指示します）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 田中雅一ほか(編)2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
- 波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

異文化理解の基礎【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：世界を理解するてがかりとしての文化

第I部 文化の基礎としての家族

第2回 伝統的家族の多様性

第3回 家族観の変容と近代

第4回 親族という認識

第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張

第6回 ジェンダーと伝統文化

第7回 文化相対主義の考え方

第8回 伝統文化について：構築主義と本質主義

第9回 中間テスト

第II部 文化と世界観

第10回 儀礼と世界観

第11回 宗教とコミュニティ

第12回 さまざまな信仰心

第13回 不幸への対処としての呪術

第14回 中間テストの解説

第15回 政教分離と世俗化

※出張などの理由で休講が入った場合、内容を変更することがある。具体的なスケジュールについては初回の講義で説明する。

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト+課題など40%、期末テスト60%を基本に、各自の授業貢献を適宜加点する。

※中間テストを予定しているが、受講者の数によってはレポートにすることがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・ 予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。

・ Moodleで適宜ミニ課題を出します。締め切りまでに提出してください。

・ 講義に関連する映画やDVDなどの映像資料を授業時間外に視聴することを求めることもあります。

履修上の注意 /Remarks

・ 評価方法やテキストとなる電子ブックや講義資料の閲覧方法など重要事項は第一回の講義で説明しますので、第一回目の講義は必ず出席してください。

・ 中間テストの無断欠席者や、提出課題の不正、授業態度が目に見える受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

・ 講義に出席していても、テストやレポートの評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。講義中に指示した関連文献を読むなど、復習にも真剣に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

〇〇人に××を贈るのはタブーである、といった個別具体的な異文化理解のマニュアルは、全く役に立たないわけではないですが、そのような情報は必要になった時に努力すればすぐ入手できます。この授業では、文化が異なるとはそもそもどういうことかについて、もっと根本に立ち戻って考えたいと思います。あなたは、人間関係をマニュアルで対応しようとする人と、あなた個人を理解しようとする人と、どちらを友人として信頼しますか？

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、共同体、社会関係、SDGs 不平等をなくす

市民活動論【夜】

担当者名 /Instructor 西田 心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE001F	○			◎	○
科目名	市民活動論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものか、日本の現実を歴史的に振り返り、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。主要な事例をとりあげ、それを柱にしなが授業を進めて行く予定である。到達目標としては受講生が自分なりの「政治参加」「社会参加」のあり方を柔軟に考えられるようになることである。
「SDGs」の目標の中の「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 検討の枠組みについて
 - 3回 枠組みを使った民衆行動の分析① - 政治と経済
 - 4回 枠組みを使った民衆行動の分析② - 市民
 - 5回 市民活動の<萌芽>① - 政治と経済
 - 6回 市民活動の<萌芽>② - 市民
 - 7回 市民活動の<再生>① - 政治と経済
 - 8回 市民活動の<再生>② - 市民
 - 9回 市民活動の<広がり>① - 政治と経済
 - 10回 市民活動の<広がり>② - 市民
 - 11回 中間まとめ
 - 12回 北九州市における市民活動のうねり
 - 13回 今日の市民活動の<展開>① - 政治と経済
 - 14回 今日の市民活動の<展開>② - 市民
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な参加姿勢... 20%
期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

この講義は「SDGs」世界を変えるための17の目標に幅広くあてはまるものですが、とくに「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

地域福祉論【夜】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW011F	○			◎	○
科目名	地域福祉論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

- ・ 地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂 等を含む）について理解する。
- ・ 地域福祉の主体と対象について理解する。
- ・ 地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。

教科書 /Textbooks

志賀信夫・ 畠中亨（2016）『地方都市から子どもの貧困をなくす 市民・ 行政の今とこれから』旬報社 1,400円＋税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

福祉士養成講座編集委員会編（2015）『新・ 社会福祉士養成講座〈9〉地域福祉の理論と方法-地域福祉論』中央法規
難波利光・ 坂本毅啓編（2017）『雇用創出と地域-地域経済・ 福祉・ 国際視点からのアプローチ-』大学教育出版
その他、適宜授業中に紹介します

授業計画・ 内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域福祉の基本的考え方と理念【構造的アプローチ、機能的アプローチ】
- 2回 地域福祉の発展過程1【セツルメント運動、シーボーム報告、グリフィス報告】
- 3回 地域福祉の発展過程2【高齢化、社会福祉八法改正、非貨幣的ニード】
- 4回 ゲストスピーカー
- 5回 地域福祉の理念【人権尊重、社会連帯】
- 6回 地域福祉の理念【ノーマライゼーション、福祉コミュニティ】
- 7回 地域のとらえ方と福祉圏域【コミュニティ、圏域、アソシエーション】
- 8回 コミュニティソーシャルワークの考え方【チームアプローチ、ニーズ】
- 9回 コミュニティソーシャルワークの方法【地域福祉計画、ケアマネジメント】
- 10回 貧困と地域福祉活動【社会福祉協議会、貧困の連鎖】
- 11回 障害者と地域福祉活動【総合支援法、成年後見制度、QOL】
- 12回 高齢者と地域福祉活動【地域包括支援センター、民生委員、社会福祉法人】
- 13回 女性と地域福祉活動【子育て支援、一人親家庭】
- 14回 子どもと地域福祉活動【児童館、保護司】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に指示する課題の提出・・・40% 期末試験・・・60%

事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、教科書や参考文献の講義内容に関する箇所を読み込んだり、関連する情報の収集などを行って下さい。
事後学習としては、講義で学んだことを通して、自分の住んでいる地域について調べたり、新聞等の記事に書かれている地域福祉に関するニュースについて調べて考察をしてください。授業中に課題が出た場合は、必ず取り組むようにして下さい。

履修上の注意 /Remarks

この科目は、基盤教育科目として開講される科目ですが、地域創生学群において社会福祉士養成課程における科目「地域福祉の理論と方法」に含まれる科目のひとつ（もうひとつは地域創生学群専門科目の「コミュニティワーク論」）でもあります。2019年度以降の地域創生学群入学生で、社会福祉士国家試験受験資格取得を希望される場合は、この科目の履修が必要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これからも地域で生活をしていくための教養として、「福祉のまちづくり」について一緒に考えてみましょう。

キーワード /Keywords

SDGs1.貧困をなくそう、SDGs3.健康と福祉を、SDGs4.不平等をなくす、SDGs11.まちづくり、福祉のまちづくり、少子高齢化、子どもの貧困、コミュニティソーシャルワーク、社会福祉士

共生社会論【夜】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW200F	○		○	◎	
科目名	共生社会論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

「共存」「共生」という言葉をキーワードとし、地域社会から国際社会における、共生のあり方を考え、実現可能性について探って見る。特に、異質なものを異文化ととらえ、異文化の共存・共生のあり方を掘り下げの中で、この問題に迫っていきたい。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準
- 第2回：「共存」「共生」の意味、共生社会の阻害要因【共存】【共生】【オリエンタリズム】
- 第3回：異文化共存の方法【一元論的理解VS多元論的理解】
- 第4回：異文化共存の阻害要因①【オリエンタリズム関連DVD視聴】
- 第5回：異文化共存の阻害要因②【オリエンタリズムとは】
- 第6回：オリエンタリズムの克服方法【文化相対主義】
- 第7回：障がい者との共生、「障害」の捉えかた【文化モデル】
- 第8回：自閉症とは【自閉症】
- 第9回：自閉症関連DVDの視聴(医療モデル的作品)【医療モデル】
- 第10回：医療モデル的作品の評価【医療モデル的作品の特徴】
- 第11回：自閉症関連DVDの視聴(文化モデル的作品)【文化モデル】
- 第12回：文化モデル的作品の評価【文化モデル的作品の特徴】
- 第13回：両作品の比較【3つのモデルとの関連で】
- 第14回：共生社会から共活社会へ【共生社会】【共活社会】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

本講義受講に当たっては、「国際学入門」や「障がい学」を既に受講していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs「3.健康と福祉」「16.平和と公正」「17.パートナーシップ」

メンタル・ヘルス【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PSY001F					◎
科目名	メンタル・ヘルス				※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

授業のねらい、テーマ

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルなタフさがなければ生活人としての活動は難しい世相である。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされ、ストレスに関連した多くの疾病に見舞われる危険も多くなっている。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。

本講義では一般的な心理学やアドラー心理学や森田療法を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を多角的かつ発達の視点からとらえ日々の生活と人生を充実させるためのストレスマネジメントの力を身につけることを目標とする。またメンタルに関連するソーシャルヘルス（社会的健康）やSDGs（持続可能な開発目標）にも触れる。

教科書 /Textbooks

テキスト 「こころと人生」中島俊介 編著 ナカニシヤ出版 2017 定価2000円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「森田療法」 岩井 寛 著 講談社現代新書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容とタイムスケジュール

- 第1回 メンタルヘルスとは……メンタルヘルスの歴史・最近の推移・受講上の注意
- 第2回 心の健康と人生……人間の発達・社会と心理学・生涯発達の理論
- 第3回 胎児・乳幼児のこころの健康……胎児の能力・誕生の危機・乳児の課題
- 第4回 幼児期・学童期の心の健康……自律と積極性・しつけ・勤勉性と劣等感
- 第5回 思春期の心理学……思春期の特徴とその対応。適応の困難さと向き合う
- 第6回 青年期……同一性(アイデンティティ)の心理・LGBTの理解
- 第7回 若い成人期……親密性の発達。働く上でのメンタルヘルス
- 第8回 ライフスタイル診断とこころの健康……うつ病・神経症など
- 第9回 発達障害についての理解 1…ADHD・LD・アスペルガーなどの基本的知識
- 第10回 発達障害についての理解 2…実際の対応の仕方、留意点
- 第11回 成人期の心の健康……生きがい・職場の心理学
- 第12回 老年期の心の健康……高齢者と認知症の心理
- 第13回 平和と暴力 1……社会的健康を阻害する暴力
- 第14回 平和と暴力 2……人権と対話の文化を・SDGs(持続可能な開発目標)の理解
- 第15回 講義のまとめ……講義のまとめ・ふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

①毎回の授業への参加熱意と態度(40%) ②定期試験(60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

心理学一般に関する様々な知識があれば理解は深まりやすい。日頃の生活の中で心理学や社会学、また科学的手法に関わるテーマについて自分の興味を深めていくような態度を習慣にすることが大切だと考える。

メンタル・ヘルス【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に対する質問や感想を小片紙に書いてもらうので積極的な姿勢で毎回の授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルス 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS001F				○	◎
科目名	フィジカル・ヘルス		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

そこで、本授業では、自分自身の健康について身体的・精神的・社会的側面から考え（講義）、年齢、性別、障がいの有無にかかわらず、誰でもできる運動を取り入れ（実習）、生涯にわたる健康の自己管理能力や社会で生きる自立的行動力を養うことを目指していく。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 (講義) 運動と身体の健康
- 3回 (実習) 仲間づくりを意図したウォーミングアップ
- 4回 (実習) 運動強度測定
- 5回 (講義) 運動の効果(精神的側面)
- 6回 (実習) ウェイトトレーニングのやり方
- 7回 (実習) 体脂肪を減らすトレーニング
- 8回 (講義) 運動の効果(身体的側面)
- 9回 (実習) レクリエーションスポーツ①(車椅子ソフトボール)
- 10回 (実習) レクリエーションスポーツ②(ベタンク)
- 11回 (実習) レクリエーションスポーツ③(キンボール)
- 12回 (実習) レクリエーションスポーツ④(アルティメット)
- 13回 (講義) 運動の効果(社会的側面)
- 14回 これからのスポーツ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみることに。

履修上の注意 /Remarks

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

運動ができる（得意）、できない（不得意）などは一切関係ありません。楽しく気軽に受講できると思います。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS082F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自立的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回～14回 ダブルスゲーム (リーグ戦)
- 15回 スキル獲得テスト②

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障害の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

キーワード /Keywords

ビジネス英語I (群1年) 【夜】

担当者名 /Instructor シェーン・ドイル / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 群1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG131F		◎			
科目名	ビジネス英語 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

In this course students will learn the basics of business English. They will learn how to communicate effectively in a business environment by expressing their thoughts and ideas in a clear but professional manner. The course will comprise of small group discussions, and individual presentations.

教科書 /Textbooks

Get Ready for business: Preparing for work Student Book 1
by Andrew Vaughan and Dorothy E Zemach
MacMillan
ISBN978-0230039797
Price ¥2,730

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with the Instructor

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Introduction
Week 2: Meet the company
Week 3: Introducing yourself
Week 4: What does your company do?
Week 5: Contacting other companies
Week 6: Visiting a company
Week 7: Placing Orders
Week 8: Delivery dates
Week 9: Getting to the meeting
Week 10: Confirming agreements
Week 11: Hiring new people
Week 12: Presenting to a client
Week 13: Presentation
Week 14: Making plans
Week 15: Review

成績評価の方法 /Assessment Method

In class assessment 40%
Homework 30%
Presentations and Group Work 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should review material before each class.

ビジネス英語I (群 1 年) 【夜】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語II (群 1 年) 【夜】

担当者名 /Instructor シェーン・ドイル / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG132F		◎			
科目名	ビジネス英語II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

In this course students will build on the basics of business English. They will learn how to communicate effectively in a business environment by expressing their thoughts and ideas in a clear but professional manner. The course will comprise of small group discussions, and individual presentations.

教科書 /Textbooks

Get Ready for business: Preparing for work Student Book 2
by Andrew Vaughan and Dorothy E Zemach
MacMillan
ISBN 978-4777363261
Price ¥2730

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with the Instructor

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Introduction
Week 2: January: Welcome to Seatec!
Week 3: February: An Important Visitor
Week 4: March: What's on the agenda?
Week 5: April: That's a great idea!
Week 6: May: I'll call you back.
Week 7: June: Can I get there on foot?
Week 8: July: Best wishes, Amy Lee
Week 9: August: That's a good question!
Week 10: September: What was his major?
Week 11: October: Tell me about yourself
Week 12: November: They're too expensive
Week 13: December: I need to work harder
Week 14: Presentations
Week 15: Review

成績評価の方法 /Assessment Method

In class assessment 40%
Homework 30%
Presentations and discussions 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should review material before each class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助演習Ⅰ【夜】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW260M		○	△	◎	
科目名	相談援助演習Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本授業は、相談援助に関わる他の科目との関連性を視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に関わる知識と技術について実践的に修得することを目指します。特に、基本的な対象者理解のための視点、コミュニケーションスキルなど、対人援助職としての基礎を中心として学びます。

教科書 /Textbooks

各回でレジュメ、ワークシート、資料などを配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 【カリキュラムにおけるこの科目の意味など】
- 2回 ソーシャルワーク実践：ソーシャルワーカーの使命と役割を理解する 【ソーシャルワーカーの使命と役割】
- 3回 専門職としての価値・倫理と自己覚知 【自己覚知】
- 4回 自分の生活史を作成し生活史把握の意義について学ぶ 【ライフヒストリー】
- 5回 自己理解、自己覚知について体験的に学ぶ 【自己覚知】
- 6回 他者を理解するということ 【他者理解】
- 7回 コミュニケーション① 【言語的コミュニケーション】
- 8回 コミュニケーション② 【非言語的コミュニケーション】
- 9回 ロールプレイ演習の概説 【ロールプレイ】
- 10回 基礎的技能：面接技法についての理解① 【観察】 【傾聴】
- 11回 基礎的技能：面接技法についての理解② 【原理・原則】 【ロールプレイ】
- 12回 基礎的技能：面接技法についての理解③ 【情報収集】
- 13回 基礎的技能：記録技法と情報整理技法についての理解① 【エコマップ】 【ジェノグラム】
- 14回 基礎的技能：記録技法と情報整理技法についての理解② 【ケース記録】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート... 50%、演習への取り組み... 25%、課題の提出... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習では、相談援助の基盤と専門職1・2や、相談援助の理論と方法1等の援助スキルに関する科目の内容を復習しましょう。事後学習では、演習を通して学んだスキルを活用して、ケース分析などの復習をしましょう。

履修上の注意 /Remarks

1年次の間に、現代社会と福祉1・2、相談援助の基盤と専門職1・2、をあらかじめ履修していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この科目では、対人援助職としての基礎を学びます。体験的に学ぶことが中心となりますので、積極的な参加を期待します。一緒に楽しみながら学びましょう。

相談援助演習I【夜】

キーワード /Keywords

社会福祉士、相談援助、ソーシャルワーク

相談援助演習Ⅱ【夜】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 演習 /Class 2年 /2 Years クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW261M		○	△	◎	
科目名	相談援助演習Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本授業は、相談援助に関わる他の科目との関連性を視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に関わる知識と技術について実践的に修得することを目指します。特に具体的な相談援助事例を体系的に学び、専門的援助として概念化し、理論化し、体系立てていくことができる能力の涵養をを目的としています。

教科書 /Textbooks

適宜、レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、授業時に紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 相談援助の実際と援助技術についてを事例を活用して学ぶ
- 2回 ソーシャルワーク実践の展開
- 3回 事例検討の目的・方法
- 4回 事例学習①【貧困問題】
- 5回 事例学習②【生活困窮者支援】
- 6回 事例学習③【児童虐待】
- 7回 事例学習④【児童虐待】
- 8回 事例学習⑤【高齢者虐待】
- 9回 事例学習⑥【高齢者虐待】
- 10回 事例学習⑦【DV】
- 11回 事例学習⑧【家庭内暴力】
- 12回 事例学習⑨【外国人問題】
- 13回 事例学習⑩【社会的排除】
- 14回 事例学習のまとめと振り返り
- 15回 演習全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート.....50%、演習課題への取り組み.....25%、課題の提出.....25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習では、相談援助の基盤と専門職1・2や、相談援助の理論と方法1・2・3等の援助スキルに関する科目の内容を復習しましょう。事後学習では、演習を通して学んだスキルを活用して、ケース分析などの復習をしましょう。

履修上の注意 /Remarks

相談援助演習Ⅰを先に履修していくこと。合わせて、相談援助の理論と方法1や、それ以外の福祉観系科目を先に履修しておくこと、本授業の理解がより深いものになります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

グループディスカッションがメインになります。積極的な参加を期待します。

キーワード /Keywords

社会福祉士、相談援助、ソーシャルワーク、福祉事例

地域創生論4 (まちづくり実践論) 【夜】

担当者名 南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE103M	◎				
科目名	地域創生論 4		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

これからの地域（都市部を含む）は、市民、コミュニティ、各種団体、企業、行政・議会など、多様な主体がそれぞれ役割を担ってまちづくりに参画する地域経営の仕組みづくりと、その仕組みに基づいた実践が必要である。さらに、まちづくりを支える政策や各種事業の検討に際しては、実態に基づくデータの取得・活用が不可欠である。

本授業では、地域創生・まちづくりを推進していくために必要な地域経営のあり方等について現実に即して学ぶと共に、近年特に注目されている関連政策（特にスポーツや文化財を活かしたまちづくり）について基礎的事項を学ぶ。さらに、まちづくりに関わるデータ取得や活用に関する基礎的事項について、受講者による実践的な活動も通じて学んでいく。

※「まちづくり」という用語は、学問分野あるいは使用する人によって多様な用い方が行われている。本授業では、都市・地域において、多様な主体が関わるハード・ソフト両面の幅広い政策や行動を「まちづくり」と位置づける。

教科書 /Textbooks

使用しない。毎回レジユメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 佐藤滋編著 (2011) 『まちづくり市民事業 新しい公共による地域再生』学芸出版社
 - ・ 仲澤真、吉田政幸編著 (2017) 『よくわかるスポーツマーケティング』ミネルヴァ書房
- その他、授業中に適宜紹介する。

地域創生論4 (まちづくり実践論) 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 ガイダンス ~本授業における「まちづくり」の考え方
- 第 2 回 新しい地域経営の動き① 【協働】【新しい公共】
- 第 3 回 新しい地域経営の動き② 【実践事例】
- 第 4 回 直近の国・地方自治体のまちづくり政策① 【スポーツ、文化財】
- 第 5 回 まちづくりにおける現状把握の重要性① 【総論】
- 第 6 回 まちづくりにおける現状把握の重要性② 【アンケート調査について】
- 第 7 回 スポーツをいかしたまちづくり① 【総論】
- 第 8 回 スポーツをいかしたまちづくり② 【フィールドワーク(アンケート調査配布)】
- 第 9 回 スポーツをいかしたまちづくり③ 【フィールドワーク(アンケート調査回収)】
- 第 10 回 スポーツをいかしたまちづくり④ 【フィールドワーク(地域活性化に向けた視察)】
- 第 11 回 直近の国・地方自治体のまちづくり政策② 【地方創生】
- 第 12 回 直近の国・地方自治体のまちづくり政策③ 【防災】
- 第 13 回 文化財をいかしたまちづくり① 【総論】
- 第 14 回 文化財をいかしたまちづくり② 【各論】
- 第 15 回 まちづくりにおける合意形成の重要性

※ 各回の授業時点で社会的に話題となっているまちづくり関連のトピックや、最新の政策動向を取り入れた授業を心掛けているため、授業の構成については変更する場合があります。

※ ゲスト講話を行う回がある。

※ 第 8 ~ 10 回に予定するフィールドワークでは、スタジアム観戦者に対するアンケート調査を受講者が実践する。6月6日(土) 11時 30分頃にミクニワールドスタジアム北九州(小倉駅から徒歩約7分)に集合し、実施予定である。なお、日程変更の可能性がある。

※ フィールドワークへの参加は原則必須とする。やむを得ない理由でフィールドワークに参加できない学生に対しては、相応の課題を課し、それを実施することで参加の代替とする。詳細については第1回授業で説明する。

※ 受講者数の状況、および関係機関との調整結果により、授業計画を変更し、フィールドワークを実施せず他の実践的内容等で代替する可能性等がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 授業への積極的参加(議論やフィールドワークへの取り組み姿勢等) : 30%
- ゲスト講話およびフィールドワーク等の感想レポート(複数回実施) : 30%
- 期末レポート : 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習については、毎回、「1週間以内に報道され、各自が関心を持ったまちづくり関連記事」を各自で複数抽出し、それについて自分なりの考え方をまとめておくこと。第2回以降の授業(フィールドワークの回を除く。)において毎回数名の学生を指名し、発表を求める予定である。フィールドワークを行う回の事前学習については授業において指示する。

事後学習については、ゲストをお招きした回や学生同士によるディスカッションを行った回の後においては振り返りの作業を行うこと(レポートの提出を求める場合あり)。その他、授業中に興味を持った事項については、授業後に各自で調べて理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

フィールドワークについては、原則として参加を必須とする(授業計画の欄の※印を参照)。

フィールドワークに要する交通費については、受講者の自己負担となる。

受講者数の状況、および関係機関との調整結果等により、授業計画を変更し、フィールドワークを実施せず他の実践的内容で代替する可能性等がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃から、まちづくりへ幅広い関心を持ち、自分なりに書籍、報道、実践活動等を通じ幅広く多角的に情報収集を行い、常にまちづくりについて思考するよう意識してほしい。

キーワード /Keywords

地域経営、協働、地域活性化、スポーツをいかしたまちづくり、文化財をいかしたまちづくり

地域創生論6 (ボランティア活動論) 【夜】

担当者名 /Instructor 西田 心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE105M	◎				
科目名	地域創生論6		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

ボランティア活動の現状と概念を整理・確認し、地域社会での位置づけや活動の意義について考えます。ボランティア活動を狭義ではなく、広義に捉えたNPO(公益団体)として課題を定義することにより、組織運営の課題を理解・分析するとともに、地域・社会における生活の質を高める多様な課題(子育て支援・対策、高齢者支援・対策、雇用対策、環境保全・対策、新エネルギー・省エネルギー促進策、商店街活性化対策、自治会加入促進対策等)の解決に結びつくことを考えてみたいと思います。地域・社会の多様な課題の解決に向きあうには組織の自立した持続的な運営と、代表者としての取り組み姿勢・資質が不可欠であり、その要素の実現に必要な条件について考えます。住みよい地域・社会の実現には、ボランティア活動を慈善的な活動から発展的な発想により、持続的な自立したボランティア活動へと成長し、継続的に地域・社会と関わることで、人の意識変革を促し、人間力を高め、地域力を高める必要があります。さらに、組織運営における発想の拡大により、地域・社会の課題を解決する新しい社会ビジネス手法「コミュニティビジネス(市民事業)」「ソーシャルビジネス(社会起業)」の概要を理解することにより、生活の質を高めることを目的とする公共サービスの担い手としての社会的意義について考えてみたいと思います。この講義での到達目標の具体的な内容は以下の通りです。①.ボランティア活動の全体理解を得て、社会での位置づけや意義を学ぶと共に、組織運営の課題を分析する。②.ボランティア活動・NPO・NPO法人の社会的な役割を理解し、組織運営の違いを理解する。③.地域・社会の課題を分析することにより、ボランティア活動に求められる社会的な意義を理解する。④.人間力・地域力を高める目的を担う、コミュニティビジネス(市民事業)・ソーシャルビジネス(社会起業)の概論を理解し、地域・社会との関係性を考察することにより、社会性と経済性との調和による新しい地域・社会環境をイメージする。⑤.新しい生活支援サービス形態と称される「公共サービス」としての関係性を理解する。⑥.対話授業を取り入れることにより、授業での主体性を高め、協調性を基本とする「ボランティア活動に取り組む姿勢」を高める。

教科書 /Textbooks

適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で随時紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ボランティア活動の現状理解と、社会的な意義
- 2回 ボランティア活動とNPO(任意団体)・NPO法人の概念整理
- 3回 ボランティア活動とNPO(任意団体)の組織運営の課題分析
- 4回 特定非営利活動法人(NPO法人)の組織運営の課題分析
- 5回 ボランティア活動の自立化によるコミュニティビジネス(市民事業)への成長
- 6回 地域・社会の課題発見 その1
- 7回 地域・社会の課題発見 その2
- 8回 人間力(教育的影響)の現状理解と課題分析
- 9回 地域力(社会的影響)の現状理解と課題分析
- 10回 コミュニティビジネス(市民事業)と、人間力との関係性 その1
- 11回 コミュニティビジネス(市民事業)と、人間力との関係性 その2
- 12回 コミュニティビジネス(市民事業)と、地域力との関係性 その1
- 13回 コミュニティビジネス(市民事業)と、地域力との関係性 その2
- 14回 地域での雇用創出を目的とする、ソーシャルビジネス(社会起業)概要の理解
- 15回 ボランティア活動からコミュニティビジネス(市民事業)・ソーシャルビジネス(社会起業)への発展的可能性と、地域・社会からの期待(まとめ)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験(80%)、授業レポート(5%)、対話討議を含む授業での積極性(15%)を評価とします。

地域創生論6 (ボランティア活動論) 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

1. 受講にあたっては、毎回出席することが前提である。
2. 新聞、テレビ、ラジオ、北九州市の市政だより、福岡県NPO・ボランティアセンターの関連情報等を積極的に把握し、地域・社会の課題や社会の変化について考察すること。
3. 身近なボランティア活動に関心を持ち、その活動の全体の把握に努めること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生論9 (都市・地域マネジメント論) 【夜】

担当者名 /Instructor 小林 敏樹 / Toshiki Kobayashi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE113M	◎				
科目名	地域創生論9		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

人口減少、少子高齢社会における持続可能な地域、都市、まちのあり方を学ぶにあたっての基礎的な知識、手法等を学ぶ。
 まず、都市や地域をマネジメントする必要性について、さまざまな分野の事例を題材に習得する。
 次に、都市や都市計画の歴史、都市計画の先駆者たちの取り組みを学ぶことによって、今後の都市計画、まちづくりの方向性を考える。科学技術に頼るだけでなく、多数の多様な課題が山積し、将来の予測が難しい時代だからこそ、歴史にそのヒントを求める。
 そして、今日の都市、地域のマネジメントで重要なテーマとなっているインフラの維持や再編、公共交通の維持、空き家問題等についてより具体的に学び、さらにエリアマネジメント、コンパクトシティ、観光まちづくり (DMO)、子育てしやすいまちづくり、まちあるきとまちづくりなどの今日必要とされるまちづくりの新たな手法や考え方についても理解を深める。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 日端康雄 (2008) 「都市計画の世界史」講談社
 - ・福川裕一 (2019) 「ニッポンのまちのしくみ」淡交社
 - 伊藤雅春ほか (2017) 「都市計画とまちづくりがわかる本 第2版」彰国社
 - 薬袋奈美子ほか (2016) 「生活の視点でとく都市計画」彰国社
 - 饗庭伸ほか (2018) 「初めて学ぶ 都市計画(第二版)」市ヶ谷出版社
- その他、適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：都市・地域におけるマネジメントの必要性 (1)
- 第3回：都市・地域におけるマネジメントの必要性 (2)
- 第4回：都市・地域におけるマネジメントの必要性 (3)
- 第5回：都市・地域におけるマネジメントの必要性 (4)
- 第6回：都市の形成と発展 (1)
- 第7回：都市の形成と発展 (2)
- 第8回：都市の形成と発展 (3)
- 第9回：都市の形成と発展 (4)
- 第10回：都市・地域の今日的課題 (1)
- 第11回：都市・地域の今日的課題 (2)
- 第12回：都市計画・まちづくりの最新の取り組み (1)
- 第13回：都市計画・まちづくりの最新の取り組み (2)
- 第14回：都市計画・まちづくりの最新の取り組み (3)
- 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テストorレポート：50%、中間レポート(4回)：50%、

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

自分の出身地のまちはどうやってできたのかな？現在住んでいるまちはの特徴や課題は何か？などなど、授業で学んだことを身近な地域にあてはめて考えてみてください。
 都市、地域、まちづくりに関連する話題、ニュースを常にチェックするようにしてください。

地域創生論9 (都市・地域マネジメント論) 【夜】

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

都市の成り立ちから、今日の都市計画やまちづくりの仕組み、そして今後の都市や地域のあり方までを広く学べる講義です。地域での活動や実習活動を進めていくうえで参考になると思います。また、将来、自治体やNPO、コンサルタントなどさまざまな分野でまちづくりに携わっていると考えている方にもおすすめです。

キーワード /Keywords

都市、地域、マネジメント、子育て、福祉、ユニバーサルデザイン、都市の成り立ち、景観、交通、防災、観光、まちあるき、エリアマネジメント、コンパクトシティ

地域創生論12 (都市社会学) 【夜】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE116M	◎				
科目名	地域創生論12		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

この授業のテーマは、「社会的排除と参加包摂の都市社会学」である。
 1990年代以降、日本社会はグローバル化や産業構造の転換といった大きな構造変動の中にある。このような動きは、人びとの地域的・空間的移動や階層的移動を増大させてきた。それは日常生活のレベルでは、移民の増大や生活の困窮化といった形で顕在化している。かかる事態は、異質とされる人びとを排除したり、社会を分断したりする危機を内包している。この危機に抗し、活力ある民主的な社会を形成・維持していくためのアカデミックな作業の一つとして、社会的排除のメカニズムの実証的な分析と、それを踏まえた参加包摂型地域・社会の創造プロセスの構想と検証は位置づけられるだろう。
 このような問題意識のもと、授業では、(1) 同様の課題を明確に意識していた1920-30年代のシカゴ学派都市社会学の理解、(2) 移民や生活困窮者の社会的排除のメカニズム、(3) 社会的排除に抗する社会的な取り組み (支援) のあり方などについて考えていきたい。

教科書 /Textbooks

なし。
適宜レジュメ等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『顔の見えない定住化-日系ブラジル人と国家・市場・移民ネットワーク』 梶田孝道他著、名古屋大学出版会、2005年、¥4536
- 『生活困窮者への伴走型支援』、奥田知志・稲月正・垣田裕介・堤圭史郎著、明石書店、2014年、¥3024
- 『都市社会学・入門』松本康編著、有斐閣、2014年、¥2160
- 『都市の社会学』 町村敬志・西澤晃彦著、有斐閣、2000年、絶版
- 『よくわかる都市社会学』 中筋直哉、五十嵐泰正編著、ミネルヴァ書房、2013年、¥3024
- その他、講義の中で、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 以下のような構成で授業を進める。ただし、順番や内容を変更することもある。
- 第1回 社会的排除による生活の困窮化 - 移民と生活困窮者
 - 第2回 地域的・階層的移動者としての移民と生活困窮者
 - 第3回 シカゴ学派都市社会学の問題意識 - 貧困、移民、犯罪、社会解体
 - 第4回 シカゴ学派都市社会学の視角 (アスペクト) と方法 - 実験室としての都市、生活構造、エスノグラフィー、統計、社会地図
 - 第5回 都市社会学的生活構造論と社会移動論
 - 第6回 移民の社会的排除とそのメカニズム 1 - 移住 (移動と居住) のプロセス
 - 第7回 移民の社会的排除とそのメカニズム 2 - 移住システムと移民コミュニティ
 - 第8回 移民の社会的排除とそのメカニズム 3 - 「顔の見えない定住化」
 - 第9回 生活困窮者の社会的排除とそのメカニズム 1 - 生活の困窮化とは何か
 - 第10回 生活困窮者の社会的排除とそのメカニズム 2 - 生活困窮化の現状と推移
 - 第11回 生活困窮者の社会的排除とそのメカニズム 3 - 生活困窮化のメカニズム
 - 第12回 参加・包摂の道筋 1 - 生活保障制度の拡充
 - 第13回 参加・包摂の道筋 2 - 伴走型支援システム 1 (個人・家族に対する働きかけ)
 - 第14回 参加・包摂の道筋 3 - 伴走型支援システム 2 (地域・社会に対する働きかけ)
 - 第15回 生活構造の再編とNPO (協セクター) の役割

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・・・15% 期末試験・・・85%
(総合的に判断する。)

地域創生論12 (都市社会学) 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分。)
授業テーマと関連のある新聞、雑誌などにてできるだけ目を通すようにすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会的排除の仕組みや参加包摂型社会の形成プロセスについて、生活の場から分析する視角を身につけてもらいたい。

キーワード /Keywords

シカゴ学派都市社会学、生活構造、社会移動、社会的排除、社会的包摂、社会統合、貧困、移民、生活困窮者、生活保障、伴走型支援、NPO

コミュニティスポーツ論【夜】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS120M	◎				
科目名	コミュニティスポーツ論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

望ましいスポーツ文化の創造と地域の活性化のため、総合型地域スポーツクラブなどによる地域スポーツが注目を集めている。本講義では、スポーツによるコミュニティの創造や形成に視座を置き、現在のスポーツ環境の実態を理解し、今後の展開について検討する。また総合型地域スポーツクラブなどの地域スポーツ振興のための具体的方法を、先進事例を紹介しながら検討し、その意義と成果、問題点等を学習する。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 スポーツの歴史と概念
- 3回 スポーツを取り巻く環境理解
- 4回 わが国における地域スポーツの現状
- 5回 総合型地域スポーツクラブの機能と役割①育成と展開
- 6回 総合型地域スポーツクラブの機能と役割②事例報告
- 7回 スポーツ組織のマネジメントと事業マーケティング
- 8回 スポーツ事業のプロモーション
- 9回 スポーツイベントがもたらす効果
- 10回 地域におけるスポーツ指導者の役割と現状
- 11回 学校部活動と総合型地域スポーツクラブの関係
- 12回 地域スポーツの将来像
- 13回 文化としてのスポーツ
- 14回 スポーツと社会
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み (レポート・ 中間テストを含む) ・ ・ 70%、期末テスト ・ ・ 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義前には、内容を文献やインターネット等で調べておくこと。また毎時間、講義後にミニレポートを課します。講義の内容を振り返り、レポートを作成すること。また、質問等はそのレポートに記載する欄を設けています。

履修上の注意 /Remarks

4分の3以上の出席を必要とします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎時間課すミニレポートや、適宜行う小テストに関しては、第一回目のガイダンスで説明を行いますので、第一回目から出席してください。

キーワード /Keywords

現代社会と福祉 1 【夜】

担当者名 /Instructor 深谷 裕 / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW100M	◎				
科目名	現代社会と福祉 1		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

- ・福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解する。
- ・現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。
- ・福祉政策の課題について理解する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会福祉士養成講座編集委員会編 (2014) 『現代社会と福祉 第4版』中央法規

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 社会の変化と福祉①【市民権、福祉国家】
- 3回 社会の変化と福祉②【新自由主義、グローバル化】
- 4回 福祉と福祉政策①【価値、規範】
- 5回 福祉と福祉政策②【福祉施策、社会福祉士】
- 6回 福祉の思想と哲学①【市場の論理、ルールズ】
- 7回 福祉の思想と哲学②【効率性、公平性】
- 8回 社会政策と福祉政策①【雇用、教育、住宅】
- 9回 社会政策と福祉政策②【高齢者、障害者、児童、施設】
- 10回 福祉政策の発展過程①【近代化、経済成長】
- 11回 福祉政策の発展過程②【リスク社会、ポスト産業社会】
- 12回 少子高齢化時代の福祉政策①【福祉元年、地域福祉】
- 13回 少子高齢化時代の福祉政策②【家族機能、人権擁護、虐待問題】
- 14回 ゲストスピーカー
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題60% 期末試験40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各授業で課題を出すので、必ず取り組み、指定した日時までに提出すること。未提出や内容が不十分な場合は減点になります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助の基盤と専門職 1 【夜】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW160M	◎	○	△		
科目名	相談援助の基盤と専門職 1		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

社会福祉士および精神保健福祉士の役割と意義、相談援助の概念と範囲、相談援助の理念、そして相談援助における権利擁護の意義と範囲についての理解を目的とする。

教科書 /Textbooks

社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 相談援助の基礎と専門職』中央法規出版、2,600円＋税。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会福祉士の役割と意義、【現代社会と地域生活】
- 2回 精神保健福祉士制度創設の背景、【ソーシャルワーカーとしての連携】
- 3回 相談援助の定義と構成要素1 【ソーシャルワークの概念】
- 4回 相談援助の定義と構成要素2 【ソーシャルワークの構成要素】
- 5回 相談援助の形成過程I1 【ソーシャルワークの源流と基礎確立期】
- 6回 相談援助の形成過程II2 【ソーシャルワークの発展期】
- 7回 相談援助の形成過程II3 【ソーシャルワークの展開期】
- 8回 相談援助の形成過程II4 【統合化とジェネラリスト・ソーシャルワーク】
- 9回 相談援助の理念I1 【ソーシャルワーカーと価値】
- 10回 相談援助の理念I2 【ソーシャルワーク実践と価値】
- 11回 相談援助の理念I3 【ソーシャルワーク実践と権利擁護】
- 12回 相談援助の理念I4 【ソーシャルワーカー倫理綱領】
- 13回 相談援助の理念II1 【クライアントの尊厳と自己決定】
- 14回 相談援助の理念II2 【ノーマライゼーションと社会的包摂】
- 15回 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・・・20%、期末試験・・・80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、新聞記事やテレビニュース等を通して福祉に関する時事に関心を持ちましょう。また、講義時に紹介する文献などを読むようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

本科目は、社会福祉士国家試験受験資格取得のための必修科目である。社会福祉士国家試験受験資格を取得する予定の無い学生が受講する場合、事前に社会福祉に関する文献を1冊以上読んでおくこと。
社会福祉士国家試験受験資格取得のための科目であるが、教養として社会福祉について知りたい学生の受講を大いに歓迎する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会福祉士及び介護福祉士法が改正されたことに伴って、あらたに設定された科目である。旧カリキュラムの社会福祉援助技術総論、あるいはソーシャルワーク入門と言われていた科目である。本科目を通して、相談援助を中心として社会福祉に関する方法論や専門職について理解を深めていただきたい。

相談援助の基盤と専門職 1 【夜】

キーワード /Keywords

相談援助、専門職、ソーシャルワーク入門、社会福祉

児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度【夜】

専門教育科目
地域創生科目

担当者名 /Instructor 寺田 千栄子 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW120M	◎				
科目名	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 <small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>				

授業の概要 /Course Description

わが国における子ども・家庭を取り巻く社会情勢と生活実態を確認し、子ども・家庭における福祉ニーズへの対応の在り方を考えます。また、現代の状況にふさわしい「子ども・家庭福祉」の考え方を身につけることを目指します。

教科書 /Textbooks

伊藤嘉余子・渋谷昌史「子ども家庭福祉」ミネルヴァ書房（2017）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 現代社会と子ども・家庭福祉
- 3回 子どもの権利擁護
- 4回 子ども家庭福祉の歴史的展開
- 5回 子ども家庭福祉の理念と概念
- 6回 子ども家庭福祉の法制度と実施体制①
- 7回 子ども家庭福祉の法制度と実施体制②
- 8回 子ども家庭福祉施策の現状と課題①
- 9回 子ども家庭福祉施策の現状と課題②
- 10回 子ども家庭福祉施策の現状と課題③
- 11回 子ども家庭福祉施策の現状と課題④
- 12回 子ども家庭福祉施策の現状と課題⑤
- 13回 子ども家庭福祉施策の現状と課題⑥
- 14回 子ども家庭福祉施策の現状と課題⑦
- 15回 子ども家庭福祉の今後の課題

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%
日頃の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業に関して教科書を読んで予習すること。事後学習は授業の復習を中心にする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生スキル4 (クリエイティブシンキング) 【夜】

専門教育科目
地域創生スキル科目

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE203M	○	◎	○		
科目名	地域創生スキル4		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

<目的> クリエイティブシンキング (新たな価値を創造するために求められる思考力) を身に付けることを目的とします。背景として、まず、人工知能やAR技術、RPAをはじめとしたテクノロジーの発展により、多くの職業が失われ、新しい仕事や働き方を創出しなくてはならない時代が訪れようとしています。また、現代社会の問題自体が、「与えられたものを解くこと」よりも、「自分で何を解くかを決めて解くこと」が求められています。さらに過去の経験がそのまま応用できないどころか、足かせにもなり得る時代になりつつあり、従来の研修やOJTでは対応できなくなってきています。つまり、地域創生学群における各種活動においては、教員が与えた課題解決ではなく、課題を自ら見出し、新しい何かを生み出すことが求められ、学生個人においても、終身雇用や年功序列といった20世紀の産業をベースとした従来のキャリア教育ではなく、21世紀の変化に対応できるキャリア教育を実施すべき時代になりました。そこで、学問体系としては、経験学習 (デューイ、コルブ、コルトハーヘンなど) の発展系として、近年重視されている「ストレッチ」と「リフレクション」をベースに、人工知能やロボットでは代替できない、クリエイティブシンキング、特に自らが向き合うべき問いを立て、立てた問いによって学ぶ力 (自発的な学びの設計) を身に付ける教育機会を、クリエイティブシンキングを育成する先進企業 (ワークスアプリケーションズ) の研修ノウハウを導入することで実現します。

<進め方>

- 1) アウトプット (ディベート、グループワーク、プレゼンテーション等)
- 2) インプット (座学)
- 3) 次回課題説明 (次回授業までに学生自ら思考を行い、アウトプットの準備を行う)
- 4) 小レポートの提出

<期待される効果>

AIやロボットに代替できない、人間だからこそ可能である、クリエイティブシンキングを徹底的に鍛え、獲得することができます。この力は地域創生学群の実習や演習のみならず、就職活動、そして卒業後の仕事にも大いにプラスになるでしょう。

教科書 /Textbooks

事前に購入すべき教科書は特にありません。随時、事前課題としてレジュメなどを提示します。また、授業にて鑑賞するDVDやストリーミング映像を提示します。

参考書 (図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

事前に提示する課題をもとに、各自図書館やネットで情報収集して、課題に取り組んでください。また、以下書籍を参考にしてください。

- ジェームス W.ヤング『アイデアのつくり方』CCCメディアハウス
- 嶋浩一郎『嶋浩一郎のアイデアのつくり方』デイスカヴァー・トゥエンティワン
- 加藤昌治『考具 - 考えるための道具、持っていますか?』CCCメディアハウス
- 加藤昌治『チームで考える「アイデア会議」考具 応用編』CCCメディアハウス
- 香取一昭・大川恒『ワールド・カフェをやろう!』日本経済新聞出版社
- 金井寿宏『リーダーシップ入門』日本経済新聞社
- J.D.克蘭ボルト、A.S.レヴィン『その幸運は偶然ではないんです!』ダイヤモンド社
- 大嶋祥誉『マッキンゼー流入社1年目問題解決の教科書』SBクリエイティブ
- 大嶋祥誉『マンガで読める マッキンゼー流「問題解決」がわかる本』SBクリエイティブ
- スブツニ子!『はみだすカ』宝島社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

ディベート (ディスカッション)、レポート、プレゼンテーション等、学生のアウトプット主体で行います。
なお、本授業は、株式会社ワークスアプリケーションズの社員にゲストスピーチを合計3回お願いします。

※株式会社ワークスアプリケーションズ

<http://www.worksap.co.jp/>

- 1回 Introduction : なぜクリエイティブシンキングが必要なのか? 【ゲスト講演】
- 2回 思考とは何か① (論理的に考える)
- 3回 思考とは何か② (論理を飛躍して考える)
- 4回 クリエイティブシンキング (価値創造と問題解決)
- 5回 クリエイティブシンキング (未来を想像する)
- 6回 実社会を知る (Society 5.0など)
- 7回 クリエイティブシンキングが生き残る企業を作る
- 8回 クリエイティブシンキングが必要な「仕事」とは? 【ゲスト講演】
- 9回 テクノロジーによって変わる世界「シンギュラリティ」
- 10回 アニメ「PSYCHO-PASSサイコパス」から考える、AIと人との関係性
- 11回 アニメ「攻殻機動隊」から考える、AIと人との関係性
- 12回 テクノロジーによって変わる世界「ディスラプター」
- 13回 「優秀な人材」とは何か① (情報を活用する)
- 14回 「優秀な人材」とは何か② (古墳ガール)
- 15回 不確かな未来で舵を切る方法 (学びのまとめ) 【ゲストフィードバック】

成績評価の方法 /Assessment Method

事前課題 (49%) + 小レポート (42%) + 最終アウトプット (9%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に提示する課題をもとに、レジユメや映像を精読・鑑賞し、場合によってはグループで議論し、発表の準備をしてください。また、授業終了後は指定するフォームにて振り返りを行ってください。最終アウトプットについては最終授業にて課題に対するレポートをプレゼンしていただきます。

履修上の注意 /Remarks

第1回目の授業に出席をして、授業全体を把握してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域の課題において、そして卒業後の企業団体において、今、最も必要とされている力が「クリエイティブシンキング」です。地域の皆様は、たとえ粗削りであっても、大人では思いつかないクリエイティブなアイデアに期待しています。にもかかわらず、指示待ち、先輩がやったことの繰り返しだけでは、その力はどんどん衰えていくでしょう。地域の皆様はもちろん教員や先輩をあとと驚かせるアイデアを生み出す力を、本授業で是非開花させてください。

キーワード /Keywords

クリエイティブシンキング、ロジカルシンキング、創造性、交渉力、企画提案力、AI (人工知能)、AR技術、イノベーション、ラピッド・プロトタイピング、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

SDGs 4.質の高い教育を、SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命

地域創生スキル9 (地域経営実践論) 【夜】

担当者名 /Instructor 片岡 寛之 / 地域戦略研究所

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE213M	○	◎	○		
科目名	地域創生スキル9		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

この授業では、これからの地域創生を図るうえで必要となる、都市経営や公民連携に関する基礎的な知識やフレームワークを学びます。具体的には、eラーニングを用いた事前学習で、都市経営や公民連携事例をレビューし、その内容に関する自分なりの考えをレポートにまとめ、授業中のディスカッションを通して、自らの考えを深めます。そのうえで、ここで得た学びを実践活動に活かすことを目指しています。

教科書 /Textbooks

授業中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス+外部講師によるレクチャー
- 第2回チーム分け・課題発表など
- 第3-7回case study1-5
(eラーニングに対するレポートをもとにディスカッション)
- 第8回外部講師レクチャー
- 第9-13回case study6-10
(eラーニングに対するレポートをもとにディスカッション)
- 第14回ふりかえり
- 第15回まとめ+外部講師によるレクチャー

成績評価の方法 /Assessment Method

事前課題等のレポート提出状況：50%
授業への参加状況：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、eラーニングを受講し、レポートを提出してもらいます。
(そのレポートをもとに、授業当日にディスカッションを行うため、レポート未提出の場合、その回の授業には参加できません)
授業後は、ディスカッションを踏まえて、自分の理解を高めるよう復習し、日常の活動等に活かしてください。

履修上の注意 /Remarks

事前学習が重要です。事前レポート課題未提出の場合、その回の授業には参加できないので、しっかり取り組んでください。
授業時間中はディスカッションが中心となるので、遅刻することのないように気をつけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、外部のプロの方と連携しながら新しく開講する授業であり、みなさんとともに作り上げていこうと考えています。事前学習には時間を要すると思いますが、しっかりやりきる覚悟で受講してください。
また、ここで学んだことを実践することが重要なので、積極的に日頃の活動に取り入れるよう心がけてください。

地域創生スキル9 (地域経営実践論) 【夜】

キーワード /Keywords

都市経営、公民連携、フレームワーク

地域創生スキル11 (地域コーディネート論) 【夜】

担当者名 /Instructor 西田 心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 講義 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE215M	○	◎	○		
科目名	地域創生スキル11		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

地域活動を行う上で必要な視座の一つとして「地域コーディネート」という発想や方法を学びます。まちづくりや地域づくりに取り組む様々な活動の中には、コーディネートという発想が欠かせません。ぎゃくにコーディネートという視点から様々な地域活動を見ていくことで、それらの活動がどのような工夫によって成り立っているのかも分かります。コーディネート (coordinate) とは、一般的に「物事を調整すること」「色や材質などを調和させて組み合わせること」などを意味します。ですが、本講義ではこの「コーディネート」の意味をもう少し単純に、かつ広く考えたいと思っています。

今日、地域や社会の活性化を考えていく上で、一つのやり方で何でもうまくいく、あるいはこれまでと同じやり方ですべてがうまくいくという事はほとんどありません。むしろ、いろいろなやり方を組み合わせてみたり、古い発想と新しい発想を結び付けてみることで、はじめてうまくいくといったことが多くあります。その背景には、私たちが暮らす地域や社会のあり方が、近年、大きな曲がり角にきていることと関係があります。大きな曲がり角にきていることで、これまでは当たり前であったような私たちの考え方や方法が、そのままではだんだんと通用しなくなってきました。その中で試行錯誤しながら生まれているのが、異なる人と人、異なる人とモノを結び付けて、具体的な課題に対応していこうという発想です。従来ならば出会うことがなかったような人と人がつながったり、考えられなかったような人とモノとが組み合わせあって、一つの課題の解決のために力を合わせていくような活動の場面が増えています。本講義ではこうした活動場面を「地域コーディネート」という視点から検討することがねらいです。そのことによって、学生一人ひとりが自分たちの地域活動 (実習活動) に活かせるようになることを目指しています。

以上の概要からこの講義での具体的な到達目標は次のとおりです。

- ① 北九州を一つの事例としながら、近年の地域・社会のあり方の曲がり角をマクロな視点から把握することができる
- ② 近年の地域・社会の現状を踏まえつつ、活性化の意味を自分なりに理解することができる。
- ③ その上で、コーディネートの視点から地域活動の工夫や成り立ちを検討することができる。
- ④ 地域と社会の課題を発見し、コーディネートの発想から解決方法を探ることができる
- ⑤ 対話やディスカッションを取り入れることにより、授業での主体性を高め、様々な意見を出し合いながら地域活動に取り組むという姿勢を培う。

教科書 /Textbooks

適宜、資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で随時紹介します。

地域創生スキル11 (地域コーディネート論) 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「地域」における「コーディネート」について (オリエンテーション)
- 第2回 北九州地域の「今」と「これから」 : 地域の活性化とは何か ?
- 第3回 地域における「問題」と「課題」の区別
- 第4回 地域における「無駄なもの」と「貴重な資源」
- 第5回 地域活動での「コーディネート」の意味
- 第6回 コーディネートの事例を検討する① (人と人を結び付ける)
- 第7回 コーディネートの事例を検討する② (人とモノを結び付ける)
- 第8回 コーディネートの事例を検討する③ (課題と課題を結び付ける)
- 第9回 コーディネートの事例を検討する④ (再度・課題と課題を結び付ける)
- 第10回 地域と社会の課題発見①
- 第11回 地域と社会の課題発見②
- 第12回 課題の中の資源の発見
- 第13回 コーディネートの発想をとおして解決策をさぐる①
- 第14回 コーディネートの発想をとおして解決策をさぐる②
- 第15回 地域活動におけるコーディネートの重要性 (まとめ)

※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート提出...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

1. 受講にあたっては、毎回出席すること。
2. 新聞、テレビ、ラジオ、北九州市の市政だより、福岡県NPO・ボランティアセンターの 関連情報等を積極的に把握し、地域・社会の課題や社会の変化について考察すること。
3. ボランティア活動など身近な地域活動に関心を持ち、その活動の全体の把握に努めること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助の基盤と専門職 2 【夜】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2nd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW161M	○	◎	○		
科目名	相談援助の基盤と専門職 2		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理、総合的かつ包括的な援助と他職種連携の意義と内容について理解することを目的とする。地域で「総合的かつ包括的な相談援助」を実践するという点について、自ら具体的に考えることができるようになることも目指す。

教科書 /Textbooks

社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 相談援助の基礎と専門職』中央法規出版。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に随時紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 専門職倫理と倫理的ジレンマ1【専門職倫理】、【倫理綱領】
- 2回 専門職倫理と倫理的ジレンマ2【倫理的ジレンマ】
- 3回 総合的かつ包括的な相談援助の全体像1【総合的かつ包括的な相談援助】
- 4回 総合的かつ包括的な相談援助の全体像2【地域】、【基本的視座】、【八つの機能】
- 5回 総合的かつ包括的な相談援助を支える理論1【ジェネラリスト・ソーシャルワーク】
- 6回 総合的かつ包括的な相談援助を支える理論2【GSの特質】、【基礎理論】
- 7回 相談援助にかかる専門職の概念と範囲1【相談援助専門職の概念】
- 8回 相談援助にかかる専門職の概念と範囲2【相談援助専門職の範囲】
- 9回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能1【予防機能】
- 10回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能2【新しいニーズへの対応機能】
- 11回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能3【総合的支援機能】
- 12回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能4【権利擁護機能】
- 13回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能5【社会資源開発機能】
- 14回 地域創生とソーシャルワーカー【地域創生】、【ソーシャルワーカーの役割】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・・・20%、期末試験・・・80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、新聞記事やテレビニュース等を通して福祉に関する時事に関心をもちましょう。また、講義時に紹介する文献などを読むようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

本科目は「相談援助の基盤と専門職1」に続く科目である。「相談援助の~1」での学習内容を復習して臨むこと。
 本科目は「相談援助の基盤と専門職1」に続く科目である。したがって「相談援助の~1」からの連続通年受講が望ましい。もし「相談援助の~1」を受講していない者、あるいは同年度で受講していない者が受講を希望する場合は、あらかじめ予習する項目を伝えるので、担当教員にまで相談を申し出ること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会福祉士及び介護福祉士法が改正されたことに伴って、あらたに設定された科目である。旧カリキュラムの社会福祉援助技術総論、あるいはソーシャルワーク入門と言われていた科目である。本科目を通して、相談援助を中心として社会福祉に関する方法論や専門職について理解を深めていただきたい。

相談援助の基盤と専門職 2 【夜】

キーワード /Keywords

相談援助、社会福祉士、ソーシャルワーク入門、専門職

社会調査の基礎【夜】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW290M	○	◎	○		
科目名	社会調査の基礎			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

社会福祉士の業務に必要な社会調査についての基本的な考え方と技法を習得する。
社会調査の目的は、さまざまな社会現象の中から、社会にとって「意味がある」と思われる現象を見つけ出し、「どうなっているのか」「なぜそうなるのか」を、データに基づいて解釈することにある。この授業では、(1) 意味のある「問い」をたてること、(2) その「問い」への「答え」を導くための手順（論証戦略）をたてること、(3) 論証戦略に基づいて適切な調査票を作成すること、(4) データを統計的に処理すること、(5) データを解釈すること、について学ぶ。

教科書 /Textbooks

使用しない。(適宜、資料・プリントを配布する。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『社会調査法入門』、盛山和夫著、有斐閣、2004、¥2592
- 『ガイドブック社会調査(第2版)』、森岡清志編著、日本評論社、2007、¥3132
- 『社会調査の基礎』、宮本和彦・梶原隆之他編、弘文堂、2019、¥2750
- 『社会調査の基礎』、社会福祉士養成講座編集委員会編、中央法規出版、2013、¥2420
- 『社会調査の基礎』潮谷有二・杉澤秀博・武田文編著、ミネルヴァ書房、2010、¥2860
- 『調査データ分析の基礎』岩井紀子・保田時男、2003、¥3080

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに
- 第2回 社会調査の種類と倫理
- 第3回 調査と研究の進め方
- 第4回 社会調査を企画する
- 第5回 ワーディング1【質問文を作る】
- 第6回 ワーディング2【選択肢を作る】
- 第7回 調査票の構成
- 第8回 サンプリングの考え方と方法
- 第9回 実査とデータファイルの作成
- 第10回 度数分布、代表値、分散と標準偏差
- 第11回 検定の考え方
- 第12回 平均値の差の検定
- 第13回 変数間の関連1【クロス表】
- 第14回 変数間の関連2【相関係数】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 30% 日常の授業への取り組み... 10% レポート... 60%
(総合的に判断する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

自主的な学習を行い、授業の内容を反復すること。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分。)
課題がある場合、指定された期限までに提出すること。

社会調査の基礎【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業を通して「実証研究の考え方」を学んでください。

キーワード /Keywords

量的調査、質的調査、解釈、論証戦略、記述、説明、基本仮説、作業仮説、ワーディング、ランダムサンプリング、度数分布、検定、推定、クロス表、相関係数

現代社会と福祉 2 【夜】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / カワシマシズヨ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW101M	◎				
科目名	現代社会と福祉 2		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

- ① 現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関連について理解する。
- ② 福祉政策のニーズと資源について理解する。
- ③ 福祉政策の課題について理解する。
- ④ 福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割を含む）について理解する。
- ⑤ 福祉政策と関連関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策を含む）の関係について理解する。
- ⑥ 相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。

教科書 /Textbooks

レジュメと資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『新社会福祉士養成講座 現代社会と福祉』 中央法規出版

現代社会と福祉 2 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 【社会政策】【社会福祉政策】【福祉政策】
- 2回 福祉の思想と哲学 【ロールズの正義論】【センの潜在能力理論】
- 3回 社会福祉の供給・提供システム 【福祉ミックス論】
- 4回 社会福祉制度の体系【制度の構造】【制度とサービス】
- 5回 福祉政策と社会問題・現代的課題【社会問題】【生活問題】
- 6回 福祉サービスと援助活動 【ソーシャルワーク】
- 7回 福祉サービスと援助活動 【相談援助の原則】
- 8回 福祉政策の関連領域 【社会保障】【社会保険】【公的扶助】【社会手当】
- 9回 福祉政策の関連領域 【人権擁護】【バルネラブルな人々】
- 10回 福祉政策の関連領域 【住宅政策】【ネットカフェ難民】
- 11回 福祉政策の関連領域 【教育】【雇用】【貧困の連鎖】
- 12回 福祉政策の国際比較 【北欧】【福祉国家レジーム】
- 13回 社会福祉問題についての発表
- 14回 社会福祉問題についての発表
- 15回 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加状況+課題提出(30点)、テスト(70点)など、総合的に判断する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：シラバスで記した毎回ごとのキーワードを調べておくこと。

事後学習：①授業中に実施したワークシートの復習、②配布した資料を順番にファイル等に整理し閉じておくこと。

履修上の注意 /Remarks

「現代社会と福祉1」を履修済みであることが望ましい。受講していない場合は、あらかじめ『新・社会福祉士養成講座 現代社会の福祉』（中央法規）を事前に学習しておくようにしてください。
社会福祉士養成課程の指定科目として開講されるため社会福祉士受験資格取得を前提とした内容であるが、その他の学生にも理解できるように配慮しているので、教養としても学んで欲しい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「今日の社会福祉問題」について、課題の提出と発表を考えています。日頃から社会福祉について関心を持ち、新聞やニュースなどで情報を得るようになっておいてください。

キーワード /Keywords

社会福祉士、現代社会、福祉政策

コミュニティワーク論【夜】

担当者名 /Instructor 岡本 政孝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW210M	◎	○	△		
科目名	コミュニティワーク論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

少子高齢化や地域の連帯感の希薄化、都市部での地域社会の脆弱化、中山間部の限界集落の問題等、公的なサービスだけでは要支援者を支援することは困難になってきています。
 授業では、パワーポイント、DVD、配布資料を使用して、地域福祉にかかわる社会資源（機関、団体、人材、資金、制度、情報など）を理解し、地域コミュニティの創造に向けて、住民や専門職がどのような役割を果たしているか理解します。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。
 必要に応じてプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献として、授業の理解を深めるために「社協コミュニティワーカー黒子読本」を推薦します。
 栃木県社会福祉協議会ホームページからダウンロードすることができます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション【傾聴】【自己覚知】
- 第2回 地域福祉の推進機関【社会福祉協議会】【地域包括支援センター】【共同基金会】
- 第3回 地域福祉の人材①【自治会】【民生委員児童委員】【福祉委員】
- 第4回 地域福祉の人材②【ソーシャルワーカー】【NPO】【ボランティア】
- 第5回 孤立死防止対策【孤立死】【ネットワーク】
- 第6回 認知症支援【認知症サポーター】
- 第7回 震災からの復興・ゼロからの地域づくり【災害ボランティア】【生活支援相談員】
- 第8回 権利擁護【日常生活自立支援事業】【成年後見制度】
- 第9回 日常生活自立支援事業・成年後見制度事例検討【相談援助】【多職種連携】
- 第10回 集合住宅及び集落における支え合い【住民参加型サービス】【住民主体】【介護予防】
- 第11回 ソーシャルワークの方法【タスクゴール】【プロセスゴール】【リレーションシップゴール】
- 第12回 事例検討①
- 第13回 事例検討②
- 第14回 地域福祉活動計画の実際【地域福祉計画】【地域福祉活動計画】
- 第15回 福祉教育の考え方と推進方法

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・30% 期末試験(レポート)・・・70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：【キーワード】について理解を深めておいてください。
 事後学習：興味関心を持った授業内容について、参考書・福祉関係雑誌・新聞などでさらに調べてみてください。
 また、実際に地域のボランティア活動にも参加して、地域住民の熱意を体感してください。

コミュニティワーク論【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分が住んでいる地域の、地域福祉にかかわる機関・団体・人材などを調べて積極的に地域行事に参加すると、より理解が深まると思います。

キーワード /Keywords

高齢者に対する支援と介護保険制度 1 【夜】

担当者名 /Instructor 石塚 優 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW220M	◎		○		
科目名	高齢者に対する支援と介護保険制度 1 <small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>				

授業の概要 /Course Description

老人福祉論及び高齢者に対する支援と介護保険制度は以下の内容の理解をねらいとして進める。①高齢者の生活実態と社会情勢、福祉・介護需要(高齢者虐待などを含む)について理解する。②高齢者福祉制度の発展過程について理解する。③介護の概念や対象及びその理念等について理解する。④介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方について理解する。⑤終末期ケアの在り方(人間観や倫理観を含む)について理解する。⑥相談援助活動において必要となる介護保険制度や高齢者の福祉・介護に係る他の法制度について理解する。この内「老人福祉論1」及び「高齢者に対する支援と介護保険制度1」の内容は授業内容に示した通りである。これにより学生は高齢化の現状、高齢者の生活実態、高齢者福祉の発展過程、介護概念などを理解することができる。

教科書 /Textbooks

「高齢者に対する支援と介護保険制度」(社会福祉士シリーズ13) 弘文堂

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

講義の中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 講義の進め方について、高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢
- 第2回 高齢者の特性と疾病
- 第3回 高齢者の福祉需要と介護需要
- 第4回 高齢者福祉制度の発展過程1【高齢者保健福祉十ヶ年戦略まで】
- 第5回 高齢者福祉制度の発展過程2【介護保険制度】
- 第6回 人口減少・少子高齢社会の現状と課題
- 第7回 介護の概念や対象【介護の理念と対象】
- 第8回 介護の概念や対象【介護予防の必要性】
- 第9回 介護予防【介護予防プランの実際と介護過程】
- 第10回 認知症ケア【認知症ケアの基本的考え方】
- 第11回 認知症ケア【認知症ケアの実際】
- 第12回 高齢者虐待と予防
- 第13回 終末期ケア
- 第14回 老人福祉法と関連法
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験70% 授業への参加態度30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストを読んでおく

履修上の注意 /Remarks

現代社会と福祉を受講済みが望ましい

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

高齢者に対する支援と介護保険制度 2 【夜】

担当者名 /Instructor 石塚 優 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW221M	◎		○		
科目名	高齢者に対する支援と介護保険制度 2 <small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>				

授業の概要 /Course Description

老人福祉論及び高齢者に対する支援と介護保険制度は以下の内容の理解をねらいとして進める。①高齢者の生活実態と社会情勢、福祉・介護需要(高齢者虐待などを含む)について理解する。②高齢者福祉制度の発展過程について理解する。③介護の概念や対象及びその理念等について理解する。④介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方について理解する。⑤終末期ケアの在り方(人間観や倫理観を含む)について理解する。⑥相談援助活動において必要となる介護保険制度や高齢者の福祉・介護に係る他の法制度について理解する。この内「老人福祉論2」及び「高齢者に対する支援と介護保険制度2」の内容は下記の授業内容に示した通りである。これにより学生は介護保険制度の法、組織、専門職等について理解することができる。

教科書 /Textbooks

「高齢者に対する支援と介護保険制度」(社会福祉士シリーズ13) 弘文堂

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

講義の中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 講義の進め方について、介護保険制度成立の経緯
- 第2回 介護保険制度創設の背景と目的及び基本方針
- 第3回 介護保険制度の仕組み【保険者と被保険者など】
- 第4回 介護保険制度の仕組み【介護度の認定と利用及び給付】
- 第5回 介護保険制度の仕組み【サービスとサービス事業者】
- 第6回 介護保険制度の仕組み【地域支援事業と権利擁護】
- 第7回 介護保険法における組織及び団体の役割と実際【国、都道府県、市町村の役割】
- 第8回 介護保険法における組織及び団体の役割と実際【指定サービス事業者、国民健康保険団体連合会等の役割】
- 第9回 介護保険法における組織及び団体の役割と実際【介護保険制度における公私の役割関係】
- 第10回 介護保険法における専門職の役割と実際【介護支援専門員の役割】
- 第11回 介護保険法における専門職の役割と実際【介護職員、訪問介護員等の役割】
- 第12回 介護保険法における専門職の役割と実際【介護認定審査会の委員、認定審査員の役割】
- 第13回 介護保険法におけるケアマネジメントと実際
- 第14回 地域包括支援センターの役割1【地域包括支援センターの組織体系】
- 第15回 地域包括支援センターの役割2【地域包括支援センターの活動の実際】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験70% 授業への参加態度30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストを読んでおく。

履修上の注意 /Remarks

現代社会と福祉を受講済みであることが望ましい

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害者に対する支援と障害者自立支援制度【夜】

担当者名 /Instructor 高崎 陽子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW222M	◎		○		
科目名	障害者に対する支援と障害者自立支援制度 <small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>				

授業の概要 /Course Description

「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」では、障害の概念や福祉理念の変化の歴史を学ぶとともに、変遷をたどってきた障害者施策を概観し現在の到達点を知ること、併せて「障害の有無によって分け隔てられることなく、国民が相互に人格と個性を尊重し合いながら安心して暮らせる地域社会の実現」を目的とした障害者総合支援法の内容を学ぶことによって、障害のある人の置かれている現状と課題を理解する。さらに「障害者虐待防止法」及び「障害者差別解消法」を学ぶことを通して、障害のある人への権利擁護、「合理的配慮」の意義と目的について理解を深める。

その理解をもとに障害のある人が自らの力を発揮し可能性を広げて主体的に生きること、「こうありたい」という思いを実現するために支援する、援助者に求められる視点とアプローチについて理解を深める。

教科書 /Textbooks

社会福祉士養成講座編集委員会編 「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」第6版
中央法規出版
その他適宜、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度講義で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス 「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」で何を学ぶのか。
- 第2回 障害のある人を取り巻く社会情勢と生活実態
- 第3回 「障害」とはなにか。 「障害の概念と構造的な理解」
- 第4回 障害福祉施策の変遷 「障害者権利条約に至るまでの歴史」
- 第5回 障害福祉に関する諸制度について 「法律における定義と制度利用との関連」
- 第6回 障害者総合支援法の理念と概要 「理念と目的、支給決定プロセス」
- 第7回 障害者総合支援法に定められた障害福祉サービスの内容
- 第8回 障害者総合支援法における相談支援の意義と生活支援
- 第9回 障害児に対する支援 「障害児福祉施策の経過と現状」
- 第10回 障害のある人の「働きたい」を支える 「就労支援」
- 第11回 障害のある人の権利を守るということ① 「障害者虐待防止法に関連して」
- 第12回 障害のある人の権利を守るということ② 「障害者差別解消法に関連して」
- 第13回 障害のある人が安心して地域で暮らせるための多職種との連携・ネットワーク
- 第14回 障害のある人への支援に必要な視点と基本姿勢
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験：80% 日常の授業への取り組み：20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

様々なメディアや書籍に取り上げられる障害者に関するニュースや話題に関心を寄せること。授業終了後には配布した資料をファイル化し、反復できる状態にしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

障害者に対する支援と障害者自立支援制度 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助の理論と方法 1 【夜】

担当者名 /Instructor 高崎 陽子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW262M	△	◎	○		
科目名	相談援助の理論と方法 1		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

「相談援助の理論と方法I」では、相談援助における人と環境との交互作用に関する理論、及び相談援助における対象の理解、援助関係構築に関する理論と方法について学習し、相談援助とは何かを深める。
その学習をもとに実践する場合の展開過程を丁寧に辿り、各段階の目的や内容を理解する。さらに相談援助を実践するために重要な視点及び必要な技術について理解を深める。

教科書 /Textbooks

社会福祉士養成講座編集委員会編 「新 社会福祉士養成講座 7 相談援助の理論と方法I 第3版」
中央法規

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて 授業の中で紹介する。
その他 適宜 資料プリントを配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	ガイダンス	「相談援助の理論と方法I」で何を学ぶのか。全体の講義の概要。
第2回	相談援助とは	「ソーシャルワークの定義と枠組み・対象の理解」
第3回	相談援助の構造と機能	「ソーシャルワーカーの役割」
第4回	人と環境の交互作用	「システム理論とソーシャルワーク」
第5回	ジェネラリスト・ソーシャルワークについて	
第6回	相談援助における援助関係	「援助関係の構造や援助者の自己覚知について」
第7回	相談援助の展開過程I	「ケース発見から問題把握・ニーズ確定まで」
第8回	相談援助の展開過程II	「アセスメントからプランニングまで」
第9回	相談援助の展開過程III	「プランニングから支援の実施へ」
第10回	相談援助の展開過程IV	「モニタリングから地域の課題表出へ」
第11回	相談援助のための面接技術について	「面接技法の意義と目的」
第12回	相談援助面接の実際	
第13回	相談援助の様々な実践モデルとアプローチ	
第14回	相談援助における記録の意義と倫理について	
第15回	まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 80% 日常の授業への取り組み 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テレビや新聞などのメディアや書籍で扱われている、貧困や労働問題、高齢者や障害者に関すること等々、様々な社会問題について積極的に関心を持ち、どんな機関や専門家が関わっているのかについて知識を深めること。
授業で配布した資料を見直しができるようファイル化すること。

履修上の注意 /Remarks

相談援助の理論と方法 1 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助の理論と方法 2 【夜】

担当者名 /Instructor 工藤 歩 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 講義 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW263M	△	◎	○		
科目名	相談援助の理論と方法 2		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

ソーシャルワークにおける対象者の理解、支援過程の理解、および支援計画やネットワークの重要性について学ぶ。また社会資源の活用やソーシャルアクションの意義についての理解を深める。さらにはそれらを活用し、スーパービジョンやコンサルテーションがおこなえる知識を養う。

教科書 /Textbooks

弘文社『社会福祉士シリーズ 8 相談援助の理論と方法II 第2版』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ミネルヴァ書房『社会福祉小六法』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 『オリエンテーション』 ソーシャルワークにおける価値と尊厳
- 第2回 『ソーシャルワークにおける対象の理解(1)』 個人
- 第3回 『ソーシャルワークにおける対象の理解(2)』 集団
- 第4回 『ソーシャルワークにおける対象の理解(3)』 地域
- 第5回 『ソーシャルワークにおける対象の理解(4)』 施策・計画
- 第6回 『ケースマネジメントにおける支援過程の理解(1)』 インテーク
- 第7回 『ケースマネジメントにおける支援展開過程の理解(2)』 アセスメント
- 第8回 『ケースマネジメントにおける支援展開過程の理解(3)』 プランニング
- 第9回 『ケースマネジメントにおける支援展開過程の理解(4)』 支援の実際
- 第10回 『ケースマネジメントにおける支援展開過程の理解(5)』 モニタリングとフィードバック
- 第11回 『さまざまな実践モデル・アプローチ』 さまざまな実践モデル
- 第12回 『アウトリーチの活用』
- 第13回 『ネットワーキングと学際的支援』
- 第14回 『ソーシャルアクションについて』
- 第15回 『スーパービジョンとコンサルテーション』

成績評価の方法 /Assessment Method

試験60%、レポート20%、受講態度20%
なお講義開始30分を越えての入室は欠席扱いとする
全講義の3分の2を下回る出席は評価対象としない

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定教科書、関連図書、参考文献等に事前に目を通しておくこと
事後には配布資料、ノートの整理を行ない理解を深めること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ケースマネジメント、ケアプラン、ネットワーク、スーパービジョン

相談援助の理論と方法3 【夜】

担当者名 /Instructor 藤田 博久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW264M	△	◎	○		
科目名	相談援助の理論と方法3		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

- 講義の主なねらいは、次のとおりです。
 - 地域福祉実践を検証する原理・原則、枠組み・指標について学ぶ。
 - 地域福祉の問題や課題を構造的・総合的に把握する方法について学ぶ。
 - 地域福祉実践を幅広い視野と多面的な角度から捉えることを学ぶ。
 - 地域福祉の実践的援助技術について学ぶ。
 - ソーシャルワーク・アプローチ(実践モデル)の多様性について学ぶ。
 - 理論と技術の社会的背景について学ぶ。
 - “超高齢・少子・人口減少・単身社会”の加速といった社会構造の変化と影響についての認識を深める。
 - 今後の福祉改革を貫く基本コンセプト「『地域共生社会』の実現」に基づく関連法の改正と実践の変容について知る。
- 次の7つのテーマに重点を置いて授業内容を構成します。授業内容のメインは、コミュニティソーシャルワークです。
 - 社会的背景を踏まえながら、コミュニティについての基礎理論、地域福祉を進める援助技術の系譜への理解を促す。
 - 構造改革、貧困と格差の拡大、分権改革、施策・事業の統合と再編等を軸とする関連政策動向(大状況)の分析を行い、地域福祉実践の今日的位置・役割や課題についての認識を深める。
 - 代表的な思考法(有用な「ビジネスフレームワーク」の活用を含む)、住民の流儀による地域福祉推進の考え方や手法について学ぶ。
 - 社会問題、政策主体、社会運動の視座から、技術論の前提となる地域社会・地域福祉の現状と課題についての認識を深める。
 - 地域福祉を進める援助技術の全体像について理解を深める。
 - 実践事例を通して、コミュニティ・ソーシャルワーカーの役割と機能を学ぶ。
 - 住まい・住まい方、死後委任事務、権利擁護、生活支援、居場所、個人情報、生活困窮者支援、相模原事件、自然災害への備え等の今日的課題のポイントについて学ぶ。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。講義資料として、数回に分けて事前にプリントを配布します。必要に応じて、小冊子やリーフレット類を当日配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書は使用しません。
 参考文献として、調査報告書、計画書、実践報告書等を必要に応じて紹介します。
 参考書、補助教材ではありませんが、講義の理解度を高めるためには、次の図書が有効です。①三塚武男「生活問題と地域福祉」・「住民自治と地域福祉」、②井岡勉・成清義治「地域福祉論」、③高橋重宏・宮崎俊策・定藤丈弘「ソーシャル・ワークを考える」、④久保紘章・副田あけみ「ソーシャルワークの実践モデル」、⑤大橋謙策「ケアとコミュニティ」、⑥小野達也「対話行為を基礎とした地域福祉の実践」、⑦真田是著作集第4巻、⑧コミュニティソーシャルワーク実践研究会「コミュニティソーシャルワークと社会資源開発」、⑨浅井春夫「『子どもの貧困』解決への道」⑩河合雅司「未来の年表」、⑪山崎史郎「人口減少と社会保障」、⑫大牟羅良「ものいわぬ農民」、⑬木下大生・藤田孝典「知りたい、ソーシャルワーカーの仕事」 ※⑩・⑪・⑫・⑬は単行本で、読みやすい図書です。

相談援助の理論と方法3 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 個別支援と地域支援(1)点から線へ、そして面への展開を考える【地域自立生活支援】
- 2回 個別支援と地域支援(2)地域福祉ソーシャルワーカーが行う個別支援の基本を考える【多重・複合問題】
- 3回 地域を基盤としたソーシャルワークのポイント(1)基本的視座と機能を考える【分権化と地域志向】
- 4回 地域を基盤としたソーシャルワークのポイント(2)論者の基本を考える【社会福祉の3元構造論】
- 5回 地域を基盤としたソーシャルワークのポイント(3)地域アセスメントとアウトリ-チを考える【共生支援】
- 6回 地域を基盤としたソーシャルワークのポイント(4)社会資源の開発を考える【実践知】
- 7回 住民参加・社会参加とその手法【地域協働プラットフォーム構想、地域力、合理的配慮】
- 8回 地域包括支援体制確立の課題と地域力の強化【地域福祉の計画】
- 9回 地域包括支援体制の確立に向けて【「地域共生社会」実現に向けての実践事例：平成福祉改革の30年】
- 10回 地域包括ケアシステムのポイント【居場所、社会参加、生活支援、0次予防】
- 11回 地域包括ケアシステムと地域福祉【インテグレートド・ケア、コミュニティ・ベースド・ケア】
- 12回 地域福祉実践上の今日的テーマ【権利擁護、自己決定支援、居住支援、生活困窮者支援】
- 13回 地域福祉を進める社会福祉援助技術の系譜と発展(1)英・米・日の系譜を考える【対象認識】
- 14回 地域福祉を進める社会福祉援助技術の系譜と発展(2)COを考える【組織化に関する諸原則、地域開発】
- 15回 地域福祉活動における個人情報共有化に関する取扱い【保護と活用、平常時と災害時】

※授業の様子を見ながら、講義の順番を入れ替えることがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

学習態度...40% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は、あらかじめ配布したプリントを読み、授業内容についてのイメージづくりを行ってください。

事後学習は、毎回授業の始めに行う前回講義のポイント解説に基づき、重点的に行ってください。ホワイトボードには、プリントに記載の特に重要な内容に関する詳細な説明や、プリントにはない補足的内容を板書しますので、書き写したノートを読み返してください。

履修上の注意 /Remarks

講義のメモを丹念にとること(特に、ホワイトボードに板書した内容)。

授業中の私語は禁止します。

講義の途中で構わないので、不明な点などについてはその都度質問してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義の一方的押し付けに終わらないよう、講義内容に関する履修者の希望や意見をできるだけ取り入れた授業にしていきたいと、いつも考えています。どうぞ、いつでも注文をつけてください。授業中でも、授業後でも構いません。努力します。また、講義内容が概念的過ぎて具体的な過ぎても伝わりにくとも感じています。興味がある具体的なテーマや実践事例などがあれば、ぜひ教えてください。解説します。

キーワード /Keywords

- 地域福祉理念の真髄は・・・社会運動(主権者運動・当事者運動)、住民自治、地域分権、主体形成、人間の尊厳と社会正義、ソーシャルインクルージョン、ノーマライゼーション
- 援助技術の核心は・・・ソーシャルアクション(“優しい暴力”の排除)、エンパワーメント、創発、合理的配慮、構造主義的援助論
- 地域福祉実践の重点は・・・無縁社会の克服、自然災害への備え、ネットワーキング、権利擁護、地域包括推進体制の確立、総合化・統合化、社会変革と政策提言、つながり、排除しないまちづくり、孤立と縮小を乗り越える、寄り添い型・伴走型支援、社会的処方、生活実態の解明
- 学習のポイントは・・・原理・原則、パラダイム、指標、社会的背景(「貧困」、変化・推移)、援助対象の理解

社会保障論 1 【夜】

担当者名 /Instructor 安川 渉寛 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW140M	◎				
科目名	社会保障論 1			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

社会福祉士国家試験受験資格取得におけるシラバスに基づき、以下の内容で構成される。

- ①現代における社会保障制度の課題
- ②社会保障の概念、理念、対象等
- ③社会保障の歴史的展開
- ④社会保障の構造
- ⑤諸外国における社会保障制度の概要 等

国家試験合格に向けた基本的知識、制度のスキーム等の形式的な知識の習得と、現状の課題等における意識醸成等を実践的な視点をもって展開する。

教科書 /Textbooks

川村匡由編著 「社会保障(福祉ライブラリ)」 建白社 2,800 + 税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に随時多数紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 社会保障制度の概要
- 第2回 現代社会における社会保障制度の課題
- 第3回 欧米社会における社会保障制度の歴史的展開
- 第4回 日本における社会保障制度の歴史的展開
- 第5回 社会保障の費用と財源
- 第6回 社会保険と社会扶助の関係
- 第7回 公的保険制度と民間保険制度の関係
- 第8回 社会保障制度の体系1 - 年金、医療、介護、労災
- 第9回 社会保障制度の体系2 - 雇用、社会福祉
- 第10回 社会保障制度の体系3 - 生活保護、家族手当
- 第11回 年金保険制度の具体的内容
- 第12回 医療保険制度の具体的内容
- 第13回 諸外国の社会保障制度【北欧諸国、ドイツ】
- 第14回 諸外国の社会保障制度【イギリス、アメリカ】
- 第15回 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(出席、課題提出、意欲等)及び期末試験の合算で評価する。
原則割合は、平常点等(30点)、期末試験(70点)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：教科書及び提供資料等の読み込み
事後学習：講義で学んだ内容の復習

履修上の注意 /Remarks

社会保障論 1 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会保障とは、特別な法制度や特定の対象者のみ関わるものではなく、全てが対象であるとともに、それは身近な何かであると思っています。そのことを踏まえ、まずは現状の社会保障についてインプットし、その後はアウトプットできるような講義を展開したいと考えています。

キーワード /Keywords

社会保障論 2 【夜】

担当者名 /Instructor 安川 渉寛 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW240M	◎		○		
科目名	社会保障論 2		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

社会福祉士国家試験受験資格取得におけるシラバスに基づき、以下の内容で構成される。

- ①現代における社会保障制度の課題
- ②社会保障の概念、理念、対象等
- ③社会保障の歴史的展開
- ④社会保障制度の体系
- ⑤年金保険制度及び医療保険制度の具体的内容
- ⑥諸外国における社会保障制度の概要 等

国家試験合格に向けた基本知識、制度のスキーム等の形式的知識の習得と、現状の課題等における意識醸成等を実践的な視点をもって展開する。

教科書 /Textbooks

川村匡由編著「社会保障(福祉ライブラリ)」 建白社 2,800円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に随時多数紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 社会保障の概要 ~役割と範囲、機能~
- 第2回 現代社会における社会保障制度の課題 ~ 少子高齢化と人口減少~
- 第3回 欧米社会における社会保障制度の歴史的展開
- 第4回 日本における社会保障制度の歴史的展開
- 第5回 社会保障の費用と財源 ~部門別、機能別、負担率~
- 第6回 社会保険と社会扶助の関係
- 第7回 公的保険制度と民間保険制度の関係
- 第8回 社会保障制度の体系1 - 年金、医療、介護、労災 ~ケースワーク~
- 第9回 社会保障制度の体系2 - 雇用、社会福祉 ~ケースワーク~
- 第10回 社会保障制度の体系3 - 生活保護、家族手当 ~ケースワーク~
- 第11回 社会保険制度の具体的内容
- 第12回 医療保険制度の具体的内容
- 第13回 諸外国の社会保障制度【北欧諸国、ドイツ】 ~日本の制度における類似点と今後の課題~
- 第14回 諸外国の社会保障制度【イギリス、アメリカ】 ~日本の制度における類似点と今後の課題~
- 第15回 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(出席、課題提出、意欲等)及び期末支援の合算で評価する。
原則割合は、平常点(30点)、期末試験(70点)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：教科書及び提供資料等の読み込み
事後学習：講義で学んだ内容の復習

履修上の注意 /Remarks

社会保障論 2 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会保障とは、特別な法制度や特定の対象者のみ関わるものではなく、全てが対象があるととも、それは身近な何かであると思っています。その事を踏まえ、まずは現状の社会保障についてインプットし、その後アウトプットできるような講義を展開したいと考えています。

キーワード /Keywords

低所得者に対する支援と生活保護制度 【夜】

担当者名 /Instructor 柴田 滋 / Shigeru Shibata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW241M	◎		○		
科目名	低所得者に対する支援と生活保護制度				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

経済の長期停滞、少子高齢化の進展、労働環境の変化などを背景として、最後のセーフティネットといわれる生活保護の役割が増大しています。その受給者数は過去最高水準に達し、実体社会において貧困と格差の拡大傾向が続いていることを示しています。近年では、孤立・孤独死、ネットカフェ難民、DV、虐待などの問題に示されるように、経済的給付だけでは解決しがたい生活の質に関する諸問題の拡大や深刻化も懸念されています。

今日の低所得者施策、生活保護制度においては、経済的給付に加えて自立支援の社会福祉的援助の強化が進み、地域、ボランティア団体、企業などの活動による、社会的連帯を背景とした低所得者支援にも大きな期待が寄せられるようになってきました。

この科目では、次の事項を学習することによって、低所得者に関する諸問題を的確にとらえて効果的な支援策を導く能力を修得するとともに、貧困問題に関する関心を深め、解決の方途を自ら探ろうとする態度を形成することを目的として講義を行います。

学習事項

1. 現代の貧困問題および低所得者層の福祉需要
2. 生活保護制度の仕組みと生活保護制度における保護と自立支援の実際
3. 生活保護と関連する他の低所得者支援制度
4. 低所得者に対する自立支援の意義と実際および課題
5. 公的扶助制度の歴史と近年における世界の公的扶助制度の改革動向

教科書 /Textbooks

パワーポイント資料（開講時に配布します）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 社会福祉士養成講座編集委員会「低所得者に対する支援と生活保護制度 第5版」中央法規 ￥2,376
 岩田正美監修・著「公的扶助論-低所得者に対する支援と生活保護制度【第3版】」MINERVA社会福祉士養成テキストブック14 ￥2,600
 岩田正美「現代の貧困」筑摩書房（格差社会やワーキングプアなど、現代の貧困に迫るものです。）
 小山進次郎「改訂増補 生活保護法の解釈と運用」全国社会福祉協議会（立案者による生活保護法の逐条解説です）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 貧困の概念 絶対的貧困と相対的貧困、相対的貧困の指標と「相対的貧困線」
 第2回 現代の貧困 社会的排除と貧困の拡大、貧困に伴う現代の生活問題、潜在能力の欠如、低所得者層の福祉需要
 第3回 貧困の原因と対策 貧困の社会的要因と個人的要因、社会的排除と国家の役割、社会的リスク対策と自立支援
 第4回 福祉国家と公的扶助 福祉国家と生存権、福祉国家の諸類型、日本型福祉国家の形成と変容、公的扶助の意義
 第5回 公的扶助の歴史 ヨーロッパと日本の救貧の歴史、生活保護制度の誕生と展開、現行生活保護制度の特徴
 第6回 生活保護制度（Ⅰ） 生活保護制度の目的、保護の原理・原則、無差別平等の保護受給資格、扶助の種類と方法
 第7回 生活保護制度（Ⅱ） 生活保護の行政主体と実施機関及び受任機関、福祉事務所の構成・役割・管轄
 第8回 生活保護制度（Ⅲ） 保護の申請、世帯認定と世帯分離、生活保護基準による最低生活費の算定
 第9回 生活保護制度（Ⅳ） 資産・能力活用要件と資産調査、資産の保有、収入認定、保護要否判定と変更・廃止
 第10回 生活保護制度（Ⅴ） 被保護者の権利義務、審査請求と訴訟、費用負担と費用徴収、扶養義務優先
 第11回 生活保護制度（Ⅵ） 被保護者の現況、生活保護における援助活動、自立支援プログラムと自立支援の実情、関係機関との連携
 第12回 海外の公的扶助制度と改革動向 欧米の公的扶助の特徴、アクティブエイジ、イギリス、フランス、スウェーデン、アメリカの公的扶助制度
 第13回 低所得者施策の基調転換 「小さな政府」路線と生活保護法改革、自立と連帯の推進、国民負担の現況
 第14回 第2のセーフティネット 求職者支援制度、生活困窮者自立支援制度、ホームレス自立支援制度
 第15回 その他の低所得者支援施策 公営住宅法と住宅保障、生活福祉資金貸付制度、無料低額診療制度

低所得者に対する支援と生活保護制度 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (30%)、定期試験 (70%) により、評価を行います。
定期試験では、上記の学習到達目標に属する事項について、筆記試験を行います。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

以下の点に留意して履修してください。

- ・ 疑問点は積極的に質問するよう心がけること
- ・ 講義では要点をまとめたパワーポイント資料を配布するので、予習および事後の学習に心がけること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現代の貧困問題は複雑化・多様化しつつ、拡大する傾向にあるといえます。貧困に関するいろいろな問題のうち、興味を持てるテーマを選択して自分なりの問題関心を持って授業に臨んでほしいと思います。自由かつ積極的に質問や意見交換がおこなわれることを期待します。

キーワード /Keywords

絶対的貧困、第二次的貧困、相対的剥奪、潜在能力の欠如、社会的排除、見えない貧困、隠れた貧困、貧困の連鎖、相対的貧困率、エリザベス救貧法、恤救規則、救護法、公的扶助の補足性、抽象的権利説、残余的再配分システム、制度的再配分システム、一般扶助主義、品格要件、生活保護基準、変曲点、マーケットバスケット方式、資産調査、福祉事務所、急迫保護、応急的保護、自立支援プログラム、就労支援員、福祉から就労支援事業に関する協定、ユニバーサル・クレジット、保証年金、エルサ、参入契約、第二のセーフティネット構想、職業訓練受講給付金、自立相談支援事業、就労準備支援事業、不動産担保型生活資金貸付、就学援助

人体の構造と機能及び疾病【夜】

担当者名 /Instructor 島 京子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW230M	◎		○		
科目名	人体の構造と機能及び疾病 <small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>				

授業の概要 /Course Description

講義形式が主体であるが、適時、事例などの資料を活用しGWや演習を行う。
食・活動・排せつ・休養・睡眠などの生活行動を司る人体構造と機能についての概要、生活機能を低下させる主な疾病・障害についての概要、機能低下の回復過程としてのリハビリテーションについての概要を学ぶ内容が主な柱となる。

教科書 /Textbooks

新・社会福祉士養成講座 1 人体の構造と機能及び疾病 中央法規出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時、授業内で紹介する。事前準備は不要。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 人の成長・発達と老化①・・・ 身体の成長・発達 精神の成長・発達について学ぶ
2. 人の成長・発達と老化②・・・ 老化について学ぶ
3. 身体構造と心身の機能①・・・ 人体の部位の名称について 水分と脱水 血液の成分 心臓の構造について学ぶ
4. 身体構造と心身の機能②・・・ 循環器・呼吸器・消化器・泌尿器・運動支持器の構造と機能について学ぶ
5. 身体構造と心身の機能③・・・ 内分泌器官・神経系・感覚器・皮膚・生殖器・その他の構造と機能について学ぶ
6. 国際生活機能(ICF)の基本的な考え方と概要・・・ 国際障害分類(ICDH)から国際生活機能分類(ICF)への変遷について学ぶ
7. 健康の捉え方・・・ 健康の概念について、WHO憲章による健康の定義、その他の定義について学ぶ
8. 疾病の概要①・・・ 生活習慣病の病態・診断治療法について学ぶ
9. 疾病の概要②・・・ 神経精神疾患・先天性精神疾患の病態・診断・治療法について学ぶ
10. 疾病の概要③・・・ 悪性腫瘍・難病の病態、その他高齢者に多い疾患 終末期医療と緩和ケアについて学ぶ
11. 障害の概要①・・・ 視覚障害・聴覚障害、平行機能障害、肢体不自由について学ぶ
12. 障害の概要②・・・ 内部障害・発達障害・認知症について学ぶ
13. 障害の概要③・・・ 高次脳機能障害、精神障害について学ぶ
14. 障害の概要④・・・ 精神疾患の診断・統計マニュアルの概要 その他について学ぶ
15. リハビリテーションの概要・・・ リハビリテーションの定義、対象、リハビリテーションの障害評価、諸段階、4つの側面について学ぶ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験・定期試験・課題レポートで評価する。

課題レポートのテーマは授業内で提示する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で配布した資料などを活用し、授業内容の確認、復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

授業開始前までに、予め教科書に目を通しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人体の構造と機能及び疾病【夜】

キーワード /Keywords

保健医療サービス【夜】

担当者名 /Instructor 石塚 優 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW231M	◎		△		
科目名	保健医療サービス		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

医療保障には診療報酬などを含む医療保険制度としての政策と医療専門職養成を含む医療保障制度を実施する医療機関や医師、看護師等の専門職の役割などがあります。これらを含む保健医療サービスについて多職種との連携や協働も視野に入れて講義を進める予定。これにより、学生は相談援助に必要な医療保険制度について説明することができる。

教科書 /Textbooks

福祉臨床シリーズ編集委員会編「保健医療サービス」(社会福祉士シリーズ17)弘文堂

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 講義の内容、進め方、医療保障の位置づけ
- 第2回 医療保障制度の歴史1(昭和20年まで)
- 第3回 医療保障制度の歴史2(昭和20年以降)
- 第4回 医療保険制度の保険者
- 第5回 保健医療対策の概要
- 第6回 診療報酬制度、高額療養費制度等
- 第7回 専門職の役割1(医師の役割(特別講師を予定))
- 第8回 専門職の役割2(保健師、看護師の役割(特別講師を予定))
- 第9回 医師、保健師、看護師等専門職との連携(特別講師を予定)
- 第10回 専門職の役割3(作業療法士、理学療法士等の役割(特別講師を予定))
- 第11回 専門職の役割4(医療ソーシャルワーカーの役割)
- 第12回 インフォームドコンセントの意義と実際
- 第13回 医療施設の概要
- 第14回 地域の社会資源との連携
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50% レポートなど 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキストを読んでおく

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

福祉行財政と福祉計画【夜】

担当者名 /Instructor 難波 利光 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW242M	◎		△		
科目名	福祉行財政と福祉計画		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

現代の社会福祉サービスや支援は、国が基本的な政策の方向にて、市町村が住民により近い視点からベースとし、行政担当者とサービス利用者である住民及び事業者が参加して福祉計画を実施することが求められている。そこで、本授業では、社会福祉の実践を支える制度的な枠組みである福祉行財政と福祉計画について概説する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会福祉士養成講座編集委員会『福祉行財政と福祉計画』中央法規 2,200円
 坂本忠次『現代社会福祉行財政-社会保障をどうするか-』大学教育出版 2009年4月 2,940円
 野口定久・外山義・武川正吾編『居住福祉学』有斐閣 2011年12月 2,500円
 広井良典『創造的福祉社会』ちくま新書 2011年7月 903円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会福祉と社会保障機能1【社会福祉の動向】
- 2回 社会福祉と社会保障機能2【社会保障機能】
- 3回 社会福祉と社会保障機能3【参加型社会保障】
- 4回 社会保障と税制1【財政理論】【公共財】
- 5回 社会保障と税制2【一般会計予算と社会保障関係費の動向】
- 6回 社会保障と税制3【地方自治体の財政と民生費の動向】
- 7回 社会保障と就労形態【国の雇用政策と企業の雇用戦略】
- 8回 福祉行財政まとめ
- 9回 社会的セーフティネット【コミュニティというセーフティネット】
- 10回 コミュニティ空間【つながり・ゆつくりの社会】
- 11回 都市型コミュニティ【コミュニティとしての都市】
- 12回 経済の地域内循環【地域の豊かさ】
- 13回 地域における社会モデル【地域の自立・持続可能性】
- 14回 ケア・コミュニティ【人間社会の起源】
- 15回 福祉計画まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト・中間まとめ含む) ... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として福祉行財政に関する時事問題に関心をもち講義の内容と重ね合わせることでできるようにしておく。また、事後学習として参考図書等を参考にしながら関心を持った内容についてより深めて学習する。

履修上の注意 /Remarks

新聞等のメディアを通して福祉問題、財政、行政に関しての現状認識を深めておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

福祉行財政と福祉計画【夜】

キーワード /Keywords

福祉サービスの組織と経営【夜】

担当者名 /Instructor 中園 紀明 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW251M	◎		△		
科目名	福祉サービスの組織と経営		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

現在の日本社会は、超高齢の環境を見極めながら進まなければならないことがどの専門領域にとっても課題となっている。共働き家庭の保育や介護、心身の障がい、8050問題等、特に直接高齢者、障がい者等にサービスを提供する福祉施設等は、20世紀に築かれた老人福祉法から21世紀モデルの自立支援運営に改革が求められている。これまで日本の福祉サービス（介護概念）のあり方は、手厚い施設整備費補助や措置費による裁量の余地のない小さな規模の施設の運営がモデルとなっていた。しかし現在、社会保障費の増加や福祉従事者の減少は、日本が築いてきた社会福祉制度とその経営のあり方を根幹から改造しなければならない状況下にある。特に90年代以降、少子高齢化の影響は、公的給付費用の増大、多様な福祉ニーズへの対応、認知症高齢者のBPSD等、地域包括ケアの構築を確実なものにするという新たな福祉経営がもたえられる時代となった。加えて、福祉施設は人生の高齢期における生活・生命に対するセーフティーネットでもある。利用者の自立や自律というものを運営の基礎に置き、わかりやすく丁寧に安心が求められる施設経営が必要となっている。よって地域住民の福祉ニーズにこたえるべき経営とは何か、また経営による利益と地域住民のニーズの関係はどう保たれるべきなのかを学習していく。また本科目では公的介護保険の動向や地域包括ケアシステム・保健、医療、福祉による多職種連携による自立支援の効果と経営戦略を学習していくことで、21世紀型の地域福祉及び福祉経営を理解していきます。

教科書 /Textbooks

「福祉サービスの組織と経営 第5版」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 福祉サービスとは何か。利用者の人権と権利 福祉施設の経営とは
- 2回 福祉サービスの提供と制度の役割
- 3回 法人の基本形態とガバナンス
- 4回 社会福祉法人による経営の現状
- 5回 特定非営利活動法人(NPO)の特徴
- 6回 福祉施設経営戦略の基礎
- 7回 事業計画の策定と実行評価
- 8回 福祉施設におけるサービスの質の向上
- 9回 集団の力学理論(組織構造)
- 10回 福祉施設の管理運営の方法
- 11回 福祉施設のサービスの質の評価
- 12回 福祉施設のリスクマネジメント
- 13回 福祉施設の苦情受付と対応
- 14回 福祉施設における人事・労務管理
- 15回 福祉施設における人材育成

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 70% 平常の学習状況 20% 課題(レポート) 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから社会保障に関するニュースに関心をもってください。また、講義の中で使用される各種統計スライドも興味をもって学んでください。

福祉サービスの組織と経営【夜】

履修上の注意 /Remarks

経営のベースである理念・使命を理解しながら、地域に密着した自立支援の施設等とは何かを学習します。福祉ニーズをポジティブに捉えるアセスメント技術も学習しておくことでより理解が深まります。社会保障改革の動向にも注目しておきましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

福祉経営における経営と利益とは何かを根底に21世紀型の福祉経営論(自立支援、法令順守、人権擁護、運営等)を学習します。
担当講師は、特別養護老人ホームや養護老人ホーム、軽費老人ホーム・デーサービスセンター等の事業を運営する社会福祉法人の施設長職を経た現理事(社会福祉士・主任介護支援専門員・介護支援専門員指導者)です。経験した立場から福祉サービスの経営とサービスのあり方を、市民、地域、行政、関係事業者の連携を見据えて講義をしていきます。

キーワード /Keywords

地域包括ケア 法人	多職種連携 組織	ガバナンス ソーシャルワーク	人権擁護 リーダー論	福祉施設経営 人材育成	サービスの質と自立支援 リスクマネジメント	PDCAサイクル 公的介護保険
超高齢者社会	社会保障					

権利擁護と成年後見制度【夜】

担当者名 /Instructor 柴田 裕之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW250M	◎		△		
科目名	権利擁護と成年後見制度		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

知的障害や精神疾患あるいは認知症等のため、判断能力に問題がある人の日常生活を支える仕組みの現状と課題を学びます。介護保険法・障害者総合支援法により提供される本人の権利擁護のための福祉サービスや、本人に対する権利侵害から本人の生活を守る日常生活支援事業、本人の財産管理能力を補完するための成年後見制度等、福祉職のみならず法律専門職にとって不可欠な法的問題について知識を深めることを目的とします。

教科書 /Textbooks

適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「社会福祉小六法」(ミネルバ書房編集部編)等同種のもでも可
「権利擁護と成年後見 実践」(日本社会福祉士会編集)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 プロローグ(基本的人権と権利擁護)
- 2回 民法1(権利能力と行為能力)
- 3回 民法2(契約の自由とその修正)
- 4回 民法3(親族と扶養)
- 5回 民法4(相続)
- 6回 福祉サービス～措置から契約へ～
- 7回 介護保険法の仕組み
- 8回 介護保険法と老人福祉法
- 9回 成年後見制度1(法定後見)
- 10回 成年後見制度2(任意後見)
- 11回 障害者総合支援法1
- 12回 障害者総合支援法2
- 13回 高齢者虐待防止法
- 14回 障害者虐待防止法
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況・・・50%
期末試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に有益な読書及び実習や活動に関連する情報収集を行うこと。
社会福祉小六法(もしくは同種のもの)は、第6回以降は毎回持参してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

権利擁護と成年後見制度 【夜】

キーワード /Keywords

就労支援サービス【夜】

担当者名 /Instructor 横谷 佳代 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW243M	◎		△		
科目名	就労支援サービス		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

人が「働く」意義について考え、就労することに支援を必要とする人々について、またその支援の在り方について学びます。相談援助活動の中で必要となる就労支援制度、関連組織そして専門職について知識を得て、理解を深めることがねらいです。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「新・社会福祉士養成講座第18巻 就労支援サービス 第4版」(中央法規出版) 一般的なテキスト
 「社会福祉士シリーズ18 就労支援サービス 第3版」(弘文堂) 説明が分かりやすい。国試対策用語集付き。
 「新社会福祉士養成課程対応 就労支援サービス」(みらい) 各支援機関の役割などをイメージしやすく紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 就労支援サービスとは？(講義の概要)
- 第2回 現代社会の労働市場と動向
- 第3回 労働に関する法律と制度
- 第4回 障害のある人への就労支援(障害者の雇用・就労の歴史)
- 第5回 障害のある人への就労支援(職業リハビリテーションの実施機関と役割)
- 第6回 障害のある人への就労支援(障害福祉サービスにおける就労支援)
- 第7回 障害のある人への就労支援(特別支援教育における就労支援)
- 第8回 障害のある人への就労支援(企業の取り組み・合理的配慮)
- 第9回 障害のある人への就労支援(支援の実際①)
- 第10回 障害のある人への就労支援(支援の実際②)
- 第11回 生活困窮者への就労支援
- 第12回 若年層等への就労支援
- 第13回 特定求職者への就労支援(母子家庭の母など女性に向けた就労支援)
- 第14回 特定求職者への就労支援(高齢者に向けた就労支援)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(3回)...60% ミニレポート(2回)...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に提示した課題に関してミニレポートを作成し、期日までに提出してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

司法福祉論 【夜】

担当者名 /Instructor 深谷 裕 / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW244M	◎		△		
科目名	司法福祉論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

非行や犯罪にかかわるあらゆる現象について、司法福祉をキーワードに、主に心理社会的及び福祉的視点から検討していく。地域性、文化、価値観はもちろんのこと、司法制度、教育制度、医療制度、雇用制度、福祉制度等さまざまな社会制度のあり方が、非行や犯罪にどのように関わっているのかを理解する。

教科書 /Textbooks

授業中に紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

加藤博史/水藤昌彦編「司法福祉を学ばー総合的支援による人間回復への途」(ミネルヴァ書房 2013年)
その他、適宜授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の概要
- 第2回 犯罪や非行に対するとらえ方
- 第3回 歴史の中の司法福祉
- 第4回～7回 司法福祉の理論と実践
- 第8回～12回 司法福祉に関わる制度と組織
- 第13回～14回 司法福祉の国際比較
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点70% 期末レポート30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習内容を指定するので、必ず目を通して授業にのぞむこと。
参加型の形態をとりつつ進めて行く。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マクロ経済学入門【夜】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN112M	○	◎	○		
科目名	マクロ経済学入門			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の1つである。例えば景気循環、経済成長、失業、インフレといった諸現象の研究はマクロ経済学の主要な課題である。
この講義ではマクロ経済学を学ぶ上で不可欠な基礎知識を提供することで現実のマクロ経済の動向に関する興味を喚起すると同時に、マクロ経済学Ⅱで講義されるより専門的な内容を吸収できるための基礎的素養を養うことを目的とする。

教科書 /Textbooks

井出 多加子・井上 智夫・北川 浩・幸村 千佳良 著
経済経営セメスターシリーズ「経済のしくみと制度」多賀出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストに沿って講義を行う。

- 1回 イントロダクション (マクロ経済学とは何か?・講義の進め方についての説明)
- 2回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【GDP】
- 3回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【国民所得の三面等価】
- 4回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【GNI】
- 5回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【名目と実質】
- 6回 第3章 金融のしくみを知ろう【金融】
- 7回 第3章 金融のしくみを知ろう【利子率】
- 8回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【貨幣】
- 9回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【金融政策】【為替】
- 10回 第5章 税金の大切さを知ろう【租税】
- 11回 第5章 税金の大切さを知ろう【財政】
- 12回 第6章 政府の役割について考えてみよう【市場の失敗】
- 13回 第6章 政府の役割について考えてみよう【財政政策】
- 14回 第7章 失業の意味を考えてみよう【失業】
- 15回 まとめ

(第8章「海外にも目を向けてみよう」は第3章、第9章「経済全体を再確認してみよう」は第2章で適宜説明を行う。)

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の講義後に講義資料を見直し、練習問題を解くなどして理解を深めて下さい。
また教科書の講義内容に該当する箇所を読むことで理解を深めることができます。

マクロ経済学入門【夜】

履修上の注意 /Remarks

毎回の講義後に講義資料を見直し、練習問題を解くなどして理解を深めて下さい。
また教科書の講義内容に該当する箇所を読むことで理解を深めることができます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ミクロ経済学I【夜】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN113M	○	◎	○		
科目名	ミクロ経済学 I			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

ミクロ経済学の入門的知識を解説する。具体的に、本講義は、「希少性から引き起こされる資源配分の問題がどのように解決されるか」という基礎的な問いに対して、基本的なミクロ経済分析ツールを用いて解答を提示し、市場メカニズムの働きやその意義などについての理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

- ・ N. グレゴリーマンキュー『マンキュー経済学I ミクロ編』東洋経済 (○)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 金谷貞夫・吉田真理子『グラフィック ミクロ経済学』新世社 (○)
- ・ J. E. スティグリッツ (戴下史郎ほか訳)『スティグリッツ ミクロ経済学』東洋経済新報社 (○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：「ミクロ経済学」とは
- 2回 【市場メカニズム】(復習)、経済学と数学など
- 3回 需要、供給、および政府の施策(1)：【価格規制】
- 4回 需要、供給、および政府の施策(2)：【課税】
- 5回 市場と厚生(1)：【余剰】
- 6回 市場と厚生(2)：市場の【効率性】
- 7回 需給分析の応用(1)：【価格規制の余剰分析】
- 8回 需給分析の応用(2)：【課税の余剰分析】
- 9回 市場と企業行動(1)：【生産】【費用】【長期と短期】
- 10回 市場と企業行動(2)：【限界分析】【限界収入】【限界費用】
- 11回 市場と企業行動(3)：【利潤最大化】、供給曲線の導出
- 12回 様々な【市場構造】
- 13回 ミクロ経済学の展開(1)：【市場メカニズムの限界】
- 14回 ミクロ経済学の展開(2)：「ミクロ経済学II」、他の分野との関連
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 課題・授業態度など ... 20 % 期末試験 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業の前に、テキスト・参考書の該当する内容を読んで予習を、また授業後はノートや配布資料等をもとに授業内容を整理し、復習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

- ・ 「経済学入門A・B」の授業内容を十分に理解しておくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 学生証を持参すること

キーワード /Keywords

- ・ 経済学的考え方、市場均衡、比較静学、余剰分析、市場の効率性、市場構造、限界分析

ミクロ経済学Ⅱ【夜】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN210M	○	◎	○		
科目名	ミクロ経済学Ⅱ			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本講義は、「ミクロ経済学Ⅰ」もしくは「ミクロ経済学」（旧カリ科目）の内容をベースにし、ミクロ経済学の基礎的な知識をより深く理解することを目的とする。具体的に、ここでは、消費者行動の理論と生産者行動の理論を中心に、個別経済主体の最適行動の決定から出発するミクロ経済学の論理と基本的分析手法を理解する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ N. グレゴリーマンキュー『マンキュー経済学Ⅰミクロ編』東洋経済(○)
- ・ 金谷貞夫・吉田真理子『グラフィック ミクロ経済学』新世社(○)
- ・ J. E. スティグリッツ(藪下史郎ほか訳)『スティグリッツ ミクロ経済学』東洋経済新報社(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：経済と経済分析手法
- 2回 ミクロ経済学と数学：微分・積分
- 3回 家計の理論【消費者行動の理論】(1)：消費と選好、効用
- 4回 家計の理論【消費者行動の理論】(2)：無差別曲線、予算線
- 5回 家計の理論【消費者行動の理論】(3)：【最適消費の決定】と需要曲線の導出など
- 6回 家計の理論【消費者行動の理論】(4)：需要の決定要因
- 7回 【消費者行動の理論】とその応用
- 8回 企業の理論【生産者行動の理論】(1)：企業の目的、生産、費用、利潤
- 9回 企業の理論【生産者行動の理論】(2)：等量曲線、等費用線
- 10回 企業の理論【生産者行動の理論】(3)：【最適生産の決定】と供給曲線の導出など
- 11回 【生産者行動の理論】とその応用
- 12回 市場と市場の効率性(1)：【パレート最適】
- 13回 市場と市場の効率性(2)：「厚生経済学」の基本的考え方
- 14回 ミクロ経済学再考、展開
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 課題・授業態度など ... 20 % 期末試験 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業の前に、テキスト・参考書の該当する内容を読んで予習を、また授業後はノートや配布資料等をもとに授業内容を整理し、復習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

- ・ 新カリの受講者は「ミクロ経済学Ⅰ」の授業内容を、また旧カリ(中級ミクロ経済学)の受講者は、「ミクロ経済学」の授業内容を十分に理解しておくとともに高校レベルの数学(微分・積分)の基礎的な知識について復習しておくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 学生証を持参すること

キーワード /Keywords

- ・ 消費者行動理論、生産者行動理論、パレート最適、厚生経済学

地域経済【夜】

担当者名 /Instructor 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN232M	◎		○		○
科目名	地域経済		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

今日地域経済を取り巻く環境は大きく変化している。
 経済のグローバル化を基軸として、経済活動の空間的範囲が大幅に見直されていることが原因である。
 加えて日本は、人口減少社会に突入している。
 大きな変化に直面した時こそ、事象の体系的理解と長期的な視点とが必要となる。
 本講義では主に以下の4つの論点を学習する。

1. 地域経済を理解する枠組みとして「地域構造論」を学ぶ。
2. 地域構造を高度化する諸要因を学ぶ。
3. 戦後日本の地域構造の変遷を学ぶ。
4. 人口減少社会を迎えた日本の地域経済について考察する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

田村大樹『空間的情報流と地域構造』原書房、2004年。
 その他、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域経済とは(講義の概要)
- 2回 地域構造論概説【地域構造】【経済地理学】【地域政策】
- 3回 経済発展と地域構造【産業構造】
- 4回 工業化の進展①【重化学工業化】
- 5回 工業化の進展②【高加工度化】
- 6回 第3次産業の拡大①【サービス経済化】
- 7回 第3次産業の拡大②【情報化】
- 8回 企業内分業の進展①【大企業の台頭】
- 9回 企業内分業の進展②【工場立地】【オフィス立地】
- 10回 企業内分業の進展③【都市システム】
- 11回 工業地帯から大都市へ【太平洋ベルト地帯】【東京一極集中】
- 12回 一体型国土構造の盛衰【一体型国土構造】
- 13回 人口減少と地域経済【生産年齢人口】【デフレの正体】
- 14回 地域経済をめぐる今日の諸問題(「地域経済II」にむけて)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ミニレポート ... 15% 期末試験 ... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講後に講義の流れを再確認しておくこと。
 また、事前に公開する資料に目を通しておくことが望ましい。

地域経済【夜】

履修上の注意 /Remarks

「経済地理学I,II」を履修している方が、本講義の理解が深まると思われるので望ましいが、義務ではない。新聞やテレビなどで「の地域経済に関する報道に対して興味をもって見てもらいたい。また本講義の履修は「地域経済II」「地域政策」の基礎となっている。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ファイナンス入門【夜】

担当者名 /Instructor 篠崎 伸也 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS111M	◎	○	○		
科目名	ファイナンス入門		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

テレビや新聞では、企業や証券市場に関することが報道されている。例えば、次のようなニュースを耳にした、あるいは目にしたことはないだろうか。

- 「A社は○億円規模の投資を行うことを決定した。必要資金は株式発行で調達する。」
- 「B社の今期の利益は△億円で、株主に対する配当額を10円増やす予定である。」
- 「C社は社外取締役を導入し、コーポレートガバナンスを強化する。」
- 「日経平均株価が◇円まで下落し、世界経済の減速に市場が懸念を強めている。」

しかし報道の内容についてよくわからず、そのままにしている場合も多いのではないだろうか。本講義ではこのようなニュースや新聞記事が少しでも理解できるように、企業と証券市場に関する基本的な考え方や知識を提供する。

教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、配布する資料（レジュメ）に基づいて行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 神原茂樹・城下賢吾・姜喜永・福田司文・岡村秀夫『入門証券論』第3版、2013年、有斐閣
- 内田交謹『すらすら読めて奥までわかるコーポレートファイナンス』2004年、創成社

ファイナンス入門【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション 【授業内容と評価方法】、【質問方法】
- 第2回 資本調達の種類①：【直接金融と間接金融】、【自己資本と負債】、【市場の種類】、【証券取引所の機能】、【証券会社の役割】
- 第3回 資本調達の種類②：【株主割当増資】、【公募時価発行】、【第三者割当増資】、【優先株と普通株】、【個人投資家と機関投資家】、【内部留保】
- 第4回 資本調達の種類③：【銀行借入と普通社債】、【転換社債とワラント債】、【最適資本構成】
- 第5回 実際の株価の決定と株価指数：【板寄せ方式】、【ザラバ方式】、【日経平均株価】、【東証株価指数 (TOPIX)】
- 第6回 証券の理論価格①：現在価値計算 【キャッシュフローの種類】、【割引率】、【安全利子率】、【リスクプレミアム】
- 第7回 証券の理論価格②：【社債と株式の理論価格の計算】
- 第8回 証券の理論価格③：【企業価値の計算】、【資本コスト】
- 第9回 投資意思決定①：【投資の種類】、【貸借対照表と損益計算書】、【ROAとROIC】、【ROEとROA (またはROIC) との違い】
- 第10回 投資意思決定②：【正味現在価値 (NPV) 法】、【内部収益率 (IRR) 法】、【回収期間法】、【企業価値と投資の関係】
- 第11回 コーポレートガバナンス① 【所有と経営の一致】、【所有と経営の分離】、【エージェンシー問題】
- 第12回 コーポレートガバナンス② 【機関形態の種類】、【社外役員と独立役員】、【執行役員制度】
- 第13回 デリバティブ 【先物】、【オプション】、【スワップ】
- 第14回 投資信託と証券化商品 【REIT】、【ABSとMBS】、【SPV】
- 第15回 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (授業中に課す小レポートなど) : 20%
期末試験 : 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、可能な限り経済に関する新聞記事やニュース (TV、あるいはネット) に目を通すこと。

事後学習として、上記で指摘した参考書を読み、講義内容を復習すること。あるいは本講義で得た知識を用いながら、新聞記事やニュースに目を通すこと。

履修上の注意 /Remarks

1. 講義を進めるうえで、簡単な数式 (四則演算) を用いる。高度な数学を用いることはないので、その点は心配しないでほしい。
2. 1.に関連して、電卓を用いることがある。授業で電卓を用いる際は事前に伝えるので、忘れずに持参すること。
3. 受講者の理解度をみながら授業を進めていくので、シラバスのとおりに進まない場合もあり得る (シラバスに掲載したテーマは取り扱う)。
4. 期末試験のウェイトが大きいので、きちんと勉強すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

財務会計論I【夜】

担当者名 /Instructor 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ACC210M	◎	○	○		
科目名	財務会計論 I			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

財務諸表とは、企業が利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する、複数の財務表のことである。財務表には様々な種類のものがある。その中でも主たる財務表、すなわち貸借対照表と損益計算書を中心に勉強する。財務会計論の基礎知識（貸借対照表＝資産、負債、純資産、損益計算書＝収益、費用）と、財務会計の基本的な考え方について学ぶことがねらいである。財務会計論Iでは、まずはじめに、財務諸表の仕組みや歴史、思想を学び、それから全体として、会計学というものがいかなる学問であるかという点について、広い角度から紹介したいと思う。木を見て森(=会計学)を見ずということにならないよう、学問としての会計学、会計を取り巻く諸問題を取り上げたい。また、財務会計論IIでは、財務会計論Iを踏まえて、会計固有の問題について深く掘り下げるので、IとIIをペアで履修することを推奨する。

教科書 /Textbooks

西澤健次『ホスピタリティと会計』国元書房○
配布プリントを用いて、授業を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西澤健次『負債認識論』国元書房○
桜井久勝『財務会計講義』中央経済社○
中央経済社編『新版 会計法規集』中央経済社○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 財務会計（会計学）とは何か？【企業の経済活動】【本体】【写像】【会計責任】
- 2回 財務会計の入門【認識】・【測定】・【伝達】
- 3回 会計の歴史【複式簿記】【古代ローマ起源説】【イタリア中世起源説】
- 4回 損益計算書について【費用】【収益】【利益】
- 5回 貸借対照表について【資産】【負債】【純資産】
- 6回 動態論と静態論【取得原価】【時価】
- 7回 会計公準とは何か【構造的な公準】【要請的な公準】
- 8回 貨幣評価の公準について【財務報告】【非財務報告】
- 9回 財務会計の基礎概念【発生主義会計】【減価償却】
- 10回 収益・費用の認識・測定【実現概念】
- 11回 中間のまとめ
- 12回 財務会計の諸問題その1 - 会計学とは何か？ - 【コンテンラーメン】
- 13回 財務会計の諸問題その2 - 会計学とは何か？【学問としての会計】【学際会計】
- 14回 財務諸表の種類等を知る【ステイクホルダー】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テスト、例年レポート等を含む）...20% 中間試験...20% 期末レポート...60%

財務会計論I【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：簿記の復習と、財務諸表で用いる勘定科目の意味を調べ、あらかじめ会計学や財務会計の入門書を読むことをすすめる。財務会計論が簿記検定の延長ではなく、一つの学問であるということを知るために、一例として、青柳文司『会計物語と時間』多賀出版1998年『現代会計の諸相-言語・物語・演劇』多賀出版2008年等の書籍を読むことを薦める。
事後学習：講義内容を復習し、財務会計の知識の習得と、会計の世界や考え方を理解するように努めること。

履修上の注意 /Remarks

「簿記論」を既に受講した場合、財務会計論をより深く理解することができる。当該授業は簿記3級位の簿記一巡の手続きを理解していることを前提にしている。簿記の未履修者は、基礎的な仕訳について、十分な事前学習が必要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中のスマホは禁止である。本年度より、徐々に、学問としての会計学を紹介する授業に変更していきたいと考えている。会計学固有のテクニカルな問題は課題として出す予定である。事前事後学習が不可欠である。

キーワード /Keywords

経営戦略論【夜】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS211M	◎	○	○		
科目名	経営戦略論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

現代社会は企業によって成り立っており、企業経営の成否は死活問題です。それでは、企業は、他企業のひしめく市場の中で、どのように利益を上げ、生存を図っているのか。それを決定づける要因が経営戦略です。本講義では、「戦略とは何か」という理解に立ちながら、経営戦略に関する基本的な理論、実践について考察していきます。

教科書 /Textbooks

東北大学経営学グループ『ケースに学ぶ経営学（第3版）』有斐閣、2019年、2970円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

浅羽茂・牛島辰男著『経営戦略をつかむ』有斐閣、2010年(○)
 ジェイ・B・バーニー(岡田正大訳)『企業戦略論』(上・中・下)ダイヤモンド社、2003年(○)。
 沼上幹+一橋MBA戦略ワークショップ『戦略分析ケースブック Vol.2』東洋経済新報社、2012年。
 C.I.バーナード(山本保次郎・田杉競・飯野春樹訳)『[新訳]経営者の役割』ダイヤモンド社、1968年(○)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 経営戦略とは?① 【戦略という概念】【意思決定と戦略】【戦略的要因】
- 第3回 経営戦略とは?② 【経営戦略の概念】【経営戦略の2つのレベル】【経営戦略論史】
- 第4回 事業戦略① 【3つの基本戦略】
- 第5回 事業戦略② 【SWOT分析】【外部要因と内部要因】【5つの競争要因】【経営資源】
- 第6回 事業戦略③ 【コスト・リーダーシップ戦略】
- 第7回 事業戦略④ 【差別化戦略】
- 第8回 中間テスト
- 第9回 企業戦略① 【企業優位】【垂直統合戦略】
- 第10回 企業戦略② 【多角化戦略】
- 第11回 企業戦略③ 【PPM】
- 第12回 企業戦略④ 【持続的競争優位】【コア・コンピタンス】【製品戦略】
- 第13回 企業戦略⑤ 【資金調達戦略】【株主戦略】
- 第14回 企業戦略⑥ 【ドメイン】【破壊的技術】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト...40% 中間テスト...30% 小レポート...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義前に、テキストの該当箇所をしっかりと熟読してください。講義後、テキストおよびレジュメによって復習し、また自分なりに他の事例がないか調べてください。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

なお、適宜、レポート課題を出します。
また該当箇所の参考文献をよく読んでおいてください。

履修上の注意 /Remarks

状況に応じて、臨機応変に進めていきたいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を期待しています。

経営戦略論 【夜】

キーワード /Keywords

【意思決定】 【目的と環境】 【事業戦略】 【企業戦略】 【競争優位】

対人心理学【夜】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PSY211M	◎		○		
科目名	対人心理学				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本講義では対人行動に関わるさまざまな心理的側面について話題とする。講義を中心としながら小規模な実験や調査を体験してもらい、基礎的な知識のみならず最近の研究結果も紹介する予定である。

教科書 /Textbooks

『社会心理学のストーリー』ナカニシヤ出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 対人認知
- 第3回 ステレオタイプ
- 第4回 帰属過程
- 第5回 社会的態度
- 第6回 対人魅力
- 第7回 対人関係の発展と崩壊
- 第8回 達成動機、親和動機
- 第9回 家族、性役割
- 第10回 組織行動、リーダーシップ
- 第11回 友人関係と孤独感
- 第12回 対人葛藤の効果
- 第13回 攻撃と援助
- 第14回 現代社会における対人心理の諸問題
- 第15回 まとめと小テストの解説等

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の学習状況(小テスト4回程度) ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前後に教科書の対応箇所を読んでおくこと。
図書館等で参考になる本を自主的に探しておくことが望ましい。他の心理学関連の授業を合わせて受講するとわかりやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PSY220M	◎				
科目名	発達心理学				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

発達心理学は、年齢に関連した経験と行動にみられる変化の科学的理解に関する学問である (Butterworth, 1994)。本講義では乳児期から青年期を中心に特徴的なテーマを取り上げ、人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。

また、児童生徒の理解と指導について、発達における障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解や支援について学ぶ。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

藤村 宣之 編著 『発達心理学 周りの世界とかかわりながら人はいかに育つか (いちばんはじめに読む心理学の本3)』 ミネルヴァ書房 ¥2700

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文部科学省 (2011) 「生徒指導提要」 ¥298
その他、授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 乳児は世界をどのように感じるのか【知覚、認知、言語の発達】
- 第3回 ヒトの発達の特徴とは【発達のメカニズム】
- 第4回 ヒトは他者との関係をどのように築くのか【愛着、共同注意】
- 第5回 イメージと言葉の世界【知能の発達、表象能力】
- 第6回 他者とのコミュニケーション、心を推測する力【心の理論】
- 第7回 自己・他者を理解する【自己概念・自己意識】
- 第8回 学習の過程【学習理論、論理的思考】
- 第9回 友人とのかかわりと社会性の発達【ギャング・エイジ、道徳性】
- 第10回 自分らしさの発達について【アイデンティティの形成】
- 第11回 他者を通して見る自己【友人関係、問題行動】
- 第12回 成人期以降の発達段階【親密性、生殖性、人生の統合】
- 第13回 児童生徒の心理と理解【発達障害の基本的理解】
- 第14回 発達障害をもつ児童生徒の心身の発達と学習の過程
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業範囲を予告するので、教科書等の該当部分を予習してくる。また、授業終了後には教科書や配布プリントを用いて各自復習すること。

履修上の注意 /Remarks

発達心理学 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育社会学【夜】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
EDU223M	◎				
科目名	教育社会学				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

社会学的な視点から学校教育と学校をめぐるとして、国内外の動向も紹介しながら、政策・実践課題について考えていきます。あわせて、子どもや子どもをめぐるとして社会変化についても理解を深めていきます。日本については近年の様々な課題や政策動向など状況の変化について理解を深めます。国外については日本との比較を念頭に置きながら、少子化への対応や、教育への考え方、取り組みの違いなどを理解し、社会全体で子どもを育成していく視点の重要性、教育の役割について説明します。学校教育と家庭教育、社会教育（地域教育）の連携や協働についても具体的な事例を取り上げながら理解を深めていきます。また、自然災害に対する子どもの安全を含めた、子どもの安全への対応についても事例を取り上げて考えます。

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「1類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回オリエンテーション ー教育に関する社会学とは
- 第2回学校をめぐるとして近年の動向 ー初等教育
- 第3回学校をめぐるとして近年の動向 ー中等教育
- 第4回子どもをめぐるとして社会の変化 ー少子高齢化、地域・社会の変容
- 第5回諸外国の子ども・子育ての動向 ー家族支援、教育支援
- 第6回諸外国の教育 ー学校教育
- 第7回諸外国の教育 ー青少年の社会参加・参画
- 第8回日本における教育政策・改革の動向
- 第9回子どもの生活の変化と指導の課題 ー家族、少子化
- 第10回子どもの生活の変化と指導の課題 ー孤食、栄養と食育
- 第11回子どもの生活の変化と指導の課題 ーメディアと遊び
- 第12回子どもの生活の変化と指導の課題 ー社会性、自主性
- 第13回学校と地域の連携 ー地域の変化、学校と地域の連携・協働、開かれた学校づくり
- 第14回学校や子ども活動での子どもの安全
- 第15回子どもの生活安全、交通安全、災害安全

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小レポート・・・30%、課題レポート・・・70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

子どもや教育に関する情報収集を行い、統計や社会動向、社会の反応などを踏まえて、予習に関しては授業時の小レポートに、復習に関しては課題レポートに記載すること。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

履修上の注意 /Remarks

教職や社会教育主事資格の関連科目とあわせて受講すると、本講義の理解がより深いものになります。

教育社会学 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実践的な取り組みを視聴覚教材を活用しながら紹介します。

キーワード /Keywords

公教育制度、地域、連携、協働、学校安全

カウンセリング論【夜】

担当者名 寺田 千栄子 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、カウンセリングを初めて学ぶ人を対象に、カウンセリングの基本的な知識や技術、カウンセリングを行う上での基本的な態度と行動を学んでいきます。また、今日カウンセリングは、医療・福祉・教育・司法・産業など様々な領域で応用されています。これらの場面で実践できるように、必要なコミュニケーションスキルを学び、カウンセリングを中心に、対人的かかわりについて理解を深めることを目的とします。

教科書 /Textbooks

なし。適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 カウンセリングを学ぶ目的
- 第2回 カウンセリングの理解(1)【身近な体験から考える】
- 第3回 カウンセリングの理解(2)【狭義・広義の定義】
- 第4回 カウンセリングの理解(3)【隣接領域との違い】
- 第5回 カウンセリングの主な理論(1)【精神分析論】
- 第6回 カウンセリングの主な理論(2)【認知行動論】
- 第7回 カウンセリングの主な理論(3)【自己成長論】
- 第8回 カウンセリングの過程
- 第9回 自己覚知を深める
- 第10回 基本的態度(1)【安心できる場づくり】
- 第11回 基本的態度(2)【ラポール】
- 第12回 コミュニケーションスキル(1)【非言語コミュニケーション】
- 第13回 コミュニケーションスキル(2)【傾聴】
- 第14回 コミュニケーションスキル(3)【その他技法】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50% 日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、他者とのコミュニケーションや体験学習を受けるための心づもりをしてきてください。また、授業終了後は配布資料を復習し、日常生活における対人関係で実践をしてみてください。

履修上の注意 /Remarks

本授業は、基本的には講義形式で進行しますが、内容に応じて演習形式の体験学習を行います。実際に他者とのコミュニケーションを行う作業を含みますので、履修生はこの点を理解し受講してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

カウンセリングを学ぶ目的は様々です。「自分のことをもっと知りたい。」、「抱えている問題を解決したい。」、「悩み苦しむ人の役に立ちたい。」、「自分の仕事に活かしたい。」など、人それぞれ違うと思います。そんな皆さんの自己成長の一助になるのがカウンセリングであると考えています。

キーワード /Keywords

カウンセリング・自己成長・傾聴

スポーツ産業論【夜】

担当者名 /Instructor 内田 満 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS222M	◎	○			
科目名	スポーツ産業論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

【授業のねらい】
戦後、我が国のスポーツ振興は「大衆化」という方針が敷かれる。しかし、我が国の国際復帰のためスポーツが「競技」に傾倒していく中、大衆化の流れは「コミュニティスポーツ」として行政が主導するようになる。その後、国際情勢と高度経済成長期、バブル期を経て、「スポーツの民営化」が謳われ、スポーツが産業として発展していくようになった。世界的には1984年のロサンゼルスオリンピック以降、大きな変化を見せている。この流れは単にオリンピックといった国際的な大会やプロフェッショナルスポーツだけではなく、シティマラソンやウォーキングイベントといった市民大会では、スポーツツーリズムといった観光資源としての役割も担っていたり、また市民組織である地域スポーツにおいてもコミュニティビジネスとしてマネジメントの理論を活用することが求められている。
そこで本授業ではスポーツプロダクトという概念のもとに、スポーツ産業を説明するとともに、スポーツプロダクトをマネジメントするシミュレーションなども行い、スポーツサービスの可能性を検討していく。

【主要な学習内容】
スポーツプロダクトという概念をまずは理解し、その上で、身近なスポーツシーンがどういったカテゴリーに分類できるかを整理する。そして、スポーツイベントの事業企画を立案できるよう、知識と実践を学習する。

教科書 /Textbooks

特になし
※必要な資料を配付する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

原田宗彦・小笠原悦子著「スポーツマネジメント」(大修館書店, 2008)
川西正己著「事業計画書の作り方」(明日香出版社 2004)
細内信孝著「コミュニティ・ビジネス」(中央大学出版部 1999)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：学習の目的，内容，方法（授業方法や成績評価方法など）
- 第2回 スポーツとは何か？スポーツ産業とは何か？【スポーツの歴史】
- 第3回 スポーツ組織論【営利と非営利】【オリンピックムーブメント】
- 第4回 スポーツ産業の分類【スポーツプロダクト】
- 第5回 スポーツ組織の仕事【仕事と労働】
- 第6回 スポーツ産業のアプローチ【広報・営業・販売】
- 第7回 スポーツ事業計画書の作り方【事業計画】
- 第8回 チームビルディング【ワークショップとファシリテーション】
- 第9回 コミュニケーションとミーティング手法【企画会議】
- 第10回 プレゼンテーション手法【プロモーション】
- 第11回 事業計画①【理念と目的】
- 第12回 事業計画②【マネジメントの4Pと4C】
- 第13回 事業計画③【予算編成】
- 第14回 事業計画④【プロモーション計画】
- 第15回 スポーツ企画のプレゼンテーション【プレゼンテーション】

スポーツ産業論 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験：20%、平素の学習状況・授業態度：60%、課題やレポートなど：20%、の総合点で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

レポートのテーマに応じた論述をすることで、事前学習や事後学習とする

履修上の注意 /Remarks

特全体を通してグループワークによる思考・意見集約・合意形成などを行います。情報を与えられるだけでなく、検索・共有していくことも重視しますので積極的なコミュニケーションを心がけて下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スポーツを通じて産業・労働・経済など社会的なことを身につけてもらうとともに、授業については卒業後を見越して、社会人としての言動を心がけて下さい。

キーワード /Keywords

スポーツ産業 スポーツマネジメント スポーツプロダクト 営利と非営利
マーケティング 事業計画

健康科学【夜】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS230M	◎	○			
科目名	健康科学				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康とは、人間の幸福にとって、もっとも重要なことの一つである。健康であるということは、人々がそれぞれの人生を豊かに過ごすための基本的条件であるといえる。
本講義では、健康とはどういう状態か。また、それを保持増進するためにはどうしたらいいのかということに主眼をおき、自分自身のライフスタイルと健康について考える。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康の概念
- 3回 日本と世界の健康指標
- 4回 日本の健康施策と健康観の変遷
- 5回 栄養・食生活と健康
- 6回 食育
- 7回 身体活動・運動と健康
- 8回 エクササイズガイド
- 9回 休養・こころの健康づくり
- 10回 ストレスとメンタルヘルス
- 11回 睡眠と健康
- 12回 タバコ・アルコールと健康
- 13回 産業保健 (VDT作業)
- 14回 ヘルスプロモーション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小テストなど) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に有益な情報収集と授業内容の復習をおこなうこと。

履修上の注意 /Remarks

「身体適応論」とあわせて受講すれば、健康の保持増進・運動の効果について、さらに理解を深めることができる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

健康教育、ライフスタイル

身体コミュニケーション論【夜】

担当者名 /Instructor 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS200M	◎	○			
科目名	身体コミュニケーション論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

皆さんは、家族や友人、先輩・後輩など様々な人と関わりを持って生活を送っていると思います。人間関係を良好にするためには、当然、相手とのコミュニケーションが必要不可欠です。コミュニケーションを上手に取るためには、送り手から受け手に情報をきちんと伝達することが重要になります。受け手が他者になることもあれば、自分自身になることもあります。この授業では、身体活動やスポーツ活動を通じて、他者や自己に対するコミュニケーションにおける基礎的な知識について学習し、コミュニケーションに対する理解を深め、最終的には自らのコミュニケーションスキルの向上を目指している。

教科書 /Textbooks

基本的に資料配布を行いますので、教科書は特に設けません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 コミュニケーションについて【コミュニケーションとは?】
- 第3回 身体活動やスポーツ活動【コミュニケーションの重要性】
- 第4回 身体活動やスポーツ活動【コミュニケーションの実践】
- 第5回 パーバルコミュニケーション【パーバルコミュニケーションの特徴】
- 第6回 パーバルコミュニケーション【PREP法の実践】
- 第7回 ノンバーバルコミュニケーション【ノンバーバルコミュニケーションの特徴】
- 第8回 ノンバーバルコミュニケーション【ジェスチャー】【目】【身体接触】
- 第9回 ノンバーバルコミュニケーション【対人空間】【バラランゲージ】
- 第10回 ノンバーバルコミュニケーション【ノンバーバルコミュニケーションの実践】
- 第11回 タイプ別にみたコミュニケーションスタイル【自己分析】
- 第12回 タイプ別にみたコミュニケーションスタイル【他者分析】
- 第13回 身体活動を用いたコミュニケーショントレーニング
- 第14回 まとめ
- 第15回 授業内期末テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

- 1) 試験・テストについて・・・授業内期末テストを実施
- 2) 試験以外の評価方法・・・授業内に小レポートを実施
- 3) 成績の配分・評価基準等・・・授業内期末テスト50%、受講態度20%、小レポート30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習においては、教科書・参考書またはインターネットを通して各回の授業内容に該当する範囲を読み、授業での議論に備えること。事後学習においては、授業でノートしたことを整理し、関連文献を読むなどして、理解の深化に努めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学総論【夜】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW100M	○	○	◎		
科目名	法学総論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

わが国の主要な法律である憲法、民法、刑法の特徴や基本原則についてお話しするとともに、法の一般的な特性や構造、その機能についても講義します。法の存在や仕組みを知り、判例を通じた法律問題解決の技法、基本的な考え方を修得することを目的としています。

教科書 /Textbooks

佐藤幸治＝鈴木茂嗣＝田中成明＝前田達明著『法律学入門 第3版補訂版』有斐閣 2008年 2,000円＋税
レジュメや資料も必要に応じてその都度配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 中川善之助著泉久雄補訂『[補訂版] 法学』日本評論社 1985年
- 三ヶ月章著『法学入門』弘文堂 1981年
- 星野英一著『法学入門』有斐閣 2010年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 民法の世界① 【私的自治の原則】【契約】
- 第3回 民法の世界② 【自然人】【法人】【所有権】
- 第4回 民法の世界③ 【過失責任】【損害賠償】
- 第5回 民法の世界④ 【夫婦】【親子】
- 第6回 刑法の世界① 【罪刑法定主義】【犯罪】
- 第7回 刑法の世界② 【刑罰】【刑事手続き】
- 第8回 憲法の世界① 【国民主権】【基本的人権】
- 第9回 憲法の世界② 【権力分立】【国会】【裁判所】
- 第10回 法の仕組みと運用① 【法の特性】【道徳】【法の機能】
- 第11回 法の仕組みと運用② 【裁判規範】【法源】
- 第12回 法の仕組みと運用③ 【裁判所】【判例】
- 第13回 法の仕組みと運用④ 【法の適用】【事実】【法律要件】
- 第14回 法の仕組みと運用⑤ 【法の解釈】【類推解釈】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度・・・10% レポート・・・30% 定期試験・・・60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義に臨む際は、事前にレジュメや参考文献の該当部分を読んでおいてください。事後は、講義内容や資料、紹介する参考文献を参照しながら、問題点ごとにノートを作成して理解を深めてください。

履修上の注意 /Remarks

講義には六法を持参してください。法学部以外の受講生には、石川明他編『法学六法'20』信山社（1,000円）をおすすめします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会規範 道徳 公法 私法 憲法 民法 刑法 裁判所 判例 裁判所

日本国憲法原論【夜】

担当者名 /Instructor 石塚 壮太郎 / ISHIZUKA, Sotaro / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW120M	○	○	◎		
科目名	日本国憲法原論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

日本国憲法は、一方では国家の「統治構造（国家の組織や権限行使の仕組み）」を規定し、他方では個々の国民に「人権」を保障している。

この講義のねらいは、次の4つである。

- ①統治の基本原則（国民主権や権力分立）、
- ②国家の組織や権限（国会、内閣、裁判所）、
- ③人権保障の基本構造、
- ④いくつかの人権保障場面。

教科書 /Textbooks

斎藤一久・堀口悟郎編著『図録 日本国憲法』（弘文堂、2018年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 芦部信喜『憲法（第7版）』（岩波書店、2019年）
- 野中俊彦ほか著『憲法（第5版）』（有斐閣、2012年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 総論 -イントロダクション
- 第2回 統治の諸原則 -国民主権と権力分立
- 第3回 代表民主制と選挙（権）
- 第4回 国会
- 第5回 内閣
- 第6回 裁判所
- 第7回 平和主義
- 第8回 人権総論
- 第9回 信教の自由
- 第10回 表現の自由
- 第11回 経済的自由
- 第12回 人身の自由
- 第13回 社会権
- 第14回 平等権
- 第15回 幸福追求権

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験（100%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書等の該当箇所を事前・事後に読む。

履修上の注意 /Remarks

小型六法を持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日本国憲法原論【夜】

キーワード /Keywords

国民主権 権力分立 代表民主制 国会 内閣 裁判所 人権保障

都市環境論 【夜】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLC111M	◎	○	△		
科目名	都市環境論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

回収された家庭からのゴミはどう処理されるのか？ また、街路樹の落ち葉の清掃、家庭からの排水の行方、水道水の水源など一般生活に必要な知識を私たちはもっていません。本授業では、基礎的な都市の環境保全や環境教育を学びます。中でも九州の学生に知っておいてほしいのは、環境問題や環境教育の原点とも言われる水俣病です。水俣病の問題がなぜいまだに解決を見ていないのか、歴史を紐解き、その中身をじっくり見る必要があります。当時を知る患者さんたちや支援者たちがなくなっている現在、後世に伝えていくためにも、水俣に関する学習は行う必要があるでしょう。

また、ペットボトルに入ったミネラル・ウォーターが本当に「うまい」と感じるのか、感じるとすればなぜなのかなど実際に水を飲む「利き水大会」、加工食品にどのような添加物がどれくらい入っているのか食品表示の見方といった環境教育アクティビティを多用します。

「環境未来都市」北九州市に居住・通学する人間としての自覚を最終的には持つことができるようになってください。ここでは、まず、エコライフチェックを行い、自らの立ち位置を分析、目標を立て授業に臨みます。すなわち、私たちの日常生活を取り巻く都市生活環境についての知識を吸収し、きちんと理解し、「環境未来都市」北九州市に居住する市民としてそれにふさわしい生活態度や行動に連動させていくといった実践力を養います。これを起点として、私たちが持続可能な都市生活を続けるためにも本分野を生涯にわたって学習するという姿勢に連動することを望みます。

これらを知るために、グループ・ディスカッションを行うこともあります。また、私のゼミ生から取り組んでいるアクティビティを通した環境の話を発表してもらいます（藍島、食品ロス削減学生プロジェクト）。

教科書 /Textbooks

特に指定しませんが、その都度資料を配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- * 日本環境学会編集委員会編『新・環境科学への扉』有斐閣コンパクト、2001年
- * 多田満『レイチェル・カーソンに学ぶ環境問題』東京大学出版会、2011年
- * 北九州市環境局『北九州市の環境 平成29年度版』（北九州市役所HP掲載）
- * 原田正純『水俣学講義』日本評論社、2004年
- * 政野淳子『四大公害病』中公新書、2013年
- * 朝岡幸彦編『新しい環境教育の実践』高文堂出版社、2005年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「都市環境論」の授業内容とねらいの説明【環境意識】
- 第2回 環境目標の設定、環境教育とESD（持続可能な開発のための教育）
：：簡単な環境意識度チェック 【ESD】
- 第3回 三宅ゼミの水俣研修旅行の記録報告・藍島プロジェクト・食品ロス削減プロジェクト 【環境学習旅行】
- 第4回 水俣病とは？ 水俣学とは？ 多角的検証 【水俣病】
- 第5回 日本の環境政策の歴史と課題 【環境政策】
- 第6回 廃棄物管理 その原理と現状～一般廃棄物、産業廃棄物、3R 【廃棄物管理】
- 第7回 フードバンク ～フードバンク北九州ライフアゲインの事例から 【フードバンク】
- 第8回 食と農～健康の源＝自らの食を見直そう 【食農】
- 第9回 上水道 : : (アクティビティ=きき水比べ) 【おいしい水】
- 第10回 下水処理をめぐって～下水処理の原理 【水質汚濁】
- 第11回 大気汚染～汚染の原理と現状、PM2.5の正体とは？ 【大気汚染】
- 第12回 北九州市の環境の現状 【北九州市】
- 第13回 途上国の都市環境問題 【途上国】
- 第14回 環境保全・環境教育に取り組む人々＝エコツーリズムに関わろう！ 【エコツーリズム】
- 第15回 まとめ

都市環境論 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に取り組む日常的な姿勢...20% 小課題の提出 ... 20% 期末試験 ... 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は、自らの身の回りの生活状況の各項目の把握と教科書の該当箇所の熟読、事後学習は、授業で学習したことの実生活への適用とその実践活動を記録化。

履修上の注意 /Remarks

時々の小課題の実施、同時に授業の事前に新聞から関係ある記事を読んでおく。
授業2回目に、エコライフ・チェックの調査結果に基づいて各自の環境目標を立ててもらうので、できるだけ2回目の授業の欠席は避けてください。また、北九州市の環境に興味のある受講生は、教養科目の「環境都市としての北九州」の同時受講も勧めておきます。
同時に、自主練習を行い、授業の内容を反復しておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境保全是楽しむことの中で実践できればいいと考えています。そのような方法も学びますので、他の機会にでも実践してください。些細なことですが、雨の日に、私は建物の中に入る際入り口に準備されたビニール製の傘入れ袋を使用にあたっては、新しいものをとらずに、ゴミ箱に捨てられた古いものを使います。

キーワード /Keywords

E S D (持続可能な開発のための教育)、各自の環境学習目標、環境教育アクティビティ、エコライフ・チェック

公共政策論【夜】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 / 2年 / 単位 /Credits 2単位 / 学期 /Semester 1学期 / 授業形態 /Class Format 講義 / クラス /Class 2年 /

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLC211M	◎	○	△		
科目名	公共政策論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、日常レベルから、公共政策について考え、分析、考察するための基礎的知識や方法論を提供することにあります。そのために、本講義では、様々な事例を用い、また、時には本格的なケース・スタディを用いて議論を展開することにします。また、本講義では、公共政策研究の第一歩ともいえる「問題発見能力」の涵養に力を入れたいと考えています。

本講義の担当教員は、公共政策を研究する目的は、第一に、よりよき未来社会の構築にあると考えています。つまり、公共政策研究の根本には、「問題解決」「問題解き」というものがあるのです。また第二に、個別の公共政策を研究することは、デモクラシーの発展にも寄与することになると考えています。今日、公共政策についての知識なくして、有効な政治参加などできないからです。受講者には、何が自分にとって問題であり、そのために自分はどのような研究をするのかということ意識して講義に参加すること、あるいは、この講義を通じてそうした問題意識をもつことを望んでいます。

教科書 /Textbooks

テキストは使いません。毎回、プリント教材を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度指示する予定です。とりあえず以下のものを挙げておきます。
 秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉『公共政策学の基礎』（有斐閣、2010年）
 伊藤修一郎『政策リサーチ入門-仮説検証による問題解決の技法-』（東京大学出版会、2011年）
 ユージン・バーダック著、白石賢司ほか訳『政策立案の技法-問題解決を「成果」に結び付ける8つのステップー』（東洋経済新報社、2012年）。
 阿部彩『子どもの貧困-日本の不平等を考える』（岩波書店、2008年）
 阿部彩『子どもの貧困II-解決策を考える』（岩波書店、2014年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 問題提起・・・公共政策研究の目的および本講義の目的
- 2回 公共政策とそのアクター・・・小倉昌男の福祉革命（社会起業家論）
- 3回 小倉昌男の問題提起と日本の障害者福祉政策、ダストレスチョークと障害者
- 4回 子どもの貧困（1）・・・貧困とは何か、子どもの貧困とは何か
- 5回 子どもの貧困（2）・・・日本における子どもの貧困を考える
- 6回 子どもの貧困（3）・・・学歴と子どもの貧困：大学生の状況は？奨学金は？
- 7回 子どもの貧困（4）・・・比較の視座から考える子どもの貧困
- 8回 子どもの貧困（5）・・・子どもの貧困対策大綱と子どもの貧困の解決策、剥奪指標について
- 9回 子どもの貧困（6）・・・社会実験（ベリー幼稚園プログラム）とまとめ
- 10回 介護保険（1）・・・導入
- 11回 介護保険（2）・・・現状分析
- 12回 介護保険（3）・・・問題点とその検討（「介護離職」「ミッシング・ワーカー」等の問題も含む）
- 13回 介護保険（4）・・・介護保険の改革
- 14回 シルバー・デモクラシーと若者政策
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 50 %、授業貢献度など...50%。毎回講義の終了後、コメント用紙を配布し、講義内容に対する質問・意見のある学生には書いてもらい成績評価に加えることにします。

公共政策論【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に際しては前もって配布した教材の指定箇所等を予習（事前学習）して授業に参加するようにして下さい。また、授業中に配布したレジュメや論文等の教材の復習を必ず行うようにして下さい。

履修上の注意 /Remarks

本年度は授業内容を若干変更する予定です。また、「シルバー・デモクラシーと若者政策」等をはじめ講義内容については、学生の理解度や講義の進捗状況などに応じて変更する可能性があります。第1回目の講義で説明する予定ですので必ずご参加ください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に出席しないと何も始まりません。担当者もそれなりの準備をして授業にのぞみますので、授業には必ず出席するようにして下さい。

キーワード /Keywords

公共政策、社会起業家、子どもの貧困、介護保険、超高齢社会。

特別支援教育論【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
EDU263M	◎				
科目名	特別支援教育論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業での概要は以下の通りである。
 ①特別な支援を必要とする子どもの障害特性や心身の発達を理解するとともに、特別な支援を必要とする子どもの教育課程と支援方法について、その背後にあるインクルーシブ教育の理念も踏まえて検討する。
 ②貧困や虐待的な養育環境に置かれている子どもや母語が日本語ではない子どもなど、多様な「特別な教育的ニーズ」を持つ子どもの抱える問題への理解と支援の課題を考察する。
 ③ 学校での福祉教育や職場体験などで求められる社会福祉施設入所者に対する理解と援助の在り方について、とりわけ認知症の高齢者の問題やその支援の課題について学習する。

教科書 /Textbooks

楠 凡之 2012 「自閉症スペクトラム障害の子どもへの援助と学級づくり」 高文研

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文科省特別支援学校学習指導要領

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画

1. オリエンテーション 本授業の進め方
2. 特別支援教育の教育制度と教育課程
3. 発達障害・軽度知的障害の子どもに対する理解と援助
4. 困難な養育環境に置かれた子どもへの理解と支援
5. 聴覚障害の子どもへの理解と支援(外部講師)
6. 母語が日本語ではない子どもたちの理解と支援
7. 性の多様性の尊重の理念に根差した学級活動
8. 特別支援コーディネーターの役割と個別の教育支援計画(外部講師)
9. 肢体不自由・重度心身障害児・者についての理解と支援 (外部講師)
10. 知的障害の特別支援学校での教育実践と支援の留意点(外部講師)
11. 学校における福祉教育の課題 - 高齢者・認知症の問題に視点をあてて(外部講師)
12. 肢体不自由児、高齢者に対する介護支援(外部講師による実習)
13. インクルーシブ教育と集団づくり その1 中学校のASD
14. インクルーシブ教育と集団づくり その2 高等学校のASD
15. 全体のまとめ

注 この中の第9回目から第12回目までの授業は「介護等体験事前指導」の授業を兼ねます。
 なお、この4回の事前指導とは別に「介護等体験事前説明会」を7月上旬に実施します。

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート25点、期末試験75点

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストは早めに読んでレポートにまとめて提出すること。
 2020年度に介護等体験に行く学生は、9回目から12回目の内容を介護等体験ノートにまとめること。

特別支援教育論【夜】

履修上の注意 /Remarks

特別支援教育論は2019年度入学の学生から、教職課程の学生の必修科目になっています。
ただし、9回目から12回目の授業については、2018年度以前入学生の「介護等体験事前指導」との合同の授業となる点、ご了解いただきたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業は全学の教職課程の学生の必修授業であると同時に、人間関係学科の専門教育科目、地域創生学群のスクールソーシャルワーカー課程の専門科目を兼ねています。
そのような多様な興味・関心や背景を持つ学生同士の中での学び合いを期待しています。

キーワード /Keywords

教育相談【夜】

担当者名 /Instructor 山下 智也 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
EDU261M	◎		○		
科目名	教育相談				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業では、学校での教育相談の意義、教育相談の理論と技法（積極的傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など）を習得する。また、不登校やいじめ、発達障害、非行、自傷・自殺、虐待等、様々な問題を出している生徒に対する理解を深めていくと同時に、生徒に対する援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を踏まえて検討するとともに、教育相談の組織的な体制づくりや関係諸機関との連携の課題を考察する。

教科書 /Textbooks

虐待 いじめ 悲しみから希望へ 楠凡之（著） 高文研
その他、適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

生徒指導提要 文部科学省
Next教科書シリーズ 教育相談 津川律子、山口義枝、北村世都（著） 弘文堂
子どものこころの支援 連携・協働ワークブック 前川あさみ（編著） 金子書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：本講義のオリエンテーション、教育相談の歴史
 - 第2回：学校における教育相談の現代的意義と課題
 - 第3回：教育相談とカウンセリング（カウンセリングマインドの理解も含む）
 - 第4回：子どもの問題行動の意味（子ども理解を含む）
 - 第5回：教育相談の実際①（発達障害、不登校、いじめ等）
 - 第6回：教育相談の実際②（非行、自傷・自殺、虐待等）
 - 第7回：教育相談の基本的な理論の修得（来談者中心療法等）
 - 第8回：教育相談の基本的なスキル①（受容、傾聴、共感的理解、開かれた質問等）
 - 第9回：教育相談の基本的なスキル②（感情の明確化、共感的応答、直面化等）
 - 第10回：教育相談に役立つ心理的支援①（アサーション、ブリーフセラピー等）
 - 第11回：教育相談に役立つ心理的支援②（行動療法、認知行動療法等）
 - 第12回：教育相談に役立つ心理的支援③（ストレスコーピング、ストレスマネジメント等）
 - 第13回：教育相談のための連携と協働①（保護者との相談、学内での体制づくり等）
 - 第14回：教育相談のための連携と協働②（関係諸機関との連携）
 - 第15回：本講義全体のまとめ
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

授業でのミニレポート 20%
定期試験 80%
(出席について、原則として3分の2以上の出席を最終試験受験資格とする。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：毎回回の予告を行い、関連キーワードを調べておくなど、次回までの課題を提示する（必要な学習時間の目安は60分）。
事後学習：授業の冒頭で、前回の授業内容について振り返りをしたり、グループで発表し合ったりするため、授業で学習した学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努める。（必要な学習時間の目安は90分）

教育相談【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義だけでなく、個人ワークやペアワーク、グループワーク、ロールプレイ等を行います。
授業への主体的な参加を期待します。

キーワード /Keywords

教育相談、いじめ、不登校、虐待

生徒指導論【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
EDU262M	◎				
科目名	生徒指導論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 生徒指導の意義、生徒指導の3機能(①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること)を理解するとともに、開発的生徒指導、予防的生徒指導、問題解決的生徒指導の区別と関連などを検討していくこと
- ② 教育課程と生徒指導、生徒指導に関する法制度、生徒指導における家庭・地域・関係諸機関との連携等に関する基本的な知識・理解を修得すること
- ③ 養育環境や発達障害等の何らかの要因による困難を抱える子どもの自立を支援する生徒指導のあり方を学習すること。
- ④ 実際の生徒指導の場面や事例を想定しながら、その場面での対応のあり方を考える力を養うこと。
- ⑤ 思春期・青年期の進路指導、キャリア教育の意義と課題について、今日の若者の就労をめぐる問題状況も含めつつ検討していくこと。また、実際の進路指導の場面に関する適切な指導のあり方を考える力を養うこと。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

文部科学省編 「生徒指導提要」 教育図書
楠凡之 「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」 高文研 第1部

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 桑原憲一編 中学校教師のための生徒指導提要実践ガイド 明治図書
嶋崎政男 「法規+教育で考える 生徒指導ケース100」 ぎょうせい
○文部科学省 中学校キャリア教育の手引き
○児美川孝一郎 権利としてのキャリア教育 明石書店
○キャリア発達論 - 青年期のキャリア形成と進路指導の展開 ナカニシヤ出版

生徒指導論【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション + 課題レポートの説明
- 2回 生徒指導の意義と原理(生徒指導提要ト第1章他)、生徒指導と生活指導
- 3回 教育課程と生徒指導(生徒指導提要第2章他) その1 - 教科教育、「特設道徳の時間」と生徒指導
- 4回 教育課程と生徒指導 その2 学級活動・学校行事と生徒指導
- 5回 生徒指導に関する法制度等(第7章他) その1
- 6回 生徒指導と校則・体罰問題を考える。
- 7回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路指導・キャリア教育
- 8回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取り組み
- 9回 今日の若者の労働実態から高校進路指導の課題を考える
- 10回 進路相談のロールプレイ実習
- 11回 ケータイ・インターネット問題と生徒指導
- 12回 性の多様性、セクシュアルマイノリティへの理解と生徒指導
- 13回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その1 少年期
- 14回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その2 思春期
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20%、期末試験80%
 なお、授業の出席が2/3に満たない場合には単位の修得は認められません。
 授業を欠席した場合には、一回につき5点の減点とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

生徒指導提要の該当箇所については事前に読み込んでおくこと

履修上の注意 /Remarks

受け身的な受講では実践的な指導力を身につけることはできません。能動的な授業参加を期待します。
 できるだけ、テキストの、その授業で取り上げるテーマに関するところを読んでおいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は教職課程を履修する学生の必修科目ですが、人間関係学科の学生でスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの援助専門職につきたいと考えている学生にも役立つ授業だと思います。積極的に受講してください。

キーワード /Keywords

生徒指導の三機能、児童虐待、様々な問題を表出する生徒への指導、進路指導

教職論 【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
EDU111M	◎				
科目名	教職論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

教職論は、通常の場合、4年間の教職課程への導入的性格を持つ科目である。

本授業では、教職という仕事の社会的意義と役割、また、教員に求められる資質や倫理の内容を理解するとともに、本学出身者の若手の教員の体験報告とその後の意見交流、ベテラン教員の講演と意見交流を通して、教員という仕事の喜びや困難さを理解し、自らの進路選択を検討するとともに、めざすべき教員像を探索する。

また、教員の職務内容の全体像と教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解するとともに、今日の学校が担うべき役割を実現していくために必要不可欠な教職員や多様な専門職種との連携の在り方について検討する。

なお、この科目は「教職に関する科目」のカリキュラムマップでは、1類 - 1 に該当する科目である。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回の授業で必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩田康之・高野和子編 「教職論」 学文社
文科省 中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション 本授業の目的と進め方、「教職課程を履修する目的」に関するアンケート
2. 教育に求められる実践的指導力と学校ボランティア体験の意義(外部講師の報告)
3. 教員に求められる基礎的な資質・能力と教員研修の意義(中教審の答申を踏まえて)
4. 今日の教員に求められる役割と職務内容について(講師 森恵美先生)
5. 教員に求められる資質その1 生徒指導と学級経営(学級づくり) - 実践報告を手がかりに
6. 教員に求められる資質その2 教科指導と授業づくり(本学出身の教員の実践報告と意見交流)
7. チーム学校と専門職との連携 その1 「特別なニーズ」を持つ子どもへの支援
8. チーム学校と専門職との連携 その2 被虐待・貧困状況にある子どもと家族への支援
9. 教員に求められる資質その3 特別活動と学級づくり(本学出身の教員の報告と意見交流)
10. 学級づくりに関するグループワーク
11. 現代社会における学校教育の課題 その1 セクシュアルマイノリティの生徒と学校づくり
12. 現代社会における学校教育の課題 その2 部活動・体罰問題を考える。
13. 現代社会における学校教育の課題 その3 「道徳教育」をめぐる問題を考える。
14. 若手教員からみた教員の仕事の生きがいと悩み(本学出身の中学校教員の報告と意見交流)
15. 全体のまとめと課題の説明

* 講師の都合などにより、計画が変更になることがある点、了解されたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(授業内で実施するミニレポート等) 30点、レポート試験70点
なお、欠席した場合には一回につき5点の減点になります。

教職論 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 新聞記事やテレビなどを通して日常的に生じている教育の問題に関心を持ち、自分自身の見解を持つ努力をすること
- ・ 授業での現職教員との出会いを通して、自分自身が理想とする教師像を育てていくこと
- ・ 学校現場でのボランティア体験などを通して、教師としての実践的指導力の獲得に向けての自己教育の課題に取り組むこと

履修上の注意 /Remarks

この授業はすべての回に出席してもらうことを前提に進めます。
公欠や体調不良などのやむを得ない事情で欠席した場合には授業のレジュメやビデオ補講を受けるなどして、できるだけその内容を補ってください。それが無い場合には公欠であっても減点になるので留意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では多くの学校現場の先生に来ていただいて、教師という仕事の魅力と困難さを語っていただきます。
この半年の授業のなかで皆さん自身がめざすべき「教師像」を育ててもらえることを願っています。

キーワード /Keywords

教職の意義と役割、教員の仕事、理想の教師像